2022年度

シ ラ バ ス

ビジネスデザイン研究科

立 教 大 学

作成日:2023 年 02 月 08 日

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG151／テクノトレンド1 (Trend of Technology 1)		
担当者名 (Instructor)	平井　直樹(HIRAI NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ビジネスや生活において、広く使われているテクノロジーやそれに関わる企業動向について理解することを目的とする。

The goal is to understand widely used technologies and corporate trends in business and life.

授業の内容(Course Contents)

今日、日常生活やビジネスの世界に限らず、多くのテクノロジーを使いこなすことが求められています。
ビジネスの改善や新たなビジネスの創出するうえでも、こういったテクノロジーの動向を掴んでおくことが重要となります。
本講義では、単に最新のテクノロジーやトレンドを追うのではなく、どのようにビジネスに利用されてきたのか、または利用されようとしているのか、さらに自社のビジネスに活用するにはどうすればよいか、事例(ケース)やディスカッションを通じて、理解を深めていきます。

Today, not just in the world of daily life and business, many technologies need to be used. Whether it is for improving your own business or creating new businesses, it is important to keep track of these technologies.
In this lecture, rather than simply looking at the latest technologies and trends, we will deepen our understanding through case studies and discussions about how we utilize them in business, or how they will be utilize in business, and how we can utilize them in our own businesses.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. デジタルトランスフォーメーション
3. IoT・ビッグデータ(1)
4. IoT・ビッグデータ(2)
5. ゲストスピーカー予定
6. ディスカッション
7. Fintech、キャッシュレス(Pay サービス)(1)
8. Fintech、キャッシュレス(Pay サービス)(2)
9. ゲストスピーカー予定
10. ディスカッション
11. GAFA(Apple の歴史、トレンド、社会的課題)
12. GAFA(Facebook の歴史、トレンド、社会的課題)
13. GAFA(Google の歴史、トレンド、社会的課題)
14. GAFA(Amazon の歴史、トレンド、社会的課題)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

日々の新聞やニュースに目を通しておいてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席および授業への貢献(ディスカッション等)(50%)/レポート(50%)

テキスト(Textbooks)

授業にて随時紹介します。

参考文献(Readings)

授業にて随時紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

「テクノトレンド1」「テクノトレンド2」を併せて履修することが望ましい。
「テクノトレンド1」だけの履修も可。
テクノロジーに関する初心者にも配慮して授業を進めていきます。

ゲストスピーカーの日程は暫定となります。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG156／テクノトレンド2 (Trend of Technology 2)		
担当者名 (Instructor)	平井　直樹(HIRAI NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ビジネスや生活において、広く使われているテクノロジーやそれに関わる企業動向について理解することを目的とする。

The goal is to understand widely used technologies and corporate trends in business and life.

授業の内容(Course Contents)

今日、日常生活やビジネスの世界に限らず、多くのテクノロジーを使いこなすことが求められています。
ビジネスの改善や新たなビジネスの創出するうえでも、こういったテクノロジーの動向を掴んでおくことが重要となります。
本講義では、単に最新のテクノロジーやトレンドを追うのではなく、どのようにビジネスに利用されてきたのか、または利用されようとしているのか、さらに自社のビジネスに活用するにはどうすればよいか、事例(ケース)やディスカッションを通じて、理解を深めていきます。

Today, not just in the world of daily life and business, many technologies need to be used. Whether it is for improving your own business or creating new businesses, it is important to keep track of these technologies.
In this lecture, rather than simply looking at the latest technologies and trends, we will deepen our understanding through case studies and discussions about how we utilize them in business, or how they will be utilize in business, and how we can utilize them in our own businesses.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. AR、VR(メタバース)
3. ゲストスピーカーを予定
4. ディスカッション
5. 人工知能(AI)(1)
6. 人工知能(AI)(2)
7. サブスクリプション、シェアリングサービス(1)
8. サブスクリプション、シェアリングサービス(2)
9. ゲストスピーカーを予定
10. ディスカッション
11. MaaS・ブロックチェーン・ヒューマンオーグメンテーション(1)
12. MaaS・ブロックチェーン・ヒューマンオーグメンテーション(2)
13. プレゼンテーション・まとめ(1)
14. プレゼンテーション・まとめ(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

日々の新聞やニュースに目を通しておいてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席および授業への貢献(ディスカッション等)(50%)/プレゼンテーション(50%)

テキスト(Textbooks)

授業にて随時紹介します。

参考文献(Readings)

授業にて随時紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

「テクノトレンド1」「テクノトレンド2」を併せて履修することが望ましい。
「テクノトレンド2」だけの履修も可。
テクノロジーに関する初心者にも配慮して授業を進めていきます。

ゲストスピーカーの日程は暫定となります。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG191／ビジネスデザイン特講1A (Special Seminar on Business Design 1A)		
担当者名 (Instructor)	宮下　篤志(MIYASHITA ATSUSHI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

「経済社会の学び方」について、先達の文献を事例にしながら、その方法論を中心に深めます。

This class will deepen the "how to learn economic society" by focusing on the methodology, using the literature of our predecessors as an example.

授業の内容(Course Contents)

本授業は、書籍を購読しながら、経済社会について学ぼうとする方はもちろん、これからリサーチペーパー、および論文等の研究を行っている院生が、立ち止まって考えるきっかけとなるように構成されます。

This class is designed to give an opportunity for graduate students who are studying research papers and dissertations, as well as those who are trying to learn about economic society while subscribing to books, to stop and think.

授業計画(Course Schedule)

1. 問うことの重要性
2. 実践哲学対話からの問い
3. 社会研究における理論と功罪
4. 因果推論との向き合い方
5. 鏡面性と創造性(桃太郎の物語から)
6. 社会科学は理論化できるのか
7. 因果性をどのように考えるべきか
8. 因果推論との向き合い方
9. 日本型資本主義の精神面からの研究(1)
10. 日本型資本主義の精神面からの研究(2)
11. 米国研究者が捉えた戦後日本の政策(1)
12. 米国研究者が捉えた戦後日本の政策(2)
13. 自由論題(1) 私の研究
14. 自由論題(2) 私の研究

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

別途、授業で指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業における発言等(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 猪木武徳、2021、『経済社会の学び方』、中公新書 (ISBN:978-4-12-102659-0)
2. 寺西重郎、2018、『日本型資本主義』、中公新書 (ISBN:978-4-12-102502-9)
3. 碧海寿広、2020、『科学化する仏教』、角川選書 (ISBN:978-4-04-703674-1)

参考文献(Readings)

1. ケネス・B・パイル　山岡由美訳、2020、『アメリカの世紀と日本』、みすず書房 (ISBN:978-4-622-08936-0)
その他の参考文献は授業で、都度、示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

テキスト他文献、ハンドアウトは「Blackboard」に掲示します。文献や書籍を購読しながら、対話形式で授業を進めます。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG192／ビジネスデザイン特講1B (Special Seminar on Business Design 1B)		
担当者名 (Instructor)	宮下　篤志(MIYASHITA ATSUSHI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本科目はビジネスデザイン特講1Aの続編としての位置づけであり、小題を『経営と哲学』とします。テキストにある書籍を講読しながら、経営と哲学の深い関係性について学究します。なお、ビジネスデザイン特講1Aは必ず履修してください。

This class is positioned as a sequel to Business Design Special Lecture 1 and is "Management and Philosophy". While reading the books in the textbook, you will learn about the deep relationship between management and philosophy. Please be sure to take Business Design Special Lecture 1.

授業の内容(Course Contents)

テキストである文献、および授業の事前に配布するペーパーを講読しながら、対話形式で学びを深めます。経営における哲学とは何か? また、どのように学究を深めるのか? という問いに解を求めていきます。

Students will deepen their learning interactively while reading the textbooks and the papers distributed in advance of the lesson. What is the philosophy of management? And how do you deepen your studies?

授業計画(Course Schedule)

1. ビジネススクールで読むドラッカー(1)
2. ビジネススクールで読むドラッカー(2)
3. 社会科学の方法としてのヴェーバーとマルクス(1)
4. 社会科学の方法としてのヴェーバーとマルクス(2)
5. アダム・スミス 『道徳感情論』と『国富論』(1)
6. アダム・スミス 『道徳感情論』と『国富論』(2)
7. マックス・ヴェーバーの「儒教とピューリタニズム」
8. マックス・ヴェーバーの社会学における思想と経済
9. 渋沢栄一『論語と算盤』(1)
10. 渋沢栄一『論語と算盤』(2)
11. 経済的価値と社会的価値のマネジメント(1)
12. 経済的価値と社会的価値のマネジメント(2)
13. 自由論題　次世代に繋ぐマネジメント(1)
14. 自由論題　次世代に繋ぐマネジメント(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

下記テキストとしての文献を必読してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内での質疑応答(100%)

テキスト(Textbooks)

1. P.F ドラッカー、1975、『抄訳　マネジメント』、ダイヤモンド社 (ISBN:4-478-41006-2)
2. 堂目卓生、2008、『アダム・スミス「道徳感情論」と「国富論の世界』、中公新書 (ISBN:978-4-121-01936-3)
3. 渋沢栄一、2010、『現代語訳　論語と算盤』、ちくま新書 (ISBN:978-4-480-06535-3)
4. 大塚久雄、1966、『社会科学の方法　ヴェーバーとマルクス』、岩波新書 (ISBN:4-00-411062-9)

参考文献(Readings)

参考文献は授業で、都度、明示していきます。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

テキストの文献は、必ず講読してください。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG197／ビジネスデザイン特講4A (Special Seminar on Business Design 4A)		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業組織についての研究論文や専門書の読解を通じて、組織理論や組織研究の方法論、企業組織の現代的課題について学ぶ。

To learn organization theory and methodology for organization research, and problems in modern organizations through reading research papers and literature in organization studies.

授業の内容(Course Contents)

本授業は、企業組織についての研究論文や専門書をテキストとして取り上げ、履修者によるそれらの読解を通じて、組織研究における古典的理論や現代的理論、組織研究の方法論を学び、さらに現代の企業組織が直面している問題とはどのような問題であるのかについて理解を深めることを目的とする。

本授業においては履修者は各自テキストとなる研究論文や専門書の一部あるいは全ての報告を担当し、各階の授業で各自が担当部分を報告、それに基づいて講義やディスカッションを行う。履修者には積極的な関与が要求される。

In this course, students are expected to learn organization theory and methodology for organization research, and problems in modern organizations through reading research papers and literature in organization studies.
Students are required to report the content of the paper or the book for the course.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス、テキストの紹介と選定
2. 報告、読解とディスカッション
3. 報告、読解とディスカッション
4. 報告、読解とディスカッション
5. 報告、読解とディスカッション
6. 報告、読解とディスカッション
7. 報告、読解とディスカッション
8. 報告、読解とディスカッション
9. 報告、読解とディスカッション
10. 報告、読解とディスカッション
11. 報告、読解とディスカッション
12. 報告、読解とディスカッション
13. 報告、読解とディスカッション
14. 報告、読解とディスカッション、まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

履修者各自は選定されたテキストの担当部分を報告に向けて準備すること。
また選定されたテキストに関連する理論についても学習することが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内発表(50%)/授業内レポート(50%)

テキスト(Textbooks)

授業内で相談の上決定する

参考文献(Readings)

随時指示する

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG198／ビジネスデザイン特講4B (Special Seminar on Business Design 4B)		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業組織についての研究論文や専門書の読解を通じて、組織理論や組織研究の方法論、企業組織の現代的課題について学ぶ。

The aim of this course is to learn organization theory and methodology for organization research, and problems in modern organizations through reading research papers and literature in organization studies.

授業の内容(Course Contents)

本授業は、ビジネスデザイン特講 4A に続いて、企業組織についての研究論文や専門書をテキストとして取り上げ、履修者によるそれらの読解を通じて、組織研究における古典的理論や現代的理論、組織研究の方法論を学び、さらに現代の企業組織が直面している問題とはどのような問題であるのかについて理解を深めることを目的とする。

本授業においては履修者は各自テキストとなる研究論文や専門書の一部あるいは全ての報告を担当し、各階の授業で各自が担当部分を報告、それに基づいて講義やディスカッションを行う。履修者には積極的な関与が要求される。

In this course, following Special Seminar on Business Design 4A, students are expected to learn organization theory and methodology for organization research, and problems in modern organizations through reading research papers and literature in organization studies.
Students are required to report the content of the paper or the book for the course.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス、テキストの紹介と選定
2. 報告、読解とディスカッション
3. 報告、読解とディスカッション
4. 報告、読解とディスカッション
5. 報告、読解とディスカッション
6. 報告、読解とディスカッション
7. 報告、読解とディスカッション
8. 報告、読解とディスカッション
9. 報告、読解とディスカッション
10. 報告、読解とディスカッション
11. 報告、読解とディスカッション
12. 報告、読解とディスカッション
13. 報告、読解とディスカッション
14. 報告、読解とディスカッション、まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

履修者各自は選定されたテキストの担当部分を報告に向けて準備すること。
また選定されたテキストに関連する理論についても学習することが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内発表(50%)/授業内レポート(50%)

テキスト(Textbooks)

授業内で相談の上決定する

参考文献(Readings)

随時指示する

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG241／テクノロジー＆ストラテジー (Technology & Strategy)		
担当者名 (Instructor)	今井　紀夫(IMAI NORIO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

デジタル化が企業活動に大きな影響を与える中で、受講生が自社で社内外の関係者とデジタル戦略に取り組んでいくための共通基盤となる関連用語の定義やフレームワークの習得

This course aims to cover the understanding of definitions for related keywords and frameworks that act as a common basis for digital initiatives so that students can work effectively with various internal and external stakeholders.

授業の内容(Course Contents)

デジタル戦略により業績への貢献を実現するためには、テクノロジーや新しい機会の活用に向けた組織変革が求められる。そこで、なぜ企業変革が求められるかを理解するためにデジタルテクノロジーの特徴(why)、そこから生まれる新たなビジネスモデルなどの機会(what)、更にその機会を活用するための方法(how)を、先進企業の取組やケースとそれについての議論を通して学んでいく。
※テクノロジーをどうマネジメントしていくかという、いわゆる MOT(=Management Of Technology)関連の内容は本科目では取り扱わない。

Organizational changes are required to improve corporate performances through digital strategies. Thus, students learn characteristics of digital technologies (why), emerging opportunities such as new business models (what), and how to leverage such opportunities (how) through various examples and case discussions.
Note: This course does not cover how to manage technology (i.e., Management Of Technology).

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション－デジタル化への取組が求められる背景や関連概念の確認
2. デジタル化の特質と影響－企業に変革を求めるデジタルテクノロジーの特質とその影響の理解
3. 産業構造のシフト－デジタル化によるバリューチェーンの変化についての学習
4. 事例研究－デジタル化によって激変した業界や事例についてのディスカッション
5. プラットフォームビジネス－ネットクワーク効果やマルチサイドモデルなど、プラットフォームビジネスの特徴の理解
6. 事例研究－プラットフォームビジネスの事例を通した成功要因についてのディスカッション
7. 価値創造－デジタルビジネスにおける価値創造の方法や組み合わせについての学習
8. 事例研究－新しい価値創造とその実現のための要因についてのディスカッション
9. 組織－デジタル化に対応するために求められる組織構造と役割についての理解
10. 企業文化－新たな取り組みへの挑戦をサポートするために求められる企業文化の学習
11. 評価とインセンティブ－プロジェクトの提案や評価で考慮すべき事項の理解
12. 事例研究－組織変革を導くための要因や落とし穴についてのディスカッション
13. 受講生の最終発表－自社もしくは研究対象企業の DX に関する最終発表
14. 受講生の最終発表－自社もしくは研究対象企業の DX に関する最終発表

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

＊前の週で扱った内容や当週の事例研究の内容についての小レポート課題－5回(第1週と第7週を除く)
＊自社、もしくは関心ある企業の DX の取組に関するプレゼンテーション－1回(最終発表)

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終プレゼンテーション(40%)/毎週の講義に関する小レポート(30%)/授業の参加・質疑応答(30%)
2/3 以上出席していない場合は、単位取得不可とする。

テキスト(Textbooks)

変化の激しい領域のため、事例研究で利用するケースは、初回授業にて説明する。

参考文献(Readings)

参考文献は都度授業内で紹介する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG281／テクノロジーマネジメント1 (Technology Management 1)		
担当者名 (Instructor)	和田　芳明(WADA YOSHIAKI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代の様々なビジネスシーンで直面する課題を、主として IT の側面から考察し、ビジネスパーソンとして必要なテクノロジーに関する知識、理解を涵養し、ビジネス／社会環境の変化に適応できる知見を身につける。

In order to understand the background of technology related issues and topics arising in the current business society, this course aims to provide the necessary IT knowledge and offer the opportunity to learn the methodology to deal with the changes in the business environment.

授業の内容(Course Contents)

主に経済誌や報道を賑わす今日的な IT 関連のトピックスを取り上げ、その背景にある社会情勢、IT 関連の論点を分析し、履修者の理解を深めると同時に、各履修者の直面するビジネスシーンとの関連で、どのような影響があるのか、どのような将来展望が想定されるのかを考察し、発表し、議論する。

This course focuses on the IT related current topics circulated in media, investigate the social trend and IT factors in the background, and then enhances the understanding of students.
Participants are expected to actively discuss and share the opinion with other students, and deepen the individual insight into the effect on their business activities in the future.

授業計画(Course Schedule)

1. 情報のデジタル化とデータサプライチェーン(1)
2. 情報のデジタル化とデータサプライチェーン(2)
3. 財務情報と非財務情報の位置づけと活用(1)---データの特性と活用方法
4. 財務情報と非財務情報の位置づけと活用(2)---データの特性と活用方法
5. 持続的社会を巡る課題(1)---ESG と SDGs
6. 持続的社会を巡る課題(2)---ESG と SDGs
7. 社会、ビジネスにおけるリスクとそのマネジメント(1)---なぜ不祥事は起こるのか
8. 社会、ビジネスにおけるリスクとそのマネジメント(2)---避けられるリスク、軽減できるリスク、避けられないリスク
9. Regtech、Suptech を巡る議論(1)---規制と社会的コスト
10. Regtech、Suptech を巡る議論(2)---経営責任と監督責任
11. 規制と社会---インターネットと規制(1)
12. 規制と社会---インターネットと規制(2)
13. EC ビジネスと決済(1)---E コマースの世界
14. EC ビジネスと決済(2)---電子マネーとブロックチェーン

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

クラス参加と議論への貢献度(50%)/成果物の内容(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 野口悠紀雄、2019、『データ資本主義』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-35831-0)
2. 赤羽喜治・愛敬真生、2019、『ブロックチェーン　仕組みと理論』、リックテレコム (ISBN:978-4-86594-163-0)
3. 野口悠紀雄、2021、『データエコノミー入門』、PHP 研究所 (ISBN:978-4-569-85052-8)
4. 野口悠紀雄、2021、『CBDC 中央銀行デジタル通貨の衝撃』、新潮社 (ISBN:978-4-10-432907-6)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG283／テクノロジーマネジメント2 (Technology Management 2)		
担当者名 (Instructor)	和田　芳明(WADA YOSHIAKI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代の様々なビジネスシーンで直面する課題を、主として IT の側面から考察し、ビジネスパーソンとして必要なテクノロジーに関する知識、理解を涵養し、ビジネス／社会環境の変化に適応できる知見を身につける。

In order to understand the background of technology related issues and topics arising in the current business society, this course aims to provide the necessary IT knowledge and offer the opportunity to learn the methodology to deal with the changes in the business environment.

授業の内容(Course Contents)

今後、利用が本格化する最先端の IT 関連トピックスを取り上げ、その概要と背景にある社会情勢を分析し、履修者の理解を深めると同時に、各履修者が今後直面するビジネスシーンとの関連で、どのような影響があるのか、どのような将来展望が想定されるのかを考察し、発表し、議論する。

Focuses on the emerging IT related topics which will come to the society in the near future, the course investigates the outline of underling technologies, social trend, and then enhances the students' understanding.
Participants are expected to actively discuss and share the opinion with other students, and deepen the individual insight into the effect on their business activities in the future.

授業計画(Course Schedule)

1. AI・ロボティックス(1)
2. AI・ロボティックス(2)
3. 自然言語解析と画像解析(1)
4. 自然言語解析と画像解析(2)
5. クラウドとコンピュータ基盤(1)
6. クラウドとコンピュータ基盤(2)
7. 仮想現実と拡張世界(1)
8. 仮想現実と拡張世界(2)
9. ビッグデータ技術の世界(1)
10. ビッグデータ技術の世界(2)
11. ブロックチェーンとビットコイン(1)
12. ブロックチェーンとビットコイン(2)
13. インターネットとサイバーセキュリティ(1)
14. インターネットとサイバーセキュリティ(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

クラスへの参加と議論への貢献度(50%)/成果物の内容(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 澤田純、2019、『IOWN 構想 ―インターネットの先へ』、NTT 出版 (ISBN:4757103913)
2. 赤羽喜治・愛敬真生、2019、『ブロックチェーン 仕組みと理論』、リックテレコム (ISBN:978-4-86594-163-0)
3. 畑村洋太郎、2020、『3現で学んだ危険学』、畑村創造工学研究所

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG284／テクノロジーマネジメント3 (Technology Management 3)		
担当者名 (Instructor)	中村　二朗(NAKAMURA JIRO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

製造業、サービス業、小売業などの経営者や経営スタッフ、そして各構成員がテクノロジーを経営に生かしていく際に必要となる基礎的かつ戦略的な考え方を学ぶ。

We will learn basic and strategic concepts that are necessary for managers and management staff in the manufacturing, service, and retail industries, as well as of each of the members in organizations to use technology in management.

授業の内容(Course Contents)

社会のニーズの多様化、市場の成熟化、経済のグルーバル化などビジネスを取り巻く環境が大きく変化する中で、企業の生き残りを左右するのはイノベーションを推進する力である。イノベーションにより事業を日々進化させ、変化する外部環境に対応させることが企業の持続的な成長・発展のためのキーアクションである。まさに、ダーウィンの言葉の通りに、“最も強いものでなく最も環境に適したものが生存機会を保障される。テクノロジーマネジメントでは、知見や道具を使って変化する環境に適応し制御する能力を高める方法ならびに特定の目標を達成するために長期的視野と複合思考で能力や資源を総合的に運用する計画を立案することを学ぶ。テクノロジーマネジメント3では、全体概観を学ぶ。

As the environment surrounding business such as diversification of society's needs, maturation of the market, and globalization of the economy changes greatly, this is about the ability to promote innovation that will determine the survival of a company. It is key for sustainable growth and development of a company to evolve day to day business through innovation and to respond to changing external environments. Precisely as Darwin had said, “it is not the strongest, but the most suitable for the environment that is guaranteed to survive.” In technology management, we will learn how to improve our ability to adapt and control the changing environment using knowledge and tools and develop a plan for the comprehensive use of capacity and resources with a long-term perspective and combined thinking to achieve specific goals. In Technology Management 3 we will learn a general overview of the subject.

授業計画(Course Schedule)

1. 技術と経営のつながりを知る
2. 企業の進むべき方向を決める
3. 外部環境変化を知る
4. 制約条件の変化を知る
5. 顧客がいくら払うかを知る
6. 商品ライフサイクルの速度を知る
7. 良いものをマーケティングする-テクノロジーマーケティング-
8. 良いものをつくる
9. 良いものを社会へ普及させる
10. 技術をブランディングする-テクノロジーブランディング-
11. 課題発表(1)
12. 課題発表(2)
13. まとめ(1)
14. まとめ(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義毎に次回までの学習内容を指示する

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/出席のうえで議論への積極的な参加(40%)/発表(30%)

テキスト(Textbooks)

ハンドアウト配布

参考文献（Readings）

講義にて随時紹介

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本科目は、簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。
全授業回のうち数回程度対面実施予定。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG286／テクノロジーマネジメント4 (Technology Management 4)		
担当者名 (Instructor)	中村　二朗(NAKAMURA JIRO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

製造業、サービス業、小売業などの経営者や経営スタッフ、そして各構成員がテクノロジーを経営に生かしていく際に必要となる基礎的かつ戦略的な考え方を学ぶ。

We will learn basic and strategic concepts that are necessary for managers and management staff in the manufacturing, service, and retail industries, as well as of each of the members in organizations to use technology in management.

授業の内容(Course Contents)

社会のニーズの多様化、市場の成熟化、経済のグルーバル化などビジネスを取り巻く環境が大きく変化する中で、企業の生き残りを左右するのはイノベーションを推進する力である。イノベーションにより事業を日々進化させ、変化する外部環境に対応させることが企業の持続的な成長・発展のためのキーアクションである。まさに、ダーウィンの言葉の通りに、“最も強いものでなく最も環境に適したものが生存機会を保障される。テクノロジーマネジメントでは、知見や道具を使って変化する環境に適応し制御する能力を高める方法ならびに特定の目標を達成するために長期的視野と複合思考で能力や資源を総合的に運用する計画を立案することを学ぶ。テクノロジーマネジメント4では、具体的な方策および事例を中心に学習し、理解を深める。

As the environment surrounding business such as diversification of society's needs, maturation of the market, and globalization of the economy changes greatly, this is about the ability to promote innovation that will determine the survival of a company. It is key for sustainable growth and development of a company to evolve day to day business through innovation and to respond to changing external environments. Precisely as Darwin had said, “it is not the strongest, but the most suitable for the environment that is guaranteed to survive.” In technology management, we will learn how to improve our ability to adapt and control the changing environment using knowledge and tools and develop a plan for the comprehensive use of capacity and resources with a long-term perspective and combined thinking to achieve specific goals. In Technology Management 4 we will learn about specific strategies and examples, and deepen our understanding of the subject.

授業計画(Course Schedule)

1. 講義全体概観
2. テクノロジーと企業競争力
3. 新商品開発のマネジメント
4. ビジネスモデルのマネジメント
5. 技術開発・新商品開発の組織マネジメント
6. テクノロジーとベンチャービジネス
7. 分野別事例(IoT)
8. 分野別事例(人工知能(AI)、ロボット、DX)
9. 分野別事例(I カーボンニュートラル、エネルギー)
10. 分野別事例(環境・素材)
11. 課題発表(1)
12. 課題発表(2)
13. まとめ(1)
14. まとめ(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義毎に次回までの学習内容を指示する

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/出席のうえで議論への積極的な参加(40%)/発表(30%)

テキスト(Textbooks)

ハンドアウト配布

参考文献（Readings）

講義にて随時紹介

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本科目は、簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。
全授業回のうち数回程度対面実施予定。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG331／インダストリアルマネジメント1 (Industrial Management 1)		
担当者名 (Instructor)	秋野　晶二(AKINO SHOJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

イノベーションに関連する基本文献を読み、イノベーション論の基本的な内容を学ぶとともに、学術研究の読解能力を養うことを目標とする。今年度は、今日のイノベーションを理解するうえでも示唆に富むクレイトン・クリステンセンの『イノベーションのジレンマ』を読解する。

The aim is to read basic literature related to innovation, to learn the basic contents of innovation theory, and to develop the ability to read academic research. This year, we will read Clayton Christensen's Innovation Dilemma, which is inspiring to understand today's innovation.

授業の内容(Course Contents)

講義にあたっては、テキストの各章を受講者相互の議論を通じて読解していく。

受講者は、毎回の講義に先だって、テキストの各章を詳細に熟読し、読解して、論点や質問を整理したうえで参加しなければならない。その上で参加者全員が各文章、段落ごとの内容を説明、発表、報告しあい、また適宜討論をしながらまとめていく。また必要に応じて、各章のレジュメやノート、課題の提出、関連する他の文献のレジュメ提出などしながら、適宜、講義の内容を深め、整理することで、テキストを深く読解していく。

本講義では、単に内容を理解するというだけではなく、テキストの背景にある理論や様々な議論・論争、さらに筆者の考え方などにも言及しながら、受講者の理解が深まるまで、時間をかけて議論・読解を行うため予定通り進行するとは限らない。こうすることで、参加者各自が論文執筆にあたっての方法をも合わせて学ぶ。

なお講義の進め方は最初の講義(オンラインで実施予定)で説明する。受講者数に応じて進め方や内容を変更する場合があるので、最初の講義に参加をすること。(講義情報は Blackboard にて公開する。)

In the lecture, each chapter of the text will be read through discussions among the students.
Before each lecture, students should carefully read and understand each chapter of the text, read and comprehend issues and questions, and participate. After that, all the participants explain, present, and report the contents of each sentence and paragraph, and summarize them while discussing as appropriate. In addition, as necessary, the text of the lecture will be deeply understood by deepening and organizing the contents of the lecture, as appropriate, while submitting resumes, notes and assignments for each chapter, and submitting resumes for other related documents.
In this lecture, we will take time not only to understand the content but also to deepen the students' understanding while referring to the theory behind the text, various debates and controversies, and the author's way of thinking. It does not always go as planned for discussion and reading. In this way, each participant learns how to write a dissertation.
How to proceed with the lecture will be explained in the first lecture, but attendance to the first lecture （Online lecture） is mandatory because the procedure and content may change depending on the number of students. (The lecture information is released in 'Blackboard'.)

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 序章の輪読(1)
3. 序章の輪読(2)
4. 序章の輪読(3)
5. なぜ優良企業が失敗する理由(1)
6. なぜ優良企業が失敗する理由(2)
7. なぜ優良企業が失敗する理由(3)
8. バリュー・ネットワークとイノベーション(1)
9. バリュー・ネットワークとイノベーション(2)
10. バリュー・ネットワークとイノベーション(3)
11. 掘削機業界における破壊的イノベーション(1)
12. 掘削機業界における破壊的イノベーション(2)
13. 掘削機業界における破壊的イノベーション(3)
14. まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

本講義受講にあたっては、テキストを入手し、毎回の講義に先だって、テキストの各章を読解し、論点の整理や疑問点の確認、課題を済ませたうえで参加しなければならない。

成績評価方法・基準（Evaluation）

小レポート(40%)/毎回の提出物(35%)/出席・発言等(25%)

テキスト（Textbooks）

1. クレイトン・クリステンセン、『イノベーションのジレンマ』、翔泳社 （ISBN:4798100234）

参考文献（Readings）

必要に応じて適宜、講義において指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG336／インダストリアルマネジメント2 (Industrial Management 2)		
担当者名 (Instructor)	秋野　晶二(AKINO SHOJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

プラットフォームビジネスに関連する基本文献を読み、プラットフォームビジネス論の基本的な内容を学ぶとともに、学術研究の読解能力を養うことを目標とする。プラットフォームビジネスを理解するうえで基本となるマイケル・クスマノらの『プラットフォームビジネス』を読解する。

The aim is to read basic literature related to platform business, to learn the basic contents of platform business theory, and to develop the ability to read academic research. We read Michael A. Cusumano et al.'s "The Business of Platforms", which is basic in understanding platform business.

授業の内容(Course Contents)

講義にあたっては、テキストの各章を輪読と報告、および受講者相互の議論を通じて読解していく。受講者は、毎回の講義に先だって、テキストの各章を詳細に熟読し、読解して、論点や質問を整理したうえで参加しなければならない。その上で報告者が各文章、段落ごとの内容を説明、発表、報告しあい、そして参加者全員が適宜討論をしながらまとめていく。また必要に応じて、各章のレジュメやノート、課題の提出、関連する他の文献のレジュメ提出などしながら、適宜、講義の内容を深め、整理することで、テキストを深く読解していく。

本講義では、単に内容を理解するというだけではなく、テキストの背景にある理論や様々な議論・論争、さらに筆者の考え方などにも言及しながら、受講者の理解が深まるまで、時間をかけて議論・読解を行うため予定通り進行するとは限らない。こうすることで、参加者各自が論文執筆にあたっての方法をも合わせて学ぶ。

なお本講義の進め方は最初の講義(オンラインで実施予定)で説明する。受講者数に応じて進め方や内容を変更する場合があるので、最初の講義に参加をすること。(講義情報は Blackboard にて公開する。)

In the lecture, each chapter of the text will be read and reported in turns, and lerned through discussions among the students. Before each lecture, students should carefully read and understand each chapter of the text, read and comprehend issus and questions, and participate. After that, a reporter explain, present, and report the contents of each sentence and paragraph, and all the participants summarize them while discussing as appropriate. In addition, as necessary, the text of the lecture will be deeply understood by deepening and organizing the contents of the lecture, as appropriate, while submitting resumes, notes and assignments for each chapter, and submitting resumes for other related documents.

In this lecture, we will take time not only to understand the content but also to deepen the students' understanding while referring to the theory behind the text, various debates and controversies, and the author's way of thinking. It does not always go as planned for discussion and reading. In this way, each participant learns how to write a dissertation.

How to proceed with the lecture will be explained in the first lecture (Online lecture), but attendance to the first lecture is mandatory because the procedure and content may change depending on the number of students. (The lecture information is released in 'Blackboard'.)

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス:本講義の目的・方法などについて
2. プラットフォーム思考
3. 覇者が全てもしくは大半を獲得する(1)
4. 覇者が全てもしくは大半を獲得する(2)
5. 戦略とビジネスモデル(1)
6. 戦略とビジネスモデル(2)
7. 共通する失敗(1)
8. 共通する失敗(2)
9. 既存企業は新たな世界に適応できるか(1)
10. 既存企業は新たな世界に適応できるか(2)
11. 諸刃の剣(1)
12. 諸刃の剣(2)
13. プラットフォームとその将来
14. まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

本講義受講にあたっては、テキストを入手し、毎回の講義に先だって、テキストの各章を読解し、論点の整理や疑問点の確認、課題を済ませたうえで参加しなければならない。なお報告担当者は輪読のためのレジュメを作成し、質問等に回答できるよう準備すること。

成績評価方法・基準（Evaluation）

報告・発言・出席等(40%)/提出物(30%)/小レポート(30%)

テキスト（Textbooks）

1. マイケル・クスマノ、アナベル・ガワー、デヴィッド・ヨッフィー、2020 年、『プラットフォームビジネス』、有斐閣 (ISBN:4641165688)

参考文献（Readings）

必要に応じて適宜、講義において指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG501／経営財務1 (Financial Management 1)		
担当者名 (Instructor)	野田　健太郎(NODA KENTARO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義は、経営財務に関する幅広い知識の修得を目指す。

The goal of this lecture is to acquire a broad knowledge of management finance.

授業の内容(Course Contents)

財務諸表の見方、事業収支の計算、経営財務に関する理論などについて解説する。実際の企業の動きを見ながら、ディスカッションをベースに授業を進める。

We will explain how to view financial statements, calculate business income and expenses, and explore theories related to management finance, etc. This class is based on discussions while watching actual movements taken by companies.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 財務諸表と財務データの活用を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
3. 収益分析を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
4. 安全性分析を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
5. キャッシュフロー分析を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
6. マクロ環境分析・セグメント分析を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
7. 企業価値関連情報を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
8. 将来予想分析を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
9. 企業行動分析を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
10. 企業価値評価を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
11. 産業分析でディスカッションを行う(1)。
12. 産業分析でディスカッションを行う(2)。
13. 産業分析でディスカッションを行う(3)。
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の講義範囲を復習すること

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容などによって総合的に評価する(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 野田健太郎、2017、『戦略的リスクマネジメントで会社を強くする』、中央経済社 (ISBN978-4-502-21761-6 C3034)

参考文献(Readings)

1. 野田健太郎、2013、『事業継続計画による企業分析』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-08320-4)
2. 野田健太郎、2004、『ベンチャー育成論入門―起業家マインドの醸成に向けて』、大学教育出版
3. 伊藤邦雄、2014、『新・企業価値入門』、日本経済新聞出版社

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本科目は、簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でディスカッション、プレゼン形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%である。
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。
原則オンラインで実施するが、対面の回は立教時間等で指示する。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG506／経営財務2 (Financial Management 2)		
担当者名 (Instructor)	野田　健太郎(NODA KENTARO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義は、経営財務に関する幅広い知識の修得を目指す。

The goal of this lecture is to acquire a broad knowledge of management finance.

授業の内容(Course Contents)

財務諸表の見方、企業審査について解説する。後半では無形資産、CSR、リスクマネジメント、コーポレートガバナンスなどのトピックについても触れる。実際の企業の動きを見ながら、プレゼン・ディスカッションをベースに授業を進める。

We will explain how to view financial statements and perform corporate audits. In the second half, we will talk about intangible assets, CSR, Risk Management, Corporate Governance topics. This class is based on presentations and discussions while watching actual movements taken by companies.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. CSR の概念整理を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
3. 金融と CSR を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
4. 非財務情報開示を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
5. サステナビリティを取り上げ解説及びディスカッションを行う。
6. 企業審査を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
7. 財務分析の知識確認
8. サステナビリティ2を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
9. ガバナンスを巡る最近の動きを取り上げ解説及びディスカッションを行う。
10. リスクマネジメントを取り上げ解説及びディスカッションを行う。
11. 非財務情報の事例についてプレゼン・ディスカッションを行う(1)。
12. 非財務情報の事例についてプレゼン・ディスカッションを行う(2)。
13. 非財務情報の事例についてプレゼン・ディスカッションを行う(3)。
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

担当の回についてはレジメを準備すること

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容などによって総合的に評価する(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 野田健太郎、2013、『事業継続計画による企業分析』、中央経済社 (ISBN:ISBN978-4-502-08320-4)

参考文献(Readings)

1. 野田健太郎、2017 年、『戦略的リスクマネジメントで企業を強くする』、中央経済社 (978-4-502-21761-6 C3034)
2. 野田健太郎、2004 年、『ベンチャー育成論入門』、大学教育出版

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本科目は、簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でプレゼン、ディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%である。
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。
原則オンラインで実施するが、対面の回は立教時間等で指示する。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形

式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG507／経営財務3 (Financial Management 3)		
担当者名 (Instructor)	井潟　正彦(IGATA MASAHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

主目標は、コーポレート・ファイナンスの基礎知識を、とくに資本調達と資本構成に焦点をあてて、強化することである。そのうえで、そうした基礎知識を用いて、企業財務を巡って現実に生じている様々な事象を適切に理解するだけでなく、説明できるようになる。

The goal of this course is enhancement of fundamental knowledge & skills of corporate finance with a focus on capital-raising and capital structure. Based on those fundamental knowledge & skills, class students are expected to not only understand accurately but also explain logically financing behaviors of corporations in the real world.

授業の内容(Course Contents)

資本の性格として互いに根本的な相違を持つ借入資本と株主資本、およびその組み合わせの在り方(資本構成)について議論する。その上で、運転資本、メザニン・ファイナンス、スタートアップなどの非公開企業の資金調達、無形資本(資産)、企業価値評価などに議論を展開する。コーポレート・ファイナンスの基礎知識の強化を座学のみならず、グループ発表や計算問題などをより重視して行う。

We will firstly discuss the essential difference between equity capital and debt capital, and the capital structure theories. Then we will move on to discussions on the working capital, mezzanine finance, start-up company's capital-raising issues, intangible capital(asset), valuation and so on.
Not only classroom lectures but also group discussions/presentations and computational exercises/examples are highly utilized in this course.

授業計画(Course Schedule)

1. 株式会社の仕組みと役割
2. 借入資本(有利子負債)の役割
3. 株主資本の役割
4. 資本構成を巡る議論
5. 信用リスクと格付け
6. 運転資本
7. メザニン・ファイナンス(劣後ローン)
8. メザニン・ファイナンス(種類株式)
9. スタートアップの資本調達
10. 企業価値評価の概要
11. 無形資本(資産)
12. ゲストスピーカー(1)
13. ゲストスピーカー(2)
14. 総括と補論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎週原則、授業の内容確認のための課題を提示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

グループ発表への積極的な参加(10%)/ゲストスピーカー(1)感想文(30%)/ゲストスピーカー(2)感想文(30%)/質問発出による授業への積極的な貢献(10%)/毎週の課題提出(20%)
ゲストスピーカーの感想文は各々400 字前後。

テキスト(Textbooks)

1. 松田千恵子、2016、『コーポレートファイナンス実務の教科書』、日本実業出版社 (ISBN:978-4-534-05450-0)

参考文献(Readings)

1. 磯崎哲也、2017、『起業のファイナンス(増補改訂版)』、日本実業出版社 (ISBN:978-4-534-05245-2)

2. イラッド・ギル、2021、『爆速成長マネジメント』、日経 BP（ISBN:978-4296000111）
毎週、必要に応じて、上記以外の書籍や論文などについても紹介する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

担当者は実務家教員として授業を行う（2021 年 3 月まで野村資本市場研究所・常務　兼　野村サステナビリティ研究センター・シニアフェロー、2021 年 4 月から株式会社助太刀・常勤監査役。立教大学・ビジネスデザイン研究科・特任教授（2016～2019 年度）、客員教授（2020 年度～）、関西学院大学・商学部・客員教授（2008～2014 年度）。日本証券アナリスト協会・認定アナリスト（CMA））。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG508／経営財務4 (Financial Management 4)		
担当者名 (Instructor)	井潟　正彦(IGATA MASAHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

主目標は、企業価値評価方法、とくに DCF 法について実務的な理解と知見を高めることである。その上で、日本で近年、また今後も増える M&A の様々な現実の事例について適切に理解するだけでなく、説明できるようになる。

The primary goal of this course is to deepen practical understanding and knowledge of Valuation of Corporations with a focus on DCF.　Based on those fundamental knowledge & skills, class students are expected to not only understand accurately but also explain logically purchase prices in M&A transactions, and/or start-up companies' capital raising, which are rapidly increasing in Japan.

授業の内容(Course Contents)

企業価値評価方法、とくに DCF について、実際に計算作業などを行いながら、また、実務事例を参照しながら、手順や構成要素などを習得する。
座学だけでなく、授業時間以外の復習(課題)やグループ発表なども重視する。

We will practically learn the DCF method as the primary procedure for valuation of corporations through calculating exercises and case studies.
In addition to classroom lectures, group-works and home-works are highly utilized.
.

授業計画(Course Schedule)

1. コーポレート・ファイナンスの基本についてのレビュー
2. 現在価値の考え方
3. 配当割引モデル(DDM)
4. DDM の限界と、DCF の概要
5. FCF の計算
6. 加重平均資本コスト(WACC)の推定－株主資本コスト(CAPM に基づく推定、β の理解)
7. 加重平均資本コスト(WACC)の推定－借入資本(有利子負債)コスト
8. 有利子負債の節税効果
9. ターミナル・バリューの計算
10. 補論・・・DCF の実務における対応、プロジェクト決定の可否判断(NPV)
11. 株主資本コストと ROE、WACC と ROIC
12. マーケット・アプローチ・・・PER、PBR、PSR、EBITDA マルチプル
13. ゲストスピーカー(1)
14. ゲストスピーカー(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

原則、毎週、授業内容に応じた課題あり(翌週必ず提出)。毎週配布する参考文献は必ず読むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

毎週の課題(20%)/ゲストスピーカー(1)感想文(30%)/ゲストスピーカー(2)感想文(30%)/質問発出やグループ発表による授業への積極的な貢献(20%)
ゲストスピーカーの感想文は各々400 字前後。

テキスト(Textbooks)

毎週、レジュメを配布する。

参考文献(Readings)

1. 伊藤邦雄、2014、『新・企業価値評価』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-534-13450-1)
2. 砂川信幸　笠原真人、2015、『はじめての企業価値評価』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-11325-4)

3. 渡辺茂、2003、『ケースと図解で学ぶ企業価値評価』、日本経済新聞社 (ISBN:4-532-31053-9)
4. 鈴木一功、2018、『企業価値評価　入門編』、ダイヤモンド社 (ISBN:978-4-478-02862-9)
5. 田中・保田、2019、『コーポレートファイナンス　戦略と実践』、ダイヤモンド社 (ISBN:978-4-478-10541-2)
6. 神田・太田・阿久澤、2019、『企業価値とオプション評価のロジックと実務』、金融財政事情研究会 (ISBN:978-4-322-13278-6)
毎週、必要に応じて、上記以外の書籍や論文などについても紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

担当者は実務家教員として授業を行う(2021 年 3 月まで野村資本市場研究所・常務　兼　野村サステナビリティ研究センター・シニアフェロー、2021 年 4 月から株式会社助太刀・常勤監査役。立教大学・ビジネスデザイン研究科・特任教授(2016～2019 年度)、客員教授(2020 年度～)、関西学院大学・商学部・客員教授(2008～2014 年度)。日本証券アナリスト協会・認定アナリスト(CMA))。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG551／証券経済論1 (Stock Market 1)		
担当者名 (Instructor)	井潟　正彦(IGATA MASAHIKO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

「未曾有の少子高齢化」、「人生 100 年時代」が現実に到来した日本社会における、一般家計の資産形成・管理を巡る現状と課題について理解すると共に、一般家計向けの資産形成・管理ビジネスの新たなモデルやイノベーションの可能性などについて検討する。

The primary aim of this course is to research and develop financial service business models and/or innovations to meet the asset accumulation/management service needs of the Japanese households which are facing the unpreceded aging society.

授業の内容(Course Contents)

2019 年に「老後資金 2000 万円不足報告書」として世間で注目を集めた金融庁・金融審議会・市場ワーキング・グループ報告書「高齢社会における資産形成・管理」、及び 2021 年に投資信託協会・すべての人に世界の成長を届ける研究会が公表した「2041 年、資産形成をすべての人に」の 2 つを基本文献として使いながら、日本が直面する未曾有の高齢社会の現状、長寿を巡る金融の課題などを議論する。その上で、そうしたニーズを満たし、広く一般家計向けとして普及すべき次代の資産形成・管理ビジネスの条件や可能性などを米国先進事例などを参考にしながら議論し、新たなビジネス・チャンスやビジネス・プラン、を模索する。授業の進め方として、座学だけでなく、グループ発表や授業内でのディスカッションを重視する。

The main material for this course is the Report on the Asset Accumulation & Management in Our Aging Society, which was compiled by a working group under the Financial System Council in late May,2019. Although hotly debated then, the Report fairly and objectively discusses the current and future issues in our aging society, the financial obstacles against longevity, the possible methodologies taken by the working generation and so on. Based on the proper understanding of the Report and case studies in the United States, we will discuss business opportunities, business models upgraded and innovations on the asset accumulation and management services for the Japanese households. Not only classroom lectures but also group discussions/presentations are highly emphasized in this course.

授業計画(Course Schedule)

1. 高齢社会を取り巻く環境変化(1)
2. 高齢社会を取り巻く環境変化(2)
3. 高齢社会における新たな金融ニーズ(1)
4. 高齢社会における新たな金融ニーズ(2)
5. 個人向け資産形成・管理サービスのあり方(1)
6. 個人向け資産形成・管理サービスのあり方(2)
7. 補論・・・とくに NISA と iDeco の制度、積立・分散・長期の重要性、金融ジェロントロジーの必要性、団塊世代ジュニアの課題
8. 日本における一般家計向けの資産形成・管理ビジネスの動向
9. 日本における金融経済教育の課題と展望
10. 欧米における先進事例の検討・・・米国で一般家計に広範に資産形成・管理サービスを展開し、高い評価を受けているチャールズシュワブ社やバンガード社などの事例研究
11. 日本における一般家計向けの資産形成・管理ビジネスのイノベーション、ビジネス・チャンスの検討
12. ゲストスピーカー(1)
13. ゲストスピーカー(2)
14. 全体の補論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回指示する参考文献を必ず読むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

グループ発表への積極的な参加(20%)/質問発出などによる授業への積極的な貢献(20%)/ゲストスピーカー(1)に関するレポート(30%)/ゲストスピーカー(2)に関するレポート(30%)
ゲストスピーカーの感想文は各々400 字前後(厳守)。

テキスト（Textbooks）

「老後資金 2000 万円不足報告書」として世間で注目を集めた金融庁・金融審議会・市場ワーキング・グループ報告書「高齢社会における資産形成・管理」、及び投資信託協会・すべての人に世界の成長を届ける研究会が 2021 年に公表した「2041 年、資産形成をすべての人に」を授業の基本文献（金融庁 HP、投資信託協会 HP にて PDF 入手可）とする。

参考文献（Readings）

1. チャールズ・シュワブ、2020、『ゼロ・コミッション革命』、金融財政事情研究会 (ISBN:978-4322135503)
上記以外にも毎回指示する参考文献を必ず読むこと。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

担当者は実務家教員として授業を行う（2021 年 3 月まで野村資本市場研究所・常務　兼　野村サステナビリティ研究センター・シニアフェロー、2021 年 4 月から株式会社助太刀・常勤監査役、立教大学・ビジネスデザイン研究科・特任教授（2016～2019 年度）、客員教授（2020 年度～）、関西学院大学・商学部・客員教授（2008～2014 年度）。日本証券アナリスト協会・認定アナリスト（CMA））。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG556／証券経済論2 (Stock Market 2)		
担当者名 (Instructor)	井潟　正彦(IGATA MASAHIKO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

先進国、なかでも日本のコーポレート・ガバナンスにおいて近年、資本市場の果たす役割、とくに株主としての機関投資家の役割が急速に重要性を高めている。資本市場における家計から機関投資家を通じて産業・企業に流れる資金フローの仕組み(インベストメント・チェーン)と、機関投資家、ひいては家計からの期待にスタートアップを含め企業が応えていくために求められている仕組み・条件について理解する。その上で、ESG を含むサステナビリティや株主のみならず幅広くステークホルダーを重視する動きが企業の資金調達、ひいては経営戦略に大きな影響を及ぼすことについて理解する。

In recent years, the role of the capital markets, especially the institutional investors, for the corporate governance in Japan, has been expanding rapidly. The goal of this course is to understand (a)the so-called Investment-Chain,, or the fund flow between households and companies/industries through the institutional investors in the capital markets, and (b) the basic governance structure required for the Japanese corporations to drive sustainable returns exceeding the cost of capital. In addition, to cultivate a better understanding Sustainability(ESGs) Investment which would cause a fundamental reshaping of capital raising as well as corporate strategy is also required.

授業の内容(Course Contents)

資本市場の重要性やポートフォリオ理論の基本を確認した上で、インベストメント・チェーンに関する重要な論点、とくにコーポレート・ガバナンス・コード、スチュワードシップ・コード、伊藤レポートを始めとする経済産業省や金融庁などで議論された研究会報告書、ブラックロック社 CEO・ラリーフィンク氏の年次書簡、ダボス会議主宰者・クラウスシュワブ氏によるステークホルダー資本主義、インパクト投資などを取り上げる。
座学のみならず、グループ・ディスカッション・発表などを積極的に行う。

After studying the importance of the capital markets and the basics of the portfolio theory, we will focus on several important topics/issues of the Investment-Chain and Sustainability Investment such as Corporate Governance Code, Stewardship Code, some essential discussions/report papers held/published in the Financial Services Agency and/or the Ministry of Economy, Trade and Industry including Ito Report, Fink Letter, Stakeholder Capitalism, Impact Investing and so on..
In addition to classroom lectures, we will also actively hold group discussions/presentations.

授業計画(Course Schedule)

1. 資本市場の仕組み・ポートフォリオ理論の基本
2. インベストメント・チェーン
3. 他先進国との比較
4. アセット・オーナー、アセット・マネジャー
5. コーポレート・ガバナンス・コード
6. スチュワードシップ・コード
7. 伊藤レポート
8. ESG、サステナビリティを巡る動き
9. インパクト投資
10. ラリー・フィンク・レター
11. ステークホルダー資本主義
12. 金融庁や経済産業省で議論されてきた関連研究会の報告書
13. ゲストスピーカー(1)
14. ゲストスピーカー(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回配布ないし指示する参考文献を必ず読むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

グループ発表への積極的な参加(20%)/質問発出による授業への積極的な貢献(20%)/ゲストスピーカー(1)感想文(30%)/ゲストスピーカー(2)感想文(30%)
ゲストスピーカーの感想文は各々400 字前後。

テキスト（Textbooks）

毎回レジュメあるいは参考文献を提示する。

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

担当者は実務家教員として授業を行う（2021 年 3 月まで野村資本市場研究所・常務　兼　野村サステナビリティ研究センター・シニアフェロー、2021 年 4 月から株式会社助太刀・常勤監査役、立教大学・ビジネスデザイン研究科・特任教授（2016～2019 年度）、客員教授（2020 年度～）、関西学院大学・商学部・客員教授（2008～2014 年度）。日本証券アナリスト協会・認定アナリスト（CMA））。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG731／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究１」		

授業の目標(Course Objectives)

修士論文(ビジネスリサーチ)あるいは修士論文(ビジネスデザイン)の作成

Writing a master's academic paper (business research) or a master's academic paper (business design)

授業の内容(Course Contents)

この授業は修士論文(ビジネスリサーチ)あるいは修士論文(ビジネスデザイン)を執筆するための研究論文指導を行うことを目的とする。

修士論文(ビジネスリサーチ)においては、自己の実務経験や社会経験という素材を批判的に捉え、そこから自己の問題関心を見つめ、これに基づいて、社会や経営現象に対する具体的な問いを立て、社会科学的な探求課題へと練り上げていく必要がある。

そのためには、同様の関心からどのような研究が行われてきたのか、研究対象である社会現象に対してどのような観点から研究が行われてきたのかを丁寧に検討し、そのうえで独自の研究課題を設定する必要がある。

加えて、社会科学的な探求を実践するには、適切な方法の選択が不可欠である。従って、研究課題に適合的な方法を選択するには、一定の方法論的な知識が要求されることとなろう。

修士論文(ビジネスデザイン)の指導では、創造的な事業を構想し、具体的なビジネスプランとして策定することを目的とする。外部環境と内部環境を分析し、社会生活に関わる問題を発見した上でこれらを解決するための新たな事業を構想し、これを具体的な実行可能プランにするための計画を策定する。それは新たな価値を社会に提供するものであり、社会の豊かさに貢献するものでなければならない。それゆえビジネスに関する単なる技法だけではなく、社会や人間の生活に対する深い洞察やビジネスの本質についての議論を深めることが重要となる。

本授業では、ディスカッション及び個別指導を通じて、上記の点について指導する。

The purpose of this class is to provide research paper guidance for writing a master academic paper (business research) or a master academic paper (business design).

In a master's academic paper (business research), it is necessary to take a critical view of the material of ones own practical experience and social experience, to look at the problem of interest from there, and based on this, to formulate concrete research questions about society and management phenomena, and to refine them into social science research subjects.

For this purpose, it is necessary to carefully consider what kind of research has been conducted from the same interests and from what viewpoint has the social phenomenon of the research subject been conducted, and then set a unique research question.

In addition, the selection of appropriate methods is essential to the practice of social science inquiries. Therefore, a certain methodological knowledge is required to select a method suitable for the research issue.

For a master's academic paper (business design), the goal is to conceptualize a creative business and formulate it as a concrete business plan. After analyzing the external and internal environments and discovering problems related to social life, a new business is conceived to solve these problems, and a plan is drawn up to make this a concrete and feasible plan. It should provide a new value to society and contribute to the enrichment of society. Therefore, it is important to deepen the discussion regarding the essence of business and have a deep insight into the society and lives of humans, rather than just the techniques of business.

In this class, we will learn the above points through discussions and tutoring.

授業計画(Course Schedule)

1. 問題意識を練る・ビジネスデザインについて
2. 問題意識を練る・ビジネスデザインの 5 つのステップ
3. 具体的「問い」を立てる・事業機会の分析と把握
4. 具体的「問い」を立てる・事業機会の分析と把握
5. 先行研究を検討する・事業機会の分析と把握
6. 先行研究を検討する・ビジネスプランの中間報告
7. 先行研究を検討する・事業機会の発見
8. 調査方法を検討する・事業機会の発見
9. 調査方法を検討する・事業機会の発見

10. 調査方法を検討する・ビジネスプランの中間報告
11. 仮説を構築する・ビジネスモデルの構想と構築
12. 仮説を構築する・ビジネスモデルの構想と構築
13. 仮説を構築する・ビジネスモデルの構想と構築
14. ビジネスリサーチあるいはビジネスプランの中間報告

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

各自の課題、作業に取り組んだうえで授業に臨みましょう。

成績評価方法・基準（Evaluation）

毎回の報告(100%)

テキスト（Textbooks）

各自のテーマに合わせて必要な文献を指示します。

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

ビジネスリサーチに取り組む方は調査法関係の科目を履修しておくとよいでしょう。ビジネスデザインに取り組む方は、会計系、財務系の科目、戦略やマーケティングなどの科目を体系的に履修しておくとよいでしょう。加えてビジネスデザインモジュールの科目を履修することをお勧めします。

【双方向による授業】
本科目は、受講生によるプレゼンテーションと相互フィードバックによるディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG732／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

修士論文(ビジネスリサーチ)あるいは修士論文(ビジネスデザイン)の作成

Writing a master's academic paper (business research) or a master's academic paper (business design)

授業の内容(Course Contents)

この授業は修了研究 A に続き、修士論文(ビジネスリサーチ)あるいは修士論文(ビジネスデザイン)を執筆するための研究論文指導を行うことを目的とする。

The purpose of this class is to provide research paper guidance for writing a master academic paper (business research) or a master academic paper (business design) following Research Studies Seminar of Business Planning A.

授業計画(Course Schedule)

1. 調査項目を検討する・ビジネスプランの具体的策定と評価
2. 調査項目を検討する・ビジネスプランの具体的策定と評価
3. 調査項目を検討する・ビジネスプランの具体的策定と評価
4. 予備調査を実施する・ビジネスプランの具体的策定と評価
5. 予備調査を実施する・ビジネスプランの中間報告
6. 本調査を実施する・経営理念の策定と成長戦略の構想
7. 本調査を実施する・経営理念の策定と成長戦略の構想
8. 本調査を実施する・経営理念の策定と成長戦略の構想
9. 調査結果を分析する・経営理念の策定と成長戦略の構想
10. 調査結果を分析する・ビジネスプランの中間報告
11. 調査結果を解釈する・ビジネスプランの中間報告
12. 調査結果を解釈する・ビジネスプランの中間報告
13. 結論を導出する・ビジネスプランの最終報告
14. 結論を導出する・ビジネスプランの最終報告

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各自、毎回の課題、作業に取り組んだうえで授業に臨みましょう。自己の仮説やアイデアの批判的検証を行うことが重要です。

成績評価方法・基準(Evaluation)

毎回の報告(100%)

テキスト(Textbooks)

各自のテーマおよび研究の進捗状況に合わせて必要な文献を指示します。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

修了研究 A を履修しておくとよいでしょう。また他の教員の修了研究も履修することを勧めます。

【双方向による授業】
本科目は、受講生によるプレゼンテーションと相互フィードバックによるディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%(14 回中 14 回)である。

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG733／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	斎藤　明(SAITO AKIRA)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究1」		

授業の目標(Course Objectives)

高度専門職業人として産業界等の現実課題に対して貢献する研究およびビジネスプラン作成を行う。
1. ビジネスリサーチ:テーマ設定と仮説・検証方法を習得し、論理的な思考を修得する。
2. ビジネスデザイン:市場創出可能なビジネスプランを作成する。

As advanced professional, we will conduct academic research and develop business plans, in order to contribute to the solution towards real problems in industry or other fields.
1. Business research: Exploreing the research question, learning the hypothesis verification method and the process of logical thinking through writing the master's thesis.
2. Business design: Developing the business plan to realize attractive market creation.

授業の内容(Course Contents)

研究テーマもしくは事業領域を設定することを目的に、関心領域と先行研究もしくは事業環境について、各自実施し、その成果を履修者相互に共有し議論することを経て、研究テーマや事業領域を絞り込む。
各自の論文ないしビジネスプランの進捗状況を確認しながら、履修者相互で、各自の論文とビジネスプランを比較し、学習し、自分自身の改善すべき点を確認し、検討する。
尚、主な研究指導に関するテーマは、マーケティングおよび消費者行動に関する領域であることが望ましい。

In order to set research themes or business areas, you will go about in your own research area and prior research or business environments, and after sharing and discussing the results among the other students, you will refine your research themes and business areas.
We will review the progress of writing master's thesis and making a business plan, and each thesis and business plan will be improved.
Moreover, it is desirable that the main topic of research is related to the area of marketing and consumer behavior.

授業計画(Course Schedule)

1. 関心領域に関する共有:　ゼミ形成により、各自の関心テーマ＆事業領域に関して学習・議論(1)
2. 関心領域に関する共有:　ゼミ形成により、各自の関心テーマ＆事業領域に関して学習・議論(2)
3. 関心領域設定への準備:参考文献・先行研究・関連データ等についての研究報告(1)
4. 関心領域設定への準備:参考文献・先行研究・関連データ等についての研究報告(2)
5. 関心領域の仮設定報告(1)
6. 関心領域の仮設定報告(2)
7. 関心領域の先行研究または関連＆類似事業の検討(1)
8. 関心領域の先行研究または関連＆類似事業の検討(2)
9. 研究テーマ＆提案事業案を絞込み(1)
10. 研究テーマ＆提案事業案を絞込み(2)
11. 研究仮説設定と検証方法報告＆提案事業案と実現可能性報告(1)
12. 研究仮説設定と検証方法報告＆提案事業案と実現可能性報告(2)
13. 夏季休暇中の研究計画の報告(1)
14. 夏季休暇中の研究計画の報告(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

1. 各自、毎回の課題、作業に取り組んだうえで授業に臨むことを推奨します。
2. 常に自分自身の関心領域について、情報収集や現場観察に努力することを推奨します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

参加度(40%)/クラス討議貢献度(40%)/アウトプット完成度(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

※原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。但し、状況により 1 回程度対面実施を検討する

修了研究（ビジネスリサーチ）履修者：ブランド、消費者行動、マーケティングに関する学術書・学術論文の精読
修了研究（ビジネスデザイン）履修者：ビジネスモデル、競争戦略に関する学術書・学術論文の精読

以上が、大学院での学びの基礎を構築し、豊かな時間をもたらします。

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG734／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	斎藤　明(SAITO AKIRA)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

高度専門職業人として産業界等の現実課題に対して貢献する研究およびビジネスプラン作成を行う。
1. ビジネスリサーチ:テーマ設定と仮説・検証方法を習得し、論理的な思考を修得する。
2. ビジネスデザイン:内外の事業環境に最適なビジネスプランを作成する。

As advanced professional, we will conduct academic research and develop business plans, in order to contribute to the solution towards real problems in industry or other fields.
1. Business research: Exploreing the research question, learning the hypothesis verification method and the process of logical thinking through writing the master's thesis.
2. Business design: Developing the business plan to realize attractive market creation.

授業の内容(Course Contents)

研究テーマもしくは事業領域を設定することを目的に、関心領域と先行研究もしくは事業環境について、各自実施し、その成果を履修者相互に共有し議論することを経て、研究テーマや事業領域を絞り込む。
各自の論文ないしビジネスプランの進捗状況を確認しながら、履修者相互で、各自の論文とビジネスプランを比較し、学習し、自分自身の改善すべき点を確認し、検討する。
尚、主な研究指導に関するテーマは、マーケティングおよび消費者行動に関する領域であることが望ましい。

In order to set research themes or business areas, you will go about in your own research area and prior research or business environments, and after sharing and discussing the results among the other students, you will refine your research themes and business areas.
We will review the progress of writing master's thesis and making a business plan, and each thesis and business plan will be improved.
Moreover, it is desirable that the main topic of research is related to the area of marketing and consumer behavior.

授業計画(Course Schedule)

1. 夏期休暇の研究調査進捗状況の確認と指導 (1)
2. 夏期休暇の研究調査進捗状況の確認と指導 (2)
3. 進捗状況確認とグループ指導(1)
4. 進捗状況確認とグループ指導 (2)
5. 中間報告に向けた個別指導(1)
6. 中間報告に向けた個別指導(2)
7. 中間報告に向けた個別指導(3)
8. 中間報告に向けた個別指導(4)
9. 最終作成に向けた個別指導(1)
10. 最終作成に向けた個別指導(2)
11. 最終作成に向けた個別指導(3)
12. 最終作成に向けた個別指導(4)
13. 最終報告会に向けた準備(1)
14. 最終報告会に向けた準備(1)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

1. 調査研究計画に基づき、夏期休暇中に各種研究調査の実行を前提とした参加を推奨します。
2. 各自、毎回の課題、作業に取り組んだうえで授業に臨むことを推奨します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

参加度(40%)/クラス討議貢献度(20%)/アウトプット完成度(40%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

※原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。但し、状況により 1 回程度対面実施を検討する。

修了研究（ビジネスリサーチ）履修者：ブランド、消費者行動、マーケティングに関する学術書・学術論文の精読
修了研究（ビジネスデザイン）履修者：ビジネスモデル、競争戦略に関する学術書・学術論文の精読

以上が、大学院での学びの基礎を構築し、豊かな時間をもたらします。

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG737／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	高柳　寛樹(TAKAYANAGI HIROKI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究1」		

授業の目標(Course Objectives)

修士論文(ビジネスリサーチ)あるいは修士論文(ビジネスデザイン)の作成

Writing a master's academic paper (business research) or a master's academic paper (business design)

授業の内容(Course Contents)

この講義は修士論文(ビジネスリサーチ)あるいは修士論文(ビジネスデザイン)を執筆するための研究論文指導を行うことを目的とする。

The purpose of this lecture is to provide research paper guidance for writing a master academic paper (business research) or a master academic paper (business design).

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション(担当者の専門領域共有と履修者の興味の共有)
2. 履修者によるそれぞれの修士論文の研究プランの共有と担当者からのコメント(1)
3. 履修者によるそれぞれの修士論文の研究プランの共有と担当者からのコメント(2)
4. 履修者によるそれぞれの修士論文の研究プランの共有と担当者からのコメント(3)
5. 先行研究と参考文献リストの発表と議論及び担当者からのコメント
6. 修士論文の研究プランの中間発表
7. 履修者による先行研究と参考文献のサマリーの発表と議論、研究プランの再構成(1)
8. 履修者による先行研究と参考文献のサマリーの発表と議論、研究プランの再構成(2)
9. 履修者による先行研究と参考文献のサマリーの発表と議論、研究プランの再構成(3)
10. 研究プランの再構成を受けたその時のプランの中間発表
11. 調査結果報告(1)
12. 調査結果報告(2)
13. 修士論文の執筆プラン最終報告(1)
14. 修士論文の執筆プラン最終報告(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各自適宜行うこと。担当教員の専門科目の履修も出来る限り行うと良い。またチャットなどを用いて必要な議論をいつでも行える環境を用意するためそれを利用し履修者同士または履修者と担当者との議論を行うことを最前提とする(オンライン会議も含む)。基本的な開講時間(教室または研究室)は決まっているが、オンライン・オフライン両方ともできる限りフレキシブルに運営する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

毎回の報告(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 高柳寛樹、2022、『続・まったく新しい働き方の実践～～なぜ働き方は自由にならないのか。DX(Digital Transformation)未完了社会の病理～』、ハーベスト社 (ISBN:978-4-86339-114-7)
2. 高柳寛樹、2020、『「IT 前提経営」が組織を変える～ デジタルネイティブと共に働く』、近代科学社 digital (ISBN:978-4-7649-6008-4)
3. 高柳寛樹、2017、『まったく新しい働き方の実践～「IT 前提経営」による「地方創生」～』、ハーベスト社 (ISBN:978-4-86339-086-7)

必要なタイミングで適宜指示する。

参考文献(Readings)

必要なタイミングで適宜指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

担当者プロフィールや担当者の他の講義のシラバスを読み、担当者の専門領域を正く理解した上で履修すること。
担当者プロフィールページ(参考):
https://hiroki.st/

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG738／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	高柳　寛樹(TAKAYANAGI HIROKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

修士論文(ビジネスリサーチ)あるいは修士論文(ビジネスデザイン)の作成

Writing a master's academic paper (business research) or a master's academic paper (business design)

授業の内容(Course Contents)

この講義は修士論文(ビジネスリサーチ)あるいは修士論文(ビジネスデザイン)を執筆するための研究論文指導を行うことを目的とする。

The purpose of this lecture is to provide research paper guidance for writing a master academic paper (business research) or a master academic paper (business design).

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション(担当者の専門領域共有と履修者の興味の共有)
2. 履修者によるそれぞれの修士論文の研究プランの共有と担当者からのコメント(1)
3. 履修者によるそれぞれの修士論文の研究プランの共有と担当者からのコメント(2)
4. 履修者によるそれぞれの修士論文の研究プランの共有と担当者からのコメント(3)
5. 先行研究と参考文献リストの発表と議論及び担当者からのコメント
6. 修士論文の研究プランの中間発表
7. 履修者による先行研究と参考文献のサマリーの発表と議論、研究プランの再構成(1)
8. 履修者による先行研究と参考文献のサマリーの発表と議論、研究プランの再構成(2)
9. 履修者による先行研究と参考文献のサマリーの発表と議論、研究プランの再構成(3)
10. 研究プランの再構成を受けたその時のプランの中間発表
11. 調査結果報告(1)
12. 調査結果報告(2)
13. 修士論文の執筆プラン最終報告(1)
14. 修士論文の執筆プラン最終報告(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各自適宜行うこと。担当教員の専門科目の履修も出来る限り行うと良い。またチャットなどを用いて必要な議論をいつでも行える環境を用意するためそれを利用し履修者同士または履修者と担当者との議論を行うことを最前提とする(オンライン会議を含む)。開講時間(教室または研究室)は基本的には決まっているが、できるだけフレキシブルに対応する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

毎回の報告(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 高柳寛樹、2022、『続・まったく新しい働き方の実践～～なぜ働き方は自由にならないのか。DX(Digital Transformation)未完了社会の病理～』、ハーベスト社 (ISBN:978-4-86339-114-7)
2. 高柳寛樹、2020、『「IT 前提経営」が組織を変える～ デジタルネイティブと共に働く』、近代科学社 digital (ISBN:978-4-7649-6008-4)
3. 高柳寛樹、2017、『まったく新しい働き方の実践～「IT 前提経営」による「地方創生」～』、ハーベスト社 (ISBN:978-4-86339-086-7)

必要なタイミングで適宜指示する。

参考文献(Readings)

必要なタイミングで適宜指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

担当者プロフィールや担当者の他の講義のシラバスを読み、担当者の専門領域を正く理解した上で履修すること。

担当者プロフィールページ（参考）：
https://hiroki.st/

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG743／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	高岡　美佳(TAKAOKA MIKA)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究1」		

授業の目標(Course Objectives)

大学院生生活の最後の仕上げとして，社会での経験を活かしつつ修士論文を作成することを目的とします。

As the last step in the life of a graduate student, the goal is to create a master's academic paper that makes use of societal experience.

授業の内容(Course Contents)

担当教員は流通論やリテイルマーケティング，消費財メーカーのブランディングなどを専門としています。これらの知識と経験にもとづき指導を行います。

Teaching staff specializes in distribution theory, retail marketing, and branding for consumer goods manufacturers. They provide guidance based on this knowledge and experience.

授業計画(Course Schedule)

1. スケジュールや内容については受講生と相談の上，決定します。
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

特になし。

成績評価方法・基準(Evaluation)

総合評価(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 伊丹敬之、2001、『創造的論文の書き方』、有斐閣 (ISBN:4641076499)
その他，各自の研究テーマや進捗に応じて参考文献やデータを紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG744／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	高岡　美佳(TAKAOKA MIKA)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

大学院生生活の最後の仕上げとして，社会での経験を活かしつつ，修士論文を作成することを目的とします。

As the last step in the life of a graduate student, the goal is to create a master's academic paper that makes use of societal experience.

授業の内容(Course Contents)

担当教員は流通論やリテイルマーケティング，消費財メーカーのブランディングなどを専門としています。これらの知識と経験にもとづき指導を行います。

Teaching staff specializes in distribution theory, retail marketing, and branding for consumer goods manufacturers. They provide guidance based on this knowledge and experience.

授業計画(Course Schedule)

1. スケジュールや内容については受講生と相談の上，決定します。
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

特になし。

成績評価方法・基準(Evaluation)

総合評価(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 伊丹敬之、2001、『創造的論文の書き方』、有斐閣 (ISBN:4641076499)
その他，各自の研究テーマや進捗に応じて参考文献やデータを紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG745／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	大山　利男(OYAMA TOSHIO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究1」		

授業の目標(Course Objectives)

農業および食品産業の関連性を「フードシステム」の視点で理解し，農産物(モノ)の流通にくわえて，食品安全・付加価値情報の流通，表示・認証，マーケティングなどについて理解する。

The relationship between agriculture and the food industry is looked at from a "food system" perspective, and in addition to distribution of agricultural products (goods), distribution of food safety and value added information, display and certification, marketing, etc. are looked at.

授業の内容(Course Contents)

農業は，さまざまな関連産業と結びついて多くのビジネス機会を提供している。農業および関連産業は，一方でグローバル化を指向するが，他方でローカル化に強みを発揮する事業者も少なくない。この授業では， 農業および関連産業をフードシステムという視点で把握し，そこに見られる具体的な問題点や論点について考察する。

Agriculture offers many business opportunities through being linked with various related industries. In agriculture and related industries, there are not few businesspersons who aim for globalization, and demonstrate the strength needed for localization. In this class, agricultural and related industries are looked at from a food system viewpoint, and the concrete problems and problems observed there are examined.

授業計画(Course Schedule)

1. 農産物市場の特性(1)
2. 農産物市場の特性(2)
3. 食品産業とフードシステム(1)
   (食品産業の発展とフードチェーン，インテグレーション)
4. 食品産業とフードシステム(2)
   (食品産業の発展とフードチェーン，インテグレーション)
5. 品質とは何か
   (品質属性，付加価値，付加的サービスほか)
6. 情報の不完全と表示(1)
   (情報の不完全，品質・安全をめぐるモラルハザード問題)
7. 情報の不完全と表示(2)
   (情報の不完全，品質・安全をめぐるモラルハザード問題)
8. 食のリスク管理(1)
   (安全基準・表示規制等)
9. 食のリスク管理(2)
   (生産情報トレーサビリティシステム)
10. 表示制度と基準・認証(1)
11. 表示制度と基準・認証(2)
12. 表示制度と基準・認証(3)
13. 産地呼称制度，地域ブランド(1)
14. 産地呼称制度，地域ブランド(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は，履修登録後に Blackboard 上で行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業時の発表(30%)/議論への貢献(40%)/授業内レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

授業時に指示する。

参考文献(Readings)

授業時に随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG746／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	大山　利男(OYAMA TOSHIO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

この授業は、修士論文(ビジネスリサーチ)の作成に向けた課題設定と研究計画の立案，調査研究の指導を行うことを目的とする。先行研究の収集・レビュー、研究テーマ・論文構成の明確化、資料収集・分析・検討を通じて、修士論文(ビジネスリサーチ)を作成する。

Writing a master's academic paper through the collection and reviewing many sources, clarifying the research theme, collecting data and analyzing many sources.

授業の内容(Course Contents)

この授業では、各自の問題意識にそった研究テーマ・仮説の設定、先行研究のレビュー、研究成果の報告、教員や学生とのディスカッション等を通じて、論文作成を進めていく。

The individual research will be advanced through guidance from the supervisor, presentation of the study, and discussions with other faculty members and students.

授業計画(Course Schedule)

1. 研究のすすめ方について
2. テーマの選定，仮説の設定について
3. 先行研究の収集・分析(1)
4. 先行研究の収集・分析(2)
5. 実証研究のすすめ方(1)
6. 実証研究のすすめ方(2)
7. 実証研究のすすめ方(3)
8. 論文作法について(1)
9. 論文作法について(2)
10. 論文作法について(3)
11. 調査研究報告(1)
12. 調査研究報告(2)
13. 調査研究報告(3)
14. 調査研究報告(4)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業時の発表(100%)

テキスト(Textbooks)

特になし。

参考文献(Readings)

授業時に随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG747／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究1」		

授業の目標(Course Objectives)

ビジネスリサーチ及びビジネスデザイン修士論文を作成するために必要な知識・スキルを習得する。

Acquire the knowledge and skills necessary for business research and writing a master's academic paper on business design.

授業の内容(Course Contents)

担当教員は気候変動への適応策及び緩和策や超スマート社会などの環境・エネルギー分野で研究実績を有している。これらの専門知識に基づく指導を行う。

The faculty has research achievements in environmental and energy fields such as climate change adaptation and mitigation measures, super smart societies, etc. They will provide guidance based on these expertise.

授業計画(Course Schedule)

1. コース運営については参加者と話し合いの上、決定する。
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

特になし

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/プレゼンテーション(30%)/ディスカッション参加(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 明石芳彦、2018、『社会科学系論文の書き方』、単行本 (ISBN:978-4623083794)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

必要に応じて指示する。

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG748／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

ビジネスリサーチ及びビジネスデザイン修士論文を作成するために必要な知識・スキルを習得する。

Acquire the knowledge and skills necessary for business research and writing a master's academic paper on business design.

授業の内容(Course Contents)

担当教員は気候変動への適応策及び緩和策や超スマート社会などの環境・エネルギー分野で研究実績を有している。これらの専門知識に基づく指導を行う。

The faculty has research achievements in environmental and energy fields such as climate change adaptation and mitigation measures, super smart societies, etc. They will provide guidance based on these expertise.

授業計画(Course Schedule)

1. コース運営については参加者と話し合いの上、決定する。
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

特になし

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/プレゼンテーション(30%)/ディスカッション参加(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 明石芳彦、2018、『社会科学系論文の書き方』、単行本 (ISBN:978-4623083794)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

必要に応じて指示する。

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG749／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	西村　剛(NISHIMURA GO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究１」		

授業の目標(Course Objectives)

連係科目の修了研究 B でホスピタリティ産業を対象とした論文策定に向けて、本科目では論文に必要な知識およびスキルの習得と論文で最も大事な仮説設定の視点などの骨子づくりを行う。

In this discipline, students acquire the knowledge and skills necessary for academic paper research, and make a point of view on the most important hypothesis in the academic paper for the formulation of an academic paper for the related discipline, Research Studies Seminar of Business Planning B which deals with hospitality industry.

授業の内容(Course Contents)

本科目は我が国ホスピタリティ産業の生産性革命・生産性向上をいかに図るかを研究テーマとしている。修了研究Aでは、主に「サービス立国論」「国運の分岐点」2 冊の輪読会を中心に、サービス産業の課題と問題点について専門的に研究する。

This discipline deals with a research theme on how to achieve a productivity revolution/productivity improvement of Japan's hospitality industry. Research Studies Seminar of Business Planning A mainly focuses on the reading of "Service nation theory", and will specialize in the research of the issues and problems of the service industry in detail.

授業計画(Course Schedule)

1. 春学期のゼミの進め方の説明、受講生の自己紹介
2. MBAで論文をいかに書くか
3. サービス立国論：序章サービス立国論：ものづくりからサービスへ、第1章サービス化する日本経済
4. サービス立国論第2章　サービス経済化と生産性・経済成長
5. サービス立国論第3章　サービス産業のイノベーション
6. サービス立国論第4章　サービス経済化と労働市場
7. サービス立国論第5章　都市、地域経済とサービス産業　第6章　国際化するサービス産業
8. サービス立国論第7章　サービス産業と景気変動　第8章　サービス経済化の下での政策課題、おわりに
9. 日本企業の勝算　はじめに～第2章
10. 日本企業の勝算　第3章第4章
11. 日本企業の勝算　第5章第6章
12. 日本企業の勝算　第7章第8章おわりに
13. 前期末の進捗状況の発表(問いをいかに立てたか)①
14. 前期末の進捗状況の発表(問いをいかに立てたか)②

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

「サービス立国論」筆者がパワポの資料も発表されていますので各自ダウンロードして発表用資料に活用ください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席と参加度(50%)/論文骨子完成度(50%)

テキスト(Textbooks)

1. 神戸大学専門職大学院、2015、『人生を変えるMBA』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-16460-4)
2. 森川正之、2016、『サービス立国論』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-35692-7)
3. デービッド・アトキンソン、2020、『日本企業の勝算』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-39652-0)

参考文献(Readings)

1. デービッド・アトキンソン、2019、『国運の分岐点』、講談社 (ISBN:978-4-06-517560-6)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

授業計画の中でホスピタリティ産業の受講生の業界報告も大歓迎であり、参加状況を見ながら柔軟に組み替えることとします。
本研究では実務へ反映することを第一義に運営します。

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG750／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	西村　剛(NISHIMURA GO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

修了研究 A に続き、ホスピタリティ産業を対象としたMBA論文を策定し修了審査に向けた最終とりまとめを行う。

Following the Research Studies Seminar of Business Planning A, a final summary of the MBA academic paper for the hospitality industry will be prepared for the completion examination.

授業の内容(Course Contents)

修了研究 B では、論文完成へ向けた中間発表、論点整理、ディスカッション、最終発表会を通して、個別指導を行う。

In the Research Studies Seminar of Business Planning B, individual guidance will be given through the mid-term presentation, cleaning up of one's point in question, discussion, and final presentation for the completion of the academic paper.

授業計画(Course Schedule)

1. 秋学期のゼミの進め方の説明、これまでの各人の進捗状況の把握①
2. これまでの各人の進捗状況の把握②
3. 中間発表とディスカッション①
4. 中間発表とディスカッション②
5. 中間発表とディスカッション③
6. 中間発表とディスカッション④
7. 論点整理①
8. 論点整理②
9. 論点整理③
10. 論点整理④
11. 論点整理⑤
12. 論点整理⑥
13. 修了審査に向けた最終発表会①
14. 修了審査に向けた最終発表会②

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

修了研究 A で学んだ論文の書き方に準じて先行研究、仮説、仮説検証などをとりまとめ、ディスカッションや中間発表、論点整理ができる準備をしておいてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席と参加度(50%)/論文完成度(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 森川正之、2016、『サービス立国論』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-35692-7)
2. 森川正之、2018、『生産性　誤解と真実』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-35803-7)
3. 宮川努、2018、『生産性とは何か一日本経済の活力を問いなおす』、ちくま新書 (ISBN:978-4-480-07189-7)
4. 武山政直、2017、『サービスデザインの教科書』、NTT 出版 (ISBN:978-4-7571-2365-6)
5. テイエン・ツオ、2018、『サブスクリプション』、ダイヤモンド社 (ISBN:978-4-478-10552-8)
6. デービッド・アトキンソン、2019、『国運の分岐点』、講談社 (ISBN:978-4-06-517560-6)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

各人のMBA論文の完成度を見ながら個別指導の時間と講義の配分を柔軟に調整いたします。

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG751／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	古川　英一(FURUKAWA EIICHI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究1」		

授業の目標(Course Objectives)

選定した M&A に関するテーマを修士論文(ビジネスリサーチ)として作成すること、または、起業、新規事業創造に向けての具体的なビジネスモデル・プランとして策定し、修士論文(ビジネスデザイン)を作成することを目的とする。

The purpose of this course is to Teach how to write a master academic paper (business research) on a theme related to M&A chosen by the student, or to create a master academic paper (business design) which is formulated as a specific business model/plan for entrepreneurship and new business creation.

授業の内容(Course Contents)

M&A に関するテーマに基づき、M&A が果たす経済的な役割の実証研究、M&A の事例研究、経営戦略に基づく M&A 戦略の実行プランの立案、など学生との個別相談にて研究テーマを決定する。
ビジネスデザインでは、新規性・実現可能性・社会性のある事業を構想し、具体的なビジネスモデル・プランとして策定することを指導する。

Based on a theme related to M&A, the course aims to decide a study theme of an academic paper by the individual consultation with the student such as the study of the economic role that M&A serves, the case study on M&A, the planning of implementing the M&A strategy, and so on.
Also, the aim of this business design course is to conceptualize a business with novelty, feasibility, and sociality as a completion study, and to formulate it as a concrete business model and plan.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 個々の学生への研究指導(個別テーマによる学生とのディスカッション等)
3. 個々の学生への研究指導(個別テーマによる学生とのディスカッション等)
4. 個々の学生への研究指導(個別テーマによる学生とのディスカッション等)
5. 個々の学生への研究指導(個別テーマによる学生とのディスカッション等)
6. 個々の学生への研究指導(個別テーマによる学生とのディスカッション等)
7. 個々の学生への研究指導(個別テーマによる学生とのディスカッション等)
8. 個々の学生への研究指導(個別テーマによる学生とのディスカッション等)
9. 個々の学生への研究指導(個別テーマによる学生とのディスカッション等)
10. 個々の学生への研究指導(個別テーマによる学生とのディスカッション等)
11. 個々の学生への研究指導(個別テーマによる学生とのディスカッション等)
12. 個々の学生への研究指導(個別テーマによる学生とのディスカッション等)
13. 論文テーマの決定(論文テーマに関する学生からの相談等)
14. 論文テーマの決定(論文テーマに関する学生からの相談等)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・M&A に関する一般的知識
・日々発表される M&A 案件の考察
・M&A に関する会計・税務・会社法・金証法等の基礎

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席と取組み(50%)/完成度(50%)

テキスト(Textbooks)

1. デロイト トーマツ フィナンシャルアドバイザリー、2021、『ザ・M&A ディール 企業買収・売却プロセス実践対策集』、中央経済社 (ISBN:ISBN978-4-502-39201-6)
「ビジネスデザインハンドブック」(ビジネスデザイン研究科発行)を全員に配布

参考文献（Readings）

1. ブリーリー、マイヤーズ、2014、『コーポレートファイナンス 第 10 版 上・下』、日経BP社
2. マッキンゼー・アンド・カンパニー、2016、『企業価値評価 第 6 版 上下』、ダイヤモンド社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

当授業に続き、修了研究 B を履修することが望ましい

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG752／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	古川　英一(FURUKAWA EIICHI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

学生が選定した M&A に関するテーマを論文として書くことを指導する。

The purpose of this course is to Teach how to write an academic paper on a theme related to M&A chosen by the student.

授業の内容(Course Contents)

M&A が果たす経済的な役割の実証研究、M&A の事例研究、経営戦略に基づく M&A 戦略の実行プランの立案、など学生が選定した研究テーマに基づき討論し、論文の完成へ指導する

The course aims to discuss the study theme chosen by the student with the student such as the study of the economic role that M&A serves, the case study on M&A, the planning of implementing the M&A strategy, and so on, and teach how to complete an academic paper.

授業計画(Course Schedule)

1. 論文に関する指導(論文テーマによる指導)
2. 論文に関する指導(論文テーマによる指導)
3. 論文に関する指導(論文テーマによる指導)
4. 論文に関する指導(論文テーマによる指導)
5. 論文に関する指導(論文テーマによる指導)
6. 論文に関する指導(論文テーマによる指導)
7. 論文に関する指導(論文テーマによる指導)
8. 論文に関する指導(論文テーマによる指導)
9. 論文に関する指導(論文テーマによる指導)
10. 個々の学生への研究指導(個別テーマによる学生とのディスカッション等)
11. 個々の学生への研究指導(個別テーマによる学生とのディスカッション等)
12. 個々の学生への研究指導(個別テーマによる学生とのディスカッション等)
13. 論文の提出
14. 論文の提出

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・M&A に関する一般的知識
・日々発表される M&A 案件の考察
・M&A に関する会計・税務・会社法・金証法等の基礎

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席と取組み(50%)/完成度(50%)

テキスト(Textbooks)

1. デロイト トーマツ フィナンシャルアドバイザリー、2021、『ザ・M&A ディール 企業買収・売却プロセス実践対策集』、中央経済社 (ISBN:ISBN978-4-502-39201-6)
適宜授業内で指示する

参考文献(Readings)

1. ブリーリー、マイヤーズ、2014、『コーポレートファイナンス 第 10 版 上・下』、日経BP社
2. マッキンゼー・アンド・カンパニー、2016、『企業価値評価 第 6 版 上下』、ダイヤモンド社

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

当授業の前に、修了研究 A を履修することが望ましい

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG755／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	山崎　京子(YAMAZAKI KYOKO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究1」		

授業の目標(Course Objectives)

修了研究(ビジネスリサーチ、ビジネスプラン)を完成させるための先行研究とリサーチデザインを明確にし、調査準備を整えること

The goal of this course is to prepare for MBA research by reviewing the previous research and clarifying research design to complete paper (business research or business plan).

授業の内容(Course Contents)

各自が研究計画のドラフトを持ち寄り、ゼミ全員で議論を深めながら「問い」を明確にしていく。
自身の「問い」を探求するための先行研究やデータを持ち寄り、リサーチデザインの全体像を形成する。
ゼミ人数によるが、1 回に 2～3 名ずつ研究進捗を発表し全体討議を行う。

Each participant brings a draft of the research plan to investigate the "research question" by deepen discussion with colleagues.
Bring in previous research and data to explore your own "research question" and form the whole picture of research design.
2 to 3 participants will make a presentation for the progress of the research (depending on the number of presenters), and hold a general discussion.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 研究の進め方(1)
3. 研究の進め方(2)
4. 先行研究(1)
5. 先行研究(2)
6. 問いと論文構成(1)
7. 問いと論文構成(2)
8. 研究モデルと調査設計(1)
9. 研究モデルと調査設計(2)
10. 研究モデルと調査設計(3)
11. 先行研究部分の執筆(1)
12. 先行研究部分の執筆(2)
13. 先行研究部分の執筆(3)
14. 前半部分のまとめと夏期休暇期間の目標設定

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

修了研究を進捗させること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修了研究の進捗(100%)

テキスト(Textbooks)

授業内で紹介します。

参考文献(Readings)

1. 戸田山和久、2012、『新版論文の教室』、NHK 出版 (ISBN:978-4140911945)
2. 佐藤郁哉、2021、『ビジネス・リサーチ』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492503287)
3. 服部泰宏、2020、『組織行動の考え方・使い方』、有斐閣 (ISBN:978-4641165663)
4. 須田敏子、2019、『マネジメント研究への招待』、中央経済社 (ISBN:978-4502296116)
5. 久保克行、2021、『経営学のための統計学・データ分析』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492503294)

授業内で紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

全授業回のうち、概ね半数程度対面実施予定

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG756／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	山崎　京子(YAMAZAKI KYOKO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

修了研究(ビジネスリサーチ、ビジネスプラン)を完成させるための調査データの分析、解釈、執筆を完了させ、論文発表会の準備を行うこと。

The goal of this course is to finalize for MBA research by analyzing data, writing papers, and preparing the presentation to complete paper (business research or business plan).

授業の内容(Course Contents)

各自が進捗中の研究を持ち寄り、ゼミ全員で議論を深めながら論文を仕上げていく。
ゼミ人数によるが、1 回に 2～3 名ずつ研究進捗を発表し全体討議を行う。

Each participant brings own progress of the research, and discusses with colleagues deeply and logically.
2 to 3 participants will make a presentation for the progress of the research (depending on the number of presenters), and hold a general discussion.

授業計画(Course Schedule)

1. 夏期休業期間中の進捗確認
2. 調査データの分析と解釈(1)
3. 調査データの分析と解釈(2)
4. 論文構成の再構築と目次決定(1)
5. 論文構成の再構築と目次決定(2)
6. 全体執筆の進捗確認(1)
7. 全体執筆の進捗確認(2)
8. 全体執筆の進捗確認(3)
9. 全体執筆の進捗確認(4)
10. 全体執筆の進捗確認(5)
11. 全体執筆の進捗確認(6)
12. 全体執筆の進捗確認(7)
13. 全体執筆の進捗確認(8)
14. 口頭試問準備

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

修了研究を進捗させること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

修了研究の完成(100%)

テキスト(Textbooks)

授業内で紹介します。

参考文献(Readings)

授業内で紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

全授業回のうち、概ね半数程度対面実施予定

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG757／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	秋野　晶二(AKINO SHOJI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究１」		

授業の目標(Course Objectives)

多数の先行研究の収集・読解、研究テーマの明確化、章構成の確定、多数の資料の収集、分析を通じて、修士論文(ビジネスリサーチ)を作成する。

Writing a master's academic paper through the collection and reading comprehension of many academic sources, the preparation of the text of the dissertation by clarifying the research theme, defining the chapter structure, collecting and analyzing many sources.

授業の内容(Course Contents)

この授業は修士論文(ビジネスリサーチ)を執筆するための研究論文指導を行うことを目的とする。
多数の先行研究や研究対象に対する実態の理解の上に、研究テーマおよび論点を明確化しつつ、各章構成を確定した上で、先行研究、必要なデータや論拠を収集、整理しながら、文章化を進めていく。そのために学生による進捗報告とそれに対する指導教授の指導や他の教員や学生とのディスカションを通じて、個々の研究を段階的に進めていく。春学期終了前には,夏休みおよび秋学期での論文作成に向けて課題を明確にし、論文執筆に向けてのスケジュールを決定する。

The purpose of this class is to provide research paper guidance for writing a master academic paper (business research) .
In this class, we will learn the below points; understanding many academic sources and the state of research subjects; clarifying the research theme and issues; defining each chapter structure; collecting and organizing academic sources, necessary data and arguments; and writing the paper. To this end, the individual research will be advanced in stages through guidance from the supervisor and discussions on each student's progress report with other faculty members and students. Before the end of the spring semester, clarifying the issues to prepare for the summer vacation and the fall semester based on the comments, and write the papers, and determining a schedule for it.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No1
3. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No2
4. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No3
5. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No4
6. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No5
7. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No6
8. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No7
9. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No8
10. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No9
11. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No10
12. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No11
13. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No12
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各指導教員の指示に従う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告および出席(100%)

テキスト(Textbooks)

適宜授業内で指示する。

参考文献(Readings)

適宜授業内で指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG758／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	秋野　晶二(AKINO SHOJI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

多数の先行研究の収集・読解、研究テーマの明確化、章構成の確定、多数の資料の収集、分析を通じて、修士論文(ビジネスリサーチ)を作成する。

Writing a master's academic paper through the collection and reading comprehension of many academic sources, the preparation of the text of the dissertation by clarifying the research theme, defining the chapter structure, collecting and analyzing many sources.

授業の内容(Course Contents)

この授業は修士論文(ビジネスリサーチ)を執筆するための研究論文指導を行うことを目的とする。
学生による進捗報告とそれに対する指導教授の指導や他の教員や学生とのディスカションを通じて、個々の研究を段階的に進めていく。

The purpose of this class is to provide research paper guidance for writing a master academic paper (business research) .
The individual research will be advanced in stages through guidance from the supervisor and discussions on each student's progress report with other faculty members and students.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No1
3. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No2
4. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No3
5. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No4
6. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No5
7. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No6
8. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No7
9. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No8
10. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No9
11. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No10
12. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No11
13. 個々の学生への研究指導(学生による報告とディスカション)　No12
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各指導教員の指示に従う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告および出席(100%)

テキスト(Textbooks)

適宜授業内で指示する。

参考文献(Readings)

適宜授業内で指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG759／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	和田　芳明(WADA YOSHIAKI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究1」		

授業の目標(Course Objectives)

修士論文としてビジネスリサーチ、あるいはビジネスデザインの作成を行う。

The purpose of this course is to write a business research or a business design as the master's academic paper.

授業の内容(Course Contents)

履修者の卒業後のキャリア形成に役立つ修士論文の作成に向け、各自のバックグラウンドとこれまでの経験、専門性の高い分野等を踏まえた課題設定を行う。
設定された課題に向け、現状分析、先行研究の検討を行い、仮説設定、リサーチプラン、ビジネスプランの立案と評価を、参加者全体の知見を借りつつ取り進めることで、秋学期に論文としての取りまとめを効率的に行えるよう、指導を行う。

In order to enhance the future career development of each student, this course sets the appropriate theme focused on the individual business experience, special interest field and past academic career.
Toward the fixed theme, students are expected to analyze the current status of the target field, study the previous academic paper, then set hypothesis and research plan.
During the session, students are expected to work with other students. Based upon their suggestion, instructor provides support to ensure the research/business planning process for the final goal in the fall terms.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション(担当者の専門領域の共有と履修者の関心分野の共有)
2. 各履修者のリサーチ／ビジネスデザインにおける関心分野についての発表、ディスカッション
3. 各履修者のリサーチ／ビジネスデザインにおける関心分野についての発表、ディスカッション
4. 各履修者ごとの関心分野における先行研究、参考事例の発表とディスカッション
5. 各履修者ごとの関心分野における先行研究、参考事例の発表とディスカッション
6. 各履修者ごとの関心分野における先行研究、参考事例の発表とディスカッション
7. 各履修者ごとの関心分野における先行研究、参考事例の発表とディスカッション
8. 各履修者ごとの関心分野における先行研究、参考事例の発表とディスカッション
9. 各履修者ごとの関心分野における先行研究、参考事例の発表とディスカッション
10. リサーチ、ビジネスデザインを構成する要素の確認
    スケルトンの作成方法
11. これまでのディスカッションをもとにしたスケルトンの発表とディスカッション
12. これまでのディスカッションをもとにしたスケルトンの発表とディスカッション
13. 夏季休暇中の研究計画・アンケート・サーベイ計画の発表
14. 夏季休暇中の研究計画・アンケート・サーベイ計画の発表

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

自分自身の発表内容に対し、得られた意見や助言を消化し、研究計画のブラッシュアップに努めること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

クラス参加と議論への貢献度(50%)/発表物の内容(50%)
内容の巧拙に関わらず、きちんと意見を述べ、課題を発表し、クラス全員の研究に貢献する姿勢を重視します。

テキスト(Textbooks)

各自の研究の内容、進捗状況を踏まえ、必要な文献を提示します。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG760／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	和田　芳明(WADA YOSHIAKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

修士論文としてビジネスリサーチ、あるいはビジネスデザインの作成を行う。

The purpose of this course is to write a business research or a business design as the master's academic paper.

授業の内容(Course Contents)

履修者の卒業後のキャリア形成に役立つ修士論文の作成に向け、春学期での指導と成果をフォローし、質の高い論文作成指導を行う。
春学期に策定した仮説、リサーチプラン、ビジネスプランのその後の進捗を点検し、補足作業が必要なリサーチ、調査の方向性を検討する。一連の調査、検討の成果を踏まえ、修士論文として完成するまでのプロセスを指導するとともに、合わせて、プレゼンのスキルも身につけられる機会を提供する。

In order to enhance the future career development of each student, following the outcome from the academic works since spring term, students are expected to set the work plan necessary to produce higher quality paper.
Reviewing the updated status of hypothesis, research or business plan which was set during the spring term, we consider the next step towards the goal and consider the necessity of additional research or fine tuning on the work plan, if necessary.
Based upon the series of reviewing, students are expected to set the proper process to complete the master thesis with good quality. In addition, instructor provides basic skills for students to deliver presentation and perform better.

授業計画(Course Schedule)

1. 研究の進捗状況と中間成果の発表と今後の取り組みへのディスカッション
2. 研究の進捗状況と中間成果の発表と今後の取り組みへのディスカッション
3. 研究の進捗状況と中間成果の発表と今後の取り組みへのディスカッション
4. 研究の進捗状況と中間成果の発表と今後の取り組みへのディスカッション
5. リサーチ論文、ビジネスプランのまとめ方に関する確認
6. リサーチ論文、ビジネスプランのまとめ方に関する確認
7. リサーチ論文、ビジネスプランのまとめ方に関する確認
8. リサーチ論文、ビジネスプランのまとめ方に関する確認
9. リサーチ／ビジネスプランの完成に向けた発表とディスカッション
10. リサーチ／ビジネスプランの完成に向けた発表とディスカッション
11. リサーチ／ビジネスプランの完成に向けた発表とディスカッション
12. リサーチ／ビジネスプランの完成に向けた発表とディスカッション
13. 最終とりまとめと発表スキルの完成
14. 最終とりまとめと発表スキルの完成

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

クラス参加と議論への貢献度(50%)/発表物の内容(50%)
内容の巧拙に関わらず、きちんと意見を述べ、課題を発表し、クラス全員の研究に貢献する姿勢を重視します。

テキスト(Textbooks)

各自の研究の内容、進捗状況を踏まえ、必要な文献を提示します。

参考文献(Readings)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG763／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	田中　道昭(TANAKA MICHIAKI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究１」		

授業の目標(Course Objectives)

ビジネスプランの研究テーマ設定、構成・内容等の構想、分析手法の検討等について助言することを目的とする。先行研究の収集・分析、フレームワーク活用での全体構造作成、定量・定性分析手法、ビジネスプラン作成方法等を一貫してレクチャー＆ワークで指導。適宜の個別指導も実施。

The goal is to advise on the research theme of the business plan, concept of the structure and its contents, examination of the analysis method, etc. We consistently provide lectures & work on the collection and analysis of prior research, the creation of the whole structure through the use of the framework, quantitative and qualitative analysis methods, business plan creation methods, etc. We also offer individual guidance as needed.

授業の内容(Course Contents)

修了研究ビジネスプランを通じて担当教官として指導していきたいこと。 それは、グランドデザインを意識したビジネスプランである。 グランドデザインとは、世界観や歴史観に基づく大局的で壮大な視点から、国家・社会・ビジネス・企業の在り方を描いていくことであり、それらの全体像と構成要素を明快に指し示していくことである。 グランドデザインにおいて重要なことは、それが全体像や構成要素を指し示すだけではなく、実際に提供していく商品・サービスの細部にまで哲学として行き渡っていくことを凡事徹底していくことである。グランドデザインの中核は、徹底した分析や洞察に基づいて、自らの世界観・ミッション・ビジョン・アイデンティティーを構築していくことである。「今、世界はどのような状況にあり、自分達が置かれている国家や社会や業界はどのような立場にあるのか？」「自分達が求められている/果たすべき役割とは何であるのか？」「その役割にしたがって自分達は何をしていくのか？」 そして、グランドデザインとは、「自分達がどのように在りたいのか？」という自己実現上の目標でなければならないものでもある。 つまりは、「自分達はこう在りたい」という理想の提示でなければならない。 自分達の自己実現上の目標であり理想の提示であるからこそ、現時点においては挑戦的であるからこそ、グランドデザインは自分達や周りの人達を鼓舞し、大きな威力を発揮するものとなるのである。 人口が減少し、人口構造が大きく変化し、閉塞感が強まっている現在の日本に置かれているからこそ、組織や人が長期的に繁栄を続け社会に貢献していくためには、小手先の事業再構築程度では不十分であり、グランドデザインから愚直に問い直し、真のイノベーションを通じて新たな価値を創造していくことが求められているのだ。創造するという、人に与えられた本来の生きる意義に真剣に対峙することが、グランドデザインそのものであるのだ。ありきたりの戦略、ましてや戦術レベルだけで改善を図っていこうとしても、もはや長期的な繁栄は無理な時代に置かれているのである。志向する分野・業界を問わず、「自分は何者か/自分は何を目指すのか/自分は何を目指したいのか?」から愚直に問い直し、「自分はこう在りたい」という理想の提示を、修了研究ビジネスプランを通じて実現していきたいと考える学生の受講を心から歓迎したい。

We would like to teach via a business plan for completion research as instructors. It is a business plan that takes into consideration grand design. Grand design means depicting the state, society, business, and enterprise from a perspective that is broad and grandiose, based on a view of the world and history and clearly show the whole picture and the components of it. The important thing to note in grand design is not only to indicate the whole picture and the components, but also to make all efforts to disseminate the philosophy to the details of the products and services that are being offered. The core of grand design is to build your own worldview, mission vision, and identity based on thorough analysis and insight. "What is the situation in the world right now, and what is the position of the state, society, and industry in which we are located?", "what role are we requested to play/should play", "what are we going to do according to that role?", and then grand design is "how do we want to be?" and it also must be something that is a self-fulfilling goal. In other words, it must be the presentation of the idea that "we want to be like this". It is challenging when presenting because it is an ideal presentation of a goal of self-realization of oneself, and grand design inspires oneself and the people around them and shows great power. In Japan currently, where the population is decreasing, the population structure is changing greatly, and the sense of stagnation is strong, it is not enough to rebuild the business a small step at a time for organizations and people to continue to contribute to the society in the long term and it is necessary to reconsider grand design and create new value through true innovation. It is important to take seriously the original meaning of life given to people, but that is grand design itself. Even if we try to improve a conventional strategy, let alone at a tactical level, the long-term prosperity will no longer be there. Regardless of the field or industry you aspire to, ask again in a simple and honest way "who am I/what are my goals/what am I aiming for?" We wish to sincerely welcome students who wish to realize the idea of "I want to be like this" through the completion of the research business plan.

授業計画(Course Schedule)

1. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
2. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
3. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
4. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
5. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
6. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
7. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
8. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
9. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
10. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
11. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
12. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
13. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
14. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

経営戦略、マーケティング戦略、財務・ファイナンス、組織・人事、マネジメント、
リーダーシップ等経営学の幅広い分野において、深い知識を身につけておくこと

成績評価方法・基準（Evaluation）

研究内容と結果(50%)/普段のコミュニケーション(50%)

テキスト（Textbooks）

1. 竹内一正、2014、『イーロン・マスクの挑戦』、宝島社 （ISBN:ISBN978-4-8002-2848-2）
2. 田中道昭、2017、『アマゾンが描く 2022 年の世界』、PHP 研究所 （ISBN:ISBN978-4-569-83733-8）
3. 高橋恭介＋田中道昭、2017、『あしたの履歴書』、ダイヤモンド社 （ISBN:ISBN978-4-478-10393-7）
4. 田中道昭、2019、『GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略』、日本経済新聞出版社 （ISBN:ISBN978-4532322656）

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG764／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	田中　道昭(TANAKA MICHIAKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

ビジネスプランの研究テーマ設定、構成・内容等の構想、分析手法の検討等について助言することを目的とする。先行研究の収集・分析、フレームワーク活用での全体構造作成、定量・定性分析手法、ビジネスプラン作成方法等を一貫してレクチャー＆ワークで指導。適宜の個別指導も実施。

The goal is to advise on the research theme of the business plan, concept of the structure and its contents, examination of the analysis method, etc. We consistently provide lectures & work on the collection and analysis of prior research, the creation of the whole structure through the use of the framework, quantitative and qualitative analysis methods, business plan creation methods, etc. We also offer individual guidance as needed.

授業の内容(Course Contents)

修了研究ビジネスプランを通じて担当教官として指導していきたいこと。 それは、グランドデザインを意識したビジネスプランである。 グランドデザインとは、世界観や歴史観に基づく大局的で壮大な視点から、国家・社会・ビジネス・企業の在り方を描いていくことであり、それらの全体像と構成要素を明快に指し示していくことである。 グランドデザインにおいて重要なことは、それが全体像や構成要素を指し示すだけではなく、実際に提供していく商品・サービスの細部にまで哲学として行き渡っていくことを凡事徹底していくことである。グランドデザインの中核は、徹底した分析や洞察に基づいて、自らの世界観・ミッション・ビジョン・アイデンティティーを構築していくことである。「今、世界はどのような状況にあり、自分達が置かれている国家や社会や業界はどのような立場にあるのか？」「自分達が求められている/果たすべき役割とは何であるのか？」「その役割にしたがって自分達は何をしていくのか？」 そして、グランドデザインとは、「自分達がどのように在りたいのか？」という自己実現上の目標でなければならないものでもある。 つまりは、「自分達はこう在りたい」という理想の提示でなければならない。 自分達の自己実現上の目標であり理想の提示であるからこそ、現時点においては挑戦的であるからこそ、グランドデザインは自分達や周りの人達を鼓舞し、大きな威力を発揮するものとなるのである。 人口が減少し、人口構造が大きく変化し、閉塞感が強まっている現在の日本に置かれているからこそ、組織や人が長期的に繁栄を続け社会に貢献していくためには、小手先の事業再構築程度では不十分であり、グランドデザインから愚直に問い直し、真のイノベーションを通じて新たな価値を創造していくことが求められているのだ。創造するという、人に与えられた本来の生きる意義に真剣に対峙することが、グランドデザインそのものであるのだ。ありきたりの戦略、ましてや戦術レベルだけで改善を図っていこうとしても、もはや長期的な繁栄は無理な時代に置かれているのである。志向する分野・業界を問わず、「自分は何者か/自分は何を目指すのか/自分は何を目指したいのか?」から愚直に問い直し、「自分はこう在りたい」という理想の提示を、修了研究ビジネスプランを通じて実現していきたいと考える学生の受講を心から歓迎したい。

We would like to teach via a business plan for completion research as instructors. It is a business plan that takes into consideration grand design. Grand design means depicting the state, society, business, and enterprise from a perspective that is broad and grandiose, based on a view of the world and history and clearly show the whole picture and the components of it. The important thing to note in grand design is not only to indicate the whole picture and the components, but also to make all efforts to disseminate the philosophy to the details of the products and services that are being offered. The core of grand design is to build your own worldview, mission vision, and identity based on thorough analysis and insight. "What is the situation in the world right now, and what is the position of the state, society, and industry in which we are located?", "what role are we requested to play/should play", "what are we going to do according to that role?", and then grand design is "how do we want to be?" and it also must be something that is a self-fulfilling goal. In other words, it must be the presentation of the idea that "we want to be like this". It is challenging when presenting because it is an ideal presentation of a goal of self-realization of oneself, and grand design inspires oneself and the people around them and shows great power. In Japan currently, where the population is decreasing, the population structure is changing greatly, and the sense of stagnation is strong, it is not enough to rebuild the business a small step at a time for organizations and people to continue to contribute to the society in the long term and it is necessary to reconsider grand design and create new value through true innovation. It is important to take seriously the original meaning of life given to people, but that is grand design itself. Even if we try to improve a conventional strategy, let alone at a tactical level, the long-term prosperity will no longer be there. Regardless of the field or industry you aspire to, ask again in a simple and honest way "who am I/what are my goals/what am I aiming for?" We wish to sincerely welcome students who wish to realize the idea of "I want to be like this" through the completion of the research business plan.

授業計画(Course Schedule)

1. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
2. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
3. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
4. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
5. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
6. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
7. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
8. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
9. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
10. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
11. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
12. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
13. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定
14. スケジュールや内容等については学生と相談の上で決定

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

経営戦略、マーケティング戦略、財務・ファイナンス、組織・人事、マネジメント、
リーダーシップ等経営学の幅広い分野において、深い知識を身につけておくこと

成績評価方法・基準（Evaluation）

研究内容と結果(50%)/普段のコミュニケーション(50%)

テキスト（Textbooks）

1. 竹内一正、2014、『イーロン・マスクの挑戦』、宝島社 （ISBN:ISBN978-4-8002-2848-2）
2. 田中道昭、2017、『アマゾンが描く 2022 年の世界』、PHP 研究所 （ISBN:ISBN978-4-569-83733-8）
3. 高橋恭介＋田中道昭、2017、『あしたの履歴書』、ダイヤモンド社 （ISBN:ISBN978-4-478-10393-7）
4. 田中道昭、2019、『GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略』、日本経済新聞出版社 （ISBN:ISBN978-4532322656）

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG765／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究1」		

授業の目標(Course Objectives)

修士論文の執筆に必要となる基礎知識や能力を身につける。

Acquire the basic knowledge and skills necessary for writing a master's academic paper.

授業の内容(Course Contents)

修士論文の執筆に向け，研究テーマの絞り込みを検討し，それに合わせて文献や資料の収集方法を指導する。その中から先行研究になりそうなものを選択し，輪読とディスカッションを行った後，先行研究のまとめ方の指導を行う。続いて，修士論文の構成(章立て)についての指導を行う。

最後に，修士論文の執筆に必要となる PC スキル(Word や Excel 等の機能)，利用できるデータベースの使用について解説する。

In order to write a master's academic paper, we will look at a narrowed down research theme and guide you on how to collect literature and materials according to it. The one that seems like it will be a prior research from among them is selected, and after reading in turns and discussing, guidance on the way of summarizing prior research is performed. Then, guidance on the composition (collation) of the master's academic paper is performed.

Finally, PC skills (functions such as Word and Excel) that are required for writing a master's academic paper and the use of available databases are explained.

授業計画(Course Schedule)

1. 研究テーマの選定
2. 文献や資料の検索方法
3. 先行研究の輪読とディスカッション(1)
4. 先行研究の輪読とディスカッション(2)
5. 先行研究の輪読とディスカッション(3)
6. 先行研究の輪読とディスカッション(4)
7. 先行研究のまとめ(1)
8. 先行研究のまとめ(2)
9. 論点整理(1)
10. 論点整理(2)
11. 論文執筆に必要な PC スキルの修得
12. データ収集とデータベースの利用
13. 成果報告(1)
14. 成果報告(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前準備の内容は，演習終了時もしくは電子メール等を用いて指示する。
研究テーマに即した基礎的な科目を履修しておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(35%)/演習への参加状況(30%)/演習内での報告(35%)

テキスト(Textbooks)

特になし。

参考文献(Readings)

必要に応じて指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

【双方向による授業】
本科目は，簡単な講義に続いて教員と履修者、あるいは履修者同士でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。

注意事項（Notice）
本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG766／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

論文の構成を確認し，執筆に関する種々の指導を行う。

The composition of the academic paper is confirmed and various guidance on the writing is performed.

授業の内容(Course Contents)

本演習での研究テーマは，経営分析研究や会計学研究を基本とする(周辺分野の研究でも可)。
春学期までに終了しているであろう研究テーマの選定や先行研究のレビューや章立ての検討を基礎として修士論文の執筆指導を進めていく。
指導方法はグループ指導と個別指導の2本立てで行う。グループ指導では，章ごとの内容の口頭発表と質疑を通じて多様な視点を研究に取り込み，個別指導では論点整理を行う。

The research theme in this seminar is based on management analysis research and accounting research (can be used for research in surrounding fields).
This course will focus on the selection of research themes that may have been completed by the spring semester, review of prior research, and review of chapters as a basis for the guidance on the writing of a masters academic paper.
Two types of guidance methods are performed, group and individual guidance. In group guidance, various viewpoints are incorporated into the research through oral presentation of the contents of each chapter and questions, and the point of dispute is arranged in individual guidance.

授業計画(Course Schedule)

1. 先行研究のレビューの確認(1)
2. 先行研究のレビューの確認(2)
3. 章立ての再検討
4. 仮説の構築と検証(1)
5. 仮説の構築と検証(2)
6. 仮説の構築と検証(3)
7. 論理一貫性の確認と討議(1)
8. 論理一貫性の確認と討議(2)
9. 論文執筆指導(1)
10. 論文執筆指導(2)
11. 論文執筆指導(3)
12. 論文執筆指導(4)
13. 成果報告(1)
14. 成果報告(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前準備の内容は，演習終了時もしくは電子メール等を用いて指示する。
授業の終了後には，授業内での指摘事項について復習や修正を行うこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(35%)/演習への参加状況(30%)/演習内での報告(35%)

テキスト(Textbooks)

特になし。

参考文献(Readings)

必要に応じて指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

【双方向による授業】
本科目は，個別指導の4回を除き、教員と履修者、あるいは履修者同士でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 71.4%（14 回中 10 回）である。

注意事項（Notice）
本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG767／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	下川　智広(SHIMOKAWA TOMOHIRO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究1」		

授業の目標(Course Objectives)

各自が選んだテーマに関連する過去の論文・書籍等の発表をしたり討論を行うことで、修士論文の完成を目標とする。

The purpose of this course is to help students improve their academic writing, especially of research papers.

授業の内容(Course Contents)

このクラスでは、修士論文の完成にむけた研究指導を行います。

This course aims to advise students in writing a paper. The course introduces fundamental concepts of academic writing including audience, purpose, organization, style, flow, and presentation, with a special focus on helping students construct research papers.

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画に関する指導
2. 研究テーマと関連する研究領域の指導
3. 先行研究のレビュー(1)
4. 先行研究のレビュー(2)
5. 研究テーマの社会的意義の確認(1)
6. 研究テーマの社会的意義の確認(2)
7. 研究テーマの絞り込みに関する指導(1)
8. 研究テーマの絞り込みに関する指導(2)
9. 仮説と検証方法に関する指導(1)
10. 仮説と検証方法に関する指導(2)
11. 仮説と検証方法に関する指導(3)
12. 論文作成指導(1)
13. 論文作成指導(2)
14. 論文作成指導(3)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

経済学・経営学・会計学・法学・統計学等の文献を読みこれを理解しておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

論文の完成度(40%)/クラスディスカッションへの貢献(30%)/出席したうえで積極的な討論への参加(30%)

テキスト(Textbooks)

テキストは特に指定しない。

参考文献(Readings)

参考文献は各自のテーマに合わせて適時指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG768／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	下川　智広(SHIMOKAWA TOMOHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

各自が選んだテーマに関連する過去の論文・書籍等の発表をしたり討論を行うことで修士論文の完成を目標とする。

The purpose of this course is to help students improve their academic writing, especially of research papers.

授業の内容(Course Contents)

このクラスでは、修士論文の完成に向けた研究指導を行います。

This course aims to advise students in writing a paper. The course introduces fundamental concepts of academic writing including audience, purpose, organization, style, flow, and presentation, with a special focus on helping students construct research papers.

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画に関する指導
2. 研究テーマと関連する研究領域の指導
3. 先行研究のレビュー(1)
4. 先行研究のレビュー(2)
5. 研究テーマの社会的意義の確認(1)
6. 研究テーマの社会的意義の確認(2)
7. 研究テーマの絞り込みに関する指導(1)
8. 研究テーマの絞り込みに関する指導(2)
9. 仮説と検証方法に関する指導(1)
10. 仮説と検証方法に関する指導(2)
11. 仮説と検証方法に関する指導(3)
12. 論文作成指導(1)
13. 論文作成指導(2)
14. 論文作成指導(3)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

経済学・経営学・会計学・法学・統計学等の文献を読みこれを理解しておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

論文の完成度(40%)/クラスディスカッションへの貢献(30%)/出席したうえで積極的な討論への参加(30%)

テキスト(Textbooks)

テキストは特に指定しない。

参考文献(Readings)

参考文献は各自のテーマに合わせて適時指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG771／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	福井　康子(FUKUI YASUKO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究１」		

授業の目標(Course Objectives)

ビジネスリサーチの修士論文では，テーマ設定および仮説構築の力をつけ、検証方法の学習を目的とする。ビジネスデザインの修士論文では、新規性、社会性および実現可能性のある事業の構築、魅力的なビジネスモデルプランの作成を目的とする。

The purpose of this course is, in business research, to have the ability to set themes, construct hypotheses, and acquire verification methods. The aims of business design are to build a business that is novel, social, and feasible and to formulate an attractive business plan.

授業の内容(Course Contents)

前半は先行研究のレビューや関連企業のリサーチを中心に行う。毎回、各自は取組内容をプレゼンテーションし、その後に教員と他の学生とで意見交換・議論を行う。進捗状況やニーズに応じて講義をすることもある。
自己のプレゼンと他者のそれを比較することで自己の改良すべきことは何かに気づく事ができ、議論の中で自分とは異なる視点を発見することができる。以下の授業計画は各人の進捗に応じて進行するため、前後することもある。

The first half of the course focuses on reviewing previous research and studying related companies. Each student will give a presentation on their work, followed by an exchange of opinions and discussion. Lectures may be given according to the progress and needs of the students.
By comparing their own presentations with those of others, students will be able to notice what they need to improve and discover different viewpoints from their own in the discussion. The following lesson plan will be developed according to each student's progress, and may change from time to time.

授業計画(Course Schedule)

1. 自己紹介および関心分野の詳細説明。進め方の検討。
2. テーマ/事業領域の検討その１
3. 先行研究/業界実態のレビュー
4. 先行研究/業界実態のレビュー
5. 先行研究/業界実態のレビュー
6. 先行研究/業界実態のレビュー
7. 先行研究/業界実態のレビュー
8. テーマ/事業領域の検討その２
9. 仮説/実現可能性の検討
10. 仮説/実現可能性の検討
11. 論文の構成の検討、論理的な組み立ての検証、オリジナリティの確認
12. 論文の構成の検討、論理的な組み立ての検証、オリジナリティの確認
13. 調査方法、市場分析等の中核部分の検討、決定、スケジュール
14. 調査、分析スケジュールにそった活動

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

リサーチの場合は先行研究など、デザインの場合は関連企業研究など、毎回(受講人数によっては隔週)進捗に沿った内容を発表してもらうための準備が必要である。また、後半は各自の論文の構成に関する検討など準備が必要である。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への参加と貢献(40%)/論文の完成度(60%)

テキスト(Textbooks)

授業中に適宜提示する

参考文献(Readings)

1. 田村正紀、2006、『リサーチ・デザイン ： 経営知識創造の基本技術』、白桃書房
授業中に適宜提示する

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG772／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	福井　康子(FUKUI YASUKO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

ビジネスリサーチの修士論文では，テーマ設定および仮説構築の力をつけ、検証方法の学習を目的とする。ビジネスデザインの修士論文では、新規性、社会性および実現可能性のある事業の構築、具体的なビジネスモデルプランとしての策定を目的とする。

The purpose of this course is, in business research, to have the ability to set themes, construct hypotheses, and acquire verification methods. The aims of business design are to build a business that is novel, social, and feasible and to formulate a concrete business model plan.

授業の内容(Course Contents)

毎回、各自は取組内容をプレゼンテーションし、その後に教員と他の学生とで意見交換・議論を行う。進捗状況やニーズに応じて講義をすることもある。
自己のプレゼンと他者のそれを比較することで自己の改良すべきことは何かに気づく事ができ、議論の中で自分とは異なる視点を発見することができる。以下の授業計画は各人の進捗に応じて進行するため、前後することもある。

Each time, every student presents the contents of the study and then exchanges opinions and discusses with the instructor and other students. Lectures may be given according to students' progress or needs. By comparing his or her presentation with that of others, the student can notice what to improve and discover a different perspective through discussion. Note: The course plans will be based on each student's progress, so they might not occur in the order below.

授業計画(Course Schedule)

1. 論文の書き方、参考文献の確認、中間プレゼンテーションと模擬質疑
2. テーマ・仮説・調査方法の適切性、実現可能性の確認
3. テーマ・仮説・調査方法の適切性、実現可能性の確認
4. 問題点の指摘
5. テーマ・仮説・調査方法の適切性、実現可能性の確認
6. テーマ・仮説・調査方法の適切性、実現可能性の確認
7. 問題点の指摘
8. テーマ・仮説・調査方法の適切性、実現可能性の確認
9. 仮提出の論文(プラン)の完成
10. 他のゼミと合同の発表会(未定)または第3者を交えての発表会
11. 最終的なチェック、指摘された問題の処理について検討
12. 完成論文(プラン)の発表
13. 発表・プレゼンテーションの練習、課題の最終検討
14. 発表・プレゼンテーションの練習、課題の最終検討

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回(受講人数や選択テーマ・プラン内容によっては隔週)進捗に沿った内容を発表してもらうため、その準備が必要である。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への参加、貢献(40%)/論文の完成度(60%)

テキスト(Textbooks)

授業中に適宜提示する

参考文献(Readings)

授業中に適宜提示する

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG773／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	平井　直樹(HIRAI NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究１」		

授業の目標(Course Objectives)

修士論文(ビジネスリサーチ)あるいは修士論文(ビジネスデザイン)の作成。

Preparation of a master's academic paper or a business plan.

授業の内容(Course Contents)

修士論文、ビジネスプランを執筆、作成するための研究論文指導を行います。
修士論文については、問題意識の明確化やテーマの絞り込みをまず行い、そのうえで、先行研究を進めていきます。
ビジネスプランについては、プランの前提となるモデルやフレームワークの検討、業界分析や調査から進めていきます。
授業は、物事を多面的、論理的に捉えていくことを目的とし、集合ゼミの形式で行い、各自の報告とディスカッションを通じて、指導を行います。
授業計画は目安とし、各自の進捗に合わせて調整します。

We provide research paper guidance for writing and preparing a master's academic paper and business plan.
For the master's academic paper, we will first clarify the problem awareness and narrow down the theme, and then proceed with advanced research.
For business plans, we will consider the model and framework that the plan is based on, as well as conduct industry analysis and research.
Classes are held in the form of group seminars, with the goal of understanding things in a multi-faceted and logical way, and instructions are provided through ones own reports and discussions.
The class plan is just a guide and it is adjusted according to the progress of each student.

授業計画(Course Schedule)

1. 問題意識、関心領域についての検討・発表
2. 論文の書き方・ビジネスプランの考え方、進め方について
3. 論文テーマ・ビジネスプランの設定と検討(1)
4. 論文テーマ・ビジネスプランの設定と検討(2)
5. 論文テーマ・ビジネスプランに沿った調査・先行研究(1)
6. 論文テーマ・ビジネスプランに沿った調査・先行研究(2)
7. 論文テーマ・ビジネスプランに沿った調査・先行研究(3)
8. 論文テーマ・ビジネスプランに沿った調査・先行研究(4)
9. 仮説構築・ビジネスモデル構築(1)
10. 仮説構築・ビジネスモデル構築(2)
11. 調査方法の検討(1)
12. 調査方法の検討(2)
13. 夏季休業期間前の中間報告・発表(1)
14. 夏季休業期間前の中間報告・発表(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

自身のテーマ、ビジネスモデル(プラン)に関する資料の収集
各自の課題、作業への取り組み、報告準備

成績評価方法・基準(Evaluation)

毎回の報告(100%)

テキスト(Textbooks)

それぞれの指導に合わせて、随時紹介します

参考文献(Readings)

1. ポール.J・シルヴィア、2015、『できる研究者の論文生産術』、講談社 (ISBN:4061531530)

2. 久米 郁男、2013、『原因を推論する -- 政治分析方法論のすゝめ』、有斐閣 (ISBN:4641149070)
3. 近藤 哲朗、2018、『ビジネスモデル 2.0 図鑑』、KADOKAWA (ISBN:4046023619)
それぞれの指導に合わせて、随時紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

自身の研究、プランを多面的に捉えていくために、正指導教員だけでなく、副指導教員の選択も推奨いたします。

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG774／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	平井　直樹(HIRAI NAOKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

修士論文(ビジネスリサーチ)あるいは修士論文(ビジネスデザイン)の作成。

Preparation of a master's academic paper or a business plan.

授業の内容(Course Contents)

秋学期は、修士論文、ビジネスプランの完成に向けた指導を行います。
夏季休業期間での研究成果の発表を行っていただき、その上で論文・プランの精緻化、検証を進めていきます。
提出後の 1 月は、口頭審査・プラン発表に向けた模擬練習も行います。

In the fall semester we will provide guidance for the completion of a master's academic paper and business plan.
After the presentation of the research results during the summer vacation, we will proceed with the elaboration and verification of the academic paper/plan.
We will also perform mock exercises for oral examination and plan presentations 1 month after submission.

授業計画(Course Schedule)

1. 夏季休業期間後の中間報告・発表(1)
2. 夏季休業期間後の中間報告・発表(2)
3. 論文・プランの検証・精緻化(1)
4. 論文・プランの検証・精緻化(2)
5. 論文・プランの検証・精緻化(3)
6. 論文・プランの検証・精緻化(4)
7. 仮提出に向けた準備(1)
8. 仮提出に向けた準備(2)
9. 論文・プランの仕上げ(1)
10. 論文・プランの仕上げ(2)
11. 問題点の指摘　最終的なチェック(1)
12. 問題点の指摘　最終的なチェック(2)
13. 口頭審査・発表に向けた練習(1)
14. 口頭審査・発表に向けた練習(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

自身のテーマ、ビジネスモデル(プラン)に関する資料の収集。
各自の課題、作業への取り組み、報告準備。

成績評価方法・基準(Evaluation)

毎回の報告(100%)

テキスト(Textbooks)

それぞれの指導に合わせて、随時紹介します。

参考文献(Readings)

1. 佐藤　雅昭、2016、『なぜあなたは論文が書けないのか?』、メディカルレビュー社 (ISBN:4779217245)
それぞれの指導に合わせて、随時紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

自身の研究、プランを多面的に捉えていくために、正指導教員だけでなく、副指導教員の選択も推奨いたします。

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG775／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	阿部　博秀(ABE HIROHIDE)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究1」		

授業の目標(Course Objectives)

修士論文作成への助言を行なう。

Advising on the creation of a master's academic paper.

授業の内容(Course Contents)

- 論文テーマ設定
- ビジネスプラン
- マーケット分析
- フィジビリティースタディー
- オペレーションプラン

- Academic paper theme setting
- Business plan
- Market research
- Feasibility Study
- Operation planning

授業計画(Course Schedule)

1. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
2. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
3. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
4. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
5. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
6. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
7. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
8. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
9. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
10. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
11. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
12. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
13. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
14. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じて別途指示する

成績評価方法・基準(Evaluation)

指導面談の際の準備状況・質疑応答(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG776／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	阿部　博秀(ABE HIROHIDE)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

修士論文作成への助言を行なう。

Advising on the creation of a master's academic paper.

授業の内容(Course Contents)

- 論文テーマ設定
- ビジネスプラン
- マーケット分析
- フィジビリティースタディー
- オペレーションプラン

- Academic paper theme setting
- Business plan
- Market research
- Feasibility Study
- Operation planning

授業計画(Course Schedule)

1. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
2. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
3. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
4. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
5. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
6. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
7. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
8. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
9. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
10. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
11. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
12. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
13. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する
14. 原則として土曜日 3限(必要に応じ4限)とするが、受講生と相談のうえ決定する

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じて別途指示する

成績評価方法・基準(Evaluation)

指導面談の際の準備状況・質疑応答(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG779／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究1」		

授業の目標(Course Objectives)

ビジネスリサーチおよびビジネスデザインを作成するための助言と指導を行うこと。

Provide advice and guidance for creating business research and business designs.

授業の内容(Course Contents)

研究テーマは各自の問題意識に基づいて決定するが、教員はマクロ組織論や戦略論を理論的ベースとした企業の戦略に関する定量的実証研究を専門としている。論文は(1)研究質問の設定、(2)先行研究の検討、(3)理論・仮説構築、(4)インタビュー調査・ケース分析、(5)データ収集、(6)データ解析、(7)結論の導出というプロセスで構成され、各プロセスで修正を加えながらこれらの作業を繰り返すことで進められる(事例分析の場合は(5)、(6)を除く)。修了研究 A では、はじめに論文とは何かに関するレクチャーを行う。そのうえで、研究質問の設定と研究手法の検討まで行うことを想定している。運営方法はゼミ形式を予定しているが、人数に応じて学生と相談のうえ決定する。また、指導内容、指導時間などは学生の進捗や予定に合わせて臨機応変に対応する。

Research topics are determined based on each individual's problem awareness, but the faculty specializes in quantitative empirical research on corporate strategy based on macro-organizational theory and strategy theory. The academic paper consists of the following processes: (1) formulation of the research question, (2) review of previous studies, (3) theory and hypothesis development, (4) interview survey and case analysis, (5) data collection, (6) data analysis, and (7) drawing of conclusions. In the case of "case study analysis", (5) and (6) are excluded. In this course, a lecture on what a thesis is is given at the beginning. This course is planned to be seminar-style, but this will be decided after consultation with the students depending on the number of students. The content and time of instruction will be flexible according to the progress and schedule of the students.

授業計画(Course Schedule)

1. 運営方法について
2. 論文を書くということ(1)
3. 論文を書くということ(2)
4. 問題意識
5. 問題意識
6. 研究質問の設定
7. 研究質問の設定
8. 先行研究の検討
9. 先行研究の検討
10. 先行研究の検討
11. 理論・仮説構築
12. 理論・仮説構築
13. 研究手法の検討
14. 研究手法の検討

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

院生のテーマと進捗に合わせて指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

各回の報告(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

院生のテーマと進捗に合わせて指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG780／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

ビジネスリサーチおよびビジネスデザインを作成するための助言と指導を行うこと。

Provide advice and guidance for creating business research and business designs.

授業の内容(Course Contents)

研究テーマは各自の問題意識に基づいて決定するが、教員はマクロ組織論や戦略論を理論的ベースとした企業の戦略に関する定量的実証研究を専門としている。論文は(1)研究質問の設定、(2)先行研究の検討、(3)理論・仮説構築、(4)インタビュー調査・ケース分析、(5)データ収集、(6)データ解析、(7)結論の導出というプロセスで構成され、各プロセスで修正を加えながらこれらの作業を繰り返すことで進められる(事例分析の場合は(5)、(6)を除く)。修了研究 B では研究手法の検討から結論の導出までを想定している。運営方法はゼミ形式を予定しているが、人数に応じて学生と相談のうえ決定する。また、指導内容、指導時間などは学生の進捗や予定に合わせて臨機応変に対応する。

Research topics are determined based on each individual's problem awareness, but the faculty specializes in quantitative empirical research on corporate strategy based on macro-organizational theory and strategy theory. The academic paper consists of the following processes: (1) formulation of the research question, (2) review of previous studies, (3) theory and hypothesis development, (4) interview survey and case analysis, (5) data collection, (6) data analysis, and (7) drawing of conclusions. In the case of "case study analysis", (5) and (6) are excluded. This course is expected to cover everything from the examination of research methods to the drawing of conclusions. This course is planned to be seminar-style, but this will be decided after consultation with the students depending on the number of students. The content and time of instruction will be flexible according to the progress and schedule of the students.

授業計画(Course Schedule)

1. 運営方法について
2. 研究手法の検討
3. 研究手法の検討
4. 分析の実施
5. 分析の実施
6. 分析の実施
7. 分析の実施
8. 分析の実施
9. 結果の解釈
10. 結果の解釈
11. 結果の解釈
12. 結果の解釈
13. 結論の検討
14. 結論の検討

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

院生のテーマと進捗に合わせて指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

各回の報告(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

院生のテーマと進捗に合わせて指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG787／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	庄司　貴行(SHOJI TAKAYUKI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究1」		

授業の目標(Course Objectives)

修士論文を完成するために必要な知識・スキルを習得する。

Acquire the knowledge and skills necessary to complete a master's academic paper.

授業の内容(Course Contents)

本科目では，経営組織論の理論的発展および主要理論を整理するとともに，現代的な課題，なかでもグローバル化とイノベーション創出をテーマとして研究することが，基本的な関心である。
そのうえで，以下の領域に関心のある学生を指導する。
1)ホスピタリティ・ビジネスにおける今日的課題に関する研究
2)ホスピタリティ・ビジネスの国際経営比較研究
3)ホスピタリティ・ビジネス分野におけるニュー・ビジネスに関する研究
4)観光研究の新領域としてのラグジュアリービジネスに関する研究
5)企業組織に関する研究
6)組織と社会との関係に関する研究
7)組織と個人との関係に関する研究

In this discipline, the fundamental interest is to study modern problems, especially globalization and innovation creation, as well as to arrange theoretical development and the main theories of Organizational Management.
Moreover, we will guide students who have an interest in the following areas:
1) Research on current issues in hospitality business
2) Comparative study of international management of hospitality business
3) Research on new businesses in the fields of hospitality business
4) Research on luxury business as a new area of tourism research
5) Research on corporate organization
6) Research on the relationship between organizations and society
7) Research on the relationship between organizations and individuals

授業計画(Course Schedule)

1. 論文とは何か
2. 研究にとっての論文の意味
3. アカデミズムとジャーナリズム
4. 相関関係と因果関係
5. 「科学的」とはなにか
6. 帰納法と演繹法
7. 1 次データと 2 次データ
8. データの価値とサンプリング
9. 統計ソフトの選択
10. 図書館とデータベース
11. 先行研究の調査と選別の基準
12. 仮説の設定
13. 学生プレゼンテーション
14. 学生プレゼンテーション

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

とくに必要としない。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終プレゼンテーション(50%)/授業への取組み(50%)

テキスト（Textbooks）

特に指定しない。

参考文献（Readings）

授業において指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG788／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	庄司　貴行(SHOJI TAKAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

修士論文の完成に向けて、必要な知識およびスキルを習得する。

Acquire the necessary knowledge and skills to complete a master's academic paper.

授業の内容(Course Contents)

本科目では，経営組織論の理論的発展および主要理論を整理するとともに，現代的な課題，なかでもグローバル化とイノベーション創出をテーマとして研究することが，基本的な関心である。
そのうえで，以下の領域に関心のある学生を指導する。
1)ホスピタリティ・ビジネスにおける今日的課題に関する研究
2)ホスピタリティ・ビジネスの国際経営比較研究
3)ホスピタリティ・ビジネス分野におけるニュー・ビジネスに関する研究
4)観光研究の新領域としてのラグジュアリービジネスに関する研究
5)企業組織に関する研究
6)組織と社会との関係に関する研究
7)組織と個人との関係に関する研究

In this discipline, the fundamental interest is to study modern problems, especially globalization and innovation creation, as well as to arrange theoretical development and the main theories of Organizational Management.
Moreover, we will guide students who have an interest in the following areas:
1) Research on current issues in hospitality business
2) Comparative study of international management of hospitality business
3) Research on new businesses in the fields of hospitality business
4) Research on luxury business as a new area of tourism research
5) Research on corporate organization
6) Research on the relationship between organizations and society
7) Research on the relationship between organizations and individuals

授業計画(Course Schedule)

1. 研究対象の検討
2. 研究テーマ・仮説の検討
3. 研究意義の検討
4. 研究方法の検討
5. 仮説とその検定
6. 目次の作成
7. 先行研究の整理
8. 参考文献と注釈
9. 論文の体裁と表記
10. 論文作成の指導 1
11. 論文作成の指導 2
12. 論文作成の指導 3
13. プレゼンテーションの指導 1
14. プレゼンテーションの指導 2

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

同一担当教員の修了研究 A を履修していること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への取組み(100%)

テキスト（Textbooks）

特に指定しない。

参考文献（Readings）

授業において必要に応じて指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG789／修了研究A (Study of Master's Thesis A)		
担当者名 (Instructor)	野田　健太郎(NODA KENTARO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究１」		

授業の目標(Course Objectives)

修士論文執筆を目標に専門的な知見を高めることを目指す。

The goal of this course is to enhance the specialized knowledge of students for writing a master's academic paper.

授業の内容(Course Contents)

本研究では、実際の企業情報を多角的な観点から分析することに重点を置きつつ、各自の研究課題と研究計画に基づいて報告を行い全員で討論を行う。修了研究 A では、下記の１～14 の全体を念頭に置きながら、主としてテーマ設定の意義、明確化に重点を置く。

In this study, we will focus on analyzing actual corporate information from a multi-faceted perspective, make a report based on each research topic and research plan, and will discuss it with all of the participants. In Research Studies Seminar of Business Planning A, an emphasis will be placed on the significance and clarification of the theme, while keeping in mind the entirety of 1 through 14 of the following.

授業計画(Course Schedule)

1. 大まかなテーマの設定
2. テーマに関係する資料の収集
3. 研究事例の吟味
4. 予備調査(予備研究)の実施
5. 研究テーマ・意義の確定
6. 先行研究の収集と再検討
7. 研究仮説の構築、仮説構築に向けてポイントを確認
8. 方法論の明確化
9. データ収集方法について検討
10. データの分析方法について検討
11. 仮説の検証方法について検討
12. 論文のドラフト執筆
13. さまざまな討論
14. 内容の深化と文章推敲

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

経済学、経営学、会計学、統計学の基礎的な文献を読むこと。各回の指摘事項を踏まえ、文献の確認等を十分に行ったうえで次回の授業に備えること。授業にあたってはレジュメ等を準備し学習効果が高まるようにつとめること

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席、報告内容などによって総合的に評価する(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 野田健太郎、2017、『戦略的リスクマネジメントで会社を強くする』、中央経済社 (ISBN978-4-502-21761-6 C3034)

参考文献(Readings)

1. 野田健太郎、2013 年、『事業継続計画による企業分析』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-08320-4)
2. 野田健太郎、2004 年、『ベンチャー育成論入門』、大学教育出版

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本科目は、簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%である。
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。
原則オンラインで実施するが、対面の回は立教時間等で指示する。

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VG790／修了研究B (Study of Master's Thesis B)		
担当者名 (Instructor)	野田　健太郎(NODA KENTARO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6020	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録／2015 年度以前入学者は「修了研究2」		

授業の目標(Course Objectives)

修士論文執筆を目標に専門的な知見をいっそう高めることを目指す。

The goal of this course is to further enhance the specialized knowledge of students for writing a master's academic paper.

授業の内容(Course Contents)

本授業では、実際の企業情報を多角的な観点から分析することに重点を置きつつ、各自の研究課題と研究計画に基づいて報告を行い全員で討論を行う。修了研究 B では、下記の1～14 の全体を念頭に置きながら、論文執筆に向けての具体的な検討に重点を置く。

In this class, we will focus on analyzing actual corporate information from a multi-faceted perspective, make a report based on each research topic and research plan, and will discuss with all of the participants. In Research Studies Seminar of Business Planning B, the focus will be on specific studies for writing of an academic paper, while keeping in mind the entirety of 1 through 14 of the following.

授業計画(Course Schedule)

1. 大まかなテーマの設定
2. テーマに関係する資料の収集
3. 研究事例の吟味
4. 予備調査(予備研究)の実施
5. 研究テーマ・意義の確定
6. 先行研究の収集と再検討
7. 研究仮説の構築、仮説構築に向けてポイントを確認
8. 方法論の明確化
9. データ収集方法について検討
10. データの分析方法について検討
11. 仮説の検証方法について検討
12. 論文のドラフト執筆
13. さまざまな討論
14. 内容の深化と文章推敲

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

経済学、経営学、会計学、統計学の基礎的な文献を読むこと。各回の指摘事項を踏まえ、文献の確認等を十分に行ったうえで次回の授業に備えること。授業にあたってはレジュメ等を準備し学習効果が高まるようにつとめること

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席、報告内容などによって総合的に評価する。(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 野田健太郎、2017 年、『戦略的リスクマネジメントで会社を強くする』、中央経済社 (ISBN978-4-502-21761-6 C3034)

参考文献(Readings)

1. 野田健太郎、2013 年、『事業継続計画による企業分析』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-08320-4)
2. 野田健太郎、2004 年、『ベンチャー育成論入門―起業家マインドの醸成に向けて』、大学教育出版

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本科目は、簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%である。
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

原則オンラインで実施するが、対面の回は立教時間等で指示する。

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH195／ホスピタリティデザイン特講3A (Special Seminar on Hospitality Design 3A)		
担当者名 (Instructor)	西村　剛(NISHIMURA GO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本科目はホスピタリティデザイン特講3B との連携科目である。両科目を通じて我が国ホスピタリティ産業が抱える国際生産性が低調である原因の解明と対策について、最新の経営学、経済学の知見を活用して研究する。

This discipline is a discipline of cooperation with Special Seminar on Hospitality Design 3B. Through these disciplines, we will study the causes of low international productivity of the hospitality industry in Japan and the measures taken there through using the latest knowledge of Business Management and Economics.

[Description before the change]
The productivity of Japan's hospitality industry is stagnant compared to that of the United States and other advanced countries. Although the government has also marked a productivity revolution in the service industry in recent years, this lecture is also based on the same awareness of the problem, and the latest knowledge of Business Management and Economics is utilized to study the issue.

授業の内容(Course Contents)

本科目では、ホスピタリティデザインに必須なビジネス・エコノミクス(経営の経済学)、経営戦略論、マーケティング・マネジメント論といったベーシックな分析ツールを習得する。

In this discipline, we will learn basic analysis tools such as business economics (management economics), Management Strategy theory, and Marketing Management theory, which are essential for hospitality design.

授業計画(Course Schedule)

1. ホスピタリティ産業のためのビジネス・エコノミクス(1)サービス学入門
2. ホスピタリティ産業のためのビジネス・エコノミクス(1)サービス・マネジメント論
3. ホスピタリティ産業のためのビジネス・エコノミクス(2)経営理論と経営戦略①
4. ホスピタリティ産業のためのビジネス・エコノミクス(2)経営理論と経営戦略②
5. ホスピタリティ産業のための経営戦略(1)競争戦略①
6. ホスピタリティ産業のための経営戦略(1)競争戦略②「ダイナミック・ケイパビリティ」
7. ホスピタリティ産業のための経営戦略(2)HRM①
8. ホスピタリティ産業のための経営戦略(2)HRM②「ティール組織」
9. ホスピタリティ産業のためのマーケティング・マネジメント(1)定義(2)製品・サービス
10. ホスピタリティ産業のためのマーケティング・マネジメント(3)CRM(4)ブランド
11. マーケティング 4.0 の時代
12. デジタルマーケティング、D2C
13. パーパス・マネジメント
14. ステークホルダー資本主義

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

参考文献から抜粋した教材(パワポ)に必ず事前に目を通し、専門用語の理解を万全にすること。実務に役立つ項目が満載されているので、時間をつくって参考文献もよく目を通しておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/出席・授業への貢献(30%)/小レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 丸山雅祥、2011、『経営の経済学』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-16376-8)
2. スティグリッツ、2012、『入門経済学』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-31419-7)

3. 石井淳蔵ほか、2013、『ゼミナールマーケティング入門』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-13439-6)
4. フィリップ・コトラーほか、2014、『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント』、丸善出版 (ISBN:978-4-621-06616-4)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本講義では極力アクティブラーニングに心がけるため、質問等に積極的に応えていただきたい。研究テーマが我が国ホスピタリティ産業で最もホットな喫緊の課題であるだけに講義を進めるにあたって受講者の実務上の知見も反映したい。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH196／ホスピタリティデザイン特講3B (Special Seminar on Hospitality Design 3B)		
担当者名 (Instructor)	西村　剛(NISHIMURA GO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

連携科目であるホスピタリティデザイン特講3A で修得した知見と本科目の前段で新たに習得するサービスドミナントロジック、サブスクリプション、生産性の知識習得を活用して我が国サービス産業の生産性革命をいかに図るかの主題の討究を行う。

We will discuss the subjects of how to achieve the productivity revolution of the service industry in Japan by using the knowledge acquired in the cooperation discipline, Special Seminar on Hospitality Design 3A, and the knowledge acquired in the previous section on service dominance logic, subscription, and productivity.

授業の内容(Course Contents)

本科目では我が国にとって喫緊の課題である「サービス産業の生産性革命」を図るうえで必須な最新のホスピタリティマネジメントや国際生産性の知見を手掛かりに、サービス産業の生産性向上の提言等を具体的に分析する。

The purpose of this discipline is to analyze concrete proposals for improving productivity in the service industry based on the latest knowledge of hospitality management and international productivity, which are essential for achieving the ″productivity revolution of the service industry″, which is an urgent issue for Japan.

授業計画(Course Schedule)

1. サービス・デザイン(1)デザイン思考と経営
2. サービス・デザイン(1)サービス・ドミナント・ロジック
3. サービス・デザイン(2)価値共創①
4. サービス・デザイン(2)価値共創②
5. 労働生産性の国際比較(1)生産性とは何か
6. 労働生産性の国際比較(1)成長会計
7. サブスクリプション(1)理論
8. サブスクリプション(2)事例
9. 日本の労働生産性の動向2020
10. 生産性と長期停滞論
11. 大企業の創造的イノベーションはいかにして可能か
12. 日本企業のイノベーション戦略
13. 日本生産性本部イノベーション会議
14. 「人口減少の日本には所得倍増計画が必要だ」(デービッド・アトキンソン)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

参考文献から抜粋した教材(パワポ)に必ず事前に目を通し、専門用語の理解を万全にすること。実務に役立つ項目が満載されているので、時間をつくって参考文献もよく目を通しておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/出席・授業への貢献(30%)/小レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

日本生産性本部提言「労働力喪失時代における持続可能な社会経済システム『スマートエコノミー』の実現をめざして」(2018 年 11 月 30 日)を各自ダウンロードしておくこと。

参考文献(Readings)

1. 武山政直、2017、『サービスデザインの教科書』、NTT 出版 (ISBN:978-4-7571-2365-6)
2. テイエン・ツオ、2018、『サブスクリプション』、ダイヤモンド社 (ISBN:978-4-478-10552-8)
3. 森川正之、2018、『生産性　誤解と真実』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-35803-7)
4. 宮川努、2018、『生産性とは何か一日本経済の活力を問い直す』、ちくま新書 (ISBN:978-4-480-07189-7)
5. デイビッド・アトキンソン、2019、『国運の分岐点』、講談社 (ISBN:978-4-06-517560-6)
6. デービッド・アトキンソン、2020、『日本企業の勝算』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-39652-0)

2019 年 12 月 9 日「日本生産性本部：第4回生産性シンポジウム」の資料を各自ダウンロードして目を通しておいてください

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本講義では極力アクティブラーニングに心がけるため、質問等に積極的に応えていただきたい。研究テーマが我が国ホスピタリティ産業で最もホットな喫緊の課題であるだけに講義を進めるにあたって受講者の実務上の知見も反映したい。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH198／ホスピタリティデザイン特講4B (Special Seminar on Hospitality Design 4B)		
担当者名 (Instructor)	庄司　貴行(SHOJI TAKAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	「その他」登録科目		

授業の目標(Course Objectives)

経営専門職人材としてのインターンシップを通して
1. 経営学の諸理論およびフレームワークについての理解を深めること
2. 経営の諸領域に関する実践的な理解を深めること
3. 高度経営専門職人材としてのキャリアについて理解を深めること
4. 大学院における自己の学修課題を明確化すること

Through an internship as a management professional
1. To deepen the understanding of the theories and frameworks of business management studies
2. To deepen the practical understanding of various areas of business management
3. To deepen the understanding of careers as highly-skilled management professionals
4. To identify your own study goals in graduate school.

授業の内容(Course Contents)

春学期中に履修者の選考及び事前研修を経て，夏季休暇以降に企業にインターンとして派遣する。派遣期間は 3 か月から 6 か月程度。インターンシップ終了後に報告会を実施する。

なお，本科目は秋学期開講科目であるが，履修希望者は4月下旬に始まるエントリー期間に履修申請すること。

Student selection and preparatory training will take place during the spring semester and students will be sent to respective companies as interns during or after the summer break. The duration of the internship will be 3 months to 6 months. A debriefing session will be conducted in the fall semester.

Although this course is scheduled for the fall semester, candidates wishing to enroll need to apply during the entry period which begins in late-April.

授業計画(Course Schedule)

1. エントリー
2. 面接
3. 面接合格後、事前講習①
4. 事前講習②
5. 事前講習③
6. 派遣先企業希望提出
7. 派遣先企業との面接
8. 派遣先企業決定
9. インターンシップの実施
10. 実施期間中の報告書提出
11. インターンシップ報告会の企画
12. インターンシップ報告会の実施
13. インターンシップ報告会の記録作成
14. 派遣先企業への報告書作成

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外にもインターンシップのための準備を行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

派遣先企業の評価(40%)/派遣先企業への報告書(40%)/報告会でのプレゼンテーション(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献（Readings）

必要に応じて適宜指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

授業開始前に履修者の選考（書類審査・面接）を行います。
履修希望者は事前ガイダンスに必ず参加してください。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH211／医療経済学概論 (Economics of Health Care)		
担当者名 (Instructor)	八木　麻衣子(YAGI MAIKO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

医療・介護やその周辺領域で活動を行うために必要なあらゆる事項を、医療経済学的な視点で理解する

The aim of this lecture is to understand matters necessary to carry out activities in and around the health care system and nursing care field.

授業の内容(Course Contents)

国民皆保険を基盤とした日本の医療・介護サービス産業は国民の健康達成度に貢献し、海外からも高い評価を得ている。しかし、2025 年を目標とする地域包括ケアシステムへの移行や、2040 年問題に向けた政策課題である医療・福祉サービス改革による生産性の向上など、医療・介護領域が取り組むべき課題は多い。そもそも、医療・介護分野は、医療資源の分配問題に代表されるさまざまな課題を内包するがゆえ、制度設計が重要な領域なのである。

限られた医療資源を有効に活用するためには、需要側である患者やその家族、さらには国民の理解が必要である。また、供給側である医療提供側においては、制度や政策、そして医療における経済的特性を理解する必要がある。そのうえで、医療の価値を最大化することを目的とした新たな競争基準の概念に基づいた組織戦略を可能とするため、医療・介護サービス産業全般の環境分析を行えることが必要となる。

そこで本講義では、現在の社会背景や国の戦略をふまえた医療・介護分野の問題点について医療経済学的な視点で整理を行い、急速に進む医療の情報化、今後のイノベーションが期待される先進医療、創薬、医療機器開発分野を含め、医療・介護やその周辺領域で活動を行うために必要なあらゆる知識について、包括的に理解することを目的とする。

なお、本講義は問題提起のための材料を講義にて提示し、それをもとに参加者によるディスカッションを中心とした構成とする。医療・介護領域の組織運営者や医療者のみならず、幅広い分野からの参加者とともに、現在の医療現場における問題を探り解決の一端を見出す場としたい。

Medical and nursing care service industry in Japan, based on universal health insurance, contribute to the health attainment of the Japanese people and are highly regarded overseas. However, there are many issues that need to be addressed, such as the establishing a comprehensive community care system by 2025 and the improving productivity through medical and welfare service reform, which is a policy issue for the 2040 problem. In the first place, the medical and nursing care fields involves various issues, such as the allocation of medical resources, and therefore the system design is important.

Effective use of limited medical resources required the understanding of the demand side, such as patients, their families, and the public. In addition, health care providers on the supply side need to understand the institutions, policies, and economic characteristics. In addition, we should understand the concept of new competitive standards aimed at maximizing the value of health care, and learn the ability to analyze the overall environment and take organizational strategies.

In this lecture, we will discuss the problems in the medical and nursing care field base on the current social background and the government's strategy, from the perspective of medical economics. And it also aims to provide a comprehensive understanding of the knowledge necessary to carry out activities in and around medical and nursing care field.

The lecture will be structured around discussions by the participants based on the issues presented in the lecture.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 医療経済学とは
3. 医療制度の概要と医療・介護制度改革の方針
4. 医療における需要と供給
5. 医療・介護サービスの経済的特性とその影響
6. 「医療の質」の本質と評価方法の変遷
7. 医療における情報化と情報開示の在り方
8. 医療の情報化と医療・介護連携　−地域包括ケアシステムに向けて−
9. 医療の効率化をめぐる議論−行動経済学視点での分析−
10. 医療における価格(医療費)を決定する因子
11. 医療とイノベーションの在り方
12. 医療・介護周辺領域でのビジネスチャンス
13. 期末プレゼンテーション(1)

14. 期末プレゼンテーション(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業中への参加姿勢(40%)/授業における発言の頻度とその内容(40%)/期末プレゼンテーション(20%)

テキスト(Textbooks)

特に定めない。授業にて随時紹介する。

参考文献(Readings)

授業にて随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

医療経営学概論と併せての履修が望ましい

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH212／医療経営学概論 (Management of Health Care)		
担当者名 (Instructor)	八木　麻衣子(YAGI MAIKO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

医療機関や介護施設における組織運営について経営学的な幅広い視点で理解する

The aim of this lecture is to understand the organizational management in medical institutions and nursing homes from a wide managerial perspective.

授業の内容(Course Contents)

医療機関や介護施設は、数年ごとにもたらされる診療報酬制度の改訂という外部環境の急激な変化に対し、そのつどビジョンや戦略の変更を余儀なくされる状況に置かれている。また、多くの高度専門職種を抱えるがゆえ、個人のキャリア形成と組織のガバナンスをどのように両立させるかなど、その運営に困難さを抱えている。

一方で、これまでの医療機関においては、医療の特殊性を大義名分とし、組織的問題に対する取り組みが十分に行われてこなかったことも否定できない。医療の品質管理をはじめとして、一般企業における取り組みが応用できる場面は多いと考えられるが、そのような取り組みも十分とは言えない状況が存在する。また、今後は病院のみならずクリニック・介護施設を含めたケアミックス型運営も増加することが予想され、各施設における運営の要点を抑える必要性も増している。

そこで本講義では、医療経済学概論で整理した医療・介護サービス産業のマクロ的背景や covid-19 による急激な外部環境に変化を踏まえ、医療・介護領域の組織運営に関連した事象について、ミクロ的な視点の整理をもとに理解を深め、戦略に基づいた医療機関や介護施設における組織運営について考察する。

なお、本講義は問題提起のための材料を講義にて提示し、それをもとにした参加者によるディスカッションを中心とした構成とする。医療・介護領域の組織運営者や医療者のみならず、幅広い分野からの参加者とともに、現在の医療現場における問題を探り解決の一端を見出す場としたい。

Medical institutions and nursing care facilities are forced to change their vision and strategies in responses to rapid changes in the external environment, such as the revision of universal health care fee in every few years. In addition, because of the large number of professional providers, there are difficulties in managing both individual career development and organizational governance.

On the other hand, medical institutions have not sufficiently addressed organizational problems in the name of the special nature of medicine. Despite the fact that there are many things done in general business to apply to quality management in healthcare, it is not sufficient in medical institution.

In this lecture, we will discuss strategy-based organizational management in the medical care field.

The lecture will be structured around discussions by the participants based on the issues presented in the lecture.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 医療・介護施設の概要
3. 医療機関・介護施設のステークホルダーととるべき戦略
4. 医療機関・介護施設の資金調達
5. 医療機関の非営利性と株式会社化の是非
6. 医療機関の財務状況開示の必要性
7. 医療機関・介護施設における人材マネジメント
8. 医療機関・介護施設における組織マネジメント
9. 医療機関におけるクリニカルガバナンス
10. 地域医療におけるクリニカルガバナンス
11. 医療機関と医療安全とその経済性
12. 医療・介護の品質管理と第三者評価
13. 期末プレゼンテーション(1)
14. 期末プレゼンテーション(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業への参加姿勢(40%)/授業における発言の頻度とその内容(40%)/期末プレゼンテーション(20%)

テキスト（Textbooks）

特に定めない。授業にて随時紹介する。

参考文献（Readings）

授業にて随時紹介する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

医療経済学概論と併せての履修が望ましい。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH501／会計学基礎OD (Accounting (OD))		
担当者名 (Instructor)	青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業における会計の役割と商取引の計算構造を学ぶ

The role of accounting in corporations and the calculation structure of commercial transactions are studied

授業の内容(Course Contents)

企業は理念やビジョンに基づいて経営計画を策定し，他社との交換取引を行う。取引内容は貨幣単位で記録され，蓄積される。企業は一定期間が経過した時点で，蓄積された取引内容を財務諸表にまとめる。すなわち，財務諸表は一定期間における企業活動の成果を示す表であり，経営者の声でもある。

本講義では，企業経営の成果がまとめられた財務諸表を題材とし，その構造と作成プロセスの理解を目標としている。

The corporation decides the management plan based on an idea and vision, and performs exchange trade with other companies. The transaction contents are recorded and accumulated in the currency unit. When a certain period of time has passed, corporations arrange the contents of accumulated transactions into financial statements. That is, the financial statement is a table which shows the result of business activity in a fixed period, and it is also the voice of the manager.

In this lecture, the goal is to focus on financial statements that have been compiled from the results of corporate management and to understand its structure and process of creation.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 意思決定と会計情報
3. ディスクロージャー制度
4. 貸借対照表
5. 損益計算書
6. キャッシュ・フロー計算書と資金繰り表
7. 簿記一巡の流れと財務諸表
8. 取引の仕訳
9. 総勘定元帳と試算表
10. 決算処理と財務諸表
11. 減価償却計算
12. 引当金の計上
13. 資本金と剰余金
14. 授業のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

この授業は，全ての回をオンデマンド配信で行う。
詳しい配信日時は，初回配信の資料で通知する。
初回配信日時および資料の配信方法は Blackboard の「お知らせ」に掲示する。
計算方法をマスターするために，授業後には復習を行い，課題を提出すること。
課題には提出期間が設けられているので，注意すること。
次回の講義までに準備しておくことは，講義内で説明する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

講義内で指示する課題(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 内藤文雄、2022、『会計学エッセンス　第5版』、中央経済社
2. 並木秀明、2019、『日商簿記3級をゆっくりていねいに学ぶ本　第2版』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-30101-8)

参考文献(Readings)

1. 中井透・諏訪吉彦・石光裕、2021、『はじめて学ぶ会計・ファイナンス』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-38161-6)
他の入門書や専門書については，必要に応じて講義内で指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本講義は会計学の初心者を対象として，オンデマンド形式で開講する。
授業動画は毎週定期的に配信するので，受講者は自己の都合に合わせて時間を作り，受講すること。
難解と思われるところは動画を停止して考えたり，再生を繰り返すなどして理解度を深めること。
なお，授業動画内で課題を出題する。課題には提出期間が設けられている。期間内に提出された課題評価点の合計が，本科目の成績評価となる。課題が未提出にならないよう，各自で授業の受講計画を立てること。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH506／会計学基礎OD (Accounting (OD))		
担当者名 (Instructor)	青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業における会計の役割と商取引の計算構造を学ぶ

The role of accounting in corporations and the calculation structure of commercial transactions are studied

授業の内容(Course Contents)

企業は理念やビジョンに基づいて経営計画を策定し，他社との交換取引を行う。取引内容は貨幣単位で記録され，蓄積される。企業は一定期間が経過した時点で，蓄積された取引内容を財務諸表にまとめる。すなわち，財務諸表は一定期間における企業活動の成果を示す表であり，経営者の声でもある。

本講義では，企業経営の成果がまとめられた財務諸表を題材とし，その構造と作成プロセスの理解を目標としている。

The corporation decides the management plan based on an idea and vision, and performs exchange trade with other companies. The transaction contents are recorded and accumulated in the currency unit. When a certain period of time has passed, corporations arrange the contents of accumulated transactions into financial statements. That is, the financial statement is a table which shows the result of business activity in a fixed period, and it is also the voice of the manager.

In this lecture, the goal is to focus on financial statements that have been compiled from the results of corporate management and to understand its structure and process of creation.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 意思決定と会計情報
3. ディスクロージャー制度
4. 貸借対照表
5. 損益計算書
6. キャッシュ・フロー計算書と資金繰り表
7. 簿記一巡の流れと財務諸表
8. 取引の仕訳
9. 総勘定元帳と試算表
10. 決算処理と財務諸表
11. 減価償却計算
12. 引当金の計上
13. 資本金と剰余金
14. 授業のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

この授業は，全ての回をオンデマンド配信で行う。
詳しい配信日時は，初回配信の資料で通知する。
初回配信日時および資料の配信方法は Blackboard の「お知らせ」に掲示する。
計算方法をマスターするために，授業後には復習を行い，課題を提出すること。
課題には提出期間が設けられているので，注意すること。
次回の講義までに準備しておくことは，講義内で説明する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

講義内で指示する課題(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 内藤文雄、2022、『会計学エッセンス　第5版』、中央経済社
2. 並木秀明、2019、『日商簿記3級をゆっくりていねいに学ぶ本　第2版』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-30101-8)

参考文献(Readings)

1. 中井透・諏訪吉彦・石光裕、2021、『はじめて学ぶ会計・ファイナンス』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-38161-6)
他の入門書や専門書については，必要に応じて講義内で指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本講義は会計学の初心者を対象として，オンデマンド形式で開講する。
授業動画は毎週定期的に配信するので，受講者は自己の都合に合わせて時間を作り，受講すること。
難解と思われるところは動画を停止して考えたり，再生を繰り返すなどして理解度を深めること。
なお，授業動画内で課題を出題する。課題には提出期間が設けられている。期間内に提出された課題評価点の合計が，本科目の成績評価となる。課題が未提出にならないよう，各自で授業の受講計画を立てること。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH511／原価計算基礎OD (Cost Accounting (OD))		
担当者名 (Instructor)	青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

製品の製造費用の計算方法について学ぶ。

How to calculate the cost of manufacturing a product is studied.

授業の内容(Course Contents)

製造業は，原材料や製造に携わる工員など，有形・無形の資源を結合させて製品を生産し，その販売を通じて社会の富の形成に貢献している。製品販売時にはその対価を受け取ることになるが，果たしてその対価はいくらに設定すればよいだろうか。

製品を生産するためにかかる費用は製造原価と呼ばれ，それは販売価格の決定に有用な情報として利用される。本講義では，製造原価の計算方法の基本的な構造について理解することを目標にしている。

また、標準原価計算や直接原価計算を取り上げ，コストマネジメントの基本を学ぶ。

The manufacturing industry produces products by combining tangible and intangible resources such as raw materials and workers that are involved in manufacturing, and through those sales have contributed to the formation of the wealth of society. When selling a product, you will receive compensation, but how much should the compensation be set at?

The cost for producing the product is called the manufacturing cost, and it is utilized as useful information for deciding the selling price. In this lecture, the goal is to understand the basic structure of the manufacturing cost calculation method.

Also, standard cost accounting and direct cost accounting are taken up, and the basics of cost management are studied.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 原価計算の基礎
3. 原価の分類(1)
4. 原価の分類(2)
5. 実際原価計算(1)
6. 実際原価計算(2)
7. 標準原価計算(1)
8. 標準原価計算(2)
9. 直接原価計算(1)
10. 直接原価計算(2)
11. 活動基準原価計算(1)
12. 活動基準原価計算(2)
13. 意思決定会計(1)
14. 意思決定会計(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

この授業は，全ての回をオンデマンド配信で行う。
詳しい配信日時は，初回配信の資料で通知する。
初回配信日時および資料の配信方法は Blackboard の「お知らせ」に掲示する。
計算方法をマスターするために，授業後には復習を行い，課題を提出すること。
課題には提出期間が設けられているので，注意すること。
次回の講義までに準備しておくことは，講義内で説明する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

講義内で指示する課題(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 久保豊子、2011、『図解でわかる原価計算　いちばん最初に読む本』、アニモ出版 (978-4-89795)

参考文献(Readings)

1. 小川正樹、2008、『絵でみる原価計算のしくみ』、日本能率協会マネジメントセンター (ISBN:978-4-8207-4493-1)
他の入門書や専門書については，必要に応じて講義内で指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本講義は原価計算の初心者を対象として，オンデマンド形式で開講する。
授業動画は毎週定期的に配信するので，受講者は自己の都合に合わせて時間を作り，受講すること。
難解と思われるところは動画を停止して考えたり，再生を繰り返すなどして理解度を深めること。
なお，授業動画内で課題を出題する。課題には提出期間が設けられている。期間内に提出された課題評価点の合計が，本科目の成績評価となる。課題が未提出にならないよう，各自で授業の受講計画を立てること。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH516／原価計算基礎OD (Cost Accounting (OD))		
担当者名 (Instructor)	青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

製品の製造費用の計算方法について学ぶ。

How to calculate the cost of manufacturing a product is studied.

授業の内容(Course Contents)

製造業は，原材料や製造に携わる工員など，有形・無形の資源を結合させて製品を生産し，その販売を通じて社会の富の形成に貢献している。製品販売時にはその対価を受け取ることになるが，果たしてその対価はいくらに設定すればよいだろうか。

製品を生産するためにかかる費用は製造原価と呼ばれ，それは販売価格の決定に有用な情報として利用される。本講義では，製造原価の計算方法の基本的な構造について理解することを目標にしている。

また、標準原価計算や直接原価計算を取り上げ，コストマネジメントの基本を学ぶ。

The manufacturing industry produces products by combining tangible and intangible resources such as raw materials and workers that are involved in manufacturing, and through those sales have contributed to the formation of the wealth of society. When selling a product, you will receive compensation, but how much should the compensation be set at?

The cost for producing the product is called the manufacturing cost, and it is utilized as useful information for deciding the selling price. In this lecture, the goal is to understand the basic structure of the manufacturing cost calculation method.

Also, standard cost accounting and direct cost accounting are taken up, and the basics of cost management are studied.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 原価計算の基礎
3. 原価の分類(1)
4. 原価の分類(2)
5. 実際原価計算(1)
6. 実際原価計算(2)
7. 標準原価計算(1)
8. 標準原価計算(2)
9. 直接原価計算(1)
10. 直接原価計算(2)
11. 活動基準原価計算(1)
12. 活動基準原価計算(2)
13. 意思決定会計(1)
14. 意思決定会計(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

この授業は，全ての回をオンデマンド配信で行う。
詳しい配信日時は，初回配信の資料で通知する。
初回配信日時および資料の配信方法は Blackboard の「お知らせ」に掲示する。
計算方法をマスターするために，授業後には復習を行い，課題を提出すること。
課題には提出期間が設けられているので，注意すること。
次回の講義までに準備しておくことは，講義内で説明する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

講義内で指示する課題(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 久保豊子、2011、『図解でわかる原価計算　いちばん最初に読む本』、アニモ出版 (978-4-89795)

参考文献(Readings)

1. 小川正樹、2008、『絵でみる原価計算のしくみ』、日本能率協会マネジメントセンター (ISBN:978-4-8207-4493-1)
他の入門書や専門書については，必要に応じて講義内で指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本講義は原価計算の初心者を対象として，オンデマンド形式で開講する。
授業動画は毎週定期的に配信するので，受講者は自己の都合に合わせて時間を作り，受講すること。
難解と思われるところは動画を停止して考えたり，再生を繰り返すなどして理解度を深めること。
なお，授業動画内で課題を出題する。課題には提出期間が設けられている。期間内に提出された課題評価点の合計が，本科目の成績評価となる。課題が未提出にならないよう，各自で授業の受講計画を立てること。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH521／企業財務基礎OD (Introduction to Corporate Finance (OD))		
担当者名 (Instructor)	下川　智広(SHIMOKAWA TOMOHIRO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この講義では、実務でファイナンス業務を専門としたことのない管理者向けに、世界標準レベルのファイナンス理論について理解することを目標にしています。この講義で学ぶファイナンス理論は、他の全ての経営学に関連する選択科目の基礎を形成するものとなります。

If you want to advance in your career, you'll need to make smart financial decisions and develop the confidence to clearly communicate those decisions to others. This program offers invaluable learning opportunities for non-financial managers, regardless of how much industry experience they may have. The course curriculum provides fundamental concepts of the global standard in finance theory. The concepts developed in introduction to finance theory form the foundation for all elective courses.

授業の内容(Course Contents)

この講義では、意思決定を目的としたファイナンス理論の基本的な概念とツールを学びます。
ファイナンス理論における基礎的論点である、①投資決定論(どのような投資をするべきか)、②資金調達論(どこから資金を調達するか)、③利益還元論(利益をどのように還元するか)、さらに④コーポレートガバナンスと、⑤行動ファイナンスについて講義する。

This course reviews the basic concepts and tools of finance for the purpose of decision making.
The main topics include: 1) the time value of money and uncertainty and models of risk and return; 2) investment decision-making, portfolio management and capital asset pricing model; 3) optimal capital structure; 4) dividend policy decisions; 5) corporate governance; 6) behavioral finance.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション ： ファイナンス理論の体系
2. 1. リスクとリターン ： 時間価値と不確実性
3. 2. 投資決定論
4. 2-1. NPV と IRR
5. 2-2. ポートフォリオ理論
6. 2-3. 市場の均衡価格(CAPM)
7. 2-4. デリバティブ (先渡・先物・スワップ・オプション)
8. 3. 資金調達論
9. 3-1. 加重平均資本コスト(WACC)
10. 3-2. 最適資本構成
11. 4. 利益還元論
12. 4-1. 配当(ペイアウト)政策
13. 5. コーポレートガバナンス
14. 6. 行動ファイナンス

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の課題は講義内で説明します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業の進行に応じた課題(60%)/最終テスト(Final Test)(40%)

テキスト(Textbooks)

テキストは教育支援システム Blackboard 又は立教時間を通じて配布します。

参考文献(Readings)

参考文献は適時指示します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本講義は、オンデマンド形式となるので、受講生各位の好きな時間に何度でも視聴可能です。
一般的にファイナンスは単なる数字や計算であるといった誤解の多い領域ですが、マネジメントの視点に基づく世界中のどこでも通用する標準的ファイナンス理論を誤解なく理解することが重要です。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH526／企業財務基礎OD (Introduction to Corporate Finance (OD))		
担当者名 (Instructor)	下川　智広(SHIMOKAWA TOMOHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この講義では、実務でファイナンス業務を専門としたことのない管理者向けに、世界標準レベルのファイナンス理論について理解することを目標にしています。この講義で学ぶファイナンス理論は、他の全ての経営学に関連する選択科目の基礎を形成するものとなります。

If you want to advance in your career, you'll need to make smart financial decisions and develop the confidence to clearly communicate those decisions to others. This program offers invaluable learning opportunities for non-financial managers, regardless of how much industry experience they may have. The course curriculum provides fundamental concepts of the global standard in finance theory. The concepts developed in introduction to finance theory form the foundation for all elective courses.

授業の内容(Course Contents)

この講義では、意思決定を目的としたファイナンス理論の基本的な概念とツールを学びます。
ファイナンス理論における基礎的論点である、①投資決定論(どのような投資をするべきか)、②資金調達論(どこから資金を調達するか)、③利益還元論(利益をどのように還元するか)、さらに④コーポレートガバナンスと、⑤行動ファイナンスについて講義する。

This course reviews the basic concepts and tools of finance for the purpose of decision making.
The main topics include: 1) the time value of money and uncertainty and models of risk and return; 2) investment decision-making, portfolio management and capital asset pricing model; 3) optimal capital structure; 4) dividend policy decisions; 5) corporate governance; 6) behavioral finance.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション ： ファイナンス理論の体系
2. 1. リスクとリターン ： 時間価値と不確実性
3. 2. 投資決定論
4. 2-1. NPV と IRR
5. 2-2. ポートフォリオ理論
6. 2-3. 市場の均衡価格(CAPM)
7. 2-4. デリバティブ (先渡・先物・スワップ・オプション)
8. 3. 資金調達論
9. 3-1. 加重平均資本コスト(WACC)
10. 3-2. 最適資本構成
11. 4. 利益還元論
12. 4-1. 配当(ペイアウト)政策
13. 5. コーポレートガバナンス
14. 6. 行動ファイナンス

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の課題は講義内で説明します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業の進行に応じた課題(60%)/最終テスト(Final Test)(40%)

テキスト(Textbooks)

テキストは教育支援システム Blackboard 又は立教時間を通じて配布します。

参考文献(Readings)

参考文献は適時指示します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本講義は、オンデマンド形式となるので、受講生各位の好きな時間に何度でも視聴可能です。
一般的にファイナンスは単なる数字や計算であるといった誤解の多い領域ですが、マネジメントの視点に基づく世界中のどこでも通用する標準的ファイナンス理論を誤解なく理解することが重要です。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH531／統計学基礎OD (Statistics (OD))		
担当者名 (Instructor)	竹内　淨(TAKEUCHI JO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5800	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義の目的は、確率論と統計学の基礎知識を習得することである。統計学の実用的な利用方法はより上位の科目に任せ、本講義の内容は基本的なものに限定することとする。既に十分な知識がある者は上位科目を履修することを勧める。

The purpose of this course is to acquire the standard knowledge of probability theory and statistics. As this course includes elementary contents, we recommend that students who already have sufficient knowledge take higher-level courses.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、テキストに沿って、確率、データの整理、確率の分布、推定と検定を学ぶ。相関係数、回帰直線、正規分布、統計的推測、仮説検定など、各種の資料でよく目にする用語について、改めてその意味を確認し、深く理解する。

In this course, we learn probabilities, data organization, probability distributions, statistical estimations and testing along the textbook shown below. Students will confirm and deeply understand the meanings of statistical terms commonly found in various documents, such as correlation coefficients, regression lines, normal distributions, statistical inferences, and hypothesis testing.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 確率とその基本性質
3. いろいろな確率の計算①(独立試行、反復試行)
4. いろいろな確率の計算②(条件付き確率)
5. 1次元のデータ①(代表値)
6. 1次元のデータ②(分散と標準偏差)
7. 2次元のデータ(相関関係)
8. 確率分布①(確率変数と確率分布)
9. 確率分布②(二項分布)
10. 確率分布③(正規分布)
11. 母集団と標本
12. 統計的推測
13. 仮説の検定
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・授業計画に示したテーマについてテキストの該当範囲を精読すること。
・毎回の講義内容を再確認すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内課題(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 岡本和夫、2021、『新版確率統計改訂版』、実教出版 (ISBN:978-4-407-34946-7)

参考文献(Readings)

1. 東京大学教養学部統計学教室　編、1991、『統計学入門』、東京大学出版会 (ISBN:978-4-13-042065-5)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

・授業期間の毎週月曜日 9 時 00 分に配信する。
・テキスト関連データについて、出版社の web サイト(https://www.jikkyo.co.jp/download/)で『新版確率統計改訂版』を検索すると、『問題の解説』がダウンロードできるが、解答は正しいものの、解説に誤記が多いため注意が必要である。できる限り、講義内で伝える予定である。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH536／統計学基礎OD (Statistics (OD))		
担当者名 (Instructor)	竹内　淨(TAKEUCHI JO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5800	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義の目的は、確率論と統計学の基礎知識を習得することである。統計学の実用的な利用方法はより上位の科目に任せ、本講義の内容は基本的なものに限定することとする。既に十分な知識がある者は上位科目を履修することを勧める。

The purpose of this course is to acquire the standard knowledge of probability theory and statistics. As this course includes elementary contents, we recommend that students who already have sufficient knowledge take higher-level courses.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、テキストに沿って、確率、データの整理、確率の分布、推定と検定を学ぶ。相関係数、回帰直線、正規分布、統計的推測、仮説検定など、各種の資料でよく目にする用語について、改めてその意味を確認し、深く理解する。

In this course, we learn probabilities, data organization, probability distributions, statistical estimations and testing along the textbook shown below. Students will confirm and deeply understand the meanings of statistical terms commonly found in various documents, such as correlation coefficients, regression lines, normal distributions, statistical inferences, and hypothesis testing.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 確率とその基本性質
3. いろいろな確率の計算①(独立試行、反復試行)
4. いろいろな確率の計算②(条件付き確率)
5. 1次元のデータ①(代表値)
6. 1次元のデータ②(分散と標準偏差)
7. 2次元のデータ(相関関係)
8. 確率分布①(確率変数と確率分布)
9. 確率分布②(二項分布)
10. 確率分布③(正規分布)
11. 母集団と標本
12. 統計的推測
13. 仮説の検定
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・授業計画に示したテーマについてテキストの該当範囲を精読すること。
・毎回の講義内容を再確認すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内課題(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 岡本和夫、2021、『新版確率統計改訂版』、実教出版 (ISBN:978-4-407-34946-7)

参考文献(Readings)

1. 東京大学教養学部統計学教室　編、1991、『統計学入門』、東京大学出版会 (ISBN:978-4-13-042065-5)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

・授業期間の毎週月曜日 9 時 00 分に配信する。
・テキスト関連データについて、出版社の web サイト(https://www.jikkyo.co.jp/download/)で『新版確率統計改訂版』を検索すると、『問題の解説』がダウンロードできるが、解答は正しいものの、解説に誤記が多いため注意が必要である。できる限り、講義内で伝える予定である。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH836／観光地域経済論1 (Regional Economics for Tourism 1)		
担当者名 (Instructor)	高柳　寛樹(TAKAYANAGI HIROKI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

国内及び海外における観光地がどのように「IT 前提経営®」を実践して顧客を呼び込み、顧客満足と地域全体の収益拡大を図っているかを「働き方」や「余暇」の分析なども行いながらこれからの観光地域産業がどのように変革すべきかを個別具体的に明らかにしていく。

We will clarify specifically how tourist spots in Japan and overseas practice "Tech Driven Management ®" to attract customers and how to expand customer satisfaction and profit in the region, by analyzing "work style", etc.

授業の内容(Course Contents)

「IT 前提経営®」の提唱者である情報社会学者(多拠点生活実践者)の担当者自からが地方地域のリゾート産業における IT 実践による顧客獲得の実態とその格差に隠れる事実の分析を行いながら、成熟したリゾート経営に必要な次の変革について学生諸氏と共に議論を重ねる講義である。キーワードとして「リゾートインフラ整備(ハードとソフト)」「既存リソースの活用」「IT 前提経営®の実践による顧客獲得と顧客満足」「マスマーケティングからデジタルマーケティングへの展開」「高度なモビリティの実践」「富裕層の行動原理」「働き方と余暇認識」「人材不足と RPA」「AI×IoT×ビックデータ」「intangible assets の活用」「遊休資産の活用」「スポーツ・学校と観光地域産業」などがあげられる。大学院講義のため講義形式よりはディスカッションを基本としたい。高い向学心をお持ちであれば予備知識は不要である。

This is a lecture in which the info-sociologist person in charge, who is an advocate of "Tech Driven Management ®", discusses with students the next change necessary for mature resort management, while analyzing the situation of customer acquisition through IT practice in the resort industry in the local area and the facts that are hidden in the gaps. Some keywords are "resort infrastructure development (hard and soft", "existing resources", "customer acquisition and customer satisfaction by the practice of Tech Driven Management ®", "from mass marketing to digital marketing", "advanced mobility practices", "the principle of the wealthy", "working style and leisure awareness", "talent shortage and RPA", "AI x IoT x big data", etc. For graduate school lectures, students who do not have an active sense of participation should avoid taking the course because it is based on a discussion basis rather than the traditional lecture format. If you have a high sense of direction, no prior knowledge is required. Attending lectures via telelecture is encouraged for those who have to be absent from class due to distance.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクションと自己紹介(履修者の問題意識の共有とお互いの紹介)
2. 教科書輪読などによる最低限のコンセンサス作り
3. 「働き方」と「余暇」または「消費」と「余暇」の国際的な考え方の違いについての議論(「顧客は誰なのか」を明確にするために)
4. 海外事例分析(1)(2)
5. 国内事例分析(1)(2)
6. 「IT 前提経営®」の基礎と「観光地域経済」への展開について
7. 観光地域経済への実践的「IT 前提経営®」の導入について
8. 「TECH リテラシー」の有無とリゾート経営の成否について(「リゾート TECH」の可能性に挑む)
9. ゲストスピーカーA(未定)の招聘による講義内講演と議論
10. マスマーケティングからデジタルマーケティングへの展開(ゲストスピーカーB と共に)
11. 「IT 前提経営®」時代に「観光地域経済」は成り立ち得るのか
12. 実践的「観光地域経済論」の議論(1)
13. 実践的「観光地域経済論」の議論(2)
14. 実践的「観光地域経済論」の議論(3)と総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

当然ながら日々の議論による鍛錬を要し、レポート執筆や発表準備などがあることを想定頂きたい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(20%)/その他のレポート(20%)/議論参加度(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 高柳寛樹、2022、『続・まったく新しい働き方の実践～なぜ働き方は自由にならないのか。DX(Digital Transformation)未完了社会の病理～』、ハーベスト社 (ISBN:978-4-86339-114-7)
2. 高柳寛樹、2020、『「IT 前提経営」が組織を変える～ デジタルネイティブと共に働く』、近代科学社 digital (ISBN:978-4-7649-6008-4)
3. 高柳寛樹、2017、『まったく新しい働き方の実践～「IT 前提経営」による「地方創生」～』、ハーベスト社 (ISBN:978-4-86339-086-7)

参考文献(Readings)

1. ジョン・アーリ、2015、『モビリティーズ―移動の社会学』、作品社

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

担当者のオフィシャルページ及びプロフィール
https://hiroki.st/

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH871／都市マネジメント1 (Urban Management design 1)		
担当者名 (Instructor)	福井　康子(FUKUI YASUKO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

都市の成長メカニズムと衰退の原因を経済的・社会的に把握する。
都市マネジメント1では、サステナブルシティ・コンパクトシティやクリエイティブシティなど現代的な都市のあり方の議論をもとに、都市の発展の本質にアプローチする。

In Urban Management 1, we will approach the essence of urban development based on discussions of contemporary urbanism such as sustainable cities, compact cities and creative cities.

授業の内容(Course Contents)

都市マネジメント1と2は独立しているので、一方のみを履修することも可能である。
1 の前半では、サステナブルシティ・コンパクトシティの成功都市として世界的に著名なポートランドを取り上げ、多面的に分析し、その発展の本質をさぐる。後半は、「クリエイティブ・クラス論」で名高いリチャードフロリダを取り上げ、キーワードを中心に、その思想の根幹に迫る。

Since Urban Management 1 and 2 are independent, it is possible to take only one of them.
In the first half of the first course, we will take up Portland, a world-famous successful sustainable city and compact city, and analyze it from many aspects to find out the essence of its development. In the second half of the course, we will focus on Richard Florida, who is famous for his "creative class theory," and we will get to the root of his ideas, focusing on key words.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション: 自己紹介、授業の進め方、輪読割当、興味の視点の確認など
2. なぜポートランドが注目されるのか
   徒歩 20 分圏内のコミュニティをデザインする
3. 40 年かけてつくられたコンパクトシティ
   草の根の参加を支えるネイバーフッド
4. ポートランド市開発局による再生
   クリエイティブビジネスの生態系
5. 都市のサステナビリティと公共交通の関係
   サステナビリティ評価指標についえ
6. リチャード・フロリダのクリエイティブ都市論について(イントロ)
   リチャード・フロリダとジェイン・ジェイコブス
7. 1章 住む場所の選択
   2章 スパイキーな世界　才能の集まる地域
8. メガ地域の台頭　新しい経済単位
   集積の力
9. 移動組と定着組
   才能の集まる場所
10. ジョブシフト
    スーパースター都市
11. 人々の欲求を満たす場所
    都市の性格心理学
12. 都市とクリエイティブ・クラス
13. 才能の時代の競争
    ボヘミアンの経済地理学
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業の予習は必須でありその準備が必要である。また、輪読担当者は発表準備も必要となる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

クラス内の発表内容(40%)/授業への貢献度(30%)/中間レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 山崎満広、2016、『ポートランド』、学芸出版社
2. リチャード・フロリダ、2009、『クリエイティブ都市論』、ダイヤモンド社
3. リチャード・フロリダ、2010、『クリエイティブ都市経済論』、日本評論社

参考文献(Readings)

1. BRIDGE LAB、2014、『True Portland 創造都市ポートランドガイド』、BRIDGE LAB
2. ジェイン・ジェイコブス、2012、『発展する地域・衰退する地域』、ちくま学芸文庫

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH873／都市マネジメント2 (Urban Management design 2)		
担当者名 (Instructor)	福井　康子(FUKUI YASUKO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

世界で成功している都市づくりの例としてドバイとシンガポールを取り上げ、成長プロセスや成功要因やを分析する。両者の違いや共通点に迫る。

We will take up Dubai and Singapore as examples of successful urban development in the world, and analyze their growth processes and success factors. We also look at the differences and similarities between the two.

授業の内容(Course Contents)

都市マネジメントの1と2は独立しているので、一方のみの履修も可能である。都市成長の成功例として名高い中東のドバイと東南アジアのシンガポールを取り上げ、それぞれの成長のプロセスや背景、政策関与、成功の要因を分析する。また、共通の特徴を、相違点と共通点にフォーカスして議論する。
また、受講者の興味関心のテーマによってはその題材への移行もありうる。例えば、日本の都市政策や、観光、地方創生、シェアリングなどが候補として考えられよう。

Since Urban Management 1 and 2 are independent, it is possible to take only one of them.
Taking up Dubai in the Middle East and Singapore in Southeast Asia, both renowned examples of successful urban growth, we will analyze their respective growth processes, backgrounds, policy involvement, and success factors. Common features will also be discussed, focusing on the differences and similarities. There may also be a shift to that subject matter depending on the topic of interest to the students.For example, Japan's urban policies, tourism, regional development, and sharing could be considered as candidates for the topics.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロ:自己紹介、各々の興味対象・範囲の確定・輪読担当者など
2. UAE を知る
3. ドバイの成り立ち
   ドバイをリードしてきた賢人リーダーたち
4. 国づくりは産業インフラから
   世界の企業をよびこむフリーゾーン(特区)
5. 人をエキサイトする仕掛け
   高度情報化都市ドバイ
6. ドバイを支える人材/ 異文化共生圏ドバイ
   ドバイモデルとは
7. シンガポールの成功とは
8. シンガポール成長を歴史からみる
   リー・クァンユーとシンガポール成長
9. シンガポールの成長戦略
10. マリーナ・ベイサンズ地区開発
11. ドバイとシンガポールの共通の特徴
12. 日本の都市政策の経緯と背景、都市課題
13. 日本の都市成長の成功例、現代的トピックスの理解
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストの輪読、プレゼンなどを毎回課す予定であるため、週に 2 時間前後の予習時間が必要と考える。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への参加・貢献(40%)/中間発表(30%)/最終プレゼン(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 峯山政宏、2014、『なぜ？シンガポールは成功し続けることができるのか』、彩図社

2. 佐野陽子、2009、『ドバイのまちづくり』、慶應義塾大学出版会

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH885／観光地マネジメント1（イノベーション） (Tourist Site Management 1)		
担当者名 (Instructor)	沢登　次彦(SAWANOBORI TSUGUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

観光は国の基幹産業、地方の成長産業になりえるのかを様々な角度で検証します。日本全国の地域は、高齢化、生産年齢減少、少子化と課題は山積。そこにコロナ過が加わっています。この授業では、未来に向けて、観光により地域経済が発展する方策を、数多く身に付け、地域の観光リーダーとしてマネジメントする能力を身に付けます。また、地方のエリア戦略のあり方を身に付け、「地域プロデューサー、地方創生実現プロデューサー」として、地域を牽引する実践的な視座と能力を習得します。

We will examine at various angles whether tourism can become a basic industry of the country, and an industry of growth for the local areas. In the regions of Japan, there are many issues such as an aging population, a declining production age, and a low birth rate. Therefore, we will acquire a large number of measures for the development of the local economy through tourism, which will also lead to the ability to manage as a regional tourism leader. As a ″regional producer, regional revitalization producer″, we will master a practical perspective and ability to lead the region.

授業の内容(Course Contents)

観光マネジメント1，2は両方受講をお願いいたします。
研究・調査・事例を基にした実践的な講義とその講義内容を基にした討議で、課題の真因を探り，解決策を導きます。また、実際の地域のエリア戦略を個人ワーク、グループワークで立案します。地域の活躍者からの情報提供、現地視察も予定。マネジメント2の最後に発表と講評をいらいます。

観光地及び地域は如何に観光力・地域力でよみがえらせるか。その実践的な力が身につく授業です。消費者は既存の旅行に飽きが生じ，観光地，観光地していない地域にも目を向け始めています。そこをマッチングできる人が，地域には必要です。地域にIターン，Uターンして，地域活性の仕事をしたいと思っている方，観光産業の中で，地域を支援したいと思っている方必見です。この授業では，リクルートの旅行部門の研究所である，「じゃらんリサーチセンター」の実践的研究・アプローチを題材として，より地域には，何が必要か，磨きあげを行っていきます。情報提供セッションと対話で展開していきます。共に学び，共に地域を元気にしていきましょう！

Please take both Tourist Site Management 1 and 2.
We will perform practical lectures based on research, investigation, and case studies, and discussions based on the contents of the lectures to explore the root cause of the problems, and acquire solutions through actual regional cases. We also plan to provide information for our guests and lecturers.
How can tourism and regional power revive tourist destinations and regions? This is a class where you can learn those practical skills. Consumers are getting bored of current travel destination, and they are beginning to look at tourist spots and areas that are not famous tourist spots. A person who can match that is necessary in the local area. It is a must take for those who want to do regional activity work through I-turn, U-turn in the region, and those who want to support the region through the tourism industry. In this class, we will polish what is necessary for the region, and use the practical research and approaches of the ″Jalan Research Center″, which is a research institute of the travel department of Recruit. We will continue to move forward through informational sessions and dialogues. Learn and revitalize local areas together!

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
   観光マーケティング授業について、期待値、課題感共有
   (1)国内観光動向の最新実態
   (2)生活環境，余暇の多様化による旅行の競合は？
2. 観光の実態把握　現状また 2030 年未来を学ぶ
   (1)観光を取り巻く背景、日本人の国内旅行の実態、カスタマーの実態など
3. 地域の課題と可能性、解決するために必要な戦略とは?、
   (1)講義　(2)討議
4. 地域の課題と可能性、解決するために必要な戦略とは?、
   (1)講義　(2)討議
5. 事例地域からの事前情報提供
   (1)講義　(2)討議

6. 事例地域からの事前情報提供
   (1)講義　(2)討議
7. 地域経営(マネジメント)を学ぶ
   (1)研究講義(気仙沼事例など)　(2)討議
8. 事例地域の戦略立案
   (1)個人ワーク、グループワーク
9. 実際の地域を視察する
   (1)視察　(2)討議
10. 実際の地域を視察する
   (1)視察　(2)討議
11. 事例地域の戦略立案
   (1)個人ワーク、グループワーク
12. 事例地域の戦略立案
   (1)個人ワーク、グループワーク
13. 発表(中間)
14. 発表(中間)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

地域を観光で元気にしたい！その想いを持って臨んでください。
ある地域を題材にして、実践型で学んでいきます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業での発言、質問、取り組み姿勢など(100%)

テキスト(Textbooks)

じゃらんリサーチセンターの研究冊子、各種調査レポートを適宜、配布します。

参考文献(Readings)

じゃらんリサーチセンターの研究冊子、各種調査レポートを適宜、配布します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

【系統的履修】
観光地マネジメント2(ネットワーク)も必ず履修してください。

【双方向による授業割合】
8 割以上(ほぼ毎回対話形式を取り入れてます)

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH887／観光地マネジメント2（ネットワーク） (Tourist Site Management 2)		
担当者名 (Instructor)	沢登　次彦(SAWANOBORI TSUGUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

観光は国の基幹産業、地方の成長産業になりえるのかを様々な角度で検証します。日本全国の地域は、高齢化、生産年齢減少、少子化と課題は山積。そこにコロナ禍が加わっています。この授業では、観光により地域経済が発展する方策を、数多く身に付け、地域の観光リーダーとしてマネジメントする能力にもつなげます。また、地方のエリア戦略のあり方を身に付け、「地域プロデューサー、地方創生実現プロデューサー」として、地域を牽引する実践的な視座と能力を習得します。

We will examine at various angles whether tourism can become a basic industry of the country, and an industry of growth for the local areas. In the regions of Japan, there are many issues such as an aging population, a declining production age, and a low birth rate. Therefore, we will acquire a large number of measures for the development of the local economy through tourism, which will also lead to the ability to manage as a regional tourism leader. As a ″regional producer, regional revitalization producer″, we will master a practical perspective and ability to lead the region.

授業の内容(Course Contents)

観光マネジメント1，2は両方受講をお願いいたします。
研究・調査・事例を基にした実践的な講義とその講義内容を基にした討議で、課題の真因を探り，解決策を導きます。また、実際の地域のエリア戦略を個人ワーク、グループワークで立案します。ゲストからの情報提供、現地視察も予定してます。最後に発表、講評の場も用意します。

観光地及び地域は如何に観光力・地域力でよみがえらせるか。その実践的な力が身につく授業です。消費者は既存の旅行に飽きが生じ，観光地，観光地していない地域にも目を向け始めています。そこをマッチングできる人が，地域には必要です。地域にIターン，Uターンして，地域活性の仕事をしたいと思っている方，観光産業の中で，地域を支援したいと思っている方必見です。この授業では，リクルートの旅行部門の研究所である，「じゃらんリサーチセンター」の実践的研究・アプローチを題材として，より地域には，何が必要か，磨きあげを行っていきます。情報提供セッションと対話で展開していきます。共に学び，共に地域を元気にしていきましょう！

Please take both Tourist Site Management 1 and 2.
We will perform practical lectures based on research, investigation, and case studies, and discussions based on the contents of the lectures to explore the root cause of the problems, and acquire solutions through actual regional cases. We also plan to provide information for our guests and lecturers.
How can tourism and regional power revive tourist destinations and regions? This is a class where you can learn those practical skills. Consumers are getting bored of current travel destination, and they are beginning to look at tourist spots and areas that are not famous tourist spots. A person who can match that is necessary in the local area. It is a must take for those who want to do regional activity work through I-turn, U-turn in the region, and those who want to support the region through the tourism industry. In this class, we will polish what is necessary for the region, and use the practical research and approaches of the ″Jalan Research Center″, which is a research institute of the travel department of Recruit. We will continue to move forward through informational sessions and dialogues. Learn and revitalize local areas together!

授業計画(Course Schedule)

1. 観光地マネジメント1に続けての授業
   (1)振り返り (2)討議
2. 観光地マネジメント1に続けての授業
   (1)振り返り (2)討議
3. 地域の課題と可能性、解決するために必要な戦略とは?、
   (1)講義　(2)討議
4. 地域の課題と可能性、解決するために必要な戦略とは?、
   (1)講義　(2)討議
5. 「事例地域」からの事前情報提供
   (1)講義　(2)討議
6. 「事例地域」からの事前情報提供
   (1)講義　(2)討議

7. 地域経営(マネジメント)を学ぶ
   (1)研究講義(気仙沼事例など)　(2)討議
8. 事例地域の戦略立案
   (1)個人ワーク、グループワーク
9. 実際の事例地域を視察する
   (1)視察　(2)討議
10. 実際の事例地域を視察する
   (1)視察　(2)討議
11. 事例地域の戦略立案
   (1)個人ワーク、グループワーク
12. 事例地域の戦略立案
   (1)個人ワーク、グループワーク
13. 発表、講評
14. 発表、講評

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

地域を観光で元気にしたい！その想いを持って臨んでください。
ある地域の実際の課題解決提案を行っていただきます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業での発言、質問、取り組み姿勢など(100%)

テキスト(Textbooks)

じゃらんリサーチセンターの研究冊子、各種調査レポートを適宜、配布します。

参考文献(Readings)

じゃらんリサーチセンターの研究冊子、各種調査レポートを適宜、配布します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

【系統的履修】
観光地マネジメント1(イノベーション)も必ず履修してください。

【双方向による授業割合】
8 割以上(ほぼ毎回対話形式を取り入れてます)

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH889／都市経済学1 (Urban Economics 1)		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

比較的な観点からみた日本における災害に強いスマートシティについて学習する。

Learn about smart communities and smart cities in Japan from a comparative perspective.

授業の内容(Course Contents)

コース運営については参加者と話し合いの上、決定する。1 冊にまとまった教科書はないため、スマートコミュニティやスマートシティなどのテーマに応じて、関連する論文等を読んでいく。

How the course will be conducted will be decided after discussion with the participants. Since there is no textbook that covers everything, we will read related academic papers based on the theme of smart communities and smart cites.

授業計画(Course Schedule)

1. 環境・エネルギー政策とその連携
2. 機会としての環境・エネルギー危機と中央・地方財政
3. 機会としてのエネルギー危機と中央・地方財政:「防災環境都市・仙台」
4. 「レジリエンス」と中央・地方財政
5. 日本における災害に強いスマートシティ
6. 実例:スマートシティ東京都
7. 実例:コンパクトシティ富山市
8. 実例:浜松市スマートシティ
9. 実例:国土強靱化と飯田市
10. 実例:東松島市スマート防災エコタウン
11. 実例:福島新エネ社会構想
12. 実例:静岡県富士市
13. 実例:災害に強い道の駅とマイクログリッド
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習については、別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/プレゼンテーション(30%)/ディスカッション(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

スマートシティ官民連携プラットフォーム
https://www.mlit.go.jp/scpf/
2030アジェンダ
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH890／都市経済学2 (Urban Economics 2)		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

比較的な観点からみた日本における災害に強いスマートシティについて学習する。

Learn about smart communities and smart cities in Japan from a comparative perspective.

授業の内容(Course Contents)

コース運営については参加者と話し合いの上、決定する。1 冊にまとまった教科書はないため、スマートコミュニティやスマートシティなどのテーマに応じて、関連する論文等を読んでいく。

How the course will be conducted will be decided after discussion with the participants. Since there is no textbook that covers everything, we will read related academic papers based on the theme of smart communities and smart cites.

授業計画(Course Schedule)

1. 世界における都市化と SDGs
2. スマートシティと「レジリエンス」
3. 実例:日米スマートシティ協力1
4. 実例:日米スマートシティ協力2
5. 実例:日欧スマートシティ協力1
6. 実例:日欧スマートシティ協力2
7. 実例:日印スマートシティ協力1
8. 実例:日印スマートシティ協力2
9. 実例:積水とスマートシティ
10. 実例:日本アジアグループとスマートシティ
11. 実例:日立とスマートシティ
12. 実例:日建設計とスマートシティ
13. 実例:トヨタとスマートシティ
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習については、別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/プレゼンテーション(30%)/ディスカッション(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

スマートシティ官民連携プラットフォーム
https://www.mlit.go.jp/scpf/
2030アジェンダ
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH896／観光経営研究1 (Tourism Industry Management 1)		
担当者名 (Instructor)	西村　剛(NISHIMURA GO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本科目は観光経営研究2との連係科目である。まず本科目では観光経営の分析に必要な観光経済学の基礎理論修得や関連する世界市場のマクロ分析を通じて観光経営研究の基礎作りを行う。

The subject of this discipline is related to Tourism Industry Management　2. First, in this discipline, we will learn the basic theory of Economics of Tourism necessary for　analysis of Tourism Management and create a basis of Tourism Management research through macro analysis of related world markets.

授業の内容(Course Contents)

本科目では、わが国観光産業に最も重要な交通モードである国際航空と現代クルーズを念頭に、交通経済学の視点からの関連基礎理論と世界情勢の現状と課題について解説する。

In this discipline, the related basic theory from the traffic of Economics viewpoint and the present　state and problems of the world are explained, keeping in mind international flights and the modern cruises, which are the most important traffic modes　for the Japan tourism industry.

授業計画(Course Schedule)

1. 観光経済学(1)観光商品
2. 観光経済学(2)観光客
3. 観光経済学(3)供給者
4. 観光経済学(4)観光受入社会
5. 国際観光統計(1)①WTTC2021
6. 国際観光統計(1)②UNWTO2021
7. 国際観光統計(2)①US2021
8. 国際観光統計(2)②JNTO2021
9. 観光交通ビジネス(1)観光交通の特徴①
10. 観光交通ビジネス(1)観光交通の特徴②
11. 観光交通ビジネス(2)観光政策と観光交通①
12. 観光交通ビジネス(2)観光政策と観光交通②
13. Responsible Tourism
14. SDGs と観光

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義資料は参考文献等から抜粋した資料で、専門用語を多用しているため、必ず講義前に熟読し専門用語の調査研究も事前に済ませておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/出席・授業への貢献(30%)/小レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

WTTC(世界観光旅行協議会)、UNWTO(世界観光機構)の2020年実績レポートを各自ホームページからダウンロードし目を通しておくこと

参考文献(Readings)

1. ジェームズ・マック、2005、『観光経済学入門』、日本評論社 (ISBN:978-4-535-55432-0)
2. 塩見英治ほか、2017、『観光交通ビジネス』、成山堂書店 (ISBN:978-4-425-92881-1)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

関連業界の受講生の業界報告などアクティブラーニングを心がけますので積極的に講義に参加してください。 講義では過年度の新型コロナ発生の2020年度が対象ですが随時2021年度の直近の状況も講義でフォローしていきます。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VH898／観光経営研究2 (Tourism Industry Management 2)		
担当者名 (Instructor)	西村　剛(NISHIMURA GO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

連係科目である観光経営研究1で修得した観光経済学と交通経済学の知見を活用して、我が国、国際観光の主要交通モードである国際航空と現代クルーズを対象に 2020 年 4000 万人招致へむけた課題について研究する。

By utilizing the knowledge of economics of tourism and transportation economics obtained through Tourism Industry Management 1, which is a related discipline, we will study about the challenge to overcome 40 million people intended for international flights and modern cruises in 2020, which are the main modes of transportation for international tourism in Japan.

授業の内容(Course Contents)

我が国国際観光の主要交通モードである国際交通の規制緩和の変遷や LCC、現代クルーズの新たな交通ビジネスモデルの分析を通じて国際航空と現代クルーズの最先端の動きまで広範囲に学ぶ。

Through the analysis of the transition of deregulation of international traffic, which is the main mode of transportation for international tourism in Japan, and the new transportation business model of LCC and modern cruises, we will learn a wide range of cutting edge movements of international flights and modern cruises.

授業計画(Course Schedule)

1. 米国航空の歴史と発展
2. 米国の航空規制緩和とオープンスカイ
3. 欧州の段階的航空自由化
4. 欧州の多国間オープンスカイ
5. エアラインビジネスの基本フレーム
6. エアラインビジネスモデル
7. 三大グローバルアライアンス①
8. 三大グローバルアライアンス②
9. 空港経営①空港経営の商業化
10. 空港経営②わが国空港の民営化
11. 現代クルーズ①現代クルーズの誕生と発展
12. 現代クルーズ②我が国クルーズ事業の現状と課題
13. 新型コロナ時代の観光経営①空港・航空
14. 新型コロナ時代の観光経営②観光・ホテル・クルーズ他

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義資料は参考文献等から抜粋した資料で、専門用語を多用しているため、必ず講義前に熟読し専門用語の調査研究も事前に済ませておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/出席・授業への貢献(30%)/小レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

国土交通省「我が国クルーズ事業の現状と課題」をダウンロードし当該講義前に目を通しておくこと。

参考文献(Readings)

1. 高橋望・横見宗樹、2016、『エアライン／エアポート・ビジネス入門』、法律文化社 (ISBN:978-4-589-03754-1)
2. 村上英樹ほか、2006、『航空の経済学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4-623-04558-7)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

折からのインバウンド需要の高まりを受けて政府目標の 2020 年 4000 万人招致が射程に入ってきました。関連業界の受講生の業界報告などアクティブラーニングを心がけますので積極的に講義に参加してください。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL001／ビジネスシミュレーション (Business Simulation)		
担当者名 (Instructor)	古川　英一(FURUKAWA EIICHI) 安田　直樹(YASUDA NAOKI) 青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI) 花谷　昌弘(HANATANI MASAHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	1年次必修科目／「その他」登録		

授業の目標(Course Objectives)

創造的な経営のゼネラリスト、「ビジネスクリエーター」に必要な、創造的な構想力と論理的な分析能力を養うべく、企業の事業構想プロセスを経験的に学習する。

Students will learn empirically about the corporate business conceptualization process in order to develop the creative conceptualization, logical analysis skills necessary for creative management generalists, "business creators".

授業の内容(Course Contents)

本授業では、創造的な経営のゼネラリスト、「ビジネスクリエーター」に必要な、創造的な構想力と論理的な分析能力を養うべく企業の事業構想プロセスを経験的に学修することを目的としており、前半期の事業構想プロセスの理論的講義、ワークショップと後半期のビジネスプラン策定から構成される。

事業構想のプロセスは容易に定型化することは難しいものの、その構想を具体的に進める中で分析しなければならない問題や検討しなければならない課題は理論的に明らかにされてきており、そうした問題の分析や課題の検討をどう進めていくかについての方法論も蓄積されてきている。前半期の 7 週間では、履修者は企業の新たな事業構想のプロセスを理論的に学ぶとともに、グループワークを通じてそのプロセスを経験的に習得する。

後半期の7週間では、前半の期間で培った様々な知識とスキルを活用し、具体的な企業を事例として選定し、その企業の経営資源や事業環境を踏まえて、新規事業の担い手(「ビジネスクリエーター」)として新たなビジネスプランの構想に取り組む。発想の転換や新たな着想は、異なる視点や思考枠組の交換から生じる。新たな事業の構想には新たな問題の発見や価値の創造が必要となろう。授業では、異なる知識や経験、価値観を持ったメンバーの知的相互作用を通じて創造的な事業構想を実現するプロセスを経験し、「ビジネスクリエーター」としての創造的な事業構想力の習得を目指す。

The purpose of this course is to empirically study the business conceptualization process of companies in order to cultivate creative conceptualization, logical analysis skills necessary for creative management generalists, or "business creators". The course consists of theoretical lectures and workshops on the business conceptualization process in the first half and business plan formulation in the second half.

Although the business conceptualization process is difficult to formulate, the problems that must be analyzed and the issues that must be considered in the concrete implementation of the conceptualization process have been theoretically clarified, and methodologies on how to proceed with the analysis of such problems and consideration of issues have been accumulated. In the first seven weeks of the course, students will learn the process of new business conceptualization of companies theoretically, and also learn the process experientially through group work.

In the second half of the seven-week period, students will use the knowledge and skills they gained in the first half of the program to select a specific company as a case study and work on the concept of a new business plan as a new business creator based on the company's management resources and business environment. A shift in thinking and new ideas come from the exchange of different perspectives and thinking frameworks. The conceptualization of a new business will require the discovery of new problems and the creation of new values. In this class, we will experience the process of realizing creative business concepts through intellectual interaction among members with different knowledge, experiences, and values, and aim to acquire creative business conceptualization skills as "business creators".

授業計画(Course Schedule)

1. 企業の戦略的意思決定
2. ビジョン策定
3. 課題、テーマの明確化、アイデア発想
4. インプットセミナー、アイデアプロトタイピング
5. アイデアブラッシュアップ
6. ビジネスモデルの検討(1)
7. ビジネスモデルの検討(2)、まとめ
8. 事業機会の発見と価値提案
9. 環境分析と顧客セグメント

10. 事業活動とチャネル構築
11. 収益構造と費用構造、資源調達
12. 競争優位の構築と参入障壁
13. 成長戦略と長期計画
14. 事業計画の総合的評価

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

系統別認定試験の免除対応科目、統計・調査法、会計学、ファイナンス関連の科目を履修しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準（Evaluation）

ディスカッションへの参加・貢献度(30%)/グループワークへの貢献度の相互評価(35%)/授業内レポート(35%)

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

必要に応じて指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

パソコン操作法（特に表計算ソフトの使用方法）、財務経理の基礎が最低限必要なスキルとなる。

【双方向による授業】

本科目は、講義に続いてクラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は100%(14 回中 14 回)である。

【実務家教員】

本科目担当教員のうち 2 名は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL003／ビジネスシミュレーション (Business Simulation)		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO) 斎藤　明(SAITO AKIRA) 庄司　貴行(SHOJI TAKAYUKI) 花谷　昌弘(HANATANI MASAHIRO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	4単位(4 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5010	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	1年次必修科目／「その他」登録		

授業の目標(Course Objectives)

創造的な経営のゼネラリスト、「ビジネスクリエーター」に必要な、創造的な構想力と論理的な分析能力を養うべく、企業の事業構想プロセスを経験的に学習する。

Students will learn empirically about the corporate business conceptualization process in order to develop the creative conceptualization, logical analysis skills necessary for creative management generalists, "business creators".

授業の内容(Course Contents)

本授業では、創造的な経営のゼネラリスト、「ビジネスクリエーター」に必要な、創造的な構想力と論理的な分析能力を養うべく企業の事業構想プロセスを経験的に学修することを目的としており、前半期の事業構想プロセスの理論的講義、ワークショップと後半期のビジネスプラン策定から構成される。

事業構想のプロセスは容易に定型化することは難しいものの、その構想を具体的に進める中で分析しなければならない問題や検討しなければならない課題は理論的に明らかにされてきており、そうした問題の分析や課題の検討をどう進めていくかについての方法論も蓄積されてきている。前半期の 7 週間では、履修者は企業の新たな事業構想のプロセスを理論的に学ぶとともに、グループワークを通じてそのプロセスを経験的に習得する。

後半期の7週間では、前半の期間で培った様々な知識とスキルを活用し、具体的な企業を事例として選定し、その企業の経営資源や事業環境を踏まえて、新規事業の担い手(「ビジネスクリエーター」)として新たなビジネスプランの構想に取り組む。発想の転換や新たな着想は、異なる視点や思考枠組の交換から生じる。新たな事業の構想には新たな問題の発見や価値の創造が必要となろう。授業では、異なる知識や経験、価値観を持ったメンバーの知的相互作用を通じて創造的な事業構想を実現するプロセスを経験し、「ビジネスクリエーター」としての創造的な事業構想力の習得を目指す。

The purpose of this course is to empirically study the business conceptualization process of companies in order to cultivate creative conceptualization, logical analysis skills necessary for creative management generalists, or "business creators". The course consists of theoretical lectures and workshops on the business conceptualization process in the first half and business plan formulation in the second half.

Although the business conceptualization process is difficult to formulate, the problems that must be analyzed and the issues that must be considered in the concrete implementation of the conceptualization process have been theoretically clarified, and methodologies on how to proceed with the analysis of such problems and consideration of issues have been accumulated. In the first seven weeks of the course, students will learn the process of new business conceptualization of companies theoretically, and also learn the process experientially through group work.

In the second half of the seven-week period, students will use the knowledge and skills they gained in the first half of the program to select a specific company as a case study and work on the concept of a new business plan as a new business creator based on the company's management resources and business environment. A shift in thinking and new ideas come from the exchange of different perspectives and thinking frameworks. The conceptualization of a new business will require the discovery of new problems and the creation of new values. In this class, we will experience the process of realizing creative business concepts through intellectual interaction among members with different knowledge, experiences, and values, and aim to acquire creative business conceptualization skills as "business creators".

授業計画(Course Schedule)

1. 企業の戦略的意思決定
2. ビジョン策定
3. 課題、テーマの明確化、アイデア発想
4. インプットセミナー、アイデアプロトタイピング
5. アイデアブラッシュアップ
6. ビジネスモデルの検討(1)
7. ビジネスモデルの検討(2)、まとめ
8. 事業機会の発見と価値提案
9. 環境分析と顧客セグメント

10. 事業活動とチャネル構築
11. 収益構造と費用構造、資源調達
12. 競争優位の構築と参入障壁
13. 成長戦略と長期計画
14. 事業計画の総合的評価

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

系統別認定試験の免除対応科目、統計・調査法、会計学、ファイナンス関連の科目を履修しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準（Evaluation）

ディスカッションへの参加・貢献度(30%)/グループワークへの貢献度の相互評価(35%)/授業内レポート(35%)

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

必要に応じて指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

パソコン操作法（特に表計算ソフトの使用方法）、財務経理の基礎が最低限必要なスキルとなる。

【双方向による授業】

本科目は、講義に続いてクラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は100%(14 回中 14 回)である。

【実務家教員】

本科目担当教員のうち 2 名は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL091／コンサルティング・メソッド1 (Consulting Methods 1)		
担当者名 (Instructor)	平井　直樹(HIRAI NAOKI) 手塚　貞治(TEZUKA SADAHARU) 柴田　徹(SHIBATA TORU) 青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　巣鴨信用金庫 「その他」登録科目		

授業の目標(Course Objectives)

中小企業へのコンサルティング過程を学び、独自のメソッドを確立する

Learn about the consulting process for small and medium sized businesses and establish your own methods

授業の内容(Course Contents)

この科目は、実在する中小企業の経営者の協力を得ながら当該企業へのコンサルティング過程を実体験し、第2創業的なビジネスプランを提案するメソッドを体得することを目的としている。本科目は「コンサルティング・メソッド2」と一体となってはじめて研究・教育効果が発現するものであるため、コンサルティング・メソッド2とセットでの履修が条件となる。

コンサルティング過程の前半となるこの科目では、協力企業が属する業界に関する市場動向、業界動向、技術動向などマクロ的な調査・研究に重きをおく。履修者は、会社毎に数人ずつのチームを編成し、分担して調査・研究を行い、その結果を中間および最終報告にて発表する。チーム研究が中心となるため、時間割表に示された時限以外に、各自の分担した調査・研究の成果を持ち寄り、討論と取り纏めを行う時間が必要となる。

なお、協力企業の対応能力の関係上、履修者を 12 名程度に選抜する。

In this discipline, you will experience the consulting process with the cooperation of the management of real small and medium sized businesses and the goal is to acquire a 2nd method for proposing a business plan that is similar to a start up business. Since this discipline is intended to have a research and education effect only when it is combined with "Consulting Methods 2", it is required to take this course in combination with Consulting Methods 2.

In this discipline, which is the first half of the consulting process, we will focus on macro-related surveys and research, such as market trends, industry trends, and technological trends in the industry to which the partner companies belong. The students will form a team of several people for each company and the results of the surveys and research will be published in the interim and final reports. Since team research is the main focus, it is necessary to have time to gather the results of the surveys and research that you have shared, and to discuss and arrange them, in addition to the time limit indicated in the timetable.

In addition, for the relationship of the response capabilities of the partner companies, up to 12 students are selected.

授業計画(Course Schedule)

1. コンサルティング・メソッド総論
2. 中小企業サポートのあり方
3. パートナー企業および社長の紹介、事業概要説明
4. パートナー企業との情報交換
5. コンサルティング概論
6. コンサルティング対象企業の分析実習(1)
7. 中小企業の経営分析
8. 中小企業の戦略と組織
9. コンサルティング対象企業の分析実習(2)
10. コンサルティング対象企業の分析実習(3)
11. コンサルティング対象企業の分析実習(4)
12. コンサルティング対象企業の分析実習(5)
13. 研究成果報告(1)
14. 研究成果報告(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義内もしくは電子メール等にて伝達する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

講義への参加状況(35%)/チーム作業への貢献度(30%)/中間報告および最終報告の成果(35%)

テキスト（Textbooks）

テキストは使用しない。
必要に応じて資料を配付する。

参考文献（Readings）

必要に応じて指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

・コンサルティング・メソッド 2（VL092）を継続して履修することが条件となる。
・履修者数に上限を設けている。選抜方法は履修ガイダンス時に説明する。
・協力企業との関係により、履修希望に応えられないことがある。
・履修者の選抜結果は掲示で行う。また、履修登録は独立研究科事務室で行う。
・履修に先立って秘密保持契約を締結する。
・授業計画は、協力企業との調整によって変更になる場合がある。

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL092／コンサルティング・メソッド2 (Consulting Methods 2)		
担当者名 (Instructor)	平井　直樹(HIRAI NAOKI) 手塚　貞治(TEZUKA SADAHARU) 柴田　徹(SHIBATA TORU) 青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　巣鴨信用金庫 「その他」登録科目		

授業の目標(Course Objectives)

中小企業へのコンサルティング過程を学ぶ(実践編)

Learn about the process of consulting for small and medium sized enterprises (practical edition)

授業の内容(Course Contents)

この科目はコンサルティング・メソッド 1 を引き継ぐところからはじまる。協力企業に対してコンサルティングを行い、具体的な提案(新規事業の提案もしくは改善提案等)を行うことを最終目的とする。担当する企業について、製品や商品、サービスや立地、保有設備、従業員の状況等、企業のリソースを十分に理解したうえでの提案が必要となる。必要に応じて経営者へのヒアリングや意見交換を実施し、提案の方向性を確認しながら、実践的な提案内容へと仕上げていく。なお、チーム研究が中心となるため、時間割表に示された時限以外に各自で分担した調査・研究の成果を持ち寄って討論や取り纏めを行ったりする時間が必要となる。

This discipline picks up after Consulting Methods 1. The final objective is to provide consulting services to partner companies and make specific proposals (new business proposals, improvement proposals, etc.). It is necessary to make proposals to the company with a thorough understanding of the company's resources, such as products, services, location, facilities, and employee status. As necessary, hearings and opinions will be exchanged with managers and, while checking the direction of the proposal, we will finish the practical proposal content. In addition, since team research is the main focus, it is necessary to have time to gather the results of the surveys and research that you have shared, and to discuss and arrange them, in addition to the period indicated in the timetable.

授業計画(Course Schedule)

1. 提案に向けたショートレクチャー
2. コンサルティングの方向性の確認・点検(1)
3. コンサルティング対象企業の分析実習(1)
4. コンサルティング対象企業の分析実習(2)
5. コンサルティング対象企業の分析実習(3)
6. コンサルティングの方向性の確認・点検(2)
7. コンサルティング対象企業実地演習(1)
8. コンサルティング対象企業実地演習(2)
9. コンサルティング内容の体系化(1)
10. コンサルティング内容の体系化(2)
11. 研究成果プレ報告(1)
12. 研究成果プレ報告(2)および講評
13. 最終研究成果報告(1)
14. 最終研究成果報告(2)と講評

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義内もしくは電子メール等にて伝達する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

講義への参加状況(35%)/チーム作業への貢献度(30%)/中間報告および最終報告の成果(35%)

テキスト(Textbooks)

テキストは使用しない。
必要に応じて資料を配付する。

参考文献(Readings)

必要に応じて指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

・コンサルティング・メソッド1（VL091）からの継続履修となる。当科目のみの履修は不可。
・履修者の選抜結果はコンサルティング・メソッド1と同時に掲示で行う。履修登録は独立研究科事務室で行う。
・コンサルティング・メソッド1と同様、履修には秘密保持契約への同意が必要となる。
・最終報告の評価は、企業経営者、巣鴨信用金庫担当者および教員が行う。
・提案内容の採否は協力企業の経営者が決定する（本科目のゴールは提案と評価までである）。
・最終成果物は、調査した資料集、コンサル報告書、最終プレゼン資料の 3 つを想定している。
・授業計画は、協力企業との調整によって変更になる場合がある。

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL111／日本の企業経営 (Business and Management in Japan)		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本科目は実証的な調査に基づく研究や調査報告書の読解を通じて日本の企業経営の特徴やその実態について理解することを目的とする。

The purpose of this course is to understand the characteristics and realities of Japanese corporate management through the reading of research papers and research reports based on empirical surveys.

授業の内容(Course Contents)

本科目は、日本企業の実態や企業経営の特徴について理解することを目的としている。加えて、実際に資料の収集、データベースの活用等を通じて大学院での学習の進め方を実践的に修得することを目指す。

実態を適切に認識するためには、自己の偏見や先入観に自覚的になること、常識や先行研究に対して批判的視点を持つこと、自由な視点で仮説を立てるとともに根拠となる事実に基づいて検証を行うことが必要である。この授業では日本の企業経営の特徴や実態を理解することを通じてこうした方法論についても学びたいと考えている。

具体的には、日本の企業経営の実態、雇用システムの特徴等に関する実証的な研究や調査報告書を取り上げ、その読解を通じて、日本企業とその経営の実態について理解し批判的に検討する。履修者は各自テキストとなる研究論文や専門書の一部あるいは全ての報告を担当し、各回の授業で各自が担当部分を報告、それに基づいて講義やディスカッションを行う。履修者には積極的な関与が要求される。

The purpose of this course is to understand the actual situation of Japanese companies and the characteristics of corporate management. In addition, the course aims to provide students with practical training on how to proceed with their studies in graduate school through the actual collection of materials and the use of databases.

In order to recognize the actual situation properly, it is necessary to be aware of one's own prejudices and preconceptions, to have a critical perspective on common sense and prior research, to formulate hypotheses from a free perspective, and to verify them based on facts. In this class, I would like to learn about these methodologies through understanding the characteristics and realities of corporate management in Japan.

Specifically, we will take up empirical studies and research reports on the actual state of corporate management and the characteristics of the employment system in Japan, and through reading them, we will understand and critically examine the actual state of Japanese companies and their management. Each student will be responsible for reporting on some or all of the research papers and technical books used as textbooks. Students are expected to be actively involved in the course.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス、テキストの紹介と選定
2. 報告、読解とディスカッション
3. 報告、読解とディスカッション
4. 報告、読解とディスカッション
5. 報告、読解とディスカッション
6. 報告、読解とディスカッション
7. 報告、読解とディスカッション
8. 報告、読解とディスカッション
9. 報告、読解とディスカッション
10. 報告、読解とディスカッション
11. 報告、読解とディスカッション
12. 報告、読解とディスカッション
13. 報告、読解とディスカッション
14. 報告、読解とディスカッション

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業の中で提示される日本企業をめぐる論点や疑問について、政府統計や入手可能な調査データを活用して各々調べ、ディスカッションできるよう準備して授業に臨んでください。

成績評価方法・基準（Evaluation）

報告(30%)/ディスカッションへの貢献度(20%)/授業内レポート(50%)

テキスト（Textbooks）

適宜授業の中で指示します。

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

図書館のオンラインデータベースを活用できるようにしておくと良いでしょう。

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL141／企業法務1 (Business Law 1)		
担当者名 (Instructor)	伊藤　壽英(ITO HISAEI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5800	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義では、「企業法」という観点から、企業の法的経済的特質を踏まえ、企業取引分野と企業組織運営分野における法律問題を理解し、解決に至る法的思考の基礎的スキルを修得することを目標とする。

By focusing on the areas of business transactions and organizational management in a firm, the Course aims to enable students to understand the features of a firm from a legal and economic perspective and to learn basic skills on how to solve legal problems.

授業の内容(Course Contents)

会社も含めて、一定の人的物的設備を備えて事業活動を行う経済主体を「企業」という。そのうち、「法人格」を備えるものを「会社」である(会社法 3 条)。受講者の多くは、会社に雇用され、日常的に企業活動と密接な関わりを持っているものと推測される。そこで、受講者は、企業人として、日常の企業活動から生ずる現象について、法的問題として認識する能力を具備することが求められる。法律学に不慣れな受講者のために、法制度・裁判制度の仕組み、法と法律の役割について初歩的な知識を教授する。学修対象となる法律の名称は、「民法」「商法」「会社法」であるが、必要な範囲で資料を配付するので、とくに専門的な教科書を用意しなくても理解できる。

The term “business firm” is defined as an economic entity with personnel and proprietary facility that goes to engage in a certain business. Among those firms, an entity with a juridical personality is called a “company” under the Companies Act of 2005. It is supposed that most students are employed by a business company, therefore, they, as ordinary business people, are expected to build a capacity to recognize a legal issue of business activities on a regular basis. For students who are unfamiliar with the study of law, the Course provides introductory knowledge of the structure of the legal and judicial system, and the role of law and statutes. Touching on such statutes as “Civil Code” “Commercial Code” and “Companies Law,” however, students are expected to understand by reading distributed materials before the class, unnecessarily to prepare a professional textbook.

授業計画(Course Schedule)

1. 企業と法
2. 企業形態と法
3. 紛争解決と法
4. 企業取引と契約(1):契約の類型(民法、商行為、消費者契約)
5. 企業取引と契約(2):約款、契約締結前の法律関係
6. 企業取引と契約(3):特別な契約類型(雇用、融資)
7. 株式会社の設立
8. 株式会社の経営管理機構:株主総会
9. 株式会社の経営管理機構:取締役会
10. 取締役の注意義務
11. 取締役の忠実義務
12. 少数株主権:株主代表訴訟など
13. 企業資金の調達:新株発行とM&A
14. 企業の倒産処理

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)/予習課題の準備(20%)/クラス内でのディスカッション(20%)

テキスト(Textbooks)

事前に資料を配付する

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL146／企業法務2 (Business Law 2)		
担当者名 (Instructor)	伊藤　壽英(ITO HISAEI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5800	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業の紛争事例の分析と関連する判決例の理解を通じて、実務上の問題を把握し、法的な解決に至る論証構築のスキルを修得することが目標である。

The goal is that students can approach specified legal issues and can earn skills of justification for problem-solving through analysis of cases and judgments where firms are involved.

授業の内容(Course Contents)

企業に関わる法律問題のうち、現代的な企業取引、国際的取引紛争、 コーポレート・ガバナンスに係る重要な論点を取り上げる。現代の企業活動に関する紛争は、多様な利害関係者との対立を反映して、複雑になる傾向がある。そこで、裁判例を分析することによって、紛争の背景にある当事者の利害対立を明らかにして、その法的問題の所在を認識し、さらに、双方向の議論を通じて、解決のために必要な論証について学修する。ここでは、たんに結論を覚えるのではなく、自らの頭で論証プロセスを追体験することによって、法的思考のスキルを修得することとする。なお、企業の法律関係を理解するために必要な基礎的知識については、事前学習の指示において提供する。あらかじめ「企業法務Ⅰ」を履修しておくことも推奨される。

The Course touches on material issues of modern business transactions, disputes in international transactions, and corporate governance. Disputes related to modern business activities tend to be complex, reflecting conflicts between various stakeholders. Therefore, by analyzing judicial cases, students will learn to identify the conflicts of interest of the parties behind the disputes, recognize the location of the legal issues, and learn about the reasoning/justification necessary for resolution through interactive discussions. In this course, students will learn the skills of legal thinking by experiencing the process of argumentation by themselves, rather than simply memorizing the conclusions. The basic knowledge necessary to understand the legal relationship of firms/companies will be provided in the instructions for the prior study. It is also recommended to take "Corporate Legal Practice I" in advance.

授業計画(Course Schedule)

1. 企業間連携契約
2. 契約締結前の法律関係
3. 金融取引:シンジケート・ローン, ストラクチャード・ファイナンス
4. ,金融取引: 相殺、振込
5. 国際取引
6. 並行輸入
7. 国際民事訴訟
8. 国際商事仲裁・国際商事調停
9. 金融機関取締役の注意義務
10. コンプライアンス・内部統制システム
11. 事業譲渡
12. 敵対的買収と企業防衛
13. 事業再編
14. 企業法務の課題

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート試験(Report Exam)(60%)/事前予習課題の準備(20%)/クラス内のディスカッション(20%)

テキスト(Textbooks)

事前に資料を配付する

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL150／クリティカル・シンキング (Critical Thinking)		
担当者名 (Instructor)	田中　道昭(TANAKA MICHIAKI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5800	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ビジネスにおける問題解決能力を高めていくことのみならず、自らが意義の大きい問題設定や課題設定ができるようになることや、それらの問題解決の実行が実際にできるようになることを目的とする

The purpose of this course is not only to improve problem solving skills regarding business, but also to enable you to set up and solve problems that are of great significance to yourself, and to actually be able to solve these problems.

授業の内容(Course Contents)

本講義においては、クリティカル・シンキングを、論理的に思考するためのツールや能力という狭義の捉え方はもとより、「分析力×洞察力×構想力」を高め、問題解決能力を高めていくツールや能力であると広義に捉えてクラスを実践的に進めていく。さらには、与えられた問題を解決していくだけではなく、自ら合理性の高い問題設定や課題設定を行い、それらの解決策を見出すことができるようになることを目指していく。 本講義においては、「定量分析×定性分析」や「戦略系フレームワーク×人系フレームワーク」を融合させ、企業の現場でいかに合理性の高い戦略を策定し、なおかつ、いかにそれを効果的に実行して成果を上げていくかという点にも注力していく。そのために最も重要なことは、クリティカル・シンキングで導き出した「正しいロジック」を相手に振りかざすのではなく、相手の立場や感情にも心を配り、相手の「共感」や周りとの「調和」を実現していくことである。現実のビジネスシーンにおいては、「正しいロジック」にいかに「共感」してもらえるかの方が重要である。したがって、講義では人系フレームワークも活用して、想定顧客との信頼関係構築のためのロープレ演習やチームワーク演習なども多用し、実践的にクラスを進めていく。本講義で学んでいく MECE や 3W1H 等の基礎的なツールは、ビジネススクールで学んでいく専門的なフレームワークに対して「OS」や「CPU」のように機能するものであるが、同時に企業の現場においては最も多用されるものでもある。各種科目の履修初期の段階はもとより、修了前の段階においてこそ立ち返るべき内容である。
したがって、本講義の後半においては、実際にクリティカル・シンキングのツールを使って、企業の現場における売上・利益・業績等を向上していく手法についても事例を用いて実践的に学んでいく。

In this lecture, in addition to the narrow view of tools and abilities to think logically about critical thinking, this class will interpret, in a broad sense, critical thinking as a tool and ability to enhance the problem solving ability through enhancing "analytical power × insight × imagination". Further, we will not only solve the problems that are given to us, but we will also setup problems that are highly rational and aim to be able to find solutions to those. In this lecture, we will discuss how to formulate a strategy that is highly rational at the scene of companies by fusing "quantitative analysis × qualitative analysis" and "strategy system framework × human system framework", and in addition, we will focus on how to effectively implement these measures and achieve results. For this purpose, the most important thing is not to show the other party the "correct logic" derived by critical thinking, but also to be mindful of the position and feelings of the other party and to realize "sympathy" of the other party and "harmony" with the surroundings. In real business, it is more important to get "sympathy" as a way for "correct logic". Therefore, in this lecture we will utilize human system frameworks as well as many other exercises such as role play seminars and team work seminars to build trust with our supposed customers. The basic tools learned in this lecture, such as MECE and 3W1H, are those that function much like an "OS" and "CPU" for the specialized framework learned in business school, but at the same time, it is one of the most frequently used in the field of business. Not only in just the early stages of taking a course in each discipline, it is the content that should be returned to before completion.
Therefore, in the second half of this lecture, students will learn how to improve the sales, profit, and performance of companies by using the actual tools of critical thinking.

授業計画(Course Schedule)

1. クリティカル・シンキングの前提知識(1)
2. クリティカル・シンキングの前提知識(2)
3. クリティカル・シンキングの基礎知識(1)
4. クリティカル・シンキングの基礎知識(2)
5. クリティカル・シンキングのフレームワーク(1)
6. クリティカル・シンキングのフレームワーク(2)
7. 問題解決の手法(1)
8. 問題解決の手法(2)

9. PDCA の理論と実際（1）
10. PDCA の理論と実際（2）
11. 売上・利益・業績向上のためのクリティカル・シンキング（1）
12. 売上・利益・業績向上のためのクリティカル・シンキング（2）
13. 「戦略系フレームワーク×人系フレームワーク」の融合ツールとしてのクリティカル・シンキング（1）
14. 「戦略系フレームワーク×人系フレームワーク」の融合ツールとしてのクリティカル・シンキング（2）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

問題解決、課題や仮説設定などに普段から高い問題意識をもっておくこと

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(20%)/期中レポート(20%)/クラス貢献(20%)/他の受講生への貢献(20%)/プレゼンテーション(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 高田貴久+岩澤智之、2014、『問題解決』、英治出版 (ISBN:ISBN978-4-86276-124-8)
2. 安宅和人、2010、『イシューからはじめよ』、英治出版 (ISBN:ISBN978-4-86276-085-2)
3. 田中道昭、2017、『アマゾンが描く 2022 年の世界』、PHP 研究所 (ISBN:ISBN978-4-569-83733-8)
4. 田中道昭、2019、『GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略』、日本経済新聞出版社 (ISBN:ISBN978-4532322656)

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

参考文献（Readings）

1. 竹内一正、2014、『イーロン・マスクの挑戦』、宝島社 (ISBN:ISBN978-4-8002-2848-2)
2. 泉田良輔、2014、『Google vs. トヨタ―自動運転車は始まりにすぎない』、角川 (ISBN:ISBN978-4-04-080023-3)
3. 日経デザイン、2014、『アップルのデザイン戦略』、日経 BP 社 (ISBN:ISBN978-4-8222-6488-8)
4. 板倉俊之、2010、『ことわざドリル―笑いこみあげる 92 題』、リトルモア (ISBN:ISBN978-4-89815-290-4)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【双方向による授業】
本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。
【実務家教員による授業】
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL151／グローバル・マーケティング1 (Global Marketing 1)		
担当者名 (Instructor)	笠原　英一(KASAHARA EIICHI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義は、クラス・ディスカッション及びショートケースを展開することにより、理論の理解を深めながら、グローバル市場におけるマーケティング活動を推進する人にとって必要不可欠な理論に関する理解を深め、実践力を強化することを目的としている。

The goal of this lecture is to deepen the understanding of the theory through developing class discussions and short case, and to deepen the understanding of the theory, which is essential for people who promotes marketing activity in the global market, and to strengthen the practice.

授業の内容(Course Contents)

マーケティングにおけるグローバル化への対応とは、世界のあらゆる市場にデータ収集や営業の拠点としてのオフィスを開設することではない。グローバル化と世界各地に拠点を置くということは、全く別の次元である。自社の経営資源を生かして、顧客の満たされないニーズを探索・確定し、ソリューションを提供していくという一連の価値創造を、市場の選定から、価値を創るための開発、生産、組み立て、サービス等の機能の組み合わせも含め、グローバルな視点で考察することがグローバル・マーケティングの本質である。グローバル・マーケティング1では、総論として、グローバル・マーケティングの枠組み、参入市場の決定、市場参入方式の決定、参入基本戦略、機能・領域間の統合・調整、組織・体制などを最新のテキストを用いてカバーする。

The response to globalization in marketing is not about opening an office as a data collection and sales base in every market in the world. Globalization and the fact that we are based in different parts of the world are completely different. The essence of global marketing is to consider a series of value-creation from the selected market, including the combination of development, production, assembly, and service functions to create value, by utilizing the company's management resources to search and determine the unmet needs of customers and provide solutions. In Global Marketing 1, as an introduction, the framework of global marketing, decision of the market entry, decision of the method of entry, basic entry strategies, integration and adjustment between functions and areas, and organization and structure are covered with the latest text.

授業計画(Course Schedule)

1. グローバル市場とマーケティング
2. グローバル市場の分析(経済、技術)
3. グローバル市場の分析(文化、社会)
4. グローバル市場の分析(法律)
5. 世界市場、地域市場、国内市場の統合
6. マーケティング・リサーチ
   ・設計
   ・解析
7. グローバル市場の選択
8. グローバル市場への参入
9. 市場戦略総論
   ・市場の細分化、標的市場の抽出、提供効用の明確化
10. 製品開発
    ・効用、製品、サービス
11. 価格付け
    ・効用、競合、コスト
12. チャネル開発
    ・チャネル・プレイヤー
    ・リーチ vs. リッチネス
13. 販売促進
    ・コミュニケーションミックス(広告、広報、営業、販促、SNS)
14. テスト及び解説・まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

次回の予習範囲や課題は、各授業の最後および blackboard 上でコメントするが、基本的には個人予習(事前)、グループ討議

（授業時、必要に応じて事前に）、クラス討議（授業時）という展開で進める

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(30%)/授業で実施するプレゼンテーション(30%)
グローバル・マーケティング2も引き続き受講することが望ましい

テキスト（Textbooks）

1. 笠原英一翻訳、Ilan Alon 他著、2017、『グローバル戦略市場経営』、白桃書房
2. 笠原英一著、2013、『強い会社が実行している経営戦略の教科書』、KADOKAWA

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

http://www.aprim.jp/

【双方向による授業割合】
100%

※20 年間、経営コンサルタントとして、国内外の上場企業に対して、戦略、マーケティング、組織に関する実践的課題に取り組んできた実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL153／グローバル・マーケティング2 (Global Marketing 2)		
担当者名 (Instructor)	笠原　英一(KASAHARA EIICHI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義は、クラス・ディスカッション及びショートケースを展開することにより、理論の理解を深めながら、グローバル市場におけるマーケティング活動を推進する人にとって必要不可欠な実践力を強化することを目的としている。

The goal of this lecture is to deepen the understanding of the theory through developing class discussions and short cases, and to strengthen the essential practical skills for people who promote marketing activities in the global market.

授業の内容(Course Contents)

マーケティングにおけるグローバル化への対応とは、世界のあらゆる市場にデータ収集や営業の拠点としてのオフィスを開設することではない。グローバル化と世界各地に拠点を置くということは、全く別の次元である。自社の経営資源を生かして、顧客の満たされないニーズを探索・確定し、ソリューションを提供していくという一連の価値創造を、市場の選定から、価値を創るための開発、生産、組み立て、サービス等の機能の組み合わせも含め、グローバルな視点で考察することがグローバル・マーケティングの本質である。グローバル・マーケティング 2 では、グローバル・マーケティングの領域の中で、特に今後の成長が見込まれるアジア市場を対象にして、特にアセアン主要地域に関するマーケティングを研究する。ケース・スタディ及びビジネス・プラン作成を通してグローバル・マーケティングの各論としてのリージョナル・マーケティングを実践的かつ系統立てて学習していくことを目的としている。グローバル・マーケティング 2 では、グローバル・マーケティングの領域の中で、特に今後の成長が見込まれるアジア市場を対象にして、特にアセアン主要地域に関するマーケティングを研究する。各セッションではA日程のグローバルマーケティングの基本を復習しながら、下記のテーマについて議論を深めていく。

The response to globalization in marketing is not about opening an office as a data collection and sales base in every market in the world. Globalization and the fact that we are based in different parts of the world are completely different. The essence of global marketing is to consider a series of value-creation from the selected market, including the combination of development, production, assembly, and service functions to create value, by utilizing the company's management resources to search and determine the unmet needs of customers and provide solutions. In Global Marketing 2, we will look at marketing in Asia markets where future growth is expected in the area of global marketing, especially in major ASEAN markets. The goal is to learn about regional marketing as a detailed explanation of global marketing through case studies and business plan preparations in a practical and systematic way. In Global Marketing 2, we will look at marketing in Asia markets where future growth is expected in the area of global marketing, especially in major ASEAN markets. In each session, we will review the basics of global marketing on schedule A and deepen the discussion on the following themes.

授業計画(Course Schedule)

1. ビジネス・システムの意味と構成要素
2. ビジネス・システムの構成要素
   (企業所有、産業ネットワーク、経営スタイル、資本調達、人材採用、信用付与、価値観、アイデンティティ、権限移譲)
3. アセアン市場とビジネス・システム①
4. アセアン市場とビジネス・システム②
5. グローバルビジネスの実践－成長の源泉を探す
6. グローバルビジネスの実践－事業領域を選定する
7. ブローバルビジネスの実践－権限移譲と人材開発
8. グローバルビジネスの実践－実行と調整
9. グローバルビジネスの実践－評価指標と留意点
10. グローバル事業戦略と現状分析-顧客分析、競合分析、自社分析、マクロ環境分析
11. グローバル事業戦略と基本方向-事業目標、事業領域、競争戦略
12. ブローバル事業戦略と具体施策(STP＋マーケティング・ミックス、バリューチェーン)
13. 確認テストの実施
14. テストのポイント解説

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

次回の予習範囲や課題は、各授業の最後および blackboard 上でコメントするが、基本的には個人予習(事前)、グループ討議(授業時、必要に応じて事前に)、クラス討議(授業時)という展開で進める

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(30%)/授業で実施するプレゼンテーション(30%)
グローバル・マーケティング 1 を受講しておくことが望ましい。

テキスト（Textbooks）

1. 笠原英一翻訳、Ilan Alon 他著、2017、『グローバル戦略市場経営』、白桃書房
2. 笠原英一翻訳、サンジェイ著、2019、『フォーカス戦略』、東洋経済
その都度ハンドアウトを配布する。

参考文献（Readings）

1. 笠原英一、『経営戦略の教科書』、Kadokawa

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

http://www.aprim.jp/

【双方向による授業割合】
100%

※20 年間、経営コンサルタントとして、国内外の上場企業に対して、戦略、マーケティング、組織に関する実践的課題に取り組んできた実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL171／統計学1 (Statistics 1)		
担当者名 (Instructor)	山口　誠一(YAMAGUCHI SEIICHI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5800	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

統計学に関する基礎的な内容および記述統計の基礎を固め，推定・仮説検定という推測統計の基礎を身につける。 また、SPSS や EXCEL 等を用いたデータ分析スキルも身につける。

The basic content on Statistics and the basis of descriptive statistics are solidified, and the basis of inferential statistics of estimation and hypothesis testing are acquired. Also, data analysis skills using SPSS, EXCEL, etc. will be acquired.

授業の内容(Course Contents)

大量で多様なデータが次々に生まれ蓄積され続けており，「ビッグデータ」という言葉が次第に社会に浸透している。このようなこともあり，社会の中で統計学への関心が高まっており，データをもとに意思決定できる人材への期待は増している。しかしながら，実際にデータを活用できる人材は不足しているのが現状である。データをもとに意思決定するためには，目的に応じてデータを適切に取得し統計学的知識を用いて活用する方法を学ばなくてはならない。14 回に渡って記述統計学，推測統計学の順に統計学の概要を説明していく。まずは 1 変数データの要約および 2 変数データの要約などの記述統計の基礎を固め，その後，推測統計の基礎となる確率変数や母集団と標本の関係を紹介し，標本分布という重要な概念を理解する。その後，推定や仮説検定という推測統計の基礎を身に付けることができるよう学習を進めていく。

Data is being continuously generated in large quantities to the point that the term “big data” is gradually permeating the vocabulary of general society. As a result of this, general societal interest in statistics has risen, and the need for people who can make decisions after interpreting data has increased. Nevertheless, there is still a distinct shortage of individuals capable practically applying data. In order to make a decision based on data, it is necessary to learn how to acquire data appropriately according to it’s purpose and utilize it using statistical knowledge. The outline of Statistics is explained over 14 classes in the order of descriptive statistics to inferential statistics. First, the basic of descriptive statistics such as summarization of 1 variable data and summarization of 2 variable data, etc., is solidified, and then, the relationship between random variables and population and sample as a basis of inferential statistics is introduced, and the important concept of sample distribution is understood. After that, we will advance further so that the basis of inferential statistics of estimation and hypothesis testing can be acquired.

授業計画(Course Schedule)

1. 社会と統計
2. 1 変数データの要約
3. 1 変数データの要約(演習)
4. 2 変数データの要約
5. 2 変数データの要約(演習)
6. 確率変数(離散型確率変数)
7. 確率変数(連続型確率変数)
8. ABC 分析
9. 統計的推測の基礎(母集団と標本)
10. 区間推定(母平均の区間推定)
11. 区間推定(母比率の区間推定)
12. 仮説検定の発想
13. 母平均の検定
14. 母平均の差の検定

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は，必要に応じて別途指示する

成績評価方法・基準(Evaluation)

複数回の課題学習活動(100%)

テキスト（Textbooks）

特に指定しない。
資料を配付予定。

参考文献（Readings）

1. 鳥居泰彦、1994、『はじめての統計学』、日本経済新聞社 (ISBN:9784532130749)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

全授業回のうち対面授業を行うのは 4 回以下（対面授業の具体的な実施回は Blackboard で指示する）。

本科目では、実際の社会調査で得られたデータを用いる可能性がある（データの利用のための誓約事項がある場合あり）。

注意事項（Notice）

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL176／統計学2 (Statistics 2)		
担当者名 (Instructor)	山口　誠一(YAMAGUCHI SEIICHI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5800	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

目的に応じて適切な多変量解析を実行できる力を身につける

Acquire the ability to perform appropriate Multivariate Analysis according to the goal

授業の内容(Course Contents)

大量で多様なデータが次々に生まれ蓄積され続けており，「ビッグデータ」という言葉が次第に社会に浸透している。このようなこともあり，社会の中で統計学への関心が高まっており，データをもとに意思決定できる人材への期待は増している。しかしながら，実際にデータを活用できる人材は不足しているのが現状である。データをもとに意思決定するためには，目的に応じてデータを適切に取得し統計学的知識を用いて活用する方法を学ばなくてはならない。
まずは，統計分析の中でも特に使用されることの多い分散分析や回帰分析について学習し，SPSS や EXCEL などのソフトウェアを用いて実際にデータの分析を行う。その後，より応用的な共分散構造分析等の手法について学んでいく。授業では統計的知識の講義を行う時間と，学んだ内容を SPSS や Amos といった PC ソフトウェアを用いて実行する時間を設ける。様々なデータを実際に分析することで，より実践的な授業を目指す。

Data is being continuously generated in large quantities to the point that the term “big data” is gradually permeating the vocabulary of general society. As a result of this, general societal interest in statistics has risen, and the need for peopl e who can make decisions after interpreting data has increased. Nevertheless, there is still a distinct shortage of individuals capable practically applying data. In order to make a decision based on data, it is necessary to learn how to acquire data appropriat ely according to it’s purpose and utilize it using statistical knowledge.

First, we will study statistical analysis of variance and regression, which are often used in statistical analysis, and actually analyze data using software such as SPSS and EXCEL. After that, we will learn more about techniques such as more applied covariance structure analysis, etc. In this class, time for lectures on statistical knowledge and time for executing the contents learned using PC software such as SPSS and Amos are provided. By actually analyzing various data, the goal is to be a more practical class.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 演習(PC ソフトウェアなどで)
3. 分散分析
4. 分散分析　演習(PC ソフトウェアなどで)
5. 単回帰分析
6. 単回帰分析　演習(PC ソフトウェアなどで)
7. 重回帰分析①
8. 重回帰分析①　演習(PC ソフトウェアなどで)
9. 重回帰分析②
10. 重回帰分析②　演習(PC ソフトウェアなどで)
11. 多変量解析①
12. 多変量解析②
13. 多変量解析③
14. 多変量解析④

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する

成績評価方法・基準(Evaluation)

複数回の課題学習活動(100%)

テキスト(Textbooks)

特に指定しない。
資料を配付予定。

参考文献(Readings)

1. 鳥居泰彦、1994、『はじめての統計学』、日本経済新聞社 (ISBN:9784532130749)
2. 竹原卓真、2007、『SPSS のススメ<1>』、北大路書房 (ISBN:978-4762825514)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

統計学 1 の内容(推定・仮説検定の基礎)を習得していることが望ましい。

全授業回のうち対面授業を行うのは 3 回以下(対面授業の具体的な実施回は Blackboard で指示する)。

本科目では、実際の社会調査で得られたデータを用いる可能性がある(データの利用のための誓約事項がある場合あり)。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL177／調査法1 (Business Research Methods 1)		
担当者名 (Instructor)	鶴見　裕之(TSURUMI HIROYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5800	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

受講者が調査を実施し，その結果を分析するために必要な基礎知識を習得することを目標とする。

The goal of this study is to acquire the basic knowledge necessary for the participants to carry out investigations and analyze the results.

授業の内容(Course Contents)

調査法とは人々の意識や行動の特徴，社会的事実や社会現象，仕組みなどを明らかにする科学的方法である。
調査には
・国勢調査，労働力調査など政府および公的機関が行う「行政調査」
・消費者の購入実態や需要の把握を目的に民間企業などが行う「市場調査」
・人々の政治や社会問題に対する意識や意見を把握するためにマスコミなどが行う「世論調査」
・学術的な関心のもと研究者が行う「学術調査」
などさまざまな種類がある。それぞれは用途の違い等からこのように分類されているが，基本的な調査方法に違いはない。
本講義では，授業とディスカッション，グループワーク，実習により，受講者が調査を実施し，その結果を分析するために必要な基礎知識の習得を目指す。

The investigation method is a scientific method which clarifies the features of consciousness and actions of people, social facts and phenomena, mechanisms, etc.
In an investigation:
・Government and public institutions perform “administrative investigations” such as population census and manpower investigations.
・Private companies, etc. perform “market investigations” for the purpose of grasping the actual purchase conditions and demands of consumers.
・“Public opinion investigations” are performed by mass media to understand people’s attitudes and opinions about politics and social issues.
・“Academic investigations” are performed by researchers of academic interests.
There are various types of investigations such as these. Each of them is classified in this way due to their difference in use, etc., but there is no difference in the basic methods of an investigation.
In this lecture, we will investigate by class, discussion, group work, and practical training and the goal is to acquire basic knowledge necessary to analyze the results.

授業計画(Course Schedule)

1. 調査法の概要
2. 仮説・仕様の設定
3. 項目作成・構成 1
4. 項目作成・構成 2
5. 項目作成・構成 3
6. 項目作成・構成 4
7. 標本の抽出 1
8. 標本の抽出 2
9. 調査の実施・実地調査 1
10. 調査の実施・実地調査 2
11. データの整理と分析 1
12. データの整理と分析 2
13. データの整理と分析 3
14. データの整理と分析 4

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

ビジネスの現場におけるデータ活用の可能性に関して日頃から問題意識を持って考えて頂きたく思います。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席および課題提出(40%)/最終テスト(Final Test)(20%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

【授業方法】
第 1・2 回、第 9・10 回、第 11・12 回、第 13・14 回はオンライン実施予定。
その他は対面実施予定。

【注意事項】
本講義は積み上げ式の講義となっており、大幅な遅刻や欠席が続く場合、講義について行けなく可能性が高くなりますので注意して下さい。
また、オンライン実施の際に、発話できない状態での参加は出来ませんのでご留意下さい(発話できる環境を準備頂き、ご参加下さい)。

【双方向による授業割合】
71%(上記「授業計画」1～10 はディスカッション主体の講義となります。)
※5 年以上の実務家教員

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL178／調査法2 (Business Research Methods 2)		
担当者名 (Instructor)	鶴見　裕之(TSURUMI HIROYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5800	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

調査データを処理する能力，具体的には，検定と多変量解析を利用した分析方法を習得することを目標とする。

The goal is to acquire the ability to process the investigation data, specifically, the analytical method using test and Multivariate Analysis.

授業の内容(Course Contents)

本講義は，受講者が調査データを処理する能力，具体的には，検定(t 検定・カイ二乗検定など)と多変量解析(回帰分析、ロジスティック回帰分析、主成分分析、クラスター分析、共分散構造分析など)を利用した分析方法を習得することを目標とする。講義は概要説明と実習(統計分析ソフトR、Rコマンダーと Excel を利用)を組み合わせて行う。また，最終回には分析方法についての理解を深めるために，受講者をグループに分け分析結果を発表してもらい，受講者全員でディスカッションを行う。

The goal of this lecture is to acquire the ability to process investigation data and to learn analysis methods using tests (t-tests/chi-square tests, etc.) and Multivariate Analysis (regression analysis, logistic regression analysis, principal component analysis, cluster analysis, covariance structure analysis, etc.). The lecture is performed by combining the outline explanation and practical training (using statistical analysis software R, R Commander, and Excel). Also, in order to deepen our understanding of the analysis method in the final class, participants will be divided into groups and the results of the analysis presented and discussions will be held by all participants.

授業計画(Course Schedule)

1. 検定 1
2. 検定 2
3. 検定 3
4. 回帰分析 1
5. 回帰分析 2
6. 回帰分析 3
7. ロジスティック回帰分析 1
8. ロジスティック回帰分析 2
9. 主成分分析
10. 因子分析
11. クラスター分析 1
12. クラスター分析 2
13. 共分散構造分析
14. プレゼンテーション

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

Excel の基礎的な操作方法について習得しておいて頂きたく思います。
また R、R コマンダーの操作に慣れるために授業後の復習課題にも取り組んで頂きたく思います。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席および課題提出(60%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

【授業方法】

第 5・6 回、第 7・8 回、第 9・10 回、第 11・12 回はオンライン実施予定。
その他は対面実施予定。

【注意事項】
本講義は調査法 1 の履修を前提とした講義です。未履修者も履修できますが、出来るだけ調査法 1 を受講することをお薦めします。
本講義は積み上げ式の講義となっており、大幅な遅刻や欠席が続く場合、講義について行けなく可能性が高くなりますので注意して下さい。
また、オンライン実施の際に、発話できない状態での参加は出来ませんのでご留意下さい（発話できる環境を準備頂き、ご参加下さい）。

【双方向による授業割合】
14%（上記「授業計画」13～14 はディスカッション主体の講義となります。）
※5 年以上の実務家教員

注意事項（Notice）
本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL179／データサイエンス基礎 (Basics of Data Science)		
担当者名 (Instructor)	嶋田　圭吾(SHIMADA KEIGO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　(一社)日本データビジネス協会		

授業の目標(Course Objectives)

現在、最も注目されているデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進する中核的な人材が、データサイエンティストです。本授業は、データサイエンティストを目指す方達の入門講座の位置付けとなる。データサイエンティストの根幹であるデータサイエンスの基礎を学ぶことで、データの基本的な扱い方、データの活用方法、データモデリング、データ分析手法などの習得を目指す。また、講義と自習を通じて、データベースの基礎や SQL での基本的なデータ操作方法を学習する。

Data scientists are the core human resources who are driving the promotion of digital transformation (DX), which is currently attracting the most attention. This class will be an introductory course for those wishing to become a data scientist. By learning the basics of data science, which is the foundation for being a data scientist, our goal is to learn basic treatment of data, utilization methods of data, data modeling, data analysis methods, etc. Also, through lectures and self-study, we will learn the basics of database and basic data operations in SQL.

授業の内容(Course Contents)

データサイエンス基礎知識の習得、データ分析プロセスやデータモデリングの理解、統計学の基礎知識学習に関しては講義形式で実施する。データ活用やデータ分析に関しては、実際のビジネス上での事例を紹介し、理解を深める。また、SQL によるデータクレンジングやデータ変換方法の学習に関しては、SQL 基礎講習と自習によりデータ操作方法を理解する。

We will learn the basics of data science, understand data analysis processes and data modeling, and learn the basic knowledge of Statistics in a lecture format. We will introduce actual cases in business and deepen our understanding of data utilization and data analysis. Also, for learning about data cleansing and data conversion methods using SQL, we will learn how to use data through SQL basic training and self-study.

授業計画(Course Schedule)

1. データサイエンスの基本概念と応用例
   データサイエンスとは何か、何を学んだら良いか、また、データサイエンスがどの様な分野でどんな形で実際に利用されているかなどを講義形式で分かり易く解説する。
2. データ分析プロセスの理解と実践例の紹介
   データサイエンスの中で大きなウエイトを占めているデータ分析に関して、その分析手法や分析プロセスを学習する。講義に合わせて、具体的な分析プロセスの実例を紹介する。
3. データモデル概念の理解とプロトタイプモデル作成演習
   データを扱う上で、基本であり、かつ最も重要なデータモデルに関して、モデリング手法やデータモデル作成方法の基本を学習する。また、例題を使い、実際にプロトタイプモデルを作成する演習を行う。
4. データサイエンスに必要な統計手法と具体的な利用例
   データサイエンスで必要となる最低限の統計手法を学習する。理解を深めるため、統計手法の具体的な利用例を交えて解説する。
5. ビックデータの活用方法と現状
   ビックデータとは何か、何故大きな話題となったのかを解説する。また、ビックデータが実際にどのように活用されているのかという現状を紹介する。
6. 新しいIT技術の活用
   最近話題となっているAI、IoT、ブロックチェーンなど、最新のIT動向を解説しながら、データサイエンスとの関連や今後の展望に関して解説する。
7. 【事例紹介】顧客データ分析事例
   顧客データ分析の事例を使い、顧客統合や名寄せの手法、分析手順などを紹介する。
8. 【事例紹介】購買データ分析事例
   原価の削減や代替品候補の選定などで使われている購買データ分析の事例を紹介する。また、事例を通して購買業務に関して理解を深める。
9. 【事例紹介】製造原価分析事例
   グローバル製造業全体の課題でもある製造原価分析に関して、先進的なグローバル製造企業が、現在どのような方法で原価分析を行っているかを紹介する。
10. 販売データ分析演習

販売データの代表であるPOSデータを使い、販売データ分析に関して理解を深める。
販売データ分析における課題と分析時の重要なポイントを理解する。

11. 貸借対照表による財務分析の基礎
貸借対照表を使った財務分析の基礎を学習し、売上分析を例とした場合、実際どのような手順で分析を行なうのかを理解する。
12. ビックデータ分析事例
IoTデータを使ったビックデータ解析に関して、実際のデータを確認しながら、ビックデータの基本的な解析手順や解析手法を理解する。
13. データクレンジング概念の理解と具体的なクレンジング事例紹介
データサイエンティストの仕事の 80%を占めると言われているデータクレンジングに関して、何のために、どんな手法でデータクレンジングを行うのかを具体例を交えて解説する。
14. データベースの基礎とデータサイエンスのまとめ
データベースの基礎と SQL に関して学習する。また、講義全体の復習とまとめを行う。

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

11 回目の授業までに、損益計算書がある程度読めるくらいまでの基礎を学習しておくこと。
復習に関しては、各回の授業終了時に指示する。
数学、統計、ITの知識がない方でも受講可能な内容となっている。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(40%)/授業への参加・発言(60%)

テキスト（Textbooks）

毎回、プリントを配布。

参考文献（Readings）

1. 青木 峰郎、2015、『10 年戦えるデータ分析入門』、SB クリエイティブ (ISBN:ISBN978-4797376272)
2. 西内 啓、2014、『統計学が最強の学問である[実践編]』、ダイヤモンド社 (ISBN:ISBN978-4478028230)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本科目を履修する場合、本科目と関連の深い日本データビジネス協会が提供するデジタルトランスフォーメーションモジュール内の他の科目を併せて履修することを推奨する。必須ではない。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL180／デジタル・ビジネスプランニング (Digital Business Planning)		
担当者名 (Instructor)	青木　明彦(AOKI AKIHIKO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　(一社)日本データビジネス協会		

授業の目標(Course Objectives)

デジタルビジネストランスフォーメーションが加速する昨今、ビジネスにおける競争優位獲得のための経営戦略立案において、データ活用の必要性がこれまで以上に重要視されている。本科目では、AI 等最新技術およびデータを活用した「デジタル・ビジネスプランニング」を学び、実践的な「データサイエンティスト」を目指す。デジタル技術とデータを活用した新規ビジネスの創出および業務改善のための実践的なスキルと知識を学びたい人向けの内容となっている。

The necessity of the data utilization is more important in the management strategy planning for competitive superiority acquisitions in business more than before these days as the digital business transformation is accelerating. In this discipline, we will learn "Digital Business Planning" utilizing the latest AI technologies and data, and our goal is to become a practical "data scientist". The content is for people who want to learn practical skills and knowledge for creating new businesses and business improvements using digital technology and data.

授業の内容(Course Contents)

多種多様なデジタル・ビジネス事例をケーススタディする。デジタル・ビジネスにおいてデータ活用は必須でありデータおよびその活用方法についての基礎を学ぶ。またプランニングの手順を含めた方法についても学ぶ。マーケティング、IT などプランニングに必要となる知識については概要レベルで全体を講義する。幅広い知識を必要とするが、高度な専門知識は前提としない。終盤は各自またはグループでデジタル・ビジネスプラン作成にチャレンジする。

We will study a diversity of digital business cases. In digital business, data utilization is essential, and we will learn the basics of data and how to utilize it. Also, we will learn methods including planning steps. A general lecture on the knowledge required for planning such as marketing and IT will be given at an overview level. Requires extensive knowledge, but advanced specialization is not assumed. At the end of the course, we will challenge ourselves or our group to create a digital business plan.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション:「AI、IoT と中心としたデジタルトランスフォーメーションの実態」「データ活用の現状」最新の事例からデジタルビジネスを俯瞰する。
2. データマネジメント
   データマネジメント知識体系ガイドに沿ってデータ活用の基礎を理解する。
3. デジタル・ビジネスプランニング概論
   デジタル・ビジネスプランの全体構成を学び、各自の領域におけるプランニングテーマを設定する。
4. データサイエンティストの知識とスキル
   データサイエンティストで必要に必要な知識とスキルについて学ぶ。
5. データ活用事例研究1(ビッグデータ)
   SNS が生み出すビッグデータのマーケティング領域での活用事例について考察する。
6. データ活用事例研究2(オープンデータ・クローズドデータ)
   オープンデータと企業内クローズドデータによる活用事例について考察する。
7. デジタル・ビジネスプランニングメソッド
   プランニングのアプローチ方法、目的、手順、成果物について学ぶ。
8. データデザイン(データの定義・収集・加工・分析)
   デジタル・ビジネスプランニングに必要なデータデザインについて学ぶ。
9. プロジェクトマネジメント
   デジタル・ビジネスプラン実行プロジェクトのマネジメントについて学ぶ。
10. クラウド活用
    クラウドサービスの活用について学ぶ。
11. デジタル・ビジネスプランニング演習 1
    学習してきた方法に基づき各自またはチームでプランニングを行う。
12. デジタル・ビジネスプランニング演習 2
13. デジタル・ビジネスプランの評価 1
    演習で作成したプランをそれぞれ発表し、検討評価する。
14. デジタル・ビジネスプランの評価 2

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

11、12 の演習内容は、レポート（プレゼン資料）提出となる。
最新鋭インターネットデータセンターの見学を予定している。（希望者 5 名以上で実施）感染症の状況によって希望者が 5 名以上でも中止する可能性がある。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(40%)/授業の参加度・発言(60%)

テキスト（Textbooks）

毎回、資料を配布する。

参考文献（Readings）

特定の文献は使用しない。授業中必要な情報はオンライン参照する。参考となる文献は都度紹介する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本科目を履修する場合、他のデジタルビジネストランスフォーメーションモジュール内科目との関連が高いため、興味があり可能であればモジュール内科目を併せて履修することを推奨する。必須ではない。
授業実施形態については、一部対面授業を予定している。感染症の状況によっては、ほとんどの授業がオンラインになる可能性がある。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL181／経営学基礎1 (Introduction to Management 1)		
担当者名 (Instructor)	木村　剛(KIMURA TSUYOSHI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本コースは、経営学の基礎的な概念、理論を習得するための入門的な科目である。経営学基礎1・2を通じて経営戦略を中心とする経営学を幅広く取り扱うが、経営学基礎1では、経営戦略論、戦略経営論および財務分析論の基礎的項目の理解を目的としている。

This course is an introductory discipline for learning the basic concepts and theories of Business Management. We handle a wide range of Business Management, focusing on management strategy, through Introduction to Management 1 and 2, but Introduction to Management 1 aims to understand basic items of corporate strategy, strategic management theory, and financial analysis theory.

授業の内容(Course Contents)

ビジネススクールでの学修とは、与えられた課題を仲間と議論するプロセスから、自ら学び・気づきを得るプロセスである。経営学基礎1では、ビジネススクールでの学修のための基礎スキルである「ロジカルシンキング」と「ファシリテーション」の習得から始める。続く「経営戦略論」では、どこでどう闘うのか(もしくはいかに闘いを避けるのか)を定めるためのプロセスと基本フレームワークを学ぶ。「戦略経営(Strategic Management)論」では、経営戦略の策定にとどまらず、その実行と、現場からのフィードバックによる戦略・資源転換を議論する。「財務分析論」では、財務三表のつながりを理解し、それらに表されている数字から企業の状況や戦略をいかに読み解くかを検討する。なお、講義は演習や議論を中心に行う。

Learning at a business school is a process of self learning and gaining awareness from the process of discussing a given subject together with peers. In Introduction to Management 1, we begin by learning "logical thinking" and "facilitation", which are the basic skills needed for learning at business schools. In the following "corporate strategy", we will learn the process and basic framework to determine where and how to fight (or how to avoid a fight). The "strategy management theory" is not limited to the formulation of management strategies, but also discussions on their implementation and the transformation of strategies and resources based on feedback from the field. In the "financial analysis theory", we will try to understand the connection between three financial tables and consider how to interpret the situation and strategy of the company from the figures expressed in them. In addition, lectures are focused on seminars and discussions.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 基礎スキル:ロジカルシンキング
3. 基礎スキル:ファシリテーション
4. 経営戦略論①
5. 経営戦略論②
6. 経営戦略論③
7. 総合的議論
8. 中間テスト
9. 戦略経営論
10. 財務分析論①
11. 財務分析論②
12. 財務分析論③
13. 総合的議論とコースのまとめ
14. 最終テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業計画に沿って、毎回の講義の際に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席と授業への貢献、週次の課題レポート(40%)/中間テスト(30%)/最終テスト(Final Test)(30%)
2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

1. 高橋 宏幸ほか、2011、『現代経営入門』、有斐閣 （ISBN:4641183945）
2. 網倉久永, 新宅純二 （著）、2011、『経営戦略入門』、日本経済新聞出版社 （ISBN:453213403X）
3.（株)日本総合研究所 経営戦略研究会、2008、『経営戦略の基本』、日本実業出版社 （ISBN:4534044674）
4. 國貞克則、2016、『財務 3 表一体理解法』、朝日新聞出版 （ISBN:4022736844）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

続けて「経営学基礎 2」を履修すること。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL186／経営学基礎2 (Introduction to Management 2)		
担当者名 (Instructor)	木村　剛(KIMURA TSUYOSHI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本コースは、経営学の基礎的な概念、理論を習得するための入門的な科目である。経営学基礎1・2を通じて経営戦略を中心とする経営学を幅広く取り扱うが、経営学基礎2では、マーケティング論、ファイナンス論および組織論(マクロ・ミクロ)の基礎的項目の理解を目的としている。

This course is an introductory discipline for learning the basic concepts and theories of Business Management. We handle a wide range of Business Management, focusing on management strategy, through Introduction to Management 1 and 2, but Introduction to Management 2 aims to understand basic items of marketing theory, finance theory, and organization theory (macro and micro).

授業の内容(Course Contents)

経営学基礎2では、「マーケティング論」から始める。“顧客”や“市場”というキーワードでビジネスをとらえなおし、また、消費者行動にも着目する。続く「ファイナンス論」では、経営資源のうち“カネ”に着目し、企業価値を高めるための資金調達や投資評価に関する基礎的項目を議論する。「組織論」では、“ヒト”に着目し、組織体制や制度(マクロ)およびリーダーシップや動機付けの組織行動(ミクロ)に関して議論する。なお、講義は、演習や議論を中心に行う。

In Introduction to Management 2 we will start with “marketing theory”. We will reimagine business with the keywords ″customer″ and ″market″ and also focuses on consumer behavior. In the following ″finance theory″, we focus on ″money″ among the management resources and discuss basic items related to financing and investment evaluation to increase corporate value. In ″organization theory″, we focus on ″people″ and discuss organizational structures and systems (macro) and organizational behavior (micro) of leadership and motivation. In addition, lectures will be focused on seminars and discussions.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. マーケティング論①
3. マーケティング論②
4. マーケティング論③
5. ファイナンス論①
6. ファイナンス論②
7. 総合的議論
8. 中間テスト
9. 企業論
10. 組織論概論
11. マクロ組織論
12. ミクロ組織論(組織行動論)
13. 総合的議論とコースのまとめ
14. 最終テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業計画に沿って、毎回の講義の際に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席と授業への貢献、週次の課題レポート(40%)/中間テスト(30%)/最終テスト(Final Test)(30%)
2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 沼上　幹、2008、『わかりやすいマーケティング戦略』、有斐閣 (ISBN:4641123551)
2. 二村　敏子、2004、『現代ミクロ組織論―その発展と課題』、有斐閣 (ISBN:4641086990)
3. 岸田　民樹、2005、『現代経営組織論』、有斐閣 (ISBN:4641183309)
4. 朝倉　智也、2016、『一生モノのファイナンス入門』、ダイヤモンド社 (ISBN:4478068356)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

「経営学基礎1」を履修していること。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL187／CSR1 (Corporate Social Responsibility 1)		
担当者名 (Instructor)	粟屋　仁美(AWAYA HITOMI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業の社会的責任(Corporate Social Responsibility:CSR)に関連する基本的な用語や考え方を学び、社会における企業の在り方と思考方法を修得する。

The purpose of CSR 1 is to learn basic terms and ideas related to corporate social responsibility and to learn how companies should be and think in society.

授業の内容(Course Contents)

「CSR 1」では、現代の経営に必要な CSR、コーポレート・ガバナンスなどの概念を習得し，関係を整理する。SDGs や ESG 概念との関係性も考える。

In Corporate Social Responsibility 1 (CSR 1), students acquire concepts such as CSR and corporate governance necessary for modern management and organized relationships; they examine the relationship between CSR and SDGs and ESG concepts.

授業計画(Course Schedule)

1. 経営学における CSR①
2. 経営学における CSR②SDGs や ESG
3. コーポレート・ガバナンスと CSR①
4. コーポレート・ガバナンスと CSR②
5. 企業機関と CSR①
6. 企業機関と CSR②
7. 企業は誰のものか①
8. 企業は誰のものか②
9. 戦略的 CSR①
10. 戦略的 CSR②
11. CSV と CSR①
12. CSV と CSR②
13. CSR、SDGs や ESG の本質を問う
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習:課題文献を読んで臨む
復習:講義ノートを必ず見返し、理論をまとめる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内演習(60%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

特に教科書は使いません。

参考文献(Readings)

1. 粟屋仁美、2012、『CSR と市場』、立教大学出版会 (ISBN:4901988190)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

【系統的履修】「CSR1」と「CSR2」を併せて履修することが望ましい。
初回は対面実施とし、以後は履修者の皆さんとの相談により決定します。
受講人数によっては、講義構成を変更する場合もあります。その際は周知します。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL188／CSR2 (Corporate Social Responsibility 2)		
担当者名 (Instructor)	粟屋　仁美(AWAYA HITOMI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現在の企業経営における意思決定に必要な、CSR の視座を学ぶことを目標とする。

The purpose of CSR 2 is to learn the perspective of CSR necessary for management decisions

授業の内容(Course Contents)

「CSR 2」では、今、企業に問われている CSR とは何か、その背景、そして世界の企業の行動指針やガイドライン、CSR の取り組み事例を学ぶ。SDGs や ESG 概念と共に、企業の経済性と社会性のバランスのとり方について考える。

In Corporate Social Responsibility 2 (CSR 2), students learn (1) what CSR is currently being asked of companies; (2) CSR's background; (3) about action guidelines and guidelines of companies around the world; and (4) about examples of CSR initiatives. Students also consider how to balance the economic and social aspects of a company, along with the SDGs and ESG concepts.

授業計画(Course Schedule)

1. 経営者の責任と義務①
2. 経営者の責任と義務②
3. 企業倫理①
4. 企業倫理②
5. 中小企業の CSR①
6. 中小企業の CSR②
7. 多様性と CSR①
8. 多様性と CSR②
9. 事例検討　現代の CSR(CSR における SDGs や ESG 概念の役割)
10. 事例検討　現代の CSR(CSR における SDGs や ESG 概念の役割)
11. 事例検討　現代の CSR(CSR における SDGs や ESG 概念の役割)
12. 事例検討　現代の CSR(CSR における SDGs や ESG 概念の役割)
13. 事例検討　現代の CSR(CSR における SDGs や ESG 概念の役割)
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習:関連領域の知識や情報を得る
復習:講義ノートを必ず見返し、CSR の考え方をまとめる

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内演習(70%)/最終レポート(Final Report)(30%)

テキスト(Textbooks)

特に使いません

参考文献(Readings)

1. 粟屋仁美、2012、『CSR と市場』、立教大学出版会 (ISBN:4901988190)
その他は、授業内で紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

【系統的履修】「CSR1」と「CSR2」を併せて履修することが望ましい。
初回は対面実施とし、以後は履修者の皆さんとの相談により決定します。
受講人数によっては、講義構成を変更する場合もあります。その際は周知します。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL201／マーケティング・エッセンシャルズ１ (Marketing Essentials 1)		
担当者名 (Instructor)	斎藤　明(SAITO AKIRA)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. マーケティング・マネジメントにおける基本的概念やフレームワークの理解
2. 今後のマーケティング分野での発展科目の履修や自律的研究に向けた基盤の確立

1. Understanding basic concepts and frameworks in marketing management
2. Acquiring basic knowledge and methods for conducting advanced research in the marketing field

授業の内容(Course Contents)

マーケティングは 20 世紀初めに市場創造の理念や方法として開発され、以来ビジネスにおいて重要な役割を果し続けています。今日、マーケティングは、ビジネス(製造業、流通業、サービス業等)だけでなく、行政機関や地域、非営利組織へと活用領域を広げています。
本講義は、マーケティングの基本的な考え方と活動を中心に学習し、今後のマーケティング分野での発展科目の履修や当該分野自律的学習に向けた基礎的準備講座とします。

Marketing was developed at the beginning of the 20th century as an idea and method of market creation and has played an important role in business since that time. Today, marketing is applied not just to business (manufacturing, distribution, service, etc.), but also to administrative organizations, regions, and nonprofit organizations.
This lecture will focus on the basic concepts and activities of marketing, and will be a basic preparatory class for advanced disciplines of marketing study.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション:マーケティングとは
2. 発展の歴史／マーケティング・マネジメントの基本的な考え方
3. マーケティング環境:各市場の特徴／:標的市場の設定
4. マーケティング・ミックスとは
5. 製品政策(1):製品概説(製品分類／製品ミックス概念)
6. 製品政策(2):プロダクトライフサイクルとマーケティングミックス
7. 価格政策(1):価格概説
8. 価格政策(2):上澄価格と浸透価格
9. 流通政策(1):流通チャネル概説
10. 流通政策(2):流通諸理論
11. マーケティング・コミュニケーション政策(1):マーケティング・コミュニケーション概説
12. マーケティング・コミュニケーション政策(2):広告・PR・SP・人的販売
13. 最終課題報告
14. 最終課題報告

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前学修(予習):前回までの復習を実施し、授業に参加する。
事後学修(復習):授業内で詳細された概念等に関して整理し、ノートを作成し、理解を促進する。
上記プロセスを繰り返し、授業内容の理解を獲得し、自律的学修を促進することを推奨しています。

成績評価方法・基準(Evaluation)

課題プレゼンテーション(60%)/授業内ディスカッションへの貢献度(40%)

テキスト(Textbooks)

講義資料は、ブラックボード等で、配布する。
テキストについては、講義時に紹介する。

参考文献(Readings)

1. 和田　充夫 (編集), 日本マーケティング協会 (編集)、2005、『マーケティング用語辞典 (日経文庫)』、日本経済新聞社

(ISBN:4532110742)
2. 有馬 賢治 (著), 岡本 純 (著), 斎藤 明 (著), 長崎 秀俊 (著), 宮下 雄治 (著)、2016、『マーケティング・オン・ビジネス―基礎からわかるマーケティングと経営』、新世社 (ISBN:4883842347)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

※原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。但し、状況により 1 回程度対面実施を検討する。

※適宜、関連する実務家ゲストスピーカーを招く予定です。

本講義は、マーケティングの基本的な考え方を中心に学習し、そうしたマーケティング分野での発展科目の履修や自律的学習に向けた基礎的内容となりますので、履修時に、注意してください。
本研究科では、マーケティング分野において、多くの発展科目・応用科目(B2B,、サービス、ブランド、グローバル、ストラテジー等)が開講されています。

実務で関連した業務(営業系業務)経験や、学部レベルで基礎的専門用語や概念について学習した経験のある方は、本科目の履修を経ずに、多く開講されている発展科目・応用科目の積極的な履修を推奨します。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL205／マーケティング・エッセンシャルズ２ (Marketing Essentials 2)		
担当者名 (Instructor)	斎藤　明(SAITO AKIRA)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. マーケティング・マネジメントにおける基本的概念やフレームワークの理解
2. 今後のマーケティング分野での発展科目の履修や自律的研究に向けた基盤の確立

1. Understanding basic concepts and frameworks in marketing management
2. Acquiring basic knowledge and methods for conducting advanced research in the marketing field

授業の内容(Course Contents)

マーケティングは 20 世紀初めに市場創造の理念や方法として開発され、以来ビジネスにおいて重要な役割を果し続けています。今日、マーケティングは、ビジネス(製造業、流通業、サービス業等)だけでなく、行政機関や地域、非営利組織へと活用領域を広げています。
本講義は、マーケティングの基本的な考え方と活動を中心に学習し、今後のマーケティング分野での発展科目の履修や当該分野自律的学習に向けた基礎的準備講座とします。

Marketing was developed at the beginning of the 20th century as an idea and method of market creation and has played an important role in business since that time. Today, marketing is applied not just to business (manufacturing, distribution, service, etc.), but also to administrative organizations, regions, and nonprofit organizations.
This lecture will focus on the basic concepts and activities of marketing, and will be a basic preparatory class for advanced disciplines of marketing study.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション／サービスマーケティング(1):サービス概説
2. サービスマーケティング(2):SD ロジック・価値共創
3. ブランド(1):諸概念
4. ブランド(2):ブランディング
5. 消費者行動(1):消費者行動概説(意思決定プロセス)(影響要因)
6. 消費者行動(2):消費者行動諸概念(態度・関与)
7. 消費者行動(3):消費者行動諸概念(流行、クチコミ他)
8. ソーシャルマーケティング／非営利組織のマーケティング
9. ゲスト・スピーカーによる実践報告(A)
10. ゲスト・スピーカーによる実践報告(A)
11. ゲスト・スピーカーによる実践報告(B)
12. ゲスト・スピーカーによる実践報告(B)
13. 最終課題報告
14. 最終課題報告

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前学修(予習):前回までの復習を実施し、授業に参加する。
事後学修(復習):授業内で詳細された概念等に関して整理し、ノートを作成し、理解を促進する。
上記プロセスを繰り返し、授業内容の理解を獲得し、自律的学修を促進することを推奨しています。

成績評価方法・基準(Evaluation)

課題プレゼンテーション(60%)/授業内ディスカッションへの貢献度(40%)

テキスト(Textbooks)

講義資料については、ブラックボード等で配布する。
テキストについては、授業内に紹介する。

参考文献(Readings)

1. 和田　充夫 (編集), 日本マーケティング協会 (編集)、2005、『マーケティング用語辞典 (日経文庫)』、日本経済新聞社

(ISBN:4532110742)
2. 有馬 賢治 (著), 岡本 純 (著), 斎藤 明 (著), 長崎 秀俊 (著), 宮下 雄治 (著)、2016、『マーケティング・オン・ビジネス―基礎からわかるマーケティングと経営』、新世社 (ISBN:4883842347)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

※原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。但し、状況により 1 回程度対面実施を検討する。

※適宜、実務家ゲストスピーカーを招く予定です。

本講義は、マーケティングの基本的な考え方を中心に学習し、そうしたマーケティング分野での発展科目の履修や自律的学習に向けた基礎的内容となりますので、履修時に、注意してください。
本研究科では、マーケティング分野において、多くの発展科目・応用科目(B2B,、サービス、ブランド、グローバル、ストラテジー等)が開講されています。

実務で関連した業務(営業系業務)経験や、学部レベルで基礎的専門用語や概念について学習した経験のある方は、本科目の履修を経ずに、多く開講されている発展科目・応用科目の積極的な履修を推奨します。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL211／サービス・マーケティング1 (Services Marketing 1)		
担当者名 (Instructor)	田中　道昭(TANAKA MICHIAKI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

サービス産業全般に対するサービス経営学の中核としてのサービス・マーケティング、サービス産業全般に対するマーケティングとしてのサービス・マーケティング(広義のサービスに関するマーケティング、政治マーケティング等も含む)を実践的に学ぶ

In this course, we will learn practically about service marketing as a core area of Service Business Management, and service marketing as a marketing strategy for the service industry in general (including service marketing and political marketing in a broad sense).

授業の内容(Course Contents)

この授業では、サービス・マーケティングをサービス産業全般に対するサービス経営学の中核領域と捉えてサービス・マーケティングを学んでいく。
サービス産業の特徴やその重要性をカバーした後で、サービス経営学全般を鳥瞰し、サービス・マーケティングの基礎知識をカバー、そしてその詳細について学んでいく。
カバーする業種には、医療・介護、ホテル・旅行、アミューズメント・エンターテイメント、飲食、IT、生命保険、銀行・証券、その他サービス業等を含むものとする。 選挙戦及び政権運営を対象とする政治マーケティングも対象とする。
このような位置付けと問題意識を踏まえて、マーケティング戦略である STP、マーケティング戦術である 7P とサービスミックス、企業のポジショニングそのものであるブランディングというマーケティングの要諦のなかでサービス・マーケティングを策定し、実際に実行していく手法を学んでいく。
特にサービス・マーケティングの中核となるブランディングに重点を置き、サービスブランディングのみならず、店舗ブランディング、そして経営者や開発者のセルフブランディング、コーポレートブランディングについてもカバーしていく。 またサービスにおける顧客心理と購買心理過程においては、実際に想定顧客とのロープレ演習等も行い、実践的にクラスを進めていく。

In this class, we will learn about service marketing, consider service marketing as a core area of Service Business Management Studies for the service industry as a whole.
After covering the characteristics of the service industry and its importance, we will cover all aspects of Service Business Management, covering basic knowledge of service marketing, and deepen our knowledge about it.
The business categories covered include medical and nursing care, hotel and travel, amusement and entertainment, food and beverage, IT, life insurance, banking and securities, and other services. It also covers political marketing for election campaigns and government operations.
Based on the position and awareness of the problem, we will learn how to develop and implement service marketing by developing marketing strategies such as STP, marketing tactics such as 7P and service mix, and branding, which is the positioning of a company.
In particular, we will focus on company branding, which is the core of service marketing, and will cover not only service branding, but also store branding, and self-branding and corporate branding for managers and developers. Also, in terms of customer psychology and purchasing psychology in service, we will also actually perform roleplay seminars with the supposed customer, and proceed with the class in a practical way.

授業計画(Course Schedule)

1. サービス産業の特徴とサービス経営学(1)
2. サービス産業の特徴とサービス経営学(2)
3. サービス・マーケティングの基礎知識(1)
4. サービス・マーケティングの基礎知識(2)
5. サービス・マーケティングにおける STP 戦略(1)
6. サービス・マーケティングにおける STP 戦略(2)
7. サービス・マーケティングにおける 7P 戦術とサービスミックス(1)
8. サービス・マーケティングにおける 7P 戦術とサービスミックス(2)
9. サービスブランディング(1)
10. サービスブランディング(2)
11. 選挙及び政権運営(統治)を対象とする政治マーケティング(1)
12. 選挙及び政権運営(統治)を対象とする政治マーケティング(2)

13. サービスにおける顧客心理と購買心理過程（1）
14. サービスにおける顧客心理と購買心理過程（2）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

予め経営戦略、マーケティング戦略等の基礎的な科目を履修しておくことを推奨するが、これらの履修がなくても理解できるような授業運営を行う。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(20%)/期中レポート(20%)/クラス貢献(20%)/他の受講生への貢献(20%)/プレゼンテーション(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 田中道昭、2012、『ミッションの経営学』、すばる舎リンケージ （ISBN:ISBN978-4-7991-0164-3）
2. 田中道昭、2013、『人と組織 リーダーシップの経営学』、すばる舎リンケージ （ISBN:ISBN978-4-7991-0236-7）
3. フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー、2008、『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント』、ピアソン・エデュケーション （ISBN:ISBN978-4-89471-657-5）
4. 田中道昭、2017、『アマゾンが描く 2022 年の世界』、PHP 研究所 （ISBN:ISBN978-4-569-83733-8）
5. 田中道昭、2019、『GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略』、日本経済新聞出版社 （ISBN:ISBN978-4532322656）

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

参考文献（Readings）

1. 竹内一正、2014、『イーロン・マスクの挑戦』、宝島社 （ISBN:ISBN978-4-8002-2848-2）
2. フィリップ・コトラー、2010、『コトラーのマーケティング 3.0』、朝日新聞出版 （ISBN:ISBN978-4023308398）
3. ロバート・スコーブル/シェル・イスラエル、2014、『コンテクストの時代』、日経 BP 社 （ISBN:ISBN978-4-8222-5047-8）
4. ケビン・レーン・ケラー、2010、『戦略的ブランド・マネジメント』、東急エージェンシー （ISBN:ISBN978-4-88497-112-0）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【双方向による授業】
本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。
【実務家教員による授業】
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL216／サービス・マーケティング2 (Services Marketing 2)		
担当者名 (Instructor)	田中　道昭(TANAKA MICHIAKI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

すべての産業に対するホスピタリティーや顧客満足向上におけるマーケティング手法を最新のサービス工学等も交えて実践的に学んでいく

We will learn about hospitality and marketing methods for improving customer satisfaction in all industries, including the latest service engineering

授業の内容(Course Contents)

この授業では、サービス・マーケティングをサービス産業全般に対するサービス経営学の中核領域であると捉えることに加えて、すべての産業におけるホスピタリティーや顧客満足向上に対するマーケティング手法と捉えて、サービス・マーケティングを学んでいく。 具体的には、サービスの質と価値、ホスピタリティー、顧客価値、顧客満足、感動、CRM とサービス・マーケティング等のサービス・マーケティングの領域のみならず、サービス工学やサービスに関連する数理マーケティング等の先端分野も学んでいく。サービス・マーケティング 1 と同様に、特にサービス・マーケティングの中核となるブランディングに重点を置き、サービスブランディングのみならず、店舗ブランディング、そして経営者や開発者のセルフブランディング、コーポレートブランディングについてもカバーし、最終的にはコーポレートバリューとブランドバリュー向上のためのサービス・マーケティングを実践していく。 またホスピタリティー、顧客価値、顧客満足、感動においては、実際に想定顧客とのロープレ演習等も行い、実践的にクラスを進めていく。

In this class, in addition to thinking of service marketing as a core area of Service Business Management in the service industry in general, service marketing is studied as a marketing method for hospitality and customer satisfaction improvement in all industries. To be specific, we will learn not only the quality and value of services, hospitality, customer value, customer satisfaction, impression, CRM and service marketing, but also the cutting edge fields of service engineering and service related mathematical marketing. As with Service Marketing 1, in particular, we will focus on company branding, which is the core of service marketing, and will cover not only service branding, but also store branding, and self-branding and corporate branding for managers and developers and in the end, we will practice service marketing to improve the companies corporate value and brand value. Also, in terms of hospitality, customer value, customer satisfaction, and inspiration, we will also actually perform roleplay seminars with the supposed customer, and proceed with the class in a practical way.

授業計画(Course Schedule)

1. サービス工学とサービス・マーケティング(1)
2. サービス工学とサービス・マーケティング(2)
3. 数理マーケティングとサービス・マーケティング(1)
4. 数理マーケティングとサービス・マーケティング(2)
5. マネジメントシステムとサービス・マーケティング(1)
6. マネジメントシステムとサービス・マーケティング(2)
7. サービスの質と価値(1)
8. サービスの質と価値(2)
9. ホスピタリティー、顧客価値、顧客満足、感動(1)
10. ホスピタリティー、顧客価値、顧客満足、感動(2)
11. CRM とサービス・マーケティング(1)
12. CRM とサービス・マーケティング(2)
13. コーポレートバリューとブランドバリュー向上のためのサービス・マーケティング(1)
14. コーポレートバリューとブランドバリュー向上のためのサービス・マーケティング(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(20%)/期中レポート(20%)/クラス貢献(20%)/他の受講生への貢献(20%)/プレゼンテーション(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 田中道昭、2012、『ミッションの経営学』、すばる舎リンケージ (ISBN:ISBN978-4-7991-0164-3)
2. 田中道昭、2013、『人と組織 リーダーシップの経営学』、すばる舎リンケージ (ISBN:ISBN978-4-7991-0236-7)
3. 窪山哲雄、2014、『ホスピタリティ・マーケティングの教科書』、実業之日本社 (ISBN:ISBN978-4-408-59400-2)
4. 田中道昭、2017、『アマゾンが描く 2022 年の世界』、PHP 研究所 (ISBN:ISBN978-4-569-83733-8)

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

参考文献(Readings)

1. ティム・ブラウン、2014、『デザイン思考が世界を変える』、早川書房 (ISBN:ISBN978-4-15-050407-6)
2. ロバート・スコーブル/シェル・イスラエル、2014、『コンテクストの時代』、日経 BP 社 (ISBN:ISBN978-4-8222-5047-8)
3. 本村陽一、2012、『サービス工学の技術』、東京電機大学出版局 (ISBN:ISBN978-4-501-55100-1)
4. 泉田良輔、2014、『Google vs. トヨタ―自動運転車は始まりにすぎない』、角川 (ISBN:ISBN978-4-04-080023-3)
5. 田中道昭、2029、『GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略』、日本経済新聞出版社 (ISBN:ISBN978-4532322656)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

系統的履修
サービス・マーケティング1を履修しておくこと。
【双方向による授業】
本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%(14 回中 14 回)である。
【実務家教員による授業】
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL221／マーケティング・リサーチ1 (Marketing Research 1)		
担当者名 (Instructor)	斎藤　明(SAITO AKIRA)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

マーケティング・リサーチの基本概念と枠組みを理解する

The goal of this course is to provide an understanding of the basic concepts of marketing research.

授業の内容(Course Contents)

マーケティング・リサーチとは，マーケティング活動に必要な意思決定上のリスクの軽減を目的とし，マーケティング意思決定に必要な諸情報を収集・分析する機能を有しています。
本講義では，マーケティング・リサーチに関する基本概念、特に定性調査の理解を目的とし，マーケティング・リサーチの基本的な考え方について学習します。

Marketing research has the function of collecting and analyzing various types of information necessary for marketing decision-making, with the aim of reducing decision-making risks in marketing activities.
In this course, we aim to understand the basic concepts of marketing research, especially qualitative research, and learn about the basic ideas of marketing research.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：消費者理解とマーケティングリサーチ
2. マーケティング課題とリサーチ
3. 定性調査と定量調査
4. 学術調査と実務的調査
5. 定性調査（1）：インタビュー調査
6. 定性調査（2）：インタビュー調査
7. 定性調査（3）：観察法調査
8. 定性調査（4）観察法調査
9. 実務家による実践報告（A）
10. 実務家による実践報告（A）
11. 実務家による実践報告（B）
12. 実務家による実践報告（B）
13. 期末課題報告（A）
14. 期末課題報告（B）

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

適宜講義内にて，指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

課題プレゼンテーション(60%)/授業内ディスカッションへの貢献度(40%)

テキスト(Textbooks)

適宜講義内にて，紹介する

参考文献(Readings)

関連テーマに応じて適宜講義内にて，参考文献等を紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

（1）原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。尚、状況により、1 回程度対面も検討する場合がある。
（2）大学院における専門科目として、相応の事前学習（事前課題学習等）が必須となるため、履修を希望するものは、その点について留意すること。
（3）実務家ゲストスピカ―の招聘を予定する。

（4）各回の講義内容は前後する場合がある。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL226／マーケティング・リサーチ2 (Marketing Research 2)		
担当者名 (Instructor)	斎藤　明(SAITO AKIRA)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

マーケティング・リサーチの基本概念と枠組みを理解する。

The goal of this course is to provide an understanding of the basic concepts of marketing research.

授業の内容(Course Contents)

マーケティング・リサーチとは，マーケティング活動に必要な意思決定上のリスクの軽減を目的とし，マーケティング意思決定に必要な諸情報を収集・分析する機能を有しています。
本講義では，マーケティング・リサーチに関する基本概念、特に定量調査の理解を目的とし，マーケティング・リサーチの基本的な考え方について学習します。

Marketing research has the function of collecting and analyzing various types of information necessary for marketing decision-making, with the aim of reducing decision-making risks in marketing activities.
In this course, we aim to understand the basic concepts of marketing research, especially quantitative research, and learn about the basic ideas of marketing research.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：定量調査
2. マーケティング課題とリサーチ課題
3. リサーチプロセス
4. 母集団とサンプリング
5. マーケティング分析（1）：回帰分析
6. マーケティング分析（2）：回帰分析
7. マーケティング分析（3）：χ 2 乗検定
8. マーケティング分析（4）：χ 2 乗検定
9. 実務家による実践報告（A）
10. 実務家による実践報告（A）
11. 実務家による実践報告（B）
12. 実務家による実践報告（B）
13. 期末課題報告（1）
14. 期末課題報告（2）

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

適宜講義内にて，適宜指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

課題プレゼンテーション(60%)/授業内ディスカッションへの貢献度(40%)

テキスト(Textbooks)

適宜講義内にて，適宜紹介する。

参考文献(Readings)

関連テーマに応じて適宜講義内にて，参考文献等を紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

（1）原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。尚、状況により、1 回程度対面も検討する場合がある。
（2）大学院における専門科目として、相応の事前学習（事前課題学習等）が必須となるため、履修を希望するものは、その点について留意すること。
（3）実務家ゲストスピカ―の招聘を予定する。

（4）各回の講義内容は前後する場合がある。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL231／コーポレート・ストラテジー1 (Corporate Strategy 1)		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講は経営戦略の歴史的発展経緯を把握したうえで、今日的経営戦略の全体像について、現象およびその現象の背景にある理論の理解を深めることを目的としている。

The purpose of this course is to understand the historical development of strategy, and then to deepen the understanding of the phenomenon and the theory about the overall view of strategy.

授業の内容(Course Contents)

経営戦略の歴史的変遷を理解したうえで、経営戦略の全体構造を構成する各テーマについて議論する。具体的には、現象としての事業戦略、企業戦略、市場戦略、新規事業戦略について、理論的背景を含めて議論する。各テーマでは事例分析を活用して、クラス内でディスカッションを深めることによって、各テーマの特徴と課題点を整理する。なお、受講者数によって内容や運営方法を変更することがある。

After understanding the historical transition of business strategy, each theme that constitutes the overall structure of strategy will be discussed. Specifically, business strategy, corporate strategy, market strategy, and new business strategy will be discussed, including theoretical background. For each theme, we will use case study analysis and deepen discussions within the class to sort out the characteristics and issues of each theme. Note that the content and management methods may be changed depending on the number of students.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 経営戦略論の発展
3. 経営理念
4. 企業と外部環境
5. 業界環境と SCP ロジック
6. リソース・ベースト・ビューと活動システム図
7. コストリーダーシップと差別化
8. 競争戦略とレッドクイーン理論
9. 競争の型(戦略転換)
10. 企業戦略(垂直統合と取引コスト)
11. 製品と事業のライフサイクル
12. 新規事業戦略
13. プレゼンテーション
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席・授業コミットメント(30%)/プレゼンテーション(30%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

資料と講義ハンドアウトは随時配布する。

参考文献(Readings)

1. 三谷宏治、2013、『経営戦略全史』、ディスカバリー・トゥエンティワン
2. 入山章栄、2019、『世界標準の経営理論』、ダイヤモンド社

その他資料は随時配布する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本講とコーポレート・ストラテジー2 はセットになっているため、本講から受講することが望ましい。

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL236／コーポレート・ストラテジー2 (Corporate Strategy 2)		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講は「コーポレート・ストラテジー1」を踏まえ、経営戦略に関する代表的な理論だけではなく、意思決定や戦略の実行にも焦点を当てながら、経営戦略についてより深く理解することを目的としている。

Based on "Corporate Strategy 1", this course aims to provide a deeper understanding of strategy, focusing not only on the typical theories of strategy but also on decision-making and strategic implementation.

授業の内容(Course Contents)

経営戦略は、戦略策定だけではなくそれが円滑に実行されてはじめて価値を持つ。本講では意思決定や戦略の実行にも焦点を当てて、その理論的背景を含めて議論を行う。また、現象としてのイノベーションや国際戦略とその背景にある理論に関する議論を行うことで、より幅広い視点から経営戦略を捉える。各テーマでは事例分析を活用して、クラス内でディスカッションを深めることによって、各テーマの特徴と課題点を整理する。なお、受講者数によって内容や運営方法を変更することがある。

Strategies have value not only when they are formulated but also when they are smoothly implemented. In this lecture, we will focus on decision making and strategic implementation, including the theoretical background. In addition, we will discuss innovation and international strategy as phenomena and the theories behind them in order to understand strategy from a broader perspective. In each theme, the case analysis will be used to deepen discussions within the class to sort out the characteristics and issues of each theme. Note that the content and management methods may be changed depending on the number of students.

授業計画(Course Schedule)

1. 経営戦略の全体像
2. 戦略の浸透
3. 戦略と組織：戦略の実行①
4. 戦略と組織：戦略の実行②
5. 意思決定と企業行動の理論
6. 上層部理論
7. 社会関係資本と社会ネットワーク理論
8. 企業の知識とナレッジ・ベースト・ビュー
9. 知の探索、知の深耕(両利き)①
10. 知の探索、知の深耕(両利き)②
11. 非市場戦略と制度理論
12. 資源依存理論
13. 企業と経営者
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席・授業コミットメント(30%)/プレゼンテーション(30%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

資料と講義ハンドアウトは随時配布する。

参考文献(Readings)

1. 入山章栄、2019、『世界標準の経営理論』、ダイヤモンド社
その他資料は随時配布する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

コーポレート・ストラテジー1 を受講していることが望ましい。

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL237／コーポレート・ストラテジー3 (Corporate Strategy 3)		
担当者名 (Instructor)	手塚　貞治(TEZUKA SADAHARU)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経営戦略の基礎的理論について、その背景と意義について理解し、スキルとして活用可能な形に体得することを目指す。

Our goal is to understand the basic theory of management strategy, its background and significance, and acquire it in a form in which it can be utilized as a skill.

授業の内容(Course Contents)

経営戦略の基礎的理論について、初学者にも分かりやすい形で実務的見地から講義を行う。具体的には、理論内容とその背景について事例も交えながら説明を行い、適宜、事例探索や事例分析等の形で演習を行う。なお、受講者数によって内容や運営方法を変更することがある。

We will perform a lecture on the basic theory of management strategy from a practical viewpoint in an easy to understand form for beginners. To be specific, the theoretical content and its background are explained with examples, and as appropriate, seminars in the form of case search and case analysis, etc., are performed. In addition, the above class contents and management method may be modified depending on the class size.

授業計画(Course Schedule)

1. 戦略とは
2. 戦略的思考
3. 外部環境分析
4. 内部環境分析
5. 事例演習①
6. 事例演習②
7. 事業戦略①
8. 事業戦略②
9. 事例演習③
10. 事例演習④
11. 全社戦略①
12. 全社戦略②
13. 総合演習①
14. 総合演習②

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事例分析の準備が必要な場合があるが、別途授業内で指示をする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート取組状況(50%)/演習取組状況(50%)

テキスト(Textbooks)

授業時にその都度資料を配付する。

参考文献(Readings)

授業時にその都度指示をする。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本講とコーポレート・ストラテジー4 はセットになっているため、本講から受講することが望ましい。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL238／コーポレート・ストラテジー4 (Corporate Strategy 4)		
担当者名 (Instructor)	手塚　貞治(TEZUKA SADAHARU)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経営戦略の今日テーマについて網羅的に把握し、スキルとして活用可能な形とする。

We will comprehensively grasp the theme of today's management strategy and craft it into a form that can be utilized as a skill.

授業の内容(Course Contents)

VUCA(Volatility(変動)、Uncertainty(不確実)、Complexity(複雑)、Ambiguity(曖昧))の時代と言われる今日では、不確実性のなかでイノベーションを起こし続けることが求められており、従来型戦略論の限界も指摘されている。本講義では、コラボレーション(例:ビジネスエコシステム)や未来創造(例:シナリオプランニング)など、現在進行形のテーマを俯瞰的に紹介する。そのうえでビジネスモデル論について事例を交えて詳細に検討し、最後には演習としてビジネスモデル作成を実施する。なお、参加者の状況によって変更の可能性もある。

In the era of today's VUCA, volatility, uncertainty, complexity, and ambiguity, there is a need to keep innovating amid the uncertainty, and the limitations of traditional strategy theories are also pointed out. In this lecture, we will comprehensively introduce themes of current ongoing progress, such as collaboration (example: business ecosystem) and future creation (example: scenario planning), etc. Then, the business model theory will be examined in detail with examples, and finally, business model development will be implemented as a seminar. In addition, there is also the possibility of a change depending on the situations of the participants.

授業計画(Course Schedule)

1. イノベーションとは
2. イノベーションの類型
3. 企業間連携①
4. 企業間連携②
5. 未来創造①
6. 未来創造②
7. デザイン思考①
8. デザイン思考②
9. ビジネスモデル①
10. ビジネスモデル②
11. ビジネスモデルの収益構造
12. ビジネスモデル演習①
13. ビジネスモデル演習②
14. 発表会

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

レポート取組状況(50%)/演習取組状況(50%)

テキスト(Textbooks)

授業にて適宜資料を配付する

参考文献(Readings)

授業にて適宜案内する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本講はコーポレート・ストラテジー3 の内容を理解していることが望ましい。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL243／マーケティング・ストラテジー1 (Marketing Strategy 1)		
担当者名 (Instructor)	兼村　栄哲(KANEMURA EITETSU)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

マーケティング戦略にかかわる基礎的な用語・概念・理論などを正確に理解し、さまざまなマーケティング戦略について自分なりに論理的に説明することができるようになります。

We will be able to understand the basic terms, concepts, theories, etc. related to marketing strategies accurately, and to explain various marketing strategies logically in our own way.

授業の内容(Course Contents)

「マーケティング・ストラテジー1」および「マーケティング・ストラテジー2」では、マーケティング戦略にかかわる基礎的な用語・概念・理論などをわかりやすく説明していきます。

この「マーケティング・ストラテジー1」では、①マーケティングの本質、②企業とマーケティング戦略、③競争優位の創造、④マーケティングの基本枠組み、⑤マーケティング情報とカスタマー・インサイト、⑥消費者の購買行動、⑦製品、サービス、ブランド、の領域を取り扱います。

具体的な進め方は、以下のとおりです。まず担当者が指定された箇所についてレジュメを作成し、発表します。その後、質疑応答や全員によるディスカッションを通じて、マーケティング戦略にかかわる基礎的な用語・概念・理論などが正確に理解されているか否か、一つひとつ確認していきます。

In ″Marketing Strategy 1″ and ″Marketing Strategy 2″, we will explain the basic terms, concepts, and theories etc. related to marketing strategies in an easy to understand manner.

This class, Marketing Strategy 1, will cover the seven areas of essences of marketing, businesses and marketing strategies, creation of competitive advantages, marketing basic frameworks, marketing information and customer insights, buying behavior of consumers, and products, services, and brands.

The specific procedures are as follows: First, the person in charge will make a resume for the designated place and present it. After that, through question and answer sessions and discussions among all participants, we will confirm whether or not basic terms, concepts, and theories related to marketing strategies have been accurately understood.

授業計画(Course Schedule)

1. マーケティングの本質(その1)
2. マーケティングの本質(その2)
3. 企業とマーケティング戦略(その1)
4. 企業とマーケティング戦略(その2)
5. 競争優位の創造(その1)
6. 競争優位の創造(その2)
7. マーケティングの基本枠組み(その1)
8. マーケティングの基本枠組み(その2)
9. マーケティング情報とカスタマー・インサイト(その1)
10. マーケティング情報とカスタマー・インサイト(その2)
11. 消費者の購買行動(その1)
12. 消費者の購買行動(その2)
13. 製品、サービス、ブランド(その1)
14. 製品、サービス、ブランド(その2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

①とくに専門用語に留意しつつ、事前に配布する印刷物を予習しておいてください。

②各授業の最後に指定する内容について、復習してください。

③日頃から、日本経済新聞、日経産業新聞、日経 MJ(流通新聞)などの新聞や「週刊ダイヤモンド」「週刊東洋経済」「日経ビジネス」などの雑誌を読んだり、「クローズアップ現代+」「日経スペシャル ガイアの夜明け」「日経スペシャル カンブリア宮殿」「WBS(ワールドビジネスサテライト)」を観たりするなどして、マーケティングに関心をもつ

ようにしてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/レジュメおよび発表の内容(30%)/質疑応答やディスカッションの内容(30%)

テキスト(Textbooks)

1. フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩藏直人(著)、2014 年、『マーケティング原理』、丸善出版 (ISBN:978-4-621-06622-5)

参考文献(Readings)

適宜、紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

原則として、全授業回、対面で実施する予定です。

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL244／マーケティング・ストラテジー2 (Marketing Strategy 2)		
担当者名 (Instructor)	兼村　栄哲(KANEMURA EITETSU)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

マーケティング戦略にかかわる基礎的な用語・概念・理論などを正確に理解し、さまざまなマーケティング戦略について自分なりに論理的に説明することができるようになります。

We will be able to understand the basic terms, concepts, theories, etc. related to marketing strategies accurately, and to explain various marketing strategies logically in our own way.

授業の内容(Course Contents)

「マーケティング・ストラテジー2」は、「マーケティング・ストラテジー1」に引き続く内容であり、マーケティング戦略にかかわる基礎的な用語・概念・理論などをわかりやすく説明していきます。

この「マーケティング・ストラテジー2」では、①新製品開発と製品ライフサイクル戦略、②マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供、③価格設定、④コミュニケーションによる顧客価値の説得、⑤広告とパブリック・リレーションズ、⑥人的販売と販売促進、⑦ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング、の領域を取り扱います。

具体的な進め方は、以下のとおりです。まず担当者が指定された箇所についてレジュメを作成し、発表します。その後、質疑応答や全員によるディスカッションを通じて、マーケティング戦略にかかわる基礎的な用語・概念・理論などが正確に理解されているか否か、一つひとつ確認していきます。

"Marketing Strategy 2" is a continuation of "Marketing Strategy 1", and we will explain the basic terms, concepts, and theories etc. related to marketing strategies in an easy to understand manner.

This class, Marketing Strategy 2, will cover the seven areas of new product development and product life cycle strategies, marketing channels to provide customer values, pricing, communication to convince customer values, advertising and public relations, personal selling and sales promotion, direct marketing and online marketing.

The specific procedures are as follows: First, the person in charge will make a resume for the designated place and present it. After that, through question and answer sessions and discussions among all participants, we will confirm whether or not basic terms, concepts, and theories related to marketing strategies have been accurately understood.

授業計画(Course Schedule)

1. 新製品開発と製品ライフサイクル戦略(その1)
2. 新製品開発と製品ライフサイクル戦略(その2)
3. マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供(その1)
4. マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供(その2)
5. 価格設定(その1)
6. 価格設定(その2)
7. コミュニケーションによる顧客価値の説得(その1)
8. コミュニケーションによる顧客価値の説得(その2)
9. 広告とパブリック・リレーションズ(その1)
10. 広告とパブリック・リレーションズ(その2)
11. 人的販売と販売促進(その1)
12. 人的販売と販売促進(その2)
13. ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング(その1)
14. ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング(その2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

①とくに専門用語に留意しつつ、事前に配布する印刷物を予習しておいてください。

②各授業の最後に指定する内容について、復習してください。

③日頃から、日本経済新聞、日経産業新聞、日経 MJ(流通新聞)などの新聞や「週刊ダイヤモンド」「週刊東洋経済」「日経ビジネス」などの雑誌を読んだり、「クローズアップ現代+」「日経スペシャル ガイアの夜明け」「日経スペシャル カンブリア宮殿」「WBS(ワールドビジネスサテライト)」を観たりするなどして、マーケティングに関心をもつ

ようにしてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/レジュメおよび発表の内容(30%)/質疑応答やディスカッションの内容(30%)

テキスト(Textbooks)

1. フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩藏直人(著)、2014 年、『マーケティング原理』、丸善出版 (ISBN:978-4-621-06622-5)

参考文献(Readings)

適宜、紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

原則として、全授業回、対面で実施する予定です。

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL245／ビジネスケースメソッド1 (Business Case Method 1)		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ケース分析によって、企業行動や戦略およびそれに関連する理論の理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to deepen the understanding of organizational behavior and related theories through case analysis.

授業の内容(Course Contents)

本科目は、ケースと呼ばれる企業などの戦略、組織等に関わる様々な問題が描かれている教材を用いて行われる。ケースには企業行動や戦略に関する多くの情報が書かれており、その中から重要な情報を抽出して戦略や意思決定に対する分析を行う。戦略や意思決定に「唯一の正解」は存在しないが、意思決定の質を高めるには多面的かつロジカルな分析が不可欠である。そのため、様々なケースを用いて戦略や意思決定を分析して企業行動や戦略の理解を深めることは、経営にとって重要な能力の醸成につながる。
本科目の運営はグループ討議とケース討議によって構成される。ケース内容等の運営方法は、学生数に応じて変更することもある。

This course is taught using cases, which are teaching materials that depict various issues related to strategy and organization of companies. The cases contain a lot of information about corporate behavior and strategy, and students extract important information from the cases to analyze strategy and decision making. There is no ″one right answer″ to strategy and decision making, but the multifaceted and logical analysis is essential to improve the quality of decision making. Therefore, using various cases to analyze strategy and decision making to deepen understanding of corporate behavior and strategy will help develop important skills for management.
The management of this course will consist of group discussions and case discussions. The content of the cases and other management methods may be changed depending on the number of students.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. ショートケース
3. マーケティング： ダイソン株式会社：日本市場への参入
4. マーケティング： ダイソン株式会社：日本市場への参入
5. 企業戦略： ワタベウェディング
6. 企業戦略： ワタベウェディング
7. 競争戦略： トリンプインターナショナル／ワコール
8. 競争戦略： トリンプインターナショナル／ワコール
9. イノベーション： ウーバー： 世界の移動手段を変革する
10. イノベーション： ウーバー： 世界の移動手段を変革する
11. 成長戦略： 株式会社バルスの成長戦略
12. 成長戦略： 株式会社バルスの成長戦略
13. 戦略と実行： アイリスオーヤマ株式会社
14. 戦略と実行： アイリスオーヤマ株式会社

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発言などのクラスへの貢献(30%)/ケース課題(30%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

ケースの購入方法は別途授業内で指示する。

参考文献(Readings)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL246／ビジネスケースメソッド2 (Business Case Method 2)		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ケース分析によって、戦略や意思決定およびそれに関連する理論の理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to deepen the understanding of strategy, decision making and related theories through case analysis.

授業の内容(Course Contents)

本科目は、ケースと呼ばれる企業などの戦略、組織等に関わる様々な問題が描かれている教材を用いて行われる。ケースには企業行動や戦略に関する多くの情報が書かれており、その中から重要な情報を抽出して戦略や意思決定に対する分析を行う。戦略や意思決定に「唯一の正解」は存在しないが、意思決定の質を高めるには多面的かつロジカルな分析が不可欠である。そのため、様々なケースを用いて戦略や意思決定を分析して企業行動や戦略の理解を深めることは、経営にとって重要な能力の醸成につながる。
本科目の運営はグループ討議とケース討議によって構成される。ケース内容等の運営方法は、学生数に応じて変更することもある。
ビジネスケースメソッド 2 では、ビジネスケースメソッド 1 とは異なり個人に焦点を当てたケースも扱う。

This course is taught using cases, which are teaching materials that depict various issues related to strategy and organizati on of companies. The cases contain a lot of information about corporate behavior and strategy, and students extract important information from the cases to analyze strategy and decision making. There is no ″one right answer″ to strategy and decision making, but the multifaceted and logical analysis is essential to improve the quality of decision making. Therefore, using various cases to analyze strategy and decision making to deepen understanding of corporate behavior and strategy will help develop important skills for management.
The management of this course will consist of group discussions and case discussions. The content of the cases and other management methods may be changed depending on the number of students.
Unlike Business Case Method 1, Business Case Method 2 will include cases that focus on the individual.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. ネットフリックス
3. ビジネスモデル： 再春館製薬所
4. ビジネスモデル： 再春館製薬所
5. マネジメント： GE の過去 20 年の体質転換：ジャック・ウェルチのリーダーシップ
6. マネジメント： GE の過去 20 年の体質転換：ジャック・ウェルチのリーダーシップ
7. イノベーション： 破壊的イノベーションの台頭と既存企業の対応
8. イノベーション： 破壊的イノベーションの台頭と既存企業の対応
9. 組織マネジメント： 営業マン秋山清治の迷い
10. 組織マネジメント： 昭和生命保険と平成生命保険の企業合併
11. リーダーシップ： 日産自動車 2002 年
12. リーダーシップ： 日産自動車 2002 年
13. 組織文化： グーグルを「グーグルらしく」保つ
14. 組織改革： 組織改革の危険性と落とし穴：若きマネージャーの経営再建の旅

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発言などのクラスへの貢献(30%)／ケース課題(30%)／最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

ケースの購入方法は別途授業内で指示する。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL247／ブランド・マーケティング1 (Brand Marketing 1)		
担当者名 (Instructor)	高城　幸司(TAKAGI KOJI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

10 年後も「長く愛されるブランド」 をつくるために必要なフレームワークと戦略の立て方を理解し、企業で活躍する「ブランドマネージャー」のスキルの一部を身に付け、ビジネスに活かせる状態になることを目指します。

We will understand the framework and strategy necessary to create a "brand that is loved for times to come" even after 10 years, and our goal will be to acquire a part of the skill of a "brand manager", who is active in business and be able to make use of it in the business.

授業の内容(Course Contents)

企業経営を確固たるものにするために，長く愛されるブランド＝ 「10 年ブランド」 の確立が重要です。そのためのブランド構築には，ブランドのコンセプトを明確にしてその個性を育て，認知させ，価値を高めるための様々な手法が用いられます。新ロゴマークやデザイン，競合商品との差別化，消費者とのコミュニケーションなどがそれである。こうしたブランド力が企業の成長にどのように関わるのか？具体的なケースを中心に講義を行っていきます。 また，ゲストスピーカーを交えて理解とを高める機会を数回行う予定。 基本的にはグループワーク中心の講義です。冒頭に各自の意向も確認して講義の進行は柔軟にすすめてまいります。コロナでリモートを活用する可能性がありますが、インタラクティブにすすめてまいります。

In order to consolidate corporate management, it is important to establish a brand that is loved for times to come = "10 years brand". In order to build that brand, various techniques are used to clarify the concept of the brand and to nurture, recognize, and enhance the value of its personality. A new logo and design, differentiation from competitors, and communication with consumers is needed. How does this brand power relate to the growth of the business? We will give lectures focusing on specific cases. Also, there will be several opportunities to increase our understanding together with guest speakers. Basically, it is a group work centered lecture. At the beginning, we will check the intention of each student and make the progress of the lecture flexible.

授業計画(Course Schedule)

1. ブランドとは何か？ブランドの基本を学ぶ
2. 拡大するブランド領域について理解する
3. ブランドが企業にもたらす 3 つの価値 (ブランドエクイティ)
4. 企業が取り組むブランド戦略を分析する
5. スターブランドと墓場ブランドの差を分析する
6. 墓場ブランドをスターブランドに変える条件
7. ゲストスピーカーとディスカッション (ブランドマネージャーをお招きする予定)
8. ブランドのレバレッジ効果
9. ブランドなんかいらないと主張する人の背景
10. ブランドロイヤリティーを高める
11. ブラント対比によるロイヤリティー分析1
12. ブラント対比によるロイヤリティー分析1
13. フィールドワークを活用したブランド分析
14. グループ討議を中心としたラップアップ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テーマを決めたブランド分析のために各自で調査分析を依頼することがあります。消費者目線でロイヤリティーを高めるための課題を整理していただきます。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業で指示した提出物(40%)/グループワークに対する貢献(40%)/授業での積極的な発表(20%)

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

1. デービッド・A. アーカー、2011 年、『カテゴリー・イノベーション』、日本経済新聞出版社 (ISBN:4532317509)
2. ナオミ・クライン、2001 年、『ブランドなんかいらない』、はまの出版 (ISBN:4893613251)
3. アルライズ、1999 年、『ブランディング 22 の法則』、東急エージェンシー出版部 (ISBN:488497073X)
4. フィリップコトラー、2017 年、『コトラーのマーケティング 4.0 スマートフォン時代の究極法則』、朝日新聞出版 (B074SH156R)
5. 片平秀貴、1999 年、『新版 パワー・ブランドの本質』、ダイヤモンド社 (B00F35H4LA)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL249／ブランド・マーケティング2 (Brand Marketing 2)		
担当者名 (Instructor)	高城　幸司(TAKAGI KOJI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

10 年続くブランドを構築するために必要なマーケティング戦略をより実践的に行い、ビジネス場面でも活用できる状態の実現を目指します。

In order to create a brand to last 10 years, our goal is to realize a state in which it can be utilized in the business scene by carrying out the necessary marketing strategy in a more practical manner.

授業の内容(Course Contents)

10 年ブランドをつくることが困難な時代になってきました。その背景にあるのがマーケティング手法の多様化。TVCM に頼るだけでは認知が上がっても再生＝購買につながらない。さらに販売チャンネルが力をもつことでメーカーサイドは短期的な成果を求められるようになってきたからです。一方で企業規模に関わらずブランド力を実現できる時代になったともいえます。そんな時代に即したブランドマーケティングがどうあるべきか？具体的なケースを題材に講義を行います。
上記の理解度を高めるためにゲストスピーカーをお招きする予定。

It has become a difficult time to create a brand that will last 10 years. The reason for this is the diversification of marketing methods. Just relying on TVCM does not lead to reproduction = does not lead to purchasing. Furthermore, manufacturers have come to expect short-term results because sales channels have become so powerful. On the other hand, it is thought that it has became an age when brand power can be realized regardless of the scale of the business. How should brand marketing be in line with the times? We will give lectures on the topic of specific cases.
In order to increase the level of understanding of the above, we are scheduled to invite guest speakers.

授業計画(Course Schedule)

1. 10 年ブランドの要素を押さえる
2. ペルソナをイメージする
3. 製品をイメージする
4. ウォンツとベネフィットをつなげる
5. ブランドをマーケティングするプロセスを学ぶ
6. 討議のためのケースについての紹介
7. マーケティングのフェーズを理解する
8. 販売チャンネルとブランドの関係
9. 製品属性に着目する
10. 4P など既存のマーケティングフレームを学び、関連性を知る
11. 10 年ブランドをつくるためのマーケティングとは①
12. 10 年ブランドをつくるためのマーケティングとは②
13. 全体討議(ゲストスピーカーをお招きする予定)
14. ラップアップ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

準備の指示は配布するプリントで行う

成績評価方法・基準(Evaluation)

提出物授業で指示した提出物(40%)/グループワークに対する貢献(40%)/授業での積極的な発表(20%)

テキスト(Textbooks)

その度配布する

参考文献(Readings)

1. 本田哲也、2012 年、『ソーシャルインフルエンス』、アスキー・メディアワークス (ISBN:4048864432)
2. 山中正彦・ドゥ・ハウス、2007 年、『10 年商品をつくる BMR』、ドゥ・ハウス (ISBN:4903649008)

3. 須藤美和、2005 年、『実況 LIVE マーケティング実践講座』、ダイヤモンド社 (ISBN:488497073X)
4. クレイトン・クリステンセ、2017 年、『ジョブ理論 イノベーションを予測可能にする消費のメカニズム』、ハーパーコリンズ・ ジャパン (ISBN:4596551227)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL251／コーポレート・マーケティング (Corporate Marketing)		
担当者名 (Instructor)	田中　道昭(TANAKA MICHIAKI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業全体を商品・サービス戦略などの主要なマーケティング戦略と高い融合性をもたせながら社内外にマーケティングしていく手法やミッションブランディングに代表される企業全体のブランディング手法を学んでいく。政治マーケティングにおけるブランディング等もカバーする。

We will learn how to market the whole company both internally and externally, and how to brand the whole company, such as mission branding, while having a high fusion with the main marketing strategy, such as product and service strategy, etc. We will also cover branding and other aspects of political marketing.

授業の内容(Course Contents)

コーポレート・マーケティングとは、企業などの組織全体を社内外にマーケティングしていく手法である。
その中核はミッションブランディングにある一方で、実際に顧客に提供する商品・サービスはもとより、店舗戦略や経営戦略等に至るまで、企業の戦略ピラミッドのすべての階層との整合性が不可欠な分野でもある。
商品・サービスの背景には、コーポレートブランドが存在し、商品・サービスブランドと一体化している。優れたブランド企業の商品・サービスは、単に商品・サービスだけが優れているのではなく、一流の品質を維持するための企業活動やその背景としてのブランドプロミスに支えられているのである。
本講義においては、このような問題意識を踏まえて、マーケティング戦略である STP、マーケティング戦術である 4P、企業のポジショニングそのものであるブランディングというマーケティングの要諦のなかでコーポレート・マーケティングを策定し、実際に実行していく手法を学んでいく。
企業におけるミッション・ビジョン・バリュー、そしてストラテジーを、実際の商品・サービスと連携して強化していく手法をカバーしていく。 特にコーポレート・マーケティングの中核となるブランディングに重点を置き、コーポレートブランディングのみならず、商品ブランディング、店舗ブランディング、そして経営者や開発者のセルフブランディングについてもカバーしていく。
そのなかでも、グランドデザインの構築というコーポレート・マーケティングの領域もカバーし、ブランド理念やブランドビジョンから始まって、ブランドストラテジー、さらには商品・サービスのみならず、実際のデザインに至るまで、全体像と構成要素を構築し、ブランドの理想像やミッションブランディングを提示していく手法を学んでいく。
さらには、コーポレート・マーケティングとしての企業 PR やコーポレートアイデンティティー、そして上場企業の IR(インベスターズリレーションズ)の実務もカバーし、最終的にはコーポレートバリューやブランドバリュー、株価などを高めていく手法についても学んでいく。
政治マーケティング(特に選挙マーケティング)におけるブランディングも対象とする。

Corporate Marketing is a method of marketing an entire organization, such as a company, internally and externally.
While the core of this is mission branding, consistency with all classes of the strategic pyramid of the business is indispensable, not only products and services that are actually provided to customers, but also store strategies, management strategies, etc.
In the background of products and services, there is a corporate brand, and it is integrated together with the brand of products and services. The products and services of businesses with excellent brands are not only superior products and services, but are supported by corporate activities to maintain first class quality and brand promise as their background.
In this lecture, based on the awareness of the problem, we will learn how to develop and implement Corporate Marketing by developing marketing strategies such as STP, marketing tactic 4P, and branding, which is the positioning of a company and the essence of marketing.
We will cover techniques to enhance the mission, vision, value, and strategy of a business in cooperation with actual products and services. In particular, we will focus on company branding, which is the core of Corporate Marketing, and will cover not only corporate branding, but also product branding, store branding, and self-branding for managers and developers.
Among them, we cover the area of Corporate Marketing, which is the construction of grand design, and create the entire picture and constitutes, starting from the brand philosophy and brand vision, not only from the brand strategy, but also from the products and services, to the actual design and we will learn how to present the ideal image of the brand and mission branding.
Further, we will cover the practice of corporate PR, corporate identity, and investor relations (IR) of listed companies as Corporate Marketing, and finally, we will also teach how to raise corporate value, brand value, and stock price.
We will also cover branding in political marketing (especially in electoral marketing).

授業計画(Course Schedule)

1. コーポレート・マーケティングの基礎知識と STP 戦略（1）
2. コーポレート・マーケティングの基礎知識と STP 戦略（2）
3. コーポレート・マーケティングと 4P 戦術（1）
4. コーポレート・マーケティングと 4P 戦術（2）
5. コーポレートブランディングと商品・サービスブランディング（1）
6. コーポレートブランディングと商品・サービスブランディング（2）
7. マーケティング 3.0 とミッションブランディング（1）
8. マーケティング 3.0 とミッションブランディング（2）
9. 企業 PR とコーポレートアイデンティティー（1）
10. 企業 PR とコーポレートアイデンティティー（2）
11. 政治マーケティングにおけるブランディング（1）
12. 政治マーケティングにおけるブランディング（2）
13. コーポレートバリューとブランドバリュー（1）
14. コーポレートバリューとブランドバリュー（2）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

予め経営戦略、マーケティング戦略等の基礎的な科目を履修しておくことを推奨する

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(20%)/期中レポート(20%)/クラス貢献(20%)/他の受講生への貢献(20%)/プレゼンテーション(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 田中道昭、2012、『ミッションの経営学』、すばる舎リンケージ （ISBN:ISBN978-4-7991-0164-3）
2. 田中道昭、2013、『人と組織 リーダーシップの経営学』、すばる舎リンケージ （ISBN:ISBN978-4-7991-0236-7）
3. ケビン・レーン・ケラー、2010、『戦略的ブランド・マネジメント』、東急エージェンシー （ISBN:ISBN978-4-88497-112-0）
4. 高橋恭介＋田中道昭、2017、『あしたの履歴書』、ダイヤモンド社 （ISBN:ISBN978-4-478-10393-7）
5. 田中道昭、2017、『アマゾンが描く 2022 年の世界』、PHP 研究所 （ISBN:ISBN978-4-569-83733-8）

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

参考文献（Readings）

1. フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー、2008、『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント』、ピアソン・エデュケーション （ISBN:ISBN978-4-89471-657-5）
2. 竹内一正、2014、『イーロン・マスクの挑戦』、宝島社 （ISBN:ISBN978-4-8002-2848-2）
3. ロバート・スコーブル/シェル・イスラエル、2014、『コンテクストの時代』、日経 BP 社 （ISBN:ISBN978-4-8222-5047-8）
4. ティム・ブラウン、2014、『デザイン思考が世界を変える』、早川書房 （ISBN:ISBN978-4-15-050407-6）
5. 田中道昭、2019、『GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略』、日本経済新聞出版社 （ISBN:ISBN978-4532322656）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【双方向による授業】
本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。
【実務家教員による授業】
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL261／消費者行動論1 (Consumer Behavior 1)		
担当者名 (Instructor)	牛窪　恵(USHIKUBO MEGUMI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代消費者の消費行動を読み解く基礎的なマーケティング手法を、実践的理論と近年の実例から学ぶこと。同時に、その知識を企業活動に応用できるスキルを、ディスカッションやケーススタディを通して身につけること。

Utilizing practical theories and real world examples, you will learn basic marketing techniques to better understand modern consumers' consumption behavior. In addition, through in-class discussion and the use of case studies, you will learn and acquire the skills necessary to apply this knowledge in corporate practice.

授業の内容(Course Contents)

本科目は、約 20 年間に渡り、大手小売、飲食、自動車、家電、住宅メーカーと新商品の企画・開発を行なってきた実務者による授業である。前半の「消費者行動論1」では、ベーシックな消費者マーケティングの手法を学びながら、注目企業が実践する取り組みや消費者分析、そして 2020 年から続く新型コロナウイルスによる消費の変化について、受講者と双方向で学んでいく。また適宜、専門分野のゲスト講師を招いて話を聞く。

With 20 years of practical experience, the instructor will teach you how major companies from a variety of industries plan and develop new products for retail, food and beverage, automotive, home appliances, and residential development. In the first half of the course, "Consumer Behavior 1," we will discuss and learn about basic consumer marketing techniques and the differing approaches and consumer analyses notable companies practice. We'll also learn about the changes in consumption caused by "COVID-19" in 2020-22. Special guest speakers will be invited as appropriate.

授業計画(Course Schedule)

1. 消費者行動とマーケティング－Ⅰ
   ＝現代マーケティングと消費者理解
2. 消費者行動とマーケティング－Ⅱ
   ＝現代マーケティングと企業現場
3. 2020、21 年の"COVID-19"による消費変化－Ⅰ
   ＝サイコグラフィック、ビッグデータ等から
   2020、21 年の消費変化を読む
4. 2020、21 年の"COVID-19"による消費変化－Ⅱ
   ＝デプス、エスノグラフィ等を通じた消費者インサイトから
   2020、21 年の消費変化を読む
5. 消費ニーズと欲望－Ⅰ
   ＝消費欲求、欲望と潜在ニーズ、顕在ニーズ
6. 消費ニーズと欲望－Ⅱ
   ＝欲望の環境変化と世代間ギャップ
7. 消費者の行動変容と現場対応－Ⅰ
   ＝なぜ企業現場は変化に対応しきれないのか？
8. 消費者の行動変容と現場対応－Ⅱ
   ―オムロン・イノベーション推進本部リーダーによる変化対応実例【ゲスト講師予定】
9. 消費心理と意思決定メカニズム－Ⅰ
   ＝SC 開発のフローチャートと、ユニクロのオムニチャネル
   （ショールーミング、ウェブルーミングと資源配分）
10. 消費心理と意思決定メカニズム－Ⅱ
    ＝なぜ企業現場は CX や行動心理に注目するのか？
    （プロスペクト理論とカスタマージャーニー）
11. 消費心理と集団間の意思決定－Ⅰ

—「アイランド」代表によるユーザーマーケティング及び経営実例【ゲスト講師予定】
12. 消費心理と集団間の意思決定－II
—イオン他との SC 開発と PEST、エリアマーケティング実例
13. 消費者行動論 1・課題発表
14. 消費者行動論 1・総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

期中レポート（2 回程度）、最終レポート（1 回）など、授業時間外の学習については、 必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(30%)/授業内ディスカッション(30%)/授業内プレゼンテーション(20%)/期中レポート（2 回程度）(20%)
※授業はオンラインを基本としますが、新型コロナの感染状況等を踏まえ、リアルでの授業も数回程度入れていく予定です（随時案内）。

テキスト（Textbooks）

1. 田中洋、2015、『消費者行動論』、中央経済社 (ISBN:978-4502126512)
2. ダニエル・カーネマン、2014、『ファスト&スロー（上）』、早川書房 (ISBN:978-4150504106)
3. フィリップ・コトラー、2017、『コトラーのマーケティング 4.0』、朝日新聞出版 (ISBN:978-4023316157)
4. 黒岩健一郎、2021、『サービス・マーケティング』、有斐閣 (ISBN:978-4641150874)
5. 牛窪恵、2020、『若者たちのニューノーマル』、日本経済新聞出版 (ISBN:978-4532264499)

テキストは必ずしも全てを購入いただく必要はありませんが、授業に向けて読んでおくことで、より理解が深まると考えます。

参考文献（Readings）

1. ロバート・B・チャルディーニ、2014、『影響力の武器』第三版、誠信書房 (ISBN:978-4414304220)
2. PHILIP KOTLER、2021、『Marketing 5.0: Technology for Humanity』、Wiley (ISBN:978-1119668510)
3. 竹林一、2021、『たった 1 人からはじめるイノベーション入門』、日本実業出版社 (ISBN:978-4534058973)
4. 尾原和啓、2021、『プロセスエコノミー』、幻冬舎 (ISBN:978-4344038332)
5. 足立光／西口一希、2020、『アフターコロナのマーケティング戦略』、ダイヤモンド社 (ISBN:978-4478111611)
6. 森岡毅、2018、『マーケティングとは「組織革命」である』、日経 BP (ISBN:978-4822257958)

参考文献は、関心のある文献だけでも手に取ることを推奨します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

※「消費者行動論2」と連続しての受講は必須ではありませんが、1、2 を続けて受講されることをお薦めします。
※全授業のうち 2 回程度、リアル授業実施予定（実施回については Blackboard で指示します）。

※マーケティング会社・インフィニティ（牛窪恵）
http://www.hachinoji.com/

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL266／消費者行動論2 (Consumer Behavior 2)		
担当者名 (Instructor)	牛窪　恵(USHIKUBO MEGUMI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代消費者の消費行動を読み解く最新のマーケティング手法を、ニューロマーケティングなどの科学的アプローチや SNS の呟き分析などから学ぶこと。また、「新型コロナウイルス」など消費者を取り巻く環境変化や、高度な欲求への気づきを得て、実践的フレームワークへと結びつけること。

You will learn the latest marketing techniques to better understand modern consumers'consumption behaviors using scientific approaches such as neuromarketing and the analysis of social media. In addition, you will learn how to be more aware of social environmental changes (including "Covid-19") and advanced customer need states, and how to link this to a practical framework.

授業の内容(Course Contents)

本科目は、約 20 年間に渡り、大手小売、飲食、自動車、家電、住宅メーカーと新商品の企画・開発を行なってきた実務者による授業である。後半の「消費者行動論 2」では、時代の先端を行く企業が実践するニューロマーケティングなど、「五感」と最新技術を応用したマーケティング手法を、受講者と双方向で学んでいく。同時に、after コロナのデジタル・SNS 戦略についても学ぶ。また適宜、専門分野のゲスト講師を招いて話を聞く。

With 20 years of practical experience, the instructor will teach how major companies from a variety of industries plan and develop new products for retail, food and beverage, automotive, home appliances, and residential development. In the second half of the course, "Consumer Behavior 2," we will discuss and learn about marketing techniques applying the "five senses," and the latest technology such as neuromarketing that notable companies practice. We'll also learn about digital marketing and the strategies of social media after the pandemic. Special guest speakers will be invited as appropriate.

授業計画(Course Schedule)

1. 消費市場と環境変化-Ⅰ
   ＝"COVID-19"で加速するデジタルマーケティング
2. 消費市場と環境変化-Ⅱ
   ＝SDGsとシェアリングエコノミー
3. 消費誘引と五感-Ⅰ
   ＝Marketing Technology の進化とギフト、代理購買
4. 消費誘引と五感-Ⅱ
   ＝香り、サウンドマーケティングの企業実例
5. 消費者行動とコミュニケーション-Ⅰ
   ＝物欲から「コミュ欲」へ
   (SNS と ULSSAS モデル、キャズム理論とエヴァンジェリスト)
6. 消費者行動とコミュニケーション-Ⅱ
   ―元 Google＆楽天執行役員・尾原和啓氏による「プロセスエコノミー」とは 【ゲスト講師予定】
7. 消費者認知とイノベーション-Ⅰ
   ＝AI による機会学習と消費行動へのアプローチ
8. 消費者認知とイノベーション-Ⅱ
   ＝IoT や DX はイノベーションを興せるか？
9. 消費態度と意識・無意識-Ⅰ
   ＝ブランドロイヤルティと記憶処理モデル
10. 消費態度と意識・無意識-Ⅱ
    ―ニューロ、データマーケティングの現状、及び企業実例 【関連企業・ゲスト講師予定】
11. 消費者分析と企業組織-Ⅰ
    ＝コロナ後のマクロ環境と PEST 分析、3C 分析
12. 消費者分析と企業組織-Ⅱ

＝デジタルマーケティングと分野横断型組織の在り方（企業実例）
13. 消費者行動論 2・課題発表
14. 消費者行動論 2・総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）
期中レポート（2 回程度）、最終レポート（1 回）など、授業時間外の学習については、 必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準（Evaluation）
最終レポート(Final Report)(30%)/授業内ディスカッショ ン(30%)/授業内プレゼンテーション(20%)/期中レポー ト(20%)
※授業はオンラインを基本としますが、新型コロナの感染状況等を踏まえ、リアルでの授業も数回程度入れていく予定です（随時案内）。

テキスト（Textbooks）
1. 田中洋、2015、『消費者行動論』、中央経済社 (ISBN:978-4502126512)
2. ダニエル・カーネマン、2014、『ファスト&スロー（下）』、早川書房 (ISBN:978-4150504106)
3. フィリップ・コトラー、2017、『コトラーのマーケティング 4.0』、朝日新聞出版 (ISBN:978-4023316157)
4. 尾原和啓、2021、『プロセスエコノミー』、幻冬舎 (ISBN:978-4344038332)
5. 牛窪恵、2020、『若者たちのニューノーマル』、日本経済新聞出版 (ISBN:978-4532264499)
テキストは必ずしも全てを購入いただく必要はありませんが、授業に向けて読んでおくことで、より理解が深まると考えます。

参考文献（Readings）
1. ニック・メータ、2018、『カスタマーサクセス』、英治出版 (978-486276260)
2. PHILIP KOTLER、2021、『Marketing 5.0: Technology for Humanity』、Wiley (ISBN:978-1119668510)
3. 竹林一、2021、『たった 1 人からはじめるイノベーション入門』、日本実業出版社 (ISBN:978-4534058973)
4. 中野崇、2018、『マーケティングリサーチとデータ分析の基本』、すばる舎 (ISBN:978-4822257958)
5. ジョエル・ベッカーマン、2016、『なぜ、あの「音」を聞くと買いたくなるのか』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492557686)
6. 足立光／西口一希、2020、『アフターコロナのマーケティング戦略』、ダイヤモンド社 (ISBN:978-4478111611)
参考文献は、関心のある文献だけでも手に取ることを推奨します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）
※「消費者行動論 1」から連続しての受講は必須ではありませんが、1、2 を続けて受講されることをお薦めします。
※全授業のうち 2 回程度、リアル授業実施予定（実施回については Blackboard で指示します）。

※マーケティング会社・インフィニティ（牛窪恵）
http://www.hachinoji.com/

注意事項（Notice）
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL268／消費者行動論3 (Consumer Behavior 3)		
担当者名 (Instructor)	笠原　英一(KASAHARA EIICHI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

マーケティング戦略、マーケティング・リサーチおよび消費者行動論の有機的な関係を明らかにすると同時に、消費者行動論を理論体系として整理して理解し、実務で活用できるようになること。

We will clarify the organic relationship between marketing strategy, marketing research, and consumer behavior, as well as organize and understand the theory of consumer behavior theory as a theoretical system, and be able to utilize it in practice.

授業の内容(Course Contents)

消費者は、過去の経験と自己をとりまく環境などによってニーズやウォンツを感じ、製品・サービスを知覚して、選択する。その際には、環境のさまざまな要素を情報として受け入れる。更に、購買して、所有、使用した結果、満足あるいは不満足を感じる。以上のように消費者行動には多くの内的変数、外的変数が作用する。消費者行動論では、消費者が購入や所有、使用といった消費活動を行う際に、どのような変数が介在し、影響し、どのような結果が生じるかということを考察することをテーマとしている。消費者行動論とは、マーケティング戦略を立案するための、そして、マーケティング・リサーチを推進するための基盤的理論体系と考えられる。本講義では、マーケティング戦略、マーケティング・リサーチおよび消費者行動論の有機的な関係を明らかにすると同時に、消費者行動論を理論体系として整理して理解することを目的としている。

Consumers perceive and choose products and services though their needs and wants from the environment surrounding their past experiences and self. At that time, they will accept various elements of the environment as information. Further, they will buy, own, see the results of use, and have a feeling of satisfactory or unsatisfactory. As described above, many internal and external variables act on consumer behavior. In Consumer Behavior, the theme is to consider what kind of variables intervene, influence, and what kind of results occur when consumers carry out consumption activities such as purchase, possession, and usage. Consumer Behavior theory is considered to be a basic theory system for designing marketing strategies and for promoting Marketing Research. The goal of this lecture is to clarify the organic relationship between marketing strategy, marketing research, and consumer behavior, and to organize and understand consumer behavior as a theoretical system.

授業計画(Course Schedule)

1. マーケティングと消費者行動
   ・マーケティングとは
   ・消費者行動とは
2. 消費者行動の分析フレームワーク
   ・消費者行動分析レベル
   ・消費者行動分析モデル
3. 消費者行動研究の理論体系
   ・系譜と主要モデル
4. 消費行動の変化
   ・消費行動の分析アプローチ
   ・消費行動変化の要因
5. 情報処理プロセス
   ・情報処理のメカニズム
   ・情報処理の動機付け
6. 情報処理プロセス
   ・情報処理の知識
   ・情報処理の能力
7. 意思決定プロセス
   ・意思決定プロセス理論
   ・購買前のプロセス
8. 意思決定プロセス
   ・購買時のプロセス
   ・購買後のプロセス
9. 消費者行動の統合的モデル

10. 消費者行動の統合的モデル
11. 消費者行動と準拠集団・家族
12. 消費者行動と文化、ライフスタイル
13. 消費者行動論のまとめ
14. テスト及び解説

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

次回の予習範囲や課題は、各授業の最後および blackboard 上でコメントする。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(40%)/授業で実施するクイズや授業での発表(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 田中洋、2015、『消費者行動論』、中央経済社
2. 笠原英一、2019、『強い会社が実行している「経営戦略」の教科書』、KADOKAWA

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【双方向による授業割合】

100%

※20 年間、経営コンサルタントとして、国内外の上場企業に対して、戦略、マーケティング、組織に関する実践的課題に取り組んできた実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL270／消費者行動論4 (Consumer Behavior 4)		
担当者名 (Instructor)	笠原　英一(KASAHARA EIICHI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

マーケティング戦略、マーケティング・リサーチおよび消費者行動論の有機的な関係を明らかにすると同時に、消費者行動論を理論体系として整理して理解し、実務で活用できるようになること。

We will clarify the organic relationship between marketing strategy, marketing research, and consumer behavior, as well as organize and understand the theory of consumer behavior theory as a theoretical system, and be able to utilize it in practice.

授業の内容(Course Contents)

消費者は、過去の経験と自己をとりまく環境などによってニーズやウォンツを感じ、製品・サービスを知覚して、選択する。その際には、環境のさまざまな要素を情報として受け入れる。更に、購買して、所有、使用した結果、満足あるいは不満足を感じる。以上のように消費者行動には多くの内的変数、外的変数が作用する。消費者行動論では、消費者が購入や所有、使用といった消費活動を行う際に、どのような変数が介在し、影響し、どのような結果が生じるかということを考察することをテーマとしている。消費者行動論とは、マーケティング戦略を立案するための、そして、マーケティング・リサーチを推進するための基盤的理論体系と考えられる。本講義では、消費者行動論3で構築した理論体系を基に、各種事業分野への応用事例を研究することを通して、消費者行動論に対する理解を深めると同時に実務家/プロフェッショナルとしての実践力を高めるためのコンテンツを提供する。

Consumers perceive and choose products and services though their needs and wants from the environment surrounding their past experiences and self. At that time, they will accept various elements of the environment as information. Further, they will buy, own, see the results of use, and have a feeling of satisfactory or unsatisfactory. As described above, many internal and external variables act on consumer behavior. In Consumer Behavior, the theme is to consider what kind of variables intervene, influence, and what kind of results occur when consumers carry out consumption activities such as purchase, possession, and usage. Consumer Behavior theory is considered to be a basic theory system for designing marketing strategies and for promoting Marketing Research. In this lecture, based on the theoretical system constructed in Consumer Behavior 3, by studying application examples in various business fields, contents are offered to deepen the understanding of consumer behavior and to enhance the practical ability as a practitioner/professional at the same time.

授業計画(Course Schedule)

1. 消費者行動論とマーケティング
   ・情報処理プロセスとマーケティング・マネジメント・プロセス
   ・購買意思決定と価値伝達のデザイン
2. 消費者行動論とブランディング
   ・ブランド構築の視点、構成要素、
3. 定量的リサーチと消費者行動論
   ・アンケート/サーベイ調査の設計
4. 定量的リサーチと消費者行動論
   ・多変量解析を用いた調査分析
5. 定性的リサーチと消費者行動論
   ・FGI、インデプス・インタビュー、顧客訪問、顧客アドバイザリーパネル
6. 定性的リサーチと消費者行動論
   ・デザインシンキング、エスノグラフィー
7. 消費者行動論とマーケティング・マネジメント
   ・セグメンテーション及びターゲティングに関する定量分析
8. 消費者行動論とマーケティング・マネジメント
   ・セグメンテーション及びターゲティングに関する定量分析
9. 消費者行動論とマーケティング・マネジメント
   ・ポジショニング/パーセプション・マップに関する定量分析
10. 消費者行動論とマーケティング・マネジメント
    ・ポジショニング/パーセプション・マップに関する定量分析
11. 消費者行動論に関するケース・スタディ
    ・消費財ケース

12. 消費者行動論に関するケース・スタディ
・産業財ケース
13. 消費者行動論に関するまとめ
14. テスト及び解説

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

次回の予習範囲や課題は、各授業の最後および blackboard 上でコメントする。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(40%)/授業で実施するクイズや授業での発表(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 田中洋、2008 年、『消費者行動論体系』、中央経済社
各セッションでハンドアウトを用意する。日米欧の最新論文を基に、新しいコンテンツをカスタマイズして配布する。

参考文献（Readings）

1. 笠原英一、2013、『強い会社が実行している「経営戦略」の教科書』、中経出版

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【双方向による授業割合】
100%

※20 年間、経営コンサルタントとして、国内外の上場企業に対して、戦略、マーケティング、組織に関する実践的課題に取り組んできた実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL272／BusinessCaseStudies1 (Business Case Studies 1)		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6001	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ケース分析によって、企業行動や戦略およびそれに関連する理論の理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to deepen the understanding of organizational behavior and related theories through case analysis.

授業の内容(Course Contents)

本科目は、ケースと呼ばれる企業などの戦略、組織等に関わる様々な問題が描かれている教材を用いて行われる。ケースには企業行動や戦略に関する多くの情報が書かれており、それらを分析することで経営分析に関する経営理論を学ぶとともに、企業に対する理解を深めることを狙いとしている。戦略や意思決定に「唯一の正解」は存在しないが、様々なケースの企業行動や戦略を分析することで、ケース特有の事象から示唆を得られるだけではなく、経営や意思決定に関する原理原則の理解につながる。
本科目の運営はグループ討議およびケース討議によって構成される。
ケースはすべて英語のものを使用し、授業も基本的には英語で行うことを想定している。なお、教材を含めた運営方法は、学生数に応じて変更することもある。

This course uses case studies, which depict various issues related to corporate and other strategies and organizations. The cases contain a lot of information about corporate behavior and strategy, and by analyzing them, students learn management theory of business analysis and deepen their understanding of companies. There is no ″one right answer″ to strategy and decision-making, but by analyzing organizational behavior and strategy in various cases, we can get suggestions from case-specific phenomena and understand the principles of management and decision-making.
This course consists of group and case discussions.
All the cases are in English, and the class is expected to be conducted in English. The management method, including teaching materials, may be changed depending on the number of students.

授業計画(Course Schedule)

1. Introduction
2. Marketing: Kataoka & Co. Ltd.
3. Management: HONDA(A), HONDA(B)
4. Management: HONDA(A), HONDA(B)
5. Growth strategy: Starbucks: A Story of Growth
6. Growth strategy: Starbucks: A Story of Growth
7. Corporate strategy: Fujifilm: A Second Foundation
8. Corporate strategy: Fujifilm: A Second Foundation
9. Market penetration: Kikkoman Corp.: Consumer Focused Innovation
10. Market penetration: Kikkoman Corp.: Consumer Focused Innovation
11. Innovation: Innovation & Renovation: The Nespresso Story
12. Innovation: Innovation & Renovation: The Nespresso Story
13. General strategy: Tesla, Inc.
14. General strategy: Tesla, Inc.

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発言などのクラスへの貢献(30%)/ケース課題(30%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

ケースの購入方法は別途授業内で指示する。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL273／BusinessCaseStudies2 (Business Case Studies 2)		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6001	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ケース分析によって、戦略や意思決定およびそれに関連する理論の理解を深めることを目的とする。

The purpose of this course is to deepen the understanding of organizational behavior and related theories through case analysis.

授業の内容(Course Contents)

本科目は、ケースと呼ばれる企業などの戦略、組織等に関わる様々な問題が描かれている教材を用いて行われる。ケースには企業行動や戦略に関する多くの情報が書かれており、それらを分析することで経営分析に関する経営理論を学ぶとともに、企業に対する理解を深めることを狙いとしている。戦略や意思決定に「唯一の正解」は存在しないが、様々なケースの企業行動や戦略を分析することで、ケース特有の事象から示唆を得られるだけではなく、経営や意思決定に関する原理原則の理解につながる。
本科目の運営はグループ討議およびケース討議によって構成される。
ケースはすべて英語のものを使用し、授業も基本的には英語で行うことを想定している。なお、教材を含めた運営方法は、学生数に応じて変更することもある。
Business Case Studies2 では、Business Case Studies1 とは異なりビジネスではないケースも扱う。

This course uses case studies, which depict various issues related to corporate and other strategies and organizations. The cases contain a lot of information about corporate behavior and strategy, and by analyzing them, students learn management theory of business analysis and deepen their understanding of companies. There is no "one right answer" to strategy and decision-making, but by analyzing corporate behavior and strategy in various cases, we can get suggestions from case-specific phenomena and understand the principles of management and decision-making.
This course consists of group and case discussions.
All the cases are in English, and the class is expected to be conducted in English. The management method, including teaching materials, may be changed depending on the number of students.
In Business Case Studies 2, unlike Business Case Studies 1, non-business cases are dealt with.

授業計画(Course Schedule)

1. Introduction
2. Short cases
3. General management: LEGO
4. General management: LEGO
5. Location choice: Intel: Strategic Decisions in Locating a New Assembly and Test Plant
6. Location choice: Intel: Strategic Decisions in Locating a New Assembly and Test Plant
7. Global strategy: P&G Japan: The SK-II Globalization Project
8. Global strategy: P&G Japan: The SK-II Globalization Project
9. Local adaptation: TOTO: The Bottom Line
10. Local adaptation: TOTO: The Bottom Line
11. Innovation: IDEO
12. Innovation: IDEO
13. Leadership in crisis: Mount Everest-1996
14. Leadership in crisis: Mount Everest-1996

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発言などのクラスへの貢献(30%)/ケース課題(30%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

ケースの購入方法は別途授業内で指示する。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL309／リーディング産業論 (Industrial Development Theory)		
担当者名 (Instructor)	高柳　寛樹(TAKAYANAGI HIROKI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

「IT 前提経営®」の提唱者である担当者が、テクノロジーが支える社会における産業の在り方を実例とその後ろに控える事実と大量のエピソードを丁寧に分析しながら今の「リーディング産業」を定義し議論を行う。

The person in charge, as a proponent of "Tech Driven Management®", carefully analyzes the actual cases and facts behind them, and discusses the situation of industries in a society supported by technology, and defines and discusses the "leading industry".

授業の内容(Course Contents)

テクノロジー優位の経済社会の出現は今に始まったことではなく長い歴史がある。その歴史(マクロな観点)を踏まえた上で、それらのテクノロジーの「社会化(socialized)」の過程を史実の分析をもとに考える。その上で今私たちが直面しているテクノロジーを利用した経営について「IT 前提経営®」の 6 大要素をしっかりと理解した上で、経営者の「TECH リテラシー」欠如による産業の衰退の実例などをつぶさに分析しながら足元の「リーディング産業」の課題(ミクロ)について議論を進める。キーワードとしては「メディア社会とテクノロジー」「経営とテクノロジー」「ネットリテラシーとテックリテラシー」「マスマーケティングからデジタルマーケティングへの展開」「AI×IoT×ビックデータ」「センサー優位経済の理解」「自動運転社会の理解」「規制と規制緩和」「経営者のテクノロジー理解と実践」「エクイティファイナンスとリーディング産業」「民主主義のコストと経営」など多岐にわたる。大学院科目のため講義に座学ではなく議論をベースとした授業展開を行うゆえ、積極的な授業参加を求めたい。また強い向学心があれば予備知識は不要である。

The advent of a technology dominated economic society has a long history, this is not the beginning. Based on its history (from a macro perspective), we will consider the process of "socialization" of these technologies based on the analysis of historical facts. After that, after understanding the basics of "Tech Driven Management®" of management using the technology that we are now facing, we will continue to discuss the issues of the "leading industry" (micro), which is underdeveloped, by analyzing examples of industries in detail in which the managers have a lack of "tech literacy". There are a wide variety of keywords, such as "media society and technology", "management and technology", "net literacy and tech literacy", "development from mass marketing to digital marketing", "AI x IoT x big data", "understanding of the sensor-dominated economy", "understanding of the autonomous driving society", "regulation and deregulation", "understanding and practice of management technology", "equity finance and leading industries", "the cost of democracy and management", etc. Students who are unable to participate actively in the program are asked to not participate in the class because this graduate school discipline is based on discussions rather than lectures. Also, in order to prevent absence from classes due to location, the attendance of lectures by telecommuting is also widely accepted. Also, prior knowledge is unnecessary if there is a strong sense of direction.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロクションと履修者による自己紹介
2. 「IT 前提経営®」の理解のための文献輪読と議論(最低限のコンセンサスの構築)
3. 「メディアテクノロジー」にみる「リーディング産業」の歴史(旧マス 4 媒体を支えるテクノロジーとその「社会化(socialize)」の理解をベースに
4. 「リーディング産業」を巡る規制と規制緩和(ベンチャー企業が突破すべきものは何か)
5. 商品としてのテクノロジーとテクノロジーを用いた経営の違いについて
6. 「TECH リテラシー」と経営(実例分析)「IT 化(又は DX)」の本質を理解する
7. 「IT 前提経営®」文脈による「AI×IoT×ビックデータ」の理解
8. ビジネスの公共性について(ビックデータとプライバシーを考える)
9. エクイティファイナンスと「リーディング産業」
10. ゲストスピーカーA(リーディング産業経営者)の招聘と議論
11. マスマーケティングからデジタルマーケティングへの展開(ゲストスピーカーB の招聘と共に)
12. 民主主義のコストと経営について(中国などの事例を参考に理解する)

13. 履修者による発表と議論（1）
14. 履修者による発表と議論（2）と総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

課題やレポートの執筆、コメントカードの記入と提出がある。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(20%)/その他のレポート(20%)/議論への参加度(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 高柳寛樹、2022、『続・まったく新しい働き方の実践～なぜ働き方は自由にならないのか。DX（Digital Transformation）未完了社会の病理～』、ハーベスト社 （ISBN:978-4-86339-114-7）
2. 高柳寛樹、2020、『「IT 前提経営」が組織を変える～ デジタルネイティブと共に働く』、近代科学社 digital（ISBN:978-4-7649-6008-4）
3. 高柳寛樹、2017、『まったく新しい働き方の実践～「IT 前提経営」による「地方創生」～』、ハーベスト社 （ISBN:978-4-86339-086-7）

参考文献（Readings）

適宜講義内で指定する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

担当者プロフィール：
https://hiroki.st/

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL321／ラグジュアリーブランド・マネジメント1 (Luxury Brand Management 1)		
担当者名 (Instructor)	外村　彩(TONOMURA AYA)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本におけるラグジュアリーブランドビジネスの変遷、ビジネスモデル、戦略等を体系的に網羅することにより、ラグジュアリーブランドビジネスとは、またラグジュアリーとはどういう状態のことなのか、ということを考察し明らかにする。

The course covers the historical transition, business models, strategies of luxury brand business in Japan market with the objective to clarify the positioning of luxury brand business and the meaning of "luxury."

授業の内容(Course Contents)

日本のラグジュアリーブランドビジネスで活躍されている実務家をゲストスピーカーとしてお招きし、多様な角度から業界の最新動向を知る。ゲストスピーカーはそれぞれ異なる分野の専門家で予定され、ラグジュアリーブランドビジネスへの体系的・網羅的な理解が深まる構成となっている。(マーケティング・デジタル・E コマース・セールス・ヴィジュアルマーチャンダイジング・デザイン・店舗展開・人事・ファイナンス・経営層等を予定)担当講師は全体のファシリテーターとして、最終的に当科目において明らかにする論題への解を学生自身が導き出せるよう、ゲストスピーカーと連携、各授業における議論の促進を図る。

The course will showcase multiple aspects of the latest industry situation, inviting several practitioners excelling in the business. Guest speakers will be composed of professionals in different fields (e.g. marketing / digital / e-commerce / sales / visual merchandising / design / outlet strategies / human resources / finance / management) to enable and deep-dive into the the systematic understanding of the luxury brand business. The lecturer will coordinate with the guest speakers to facilitate the class discussion and will lead the students to develop their own approaches to the thesis at the end of the course.

授業計画(Course Schedule)

1. ラグジュアリーブランド・マネジメント概論(本科目の目的と概要)
2. ゲストスピーカー講義1
3. ゲストスピーカー講義2
4. ゲストスピーカー講義3
5. ゲストスピーカー講義4
6. ゲストスピーカー講義5
7. ゲストスピーカー講義6
8. ゲストスピーカー講義7
9. ゲストスピーカー講義8
10. ゲストスピーカー講義9
11. ゲストスピーカー講義10
12. ゲストスピーカー講義11
13. ゲストスピーカー講義12
14. 総括講義

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

概論講義にて当科目を通じて明らかにしたい論題(＝各セメスター期末レポート)について授業外でも各自調べていただけると尚良い。また、各ゲストスピーカー講義における議論を深めるための準備により、実務とアカデミック双方からの思考を期待する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/ディスカッションへの貢献(60%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. JN カプフェレ＋V バスティアン、2017、『The Luxury Strategy/ラグジュアリー戦略』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-55682-5)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL322／ラグジュアリーブランド・マネジメント2 (Luxury Brand Management 2)		
担当者名 (Instructor)	外村　彩(TONOMURA AYA)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本におけるラグジュアリーブランドビジネスの変遷、ビジネスモデル、戦略等を体系的に網羅することにより、ラグジュアリーブランドビジネスとは、またラグジュアリーとはどういう状態のことなのか、ということを考察し明らかにする。

The course covers the historical transition, business models, strategies of luxury brand business in Japan market with the objective to clarify the positioning of luxury brand business and the meaning of "luxury."

授業の内容(Course Contents)

日本のラグジュアリーブランドビジネスで活躍されている実務家をゲストスピーカーとしてお招きし、多様な角度から業界の最新動向を知る。ゲストスピーカーはそれぞれ異なる分野の専門家で予定され、ラグジュアリーブランドビジネスへの体系的・網羅的な理解が深まる構成となっている。(マーケティング・デジタル・E コマース・セールス・ヴィジュアルマーチャンダイジング・デザイン・店舗展開・人事・ファイナンス・経営層等を予定)担当講師は全体のファシリテーターとして、最終的に当科目において明らかにする論題への解を学生自身が導き出せるよう、ゲストスピーカーと連携、各授業における議論の促進を図る。

The course will showcase multiple aspects of the latest industry situation, inviting several practitioners excelling in the business. Guest speakers will be composed of professionals in different fields (e.g. marketing / digital / e-commerce / sales / visual merchandising / design / outlet strategies / human resources / finance / management) to enable and deep-dive into the the systematic understanding of the luxury brand business. The lecturer will coordinate with the guest speakers to facilitate the class discussion and will lead the students to develop their own approaches to the thesis at the end of the course.

授業計画(Course Schedule)

1. ラグジュアリーブランド・マネジメント概論(本科目の目的と概要)
2. ゲストスピーカー講義1
3. ゲストスピーカー講義2
4. ゲストスピーカー講義3
5. ゲストスピーカー講義4
6. ゲストスピーカー講義5
7. ゲストスピーカー講義6
8. ゲストスピーカー講義7
9. ゲストスピーカー講義8
10. ゲストスピーカー講義9
11. ゲストスピーカー講義10
12. ゲストスピーカー講義11
13. ゲストスピーカー講義12
14. 総括講義

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

概論講義にて当科目を通じて明らかにしたい論題(＝各セメスター期末レポート)について授業外でも各自調べていただけると尚良い。また、各ゲストスピーカー講義における議論を深めるための準備により、実務とアカデミック双方からの思考を期待する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/ディスカッションへの貢献(60%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. JN カプフェレ＋V バスティアン、2017、『The Luxury Strategy/ラグジュアリー戦略』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-55682-5)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL341／オペレーション・マネジメント1 (Operations Management 1)		
担当者名 (Instructor)	平井　直樹(HIRAI NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

オペレーションに関わる分野と、各企業が取り組んできた特徴や強みを理解するとともに、企業の活動を俯瞰できることを目的とする。

The goal is to be able to understand areas involved in operations, the characteristics and strengths of each business, and to be able to see the activities of the business in a comprehensive manner

授業の内容(Course Contents)

オペレーションをマネジメントするということは、単にサプライチェーンなどの業務のやり方を管理、改善することだけではありません。
オペレーションは、企業戦略の実行に関わるものであり、生産・販売活動、組織構造、意思決定、マーケティング、情報技術など様々な企業活動が結びついています。
本講義では、ビジネススクールの基礎から応用的なエッセンスとして、オペレーションに関わる具体的な企業事例(ケース)を挙げながら、ディスカッションを通じて理解を深めていきます。

Managing operations is not just about managing and improving the way you do business in the supply chain, etc.
Managing operations are involved in the execution of corporate strategies, and are linked to a variety of corporate activities, including production and sales activities, organizational structures, decision making, marketing, and information technology.
In this lecture, we will deepen our understanding of the elements involved in Business school through discussions, while giving concrete examples (cases).

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. オペレーションのデジタル化(DX)
3. バリューチェーン・サプライチェーン(1)
4. バリューチェーン・サプライチェーン(2)
5. 情報技術によるオペレーションの変化(IT、AI)(1)
6. 情報技術によるオペレーションの変化(IT、AI)(2)
7. 労働者管理・生産管理(1)
8. 労働者管理・生産管理(2)
9. ゲストスピーカー予定
10. ディスカッション
11. ゲストスピーカー予定
12. ディスカッション
13. リーダーシップとトップマネジメント(1)
14. リーダーシップとトップマネジメント(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

適宜、講義内で指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席および授業への貢献(ディスカッション)(50%)/レポート(50%)

テキスト(Textbooks)

授業にて随時紹介します。

参考文献(Readings)

授業にて随時紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

「オペレーション・マネジメント1」「オペレーション・マネジメント2」を併せて履修することが望ましい。
「オペレーション・マネジメント1」だけの履修も可。
ゲストスピーカーの日程は暫定となります。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL342／オペレーション・マネジメント2 (Operations Management 2)		
担当者名 (Instructor)	平井　直樹(HIRAI NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

オペレーションに関わる分野と、各企業が取り組んできた特徴や強みを理解するとともに、企業の活動を俯瞰できることを目的とする。

The goal is to be able to understand areas involved in operations, the characteristics and strengths of each business, and to be able to see the activities of the business in a comprehensive manner

授業の内容(Course Contents)

オペレーションをマネジメントするということは、単にサプライチェーンなどの業務のやり方を管理、改善することだけではありません。
オペレーションは、企業戦略の実行に関わるものであり、生産・販売活動、組織構造、意思決定、マーケティング、情報技術など様々な企業活動が結びついています。
本講義では、ビジネススクールの基礎から応用的なエッセンスとして、オペレーションに関わる具体的な企業事例(ケース)を挙げながら、ディスカッションを通じて理解を深めていきます。

Managing operations is not just about managing and improving the way you do business in the supply chain, etc.
Managing operations are involved in the execution of corporate strategies, and are linked to a variety of corporate activities, including production and sales activities, organizational structures, decision making, marketing, and information technology.
In this lecture, we will deepen our understanding of the elements involved in Business School through discussions, while giving concrete examples (cases).

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 働き方の変化・テレワーク・ワーケーション
3. マネージャーと心理的安全性・ティール(1)
4. マネージャーと心理的安全性・ティール(2)
5. ゲストスピーカーを予定(経営理念・クレド等を予定)
6. ディスカッション
7. 企業の知識創造・イノベーション活動(1)
8. 企業の知識創造・イノベーション活動(2)
9. リーンスタートアップ・アジャイル・デザイン思考(1)
10. リーンスタートアップ・アジャイル・デザイン思考(2)
11. ゲストスピーカーを予定(ホテル業界の方を予定)
12. ディスカッション
13. プレゼンテーションとまとめ(1)
14. プレゼンテーションとまとめ(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

適宜、講義内で指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席および授業への貢献(ディスカッション)(50%)/プレゼンテーション(50%)

テキスト(Textbooks)

授業にて随時紹介します。

参考文献(Readings)

授業にて随時紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

「オペレーション・マネジメント1」「オペレーション・マネジメント2」を併せて履修することが望ましい。
「オペレーション・マネジメント2」だけの履修も可。
ゲストスピーカーの日程は暫定となります。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL376／情報メディアビジネス論 (Information Media Business)		
担当者名 (Instructor)	今井　紀夫(IMAI NORIO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

デジタル化により変化したコミュニケーションなどマーケティング手法の習得

This course aims for students to understand how to manage digital marketing..

授業の内容(Course Contents)

本科目では、デジタル化により大きく変化しているマーケティング手法を取り上げる。企業と顧客双方のデジタル活用が進んでいる中で、デジタル化されたマーケティングにて成果を最大化するためには特徴の理解と対応が必要となる。そのため、本科目ではマーケティングのデジタル化による変化と新たな機会を理解し、主なテーマ毎に事例を通じて、活用方法について学んでいく。
※メディア企業におけるデジタル領域でのマネタイゼーションについては本科目では扱わない。

This course focuses on digital marketing. Since both companies and customers use digital technologies, marketers are required to understand unique aspects of digital marketing so that they can fully maximize accomplishment. Therefore, students learn shifts and new opportunities in digital marketing and how to manage them. Note: This class does not cover digital media monetization.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション1－デジタルマーケティングの特徴
2. イントロダクション2－デジタル化による企業から顧客へのシフト
3. 事例研究－顧客障害価値による施策の意思決定
4. デジタル時代の顧客価値と施策の立案
5. 事例研究－デジタル時代の顧客価値と施策の立案
6. マーケティングテクノロジー:デジタルマーケティングを支えるテクノロジー
7. 事例研究－マーケティングテクノロジー:デジタルマーケティングを支えるテクノロジー
8. コンテンツマーケティング:　様々な主体によるアプローチ
9. 事例研究－コンテンツマーケティング:　様々な主体によるアプローチ
10. デジタル広告－検索連動型、ディスプレイ、動画など各種手法の役割の整理
11. 事例研究－デジタル広告－検索連動型、ディスプレイ、動画など各種手法の役割の整理
12. エンゲージメント－顧客との関係性強化手法の学習
13. 受講生の最終発表－自社もしくは研究対象企業のデジタルマーケティング施策に関する最終発表
14. 受講生の最終発表－自社もしくは研究対象企業のデジタルマーケティング施策に関する最終発表

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

＊前の週で扱った内容や当週の事例研究の内容についての小レポート課題－5 回(第1週と第7週を除く)
＊自社、もしくは関心ある企業のデジタルマーケティング施策に関するプレゼンテーション－1回(最終発表)

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終プレゼンテーション(40%)/毎週の講義に関する小レポート(30%)/授業の参加・質疑応答(30%)

テキスト(Textbooks)

変化の激しい領域のため、事例研究で利用するケースは、初回授業にて説明する。

参考文献(Readings)

1. 西川英彦・澁谷覚、2019、『1 からのデジタル・マーケティング』、碩学舎 (ISBN:4502289914)
参考文献は都度授業内で紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL401／キャッシュフロー・マネジメント1 (Cash Flow Management 1)		
担当者名 (Instructor)	下川　智広(SHIMOKAWA TOMOHIRO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この講義では、損益計算書・貸借対照表とキャッシュフロー計算書の有機的関係を理解し、会計(アカウンティング)における利益の計算だけでなく、財務(ファイナンス)におけるキャッシュのマネジメント方法を理解する。

This course provides financial terminology and general financial principles, interpret financial statements, make the distinction between net income and cash flow.
In this course, you will gain exposure to diverse financial approaches, including methods of valuation.

授業の内容(Course Contents)

この講義では、会計(アカウンティング)と財務(ファイナンス)の違いを理解するとともに、戦略的視点から経営幹部がどのように利益をマネジメントするのか、どうすればキャッシュをマネジメントできるのかについての基本を講義する。

Finance and Accounting for the Non-Financial Manager allows non-financial business executives to become better users of financial information so they can be more strategic contributors to their organization.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 会計(アカウンティング)と財務(ファイナンス)の違い
3. 1. 利益マネジメント
4. 1-1. 利益とキャッシュは何が違うのか
5. 1-2. 利益調整とキャッシュフロー
6. 1-3. 損益計算書と貸借対照表の構造と分析
7. 1-4. キャッシュフロー計算書の構造
8. 1-5. キャッシュフロー分析
9. 2. キャッシュマネジメント
10. 2-1. キャッシュをどのようにコントロールするのか
11. 2-2. 運転資本のコントロール
12. 2-3. キャッシュ・コンバージョン・サイクル
13. 3. 会計(アカウンティング)と財務(ファイナンス)の有機的関係
14. キャッシュフローマネジメント1の総まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の予習範囲や課題は講義内で説明します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席したうえで積極的な討論への参加(40%)/最終レポート(Final Report)(40%)/中間レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

テキストは教育支援システム Blackboard または立教時間を通じて配布します。

参考文献(Readings)

参考文献は適時指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

会計学基礎や企業財務基礎などのアカウンティング・ファイナンスの関連科目を受講していることが望ましい。
講義では表計算ソフト(Excel 等)を用いることがあります。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL402／キャッシュフロー・マネジメント2 (Cash Flow Management 2)		
担当者名 (Instructor)	下川　智広(SHIMOKAWA TOMOHIRO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業価値というテーマは、経営や財務部門に携わる方でなくても、社会人の基礎知識として学ぶ必要性を感じている方は多いのではないでしょうか。本講義は企業価値評価(バリュエーション)の基礎を理解し、企業価値向上のための経営意思決定ができるようになることを目標とする。

In this course, you will learn how to analyze and evaluate the financial implications of strategic and operating decisions. You will learn the correct way to do financial modeling and how to identify and avoid potential pitfalls and common mistakes.

授業の内容(Course Contents)

企業価値評価において、マネジメントは様々な情報を詳細に分析し、将来の業績動向について予測をしなければならない。これまで企業価値を算定しようとする様々な評価方法や企業価値評価モデルが考案されてきた。本講義では、ディスカウント・キャッシュフロー(DCF)法を中心に、キャッシュフローを用いて企業価値評価がどのように行われ、マネジメントとして企業価値向上のために何を行っていけばよいのかについて、アカウンティングとファイナンスの観点から講義する。

The focus of this course is on the valuation of companies. The course covers current conceptual and theoretical valuation frameworks and translates those frameworks into practical approaches for valuing companies. The relevant accounting topics and the appropriate finance theory are integrated to show how to implement the valuation frameworks discussed on a step-by-step basis. The course teaches how to develop the required information for valuing companies from financial statements and other information sources in a real-world setting.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション:アカウンティングからファイナンスへの橋渡し
2. 1. マネジメント視点から見たキャッシュフローと投資意思決定
3. 1-1. 投資意思決定の判断基準① 時間価値と割引計算
4. 2. 企業価値評価論
5. 2-1.ディスカウント・キャッシュ・フロー(DCF)法総論
6. 2-2. フリーキャッシュフロー(FCF) の算定①
7. 2-3. フリーキャッシュフロー(FCF)の算定 ②
8. 2-4. 加重平均資本コスト(WACC) の算定①
9. 2-5. 加重平均資本コスト(WACC)の算定 ②
10. 2-6. ディスカウント・キャッシュ・フロー(DCF)法による企業価値評価演習
11. 3. 企業価値評価とマネジメント
12. 3-1. 企業価値評価が必要となる理由
13. 3-2. 企業価値向上のためのマネジメント
14. キャッシュフローマネジメント2のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の予習範囲や課題は、講義内で説明する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席したうえで積極的な討論への参加(40%)/最終レポート(Final Report)(40%)/中間レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

テキストは教育支援システム Blackboard または立教時間を通じて配布します。

参考文献(Readings)

参考文献は適時指示します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

キャッシュフロー・マネジメント 1、会計学基礎や企業財務基礎などのアカウンティング・ファイナンスの関連科目を受講していることが望ましい。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL403／管理会計1 (Managerial Accounting 1)		
担当者名 (Instructor)	中村　正伸(NAKAMURA MASANOBU)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. 伝統的な管理会計の内容を理解し、重要なポイントを説明できる。
2. 1.を踏まえ、現代において管理会計に期待される役割を自分なりに考察することができる。

1. Understand the contents of traditional management accounting and be able to explain important points.

2. Based on 1.
the modern expected role of management accounting cab be considered in your own way.

授業の内容(Course Contents)

企業は、製品やサービスのライフサイクルが短期化する中で、その戦略目標を実現する必要がある。
そのことを前提に、管理会計の企業組織内での役割を検討する。
前半では、管理会計についての伝統的な内容を主に議論する。
後半では、その内容も踏まえ、履修者の所属組織における管理会計(特に予算管理)についてプレゼンテーションをしてもらい、
その内容を基に履修者で議論を行う。

Enterprises need to achieve their strategic goals in an environment where the life cycle of their products and services is shortened.

Assuming that situation, we consider the role of management accounting within organizations.

In the first half, we will mainly discuss the traditional content of management accounting.

In the second half, based on the contents of the first half, the students will be asked to give a presentation on management accounting (especially budgeting) in their organizations, and the students will discuss based on the contents.

授業計画(Course Schedule)

1. 授業の進め方、イントロダクション:管理会計とそのシステムの持つ 2 面性①
2. 管理会計とそのシステムの持つ 2 面性②
3. 管理会計の基礎①:管理会計の意義
4. 管理会計の基礎②:管理会計の基礎概念
5. 意思決定アプローチ
6. 業績管理アプローチ
7. 原価管理と PDCA サイクル
8. 利益管理①:利益管理と利益計画
9. 利益管理②:CVP 分析
10. 予算管理①:予算管理の意義と予算管理の実行
11. 予算管理②:予算差異分析と予算の運用の実際、プレゼンテーション①
12. 学習内容の復習、プレゼンテーション②
13. プレゼンテーション③
14. プレゼンテーション④、まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回授業後、当日の内容について復習すること。
授業の前に、予習として、前回の内容を振り返ること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内での所属組織についてのプレゼンテーション(40%)/平常点(授業内での発言等)(60%)

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

1. 谷武幸、2013、『エッセンシャル管理会計』、中央経済社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

履修者のバックグラウンドと学習経験等を踏まえ、履修者と調整の上で、講義の内容や順番を一部変更することがあります。

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL404／管理会計2 (Managerial Accounting 2)		
担当者名 (Instructor)	中村　正伸(NAKAMURA MASANOBU)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. 経営環境の変化の中で、管理会計に期待される役割がどのように変化してきているかを理解する。
2. 1.を踏まえ、将来に亘り、管理会計に期待される役割を自分なりに考察することができる。

1. Understand how the expected role of management accounting is changing in the changing business environment.

2. Based on 1., the expected role of management accounting in the future can be considered in your own way .

授業の内容(Course Contents)

企業は、製品やサービスのライフサイクルが短期化する中で、その戦略目標を実現する必要がある。
そのことを前提に、管理会計の企業組織内での役割を検討する。
現代における、組織を取り巻く経営環境の変化を受けて、
組織において管理会計に期待される役割がどのように変わり、具体的にどのような管理会計の活用があるのかを、議論する。

Enterprises need to achieve their strategic goals as the life cycle of their products and services is shortened.
Assuming that situation,, we consider the role of management accounting within organizations.
In response to changes in the business environment surrounding the organization in modern times
We will discuss how the expected role of management accounting in organizations will change, and how management accounting will be used in concrete terms.

授業計画(Course Schedule)

1. 経営環境の変化に伴う管理会計に期待される役割の変化
2. 長期経営計画①
3. 長期経営計画②
4. 設備投資計画①
5. 設備投資計画②
6. ABC・ABM①
7. ABC・ABM②
8. BSC①
9. BSC②
10. 原価企画①
11. 原価企画②
12. プロジェクトベースの管理会計①
13. プロジェクトベースの管理会計②
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎回授業後、当日の内容について復習すること。
授業の前に、予習として、前回の内容を振り返ること。

成績評価方法・基準（Evaluation）

小レポート(40%)/平常点（授業内での発言等）(60%)

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

1. 谷武幸、2013、『エッセンシャル管理会計』、中央経済社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

履修者のバックグラウンドと学習経験等を踏まえ、履修者と調整の上で、講義の内容や順番を一部変更することがあります。

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL408／財務会計1 (Financial Accounting 1)		
担当者名 (Instructor)	清松　敏雄(KIYOMATSU TOSHIO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

会計の一連の流れを理解し、企業の財政状態や経営成績を評価するのに必要なスキルを身につけることを目標とします。

The purpose of this course is to understand the accounting process and to develope skills necessary to evaluate an enterprise's financial position and results of operattions.

授業の内容(Course Contents)

財務諸表作成の根底にある概念や資産・負債の測定基準について解説するほか、収益・費用の認識基準についても解説します。

The concepts of financial accounting and recogniztion / measurement basis of assets, liabilities, revenues and expenses are explained.

授業計画(Course Schedule)

1. 財務会計の役割(情報提供機能と利害調整機能)」
2. 収益・費用の認識基準(現金基準、発生基準、実現基準)
3. 資産・負債の評価基準(総論)(原価基準、時価基準、割引現在価値基準)
4. 資産の評価基準(事業投資)(2)棚卸資産
5. 資産の評価基準(事業投資)(3)有形固定資産
6. 資産の評価基準(金融資産)(1)
7. 資産の評価基準(金融資産)(2)
8. 減損会計(減損の兆候、減損損失の認識、減損損失の測定)
9. 研究開発費の会計(資産計上、一括費用化、条件付資産計上)
10. 負債の評価基準(金融負債)
11. 引当金(債務性引当金と非債務性引当金)
12. 財務会計と税務の相違(目的の相違と計算構造)
13. 税効果会計(一時差異と永久差異、将来減算一時差異と将来加算一時差異)
14. 財務会計1のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

復習:　各回の講義の終わりに復習用の課題を提示するので、その課題を行うこと。
予習:　事前準備が必要な回については、その前の授業の際に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/授業への参加度(授業内の課題対応を含む)(60%)

テキスト(Textbooks)

講義内で指示する。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL409／財務会計2 (Financial Accounting 2)		
担当者名 (Instructor)	清松　敏雄(KIYOMATSU TOSHIO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

財務諸表分析の手法についての知識の習得することを目標とする。

The objective of this course is to acquire knowledge about analysis of financial statements.

授業の内容(Course Contents)

財務諸表を用いて企業の収益性等の分析する手法を解説する。

By using financial statements, analysis methods of profitability of a company are explained.

授業計画(Course Schedule)

1. 財務諸表分析のうち収益性分析(2回中1回目)について解説する。
2. 財務諸表分析のうち収益性分析(2回中2回目)について解説する。
3. 財務諸表分析のうち安全性分析について解説する。
4. 財務諸表分析のうち効率性分析について解説する。
5. 財務諸表分析のうち成長性分析について解説する。
6. 連結財務諸表について解説する。
7. 連結財務諸表を用いた財務諸表分析について解説する。
8. セグメント情報について解説する。
9. セグメント情報を用いた財務情報の分析について解説する。
10. 株価収益率や株価純資産倍率等について解説する。
11. 会計情報と株価の関係について解説する。
12. 利益とキャッシュ・フローの関係について解説する。
13. 中期経営計画の利用について解説する。
14. 財務会計2のまとめを行う。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

復習:　各回の講義の終わりに復習用の課題を提示するので、その課題を行うこと。
予習:　事前準備が必要な回については、その前の授業の際に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への出席とディスカッション等への参加(60%)/最終テスト(Final Test)(40%)

テキスト(Textbooks)

講義内で指定する。

参考文献(Readings)

1. 青木茂男他、2016、『要説経営分析』、森山書店 (ISBN:978-4839421618)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

財務会計1と財務会計2は、両科目ともに履修することが望ましいが、一方の科目のみの履修も可能である。

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL416／会計学基礎1 (Accounting 1)		
担当者名 (Instructor)	濱田　眞樹人(HAMADA MAKITO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

当科目は非財務系管理者・経営者のための基礎会計(Basic Accounting for Non-financial Managers)である。企業がステーク・ホルダーに経営成績や財務状態などの情報を提供する財務会計は，社会的な制度として行われるが，その根底には会計学の理論がある。「会計学基礎」では，企業の経営において経営者や経営現場のリーダーが直面することとなる会計の基礎を習得する。

This is the basics of financial accounting for non-financial managers. The financial accounting, in which companies provide information such as profits/losses and financial positions to the stakeholders, is performed as a social institution based on the principles. In the class, we learn the basis of accounting, which managers and the leaders will face in the day-to-day management of corporations.

授業の内容(Course Contents)

簿記などの予備知識が無い場合，初めて会計を学ぶ場合でも，記帳から財務諸表作成までの基礎知識を理解して，会計用語を身につけることを目標とする。前半は簿記や財務諸表作成実習を含む会計の基礎を，後半では起業家のための会計実務についても学ぶ。

The goal is to acquire accounting terminology by understanding basic knowledge from bookkeeping to preparation of financial statements. In the first half, the basics of accounting, including bookkeeping and financial statements preparation training, are studied, and in the latter half, accounting business practices for entrepreneurs is also studied.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション，会計とは
   ・講義案内
   ・株式会社制度と証券市場，アカウンタビリティとコーポレート・ガバナンス
2. イントロダクション，会計とは
   ・株式会社制度と証券市場，アカウンタビリティとコーポレート・ガバナンス
   ・事例研究
3. 会計の基礎概念
   ・企業活動と複式簿記の仕組み
   ・資産，負債，資本，収益，費用，利益
4. 会計の基礎概念
   ・取引，勘定科目，仕訳，元帳，決算整理，簿記一巡の手続
   ・演習
5. 財務諸表の作成
   ・財務諸表の役割，個別財務諸表と連結財務諸表，四半期開示
   ・損益計算書，貸借対照表，キャッシュフロー計算書，株主資本変動計算書
6. 財務諸表の作成
   ・有価証券報告書と Annual Report，エディネットと Edgar Online
   ・演習
7. 会計原則，監査
   ・企業会計原則，一般原則，損益計算書原則，貸借対照表原則，IFRS，証券市場と証券取引法，米国企業改革法と金融商品取引法
8. 会計原則，監査
   ・財務諸表監査の意義，監査基準，財務報告に係る内部統制と内部監査
   ・事例研究
9. 意思決定のための会計
   ・財務諸表を読む力，投資の意思決定
10. 意思決定のための会計
    ・予算管理，財務諸表分析

・演習
11. 起業家のための会計実務
・スタートアップ企業の諸届出や会計と税務
12. 資金繰り，給与計算，社会保険
・事例研究
13. まとめ
14. テスト

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業内で指示する。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終テスト(Final Test)(35%)/授業への出席と貢献(35%)/授業内演習(30%)

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

1. 桜井久勝、2018、『会計学入門〈第5版〉』、日本経済新聞社 (ISBN:9784532113957)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

「原価計算基礎」を履修することが望ましい。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL418／原価計算基礎1 (Cost Accounting 1)		
担当者名 (Instructor)	濱田　眞樹人(HAMADA MAKITO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

当科目は非財務系管理者・経営者のための基礎の原価計算(Basic Cost Accounting for Non-financial Managers)である。「原価計算基礎」では，企業の経営において経営者や経営現場のリーダーが把握すべき原価に関する概念，記録の仕組み，管理手法を習得する。

This is the basics of cost accounting for non-financial managers. In this class, we learn the concepts, mechanism of the recording, and management techniques of costs, necessary for managers and leaders.

授業の内容(Course Contents)

工業簿記などの知識が無い場合，初めて原価計算を学ぶ場合でも，原価を計算する仕組みを理解できることを目標とする。前半は原価の概念とその計算の基礎実習を，後半は原価を使った経営管理について学ぶ。

The goal of this study is to understand the mechanism of cost calculation. In the first half, the concept of cost and basic calculation training are studied, and in the second half, business cost management is studied.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション，原価計算とは何か？
   ・講義案内
   ・原価とは，原価計算の目的と歴史
2. イントロダクション，原価計算とは何か？
   ・直接費と間接費，変動費と固定費
   ・事例研究
3. 原価の諸概念
   ・材料費・労務費・経費
4. 原価の諸概念
   ・在庫と仕掛品
   ・演習
5. 原価計算の仕組み
   ・個別原価計算と総合原価計算，損益計算
6. 原価計算の仕組み
   ・個別原価計算と総合原価計算，損益計算
   ・演習
7. 原価差異分析
   ・標準原価と差異分析
8. 原価差異分析
   ・標準原価と差異分析
   ・演習
9. 間接費等
   ・配賦計算，仕損と減損，副産物の計算
10. 間接費等
    ・配賦計算，仕損と減損，副産物の計算
    ・演習
11. 直接原価計算と損益分岐点
    ・CVP 分析
    ・利益率計算
12. 直接原価計算と損益分岐点
    ・CVP 分析
    ・利益率計算
    ・演習
13. まとめ

14. テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内で指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(35%)/授業への出席と貢献(35%)/授業内演習(30%)

テキスト(Textbooks)

レジュメを配布する。

参考文献(Readings)

1. 加登豊・山本浩二、2012、『原価計算の知識〈第 2 版〉』、日本経済新聞社 (ISBN:9784532112677)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

【系統的履修】「会計学基礎」を履修することが望ましい。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL461／会計学1 (Accounting 1)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	企業会計を考えて学ぶ		
担当者名 (Instructor)	角ヶ谷　典幸(TSUNOGAYA NORIYUKI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

会計学の基礎知識を前提として、ディスカッションを通じて、応用力を身につける。

Students will acquire applied skills through discussion, given the basic knowledge on accounting included in the textbook.

授業の内容(Course Contents)

参加者(全員)は、毎回、テキストの該当箇所に目を通し、疑問点や討論したい事項をまとめる。報告者(毎回数名)がテキストの該当箇所について報告を行う。司会者(毎回 1 名)が中心となって、テキストの疑問点を解決し、全体の討論を進める。参加者(全員)は、学期の最後に、自分の関心のあるテーマでレポートを作成し、報告する。

Participants (all students) will read the relevant parts of the textbook and summarize the questions and issues they want to discuss. Presenters (several students) will give presentations on the relevant parts of the textbook. The moderator (one student) will take the lead in resolving questions about the textbook and facilitating discussion. At the end of the semester, participants (all students) will give a presentation on a topic of their own interest.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 金融商品①
3. 金融商品②
4. デリバティブ①
5. デリバティブ②
6. リース①
7. リース②
8. 固定資産の減損①
9. 固定資産の減損②
10. 研究開発費とソフトウェア①
11. 研究開発費とソフトウェア②
12. 退職給付①
13. 退職給付②
14. 学期末レポートの発表と議論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストの該当箇所に目を通し、疑問点や討論したい事項をまとめてくること。テキストの設例を解いてくること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告(40%)/討論(40%)/最終レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 佐藤信彦ほか、2022、『スタンダード財務会計論 II 応用論点編』、中央経済社

参考文献(Readings)

1. 佐藤信彦ほか、2022、『スタンダード財務会計論 I 基本論点編』、中央経済社

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本講義は、教員が一方的に話をしながら進める講義ではなく、受講者がディスカッションをしながら進める講義である。学部上級レベルの財務会計の知識(上記参考文献程度の知識)を前提として進めていく予定である。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL466／会計学2 (Accounting 2)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	企業会計を考えて学ぶ		
担当者名 (Instructor)	角ヶ谷　典幸(TSUNOGAYA NORIYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

会計学の基礎知識を前提として、ディスカッションを通じて、応用力を身につける。

Students will acquire applied skills through discussion, given the basic knowledge on accounting included in the textbook.

授業の内容(Course Contents)

参加者(全員)は、毎回、テキストの該当箇所に目を通し、疑問点や討論したい事項をまとめる。報告者(毎回数名)がテキストの該当箇所について報告を行う。司会者(毎回 1 名)が中心となって、テキストの疑問点を解決し、全体の討論を進める。参加者(全員)は、学期の最後に、自分の関心のあるテーマでレポートを作成し、報告する。

Participants (all students) will read the relevant parts of the textbook and summarize the questions and issues they want to discuss. Presenters (several students) will give presentations on the relevant parts of the textbook. The moderator (one student) will take the lead in resolving questions about the textbook and facilitating discussion. At the end of the semester, participants (all students) will give a presentation on a topic of their own interest.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 新株予約権および新株予約権付社債①
3. 新株予約権および新株予約権付社債②
4. 法人税等①
5. 法人税等②
6. 事業分離①
7. 事業分離②
8. 連結財務諸表①
9. 連結財務諸表②
10. 連結財務諸表③
11. 外貨換算①
12. 外貨換算②
13. 四半期財務諸表
14. 学期末レポートの発表と議論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

テキストの該当箇所に目を通し、疑問点や討論したい事項をまとめてくること。テキストの設例を解いてくること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告(40%)/討論(40%)/最終レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 佐藤信彦ほか、2022、『スタンダード財務会計論 II 応用論点編』、中央経済社

参考文献(Readings)

1. 佐藤信彦ほか、2022、『スタンダード財務会計論 I 基本論点編』、中央経済社

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本講義は、教員が一方的に話をしながら進める講義ではなく、受講者がディスカッションをしながら進める講義である。学部上級レベルの財務会計の知識(上記参考文献程度の知識)を前提として進めていく予定である。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL473／会計学基礎3 (Accounting 3)		
担当者名 (Instructor)	清松　敏雄(KIYOMATSU TOSHIO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業における会計の役割と商取引の計算構造を学ぶ

The role of accounting in corporations and the calculation structure of commercial transactions are studied

授業の内容(Course Contents)

企業は理念やビジョンに基づいて経営計画を策定し，他社(他者)との交換取引を行う。取引内容は貨幣単位で記録され，蓄積される。企業は一定期間が経過した時点で，蓄積された取引内容を財務諸表にまとめる。すなわち，財務諸表は一定期間における企業活動の成果を示す表であり，経営者の声でもある。

本講義では，企業経営の成果がまとめられた財務諸表を題材とし，その構造と作成プロセスの理解を目標としている。

The corporation decides the management plan based on an idea and vision, and performs exchange trade with other companies (other people). The transaction contents are recorded and accumulated in the currency unit. When a certain period of time has passed, corporations arrange the contents of accumulated transactions into financial statements. That is, the financial statement is a table which shows the result of business activity in a fixed period, and it is also the voice of the manager.

In this lecture, the goal is to focus on financial statements that have been compiled from the results of corporate management and to understand its structure and process of creation.

授業計画(Course Schedule)

1. 企業経営と会計、簿記と財務諸表(損益計算書と貸借対照表)
2. 取引の仕訳と勘定記入(仕訳の作成方法と転記、元帳の意義)
3. 商品売買(1)三分法における販売、仕入の処理
4. 商品売買(2)返品、クレジット売掛金など
5. 現金・預金(現金過不足、小切手)
6. 手形と電子記録債権(約束手形、電子記録債権など)
7. 有形固定資産の購入
8. その他の債権・債務(貸付金・借入金、未収入金・未払金など)
9. 試算表と決算手続(1)
10. 決算手続(2)
11. 決算手続(3)
12. 財務諸表の作成
13. 帳簿組織
14. 会計学基礎3のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義内容をマスターするために，授業後には復習を行うこと。また，次回の講義までに準備しておくことは，講義内で説明する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/講義への参加状況(授業内の課題対応を含む)(60%)

テキスト(Textbooks)

1. 滝澤ななみ、2021、『みんなが欲しかった！簿記の教科書日商3級商業簿記』、TAC出版 (ISBN:9784813296065)
指定したテキストについて、授業開始時の最新版を用いるので、改訂版が出版されている場合には最新版を用意してください
(2022 年 2 月に第 10 版が出版される予定です)。

参考文献(Readings)

必要に応じて，講義内で指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本講義は会計学の初心者を対象として開講する。
仮想の取引の記帳から簡単な財務諸表作成までの一連の流れを繰り返し行い、財務諸表を作成できる技能の修得を目指す。

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL474／原価計算基礎3 (Cost Accounting 3)		
担当者名 (Instructor)	清松　敏雄(KIYOMATSU TOSHIO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

製品の製造費用の計算方法について学ぶ。

How to calculate the cost of manufacturing a product is studied.

授業の内容(Course Contents)

製造業は，原材料や製造に携わる工員など，有形・無形の資源を結合させて製品を生産し，その販売を通じて社会の富の形成に貢献している。製品販売時にはその対価を受け取ることになるが，果たしてその対価はいくらに設定すればよいだろうか。

製品を生産するためにかかる費用は製造原価と呼ばれ，それは販売価格の決定に有用な情報として利用される。本講義では，製造原価の計算方法の基本的な構造について理解することを目標にしている。

また、標準原価計算や直接原価計算を取り上げ，コストマネジメントの基本を学ぶ。

The manufacturing industry produces products by combining tangible and intangible resources such as raw materials and workers that are involved in manufacturing, and through those sales have contributed to the formation of the wealth of society. When selling a product, you will receive compensation, but how much should the compensation be set at?

The cost for producing the product is called the manufacturing cost, and it is utilized as useful information for deciding the selling price. In this lecture, the goal is to understand the basic structure of the manufacturing cost calculation method.

Also, standard cost accounting and direct cost accounting are taken up, and the basics of cost management are studied.

授業計画(Course Schedule)

1. 原価計算の基礎(1)
2. 原価計算の基礎(2)材料費
3. 原価計算の基礎(3)労務費と経費
4. 個別原価計算(1)
5. 個別原価計算(2)部門別個別原価計算
6. 総合原価計算(1)
7. 総合原価計算(2)工程別総合原価計算、組別総合原価計算、等級別総合原価計算
8. 総合原価計算(3)仕損・減損など
9. 製造業における財務諸表、本社工場会計
10. 標準原価計算(1)
11. 標準原価計算(2)差異分析
12. 直接原価計算(1)
13. 直接原価計算(2)CVP分析
14. 原価計算基礎3のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

計算方法をマスターするために，授業後には復習を行うこと。また，次回の講義までに準備しておくことは，講義内で説明する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/講義への参加状況(講義内での課題対応を含む)(60%)

テキスト(Textbooks)

1. 滝澤ななみ、2021、『みんなが欲しかった簿記の教科書日商2級工業簿記』、TAC出版 (ISBN:9784813296089)
テキストは授業開始時の最新版を用いる(2022 年 2 月に新しい版のものが出版される予定です)。

参考文献(Readings)

必要に応じて，講義内で指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本講義は原価計算の初心者を対象として開講する。

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL509／リーダーシップ論1 (Leadership 1)		
担当者名 (Instructor)	安部　哲也(ABE TETSUYA)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

リーダーシップ理論やケース演習を通じて、リーダーシップとは何か、リーダーシップ実践手法を学ぶ。受講者自身のリーダーシップにおける強み・弱み、スタイルを確認し、各自のリーダーシップ開発を進めていく。

What leadership is, and how leadership practices can be practiced, are studied through leadership theory and case studies. Participants will review their own strengths, weaknesses, and style of leadership and will each develop their own leadership.

授業の内容(Course Contents)

デジタル化、多様化、グローバル化、社会問題、リモート化、長寿命化などにより、ビジネスや社会活動を取り巻く環境は急激に変化してきている。このような複雑な環境下、リーダーシップの重要性がさらに高まり、また取るべきリーダーシップのあり方も変化してきている。リーダーシップについて、これまでのリーダーシップ研究の変遷をおさえながら、国内、グローバル企業・組織の経営者、リーダー、マネージャーなどのケースを参考に学習していく。講義中心ではなく、個人ワーク、グループディスカッション、ケース演習などを多く取り入れ、全員参加型ワークショップ形式で進める。

The environment surrounding business and social activities has been changing rapidly due to globalization, the internet, and diversity. In such a complex environment, the importance of leadership is increasing, and the way of taking leadership is changing. With past transitions in leadership research as the base, we will learn about leadership by referring to cases of executives, leaders, managers, etc. of domestic and global corporations and organizations. Rather than focusing on lectures, this workshop will focus on individual work, group discussions, and case studies, and will be organized in a workshop style that is open to all participants.

授業計画(Course Schedule)

1. リーダーシップの定義: リーダーシップとは何か？
   事業環境の変化とリーダーシップの変化
2. リーダーシップ理論研究の変遷①（特性理論　・行動理論　・条件適合型理論）
3. セルフ・リーダーシップ①:自分自身の強み／弱み、価値分析
4. セルフ・リーダーシップ②:自分自身のビジョン構築・リーダーシップ開発プラン検討
5. リーダーシップ理論研究の変遷②（トランスフォーメーショナル・リーダーシップ）
   ケース例)富士フイルム　第二創業　等
6. リーダーシップ理論研究の変遷③（トランザクショナル・リーダーシップ）
7. チーム・リーダーシップ①:経営理念・パーパス・ビジョン構築手法と演習
   ケース例)パナソニック、SOMPO ジャパン　等
8. チーム・リーダーシップ②:モチベーション理論　ケース例)伊那食品工業　等
9. グローバル・リーダーシップ:異文化理解 フレームワーク
   ケース)トヨタ、タケダ　など
10. ソーシャル・リーダーシップ:ケーススタディ
    ケース例)グラミン銀行、日本理化学工業、ボーダレスジャパン　等
11. デジタル時代のリーダーシップ＆コミュニケーション
    デジタル世代(ミレニアル、Z 世代など)の特徴
12. ケーススタディ　例)日本の起業家　稲盛和夫　など
13. ゲストスピーカー(企業経営者・起業家など)による講演とディスカッション or ケーススタディ
14. リーダーシップ開発プランの発表・質疑応答・全体のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義内で別途指示する

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業貢献(出席、発言など)(40%)/授業内課題(60%)

テキスト(Textbooks)

1. ハーバードビジネススクール、2010、『ケース・スタディ 日本企業事例集―世界のビジネス・スクールで採用されている』、ダイヤモンド社 (ISBN:978-4478006740)
2. 安部哲也、2022、『世界標準のリーダーシップ』、総合法令出版 (ISBN:978-4-86280-843-1)
別途、テキスト類は、開講時に指示する

参考文献(Readings)

1. スティーブン ロビンス、2009、『新版　組織行動のマネジメント』、ダイヤモンド社 (ISBN:978-4-478-00459-3)
2. 野中郁次郎・竹内弘高、2020、『ワイズカンパニー』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-52230-1)
3. ジム・コリンズ、2001、『ビジョナリー・カンパニー 2 - 飛躍の法則』、日経 BP 社 (ISBN:4822242633)
4. P. F. ドラッカー、2006、『経営者の条件』、ダイヤモンド社 (ISBN:4-478-30074-7)
5. 松下幸之助、2001、『実践経営哲学』、PHP 研究所 (ISBN:4569575625)
6. 坂本光司、2008、『日本でいちばん大切にしたい会社』、あさ出版 (ISBN:4860632486)
7. 安部哲也、2022、『新版　課長の心得』、総合法令出版 (ISBN:978-4-86280-836-3)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

系統的履修　リーダーシップ論2も継続受講すること。
【双方向による授業】簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は約 70%(14 回中 10 回)である。
【実務家教員による授業】5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL510／リーダーシップ論2 (Leadership 2)		
担当者名 (Instructor)	安部　哲也(ABE TETSUYA)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

リーダーとしての、コーチング＆コミュニケーションスキルを学び、部下や同僚などに対し、効果的なコーチング＆コミュニケーションを実践できるレベルになることを目指す。
また、リモート環境、デジタル環境におけるリーダーシップのあり方、実践法を学ぶ。

As a leader, our goal will be to study coaching skills and be able to practice and use coaching toward subordinates and colleagues.

授業の内容(Course Contents)

企業・組織を取り巻く環境が複雑化、多様化する中、企業・組織の経営資源である「ヒト・モノ・カネ・ノウハウ・データ」において「ヒト」をどう動機づけ、どう育成していくかが、さらに重要かつ難しい課題となってきている。経営者、リーダー、マネージャーがメンバーを動機付け、育成するための実践的なリーダーシップ・コーチング・スキルを習得する。コーチングスキルは欧米において、経営者やリーダー、マネージャーに不可欠なスキルとして定着してきており、また日本やアジアの企業・組織においても導入が急速に進んでいる。コーチングの基本的な考え方、コミュニケーションスキル、ビジョン実現モデルなどを理論と実践的演習などを通じて学ぶ。

As the environment surrounding corporations and organizations is becoming more and more complex and diverse, how to motivate and develop ″people″ in ″people, things, money, and information″, which are the resources of management in corporations and organizations, has become a more important and difficult issue. We will learn practical leadership coaching skills for executives, leaders, and managers to motivate and develop members. Coaching skills have been established in Europe and the United States as essential skills for executives, leaders and managers, and have been rapidly introduced in companies and organizations in Japan and Asia. We will study the basic concepts of coaching, communication skills, vision realization models, etc., through theoretical and practical seminars.

授業計画(Course Schedule)

1. リーダーシップ・コーチングの定義
   ティーチングとコーチング　メリットとデメリット、使い分け
2. リーダーシップにおける信頼関係の構築　”スマート・トラスト”
3. リーダーシップ・コーチング・スキル演習①: アクティブリスニング
4. リーダーシップ・コーチング・スキル演習②: 効果的な質問スキル
5. リーダーシップ・コーチング・スキル演習③: フィードバック＆フィードフォワード　スキル
6. リーダーシップ・コーチング・スキル演習④: ロールプレー演習
   ケース例)個人的スキルは高いが、チームワークの取れないメンバーへのコーチング　等
7. リーダーシップ・コーチング　ビジョン実現(M+GROW)モデル　演習
8. 組織文化について　　ケース例)トヨタ、ソニー　等
9. ラーニング・オーガニゼーション(学習する組織)とは
   実践方法　ワールドカフェなど
10. 積極的フォロワーシップ(上司を動かすリーダーシップ)
11. ゲスト・スピーカーによる講義・議論　例)企業経営者・リーダーなど　or　ケーススタディ
12. リモート・リーダーシップ　ーリモートワークにおけるリーダーシップ
13. リーダーシップに関する研究テーマ　発表・質疑応答・まとめ①
14. リーダーシップに関する研究テーマ　発表・質疑応答・まとめ②

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義内で別途指示する

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業貢献(出席、発言など)(40%)/授業内課題(60%)

テキスト(Textbooks)

1. 安部哲也、2022、『世界標準のリーダーシップ』、総合法令出版 (ISBN:978-4-86280-843-1)
講義時に配布，指示する。

参考文献(Readings)

1. トム・ラス、2017、『さあ、才能に目覚めよう ストレングス・ファインダー2．0 新版』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-32143-7)
2. エリック・シュミット、2019、『1 兆ドルコーチ シリコンバレーのレジェンド ビル・キャンベルの成功の教え』、ダイヤモンド社 (ISBN:4478107246)
3. リード・ヘイスティングス、2020、『NO RULES(ノー・ルールズ) 世界一「自由」な会社、NETFLIX』、日本経済新聞出版 (ISBN:4532323673)
4. ピーター M センゲ、2011、『学習する組織―システム思考で未来を創造する』、英治出版 (ISBN:4862761011)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

系統的履修 リーダーシップ論1も履修すること。
【双方向による授業】簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は約 70%(14 回中 10 回)である。
【実務家教員による授業】5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL521／ヒューマン・リソース・マネジメント1 (Human Resource Management 1)		
担当者名 (Instructor)	山崎　京子(YAMAZAKI KYOKO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. ヒューマン・リソース・マネジメントで取り扱う主要テーマの概要と課題について理解できるようになること。
2. 身近で発生している事象について、理論的枠組みから理解し、自ら問いをたてることができるようになること。
3. 研究論文を読みこなし、実務へのインプリケーションを自ら考えることができるようになること。

The goals this course are to
1. Be able to understand the outline and issues of the main themes discussed with in human resource management.
2. Be able to understand the phenomenon around us from a theoretical framework and set research question by oneself.
3. Be able to read research papers and discover the implications for business.

授業の内容(Course Contents)

ビジネスを成り立たせる資源(リソース)には、ヒト、モノ、カネがあると言われるが、ヒトには認知、感情、意思があり、さらに成長発達することから、そのマネジメントは容易ではない。よって、ヒューマン・リソース・マネジメントの学習は広範囲、かつ深奥である。
この講義では、経営戦略の実現に向けてヒューマン・リソース・マネジメントの中核的機能である、格付け、賃金、評価、報酬、採用、配置、人材開発などについて実践と理論を融合させた学習を行う。

It is said that the resources that make up a business include people, material, and money. However, only humans have cognition, emotions, and will, furthermore, they grow and develop. This is why the management of people is not easy than the others. Therefore, the discussion of human resource management is extensive and profound.
This course introduces the core functions of human resource management, such as grading, wages, evaluation, compensation, recruitment, placement, and human resource development, in order to activate the business strategy by combining practice and theory.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション：人事の課題整理
2. ヒューマン・リソース・マネジメントの鳥観図と概論
3. 経営戦略とヒューマン・リソース・マネジメント (1)
4. 経営戦略とヒューマン・リソース・マネジメント (2)
5. 社員格付け制度と賃金 (1)
6. 社員格付け制度と賃金 (2)
7. 人事評価と報酬 (1)
8. 人事評価と報酬 (2)
9. 採用、配置、退出 (1)
10. 採用、配置、退出 (2)
11. 人材開発とキャリア開発 (1)
12. 人材開発とキャリア開発 (2)
13. 雇用形態の多様化 (1)
14. 雇用形態の多様化 (2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内で指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内レポート(60%)/授業姿勢(出席、発言、発表)(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 平野光俊・江夏幾多郎、2018、『人事管理　人と企業、ともに活きるために』、有斐閣 (ISBN:978-4641150478)

参考文献(Readings)

授業内で紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

全授業回のうち、概ね半数程度対面実施予定

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL526／ヒューマン・リソース・マネジメント2 (Human Resource Management 2)		
担当者名 (Instructor)	山崎　京子(YAMAZAKI KYOKO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. ヒューマン・リソース・マネジメントの隣接領域となる組織行動、労働政策、労働法等で取り扱う主要テーマの概要と課題について理解できるようになること。
2. 身近で発生している事象について、理論的枠組みから理解し、自ら問いをたてることができるようになること。
3. 研究論文を読みこなし、実務へのインプリケーションを自ら考えることができるようになること。

The goals this course are to
1. Be able to understand the outline and issues of the adjacent areas of human resource management such as organizational behavior, labor policy, labor law, etc.
2. Be able to understand the phenomenon around us from a theoretical framework and set research question by oneself.
3. Be able to read research papers and discover the implications for business.

授業の内容(Course Contents)

ビジネスを成り立たせる資源(リソース)には、ヒト、モノ、カネがあると言われるが、ヒトには認知、感情、意思があり、さらに成長発達することから、そのマネジメントは容易ではない。よって、ヒューマン・リソース・マネジメントの学習は広範囲、かつ深奥である。
この講義では、ヒューマン・リソース・マネジメントの隣接領域で議論される組織行動、労働政策、労働法等における主要テーマについて、実践と理論を融合させた学習を行う。

It is said that the resources that make up a business include people, material, and money. However, only humans have cognition, emotions, and will, furthermore, they grow and develop. This is why the management of people is not easy than the others. Therefore, the discussion of human resource management is extensive and profound.
This course introduces the adjacent areas of human resource management such as organizational behavior, labor policy, labor law, etc. by combining practice and theory to students taking this course.

授業計画(Course Schedule)

1. 組織行動論:モチベーション(1)
2. 組織行動論:モチベーション(2)
3. 組織行動論:個人と組織の関係性(1)
4. 組織行動論:個人と組織の関係性(2)
5. 組織行動論:リーダーシップ(1)
6. 組織行動論:リーダーシップ(2)
7. 組織行動論:コンフリクト(1)
8. 組織行動論:コンフリクト(2)
9. 組織行動論:組織文化(1)
10. 組織行動論:組織文化(2)
11. 労働政策:外部労働市場と内部労働市場(1)
12. 労働政策:外部労働市場と内部労働市場(2)
13. 労働法:労働法制と就業管理(1)
14. 労働法:労働法制と就業管理(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内で指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内レポート(60%)/授業姿勢(出席、発言、発表)(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 鈴木竜太・服部泰宏、2019、『組織行動　組織の中の人間行動を探る』、有斐閣 (ISBN:978-4641150669)

参考文献（Readings）

授業内で紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

全授業回のうち、概ね半数程度対面実施予定

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL551／ビジネス・オーガニゼーション3 (Business Organization 3)		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

組織デザインの基本原理と諸問題について学ぶ。

Study the basic principles and problems of organizational design.

授業の内容(Course Contents)

「ビジネス・オーガニゼーション」とは、ビジネスを行う組織、すなわち企業組織のことを指している。組織を定義することは実はそれほど簡単ではないが、有名なものとしては例えばバーナードが、「ふたり以上の人々の意識的に統括された活動や諸力の体系」として定義し、「相互に意思の疎通を図ることができ、達成すべき共通の目的を認識し、相互に努力・貢献しようとするとき組織は成立する」と述べている。しかしここではより一般的に、ビジネスという目的を実現するために人為的に形成された「分業と調整による協働の仕組み」として定義しておきたい。

今日のグローバル化の進展と技術革新、規制緩和といった動きを背景として、いかに効率的かつ競争力ある組織を創り上げるかは極めて重要な戦略的課題となっている。組織が人間の協働の仕組みであると考えれば、組織の競争力にとって組織を担う個々の人間の問題も当然等閑にすることはできない。

この講義では、組織について、その原理や原則に立ち戻って理論的に考察することを通じて今日の企業組織の現状を批判的に捉え、その問題を発見することにつながるような知識を学びたいと考えている。

"Business organization" refers to an organization that conducts business, that is, a corporate organization. Although it is not so easy to define an organization, Bernard, for example, famously said that it should be defined as "a system of consciously coordinated activities or forces of two or more persons" and that "an organization should be established when it is able to communicate with one another and when it recognizes a common goal to be achieved and strives for that and contributes to each other". However, we would like to define it more generally as "a mechanism of cooperation by division of labor and coordination" which is artificially formed in order to realize the goal of business.

Against the backdrop of the progress of today's globalization, technological innovation and deregulation, how to create an efficient and competitive organization has become a very important strategic issue. If the organization is considered to be a mechanism for human collaboration, the individual human issues cannot be ignored for the organization's competitiveness.

In this lecture, we would like to study knowledge that leads to the discovery of problems by taking a critical view of the present situation of corporate organizations through the theoretical consideration of the organization by going back to the principles and fundamental rules.

授業計画(Course Schedule)

1. 協働のシステムとしての組織
2. 組織の成立と存続の要件:組織の一般理論(1)
3. 組織の成立と存続の要件:組織の一般理論(2)
4. 公式組織と非公式組織:モチベーション問題の発見
5. 組織デザインのフレームワーク
6. 経営者の役割と組織のマネジメント
7. 組織のデザイン変数(1)
8. 組織のデザイン変数(2)
9. 組織のデザイン変数(3)
10. 環境適応と組織
11. 組織のコンティンジェンシー要因(1)
12. 組織のコンティンジェンシー要因(2)
13. コンフィギュレーションと組織デザイン(1)
14. コンフィギュレーションと組織デザイン(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

ご自身のお仕事や職場、会社組織を素材として、どのような問題に直面しているのか、その問題はどのような問題であるのか、なぜそうした問題が生じているのか、考えてみてください。

また、参考文献にある書籍を読んでおくとよいでしょう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

ディスカッションへの参加(20%)/授業内課題(80%)

テキスト(Textbooks)

講義時に指示します。

参考文献(Readings)

1. ピコー、ディートル、フランク、2007、『新制度派経済学による組織入門』、白桃書房
2. 佐久間信夫編、2005、『新版現代経営学』、学文社
3. ヘンリー・ミンツバーグ、2007、『H・ミンツバーグ経営論』、ダイヤモンド社
4. ジョン・ロバーツ、2005、『現代企業の組織デザイン』、NTT 出版
5. 秋野・關・坂本・山中・井口・荒井、2018、『グローバル化とイノベーションの経営学』、税務経理協会

そのほか、講義において随時紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL556／ビジネス・オーガニゼーション4 (Business Organization 4)		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

「ビジネス・オーガニゼーション 3」に続き、組織デザインの基本原理と諸問題について学ぶ。

Following "Business Organization 3", we will study the basic principles and problems of organizational design.

授業の内容(Course Contents)

本科目では、「ビジネス・オーガニゼーション 3」に続き、組織について、その原理や原則に立ち戻って理論的に考察することを通じて今日の企業組織の現状を批判的に捉え、その問題を発見することにつながるような知識を学びたいと考えている。特に「4」では、今日の企業組織や様々な事業体の組織デザインを理解するための理論的知識を修得し、さらにそれを活用して日本企業の組織デザインの現状を批判的に考えてみたい。

In this discipline, following "Business Organization 3", we would like to study knowledge that leads to the discovery of problems by taking a critical view of the present situation of corporate organizations through the theoretical consideration of the organization by going back to the principles and fundamental rules. Particularly in "4", we want to acquire theoretical knowl edge in order to understand the organizational design of today's corporate organizations, and think critically about the present state of organizational design of Japanese companies by utilizing those knowledge.

授業計画(Course Schedule)

1. 組織のコンフィギュレーション:基本類型の特徴と問題(1)
2. 組織のコンフィギュレーション:基本類型の特徴と問題(2)
3. 組織のコンフィギュレーション:基本類型の特徴と問題(3)
4. 組織のコンフィギュレーション:基本類型の特徴と問題(4)
5. 組織のコンフィギュレーション:基本類型の特徴と問題(5)
6. 組織のコンフィギュレーション:基本類型の特徴と問題(6)
7. 新たな組織デザイン(1)
8. 新たな組織デザイン(2)
9. 日本企業の組織デザインを考える(1)
10. 日本企業の組織デザインを考える(2)
11. 日本企業の組織デザインを考える(3)
12. 日本企業の組織デザインを考える(4)
13. 日本企業の組織デザインを考える(5)
14. 日本企業の組織デザインを考える(6)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

ご自身のお仕事や職場、会社組織を素材として、どのような問題に直面しているのか、その問題はどのような問題であるのか、なぜそうした問題が生じているのか、考えてみてください。

また、参考文献にある書籍を読んでおくとよいでしょう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

ディスカッションへの参加(20%)/授業内課題(80%)

テキスト(Textbooks)

講義時に指示します。

参考文献(Readings)

1. ピコー、ディートル、フランク、2007、『新制度派経済学による組織入門』、白桃書房
2. 佐久間信夫編、2005、『新版現代経営学』、学文社
3. ヘンリー・ミンツバーグ、2007、『H・ミンツバーグ経営論』、ダイヤモンド社
4. ジョン・ロバーツ、2005、『現代企業の組織デザイン』、NTT 出版

5. 秋野・關・坂本・山中・井口・荒井、2018、『グローバル化とイノベーションの経営学』、税務経理協会
そのほか、講義において随時紹介します。

その他（HP 等）（Others（e.g.HP））

「ビジネス･オーガニゼーション 3」を履修しておくことが望ましいと思いますが、「4」のみの履修も可能です。

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL569／キャリアデザイン1 (Career Design 1)		
担当者名 (Instructor)	山崎　京子(YAMAZAKI KYOKO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. キャリア・デザインにおける心理学的側面の主要理論を理解できるようになること。
2. 理論を用いた先行研究を調べ、研究の概要説明ができるようになること。
3. 理論を自分自身のキャリア形成に活かし、キャリア・コンサルティングに適用する方法を理解できるようになること。

The goals this course are to
1. Be able to understand the main theories of psychological aspects in career design.
2. Be able to investigate previous theoretical research and explain the outline of the research.
3. Be able to understand how to apply the theory to own career-development and how to apply it to career-consulting.

授業の内容(Course Contents)

キャリアに関する議論は、個人(心理学的な側面)、組織(人材開発的な側面)、そして社会(労働政策的な側面)といった、ミクロからマクロに至るまでの様々な切り口から検討をすることができる領域である。
この講義ではミクロに焦点を絞り、個人のキャリアの捉え方に関する理論を研究者ごとに学び、自分自身のキャリアの内省やキャリア・コンサルティングへの適用を検討する。
グループで先行研究を調べ、毎回講義内で発表を行う。

The discussions about career can be examined from various perspectives, from micro to macro, such as individuals (psychological aspects), organizations (human resources development aspects), and societies (labor policy aspects).
This course focuses on the micro, studying the individual's career theory by each academic researcher, and then reflecting in to oneself and considering and considering the application to career-consulting.
Each group will investigate previous research and make a presentation in the lecture every time.

授業計画(Course Schedule)

1. キャリア心理学概論
2. スーパー 「ライフキャリア・レインボー」
3. ホランド 「VPI 職業興味検査」
4. シャイン 「キャリア・アンカー」
5. シュロスバーグ 「トランジション」
6. デシ＆ライアン 「自己決定理論」
7. バンデューラ 「自己効力感」
8. クランボルツ 「計画された偶発性」
9. ホール 「プロティアン・キャリア」
10. サビカス 「キャリア・アダプタビリティ」
11. ハンセン 「統合的キャリア発達」
12. リンダ・グラットン 「ライフ・シフト」
13. キャリア・コンサルティングの理論と実践(1)
14. キャリア・コンサルティングの理論と実践(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内で指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内レポート(60%)/授業姿勢(出席、発言、発表)(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 渡辺三枝子、2018、『新版キャリアの心理学』、ナカニシヤ出版 (ISBN:978-4779512940)

参考文献(Readings)

授業内で紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

全授業回のうち、概ね半数程度対面実施予定

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL570／キャリアデザイン2 (Career Design 2)		
担当者名 (Instructor)	山崎　京子(YAMAZAKI KYOKO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. キャリア研究の進め方を理解できるようになること。
2. 論文に示された研究成果を、自社や自分自身に適用するにはどうすべきかを検討できるようになること。

The goals this course are to
1. Be able to understand how to proceed with career research.
2. Be able to consider how to apply the research results shown on the paper to your company or yourself.

授業の内容(Course Contents)

キャリアに関する議論は、個人(心理学的な側面)、組織(人材開発的な側面)、そして社会(労働政策的な側面)といった、ミクロからマクロに至るまでの様々な切り口から検討をすることができる領域である。
さらに、学生やシニアといった発達段階や、非正規労働者や外国人労働者といった労働条件などの違いによって課題が異なることから、研究対象ごとの議論が行われる。
この講義では対象に焦点を絞り、どのような研究が実際に行われているのかを学び、キャリア研究の進め方と実務適用について検討する。
グループで先行研究を調べ、毎回講義内で発表を行う。

The discussions about career can be examined from various perspectives, from micro to macro, such as individuals (psychological aspects), organizations (human resources development aspects), and societies (labor policy aspects).
Furthermore, since the career issues differ depending on the developmental stage such as students or seniors, or the working conditions such as non-proper workers, foreign workers; the discussions will be held for each research target and subject.
This course focuses on the target and subject; understanding what kind of research is actually being conducted, and considering how to proceed with career research and practical application.

授業計画(Course Schedule)

1. キャリア研究概論
2. キャリア研究:大学生
3. キャリア研究:新入社員
4. キャリア研究:ミドル
5. キャリア研究:中間管理職
6. キャリア研究:経営者
7. キャリア研究:シニア
8. キャリア研究:女性
9. キャリア研究:非正規労働者
10. キャリア研究:外国人労働者
11. キャリア研究:技術職・専門職
12. キャリア研究:グローバル
13. キャリア研究:ワークライフ・バランス
14. キャリア研究:組織によるキャリア支援

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内で指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内レポート(60%)/授業姿勢(出席、発言、発表)(40%)

テキスト(Textbooks)

必要に応じてレジュメを配布します。

参考文献(Readings)

授業内で紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

全授業回のうち、概ね半数程度対面実施予定

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL591／メディカル・ビジネス論 (Medical Business)		
担当者名 (Instructor)	田中　道昭(TANAKA MICHIAKI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

医療・メディカル産業における「戦略×リーダーシップ×マネジメント」の策定・実行、同産業や同事業のグランドデザイン構築、成長戦略などについて学ぶ

Study about the development and implementation of "strategy x leadership x management" in medical and medical industries, the grand design construction of the industry and the business, growth strategies, etc.

授業の内容(Course Contents)

＊MBA×医療・介護ビジネス
MBA の応用科目として MBA で学ぶ経営学を医療・介護ビジネスに応用
＊ミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント
MBA の応用科目としてミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント等
を医療・介護ビジネスに応用
＊戦略フレームワークでの分析・評価と戦略作成
PEST 分析、5F 分析、SWOT 分析、3C 分析、STP 分析等のフレームワークを医療・介護ビジネスに活用していくことでフレームワークを使いこなせるようになることも企図
＊医療介護従事者とそれ以外の受講生双方に対応
徐々に医療介護の専門知識を加えていくことでそれ以外の受講生も途中から専門性の高いディスカッションが可能になるようにするのとともに、医療介護従事者のニーズにも対応するように専門性の高い事前学習課題等も提供
＊実際の医療機関のケーススタディーを通じて医療機関への分析・評価及び戦略策定までをもカバー
シンプルなケースからスタートして最後には実際の医療機関のケースも解けるように医療介護の専門知識などを段階的に挿入していくことでクラス運営を実行
医療・介護事業従事者のみならず、広く MBA でのスキルセットの活用方法を実践的に学びたい受講生も歓迎する。介護ビジネス論と併せての受講を推奨。

* MBA x medical and nursing care business
Study MBA Business Management application in medical and nursing care businesses as an application discipline of MBA.
* Mission, vision, value x strategy x leadership x management
MBA application disciplines are mission, vision, value x strategy x leadership x management, etc.
and apply them to medical and nursing care businesses.
* Strategic framework analysis, evaluation, and strategy creation
We are also planning to be able to use the framework by utilizing frameworks such as PEST analysis, 5F analysis, SWOT analysis, 3C analysis, STP analysis for medical and nursing care businesses.
* Support both for medical and nursing care workers and other students attending the lecture
By gradually adding medical and nursing expertise to the program, other students will be able to participate in highly specialized discussions along the way, and we will also provide highly specialized and advance learning tasks to meet the needs of medical and nursing care workers.
* Through case studies of actual medical institutions, we will cover analysis, evaluation, and strategy development for medical institutions.
We will manage class by starting from simple cases, and at the end, it will be implemented by inserting expertise of the medical care in stages so that cases of the actual medical institution can be solved as well.

We welcome not only medical and nursing care workers, but also students who want to learn how to use the skill set of MBA in a wide range of practical ways.

授業計画(Course Schedule)

1. 医療・メディカル産業全般(1)
2. 医療・メディカル産業全般(2)
3. 医療・メディカルビジネスにおけるミッション経営(1)

4. 医療・メディカルビジネスにおけるミッション経営（2）
5. 医療・メディカルビジネスにおけるリーダーシップ×マネジメント（1）
6. 医療・メディカルビジネスにおけるリーダーシップ×マネジメント（2）
7. 医療・メディカルビジネスにおけるマーケティングとブランディング（1）
8. 医療・メディカルビジネスにおけるマーケティングとブランディング（2）
9. 医療・メディカルビジネスにおけるサービス・マーケティング（1）
10. 医療・メディカルビジネスにおけるサービス・マーケティング（2）
11. 国内外における医療・メディカルビジネスの最先端事例（1）
12. 国内外における医療・メディカルビジネスの最先端事例（2）
13. 医療・メディカルビジネスにおける成長戦略（1）
14. 医療・メディカルビジネスにおける成長戦略（2）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

医療・メディカル産業全般に対して、多くの異業種の知見から学び、世界観や歴史観から常に新たな視点で成長戦略を描くことを普段から意識しておくこと

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(20%)/期中レポート(20%)/クラス貢献(20%)/他の受講生への貢献(20%)/プレゼンテーション(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 田中道昭、2012、『ミッションの経営学』、すばる舎リンケージ （ISBN:ISBN978-4-7991-0164-3）
2. 田中道昭、2013、『人と組織 リーダーシップの経営学』、すばる舎リンケージ （ISBN:ISBN978-4-7991-0236-7）
3. 田中道昭、2014、『歯科医院経営改善プログラム』、クインテッセンス出版 （ISBN:ISBN978-4-7812-0403-1）
4. フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー、2008、『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント』、ピアソン・エデュケーション （ISBN:ISBN978-4-89471-657-5）
5. 田中道昭、2017、『アマゾンが描く 2022 年の世界』、PHP 研究所 （ISBN:ISBN978-4-569-83733-8）

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

参考文献（Readings）

1. フィリップ・コトラー、2010、『コトラーのマーケティング 3.0』、朝日新聞出版 （ISBN:ISBN978-4023308398）
2. ロバート・スコーブル/シェル・イスラエル、2014、『コンテクストの時代』、日経 BP 社 （ISBN:ISBN978-4-8222-5047-8）
3. 真野俊樹、2012、『医療が日本の主力商品となる』、ディスカヴァー21 （ISBN:ISBN978-4-7993-1223-0）
4. 齋藤勝裕、2014、『ニュースがよくわかる生命科学超入門』、ディスカヴァー21 （ISBN:ISBN978-4-7993-1490-6）
5. 田中道昭、2019、『GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略』、日本経済新聞出版社 （ISBN:ISBN978-4532322656）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【双方向による授業】
本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。
【実務家教員による授業】
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL596／介護ビジネス論 (Nursing Care Business)		
担当者名 (Instructor)	田中　道昭(TANAKA MICHIAKI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

介護産業における「戦略×リーダーシップ×マネジメント」の策定・実行、同産業や同事業のグランドデザイン構築、成長戦略などについて学ぶ

Study about the development and implementation of "strategy x leadership x management" in nursing care industries, the grand design construction of the industry and the business, growth strategies, etc.

授業の内容(Course Contents)

＊MBA×医療・介護ビジネス
MBA の応用科目として MBA で学ぶ経営学を医療・介護ビジネスに応用
＊ミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント
MBA の応用科目としてミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント等
を医療・介護ビジネスに応用
＊戦略フレームワークでの分析・評価と戦略作成
PEST 分析、5F 分析、SWOT 分析、3C 分析、STP 分析等のフレームワークを医療・介護ビジネスに活用していくことでフレームワークを使いこなせるようになることも企図
＊医療介護従事者とそれ以外の受講生双方に対応
徐々に医療介護の専門知識を加えていくことでそれ以外の受講生も途中から専門性の高いディスカッションが可能になるようにするのとともに、医療介護従事者のニーズにも対応するように専門性の高い事前学習課題等も提供
実際の医療機関のケーススタディーを通じて医療機関への分析・評価及び戦略策定までをもカバー
シンプルなケースからスタートして最後には実際の医療機関のケースも解けるように医療介護の専門知識などを段階的に挿入していくことでクラス運営を実行
この授業では、介護ビジネス論を広くシニア向けマーケティングや高齢者向けマーケティングとも捉え、このような視点からも授業展開していく。したがって、医療・介護従事者のみならず、広くこれらのマーケティングに興味をもつ学生の受講も推奨する。メディカルビジネス論と連携してのクラス展開が行われるため、同講座からの履修を強く推奨。

* MBA x medical and nursing care business
Study MBA Business Management application in medical and nursing care businesses as an application discipline of MBA.
* Mission, vision, value x strategy x leadership x management
MBA application disciplines are mission, vision, value x strategy x leadership x management, etc.
and apply them to medical and nursing care businesses.
* Strategic framework analysis, evaluation, and strategy creation
We are also planning to be able to use the framework by utilizing frameworks such as PEST analysis, 5F analysis, SWOT analysis, 3C analysis, STP analysis for medical and nursing care businesses.
* Support both for medical and nursing care workers and other students attending the lecture
By gradually adding medical and nursing expertise to the program, other students will be able to participate in highly specialized discussions along the way, and we will also provide highly specialized and advance learning tasks to meet the needs of medical and nursing care workers.
Through case studies of actual medical institutions, we will cover analysis, evaluation, and strategy development for medical institutions.
We will manage class by starting from simple cases, and at the end, it will be implemented by inserting expertise of the medical care in stages so that cases of the actual medical institution can be solved as well.

In this class, we will consider nursing care business theory as marketing for seniors and marketing for the elderly, and develop lessons from this perspective as well. Therefore, we encourage not only medical and nursing care workers, but also students who are interested in these marketing activities to participate.

授業計画(Course Schedule)

1. 介護ビジネス産業全般(1)

2. 介護ビジネス産業全般（2）
3. 介護ビジネスにおけるミッション経営（1）
4. 介護ビジネスにおけるミッション経営（2）
5. 介護ビジネスにおけるリーダーシップ×マネジメント（1）
6. 介護ビジネスにおけるリーダーシップ×マネジメント（2）
7. 介護ビジネスにおけるマーケティングとブランディング（1）
8. 介護ビジネスにおけるマーケティングとブランディング（2）
9. 介護ビジネスにおけるサービス・マーケティング（1）
10. 介護ビジネスにおけるサービス・マーケティング（2）
11. 国内外における介護ビジネスの最先端事例（1）
12. 国内外における介護ビジネスの最先端事例（2）
13. 介護ビジネスにおける成長戦略（1）
14. 介護ビジネスにおける成長戦略（2）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

介護産業全般に対して、多くの異業種の知見から学び、世界観や歴史観から常に新たな視点で成長戦略を描くことを普段から意識しておくこと

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(20%)/期中レポート(20%)/クラス貢献(20%)/他の受講生への貢献(20%)/プレゼンテーション(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 田中道昭、2012、『ミッションの経営学』、すばる舎リンケージ （ISBN:ISBN978-4-7991-0164-3）
2. 田中道昭、2013、『人と組織 リーダーシップの経営学』、すばる舎リンケージ （ISBN:ISBN978-4-7991-0236-7）
3. フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー、2008、『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント』、ピアソン・エデュケーション （ISBN:ISBN978-4-89471-657-5）
4. ミルトン・メイヤロフ、1987、『ケアの本質―生きることの意味』、ゆみる出版 （ISBN:ISBN978-4946509117）
5. 田中道昭、2017、『アマゾンが描く 2022 年の世界』、PHP 研究所 （ISBN:ISBN978-4-569-83733-8）

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

参考文献（Readings）

1. フィリップ・コトラー、2010、『コトラーのマーケティング 3.0』、朝日新聞出版 （ISBN:ISBN978-4023308398）
2. ロバート・スコーブル/シェル・イスラエル、2014、『コンテクストの時代』、日経 BP 社 （ISBN:ISBN978-4-8222-5047-8）
3. A.H.マズロー、1987、『人間性の心理学』、産業能率大学出版部 （ISBN:ISBN978-4-382-04924-6）
4. ティム・ブラウン、2014、『デザイン思考が世界を変える』、早川書房 （ISBN:ISBN978-4-15-050407-6）
5. 田中道昭、2019、『GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略』、日本経済新聞出版社 （ISBN:ISBN978-4532322656）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【双方向による授業】
本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。
【実務家教員による授業】
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL601／ベンチャー企業論 (Entrepreneurship)		
担当者名 (Instructor)	下川　智広(SHIMOKAWA TOMOHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この講義では、スタートアップ企業特有のマネジメント理論について学習する。優れた起業家たちの行動要素を用いて、アントレプレナーがスタートアップの成功確率を高める可能性がある論理を特定していく。

The course studies the creation and management of start-up businesses. Uses elements of entrepreneurial expertise to analyze the success of start-up businesses, identifying general logic that might increase the probability that an entrepreneurial venture will succeed.

授業の内容(Course Contents)

この講義は、不確実で複雑なビジネス環境において、合理的な経営判断に効果的な対処法や、ダイナミックで複雑な行動領域における革新的なツールを探求していく。優れた起業家たちの科学的・実践的に証明された最新の知識を習得し、不確実性下での適切な意思決定と、主体的な行動力が発揮できるようになります。

The course will effectively address the need to exercise rational managerial judgment in an uncertain and complex business landscape, and explore innovative tools in dynamic and complex fields of action.
You will acquire up-to-date scientifically and practically proven knowledge on entrepreneurial expertise, gain sovereignty in decision-making and acting under uncertainty.

授業計画(Course Schedule)

1. 1. イントロダクション
2. 1-1. 事業機会の認識と不確実性
3. 2. マーケティング
4. 2-1. ベンチャー企業におけるマーケティング①　エフェクチュエーション
5. 2-1. ベンチャー企業におけるマーケティング②　優れた起業家に共通する 5 つの原則
6. 3. ストラテジー
7. 3-1. ベンチャー企業における経営戦略①　不確実性下での戦略思考
8. 3-2. ベンチャー企業における経営戦略②　多様な戦略アプローチの適用
9. 3-3. ベンチャー企業における経営戦略③　理論と実務の統合
10. 4. 競争優位性
11. 4-1. 伝統的な競争優位の源泉
12. 4-2. 新たな競争優位の源泉(変化対応・再構築・エコシステム)とビジネスモデル
13. 5. リーガル
14. 6. ベンチャー企業論のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の予習範囲や課題は、講義内で説明する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席したうえで積極的な討論への参加(40%)/最終レポート(Final Report)(40%)/中間レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

テキストは教育支援システム Blackboard または立教時間を通じて配布します。

参考文献(Readings)

参考文献は適時指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

経営学基礎、ストラテジーやマーケティング関連科目を受講していることが望ましい。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL611／スタートアップ・ストラテジー1 (Strategy to Start Up 1)		
担当者名 (Instructor)	高柳　寛樹(TAKAYANAGI HIROKI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この約 25 年で 4 社のスタートアップに主体的に関わりその内 2 社はエクイティファイナンスによる資金調達を伴うベンチャー企業の経営を経験した担当者がこれまで経験してきた事実をつぶさに分析しスタートアップのビヘビアを細かく因数分解して学生と共有する講義である。(「スタートアップ実践基礎」を含む)

In the past 25 years, the faculty in charge has been actively involved in the start up of 4 companies, and among them, 2 companies are used in lectures in which the faculty in charge, who experienced the management of venture companies with equity financing, analyzes their factors of past experiences in fine detail, and we will share the details of start-up behavior by factorizing with students.

授業の内容(Course Contents)

一言でスタートアップと言ってもその「目的」によって形態はかなり異なる。しかし現在その目的別の形態があまり因数分解されていないため間違った因子の掛け合わせにより、それに関わる人たちを不幸にする結果も多くある。担当者はその経験からスタートアップのビヘビアを構築する因子を「正しく」かけ合わせれば、いわゆる「不確実性」を小さくできると主張している。出来る限り現実に即したエピソードを題材にスタートアップのビヘビアを支える因子一つ一つを「学際的」に確認、理解し、学生諸氏の修士論文に資する講義を構築する。キーワードは「起業」「起業戦略」「リーダーシップ」「アントレプレナーシップ」「ベンチャーファイナンス」「所有と執行」「属人性」「テクノロジーと事業」「IT 前提経営®」「マスマーケティングからデジタルマーケティングへの展開」「投資家心理の理解」「株式会社の理解」「上場企業」「未上場企業」「企業会計と税務会計」「中小企業」「家族経営」「職人マネジメント」「技術経営」「アントレプレナーと詐欺師の違い」など。スタートアップストラテジー(2)との関連における違いは(1)が因子の確認と理解に重きを置くのに比べ(2)ではゲストスピーカーを多用したエピソードと文脈を重視するところにある。なお本講義の履修において(2)の履修は必須ではないが併せて履修することが望ましい。大学院科目であるため講義・座学形式ではなくディスカション形式を柱に講義展開をしていきたい。高い向学心と好奇心があれば事前の予備知識は不要である。

In a nutshell, the formation of a start-up is quite different depending on its "goal". However, at present, there are many times in which the people involved in it are unhappy via the multiplication of wrong factors because the formation of the goal is not so much factored into the start-up. The faculty in charge of this experience claims that this so-called "uncertainty" can be reduced if the factors that form the start-up's behavior are multiplied "correctly". In this course, we will identify and understand the "interdisciplinary" aspects of each of the factors that support start-up behaviors in-line with real life instances, and construct lectures that contribute to the students' academic paper. Some keywords are "flotation", "flotation strategy", "leadership", "entrepreneurship", "venture finance", "ownership and execution", "personal qualities", "technology and business", "Tech Driven Management®", "development from mass marketing to digital marketing", "understanding of investors", "understanding of joint-stock companies", "listed enterprise", "unlisted enterprise", "enterprise and tax accounting", "minor enterprises", "family-owned", "artisan management", "technology management", "entrepreneur and scammer", etc. The difference in relation to Strategy to Start Up (2) is that (1) emphasizes the confirmation and understanding of the factors, and (2) emphasizes the context and anecdotes with many guest speakers. In addition, taking course (2) is not required for registration of this lecture. Since this is a graduate school discipline, students who are not able to participate actively in classes are not recommended to take this course since it is not a lecture or lecture format but a discussion format. Also, in order to avoid absences due to distance, students are allowed to attend classes via tele-participation.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクションと自己紹介(履修者同士の自己紹介)
2. テキスト輪読による最低限のコンセンサスの構築
3. 「スタートアップ」の再定義
4. equity finance と debt finance
5. 所有と執行
6. 時間と M&A
7. 「IT 前提経営®」のスタートアップ文脈における正しい理解
8. プレーヤーとしてのアントレプレナーとプレーヤーとしての投資家
9. 属人性(≒タレント)と株式会社

10. サービス企業とプロダクトセントリック企業
11. スタートアップの経営に求められるテック・リテラシーの正しい理解
12. 国によって異なるスタートアップの背景
13. マスマーケティング時代の終焉とデジタルマーケティングへの展開（消費社会論的視座を起点にして）
14. 議論と総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

任意のレポート執筆、場合によっては発表準備などを課す。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(20%)/その他のレポート(20%)/授業への参加度(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 高柳寛樹、2022、『続・まったく新しい働き方の実践～なぜ働き方は自由にならないのか。DX（Digital Transformation）未完了社会の病理～』、ハーベスト社 （ISBN:978-4-86339-114-7）
2. 高柳寛樹、2020、『「IT 前提経営」が組織を変える～ デジタルネイティブと共に働く』、近代科学社 digital（ISBN:978-4-7649-6008-4）
3. 高柳寛樹、2017、『まったく新しい働き方の実践～「IT 前提経営」による「地方創生」～』、ハーベスト社 （ISBN:978-4-86339-086-7）

参考文献（Readings）

講義内において適宜指示をする。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

担当者プロフィール：
https://hiroki.st/

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL616／スタートアップ・ストラテジー2 (Strategy to Start Up 2)		
担当者名 (Instructor)	高柳　寛樹(TAKAYANAGI HIROKI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この約 25 年で 4 社のスタートアップに主体的に関わりその内 2 社はエクイティファイナンスによる資金調達を伴うベンチャー企業の経営を経験した担当者が招聘したゲストスピーカーのスピーチと議論からのアプローチでスタートアップストラテジーを考える。

In the past 25 years, the faculty in charge been actively involved in 4 start-ups, and the faculty in charge, who has experienced the management of venture companies with equity financing of 2 of those 4, invited a guest speaker in order to consider start-up strategies according to the speech and discussion.

授業の内容(Course Contents)

主要な要素はスタートアップストラテジー(1)を参照されたい。(1)との大きな違いは多数のスタートアップ経営者を招聘し、そのゲストスピーチによるアプローチから「スタートアップストラテジー」を理解することである。ゲストスピーカーは「debt finance 実践者」「equity finance 実践者」「未上場企業創業者」「上場企業創業者」「ベンチャー企業経営者」「倒産経験者」「家族経営実践者」「非営利団体経営者」「職人マネジメント実践者」「音楽家」「スポーツ選手」「新設学校法人経営者」「学校法人のターンアラウンド実践者」「M&A トランザクション実践者」「ベンチャーキャピタリスト」などの切り口で招聘する予定(このシラバス執筆時点では未定)。(2)の履修にあたり(1)の履修は必須ではないが、併せて履修することが望ましい。ゲストスピーチを聞いた後の「議論」が大切な要素を締めるため積極的に議論に参加して頂く。

For main elements we want to refer to Strategy to Start Up 1. The big difference in (1) is that we invite a large number of start-up managers and understand the "start-up strategy" according to the guest's speech. "Debt finance practitioners", "equity finance practitioners", "founders of unlisted companies", "founders of listed companies", "speakers with previous experience in bankruptcy", "family-owned business practitioners", "non-profit organization managers", "artisan management practitioners", "musicians", "sports players", "new educational corporation practitioners", etc., guest speakers are planned to be invited in the future (undecided at the time of this syllabus writing). Taking course (1) is not required for (2), and, in principle, (1) and (2) are considered separate. Since the "discussion" will be important elements after hearing the guest speeches, students who are not able to actively participate in discussions are not encouraged to participate (because they are not able to be evaluated).

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクションと自己紹介(履修者同士の自己紹介)
2. 輪読と発表による「スタートアップ」再定義と最低限のコンセンサスの構築
3. ゲストスピーカー(1)
4. ゲストスピーカー(2)
5. ゲストスピーカー(3)
6. ゲストスピーカー(4)
7. ゲストスピーカー(5)
8. ゲストスピーカー(6)
9. ゲストスピーカー(7)
10. ゲストスピーカー(1)から(7)で行われた議論の整理と理解
11. スタートアップストラテジーの文脈における「IT 前提経営®」の整理と理解
12. 学生発表(1)
13. 学生発表(2)
14. 総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

少なくとも毎回のゲストスピーチに対し、一定のルールを守ったレポートの提出を求める。加えて発表準備など時間を超えた作業になる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(20%)/最終レポート(Final Report)(20%)/ゲストスピーチに対するレポート(40%)/授業への参加度(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 高柳寛樹、2022、『続・まったく新しい働き方の実践～なぜ働き方は自由にならないのか。DX（Digital Transformation）未完了社会の病理～』、ハーベスト社 （ISBN:978-4-86339-114-7）
2. 高柳寛樹、2020、『「IT 前提経営」が組織を変える～ デジタルネイティブと共に働く』、近代科学社 digital（ISBN:978-4-7649-6008-4）
3. 高柳寛樹、2017、『まったく新しい働き方の実践～「IT 前提経営」による「地方創生」～』、ハーベスト社 （ISBN:978-4-86339-086-7）

参考文献（Readings）

適宜講義の中で指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

担当者プロフィール：
https://hiroki.st/

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL621／ベンチャー金融論 (Venture Financing)		
担当者名 (Instructor)	下川　智広(SHIMOKAWA TOMOHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ベンチャー金融論では、ベンチャー企業や新規事業などのスタートアップに特徴的な資金調達ニーズに焦点を当て、起業家や財務マネージャーに必要となる基本的なベンチャーファイナンスのスキルを習得することを目的とする。

This course prepares students to be competent in the skills of entrepreneurs and corporate financial managers. The course focuses on the specific needs of entrepreneurial ventures, including start-up and development-phase financial and management problems.

授業の内容(Course Contents)

資金調達で成熟企業と異なる特性を有するベンチャー企業の資金調達戦略(スタートアップに関連する問題の範囲および複雑さをカバーしています)を取り上げ実務的に講義する。

This course aims to cover the finance of technological innovation, with a focus on valuation tools useful in the venture capital industry. These tools include the "venture capital method," discounted cash flow analysis, and contingent-claims. Covers the range, scope, and complexity of issues involved in entrepreneurial startups.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 1. ベンチャー企業のリスク:不確実性と情報の非対称性
3. 2. ベンチャー企業の資金調達戦略
4. 2-1. 段階的投資
5. 2-2. ベンチャーキャピタルメソッド(VC 法)
6. 2-3. プレマネー・バリュエーション
7. 2-4. ベンチャー企業の資本政策(資本政策表:キャップテーブル)
8. 2-5. ベンチャー企業の資金調達で利用される種類株式
9. 2-6. 投資契約と株主間契約
10. 2-7. 新株予約権付社債
11. 2-8. ストック・オプション
12. 3. エグジット
13. 3-1. IPO と Buyout(M&A)
14. 4. ベンチャー金融論の総まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の予習範囲や課題は、講義内で説明する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席したうえで積極的な討論への参加(40%)/最終レポート(Final Report)(40%)/中間レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

テキストは教育支援システム Blackboard または立教時間を通じて配布します。

参考文献(Readings)

参考文献は適時指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

ベンチャー企業論のほか、企業財務基礎などのファイナンス系科目を受講していることが望ましい。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形

式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL641／BtoBマーケティング1 (B to B Marketing 1)		
担当者名 (Instructor)	笠原　英一(KASAHARA EIICHI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義は、産業財メーカーで、マーケター、営業、企画、開発もしくは購買を担当している方はもちろんのこと、消費財メーカー、金融、サービス業等で、法人営業を担当している方にとっても有益な視点を提供できるものと考えている。実際の講義は、クラス・ディスカッション及びショートケースを展開することにより、理論の理解を深めながら、B2Bのプロフェッショナルマーケターとしての基本を確立する。

This lecture is considered to be able to offer a useful viewpoint not only for industrial goods manufacturers, who are in charge of marketing, sales, planning, development, or purchasing, but also for consumer goods manufacturers, finance, service industries, etc. who are in charge of corporate sales. The actual lectures will be expanded by developing class discussions and short cases, and establishing the basics of B to B professional marketers, while deepening our understanding of the theory.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、伝統的なマーケティング・マネジメントのフレームワークを踏まえながら、B to B マーケティングの本質である以下の二つの点にスポット当てて、B to B マーケティング独自の理論を組み立てていく。二つの点とは、買い手企業の組織購買行動と売り手と買い手企業間のインタラクティブな関係性である。この特徴をベースにマーケティング戦略の総論である、ターゲット市場の評価・選択、それに対する提供効用の明確化、および各論であるマーケティング・ミックス、つまり、製品コンセプト開発、価格設定、チャネル設計と運用、プロモーション展開等の活動はどうあるべきかを理論的に論じる。

Based on the framework of traditional Marketing Management, this lecture will focus on the following two points, which are the essence of B to B marketing, and we will build a unique theory of B to B marketing. The two points are the buyer's organizati on purchasing behavior and the interactive relationship between the seller and the buyer. On the basis of this characteristic, the general remarks of the marketing strategy, the evaluation and selection of the target market, the clarification of the effect of the offer on it, and the marketing mix, which is the details, that is, the activity of the product concept development, the pricing, the channel design and the promotion, etc. will be theoretically discussed.

授業計画(Course Schedule)

1. 産業財マーケティングの環境
   ・産業財マーケティングの特徴
   ・産業財市場～組織購買を基本とする顧客
   ・組織購買行動論
2. 産業財市場における関係性のマネジメント
   ・産業財市場における顧客関係性管理
   ・バリューチェーンと関係性(CRM と SCM)
3. 事業機会の評価と資源配分
   ・経営環境分析、経営資源分析
4. ・事業領域(製品・市場マトリックス)
   ・KSF(成功のカギ)とSBU(戦略事業単位)
   ・PPM(プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント)
5. 競争戦略
   ・効用 vs. コスト
   ・製品、ブランド、サービス、テクノロジー
   ・適応化 vs.標準化
   ・モジュラー vs. インテグラル
6. 市場戦略総論(STP)
   ・セグメンテーション(市場の細分化)
   ・標的市場と購買決定要因の抽出(マクロ・ターゲティング)
   ・ポジショニング(提供する効用の明確化)
7. ・製品開発(製品コンセプト、効用曲線、デザインシンキング)
8. ・価格付け(効用、競合、コスト)
9. ・チャネル(リーチ vs. リッチネス)

10. ・販売促進（広告、展示会、ウエッブ）
11. 営業戦略
・顧客の選択（ミクロ・ターゲティング）
・関係性のマネジメント（信頼・コミットメント）
12. 営業体制・営業活動評価
・バリューvs. ナンバー、プロセス vs. アウトプット）
13. グローバル市場における産業財マーケティング戦略
14. 事業性評価
ビジネスモデルキャンバス、売上モデル、費用モデル

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

次回の予習範囲や課題は、各授業の最後および blackboard 上でコメントするが、基本的には個人予習（事前）、グループ討議（授業時、必要に応じて事前に）、クラス討議（授業時）という展開で進める

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(30%)/授業で実施するプレゼンテーション(30%)

テキスト（Textbooks）

1. マイケル・ハット＋トーマス・スペイ（著）、笠原英一（解説・訳）、2009、『産業財マーケティング・マネジメント－理論編』、白桃書房

参考文献（Readings）

1. マイケル・ハット＋トーマス・スペイ（著）、笠原英一（解説・訳）、2012、『マーケティング・マネジメント－ケース編』、白桃書房
2. 笠原英一、2018、『戦略的産業財マーケティング』、東洋経済

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

http://www.aprim.jp/

【双方向による授業割合】
100%

※20 年間、経営コンサルタントとして、国内外の上場企業に対して、戦略、マーケティング、組織に関する実践的課題に取り組んできた実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL642／BtoBマーケティング2 (B to B Marketing 2)		
担当者名 (Instructor)	笠原　英一(KASAHARA EIICHI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義は、産業財メーカーで、マーケター、営業、企画、開発もしくは購買を担当している方はもちろんのこと、消費財メーカー、金融、サービス業等で、法人営業を担当している方にとっても有益な視点を提供できるものと考えている。実際の講義は、ケーススタディ(グループディスカッションおよびクラスディスカッション)とエクササイズを展開することにより、理論の理解を深めながら、B2Bのプロフェッショナルマーケターとしての応用力を確立する。

This lecture is considered to be able to offer a useful viewpoint not only for industrial goods manufacturers, who are in charge of marketing, sales, planning, development, or purchasing, but also for consumer goods manufacturers, finance, service industries, etc. who are in charge of corporate sales. The actual lectures will be expanded by developing case studies (group discussions and class discussions) and exercises, and establishing the basics of B to B professional marketers, while deepening our understanding of the theory.

授業の内容(Course Contents)

本講義では、伝統的なマーケティング・マネジメントのフレームワークを踏まえながら、B to B マーケティングの本質である以下の二つの点にスポット当てて、B to B マーケティング独自の理論を組み立てていく。二つの点とは、買い手企業の組織購買行動と売り手と買い手企業間のインタラクティブな関係性である。この特徴をベースにマーケティング戦略の総論である、ターゲット市場の評価・選択、それに対する提供効用の明確化、および各論であるマーケティング・ミックス、つまり、製品コンセプト開発、価格設定、チャネル設計と運用、プロモーション展開等の活動はどうあるべきかを理論的に論じる。ケーススタディ及びエクササイズに力点を置く。

Based on the framework of traditional Marketing Management, this lecture will focus on the following two points, which are the essence of B to B marketing, and we will build a unique theory of B to B marketing. The two points are the buyer's organization purchasing behavior and the interactive relationship between the seller and the buyer. On the basis of this characteristic, the general remarks of the marketing strategy, the evaluation and selection of the target market, the clarification of the effect of the offer on it, and the marketing mix, which is the details, that is, the activity of the product concept development, the pricing, the channel design and the promotion, etc. will be theoretically discussed. Emphasis will be placed on case studies and exercises.

授業計画(Course Schedule)

1. ・組織購買行動論に関するエクササイズ
2. ・産業財市場における顧客関係性管理に関するエクササイズ
3. 事業機会の評価と資源配分に関するエクササイズ
4. ・事業領域(製品・市場マトリックス)の検討に関するエクササイズ
   ・PPM(プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント)
5. ・競争戦略に関するエクササイズ
6. STPに関するエクササイズ
   ・セグメンテーション(市場の細分化)
   ・標的市場と購買決定要因の抽出(マクロ・ターゲティング)
   ・ポジショニング(提供する効用の明確化)
7. ・製品開発(製品コンセプト、効用曲線、デザインシンキング)に関するエクササイズ
8. ・価格付け(効用、競合、コスト)に関するエクササイズ
9. ・チャネル(リーチ vs. リッチネス)に関するエクササイズ
10. ・販売促進(広告、展示会、ウエッブ)に関するエクササイズ
11. 営業戦略に関するエクササイズ
    ・顧客の選択(ミクロ・ターゲティング)
    ・関係性のマネジメント(信頼・コミットメント)
12. 営業体制・営業活動評価に関するエクササイズ
    ・バリューvs. ナンバー、プロセス vs. アウトプット)
13. グローバル市場における展開戦略に関するエクササイズ
14. 事業性評価に関するエクササイズ

ビジネスモデルキャンバス、売上モデル、費用モデルに関するエクササイズ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

次回の予習範囲や課題は、各授業の最後および blackboard 上でコメントするが、基本的には個人予習（事前）、グループ討議（授業時、必要に応じて事前に）、クラス討議（授業時）という展開で進める

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(30%)/授業で実施するプレゼンテーション(30%)

テキスト（Textbooks）

1. マイケル・ハット＋トーマス・スペイ（著）、笠原英一（解説・訳）、2012、『産業財マーケティング・マネジメント－ケース編』、白桃書房

参考文献（Readings）

1. マイケル・ハット＋トーマス・スペイ（著）、笠原英一（解説・訳）、2009、『マーケティング・マネジメント－理論編』、白桃書房
2. 笠原英一、2018、『戦略的産業財マーケティング』、東洋経済

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

http://www.aprim.jp/

【双方向による授業割合】
100%

※20 年間、経営コンサルタントとして、国内外の上場企業に対して、戦略、マーケティング、組織に関する実践的課題に取り組んできた実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL651／現代経済論1 (Contemporary Economics1)		
担当者名 (Instructor)	和田　芳明(WADA YOSHIAKI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

一線で活躍するビジネスパーソンに必要な経済理論とその応用に向けた知見を提供する。

Focusing on the business person who is active at the forefront, this course aims to provide the essential knowledge on economics theory and study corresponding use cases.

授業の内容(Course Contents)

今日、世界で顕現化している様々な経済事象を的確に理解し、ビジネスでの意思決定に役立てることができるよう、基礎的な経済理論を概説する。これまで経済学を学んでこなかった学生を想定し、極力平易な解説を行う。限られた時間で実効性の高い講義を行うため、教室での積極的な意見交換と、課題に対する成果物の提出も求められる。

This course provides basic economic theories which is necessary to understand the major economic events currently occurring in the world.
Considering various background of students, who are not familiar with economics, basic and essential theory are covered in this course.
In order to achieve efficient session within the limited time frame, students are required of active participation to the discussion and papers on the topics indicated in class.

授業計画(Course Schedule)

1. マクロ経済学(1)経済学とは
2. マクロ経済学(2)国民所得の概念と SNA
3. マクロ経済学(3)国民所得モデル
4. マクロ経済学(4)国民所得モデル
5. マクロ経済学(5)総供給・総需要
6. マクロ経済学(6)総供給・総需要
7. マクロ経済学(7)労働と生産
8. マクロ経済学(8)投資理論
9. マクロ経済学(9)IS-LM モデル
10. マクロ経済学(10)IS-LM モデル
11. ミクロ経済学(1)消費と生産
12. ミクロ経済学(2)市場均衡
13. ミクロ経済学(3)不完全競争
14. ミクロ経済学(4)ゲーム理論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

クラス参加と議論への貢献度(50%)/成果物の内容(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 中谷巌、2007、『入門マクロ経済学 第 5 版』、日本評論社 (ISBN:978-4-535-55513-6)
2. 奥野正寛、2008、『ミクロ経済学』、東京大学出版会 (ISBN:978-4-00-026655-0)
3. 中田真佐男、2019、『基礎から学ぶ 同額マクロ経済学に必要な数学』、日本評論社 (ISBN:978-4-535-55677-5)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL652／現代経済論2 (Contemporary Economics2)		
担当者名 (Instructor)	和田　芳明(WADA YOSHIAKI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

一線で活躍するビジネスパーソンに必要な経済理論とその応用に向けた知見を提供する。

Focusing on the business person who is active at the forefront, this course aims to provide the essential knowledge on economics theory and study corresponding use cases.

授業の内容(Course Contents)

今日、世界で顕現化している様々な経済現象を例にとり、経済理論に即して分析し、評価するための機会を提供する。経済理論の応用という観点から、現象の分析と、ビジネスや社会への影響にフォーカスして講義を行う。限られた時間で実効性の高い講義を行い、学生の理解を深めるため、積極的な意見交換が期待されるほか、課題に対する成果物の提出も求められる。

Based on economic theory, this course provides the opportunity to analyze and evaluate the current economic events occurring in the world. From the view point of applied economic theory, this course is designed to analyze the background of events, and evaluate the effect of these event to the society.
In order to achieve efficient session within the limited time frame and deepen understanding, students are required of active participation to the discussion and papers on the topics indicated in class.

授業計画(Course Schedule)

1. 金融システムと中央銀行(1)
2. 金融システムと中央銀行(2)
3. 超低金利と金融政策(1)
4. 超低金利と金融政策(2)
5. 財政政策の今日的効果(1)
6. 財政政策の今日的効果(2)
7. 人口構造の変化と経済成長(1)
8. 人口構造の変化と経済成長(2)
9. 経済成長とグリーンエコノミー(1)
10. 経済成長とグリーンエコノミー(2)
11. 決済システム(1)
12. 決済システム(2)
13. 基軸通貨と国際間決済・国際取引(1)
14. 基軸通貨と国際間決済・国際取引(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

クラス参加と議論への貢献度(50%)、成果物の内容(50%)(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 中島真志、宿輪純一、2013、『決済システムのすべて』、東洋経済新報社 (ISBN:4492681337)
2. 白川方明、2918、『中央銀行』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-65485-9)
3. 野口悠紀雄、2015、『戦後経済史』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-37118-3)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL654／アグリフードシステム論1 (Agri-food System 1)		
担当者名 (Instructor)	大山　利男(OYAMA TOSHIO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

近年，農業は大きなビジネス機会と注目され，異業種から農業参入する事業者が増えている。生産品目(米，野菜，果樹，畜産物など)および地域ごとに技術的・経営的課題は多様であり、リスクと可能性が共存している。当科目では，多くの事例研究から，企業による農業参入の背景，戦略，その意義について考える。

Agri-food business is attractive for companies? Many of companies which entered into agricultural sector have got successful? The objective of this course is to examine the case of such companies' management of farming, processing, marketing, and distribution operation.

授業の内容(Course Contents)

農業は，さまざまな関連産業と結びついて多くのビジネス機会を提供している。異業種からの農業参入は、そのことの裏返しでもある。この授業では，これらの事例について、農業および関連産業のフードシステムという視点で把握し，具体的な問題点や論点について考察する。

Agriculture offers many business opportunities to various related industries. In this course, we examine and discuss the farming and related businesses from food system approach.

授業計画(Course Schedule)

1. 農業生産の経営的特徴(1)
2. 農業生産の経営的特徴(2)
3. 企業の農業参入に関する政策、背景(1)
4. 企業の農業参入に関する政策、背景(2)
5. 農業参入の目的、期待(1)
6. 農業参入の目的、期待(2)
7. 食品製造業による農業参入の実態(1)
8. 食品製造業による農業参入の実態(2)
9. 酒造業者による農業参入の実態(1)
10. 酒造業者による農業参入の実態(2)
11. 食品小売業による農業参入の実態
12. 中食・外食産業による農業参入の実態
13. 建設業者による農業参入の実態
14. その他による農業参入の実態、まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は，履修登録後に Blackboard 上で行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業時の発表(30%)/議論への貢献(40%)/授業内レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 渋谷往男編著、2020、『なぜ企業は農業に参入するのか』、農林統計出版 (ISBN:978-4-89732-419-7)
授業時に指示する。

参考文献(Readings)

1. 高橋正郎・盛田清秀編、2013、『農業経営への異業種参入とその意義』、農林統計出版 (ISBN:978-4-541-03930-9)
2. 大仲克俊、2018、『一般企業の農業参入の展開過程と現段階』、農林統計出版 (ISBN:978-4-89732-377-0)
授業時に随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

農林水産省『食料・農業・農村白書』

（https://www.maff.go.jp/j/wpaper/）

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL655／アグリフードシステム論2 (Agri-food System 2)		
担当者名 (Instructor)	大山　利男(OYAMA TOSHIO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

農業の持続的発展のためには、最終消費者にいたるフードチェーン全体で価値(バリュー)を高められることが肝要である。川中・川下の食品産業・小売業による寡占化の進展はしばしば「市場支配力」の議論になりやすいが、本授業ではパートナーシップの関係性を目指すフードシステム、バリューチェーン構築の可能性、戦略，その意義等について考える。

In order to make farm business sustainable, food chains from farm to table should be valuable and profitable. The objective of this course is to examine the case of such food chains and its performance, and to discuss the chain management and their effort.

授業の内容(Course Contents)

本授業では、フード・バリューチェーンを構成するさまざまなステークホルダーについて、そのパートナーシップの関係性や主導的役割を担う主体について議論する。畜産業におけるインテグレーターをはじめ、小売業者、加工業者(醸造業者)、産地の生産者組織等の事例分析を通じて理解を深める。

Food chains from farm to table are varied by product specialty, and consists of many stakeholders. In this course, we examine and discuss the case of such food chains and stakeholders including producer, food processor, winery and/or brewery, packer, food service, retailer and etc.

授業計画(Course Schedule)

1. 産業組織論からみたフードチェーン
2. 畜産業におけるインテグレーションと垂直的調整(1)
3. 畜産業におけるインテグレーションと垂直的調整(2)
4. 小売業の寡占化と青果物産業
5. 小売主導型流通システムとフードチェーン(1)
6. 小売主導型流通システムとフードチェーン(2)
7. 青果物のバリューチェーンと生産者・産地組織(1)
8. 青果物のバリューチェーンと生産者・産地組織(2)
9. 青果物のブランド戦略と知的財産管理
10. 畜産物のフードバリューチェーンと契約生産(1)
11. 畜産物のフードバリューチェーンと契約生産(2)
12. グローバル・フードバリューチェーンの展開(1)
13. グローバル・フードバリューチェーンの展開(2)
14. グローバル・フードバリューチェーンの展開(3)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は，履修登録後に Blackboard 上で行う。授業時にも指示するので、各自確認して予習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業時の発表(30%)/議論への貢献(40%)/授業内レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 斎藤修編著、2020、『フードバリューチェーンの国際的展開』、農林統計出版 (ISBN:978-4-89732-423-4)
授業時に指示する。

参考文献(Readings)

授業時に随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

農林水産省『食料・農業・農村白書』
（https://www.maff.go.jp/j/wpaper/）

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL666／イノベーション・マネジメント (Innovation Management)		
担当者名 (Instructor)	中村　二朗(NAKAMURA JIRO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義では，イノベーションマネジメントを体系的に理解し、イノベーションを経営戦略として活用する際に重要となる要素やツールとしての活用の仕方についての理解を深めていくことを目標とする。

In this lecture, the goal is to deepen the understanding of Innovation Management systematically, and to understand how to use it as an important element and tool in utilizing innovation as a management strategy.

授業の内容(Course Contents)

社会のニーズの多様化、市場の成熟化、経済のグルーバル化などビジネスを取り巻く環境が大きく変化する中で、企業の生き残りを左右するのはイノベーションを推進する力である。イノベーションにより事業を日々進化させ、変化する外部環境に対応させることが企業の持続的な成長・発展のためのキーアクションである。まさに、ダーウィンの言葉の通りに、“最も強いものでなく最も環境に適したものが生存機会を保障される。”そのものである。本講義では，イノベーションを経営戦略として活用する際に重要となる要素やツールとしての活用の仕方についての理解を深めていくことを狙いとする。

As the environment surrounding business such as diversification of society's needs, maturation of the market, and globalization of the economy changes greatly, this is about the ability to promote innovation that will determine the survival of a company. It is key for sustainable growth and development of a company to evolve day to day business through innovation and to respond to changing external environments. Precisely as Darwin had said, “it is not the strongest, but the most suitable for the environment that is guaranteed to survive.” is what it is. In this lecture, the aim is to deepen our understanding of how to use this as an important element and tool in utilizing innovation as a management strategy.

授業計画(Course Schedule)

1. 講義全体概論
2. 経営戦略とイノベーション戦略
3. イノベーションとインベンション
4. イノベーションの類型と歴史
5. 新規事業創出戦略
6. アライアンス戦略
7. オープンイノベーション戦略
8. ブルーオーシャン戦略
9. イノベーションと標準化戦略と知的財産戦略
10. 中小企業におけるイノベーション戦略
11. ビジネス分野別イノベーション事例2－IoT、AI、ロボット－
12. ビジネス分野別イノベーション事例1－エネルギー
13. 課題発表
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内で別途指示する

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加度(40%)/プレゼンテーション(30%)/レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

ハンドアウト配布

参考文献(Readings)

講義中に紹介

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本科目は、簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL695／企業分析1 (Business Analysis 1)		
担当者名 (Instructor)	青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

財務諸表の構造を理解し、経営分析の基礎を修得する。

Understand the structure of financial statements and master the basics of management analysis.

授業の内容(Course Contents)

企業がビジネスを展開するには，自社や同業他社の環境を正確に把握することが大切であり，企業分析が必要になる。
本講義の目標は，財務諸表数値を用いて企業の安定性や収益性の基礎を理解することにある。それを踏まえ，企業分析レポートの作成を最終目標とする。

In order to develop the business of the corporation, it is important to accurately understand the environment of the company, and other companies in the same field, and analysis of the corporation is required.
The goal of this lecture is to understand the liquidity and profitability of corporations using financial statement figures. The ultimate goal is to create a corporate analysis report for a corporation.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 経営分析とは何か
3. 経営分析の予備知識
4. 定性要因の分析
5. 財務諸表の種類(1)
6. 財務諸表の種類(2)
7. 貸借対照表項目の検討
8. 損益計算書項目の検討
9. 流動性比率による分析(1)
10. 流動性比率による分析(2)
11. 利益率の分析(1)
12. 利益率の分析(2)
13. 利益率の分析(3)
14. 授業内試験

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

本講義は，会計学の基本的な知識を有している院生を対象とする。そのため，講義内では会計学の基本的な事項の説明は行わない。財務諸表に用いられる基本的な用語を自習することが不可欠である。
各回の講義に臨むための準備の内容については，講義内で説明する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(35%)/最終テスト(Final Test)(35%)/講義への参加状況(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 青木茂男編著、2022、『要説経営分析　六訂版』、森山書店
テキスト必携。テキストを履修者で輪読し，ディスカッションを展開する予定である。
テキストは 2022 年 9 月に発行予定の改訂版(六訂版)を用いるが，出版が遅延する場合は適宜指示する。

参考文献(Readings)

1. 内藤文雄著、2022、『会計学エッセンス第 5 版』、中央経済社
その他，必要に応じて講義内で紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

【双方向による授業】

本科目は，テキストの内容を講読（または輪読）したあと、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。
双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL696／企業分析2 (Business Analysis 2)		
担当者名 (Instructor)	青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業を取り巻く諸情報を理解し、企業を分析するスキルを身につける。

Acquire the skills for understanding the various information surrounding the corporation and for analyzing the corporation.

授業の内容(Course Contents)

企業分析は財務諸表を中心とした定量情報と、非財務情報である定性情報の双方を用いて行われる。本講義の目標は，企業を取り巻く諸情報を用いながら、企業を多角的に分析する手法を身につけることにある。

また、本講義で取り上げた分析内容を「企業分析1」で作成した企業分析レポートに加え、企業分析レポートの完成を目指す。

Corporate analysis is conducted using both quantitative information, mainly on financial statements, and qualitative information, which is non-financial information. The goal of this lecture is to acquire methods for analyzing corporations from various perspectives through using the various information that surrounds them.

Also, we will add the contents of the analysis taken up in this lecture to the corporate analysis report prepared in "Business Analysis 1", and we will aim for the completion of the corporate analysis report through the team work.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 損益分岐点の分析
3. 四半期財務諸表による分析(1)
4. 四半期財務諸表による分析(2)
5. セグメント情報を用いた分析(1)
6. セグメント情報を用いた分析(2)
7. 利益の質(1)
8. 利益の質(2)
9. 企業の総合評価(1)
10. 企業の総合評価(2)
11. 企業価値評価(1)
12. 企業価値評価(2)
13. 企業価値評価(3)
14. 授業内試験

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

本講義は，会計学の基本的な知識を有している院生を対象とする。そのため，講義内では会計学の基本的な事項の説明は行わない。財務諸表に用いられる基本的な用語を自習することが不可欠である。
各回の講義に臨むための準備の内容については，講義内で説明する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(35%)/最終レポート(Final Report)(35%)/講義内への参加度合(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 青木茂男編著、2022、『要説経営分析　六訂版』、森山書店
テキスト必携。テキストを履修者で輪読し，ディスカッションを展開する予定である。
テキストは 2022 年 9 月に発行予定の改訂版(六訂版)を用いるが，出版が遅延する場合は適宜指示する。

参考文献(Readings)

1. 内藤文雄著、2022、『会計学エッセンス第 5 版』、中央経済社
その他，必要に応じて講義内で紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本講義の内容は，「企業分析1」から連続している。そのため，「企業分析1」を履修していることが望ましい。「企業分析1」を履修せず，当科目のみを履修する場合は，財務諸表の構造について基礎的な知識を有していることが必須となる。

【双方向による授業】
本科目は，テキストの内容を講読（または輪読）したあと、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。
双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。

注意事項（Notice）

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL701／不動産ビジネス論1 (Real Estate Business study 1)		
担当者名 (Instructor)	久恒　新(HISATSUNE ARATA)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　都市経済研究所		

授業の目標(Course Objectives)

不動産は、現代においては金融商品として重要な地位を占めるに至り、不動産の理論はビジネス遂行上に必須の知識となっている。ところが、わが国においては不動産を金融市場との関連で分析する視点に乏しく、体系的に学ぶことのできる場所も少ない。本授業では、不動産を「金融」と「投資」の視点から体系的に学習し、ビジネススキルを磨く。

Real estate has come to occupy an important position as a financial instrument in the modern age, and the theory of real estate has become essential knowledge for business execution. However, in Japan, there is a lack of perspectives to analyze real estate in relation to the financial market, and there are few places to learn about it systematically. In this class, we will systematically study real estate from the perspectives of "finance" and "investment" in order to improve your business skills.

授業の内容(Course Contents)

本授業では，アメリカのビジネススクール，ペンシルベニア大学ウォートン校で使用されたテキスト(日本語訳本)を使い，不動産の投資分析の基本からじっくり学ぶ。
不動産に関連する業界に限らず，金融機関や一般企業の総務・財務分野においても有益であり，経済人にとっての専門知識を習得できる授業である。この分野の知識を体系的に学ぶことで，ビジネスで競争優位に立つことができる。また随時、時事ニュースを取上げる。

In this class, the basis of investment analysis of the real estate is carefully studied using text (Japanese translation) which was used in the U.S. business school, Wharton School of the University of Pennsylvania.
Not limited to industries related to real estate, it is useful in general affairs and finance fields of financial institutions and general corporations, and it is a class in which expertise for economic people can be acquired. Systematically studying knowledge in this field, it is possible to have competitive superiority in business. We will also cover current news as needed.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション(テキストの説明、授業の進め方、評価のしかた等)
   リスクと機会1
2. 不動産とは何か
3. 賃貸契約の基本的事項
4. 不動産収支見積書分析
5. 収支見積書の策定
6. 不動産のデューデリジェンス
7. キャップレートの決定
8. 開発プロジェクトの収支予測
9. 開発プロジェクトのフィージビリティ分析
10. 不動産会社の分析
11. 破産法の基礎知識
12. 投資資金を借りるべきか
13. デットとモーゲージの活用法
14. 不動産ビジネス論 1 のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各授業毎の準備学習の指示は，最初の授業で行なう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

課題、発表(60%)/授業への貢献(40%)

テキスト(Textbooks)

授業中に配布する。翌週の範囲の資料を配布し、準備出来るようにする。

参考文献(Readings)

1. ピーター・リンネマン、2006、『不動産ファイナンス大全』、日本経済新聞社 (ISBN-13: 978-4532133146)
2. 久恒　新、2011、『不動産バブルに勝つ鉄則』、日本経済新聞出版社 (ISBN:ISBN:978-4-532-31664-8)
3. 久恒　新、2003、『DCF 法による不動産評価の考え方と実践』、日本経済新聞社 (ISBN-10: 4532311136)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

外国人学生やしょうがいのある学生にも授業の内容が理解されているか随時確認しつつ、各人の属性に配慮して授業を行う。
各人あるいは各グループごとに毎週の発表者を決め、全員で議論しながら1章づつテキストを読み進めていくことを期待している。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL703／不動産ビジネス論2 (Real Estate Business study 2)		
担当者名 (Instructor)	久恒　新(HISATSUNE ARATA)		
学期 (Semester)	休講	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　都市経済研究所		

授業の目標(Course Objectives)

不動産ビジネス論2では、金融商品としての不動産の知識の習得に努める。実物不動産だけではなく、金融商品や投資対象として不動産の分析の視点を養う。

In this class, students will acquire knowledge of real estate as a financial product. Students will develop a perspective of analyzing real estate not only as a real property, but also as a financial product and investment object.

授業の内容(Course Contents)

本授業は、不動産ビジネス論1と同じ教科書を使用するが、各回が完結型の授業であるため、1を履修していなくても問題なく理解できる構成となっているため、2だけの履修も可能である。アメリカのビジネススクール，ペンシルベニア大学ウォートン校で使用されたテキスト(日本語訳本)を使い，不動産の投資分析の技術について学ぶ。
不動産に関連する業界に限らず，金融機関や一般企業の総務・財務分野においても有益であり，経済人にとっての専門知識を習得できる授業である。
この分野の知識を体系的に学ぶことで，ビジネスで競争優位に立つことができる。時事ニュースも随時取上げる。

This class uses the same textbook as Real Estate Business 1, but since one theme is completed in each session, it can be understood without problems even if the student has not taken 1, so it is possible to take only 2. This course is based on the textbook used at the Wharton School of the University of Pennsylvania, an American business school (translated into Japanese), and teaches the techniques of real estate investment analysis.This course is useful not only in real estate related industries, but also in the general affairs and finance fields of financial institutions and general companies, and enables students to acquire specialized knowledge for business people.

授業計画(Course Schedule)

1. CMBS の基礎知識
2. 資金調達手段としての借地契約
3. 不動産投資における出口戦略
4. 不動産プライベート・ファンド
5. REIT と流動化された不動産
6. 不動産投資における出口戦略2
7. 不動産プライベート・ファンド
8. REIT と流動化された不動産
9. 一般企業の不動産に関する意志決定(CRE)
10. 不動産サイクル
11. 正しい実行方法はたくさんある
12. 基礎知識：DCF 法の基礎と NPV 分析
13. 基礎知識：IRR
14. 基礎知識：アモチゼーションの基礎

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各授業毎の準備学習の指示は，最初の授業で行なう。

成績評価方法・基準(Evaluation)

課題、発表(60%)/授業への貢献度、発表(40%)

テキスト(Textbooks)

授業中に配布する。翌週の範囲の資料を配布し、準備出来るようにする。

参考文献(Readings)

1. ピーター・リンネマン、2006、『不動産ファイナンス大全』、日本経済新聞社 (ISBN-13: 978-4532133146)
2. 久恒　新、2011、『不動産バブルに勝つ鉄則』、日本経済新聞出版社 (ISBN:ISBN:978-4-532-31664-8)

3. 久恒　新、2003、『DCF 法による不動産評価の考え方と実践』、日本経済新聞社 (ISBN-10: 4532311136)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

外国人学生やしょうがいのある学生にも授業の内容が理解されているか随時確認しつつ、各人の属性に配慮して授業を行う。
各人あるいは各グループごとに毎週の発表者を決め、全員で議論しながら1章づつテキストを読み進めていくことを期待している。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL715／流通システム論1 (Sales and Distribution System 1)		
担当者名 (Instructor)	高岡　美佳(TAKAOKA MIKA)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

流通システムは，これまで数々のイノベーション(革新)を経て現在にいたっている。本授業では，事例の紹介などを交えながら，その革新の実態を考察するとともに新たな芽を探求する。

Distribution systems have been, at present, through various innovations up until now. In this class, while cases are introduced, the actual conditions of innovations are examined, and new opportunities are searched for.

授業の内容(Course Contents)

今日，生産から消費にいたる流通プロセスは多様化している。そこに至るまでにどんな革新があったのか。その革新のキーとなった要素は何であったのか。そこに関わった企業家のモチベーションは何か。各国における流通イノベーションの歴史と進化の実態について，企業事例などを紹介しつつ，今後を探る。

Today, distribution processes, from production to consumption, are diversified. What kind of innovation was there before that? What was the key element of this innovation? What is the motivation of the entrepreneurs involved? With regards to the actual conditions of history and evolution of distribution innovations in each country, the future will be investigated, while business cases are introduced.

授業計画(Course Schedule)

1. 流通の社会的役割
2. 流通の機能
3. 流通革命の背景
4. メーカー主導の流通システム
5. 「流通革命」とチェーンストアの役割
6. フランチャイズシステム理論
7. プライベート・ブランド(PB)の実際
8. サプライチェーン・マネジメント(SCM)の発展 1
9. サプライチェーン・マネジメント(SCM)の発展 2
10. サプライチェーン・マネジメント(SCM)の発展 3
11. 「情報」と流通
12. 取引コストと企業の境界
13. ショッピングセンター時代の本質
14. 流通業と環境・CSR

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/授業での発言(60%)

テキスト(Textbooks)

講義ごとにレジュメ，資料を配布する。

参考文献(Readings)

1. 伊藤元重編、2005、『日本の産業システム6　新流通産業』、NTT 出版 (ISBN:4757121059)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL717／流通システム論2 (Sales and Distribution System 2)		
担当者名 (Instructor)	高岡　美佳(TAKAOKA MIKA)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

時代の変遷の中でイノベーター達は，様々な小売業態(ビジネスモデル)を生み出した。本授業では，これらイノベーションの実態と今後の新たな可能性について探求する。

With the changing of the times, innovators have produced various retail business models. In this class, the actual condition of these innovations and new future possibilities are investigated.

授業の内容(Course Contents)

これまで先進諸国では，その時代に特徴的な小売業態が流通業をリードし，流通システムを変えてきた。どんな業態がいつ，なぜ登場したのか。誰が革新を担ったのか。そして，その革新性の本質は何であったのか。これらの点を，日本と諸外国の代表企業をケースに取り上げ，明らかにしていきたい。

Up until now, in advanced countries, the characteristic retail type has led the distribution industry, and distribution systems have changed. What kind of business conditions and when and why did they appear? Who took charge of the innovation? And, what was the essence of the innovation? We would like to take up and clarify these points in cases of representative corporations of Japan and overseas countries.

授業計画(Course Schedule)

1. 小売業種・業態の登場とその背景
2. 小売業態 1: 百貨店
3. 小売業態 2: スーパーマーケット(SM)
4. 小売業態 3: 総合スーパー(GMS)
5. 小売業態 4: コンビニエンスストア(CVS)
6. 小売業態 5: ショッピングセンター
7. 小売業態 6: 専門店
8. チェーン小売業の諸形態
9. 近年の小売ビジネスモデル
10. SPAとサプライチェーンマネジメント
11. インターネットの発達とｅコマース
12. 小売業とカスタマイゼーション
13. 小売フォーマットの本質と新たな可能性
14. 小売業のグローバル化戦略

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/授業での発言(60%)

テキスト(Textbooks)

講義ごとにレジュメ，資料を配布します

参考文献(Readings)

1. 田村正紀、2008、『業態の盛衰　現代流通の激流』、千倉書房 (ISBN:4805109181)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL719／ホテルマネジメント1 (Hotel Management 1)		
担当者名 (Instructor)	阿部　博秀(ABE HIROHIDE)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

＊ホテル運営、経営について学びながら、広くホスピタリティー・サービスビジネスに応用できる経営アプローチについて身につける。
＊グローバルホテルカンパニーの経営を学ぶことにより、国際ビジネス、企業経営についての理解を深める。

＊Study hotel operations and management, which also help to understand the management of hospitality and service related businesses.

授業の内容(Course Contents)

＊人材マネジメント、マーケティング、プロフィットエンジニアリングなどテーマ別に講義をする。
＊各分野のエキスパートであるゲストスピーカーを招くことによりビジネスの実例を紹介する。
＊授業では双方向での議論をおこなう。

＊Explain about the hotel business subjects such as human resources management, marketing, and profit engineering.
＊Invite business professionals as guest lecturers in order to share their real business cases.
＊Promote discussions in the classes.

授業計画(Course Schedule)

1. ホテルビジネスとは
2. パーパス経営とブランディング
3. セールス＆マーケティング
4. セールス＆マーケティング
5. レベニューマネジメント
6. レベニューマネジメント
7. 人材マネジメント・リーダーシップ
8. 人材マネジメント・リーダーシップ
9. 客室マネジメント
10. 客室マネジメント
11. ケーススタディー・ゲストレクチャー
12. ケーススタディー・ゲストレクチャー
13. ケーススタディー・ゲストレクチャー
14. ケーススタディー・ゲストレクチャー

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- 実査やインターネット検索による予習を必要に応じて別途指示する。
- 東京都内のホテル施設にて学外授業を行なう可能性がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/質問・発言など講義への貢献度(50%)/予習・復習状況(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 田尾桂子、2016、『グローバルオペレーターが変えるホテル経営: マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか』、白桃書房 (ISBN:978-4561266860)
2. 沢柳知彦、2021、『もてなしだけではもう食えない ーホテル経営学の本質と実践』、オータパブリケイションズ (ISBN:978-4903721910)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

VL721 ホテルマネジメント2の履修を推奨

https://www.amworks.jp/glossary.html

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL721／ホテルマネジメント2 (Hotel Management 2)		
担当者名 (Instructor)	阿部　博秀(ABE HIROHIDE)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

＊ホテル運営、経営について学びながら、広くホスピタリティー・サービスビジネスに応用できる経営アプローチについて身につける。
＊グローバルホテルカンパニーの経営を学ぶことにより、国際ビジネス、企業経営についての理解を深める。

＊Study hotel operations and management, which also help to understand the management of hospitality and service related businesses.

授業の内容(Course Contents)

＊人材マネジメント、マーケティング、プロフィットエンジニアリングなどテーマ別に講義をする。
＊各分野のエキスパートであるゲストスピーカーを招くことによりビジネスの実例を紹介する。
＊授業では双方向での議論をおこなう。

＊Explain about the hotel business subjects such as human resources management, marketing, and profit engineering.
＊Invite business professionals as guest lecturers in order to share their real business cases.
＊Promote discussions in the classes.

授業計画(Course Schedule)

1. レストランマネジメント
2. レストランマネジメント
3. ウェディング・イベントマネジメント
4. ウェディング・イベントマネジメント
5. ホテル会計・ファイナンス・リスクマネジメント
6. ホテル会計・ファイナンス・リスクマネジメント
7. 施設管理・リノベーション
8. ホテルビジネスプラン
9. プロフィットエンジニアリング
10. グローバルホテルカンパニーの経営
11. ケーススタディー・ゲストレクチャー
12. ケーススタディー・ゲストレクチャー
13. ケーススタディー・ゲストレクチャー
14. ケーススタディー・ゲストレクチャー

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- 実査やインターネット検索による予習を必要に応じて別途指示する。
- 東京都内のホテル施設にて学外授業を行なう可能性がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/質問・発言など講義への貢献度(50%)/予習・復習状況(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 田尾桂子、2016、『グローバルオペレーターが変えるホテル経営: マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか』、白桃書房 (ISBN:978-4561266860)
2. 沢柳知彦、2021、『もてなしだけではもう食えない ーホテル経営学の本質と実践』、オータパブリケイションズ (ISBN:978-4903721910)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

VL719ホテルマネジメント1の履修を推奨

https://www.amworks.jp/glossary.html

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL723／ホテルアセットマネジメント1 (Hotel Asset Management 1)		
担当者名 (Instructor)	福井　康子(FUKUI YASUKO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ホテル産業を学ぶに際し、ホテルアセットマネジメントについての知識は必須である。
本授業では、日本ではまだ一般には概念や実態が知られているとはいいがたいホテルアセットマネジメントについて、網羅性と専門性を備えたテキストを輪読し、アセットマネジメントの役割や意義について議論しながら学ぶ。

When learning about the hotel industry, knowledge of hotel asset management is essential.
The aim of this course is to understand the role and significance of asset management through reading a comprehensive and professional textbook on hotel asset management.

授業の内容(Course Contents)

世界のホテル産業はグローバリゼーションの潮流の中にある。グローバルなホテルマーケットの実態を知るには、ホテルアセットマネジメントという契約について知ることが重要であり、これを理解することはまた世界のホテル業界の目まぐるしく変化してきた歴史をたどることでもある。
ホテル業に興味をもつ学生だけでなく、不動産業、サービス業などに関心ある学生にも役立つ内容である。

The global hotel industry is in the midst of a tidal wave of globalization. In order to understand the actual situation of global hotel operators, it is important to know about the hotel asset management contract, and understanding this contract also means tracing the history of the fast-changing global hotel industry. This course is useful not only for students who are interested in the hotel industry, but also for students who are interested in the real estate and service industries.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション:授業の進め方、使用テキストについて、発表、レポート、評価の方法など
2. 1 章世界のホテル産業
   1チェーン展開とホテルオペレーター
3. 1 章
   2ホテルの運営携帯とマネジメント契約
4. 1 章3ホテル不動産所有の変容
   その1～2ホテル不動産所有の特徴、オーナーの種類
5. 1 章3ホテル不動産所有の変容
   その3新しいホテルオーナー:ホテル REIT とプライベート・エクイティ
6. 2 章ホテルマネジメント契約の史的展開
   1マネジメント契約の不完備性
7. 2 章1ホテルマネジメント契約の史的展開
   2マネジメント契約の歴史
8. 2 章1ホテルマネジメント契約の史的展開
   3契約の改定とホテルアセットマネージャーの導入
9. 3 章ホテルアセットマネジメントとガバナンス問題
   1権限の移行:オーナーの解約権と契約の短期化
10. 3章
    2ホテルアセットマネジメントの課題と現状理解
11. 4章ホテルマネジメント契約の特異性
    1運営の全面委託と二重の管理制度
12. 4章
    2内部請負制度とホテルマネジメント契約1－2
13. 4章
    2内部請負制度とホテルマネジメント契約3新しい請負制度として HAM 契約
14. 5章マネジメント契約がもたらした成果の検討

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

毎週 2 時間程度のテキストの予習が必要です。輪読担当の場合はそれをプレゼンテーションする準備時間も必要です。

成績評価方法・基準(Evaluation)

課題、発表(40%)/授業への貢献度(30%)/中間レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 田尾桂子、2016、『グローバルオペレーターが変えるホテル経営』、白桃書房 (ISBN:9784561266860)
授業中に適宜提示する。
授業で使用するものは事前に配布する予定。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL725／ホテルアセットマネジメント2 (Hotel Asset Management 2)		
担当者名 (Instructor)	福井　康子(FUKUI YASUKO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ホテルアセットマネジメントの主要な技術の一つであるアセット価値評価を行うための、投資、運営、売却などのフェーズごとに必要な知識について、授業を通して獲得できるようにする。

Through the class, students will be able to acquire the knowledge necessary for each phase, such as investment, operation, and sale, in order to evaluate asset value, which is one of the main techniques of hotel asset management.

授業の内容(Course Contents)

このクラスは、ホテルアセットマネジメント1の受講を修了した学生にとってはその上級編として位置づけられる内容である。両方の受講を推奨するが、一方だけの受講も可能である。
ホテルアセットマネジメントの2つの領域のうちのひとつ、アセットの価値の把握から始め、その方法論を学ぶとともに、市場の現状から予測、アセットの価値向上のための方法、投資判断など、多くの異なる視野からの分析力を身につける。なお、受講生の興味関心領域によっては、テキストの変更も考慮に入れる。

The first step in understanding hotel asset management is to understand the value of the assets and then learn the methodology. At the same time, students acquire analytical skills from many different perspectives, such as forecasting based on the current situation of the market where assets are placed, methods for increasing asset value, investment decisions, etc. The textbook may be changed depending on the interests of the students.

授業計画(Course Schedule)

1. 授業のすすめかた、資料配布の説明、輪読の順番決め。アセットの理解。
2. テキスト3章　アセットマネジメントサイクルとマネジメントプラン
3. テキスト3章 アセットマネジメントサイクルとマネジメントプラン
4. テキスト4章　ホテル投資プログラムの確立
5. テキスト4章 ホテル投資プログラムの確立
6. テキスト5章 ホテル投資判断
7. テキスト5章 ホテル投資判断
8. テキスト5章 ホテル投資判断
9. テキスト12章 資本的支出決定のためのガイドライン
10. テキスト12章 資本的支出決定のためのガイドライン
11. DCF の理解
12. 割引率、還元利回り率、NOI の理解
13. レポート発表会
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習が必要です。テキストを熟読し、理解に努め、授業に出て下さい。質問は授業中にし、理解を完全にすること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発表、課題(40%)/中間レポート(30%)/授業への参加、貢献度(30%)

テキスト(Textbooks)

1. グレッグ・デントンほか、2014、『ホテルアセットマネジメント』、立教大学出版会 (ISBN:ISBN-978-4-901988-26-1)

参考文献(Readings)

1. 田尾桂子、2016、『グローバルオペレーターが変えるホテル経営』、白桃書房
授業時に適宜提示する

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL735／新商品開発1 (Product Development 1)		
担当者名 (Instructor)	柴田　徹(SHIBATA TORU)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本『新商品開発1、2』は、ある限定的な研究分野における専門性の追及を目的としたもの(＝スペシャリスト研究)ではなく、新商品開発の一連の全工程を広く浅く研究することで総合的かつ俯瞰的な思考の探求を目的とする授業(＝ジェネラリスト研究)である。

This 'Product Development 1 and 2' is not aimed at pursuing specialization in a limited research field (=specialist research), but it is aimed at exploring a comprehensive and thoughtful thinking through wide-ranging studies of the entire process of product development (=generalist research).

授業の内容(Course Contents)

『新商品開発1』では、その開発工程を4つの大工程に区切り、各工程の位置づけやその役割を解説しながら、その工程で使用する分析手法や分析ツールを提示する。提示した分析手法や分析ツールは、ミニ演習を通して実践することで、その意味や使い方を体得していく。
具体的な分析手法や分析ツールとして、SECI モデル、、知的資産経営、SWOT、5フォース等を利用するが、一般的な使用方法に加え、独自視点のカスタマイズを加えることを前提としており、新商品開発のステップを理解すると同時に、各工程で使用する分析手法や分析ツールに対しても新しい知見を加えていく試みを取り入れている。
なお、本科目は、新商品開発における実務経験の有無は問わず、初心者から学べる内容を想定している。

In 'Product Development 1', we will delineate the development process to four general steps, and while explaining the positioning and its role of each step, we will present analytical methods and analytical tools used in the process. The analytical methods and analytical tools presented will be practiced through mini seminars to acquire their meaning and usage.
We will use the SECI model, intellectual property management, SWOT, and Porter's five forces analysis, etc. as concrete analytical methods and analytical tools, but in addition to general usage, it is assumed that customization of our own viewpoint will be added, and at the same time, we will try to add new knowledge to analytical methods and analytical tools used in each process, while understanding the steps of product development.
In addition, this discipline assumes that beginners will be able to study, regardless of whether they have practical experience in developing products or not.

授業計画(Course Schedule)

1. 新商品開発の考え方と基礎知識
   ・本授業の狙いと全体構成
   ・新商品開発の考え方
2. 新商品開発の考え方と基礎知識
   ・ミニ演習と発表
3. 開発方針とリソースの確認
   ・リソースベースドビューと VRIO の考え方
   ・自社資源の確認と将来像
4. 開発方針とリソースの確認
   ・ミニ演習と発表
5. マーケティングと企画
   ・一般的なマーケティングツールの解説(PEST、3C、4P、SPC、SWOT 等)
   ・BtoB と BtoC の違い
6. マーケティングと企画
   ・ミニ演習と発表
7. SECI モデルと QFD の活用方法
   ・SECI モデルの捉え方
   ・QFD の概要と考え方
8. SECI モデルと QFD の活用方法
   ・ミニ演習と発表
9. 知的財産権とその活用方法

・知的財産権、産業財産権 概論
・特許電子図書館（J-PlatPat）の活用方法
10. 知的財産権とその活用方法
・ミニ演習と発表
11. 販売戦略とビジネスモデル
・ビジネスモデルの重要性
・価格設計、広報、営業の考え方
12. 販売戦略とビジネスモデル
・ミニ演習と発表
13. 新商品開発の本質
・研究投資の必要性
・プロダクトアウトとマーケットインのバランス
14. 新商品開発の本質
・まとめ、全体の振り返り

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

原則なし（但し、課題が出る場合もある）

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(40%)/ミニ演習の成果物(30%)/発言や授業寄与度(30%)

テキスト（Textbooks）

授業内で必要なテキストを配布する

参考文献（Readings）

1. ジェームス W.ヤング、竹内 均、 今井 茂雄、1988、『アイデアのつくり方』、阪急コミュニケーションズ (ISBN:978-4484881041)
2. 外山 滋比古、1986、『思考の整理学』、筑摩書房 (ISBN:978-4480020475)
3. 野中 郁次郎, 竹内 弘高、1996、『知識創造企業』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492520819)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【双方向による授業】
本科目は、ミニ演習において個人単位のディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 42.9%（14 回中 6 回）である。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL737／新商品開発2 (Product Development 2)		
担当者名 (Instructor)	柴田　徹(SHIBATA TORU)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本『新商品開発1、2』は、ある限定的な研究分野における専門性の追及を目的としたもの(＝スペシャリスト研究)ではなく、新商品開発の一連の全工程を広く浅く研究することで総合的かつ俯瞰的な思考の探求を目的とするもの(＝ジェネラリスト研究)である。

This 'Product Development 1 and 2' is not aimed at pursuing specialization in a limited research field (=specialist research), but it is aimed at exploring a comprehensive and thoughtful thinking through wide-ranging studies of the entire process of product development(=generalist research).

授業の内容(Course Contents)

『新商品開発2』では、関連する講義『新商品開発1』でレクチャーした内容に沿って、実際に新商品開発の企画書を作成していく。ただし、実際に試作品や量産品を製造することはできない為、ペーパーワークで可能な範囲に留める。 履修生1人1人が企画者となって新商品開発における一連の工程を体得していく。一部講義も行うが、主に履修生主体の授業となる。 なお、本科目は、新商品開発における実務経験の有無は問わず、初心者から学べる内容を想定している。

In 'Product Development 2', we will actually prepare a new product development proposal in accordance with the contents lectured in the related lecture 'Product Development 1.' However, since it is not possible to manufacture prototypes or mass-produced products, it is limited to what is possible though paper work.
Students taking this class will become a planner and master a series of processes in product development one by one. Some lectures are given, but mainly this will be a class on research subjects by students who took the class.
In addition, this discipline assumes that beginners will be able to study, regardless of whether they have practical experience in developing products or not.

授業計画(Course Schedule)

1. 新商品開発2の考え方と基礎知識
   ・本授業の狙いと全体構成
   ・新商品開発2　概論
2. 新商品の事例分析1－1
   ・与えられた新商品事例を分析する
3. 新商品の事例分析1－2
   ・与えられた新商品事例の分析結果を発表する
4. 新商品の事例分析1－3
   ・新商品開発の企画書に必要な情報(要素)を理解する
5. 新商品の事例分析2－1
   ・各自で分析したい新商品を持ち寄る
   ・対象の新商品がどのようにして企画・開発されたかを調査する
6. 新商品の事例分析2－2
   ・各自で分析したい新商品の情報を集める
7. 7. 新商品の事例分析2－3
   ・各自の分析結果を発表する
8. 新商品の事例分析2－4
   ・独自の新商品企画書を作成する
   ・新商品の特徴をどのように伝えるかを工夫する
9. 新商品企画3－1
   ・各自で企画したい新商品のアイデアを出す
   ・ブレーンストーミングの実演　他
10. 新商品企画3－2
    ・アイデアをビジネスモデルに落とす
    ・儲かる仕組みを考える
11. 新商品企画3－3

・各自の新商品アイデアの中間報告

12. 新商品企画3－4
・中間報告へのフィードバック
・独自の新商品企画書（A3用紙一枚）を作成する
13. 新商品企画3－5
・最終企画書の発表
14. 新商品企画書のまとめ
・全体の振り返り
・新商品開発に必要な情報の確認

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業時間外での「新商品のアイデア出し」や「新商品企画書の作成」など適宜課題を課す。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(40%)/ミニ演習や授業内課題(30%)/受講貢献度や授業協力など(30%)

テキスト（Textbooks）

原則として、テキストは配布しない（新商品開発1で配布したテキストを利用する）。 但し、適宜追加資料は配付する。

参考文献（Readings）

1. ジェームス W.ヤング、竹内 均、 今井 茂雄、1988、『アイデアのつくり方』、阪急コミュニケーションズ （ISBN:978-4484881041）
2. 外山 滋比古、1986、『思考の整理学』、筑摩書房 （ISBN:978- 4480020475）
3. 野中 郁次郎, 竹内 弘高、1996、『知識創造企業』、東洋経済新報社 （ISBN:978- 4492520819）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【新商品開発1との関連性】
使用するツールや授業の進め方を理解する上で、関連する『新商品開発1』を履修していることが望ましい。
【グループワーク】
履修者数によりグループ単位で新商品の企画に取り組む場合がある。その場合は、他のグループメンバーに迷惑を掛けないよう授業への出席・議論・資料作成等を協調性をもって取り組まなければならない。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL751／グローバル経営戦略1 (Global Business Strategy 1)		
担当者名 (Instructor)	日置　圭介(HIOKI KEISUKE)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

グローバル経営の本質を理解する

Understand the essence of global management.

授業の内容(Course Contents)

経営学の理論も参考に、グローバルで優れた経営を実践しているワールドクラス企業の思考・行動様式を理解する。加えて、日本企業の進むべき方向性と乗り越えるべき課題を学ぶ。
「グローバル経営戦略1」では、ワールドクラス企業の経営を、環境面・戦略面・組織面から考察し、統合的に学習する。

Understand the thinking and behavioral styles of world class companies that are practicing excellent management on a global scale, referring to theories of business administration. In addition, students will learn about the direction Japanese companies should take and the challenges they need to overcome.
In "Global Business Strategy 1," students will study the management of world-class companies from environmental, strategic, and organizational perspectives in an integrated manner.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 日本と日本企業の現在地
3. グローバルとは何か
4. ワールドクラス企業の共通的特長
5. 戦略論の変遷
6. 組織論の変遷
7. メガトレンド①－定量的に見える世界
8. メガトレンド②－定性的に見える世界
9. 事業の立地
10. 企業の新陳代謝
11. 組織デザインの基本思想
12. コーポレートファンクションの実際
13. 理念と経営
14. リーダーシップ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義時に指示する

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/講義への参加・貢献度合い(70%)

テキスト(Textbooks)

1. 橋本勝則/昆政彦/日置圭介、2020、『ワールドクラスの経営』、ダイヤモンド社

参考文献(Readings)

1. 入山章栄、2019、『世界標準の経営理論』、ダイヤモンド社
・ダイヤモンドハーバードビジネスレビューオンライン
「経営学者×経営コンサルタントの「グローバル経営現論」」
https://www.dhbr.net/articles/-/2916
・ダイヤモンドオンライン
「ワールドクラスの経営」
https://diamond.jp/category/s-worldclass

・Biz/Zine
「ネオ・コーポレート経営」
https://bizzine.jp/article/corner/226
・Forbes Japan 「いまこそ欧州企業に学べ」
・Forbes Japan 「米企業に学ぶ、イノベーションを生む「セパレーション」」

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

・講義のテーマや順序については調整する可能性がある。
・「グローバル経営戦略1」では、ワールドクラス企業の経営を、環境面・戦略面・組織面から考察し、統合的に学習する。「グローバル経営戦略2」では、ワールドクラス企業や日本企業の実務経験者からケーススタディを学ぶ。「理論＋実践」の一体的内容としているため、連続して履修することを推奨する。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL752／グローバル経営戦略2 (Global Business Strategy 2)		
担当者名 (Instructor)	日置　圭介(HIOKI KEISUKE)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

グローバル経営の本質を理解する

Understand the essence of global management.

授業の内容(Course Contents)

経営学の理論も参考に、グローバルで優れた経営を実践しているワールドクラス企業の思考・行動様式を理解する。加えて、日本企業の進むべき方向性と乗り越えるべき課題を学ぶ。
「グローバル経営戦略2」では、ワールドクラス企業や日本企業の実務経験者からケーススタディを学び、議論を通して理解を深める。

On the basis of the theories of business administration, this course will provide an understanding of the thinking and behavioral styles for growth and survival found in world class companies that are active on the global stage. We will also learn about the direction Japanese companies should take and the challenges they need to overcome.
In "Global Business Strategy 2," students will learn case studies from experienced professionals at world-class companies and Japanese companies, and deepen your understanding through discussions.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. ケーススタディから学ぶべきポイント整理
3. ケーススタディ1
4. ディスカッション
5. ケーススタディ2
6. ディスカッション
7. ケーススタディ3
8. ディスカッション
9. ケーススタディ4
10. ディスカッション
11. ケーススタディ5
12. ディスカッション
13. ケーススタディ6
14. ディスカッション
    ラップアップ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義時に指示する

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/講義への参加・貢献度合い(70%)

テキスト(Textbooks)

1. 橋本勝則/昆政彦/日置圭介、2020、『ワールドクラスの経営』、ダイヤモンド社

参考文献(Readings)

1. 入山章栄、2019、『世界標準の経営理論』、ダイヤモンド社
・ダイヤモンドハーバードビジネスレビューオンライン
「経営学者×経営コンサルタントの「グローバル経営現論」」
https://www.dhbr.net/articles/-/2916
・ダイヤモンドオンライン

「ワールドクラスの経営」
https://diamond.jp/category/s-worldclass
・Biz/Zine
「ネオ・コーポレート経営」
https://bizzine.jp/article/corner/226
・Forbes Japan 「いまこそ欧州企業に学べ」
・Forbes Japan 「米企業に学ぶ、イノベーションを生む「セパレーション」」

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

・グローバル企業並びに日本企業から、主に役員レベルのゲストスピーカーを招聘するため、講義のテーマや順序については適宜調整する。
・「グローバル経営戦略1」では、ワールドクラス企業の経営を、環境面・戦略面・組織面から考察し、統合的に学習する。「グローバル経営戦略2」では、ワールドクラス企業や日本企業の実務経験者からケーススタディを学ぶ。「理論＋実践」の一体的内容としているため、連続して履修することを推奨する。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL761／経営者人材開発論 (Human Resource Development for Managers)		
担当者名 (Instructor)	長谷川　徹(HASEGAWA TOHRU)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本授業では、経営者がどのように育つのかを事例から学び、履修者自らが「経営者としての姿」の意識を持つことを目標とする

In this class, students will study examples of how management is nurtured, and the goal is for the participants to have an awareness of their own "appearance as a manager".

授業の内容(Course Contents)

本授業では、経営者の姿、マネジメントスタイルについてディスカッションを通じて検討を進める。
はじめに、経営者の姿について書籍を通じて学ぶ
次に、環境の変化がマネジメントスタイルに影響を与えること、与えないことをコロナ禍によって生じたリモートワークにおけるマネジメントスタイルから、履修者の実体験含め、心理的安全性の観点含めディスカッションを通じて検討する。

In this class, we will consider the image of a manager and management style through discussion.
First, we will learn about management styles through books.
Next, we will discuss how changes in the environment may or may not affect management styles. Management styles in remote work due to the Corona disaster will be discussed, including the participants' actual experiences and the perspective of psychological safety.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. よき経営者の姿
3. よき経営者の姿
4. よき経営者の姿
5. リモートワークマネージメント(生じた事象と、働き方、従業員の変化)
6. リモートワークマネージメント(生じた事象と働き方、従業員の変化)
7. リモートワークマネージメント(生じた事象が与えマネジメントスタイルの変化)
8. リモートワークマネージメント(生じた事象が与えマネジメントスタイルの変化)
9. 心理的安全性とマネジメント
10. 心理的安全性とマネジメント
11. 心理的安全性とマネジメント
12. 心理的安全性とマネジメント
13. まとめ
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・本授業の参加にあたっては、事前に書籍を熟読することから始まります。
・各回授業のレポート課題に"事前"に取り組み、「事前レポート」を作成し前日までに提出してください。
また、当日授業に持参してください。
・「事前レポート」を基にクラス内討論を行います。
・授業終了時に各自「授業コメント」を作成し提出します。
・幅広い興味と積極性をもって、授業に参加されることを期待しています。

成績評価方法・基準(Evaluation)

事前レポート(35%)/授業コメント(35%)/クラス討論への貢献(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 伊丹敬之、2017、『よき経営者の姿』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4532911355)
2. エイミー・C・エドモンドソン、2021、『恐れのない組織――「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす』、英治出版 (ISBN:978-4862762887)

【テキストについて】
「よき経営者の姿」は、電子書籍版またはオンデマンドプリントで購入準備をお願いいたします。
https://www.nikkeibook.com/item-detail/31311

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

・その他、授業の情報は Blackboard にて公開いたしますので、適宜確認をお願いいたします。
【テキストについて】
「よき経営者の姿」は、電子書籍版またはオンデマンドプリントで購入準備をお願いいたします。
https://www.nikkeibook.com/item-detail/31311

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL764／トップマネジメント論 (Top Management)		
担当者名 (Instructor)	長谷川　徹(HASEGAWA TOHRU)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本授業では、履修者自らが「トップマネジメントに必要な素養」について身につけることを目標とする。

In this class, the goal for students is to acquire the basic knowledge necessary for "top management".

授業の内容(Course Contents)

1. 書籍を熟読後、トップマネジメントの行動、意識に関連する具体的な事例を収集する。
2. 収集した事例を授業内で報告する。
3. 報告された事例を基に議論を行う。

※管理会計の書籍を取り扱うが、いわゆる会計としての内容ではなく、

※トップマネジメントとして"管理"がどのような影響をあたえるか？ということに着目した授業を予定している。

1. After thoroughly reading through the textbook, you will collect concrete cases related to the behavior and consciousness of top management.
2. The collected cases will be reported in the class.
3. Discussions will be held based on reported cases.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 企業の全体像:経営を見る眼　第 1 章から第 11 章
3. 経営戦略の全体像:経営を見る眼　第 12 章から第 14 章
4. 経営戦略の全体像:経営を見る眼　第 15 章から第 17 章
5. マネジメントの全体像:経営を見る眼　第 18 章から第 19 章
6. マネジメントの全体像:経営を見る眼　第 20 章から第 21 章
7. 利益とキャッシュ:現場が動き出す会計　第 1 章から第 4 章
8. 業績測定単位:現場が動き出す会計　第 1 章から第 4 章
9. 原価と利益:現場が動き出す会計　第 5 章から第 7 章
10. 資産効率管理:現場が動き出す会計　第 5 章から第 7 章
11. アメーバ経営:現場が動き出す会計　第 8 章から第 11 章
12. 研究開発投資と予算管理:現場が動き出す会計　第 8 章から第 11 章
13. 情報システムと影響システム:現場が動き出す会計　第 12 章から第 14 章
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・本授業の参加にあたっては、事前に書籍を熟読することから始まります。
・各回授業のレポート課題に"事前"に取り組み、「事前レポート」を作成し当日授業に持参してください。(授業参加後に提出)
・「事前レポート」基にクラス内討論を行います。
・授業終了時に各自「授業コメント」を作成し提出します。
・幅広い興味と積極性をもって、授業に参加されることを期待しています。

成績評価方法・基準(Evaluation)

事前レポート(35%)/授業コメント(35%)/クラス討論への貢献(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 伊丹敬之、2007、『経営を見る眼』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4492501740)
2. 伊丹敬之、2016、『現場が動き出す会計 ―人はなぜ測定されると行動を変えるのか』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4532320645)

テキストについては、電子書籍でも問題ありません。

参考文献(Readings)

1. 伊丹敬之、2012、『経営戦略の論理 〈第 4 版〉―ダイナミック適合と不均衡ダイナミズム』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4532134266)
2. 伊丹敬之、2012、『ケースブック 経営戦略の論理 〈全面改訂版〉』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4532134273)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

・その他、授業の情報は Blackboard にて公開いたしますので、適宜確認をお願いいたします。
・授業は Web 授業を予定しております。
・授業進捗によっては予定している内容が前後する可能性もありますので、ご了承ください。

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL781／組織情報論1 (Organization Information Theory 1)		
担当者名 (Instructor)	秋庭　孝俊(AKIBA TAKATOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

経営組織論と組織のコミュニケーションにおける概念について学ぶ。

Learn about management organization theory and concepts in organizational communication.

授業の内容(Course Contents)

本科目ではバーナードが論じた組織成立の必要要件である組織の三要素、1.共通目的、2.貢献意欲、3.コミュニケーションの中で特に組織のコミュニケーションに焦点を当て、古典組織論、近代組織論を中心に組織のコミュニケーションの概念がどのように変化をしてきたかを検討する。講義前半は座学形式、後半は講義の中で論じられた課題についてのディスカッション形式で行う。

In this course, Bernard discussed the three elements of organization, which are the necessary requirements for organizational formation: 1. Common purpose, 2. Willingness to contribute, 3. Communication, focusing on organizational communication, classical organization theory, modern organization We will examine how the concept of communication in an organization has changed, focusing on theory. The first half of the lecture will be in a classroom format, and the second half will be in a discussion format about the issues discussed in the lecture.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 古典組織論とコミュニケーション 1
3. 古典組織論とコミュニケーション 2
4. 古典組織論とコミュニケーションについてのディスカッション
5. 近代組織論の議論 1
6. 近代組織論 1 とコミュニケーションについてのディスカッション
7. 近代組織論の議論 2
8. 近代組織論 2 とコミュニケーションについてのディスカッション
9. コンティンジェンシー理論
10. コンティンジェンシー理論とコミュニケーションについてのディスカッション
11. 課題作成
12. 課題作成
13. 課題報告
14. 課題報告

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義中に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業の参加度(発言など)(50%)/授業内課題(50%)

テキスト(Textbooks)

講義の都度紹介する。

参考文献(Readings)

講義の都度、資料を配布する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL782／組織情報論2 (Organization Information Theory 2)		
担当者名 (Instructor)	秋庭　孝俊(AKIBA TAKATOSHI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

組織情報論 1 に続き、組織のコミュニケーションをコンティンジェンシー理論から発展する情報処理モデル、組織行動学における コミュニケーション、情報技術革命以降の組織のコミュニケーションなどの理論を学ぶ。

Following Organizational Information Theory 1, students will learn theories such as information processing model that develops organizational communication from contingency theory, communication in organizational behavior, and organizational communication after the information technology revolution.

授業の内容(Course Contents)

本科目では近代組織論からの組織が不確実性に対処する行為や情報処理から議論し、比較的新しい分野である組織行動学と コミュニケーション、今日における ICT が組織のコミュニケーションに与える影響など学ぶ。前半は座学形式、後半は講義で学ん だテーマに基づくディスカッション形式で行う。

In this course, we will discuss from modern organizational theory the behavior of organizations to deal with uncertainties and information processing, and learn about the relatively new fields of organizational behavior and communication, and the impact of ICT on organizational communication today. The first half will be a classroom lecture, and the second half will be a discussion format based on the themes learned in the lecture.

授業計画(Course Schedule)

1. 組織の不確実性に対処する行為と情報処理
2. 組織の不確実性に対処する行為と情報処理についてのディスカッション
3. 情報プロセシングパラダイム
4. 情報プロセシングパラダイムについてのディスカッション
5. 組織行動学とコミュニケーション
6. 組織行動学とコミュニケーションについてのディスカッション
7. 情報技術革命と組織におけるコミュニケーション 1
8. 情報技術革命と組織におけるコミュニケーション 1 についてのディスカッション
9. 情報技術革命と組織におけるコミュニケーション 2
10. 情報技術革命と組織におけるコミュニケーション 2 についてのディスカッション
11. 課題作成
12. 課題作成
13. 課題報告
14. 課題報告

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義中に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業参加度(発言など)(50%)/授業内課題(50%)

テキスト(Textbooks)

講義中に紹介する。

参考文献(Readings)

講義中に配布する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL783／租税論1 (Tax Theory 1)		
担当者名 (Instructor)	清田　幸弘(SEITA YUKIHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　ランドマーク税理士法人		

授業の目標(Course Objectives)

本講義では各税目の成り立ちや仕組み、特徴を理解することを目的とする。

The purpose of this lecture is to understand the composition, structure, and characteristics of each tax.

授業の内容(Course Contents)

租税は企業や個人、多方面に多大な影響を与えており、税制の適切な理解があってこそ実体経済の把握が可能となる。本講義では所得税法を中心に、法人税法、消費税法も扱う。また、各税目の第一線に立っている実務家ならではの経験や最新事例も併せて解説を行う。

Tax has a great impact on corporations, individuals, and various aspects, and it is only with an appropriate understanding of the tax system that it becomes possible to understand the real economy. This lecture will deal mainly with the income tax law as well as the corporate and consumption tax law. Also, we will explain the experiences and latest cases which are unique to practitioners at the forefront of each tax.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 税理士制度について、税理士事務所の経営
3. 租税法(1)
4. 租税法(2)
5. 所得税法(1)
6. 所得税法(2)
7. 所得税法(3)
8. 所得税法(4)
9. 法人税法(1)
10. 法人税法(2)
11. 消費税法(1)
12. 消費税法(2)
13. まとめ
14. テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内で指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/授業への出席と貢献(60%)
租税論 2(VL784)との連続した授業になるので両科目の履修を推奨

テキスト(Textbooks)

1. 石村耕治、2022、『税金のすべてがわかる　現代税法入門塾(第 11 版)』、清文社 (ISBN:9784433738525)
2. 清田幸弘、2022、『令和 4 年度　都市農家・地主の税金ガイド』、税務研究会出版局 (ISBN:978-4793126963)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形

式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL784／租税論2 (Tax Theory 2)		
担当者名 (Instructor)	清田　幸弘(SEITA YUKIHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　ランドマーク税理士法人		

授業の目標(Course Objectives)

本講義では各税目の成り立ちや仕組み、特徴を理解することを目的とする。

The purpose of this lecture is to understand the composition, structure, and characteristics of each tax.

授業の内容(Course Contents)

租税は企業や個人、多方面に多大な影響を与えており、税制の適切な理解があってこそ実体経済の把握が可能となる。本講義では相続税法、事業承継税制、さらに国際課税、米国税制も扱う。また、各税目の第一線に立っている実務家ならではの経験や最新事例も併せて解説を行う。

Tax has a great impact on corporations, individuals, and various aspects, and it is only with an appropriate understanding of the tax system that it becomes possible to understand the real economy. This lecture will deal with inheritance tax law, business succession tax system, international taxation, and the U.S. tax system. Also, we will explain the experiences and latest cases which are unique to practitioners at the forefront of each tax.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 相続税法(1)
3. 相続税法(2)
4. 相続税法(3)
5. 事業承継税制(1)
6. 事業承継税制(2)
7. 国際課税(1)
8. 国際課税(2)
9. 租税手続法(1)
10. 租税手続法(2)
11. 米国税制(1)
12. 米国税制(2)
13. まとめ
14. テスト

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内で指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/授業への出席と貢献(60%)
租税論 1(VL783)との連続した授業になるので両科目の履修を推奨

テキスト(Textbooks)

1. 石村耕治、2020、『税金のすべてがわかる　現代税法入門塾(第 10 版)』、清文社 (ISBN:978-4433738501)
2. 清田幸弘、2021、『令和 3 年度　都市農家・地主の税金ガイド』、税務研究会出版局 (ISBN:978-4793126314)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形

式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL785／IT産業の変遷と情報化社会 (Development of IT Industry and Information Society)		
担当者名 (Instructor)	前川　徹(MAEGAWA TORU) 日野　和麻呂(HINO KAZUMARO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　(一社)日本データビジネス協会		

授業の目標(Course Objectives)

情報技術(IT)の進歩とIT産業の歴史を踏まえて情報化社会とITビジネスの現状を理解し、その未来について考察するために必要な基礎知識を修得する。

We will acquire basic knowledge necessary to understand the current state of the information society and IT businesses based on the progress of Information Technology (IT) and the history of the IT industry, and will consider the future as well.

授業の内容(Course Contents)

情報技術(IT)は、ビジネスや社会経済に大きな変化をもたらしている。この科目では、ITの進歩がビジネスや社会経済にどのような影響をもたらしているのかを理解するため、デジタル技術の進歩に加えて、20世紀中盤以降のIT産業の変遷について考察する。具体的には、ITビジネスとしてのコンピュータ・ビジネス、ソフトウェア・ビジネス、インターネット・ビジネスの変遷について振り返る。また同時に、IT産業のパラダイム転換をもたらした基本原理について考え、情報化社会の現在と未来について考察する。

Information technology (IT) has revolutionized business and socio-economics. In this course, we will consider the transition of the IT industry since the middle of the 20th century, in addition to the progress of digital technology, in order to understand how the progress of IT is affecting business and socio-economy. Specifically, we will look back on the transition of computer business, software business, and Internet business as IT businesses. At the same time, we will consider the basic principles that brought about a paradigm shift in the IT industry, and consider the present and future of the information-oriented society.

授業計画(Course Schedule)

1. 第1回:情報技術の進化と情報化社会論(前半)　(担当:前川)
   ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークにわけて情報技術(IT)がどのように進化／発展したかについて講義する。
2. 第2回:情報技術の進化と情報化社会論(後半)　(担当:前川)
   個人、組織、社会において情報技術(IT)がどのように利用されてきたのかを踏まえて、情報化社会論の歴史と概念、情報革命のもたらしたものについて講義する。
3. 第3回:ハードウェア・ビジネス(前半)　(担当:前川)
   メインフレームが誕生するまでのハードウェア・ビジネス、IBMのメインフレーム時代のビジネス、ダウンサイジングとオープンシステム化について講義する。
4. 第4回:ハードウェア・ビジネス(後半)　(担当:前川)
   パソコンとそのOSを巡る市場競争、垂直統合型ビジネスと水平分業型ビジネスについて講義する。
5. 第5回:インターネット・ビジネス(前半)　(担当:前川)
   インターネットの黎明期の歴史、商用インターネットの発展、Webブラウザを巡る争い、インターネット上の商取引の種類と現状について講義する。
6. 第6回:インターネット・ビジネス(後半)　(担当:前川)
   インターネット広告ビジネスと検索エンジン／ポータルサイトビジネス、SNSビジネスについて講義する。
7. 第7回:情報財ビジネス(前半)　(担当:前川)
   情報財(コンテンツ、ソフトウェア)に関連するビジネスの現状と課題について講義する。前半は、主に新聞・雑誌・書籍・映画・音楽などのコンテンツ産業を取り上げる。
8. 第8回:情報財ビジネス(後半)　(担当:前川)
   情報財(コンテンツ、ソフトウェア)に関連するビジネスの現状と課題について講義する。後半は、主にソフトウェア・ビジネスとプラットフォーム・ビジネスについて解説する。
9. 第9回:事例研究(Amazon.com／楽天／メルカリ)(前半)　(担当:前川)
   事例研究としてAmazon.com、楽天、メルカリを取り上げ、これらの企業のビジネスと戦略の分析を通じて、情報財ビジネス、プラットフォーム・ビジネスに対する理解を深める。
10. 第10回:事例研究(Amazon.com／楽天／メルカリ)(後半)　(担当:前川)
    事例研究としてAmazon.com、楽天、メルカリを取り上げ、これらの企業のビジネスと戦略の分析を通じて、情報財ビジネス、プラットフォーム・ビジネスに対する理解を深める。
11. 第11回:(事例)会計ソフトの進化(前半)　(担当:日野)

企業向けビジネスソフトウェアとして、9 割を超える導入状況にある会計ソフトを取り上げ、どのように進化/発展してきたかを学ぶとともに、IT の進化によりもたらされる、次世代会計により、ビジネスがどのように変化するかを理解する。

12. 第 12 回:(事例)会計ソフトの進化(前半) (担当:日野)
    内容は第 11 回の続き。
13. 第 13 回:デジタル・トランスフォーメーション(前半) (担当:前川)
    デジタル・トランスフォーメーション(DX)とは何か、DX によってビジネスや産業がどのように変化しているのかを把握するとともに、事例を通じて DX の本質を理解する。
14. 第 14 回:IoT、AI は何をもたらすのか(後半) (担当:前川)
    デジタル・トランスフォーメーション(DX)によるビジネス変革の特徴を踏まえて、DX がもたらす変化を理解するとともに、DX がもたらす変化を踏まえて情報化社会を再考する。

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて、別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内レポート(30%)/デスカッションなど授業への参加度(40%)/課題レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 安延申、前川徹、田中辰雄、2009、『ビッグトレンド』、アスペクト (B00B6KE3HE)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

第 1 回と第 7 回は対面で実施し、その他の回(第 2 回～第6回)はオンラインで実施する予定である。(新型コロナ感染症の拡大状況によっては、すべての回をオンラインで実施することもあるが、その場合には、事前に Blackboard で通知する)

注意事項(Notice)

本科目では、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL787／経営とIT (Management and IT)		
担当者名 (Instructor)	田村　英二(TAMURA EIJI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　(一社)ビジネスプロセス・アーキテクト協会		

授業の目標(Course Objectives)

IT/デジタルが企業・組織にとってより大切な役割を担うようになっていく今こそ、IT/デジタルプロジェクトを真の意味で「成功」に導く、すなわち、経営層がIT/デジタル投資の成果に対して十分納得がいくようにしたい・・・本協会のメンバーはこうした志を持ち、失敗事例の収集・分析、成功のための要素に関する研究、成功に向けて実践するための考え方や基本アプローチの整備などを進めてきた。成功の根本原因に繋がるのは経営の洞察に関わる要因であることを多様な観点から見る

Now that IT/Digital has been playing a more important role for organizations, we would like to lead IT/ Digital projects to success in a real context, that is, to ensure that the management is fully satisfied with results of their IT/Digital investments. Under this aspiration, the members of the association for Business Process Architect Professionals have collected and analyzed failure cases, studied the elements for success, and have developed a way of thinking and a basic approach to achieve success. We will see success factors from various points of view and recognize that root elements are all related to management insights.

授業の内容(Course Contents)

経営とITにおいて、それぞれ異なる経験を有する複数の識者から、実践に基づく経験と知恵を話してもらう。講師は実務専門家であり、実践の場でいかなる問題に遭遇したか、それをどのように克服したか、あるいは苦渋を味わったか、何が今後の流れとして知っておくべき考え方なのか、といったトピックを聞く。そして、考える。

Business and/or IT experts having different experiences will talk about knowledge and wisdom based on practice. We will listen to them about topics including what problems they have encountered in practice, how they have solved issues, or failed, and what lessons they have learned for future success. And think ourselves through discussions.

授業計画(Course Schedule)

1. 第1回＜経営とITの抱える問題点と構想立案の重要性1＞
   現代および将来は、ITによりビジネスモデルが変わる時代に急激に移っていく。その変化の中で、経営者が知っておくべきITマネジメント、とりわけ構想立案のポイントについて学ぶ。
2. 第1回＜経営とITの抱える問題点と構想立案の重要性2＞
   事例を含め、理解を深める。
3. 第2回＜最新のITサービスのあり方:アジャイル・DevOpsの本質1＞
   アマゾンやグーグルなどの先進企業が取り組むDevOpsの導入とそれを実現した企業文化、経営手法、マネジメントリーダーシップなど、現在、当然と考えられている常識の『何を変え、何を変えなければならないか』を学ぶことで、これから取り組むべき新しい経営とITのあり方を学ぶ。
4. 第2回＜最新のITサービスのあり方:アジャイル・DevOpsの本質2＞
   事例を含め、理解を深める。
5. 第3回＜システマティックな業務のマネジメント BPM1＞
   ボトムアップな改善のみならず、トップダウンに経営戦略を実現させるためのビジネスプロセス・マネジメントの考え方を学ぶ。
6. 第3回＜システマティックな業務のマネジメント BPM2＞
   事例を含め、理解を深める。
7. 第4回＜グローバル企業のITマネジメント1＞
   デジタル・トランスフォーメーションの実現に向けて、グローバル企業はいかにITをマネジメントすべきかを欧米の多国籍企業を例に組織・人・財務・プロセスの観点から学ぶ。
8. 第4回＜グローバル企業のITマネジメント2＞
   事例含め、理解を深める。
9. 第5回＜新規事業開発における《BizDev》と《Team Collabo》1＞
   単発プロジェクトや新規事業立ち上げなど、様々なシーンで社内外の多様な人材と共同チームを組みながらビジネスモデルを組み上げていく機会はますます増加していく。ビジネスモデル構築において必須となるITの活用術、チームの「加速材」としてのITの在り方、そして「阻害要因」となってしまうITとはどのようなものかを学ぶ。
10. 第5回＜新規事業開発における《BizDev》と《Team Collabo》2＞
    事例を含め、理解を深める。

11. 第 6 回＜新規事業開発は IT 活用が前提1＞
    新規事業を発想し実現する機会は今後も増えるであろう。ビジネスモデルの中にいかに IT 活用を盛り込むかは必須となる。事例を通じて事業開発のポイントを学ぶ。
12. 第 6 回＜新規事業開発は IT 活用が前提2＞
    事例を含め、理解を深める。
13. 第 7 回＜経営者はプロジェクトマネジメントができる人1＞
    能力ある経営者は、良きプロジェクトマネジャーでもある。その共通点を抽出し要点を学ぶ。
14. 第 7 回＜経営者はプロジェクトマネジメントができる人2＞
    事例を含め、理解を深める。

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

課題を提示するので、その課題に即した具体的テーマを設定し、レポートを提出する。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(40%)/授業の参加度・発言(60%)

テキスト（Textbooks）

配布可能な情報は各回テキストとして配布

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

授業実施形態については、感染症の状況によっては、オンラインにします。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL788／M＆A　1 (Mergers & Acquisitions 1)		
担当者名 (Instructor)	古川　英一(FURUKAWA EIICHI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本の企業経営においても、本格的な M&A 戦略が必要不可欠な時代となってきた。本講座では、M&A の戦略目標を達成するためにプラニングから始まり、バリュエーション、ストラクチャー、デューディリジェンスからクロージング、PMI までの M&A 知識やスキルを体系的に理解し、企業戦略において M&A の実践に役立つ学習を提供することを目的とする。

A full-scale M & A strategy has become an essential component of management in every Japanese corporation. The purpose of this course is to provide students with a systematic understanding of M & A, impart the skills (including planning, valuation, structure, due diligence, closing, and PMI) needed to achieve the strategic goals of M & A, and help students learn to practice M & A as a part of corporate strategy.

授業の内容(Course Contents)

本講座では、M&A を企業戦略と位置付け、買い手側と売り手側双方の見地で、実際の M&A プロセスを通じて、M&A 戦略の有効性、戦略立案、意思決定メカニズム、企業価値評価、M&A における会計・税務・法務、企業財務等の実務知識を深める。実際のケースに従って、リアリティのある M&A の実務を習得し、また、実際に企業価値評価等の演習を行うことによって、理論が実践にいかに活用されるかを学習してもらう。

The course positions M & A as a corporate strategy and aims to deepen students' practical knowledge of M & A strategies, strategy planning, decision-making mechanisms, corporate valuation, accounting, taxation, legal affairs, corporate finance, and so on, and it achieves this by taking students through actual M & A processes from the perspectives of both the buyer and the seller. By looking at actual cases students will learn realistic M & A practices, and by conducting exercises in such areas as corporate valuation they'll see how the theory can be put into practice.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション、M&A の役割:歴史的な変遷
2. 経営戦略における M&A:企業経営と M&A
3. M&A のプロセス①:M＆A戦略立案から決定まで
4. M&A のプロセス②:基本合意からクロージングまで
5. M&A のプロセス③:企業価値と企業評価のフレームワーク
6. 企業評価の基礎演習
7. M&A のプロセス④:PMI(Post Merger Integration)
8. LBO と MBO:最近の動向と留意点
9. 企業評価の応用演習
10. 応用演習解説
11. グループディスカッション
12. レポート発表
13. 最終テスト
14. 予備日

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・.M&A に関する一般的知識
・ファイナンスの基礎(特にバリュエーションに関する分野)
・M&A に関する会計・税務・会社法・金証法等の基礎
・エクセルのスプレットシートの基本操作スキル

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(30%)/小テスト(30%)

テキスト(Textbooks)

スライド資料（配布）

参考文献（Readings）

1. ブリーリー、マイヤーズ、2014、『コーポレートファイナンス 第 10 版 上・下』、日経BP社
2. マッキンゼー・アンド・カンパニー、2016、『企業価値評価 第 6 版 上下』、ダイヤモンド社
3. デロイト トーマツ フィナンシャルアドバイザリー、2021、『ザ・M&A ディール 企業買収・売却プロセス実践対策集』、中央経済社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

当授業に続き、M&A2 を履修することが望ましい

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL789／M＆A　2 (Mergers & Acquisitions 2)		
担当者名 (Instructor)	古川　英一(FURUKAWA EIICHI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本の企業経営においても、本格的な M&A 戦略が必要不可欠な時代となってきた。本講座では、M&A の戦略目標を達成するためにプラニングから始まり、バリュエーション、ストラクチャー、デューディリジェンスからクロージング、PMI までの M&A 知識やスキルを体系的に理解し、企業戦略において M&A の実践に役立つ学習を提供することを目的とする。

A full-scale M & A strategy has become an essential component of management in every Japanese corporation. The purpose of this course is to provide students with a systematic understanding of M & A, impart the skills (including planning, valuation, structure, due diligence, closing, and PMI) needed to achieve the strategic goals of M & A, and help students learn to practice M & A as a part of corporate strategy.

授業の内容(Course Contents)

本講座では、M&A を企業戦略と位置付け、買い手側と売り手側双方の見地で、実際の M&A プロセスを通じて、M&A 戦略の有効性、戦略立案、意思決定メカニズム、企業価値評価、M&A における会計・税務・法務、企業財務等の実務知識を深める。実際のケースに従って、リアリティのある M&A の実務を習得し、また、実際に企業価値評価等の演習を行うことによって、理論が実践にいかに活用されるかを学習してもらう。

The course positions M & A as a corporate strategy and aims to deepen students' practical knowledge of M & A strategies, strategy planning, decision-making mechanisms, corporate valuation, accounting, taxation, legal affairs, corporate finance, and so on, and it achieves this by taking students through actual M & A processes from the perspectives of both the buyer and the seller. By looking at actual cases students will learn realistic M & A practices, and by conducting exercises in such areas as corporate valuation they'll see how the theory can be put into practice.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. ケーススタディⅠ 成長戦略における M&A(競争戦略と M&A 戦略)
3. 企業評価の応用演習
4. ケーススタディⅡ:企業評価の応用演習の解説
5. クロスボーダーM&A の概要
6. ケーススタディⅢ:クロスボーダーM&A の事例
7. ケーススタディⅣ:企業価値経営_企業価値経営と企業評価
8. レポート発表
9. 企業再生における M&A:破綻企業の M&A のポイント
10. ケーススタディⅤ:破綻企業の M&A の事例
11. 敵対的企業買収と企業防衛:企業防衛をめぐる諸問題
12. ケーススタディⅥ:敵対的企業買収の事例
13. 最終テスト
14. 予備日

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・.M&A に関する一般的知識
・ファイナンスの基礎(特にバリュエーションに関する分野)
・M&A に関する会計・税務・会社法・金証法等の基礎
・エクセルのスプレットシートの基本操作スキル

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(30%)/小テスト(30%)

テキスト(Textbooks)

スライド資料(配布)

参考文献（Readings）

1. ブリーリー、マイヤーズ、2014、『コーポレートファイナンス 第 10 版 上・下』、日経BP社
2. マッキンゼー・アンド・カンパニー、2016、『企業価値評価 第 6 版 上下』、ダイヤモンド社
3. デロイト トーマツ フィナンシャルアドバイザリー、2021、『ザ・M&A ディール 企業買収・売却プロセス実践対策集』、中央経済社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

当授業の前に、M&A1 を履修することが望ましい

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL790／ブランドデザイン (Brand Design)		
担当者名 (Instructor)	宮澤　正憲(MIYAZAWA MASANORI) 竹内　慶(TAKEUCHI KEI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　(株)博報堂		

授業の目標(Course Objectives)

現代のビジネスにおいて「ブランド」の重要性はますます高まっている。ブランドデザインは単なるデザイン作業ではなく、ビジネスマネジメント全領域にわたる重要な概念に変化してきている。
しかしながら、こうしたブランド及びブランドデザインの概念は誤解されやすく、適切に理解されていないことが多い。
本授業においては、ブランドの基本概念とそのつくり方に関連する不可欠な諸要素について体系的に学ぶとともに、演習を通じてブランドデザインのプロセスを体験する。

"Brand" is of growing importance in the modern business world. However, the concept of brand/brand design tends to be misunderstood and is not properly understood. In this course, students will learn systematically about the basic concept and various elements essential for brand and will experience the process of brand design through exercises.

授業の内容(Course Contents)

ビジネス全般に影響を与えるブランドの作り方の基本フロー(ブランドデザイン)を習得することを目的に、座学型の講義とワークショップ型の演習を組み合わせて実施する。

A combination of classroom lectures and workshop-type exercises will be conducted in order to learn the basic flow of how to make brands.

授業計画(Course Schedule)

1. ブランドとブランドデザインの基礎:ブランド概論(イントロダクション)
2. ブランドとブランドデザインの基礎:ブランド・トランスフォーメーション(BX)
3. ブランドデザインの重要要素①:パーパスのトランスフォーメーション
4. ブランドデザインの重要要素②:ビジネスプロセスのトランスフォーメーション
5. ブランドデザインの重要要素③:商品・サービスのトランスフォーメーション
6. ブランドデザインの重要要素④:コミュニケーションのトランスフォーメーション
7. ブランドデザインの重要要素⑤:コミュニティのトランスフォーメーション
8. ブランドデザインの重要要素⑥:組織・人材のトランスフォーメーション
9. ブランドデザインのための共創型ワーク:ポイントと方法論
10. 共創型ワーク体験①:ブランドデザイン実習
11. 共創型ワーク体験②:ブランドデザイン実習
12. 共創型ワーク体験③:プレゼンテーション作成
13. 共創型ワーク体験④:最終プレゼンテーション実習
14. プレゼンテーション講評と全体ラップアップ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・演習および最終プレゼンテーション実習のためのグループワークや準備を伴います
・具体的な内容については、学期中に別途指示します

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席および授業・演習への貢献(50%)/レポート・課題・リアクションペーパー(30%)/最終プレゼンテーション課題(20%)
本授業は参加演習型授業のため 4 回以上の欠席がある場合は単位修得不可となります

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

全7回（14コマ）のうち、原則として 1～4 回目はオンライン型授業で、一部（5～7 回目）は対面実施予定を想定しています。ただ、感染状況によってはウエイト等が変更になることも想定しておいてください。

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL791／DX経営 (Digital Transfomation-Management)		
担当者名 (Instructor)	野中　淳(NONAKA JUN)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　(株)NTTデータ経営研究所		

授業の目標(Course Objectives)

DX(デジタル・トランスフォーメーション)に関する基本的な理解。
実際のビジネスの場で起こっている事例を通じて、実践的な DX 経営を学ぶ。

This courses introduces the basic concept of DX (Digital Transformation) to participants taking this course. At the end of the course, participants are expected to understand the practical DX strategy through the actual business cases.

授業の内容(Course Contents)

デジタルトランスフォーメーションを如何に実現していくのか？
特に日本のレガシー企業で、どのように DX に取組むべきかを主題に、毎回、実際のビジネスの場で活躍する現役コンサルタントをゲストに迎え、現場視点での事例紹介・討議を通じて、様々な DX 経営の手法を探求する。

This course focuses on exploring the keys to achieve DX strategy successfully especially in Japanese legacy companies by sharing the actual business cases and discussing with the active consultant as a guest.

授業計画(Course Schedule)

1. DX 概論　～本講義の概要～
2. DX 事例研究(1)・・・新しい顧客体験
3. DX を支える技術
4. DX 事例研究(2)・・・データ活用で経営を変える
5. 顧客視点・デザインアプローチ【講義】
6. 顧客視点・デザインアプローチ【演習】
7. DX を実現する戦略・組織・人材
8. DX を実現する戦略・組織・人材
9. 新規事業創出のアプローチ【講義】
10. 新規事業創出のアプローチ【演習】
11. DX 事例研究(3)・・・デジタルガバメント／政策動向など
12. DX 事例研究(4)・・・デジタルガバメント／政策動向など
13. セルフワークの発表、討議
14. セルフワークの発表、討議(続き)＋ 全体総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

参加度(30%)/授業への貢献度(討議や発言等)(30%)/セルフワークと発表(40%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. ジェラルド・C・ケイン、2020、『DX 経営戦略』、NTT 出版 (ISBN 978-4-7571-2378-6 C0034)
2. マイケル・ウェイド、2019、『DX 実行戦略』、日本経済新聞出版 (ISBN:ISBN 978-4-532-32292-2)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

・PowerPoint を使用した講義形式で、映像資料や現物資料なども適宜活用します
・授業は講義形式を中心とし、理解を深めるために、必要に応じて実習(調査、発表)を行う予定です
・ゲストスピーカーのスケジュールにより、各回(テーマ)の順番は、多少変更する可能性があります
・オンラインでの実施を基本としつつ、演習や発表を行う回は対面講義を想定しています

※最大3回程度。状況を踏まえて適宜開催方法は検討します

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL792／DX戦略論1 (Digital Transfomation Strategy 1)		
担当者名 (Instructor)	笠原　英一(KASAHARA EIICHI) 平井　直樹(HIRAI NAOKI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　株式会社ユニゾン・ホールディングス		

授業の目標(Course Objectives)

本講義は、企業で、DX プロジェクトを担当している方はもちろんのこと、情報、企画、設計、開発、総務などを担当している方にとっても有益な視点を提供できるものと考えている。実際の講義は、ケース・スタディ(グループディスカッションおよびクラスディスカッション)とエクササイズを展開することにより、理論の理解を深めながら、DX を推進する力を確立する。

This course offers a useful viewpoint not only for DX specialists in charge of digitalization but also for other positions in charge of ICT, corporate planning, design, R&D, and general affairs. The actual lectures are expanded by developing case studies (group discussions and class discussions) and exercises by establishing the basics of DX professionals, while deepening understanding of the theory.

授業の内容(Course Contents)

本プログラムでは、まず、DX や ICT のプロジェクトが必ずしも成果を上げていないという事実にスポット当て、その理由を検討することから、DX の本質について検討する。そのうえで、デジタル技術によって、今後大きく変化することが予想される事業領域として、顧客、競争、情報、革新、価値の5つが挙げられる。デジタル時代に成功裡に適応し、成長していくために、こうした5つの領域において、独自の戦略を形成していくための新しいフレームワークが必要である。本講座では上記をカバーしていく。

Firstly, we will start this program by understanding the essence of DX, clarifying why some DX or ICT projects tend to end up without having achieved the expected performance results. We see how digital forces are changing five key domains of strategy: customers, competition, data, innovation, and value to customers. For companies who would like to be successful in the digital era, it is indispensable to have new frameworks to develop appropriate strategies in those five domains. This course aims to cover the five domains and to try to establish new theories and ways of thinking.

授業計画(Course Schedule)

1. 総論
   ・DX の本質－技術の活用ではなく、新たな思考の仕方、ビジネスモデルの構築そのもの
2. 総論
   ・デジタルによって変化している5つの事業領域－顧客、競争、情報、革新、価値
3. ICT のプロジェクトはなぜ失敗するのか
   ・戦略、価値観、風土
4. ICT のプロジェクトはなぜ失敗するのか
   ・組織、システム、人材、スキル
5. マーケティング戦略と DX
   ・現状分析、基本方向
6. マーケティング戦略と DX
   ・マーケティング総論、マーケティング各論
7. 顧客領域
   ・ネットワークとしての顧客、新たな消費者行動論、顧客ネットワーク戦略(接続、参加、適応、結合、協働)
8. 顧客領域
   ・顧客ネットワーク戦略(目的、標的セグメント、ネットワーク戦略の選択、コンセプト創出、影響の推定)
9. 競争領域
   ・プラットフォームによる競争環境(類型、KFS、競争原理)
10. 競争領域
    ・プラットフォーム概念図作成手法、バリューチェーンの構造分析
11. 情報領域
    ・データ類型(業務プロセスデータ、製品・サービスデータ、顧客データ)
12. 情報領域
    ・データ価値の創出(事業範囲の設定、データ活用目的の明確化、データ創出、データ監査、事業遂行、POC)
13. 革新領域
    ・仮説探索調査(課題設定、制約の確認、対象市場選定、観察調査、アイデア探索、プロトタイプ作成、フィールドテスト、決定)

14. 革新領域
・仮説検証調査（仮説設定、目的変数と説明変数の設定、対象者選定、質問項目の操作化、調査実施、データ解析と仮説検証）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）
次回の予習範囲や課題は、各授業の最後および blackboard 上でコメントするが、基本的には個人予習（事前）、グループ討議（授業時、必要に応じて事前に）、クラス討議（授業時）という展開で進める

成績評価方法・基準（Evaluation）
最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(30%)/授業で実施するプレゼンテーション(30%)

テキスト（Textbooks）
1. D. Rogers 著/笠原訳、2021、『DX 戦略立案書』、白桃書房
2. 笠原英一、2018、『戦略的産業財マーケティング』、東洋経済

参考文献（Readings）
1. 根来龍之、2019、『集中講義デジタル戦略 テクノロジーバトルのフレームワーク』、日経 BP
2. ジョージ・ウェスターマン, ディディエ・ボネ, アンドリュー・マカフィー/グロービス訳、（2018）、『デジタル・シフト戦略』、ダイヤモンド社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）
http://www.aprim.jp/

【双方向による授業割合】
100%

※20 年間、経営コンサルタントとして、国内外の上場企業に対して、戦略、マーケティング、組織に関する実践的課題に取り組んできた実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL793／DX戦略論2 (Digital Transfomation Strategy 2)		
担当者名 (Instructor)	笠原　英一(KASAHARA EIICHI) 平井　直樹(HIRAI NAOKI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　株式会社ユニゾン・ホールディングス		

授業の目標(Course Objectives)

本講義は、企業で、DX プロジェクトを担当している方はもちろんのこと、情報、企画、設計、開発、総務などを担当している方にとっても有益な視点を提供できるものと考えている。実際の講義は、ケース・スタディ(グループディスカッションおよびクラス・ディスカッション)とエクササイズを展開することにより、理論の理解を深めながら、DX を推進する力を確立する。

This course offers a useful viewpoint not only for DX specialists in charge of digitalization but also for other positions in charge of ICT, corporate planning, design, R&D, and general affairs. The actual lectures are expanded by developing case studies (group discussions and class discussions) and exercises by establishing the basics of DX professionals, while deepening understanding of the theory.

授業の内容(Course Contents)

DX の本質について検討する。そのうえで、デジタル技術によって、今後大きく変化することが予想される事業領域として、顧客、競争、情報、革新、価値の5つが挙げられる。デジタル時代に成功裡に適応し、成長していくために、こうした5つの領域において、独自の戦略を形成していくための新しいフレームワークが必要である。本講座では上記スキルをケース・スタディで応用することで DX に関する応用スキルを習得する。

We see how digital forces are changing five key domains of strategy: customers, competition, data, innovation, and value to customers. For companies who would like to be successful in the digital era, it is indispensable to have new frameworks to develop appropriate strategies in those five domains. This course aims to further develop the skills and knowledge by applying them in real cases studies.

授業計画(Course Schedule)

1. 1.　　価値領域
   ・顧客価値創出パターン(製品ベース、顧客ベース、用途ベース、業務ベース、価値ベース)
2. 2.　　価値領域
   ・価値提案ロードマップ(対象顧客と提供価値の整理、現在の提供価値、競合の提供価値、現在の価値の優位性、新たな価値要素の創出)
3. 3.　　破壊的ビジネスモデル・マップ
   ・価値提案(差別化要素:破壊性)、価値ネットワーク(構成要素:模倣可能性)
4. 破壊的ビジネスモデル・マップ
   ・ケース・スタディ(物流、エレクトロニクス、化学)
5. バリュー・チェーン
   ・顧客提案、業務活動、経営資源、プロセス
6. バリュー・チェーン
   ・ケース・スタディ(建設工具業界)
7. バリュー・ネットワーク
   ・価値提案を実現するための仕組み(VC、SC、VS、VN)
8. バリュー・ネットワーク
   ・ケース・スタディ(産業資材業界)
9. DX 推進プロジェクトとそれを支える人材
   ・コンピタンシー:人材開発
10. DX 推進プロジェクトとそれを支える人材
    ・専門家による講演とクラス・ディスカッション
11. DX 推進プロジェクトとそれを支える組織
    ・情報、KPI、人材、評価基準、報酬:　組織開発
12. DX 推進プロジェクトとそれを支える人材
    ・専門家による講演とクラス・ディスカッション
13. DX 戦略立案に関する総合演習
    ・5 つの事業領域、価値提案、価値ネットワーク
14. DX 戦略立案に関する総合演習

・ケース・スタディ（自動車業界）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

次回の予習範囲や課題は、各授業の最後および blackboard 上でコメントするが、基本的には個人予習（事前）、グループ討議（授業時、必要に応じて事前に）、クラス討議（授業時）という展開で進める

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(30%)/授業で行うプレゼンテーション(30%)

テキスト（Textbooks）

1. デビットロジャース著（笠原英一翻訳・解説）、2021、『DX 戦略立案書』、白桃書房
ケース・スタディを実施するため各人で事前に指定させていただくケースをケース・センターからオンラインで購入の上授業に参加してください。

参考文献（Readings）

1. 根来龍之、2019、『集中講義デジタル戦略 テクノロジーバトルのフレームワーク』、日経 BP
2. ジョージ・ウェスターマン, ディディエ・ボネ, アンドリュー・マカフィー/グロービス訳、（2018）、『デジタル・シフト戦略』、ダイヤモンド社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

http://www.aprim.jp/

【双方向による授業割合】
100%

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL794／デザイン経営 (Design Management)		
担当者名 (Instructor)	秋元　淳(AKIMOTO JUN)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS5400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　公益財団法人日本デザイン振興会		

授業の目標(Course Objectives)

新しい経営と事業遂行の思想・手法として、近年関心が高まっている「デザイン経営」は、ビジネスの概念としてなおも未完成・形成途上にあると言ってよい。本講座では「デザイン経営」を、まず経営の意思決定と遂行のプロセスにデザインの視点・着想・手法を反映させるとともに、それを司る人材の関与が一貫して認められるという面で定義付ける。その上で、自身のビジネス(事業)においてそれを体現している「実践者」の存在を通じて、「デザイン経営」に相当する実践例を具体的に示すことを主眼とする。「デザイン経営」に相当する事例は、近年の様々なグッドデザイン賞受賞対象を題材として、それぞれの事例当事者による解説を通じて、経営(事業)の目的性、意義、具体的なアプローチの内容を明らかにする。それにより、受講生が自ら創造的に経営や事業の構想と推進を担うべく、デザインをビジネスに活かしていくための素養を習得することに貢献する。

Design management," which has been attracting increasing attention in recent years as a new philosophy and method of management and business execution, is still in the process of completion and formation as a business concept. In this course, we will first define "design management" in terms of reflecting design perspectives, ideas, and methods in the decision-making and execution processes of management, as well as consistently recognizing the involvement of the people in charge of these processes. Then, through the existence of "practitioners" who embody the concept in their own businesses, we will focus on showing concrete examples of practices that correspond to "design management. The examples corresponding to "design management" will be based on various recent Good Design Award winners, and the purpose, significance, and specific approaches to management (business) will be clarified through explanations by the people involved in each case. By doing so, the course will contribute to the acquisition of the skills necessary to utilize design in business, so that students can creatively conceive and promote management and business themselves.

授業の内容(Course Contents)

はじめに今日のデザインをめぐる基礎情報と、「デザイン経営」の考え方の核を成すデザインの思想・方法論に関する解説を、外部デザイナーなどを招いて実施する。その後は、近年グッドデザイン賞を受賞した全国の企業・組織等の経営者や事業担当者をゲストに招き、デザインの意図、商品／サービス等の開発・事業の構想から実践に至るプロセス、当事者としての目的意識や課題意識・ビジョンを解説し、それに対する受講生とのディスカッションを授業展開の中心とする。ゲスト講義は対面出講とリモート出講で構成する。なお事業当事者の参加が難しい場合は担当講師による講義実施となる。

The course will begin with basic information on current design and a description of design concepts and methodologies that are central to "Design management" thinking. To the extent possible, managers or those in charge at companies or organizations across Japan who have received a Good Design Award in recent years will then speak as invited guests on their design aims, the process from product/service development to business planning to implementation, and their sense of purpose, awareness of issues, and vision, which along with the accompanying student discussions will form the main course content. Note that the instructor in charge will lead the class in case it is difficult for award winners to participate.

授業計画(Course Schedule)

1. 講義／なぜいま経営にデザインの視点・着想・手法が有効とされるのか
2. 講義／グッドデザイン賞にみる社会とデザインの変化との相関について
3. 講義／「デザイン経営」をめぐる状況について
4. 講義／「デザイン思考」(Design Thinking)について
5. デザインを経営に活かした事業ケーススタディ／『新しい社会インフラストラクチャーを構築する』
6. 同 事業ケーススタディ／『社会課題解決を目指す』
7. 同 事業ケーススタディ／『福祉領域』
8. 同 事業ケーススタディ／『地域社会活性』
9. 同 事業ケーススタディ／『地場産業・経済の振興』
10. 同 事業ケーススタディ／『成熟領域における事業革新』
11. 同 事業ケーススタディ／『大企業経営におけるデザイン導入』
12. 同 事業ケーススタディ／『グローバル・ビジネスにおけるデザイン導入』
13. まとめ／経営にデザインが関与・貢献するポイント
14. まとめ／顧客・関与者・社会との望ましい関係と未来を築くための経営・事業とは

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

授業でケーススタディ題材として取り上げる予定のグッドデザイン賞受賞事例について、事前に予告を行うため、グッドデザイン賞公式ウェブサイトで基本情報を閲覧した上で、さらに各社ウェブサイトなども適宜参照し、プロジェクトの全容に関する基礎的な認識を持った上で授業に参加することが望ましい。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(40%)/1 回目レポート(20%)/2 回目レポート(20%)/3 回目レポート(20%)

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

1. ティム・ブラウン、2019、『デザイン思考が世界を変える』、早川書房 (ISBN:978-4-15-209893-1)
2. ハーバード・ビジネス・レビュー編集部、2020、『デザイン思考の教科書』、ダイヤモンド社 (ISBN:978-4-478-11151-2)
3. 永井一史、2021、『これからのデザイン経営』、クロスメディア・パブリッシング (ISBN:978-4-295-40507-8)
4. 石川俊祐. 2019. HELLO, DESIGN. 幻冬社 (ISBN:978-4-344-03444-0)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

グッドデザイン賞公式ウェブサイト
http://www.g-mark.org
経済産業省「デザイン経営事例集」（2020）
https://www.meti.go.jp/press/2019/03/20200323002/20200323002.html
経済産業省・特許庁「デザイン経営宣言」（2018）
https://www.meti.go.jp/press/2018/05/20180523002/20180523002-1.pdf

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL795／DX人財戦略 (Digital Transfomation-Human Capital Strategy)		
担当者名 (Instructor)	柳　修一(YANAGI SYUICHI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　アデコ(株)		

授業の目標(Course Objectives)

本講座の目的:「VUCA の時代」と呼ばれる現代、デジタルの活用によりビジネスの継続的な変革を実現することができる DX 推進人財が重要性を増している。単にデジタルツールを用いるだけでなく、デジタル化によって組織に行動変容を起こすことができる人財を目指す。

本講座の目標:VUCA・DX 時代において、新たに必要となる人事領域の要素を学び、
具体的な実践イメージを持って様々なビジネスフィールドで羽ばたいていくことを目標とする。

In the present age called "VUCA era", DX human resources who can realize continuous business transformation by utilizing digital are becoming more important. This course aims to develop human resources who can change the behavior of organizations by digitization, not just use digital tools.

Goal of this course is to learn factors in the field of human resources that are newly required in the VUCA / DX era, and to have a concrete practical image that can be used effectively in practice.

授業の内容(Course Contents)

本講座では、DX 推進人財に求められる要素や DX 推進人財が躍動する組織構築をテーマとして、体系的に学ぶとともに、討論を通じた探求を行う。

DX 人財の 6 要素が Vision, Culture, HRM Strategy, HR Tech, Work Style, Experience である。その 6 つの要素に沿って講義は進められる。

In this course, we systematically learn about the elements required for DX human resources and organizations where DX promoting human resources can be active and dynamic through discussions.

The six elements of DX human resources are Vision, Culture, HRM Strategy, HR Tech, Work Style, and Experience.　Lectures proceed according to these six elements.

授業計画(Course Schedule)

1. 【基調講演】第 4 次産業革命と DX 人財戦略1
   第 4 次産業革命の下で求められる基礎的 IT リテラシーをテーマに今後社会人として必要となる DX とは？
2. 【基調講演】第 4 次産業革命と DX 人財戦略2
   第 4 次産業革命の下で求められる基礎的 IT リテラシーをテーマに今後社会人として必要となる DX とは？
3. 【Vision】企業のビジョンより人事戦略の上流についての講義
4. 【HRM Strategy】最新の HR マネジメントについてを講義
   最新の HRM にデジタル人材・DX 人材が含まれており、その内容を中心にデジタル・DX 採用・育成を実施する。
5. 【HRM Strategy 】ジョブ型
   エンジニアのキャリアマップの策定(ジョブ型、スキル策定の視点の講義)事例として自動車メーカーのエンジニアのスキルの可視化、あるべき姿から逆算して、現状の可視化をして施策を打つ事例の講義
6. 【Work Style】リスキリング
7. 【HR Tech】
   HR－tech・DX を含むマネジメント系のコンサルティング実績
8. 【HR Tech】
   HR－tech・DX を含むマネジメント系のコンサルティング実績
9. 【Vision】

Digital Innovation 本部における活動による事例。横浜市大のシンポジウムの内容（ゼロからデータサイエンス推進室を立ち上げた経験からの考察、DX の現状と課題と方策、アデコの DX への取り組み）

10. 【Culture】
    Digital Innovation 本部における活動による事例。横浜市大のシンポジウムの内容（ゼロからデータサイエンス推進室を立ち上げた経験からの考察、DX の現状と課題と方策、アデコの DX への取り組み）
11. 【Experience】
    エンジニアとしてのテクニカルの知識をつけるだけでは DX を推進することができず、テクニカルではない+ α のスキルが必要であることを訴求（VI、地方創生などの具体的な事例）
12. 【Experience】
    重工業のキャリアブリッジ事例（出向による教育・リスキリング）の施策、（人材個人のマインドセット、変化する教育、変化に対して受け入れられない風土文化の改革
13. 学生による最終発表
14. 学生による最終発表

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

講義後レポート
デジタルスキルのアセスメント
デジタルスキルの e-learning
最終発表への準備

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(40%)/授業後レポート(30%)/授業でのエンゲージメント(30%)

テキスト（Textbooks）

なし

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL796／ソーシャルイノベーションデザイン (Social Innovation Design)		
担当者名 (Instructor)	丸山　幸伸(MARUYAMA YUKINOBU)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　(株)日立製作所		

授業の目標(Course Objectives)

近年、“デザイン“は、お客様の嗜好にあう色や形を作り出す役割だけでなく、潜在的なニーズから新事業の機会を発想する、デザイン思考にも期待が集まっている。本講義では、製品やサービスを通して社会イノベーション事業に取り組む日立製作所のデザイン組織の変遷と事例を通して今後、受講生がビジネスの現場でデザインを事業に有効活用するため観点を理解する。

In recent years, “Design” has extended its role from creating shapes and colors suited for user preference to “Design Thinking”, a method gaining significant attention, which is to explore the business opportunities from the user’s unmet needs.
This course introduces the Hitachi Design –the social innovation design team’s business journey and cases in context to utilize the knowledge in your business practices.

授業の内容(Course Contents)

お客様にとって製品やサービスに期待する点が、機能的価値から経験価値にシフトする中で、それを実現するためには、製品の色/形/仕上げ、ユーザー調査、エクスペリエンスデザイン、ビジネスモデルの範囲に至るまでの包括的なデザインの知識と活動が必要になる。本講座では、その目的や方法論について担当講師とゲスト講師による座学と対面演習を通して学習していく。

The user’s expectation in the service and product is shifting from its functional value to customer experience. To meet the expectation, holistic knowledge of design practices such as CMF (Color/Material/Finish), user research, experience design, and business modeling is essential. This course provides the focuses and methodology through lectures and in-person trainings by assigned lectors and guest speakers.

授業計画(Course Schedule)

1. 企業におけるデザイン
2. だれもが暮らしやすい社会を実現するためのユニバーサルデザイン
3. イメージを伝えるためのプロダクトデザイン
4. 図解演習(グラフィックレコーディングなど)
5. ユーザーリサーチ:ユーザビリティ・人間中心設計
6. ユーザーリサーチ:調査の方法論
7. サービスデザイン
8. ビジョンデザイン
9. サービスデザイン演習①:経験の物語を傾聴し、カスタマージャーニーマップで表現する
10. サービスデザイン演習②:アイデアを発想し、うれしさを絵にしてみる
11. サービスデザイン演習③:ステークホルダーを洗い出す＊Businesses Origami
12. サービスデザイン演習④:サービスモデルを描く＊Businesses Origami
13. 発表
14. 講評

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・演習および最終プレゼンテーション実習のためのグループワークや準備を伴います
・具体的な内容については、学期中に別途指示します

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(20%)/出席および授業・演習への貢献(60%)/最終プレゼンテーション(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 久保田麻美、『伝わる図解！超入門』、宝島社

参考文献(Readings)

1. BJ・パインⅡ、J・H・ギルモア、『[新訳]経験経済』、ダイアモンド社

2. マーク・スティックドーン、アダム・ローレンス、マーカス・ホーメス、ヤコブ・シュナイダー、『This is Services Design Doing ーサービスデザインの実践』、BNN 新書
3. 紺野登、『ソーシャルイノベーションデザイン―日立デザインの挑戦』、日本経済新聞出版
4. 佐宗邦威、『デザイン思考の授業』、日経ビジネス人文庫

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

・前半はオンライン授業で、後半は対面実施の予定ではあるものの、状況によってはオンライン型授業に変更することも想定しておいてください。
・後半の演習は、グループワークでアイデアをまとめていきます。学びを深めるために互いに協力して前向きな議論や 作業分担に努めてください
・Web site①：https://linkingsociety.hitachi.co.jp/
・Web site②：https://www.hitachi.co.jp/rd/research/design/index.html

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL797／マーケティングサイエンス (Marketing Scieice)		
担当者名 (Instructor)	小木 しのぶ(OGI SHINOBU)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座 (株)NTTデータ数理システム		

授業の目標(Course Objectives)

昨今のビジネス領域においては、様々な数理科学の手法を用いて、より進化したマーケティングを行うことの重要度が増している。
本授業では、どのような手法がどのような場面で必要とされるのか、どのような効果が得られるのか、各手法における得手不得手は何かを、事例を交えて理解するとともに、その活用方法やステップについて学ぶ。
様々な手法の中身を理解することも必要だが、それよりも、ビジネスの現場において、課題に直面した際に解決するために必要な知識とスキルを身に付けることを主眼とする。

与えられた課題に対して、どのように解決していくかをレポートにまとめ、最終日にプレゼンテーションを行う。

In today's business, we have to use various mathematical science methods to promote more advanced marketing.
In this class, we learn strengths, weakness and step of mathematical methods in marketing.
The main purpose is to acquire the knowledge and skills necessary to solve the problem.

On the final day we give presentations on the assignment each other.

授業の内容(Course Contents)

マーケティング・サイエンスが、どのようなシチュエーションでどのように活用されるのか、数多くの事例を用いて紹介する。
また実際にマーケティング・サイエンスに利用されるツールに触れてみることで、具体的な実現イメージも把握する。

Through many examples, we learn how marketing science is used in business.
And using tools of data science, we acquire real image of marketing science.

授業計画(Course Schedule)

1. マーケティング・サイエンスとは
2. 知るためにデータを活用する
3. 何を売るか・誰に売るか・いくらで売るか の マーケティングサイエンス
4. どう売るか・どこで売るか の マーケティングサイエンス
5. グリーンマーケティング の マーケティングサイエンス
6. マーケティング業務効率化
7. 演習 データ分析
8. 演習 テキストマイニング
9. 課題を解決するためのステップ
10. 課題を解決するためのステップ
11. 使われている技術のまとめ1 データ分析技術
12. 使われている技術のまとめ2 シミュレーション系技術
13. システム化技術
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内で適宜指示する

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/参加度(30%)/貢献度(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 古川 一郎, 守口 剛, 阿部 誠、2011、『マーケティング・サイエンス入門』、有斐閣アルマ (ISBN:978-4641124388)

2. 生田目 崇、2017、『マーケティングのための統計分析』、オーム社 (ISBN:978-4274221016)
3. 朝野 熙彦 (著, 編集)、2016、『マーケティング・サイエンスのトップランナーたち』、東京図書 (ISBN:978-4489022344)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL798／ホテルディベロップメント1 (Hotel development 1)		
担当者名 (Instructor)	阿部　博秀(ABE HIROHIDE)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

＊ホテル開発におけるデベロッパー、オペレーター、デザイナーなどの役割、契約形態について学ぶ。
＊ホテルコンセプト開発から開業、アセットマネジメントまでの各プロセスについて学ぶ。
＊ホテル開発を学びながら、広く商業店舗開発に応用できるアプローチを身につける。

＊Understand the roles of hotel developers, owners, designers, and other players, and the partnership contracts.
＊Study the hotel development process from the initial concept development to pre-opening and asset management.
＊Through studying hotel developments, understand other commercial real estate developments.

授業の内容(Course Contents)

＊不動産投資、契約関連、デザイン、リノベーションなどついてテーマ別に講義をする。
＊各分野のエキスパートであるゲストスピーカーを招くことによりビジネスの実例を紹介する。
＊授業では双方向での議論をおこなう。

＊Explain about those subjects such as real estate investment, hotel management contracts, hotel design, and renovations.
＊Invite business professionals as guest lecturers in order to share their real business cases.
＊Promote discussions in the classes.

授業計画(Course Schedule)

1. ホテル開発とは
2. ホテル投資・不動産開発
3. ホテル契約形態(マネジメント契約など)
4. ホテル契約形態(マネジメント契約など)
5. ホテル不動産開発・コンセプトデベロップメント
6. ホテル不動産開発・コンセプトデベロップメント
7. ホテルマーケットリサーチ・フィージビリティースタディー
8. ホテルマーケットリサーチ・フィージビリティースタディー
9. ホテル設計、デザイン、コンストラクション
10. ホテル設計、デザイン、コンストラクション
11. ケーススタディー・ゲストレクチャー
12. ケーススタディー・ゲストレクチャー
13. ケーススタディー・ゲストレクチャー
14. ケーススタディー・ゲストレクチャー

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- 実査やインターネット検索による予習を必要に応じて別途指示する。
- 東京都内のホテル施設にて学外授業を行なう可能性がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/質問・発言など講義への貢献度(50%)/予習・復習状況(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 田尾桂子、2016、『グローバルオペレーターが変えるホテル経営: マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか』、白桃書房 (ISBN:978-4561266860)
2. 沢柳知彦、2021、『もてなしだけではもう食えない ーホテル経営学の本質と実践』、オータパブリケイションズ (ISBN:978-4903721910)

3. 村上実、池村友浩、2019、『ホテルの創り方～ホテル開発の成否は「相談力」で決まる』、クロスメディア・パブリッシング
(ISBN:978-4295403852)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

VL799 ホテルデベロップメント2の履修を推奨
https://www.amworks.jp/glossary.html

注意事項（Notice）

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL799／ホテルディベロップメント2 (Hotel development 2)		
担当者名 (Instructor)	阿部　博秀(ABE HIROHIDE)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

＊ホテル開発におけるデベロッパー、オペレーター、デザイナーなどの役割、契約形態について学ぶ。
＊ホテルコンセプト開発から開業、アセットマネジメントまでの各プロセスについて学ぶ。
＊ホテル開発を学びながら、広く商業店舗開発に応用できるアプローチを身につける。

＊Understand the roles of hotel developers, owners, designers, and other players, and the partnership contracts.
＊Study the hotel development process from the initial concept development to pre-opening and asset management.
＊Through studying hotel developments, understand other commercial real estate developments.

授業の内容(Course Contents)

＊不動産投資、契約関連、デザイン、リノベーションなどついてテーマ別に講義をする。
＊各分野のエキスパートであるゲストスピーカーを招くことによりビジネスの実例を紹介する。
＊授業では双方向での議論をおこなう。

＊Explain about those subjects such as real estate investment, hotel management contracts, hotel design, and renovations.
＊Invite business professionals as guest lecturers in order to share their real business cases.
＊Promote discussions in the classes.

授業計画(Course Schedule)

1. ホテル開発とは
2. グローバルオペレーターの開発・デザインサービス
3. グローバルオペレーターの開発・デザインサービス
4. オペレーションプラン・開業準備
5. オペレーションプラン・開業準備
6. アセットマネジメント
7. 施設タイプ別開発
8. 施設タイプ別開発
9. ホテルコンバージョン・リノベーション
10. ホテルコンバージョン・リノベーション
11. ケーススタディー・ゲストレクチャー
12. ケーススタディー・ゲストレクチャー
13. ケーススタディー・ゲストレクチャー
14. ケーススタディー・ゲストレクチャー

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- 実査やインターネット検索による予習を必要に応じて別途指示する。
- 東京都内のホテル施設にて学外授業を行なう可能性がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/質問・発言など講義への貢献度(50%)/予習・復習状況(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 田尾桂子、2016、『グローバルオペレーターが変えるホテル経営: マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか』、白桃書房 (ISBN:978-4561266860)
2. 沢柳知彦、2021、『もてなしだけではもう食えない ーホテル経営学の本質と実践』、オータパブリケイションズ (ISBN:978-4903721910)

3. 村上実、池村友浩、2019、『ホテルの創り方～ホテル開発の成否は「相談力」で決まる』、クロスメディア・パブリッシング
(ISBN:978-4295403852)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

VL798 ホテルデベロップメント1の履修を推奨
https://www.amworks.jp/glossary.html

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL800／街づくりデザイン (Urban Development Design)		
担当者名 (Instructor)	今中　啓太(IMANAKA KEITA)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　NTT アーバンソリューションズ総合研究所		

授業の目標(Course Objectives)

すべての人は、様々な営みを行いながら日々、「まち」で過ごしている。
しかし、日本では、それらの「街づくり」は専門家や行政、不動産開発事業者の限られた人が行うものとの認識が強く、そもそも興味や自らが参加意識を持つ人は少ない。
当講義では、デザインという視点を中心に「街づくり」に触れることで「街づくり」への興味、自らが関わることへの関心を高めてもらう。

Everyone has been living in a "town" while doing various activities.
However, in Japan, few people are interested or have a sense of participation in "Town planning" because there is a recognition that "Town planning" is carried out by a limited number of specialists, governments, and real estate developers..
Through this lecture, I would like you to raise your interest and own involvement in "Town planning" focusing on the perspective of design.

授業の内容(Course Contents)

「まち」はどのようにデザインされているのか？
様々な人が、様々な形で関わる「まち」には、様々な「街づくり」の取り組みがある。
「まち」を構成するハードとソフトの要素、開発の経緯、具体化への手法等について様々な考え方や事例紹介の解説を中心とした講義。
他受講生とのグループでの議論も踏まえ、設定テーマの「まち」のデザインレポートの作成とプレゼンテーションの実施。

What is a "Town design"?
There are various "Town planning" initiatives in which various people are involved in various ways.
This lecture focuses on the explanation of various ideas and case studies about hardware and software elements, development process, and implementation method for towns.
Students will be required to create a report based on group discussions with other students,and give a presentation on the "town" of the set theme.

授業計画(Course Schedule)

1. はじめに:授業アジェンダ・自己紹介・セルフワークについて　ほか
   第1講:街づくりデザインとは　－ 街・都市のデザイン要素
2. 第2講:街づくりのバリエーション　－ 街の変化の様々なきっかけ
3. 第3講:開発事例から考える街づくりデザイン(1)－ まちの読み解きと魅力の発見
4. 第4講:開発事例から考える街づくりデザイン(2)－ 街づくりに取り組む切り口
5. 第5講:街づくりと都市計画の実現化手法　－ 時代の変化と街づくり手法
6. 第 6 講:まちの安心安全のデザイン　－ 災害リスクに向けた街づくりデザインへのアプローチ
7. 第 7 講:街づくりと地価、まちのセンシング　－ まちの活性化と課題の見える化の指標と手法
8. 第8講:都市のデータとデザイン　－ まちのデータと現地現物感
9. 第 9 講:グループワーク　－ 議論、資料作成
10. 第 10 講:グループワーク　－ 発表
11. 第 11 講:街のトータルデザイン　－ 総合的デザイン会社が取り組む都市環境デザイン
12. 第 12 章:最近の都市の変化と ICT 活用　－ NTT グループの取り組み事例　ほか＋まとめ
13. 第 13 講:セルフワーク(1)　－ 発表、討議
14. 第 14 講:セルフワーク(2)　－ 発表、討議(続き)＋　全体総括

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各章についての予習は必須ではありません。第 9 回、10 回のグループワークおよび最終の個人ワークの発表に向けての復習、準備は各自必要とします。グループワークおよびセルフワークのテーマは第 1 回授業時に発表致します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/最終プレゼンテーション(30%)/参加及び授業・グループワークへの貢献(40%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	VL801／フードシステムデザイン (Food System Design)		
担当者名 (Instructor)	北濱　利弘(KITAHAMA TOSHIHIRO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS6700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	寄附講座　三菱食品株式会社		

授業の目標(Course Objectives)

1.産業界において、市場規模、就業者数が多く、国民生活の基盤となっている食品業界の構造、歴史、課題を包括的に理解し、将来像を展望する。
2. 生産者(農林水産業、食品メーカー)と、生活者接点(小売業、中食、外食産業)の中間に立ち、商流、物流、情報のハブとしての卸売業の立場から、あるべきフードシステムデザインを展望する。
3. わが国の消費財マーケティングの代表的存在である、食品業界のマーケティングの理解を通じ知見を深める。

1. Comprehensively understand the structure, history, and issues of the food industry, which has a large market size and a large number of employees. Look into the future of the industry which is the basis of people's lives based on the understanding.
2. Consider a food system from a wholesale business view as a hub for commercial distribution, logistics, and information that stands between producers (agriculture, forestry and fisheries industry, food manufacturers) and consumer contact points (retail industry, ready-to-eat meals, restaurant industry).
3. Deepen knowledge of marketing in the food industry which is a representative of Japanese consumer goods.

授業の内容(Course Contents)

1. 経済社会と、生活者の意識、行動の変化を分析し、変化の中でフードシステムデザインを考える。
2. 食品メーカーと小売業、中食、外食産業の中間に位置し、日本の食品業界の商流、物流を担う、卸売業の独自の視座、観点から食品業界を俯瞰し、フードシステムデザインを考える。
3. 食品産業の各分野で、現場で実業に携わる実務担当者から、各分野の現状と展望を聴き、これからのフードシステムデザインを考える。

1. Analyze changes in economic society, consumers' consciousness, and behavior, and consider a food system design in the middle of the changes.
2. A wholesale business is responsible for the commercial distribution and logistics and located between the food manufacturer, and the retail industry, ready-to-eat food and restaurant industry. Consider a food system design from the wholesale business view by having a bird's-eye view for a food industry.
3. Listen to the current situation and prospects of the food industry from practitioners, and consider the future food system design.

授業計画(Course Schedule)

1. 独自の発展を遂げてきた日本の食品業界について(食品産業史概観)
2. 食品業界の産業構造 (メーカー、卸、小売り、外食、中食)
3. 食品産業をめぐるメガトレンド (経済社会、生活者の変化を捉える)
4. 卸売業のリテールサポート(小売業の販促支援)
5. 新たな価値を創造するオリジナル商品開発(からだシフト 他)
6. 外食市場(外食産業) → コロナ禍で曲がり角を迎えた業界
7. コンビニエンスストア業界 → 成長期から変革期へ
8. 生活協同組合 → 宅配 2 兆円、店舗 9000 億円の巨大市場
9. 中食市場(弁当惣菜市場 → 最も成長著しい分野)
10. 卸売業の情報発信　三菱食品ダイヤモンドフェア Z 世代マーケティング
11. 日本の食生活を変える？　冷凍食品、チルド食品の世界
12. SCM とデジタルトランスフォーメーション
13. 卸売業の地域共生、サステナブル活動
14. まとめに代えて　食品産業の将来展望

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

1. 日常利用するスーパー、コンビニ、ドラッグストア、惣菜店、外食店舗など関心高く観察して下さい。 可能であれば店員さんなどと会話してみて下さい。
2. ご家族、友人などと「食品」や「食品の買い物」について会話してみて下さい。
3. 可能であれば、食の現状をコンパクトにまとめた参考文献「中食 2030 ニューノーマル時代の新たな『食』をめざして」をご一読

ください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/毎回のリアクションペーパー(60%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 一般社団法人日本惣菜協会、2021、『中食 2030　ニューノーマル時代の新たな「食」をめざして』、ダイヤモンド社 (ISBN:978-4-478-09074-9)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業であり、全授業回数の 50%以上がディスカッションなど双方向形式の授業によって運営されます。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG203／経営学特別研究3 (Advanced Topics in Business Administration 3)		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文研究指導

授業の内容(Course Contents)

指導教員は博士論文作成に向けた研究指導を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. コース運営については参加者と話し合いの上、決定する。
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

研究論文への取り組み(50%)/プレゼンテーションやディスカッションへの参加度(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG204／経営学特別研究4 (Advanced Topics in Business Administration 4)		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文研究指導

授業の内容(Course Contents)

指導教員は博士論文作成に向けた研究指導を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. コース運営については参加者と話し合いの上、決定する。
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

研究論文への取り組み(50%)/プレゼンテーションやディスカッションへの参加度(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG207／経営学特別研究7 (Advanced Topics in Business Administration 7)		
担当者名 (Instructor)	秋野　晶二(AKINO SHOJI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文研究指導

授業の内容(Course Contents)

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 問題意識と「問い」の検討
2. 問題意識と「問い」の検討
3. 問題意識と「問い」の検討
4. 先行研究の検討：理論的背景
5. 先行研究の検討：理論的背景
6. 先行研究の検討：理論的背景
7. 先行研究の検討：実証研究の検討
8. 先行研究の検討：実証研究の検討
9. 先行研究の検討：実証研究の検討
10. 先行研究の批判と Research Question の提起
11. 先行研究の批判と Research Question の提起
12. 先行研究の批判と Research Question の提起
13. 先行研究の批判と Research Question の提起
14. 先行研究の批判と Research Question の提起

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

和文、英文問わず関連する分野を広くとってその学術書、および学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むことで、当該研究分野の内容と水準だけではなく、学術論文の作法やスタイルを経験的に習得することができます。また学会報告など学会活動への参加、学会誌等査読付き論文の投稿などを通じて、博士論文を構成する諸章の作成を進めていく必要がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業での研究報告(100%)

テキスト(Textbooks)

授業の中で適宜指示します。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG208／経営学特別研究8 (Advanced Topics in Business Administration 8)		
担当者名 (Instructor)	秋野　晶二(AKINO SHOJI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文研究指導

授業の内容(Course Contents)

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 理論的枠組みと仮説の構築
2. 理論的枠組みと仮説の構築
3. 理論的枠組みと仮説の構築
4. 理論的枠組みと仮説の構築
5. 理論的枠組みと仮説の構築
6. 理論的枠組みと仮説の構築
7. 実証分析･調査の方法論的検討
8. 実証分析･調査の方法論的検討
9. 実証分析･調査の方法論的検討
10. 実証分析･調査の方法論的検討
11. 調査結果･分析結果の解釈と考察
12. 調査結果･分析結果の解釈と考察
13. 調査結果･分析結果の解釈と考察
14. 調査結果･分析結果の解釈と考察

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

和文、英文問わず関連する分野を広くとってその学術書、および学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むことで、当該研究分野の内容と水準だけではなく、学術論文の作法やスタイルを経験的に習得することができます。また学会報告など学会活動への参加、学会誌等査読付き論文の投稿などを通じて、博士論文を構成する諸章の作成を進めていく必要がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業での研究報告(100%)

テキスト(Textbooks)

授業の中で適宜指示します。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG211／経営学特別研究11 (Advanced Topics in Business Administration 11)		
担当者名 (Instructor)	斎藤　明(SAITO AKIRA)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. 各自の研究テーマを絞り込み博士論文を完成させる。
2. 高度専門職業人として産業界等の現実課題に対して貢献する研究を行う。

授業の内容(Course Contents)

主な研究指導に関するテーマは、マーケティングおよび消費者行動に関する領域である。
研究テーマの産業界等への貢献度や仮説と検証方法について研究指導を行う。
そのために多くの先行研究を読み、その問題点を確認して、独自の課題を設定する。
学会報告や学会誌への投稿のため、参加者相互での議論を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 各自の研究テーマの確認と研究の進め方の共有(1)
2. 各自の研究テーマの確認と研究の進め方の共有(2)
3. 研究方法に関する指導(1)
4. 研究方法に関する指導(2)
5. 各自の学会報告と論文投稿雑誌の選定(1)
6. 各自の学会報告と論文投稿雑誌の選定(2)
7. 学会報告や論文投稿等の要旨検討(1)
8. 学会報告や論文投稿等の要旨検討(2)
9. 仮説検証等データ収集と分析手法の報告(1)
10. 仮説検証データ収集と分析手法の報告(2)
11. 学会報告や論文投稿等準備(1)
12. 学会報告や論文投稿等準備(2)
13. 学会報告や論文投稿等準備(3)
14. 学会報告や論文投稿等準備(4)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

参加者は、まず各自の修士論文の課題等を見直し、各自の研究活動(査読論文執筆、学会発表など)を、積極的に行うことを推奨します。
加えて、関連する領域や分野の古典や論文を数多く読むことを推奨します。そのことにより、学術論文の形式等を学習することができます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

研究報告(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

※原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。但し、状況により 1 回程度対面実施を検討する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG212／経営学特別研究12 (Advanced Topics in Business Administration 12)		
担当者名 (Instructor)	斎藤　明(SAITO AKIRA)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. 各自の研究テーマを絞り込み博士論文を完成させる。
2. 高度専門職業人として産業界等の現実課題に対して貢献する研究を行う。

授業の内容(Course Contents)

主な研究指導に関するテーマは、マーケティングおよび消費者行動に関する領域である。
研究テーマの産業界等への貢献度や仮説と検証方法について研究指導を行う。
そのために多くの先行研究を読み、その問題点を確認して、独自の課題を設定する。
学会報告や学会誌への投稿のため、参加者相互での議論を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 各自の研究テーマの確認と研究の進め方の共有(1)
2. 各自の研究テーマの確認と研究の進め方の共有(2)
3. 各自の学会報告と論文投稿雑誌の選定(1)
4. 各自の学会報告と論文投稿雑誌の選定(2)
5. 学会報告や論文投稿等の要旨検討(1)
6. 学会報告や論文投稿等の要旨検討(2)
7. 仮説検証等データ収集と分析手法の報告(1)
8. 仮説検証データ収集と分析手法の報告(2)
9. 学会報告や論文投稿等準備(1)
10. 学会報告や論文投稿等準備(2)
11. 学会報告や論文投稿等準備(3)
12. 学会報告や論文投稿等準備(4)
13. 各自の博士論文完成に向けた研究計画の共有(1)
14. 各自の博士論文完成に向けた研究計画の共有(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

参加者は、まず各自の修士論文の課題等を見直し、各自の研究活動(査読論文執筆、学会発表など)を、積極的に行うことを推奨します。
加えて、関連する領域や分野の古典や論文を数多く読むことを推奨します。そのことにより、学術論文の形式等を学習することができます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

研究報告(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

※原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。但し、状況により 1 回程度対面実施を検討する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG213／経営学特別研究13 (Advanced Topics in Business Administration 13)		
担当者名 (Instructor)	大山　利男(OYAMA TOSHIO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文の作成に向けた課題設定と研究計画の立案，調査研究のためのスキルの向上をめざす。

授業の内容(Course Contents)

履修者には，各自の問題意識にそった研究成果を随時報告してもらう。それぞれ問題意識や関心分野がちがっても，論文作成には幅広い知見とアイディアが必要であり，活発に議論を行うものとする。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究のすすめ方について
2. テーマの選定，仮説の設定について
3. 先行研究の収集・分析(1)
4. 先行研究の収集・分析(2)
5. 実証研究のすすめ方(1)
6. 実証研究のすすめ方(2)
7. 実証研究のすすめ方(3)
8. 論文作法について(1)
9. 論文作法について(2)
10. 論文作法について(3)
11. 調査研究報告(1)
12. 調査研究報告(2)
13. 調査研究報告(3)
14. 調査研究報告(4)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業時の発表(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

授業時に随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG214／経営学特別研究14 (Advanced Topics in Business Administration 14)		
担当者名 (Instructor)	大山　利男(OYAMA TOSHIO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文の作成に向けた課題設定と研究計画の立案，調査研究のためのスキルの向上をめざす。

授業の内容(Course Contents)

履修者には，各自の問題意識にそった研究成果を随時報告してもらう。それぞれ問題意識や関心分野がちがっても，論文作成には幅広い知見とアイディアが必要であり，活発に議論を行うものとする。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究のすすめ方について
2. テーマの選定，仮説の設定について
3. 先行研究の収集・分析(1)
4. 先行研究の収集・分析(2)
5. 実証研究のすすめ方(1)
6. 実証研究のすすめ方(2)
7. 実証研究のすすめ方(3)
8. 論文作法について(1)
9. 論文作法について(2)
10. 論文作法について(3)
11. 調査研究報告(1)
12. 調査研究報告(2)
13. 調査研究報告(3)
14. 調査研究報告(4)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業時の発表(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

授業時に随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG217／経営学特別研究17 (Advanced Topics in Business Administration 17)		
担当者名 (Instructor)	下川　智広(SHIMOKAWA TOMOHIRO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

各自の研究テーマに従った論文を完成させ実務社会に貢献する論文の完成を目標とする。

授業の内容(Course Contents)

学会報告と学会誌への掲載を主要な指導内容とする。修士論文や学会誌などに掲載した論文を取りまとめて、予備論文を作成する。予備論文の審査に合格した者は、博士学位論文を完成させて審査に合格できるように準備する。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画に関する指導
2. 研究テーマと関連する研究領域の指導
3. 先行研究のレビュー(1)
4. 先行研究のレビュー(2)
5. 研究テーマの社会的意義とオリジナリティの確認(1)
6. 研究テーマの社会的意義とオリジナリティの確認(2)
7. 研究テーマの絞り込みに関する指導(1)　学会報告のテーマを決定する。
8. 研究テーマの絞り込みに関する指導(2)　学会報告のテーマを決定する。
9. 仮説と検証方法に関する指導(1)
10. 仮説と検証方法に関する指導(2)
11. 仮説と検証方法に関する指導(3)
12. 学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導(1)
13. 学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導(2)
14. 学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導(3)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

経済学、経営学、会計学、法学、統計学等の文献を読みこれを理解しておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

学会誌への投稿(40%)/学会での報告(30%)/クラスディスカッションへの貢献(30%)

テキスト(Textbooks)

テキストは特に指定しない。

参考文献(Readings)

参考文献は各自のテーマに合わせて適時指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG218／経営学特別研究１８ (Advanced Topics in Business Administration 18)		
担当者名 (Instructor)	下川　智広(SHIMOKAWA TOMOHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

各自の研究テーマに従った論文を完成させ実務社会に貢献する論文の完成を目標とする。

授業の内容(Course Contents)

学会報告と学会誌への掲載を主要な指導内容とする。修士論文や学会誌などに掲載した論文を取りまとめて、予備論文を作成する。予備論文の審査に合格した者は、博士学位論文を完成させて審査に合格できるように準備する。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画に関する指導
2. 研究テーマと関連する研究領域の指導
3. 先行研究のレビュー(1)
4. 先行研究のレビュー(2)
5. 研究テーマの社会的意義とオリジナリティの確認(1)
6. 研究テーマの社会的意義とオリジナリティの確認(2)
7. 研究テーマの絞り込みに関する指導(1)　学会報告のテーマを決定する。
8. 研究テーマの絞り込みに関する指導(2)　学会報告のテーマを決定する。
9. 仮説と検証方法に関する指導(1)
10. 仮説と検証方法に関する指導(2)
11. 仮説と検証方法に関する指導(3)
12. 学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導(1)
13. 学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導(2)
14. 学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導(3)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

経済学、経営学、会計学、法学、統計学等の文献を読みこれを理解しておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

学会誌への投稿(40%)/学会での報告(30%)/クラスディスカッションへの貢献(30%)

テキスト(Textbooks)

テキストは特に指定しない。

参考文献(Readings)

参考文献は各自のテーマに合わせて適時指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG219／経営学特別研究19 (Advanced Topics in Business Administration 19)		
担当者名 (Instructor)	山崎　京子(YAMAZAKI KYOKO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士学位論文を完成させること。

授業の内容(Course Contents)

修士論文と博士論文の違いが何かを認識し、適切な問いと手法と論理一貫性のもとに、専門領域に学術的かつ実践的に貢献できる研究を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画の発表
2. 研究進捗報告と指導
3. 研究進捗報告と指導
4. 研究進捗報告と指導
5. 研究進捗報告と指導
6. 研究進捗報告と指導
7. 研究進捗報告と指導
8. 研究進捗報告と指導
9. 研究進捗報告と指導
10. 研究進捗報告と指導
11. 研究進捗報告と指導
12. 研究進捗報告と指導
13. 研究進捗報告と指導
14. 前半部分のまとめと夏期休暇期間の目標設定

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文を進捗させること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

博士論文の進捗(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

全授業回のうち、概ね半数程度対面実施予定

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG220／経営学特別研究20 (Advanced Topics in Business Administration 20)		
担当者名 (Instructor)	山崎　京子(YAMAZAKI KYOKO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士学位論文を完成させること。

授業の内容(Course Contents)

修士論文と博士論文の違いが何かを認識し、適切な問いと手法と論理一貫性のもとに、専門領域に学術的かつ実践的に貢献できる研究を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 夏期休業期間中の進捗確認
2. 研究進捗報告と指導
3. 研究進捗報告と指導
4. 研究進捗報告と指導
5. 研究進捗報告と指導
6. 研究進捗報告と指導
7. 研究進捗報告と指導
8. 研究進捗報告と指導
9. 研究進捗報告と指導
10. 研究進捗報告と指導
11. 研究進捗報告と指導
12. 研究進捗報告と指導
13. 研究進捗報告と指導
14. 研究成果のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文を進捗させること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

博士論文の進捗(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

全授業回のうち、概ね半数程度対面実施予定

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG221／経営学特別研究21 (Advanced Topics in Business Administration 21)		
担当者名 (Instructor)	庄司　貴行(SHOJI TAKAYUKI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文を完成するために必要な知識およびスキルを習得する。

授業の内容(Course Contents)

本科目では，以下の領域に関心のある学生を指導する。

1)ホスピタリティ・ビジネスにおける今日的課題に関する研究
2)ホスピタリティ・ビジネスの国際経営比較研究
3)ホスピタリティ・ビジネス分野におけるニュー・ビジネスに関する研究
4)観光研究の新領域としてのラグジュアリービジネスに関する研究
5)企業組織に関する研究
6)組織と社会との関係に関する研究
7)組織と個人との関係に関する研究

授業計画(Course Schedule)

1. 博士論文とは何か
2. 博士論文に求められる研究水準
3. アカデミズムとジャーナリズム
4. 相関関係と因果関係
5. 「科学的」とはなにか
6. 帰納法と演繹法
7. 1 次データと 2 次データ
8. データの価値とサンプリング
9. 統計ソフトの選択
10. 図書館とデータベース
11. 先行研究の調査と選別の基準
12. 仮説の設定 1
13. 仮説の設定 2
14. 仮説の設定 3

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

とくに必要としない。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への取組み(100%)

テキスト(Textbooks)

特に指定しない。

参考文献(Readings)

授業において指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG222／経営学特別研究22 (Advanced Topics in Business Administration 22)		
担当者名 (Instructor)	庄司　貴行(SHOJI TAKAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文を完成するために必要な知識およびスキルを習得する。

授業の内容(Course Contents)

本科目では，以下の領域に関心のある学生を指導する。
1)ホスピタリティ・ビジネスにおける今日的課題に関する研究
2)ホスピタリティ・ビジネスの国際経営比較研究
3)ホスピタリティ・ビジネス分野におけるニュー・ビジネスに関する研究
4)観光研究の新領域としてのラグジュアリービジネスに関する研究
5)企業組織に関する研究
6)組織と社会との関係に関する研究
7)組織と個人との関係に関する研究

授業計画(Course Schedule)

1. 研究対象の検討
2. 研究テーマ・仮説の検討
3. 研究意義の検討
4. 研究方法の検討
5. 仮説とその検定
6. 目次の作成
7. 先行研究の整理
8. 先行研究と注釈
9. 論文の体裁と表記
10. 論文作成の指導 1
11. 論文作成の指導 2
12. 論文作成の指導 3
13. プレゼンテーションの指導 1
14. プレゼンテーションの指導 2

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

同一担当者の経営学特別研究 21 を履修していること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への取組み(100%)

テキスト(Textbooks)

特に指定しない。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG223／経営学特別研究23 (Advanced Topics in Business Administration 23)		
担当者名 (Instructor)	高岡　美佳(TAKAOKA MIKA)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

社会科学の研究者として独り立ちする能力を身につけることを目的としています。

授業の内容(Course Contents)

担当教員は流通論やリテイルマーケティング，消費財メーカーのブランディングなどを専門としています。これらの知識と経験にもとづき，研究指導を行います。学位(博士)取得を目指す受講生に対して，研究上のアドバイスの他，学会報告や学術論文の執筆に関するアドバイス等を行います。

授業計画(Course Schedule)

1. スケジュールや内容については受講生と相談の上，決定します。
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

特になし。

成績評価方法・基準(Evaluation)

総合評価(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他，各自の研究テーマや進捗に応じて参考文献やデータを紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG224／経営学特別研究24 (Advanced Topics in Business Administration 24)		
担当者名 (Instructor)	高岡　美佳(TAKAOKA MIKA)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

社会科学の研究者として独り立ちする能力を身につけることを目的としています。

授業の内容(Course Contents)

担当教員は流通論やリテイルマーケティング，消費財メーカーのブランディングなどを専門としています。これらの知識と経験にもとづき，研究指導を行います。学位(博士)取得を目指す受講生に対して，研究上のアドバイスの他，学会報告や学術論文の執筆に関するアドバイス等を行います。

授業計画(Course Schedule)

1. スケジュールや内容については受講生と相談の上，決定します。
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

特になし。

成績評価方法・基準(Evaluation)

総合評価(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他，各自の研究テーマや進捗に応じて参考文献やデータを紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG225／経営学特別研究25 (Advanced Topics in Business Administration 25)		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文研究指導

授業の内容(Course Contents)

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 問題意識と「問い」の検討
2. 問題意識と「問い」の検討
3. 問題意識と「問い」の検討
4. 先行研究の検討：理論的背景
5. 先行研究の検討：理論的背景
6. 先行研究の検討：理論的背景
7. 先行研究の検討：理論的背景
8. 先行研究の検討：実証研究の検討
9. 先行研究の検討：実証研究の検討
10. 先行研究の検討：実証研究の検討
11. 先行研究の検討：実証研究の検討
12. Research Question と分析方法の検討
13. Research Question と分析方法の検討
14. Research Question と分析方法の検討

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

和文、英文問わず学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業での研究報告(100%)

テキスト(Textbooks)

授業の中で適宜指示する。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG226／経営学特別研究26 (Advanced Topics in Business Administration 26)		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文研究指導

授業の内容(Course Contents)

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 仮説の構築
2. 仮説の構築
3. 仮説の構築
4. 仮説の構築
5. 実証分析の検討
6. 実証分析の検討
7. 実証分析の検討
8. 実証分析の検討
9. 実証分析の検討
10. 実証分析の検討
11. 分析結果の解釈と考察
12. 分析結果の解釈と考察
13. 分析結果の解釈と考察
14. 分析結果の解釈と考察

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

和文、英文問わず学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業での研究報告(100%)

テキスト(Textbooks)

授業の中で適宜指示します。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG227／経営学特別研究27 (Advanced Topics in Business Administration 27)		
担当者名 (Instructor)	青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士学位論文の作成に向けて必要となる知識や技法を修得する。

授業の内容(Course Contents)

はじめに，選択したテーマに関する先行研究や資料の収集方法等について指導と助言を行う。続いて先行研究のレビューについて報告を求め，先行研究の捉え方と課題について討議を行う。次に，論文仮説と検証の方向性について討論し，論文執筆に関する指導を行う。

以上の指導を繰り返し行ったのち，論文の構成を検討し，博士学位論文の完成へと導く。

授業計画(Course Schedule)

1. 文献や資料の収集と報告(1)
2. 先行研究のレビューに関する討議(1)
3. 仮説と検証の方向性の検討(1)
4. 論文の執筆指導(1)
5. 追加的な文献や資料の収集と報告(1)
6. 先行研究のレビューに関する討議(2)
7. 仮説と検証の方向性の検討(2)
8. 論文の執筆指導(2)
9. 追加的な文献や資料の収集と報告(2)
10. 先行研究のレビューに関する討議(3)
11. 仮説と検証の方向性の検討(3)
12. 論文の構成の検討
13. 論文の執筆指導(3)
14. 論文の執筆指導(4)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前準備の内容は，演習終了時もしくは電子メール等を用いて指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(35%)/演習への取り組み状況(35%)/学会報告や機関誌への投稿状況(30%)

テキスト(Textbooks)

テキストは指定しない。

参考文献(Readings)

必要に応じて，演習内で指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

自身の研究テーマおよびその周辺領域の学会に入会し，積極的に大会や部会に参加して，学外の研究者からも意見をもらうことを求める。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG228／経営学特別研究28 (Advanced Topics in Business Administration 28)		
担当者名 (Instructor)	青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士学位論文の作成に向けて必要となる知識や技法を修得する。

授業の内容(Course Contents)

経営学特別研究 27 に引き続き，博士学位論文の完成に向けた一連の指導を行う。

はじめに，選択したテーマに関する先行研究や資料の収集方法等について指導と助言を行う。続いて先行研究のレビューについて報告を求め，先行研究の捉え方と課題について討議を行う。次に，論文仮説と検証の方向性について討論し，論文執筆に関する指導を行う。

以上の指導を繰り返し行ったのち，論文の構成を検討し，博士学位論文の完成へと導く。

授業計画(Course Schedule)

1. 文献や資料の収集と報告(1)
2. 先行研究のレビューに関する討議(1)
3. 仮説と検証の方向性の検討(1)
4. 論文の執筆指導(1)
5. 追加的な文献や資料の収集と報告(1)
6. 先行研究のレビューに関する討議(2)
7. 仮説と検証の方向性の検討(2)
8. 論文の執筆指導(2)
9. 追加的な文献や資料の収集と報告(2)
10. 先行研究のレビューに関する討議(3)
11. 仮説と検証の方向性の検討(3)
12. 論文の構成の検討
13. 論文の執筆指導(3)
14. 論文の執筆指導(4)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前準備の内容は，演習終了時もしくは電子メール等を用いて指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(35%)/演習への取り組み状況(35%)/学会報告や機関誌への投稿状況(30%)

テキスト(Textbooks)

テキストは使用しない。

参考文献(Readings)

必要に応じて，演習内で指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

自身の研究テーマおよびその周辺領域の学会に入会し，積極的に大会や部会に参加して，学外の研究者からも意見をもらうことを求める。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG229／経営学研究法演習1 (Doctoral colloquium on Research Methods in Business Administration 1)		
担当者名 (Instructor)	庄司 貴行(SHOJI TAKAYUKI) 山中 伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

多様な研究領域に接し、自らの研究目的、研究対象、研究方法を異なる視点で評価する。また、在籍する博士課程後期課程の院生が相互に研究の進捗度を確認し、互いに切磋琢磨する環境をつくり、より完成度の高い博士論文を作成する。

授業の内容(Course Contents)

研究領域の異なる学生が、自らの研究内容を報告し、意見交換および学生同士によるアドバイスを行う。学会発表や査読論文を相互に発表し、問題点や改善点を提案する。

授業計画(Course Schedule)

1. 各自の研究テーマとこれまでの研究実績と実務経験について自己紹介し、2 回目以降の報告者を決定する。
2. 第1回研究報告 1 名ないし 2 名の報告(修士論文などの研究報告)
3. 第2回研究報告 1 名ないし 2 名の報告(修士論文などの研究報告)
4. 第3回研究報告 1 名ないし 2 名の報告(修士論文などの研究報告)
5. 第4回研究報告 博士学位申請論文のための研究計画の報告(予備論文の準備)
6. 第5回研究報告 博士学位申請論文のための研究計画の報告(予備論文の準備)
7. 第6回研究報告 博士学位申請論文のための研究計画の報告(予備論文の準備)
8. 第7回研究報告 学会報告のための準備報告
9. 第8回研究報告 学会報告のための準備報告
10. 第9回研究報告 学会報告のための準備報告
11. 第 10回研究報告 査読論文投稿のための報告
12. 第 11回研究報告 査読論文投稿のための報告
13. 第 12回研究報告 査読論文投稿のための報告
14. 第 13回研究報告 1 年間の研究成果の報告

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各指導教員の研究指導に従いながら、研究報告のための準備をする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

参加度(50%)/説得力ある意見(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG230／経営学研究法演習2 (Doctoral colloquium on Research Methods in Business Administration 2)		
担当者名 (Instructor)	庄司 貴行(SHOJI TAKAYUKI) 山中 伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

多様な研究領域に接し、自らの研究目的、研究対象、研究方法を異なる視点で評価する。また、在籍する博士課程後期課程の院生が相互に研究の進捗度を確認し、互いに切磋琢磨する環境をつくる。

授業の内容(Course Contents)

研究領域の異なる学生が、自らの研究内容を報告し、意見交換および学生同士によるアドバイスを行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 各自の研究テーマの進捗度を報告し、2 回目以降の報告者を決定する。
2. 第1回研究報告 1 名ないし 2 名の報告(論文・学会報告などの研究準備報告)
3. 第2回研究報告 1 名ないし 2 名の報告(論文・学会報告などの研究準備報告)
4. 第3回研究報告 1 名ないし 2 名の報告(論文・学会報告などの研究準備報告)
5. 第1回意見交換 研究テーマに関する院生間の相互評価(1)
6. 第2回意見交換 研究テーマに関する院生間の相互評価(2)
7. 第3回意見交換 研究テーマに関する院生間の相互評価(3)
8. 第1回研究方法に関する意見交換 仮説・検証方法に関する相互評価(1)
9. 第2回究方法に関する意見交換 仮説・検証方法に関する相互評価(1)
10. 第1回研究報告 博士学位申請論文のための研究報告(1)
11. 第2回研究報告 博士学位申請論文のための研究報告(2)
12. 第 1 回研究報告 学位論文(予備論文)の報告(1)
13. 第2回研究報告 学位論文(予備論文)の報告(2)
14. 1 年間の研究成果の報告と次年度の研究計画

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各指導教員の研究指導に従いながら、研究報告のための準備をする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

参加度(50%)/発表内容(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG231／経営学特別研究31 (Advanced Topics in Business Administration 31)		
担当者名 (Instructor)	野田　健太郎(NODA KENTARO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

各自の研究テーマを絞り込み博士論文を完成させること

授業の内容(Course Contents)

研究テーマの社会貢献や独創性、仮説と検証方法について指導する。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究テーマと先行研究に関する指導(1)
2. 研究テーマと先行研究に関する指導(2)
3. 研究テーマと先行研究に関する指導(3)
4. 研究テーマと先行研究に関する指導(4)
5. 研究テーマと先行研究に関する指導(5)
6. 研究テーマの絞り込みに関する指導(1)
7. 研究テーマの絞り込みに関する指導(2)
8. 研究テーマの絞り込みに関する指導(3)
9. 研究テーマの絞り込みに関する指導(4)
10. 仮説と検証方法に関する指導(1)
11. 仮説と検証方法に関する指導(2)
12. 仮説と検証方法に関する指導(3)
13. 仮説と検証方法に関する指導(4)
14. 仮説と検証方法に関する指導(5)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

経済学、経営学、会計学、統計学の基礎的な文献を読むこと。各回の指摘事項を踏まえ、文献の確認等を十分に行ったうえで次回の授業に備えること。授業にあたってはレジュメ等を準備し学習効果が高まるようにつとめること

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容(50%)/議論への参加(50%)

テキスト(Textbooks)

1. 野田　健太郎、2013、『事業継続計画による企業分析』、中央経済社　(ISBN:ISBN978-4-502-08320-4)
2. 野田健太郎、2017、『リスクマネジメントで会社を強くする』、中央経済社　(ISBN:ISBN978-4-502-21761-6)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本科目は、簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%である。
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。
原則オンラインで実施するが、対面の回は立教時間等で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG232／経営学特別研究32 (Advanced Topics in Business Administration 32)		
担当者名 (Instructor)	野田　健太郎(NODA KENTARO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

各自の研究テーマを絞り込み博士論文を完成させること

授業の内容(Course Contents)

研究テーマの社会貢献や独創性、仮説と検証方法について指導する。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究テーマと先行研究に関する指導(1)
2. 研究テーマと先行研究に関する指導(2)
3. 研究テーマと先行研究に関する指導(3)
4. 研究テーマの絞り込みに関する指導(1)
5. 研究テーマの絞り込みに関する指導(2)
6. 研究テーマの絞り込みに関する指導(3)
7. 仮説と検証方法に関する指導(1)
8. 仮説と検証方法に関する指導(2)
9. 仮説と検証方法に関する指導(3)
10. 学会報告と学会誌への投稿の指導(1)
11. 学会報告と学会誌への投稿の指導(2)
12. 学会報告と学会誌への投稿の指導(3)
13. 仮説検証の不足部分に関する指導(1)
14. 仮説検証の不足部分に関する指導(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

経済学、経営学、会計学、統計学の基礎的な文献を読むこと。各回の指摘事項を踏まえ、文献の確認等を十分に行ったうえで次回の授業に備えること。授業にあたってはレジュメ等を準備し学習効果が高まるようにつとめること

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容(50%)/議論への参加(50%)

テキスト(Textbooks)

1. 野田　健太郎、2013、『事業継続計画による企業分析』、中央経済社　(ISBN:ISBN978-4-502-08320-4)
2. 野田健太郎、2017、『リスクマネジメントで会社を強くする』、中央経済社　(ISBN:ISBN978-4-502-21761-6)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本科目は、簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%である。
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。
原則オンラインで実施するが、対面の回は立教時間等で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG235／経営学特別研究35 (Advanced Topics in Business Administration 35)		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文研究指導

授業の内容(Course Contents)

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 問題意識と「問い」の検討
2. 問題意識と「問い」の検討
3. 問題意識と「問い」の検討
4. 先行研究の検討：理論的背景
5. 先行研究の検討：理論的背景
6. 先行研究の検討：理論的背景
7. 先行研究の検討：実証研究の検討
8. 先行研究の検討：実証研究の検討
9. 先行研究の検討：実証研究の検討
10. 先行研究の批判と Research Question の提起
11. 先行研究の批判と Research Question の提起
12. 先行研究の批判と Research Question の提起
13. 先行研究の批判と Research Question の提起
14. 先行研究の批判と Research Question の提起

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

経営学、経済学、社会学など社会科学の古典を読むようにしてください。また、和文、英文問わず学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むことで、学術論文の作法やスタイルを経験的に習得することができます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業での研究報告(100%)

テキスト(Textbooks)

授業の中で適宜指示します。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG236／経営学特別研究36 (Advanced Topics in Business Administration 36)		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文研究指導

授業の内容(Course Contents)

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 理論的枠組みと仮説の構築
2. 理論的枠組みと仮説の構築
3. 理論的枠組みと仮説の構築
4. 理論的枠組みと仮説の構築
5. 理論的枠組みと仮説の構築
6. 理論的枠組みと仮説の構築
7. 実証分析･調査の方法論的検討
8. 実証分析･調査の方法論的検討
9. 実証分析･調査の方法論的検討
10. 実証分析･調査の方法論的検討
11. 調査結果･分析結果の解釈と考察
12. 調査結果･分析結果の解釈と考察
13. 調査結果･分析結果の解釈と考察
14. 調査結果･分析結果の解釈と考察

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

経営学、経済学、社会学など社会科学の古典を読むようにしてください。また、和文、英文問わず学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むことで、学術論文の作法やスタイルを経験的に習得することができます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業での研究報告(100%)

テキスト(Textbooks)

授業の中で適宜指示します。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG253／経営学特別研究3 (Advanced Topics in Business Administration 3)		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文研究指導

授業の内容(Course Contents)

指導教員は博士論文作成に向けた研究指導を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. コース運営については参加者と話し合いの上、決定する。
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

研究論文への取り組み(50%)/プレゼンテーションやディスカッションへの参加度(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG254／経営学特別研究4 (Advanced Topics in Business Administration 4)		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文研究指導

授業の内容(Course Contents)

指導教員は博士論文作成に向けた研究指導を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. コース運営については参加者と話し合いの上、決定する。
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

研究論文への取り組み(50%)/プレゼンテーションやディスカッションへの参加度(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG257／経営学特別研究7 (Advanced Topics in Business Administration 7)		
担当者名 (Instructor)	秋野　晶二(AKINO SHOJI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文研究指導

授業の内容(Course Contents)

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 問題意識と「問い」の検討
2. 問題意識と「問い」の検討
3. 問題意識と「問い」の検討
4. 先行研究の検討:理論的背景
5. 先行研究の検討:理論的背景
6. 先行研究の検討:理論的背景
7. 先行研究の検討:実証研究の検討
8. 先行研究の検討:実証研究の検討
9. 先行研究の検討:実証研究の検討
10. 先行研究の批判と Research Question の提起
11. 先行研究の批判と Research Question の提起
12. 先行研究の批判と Research Question の提起
13. 先行研究の批判と Research Question の提起
14. 先行研究の批判と Research Question の提起

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

和文、英文問わず関連する分野を広くとってその学術書、および学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むことで、当該研究分野の内容と水準だけではなく、学術論文の作法やスタイルを経験的に習得することができます。また学会報告など学会活動への参加、学会誌等査読付き論文の投稿などを通じて、博士論文を構成する諸章の作成を進めていく必要がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業での研究報告(100%)

テキスト(Textbooks)

授業の中で適宜指示します。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG258／経営学特別研究8 (Advanced Topics in Business Administration 8)		
担当者名 (Instructor)	秋野　晶二(AKINO SHOJI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文研究指導

授業の内容(Course Contents)

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 理論的枠組みと仮説の構築
2. 理論的枠組みと仮説の構築
3. 理論的枠組みと仮説の構築
4. 理論的枠組みと仮説の構築
5. 理論的枠組みと仮説の構築
6. 理論的枠組みと仮説の構築
7. 実証分析･調査の方法論的検討
8. 実証分析･調査の方法論的検討
9. 実証分析･調査の方法論的検討
10. 実証分析･調査の方法論的検討
11. 調査結果･分析結果の解釈と考察
12. 調査結果･分析結果の解釈と考察
13. 調査結果･分析結果の解釈と考察
14. 調査結果･分析結果の解釈と考察

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

和文、英文問わず関連する分野を広くとってその学術書、および学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むことで、当該研究分野の内容と水準だけではなく、学術論文の作法やスタイルを経験的に習得することができます。また学会報告など学会活動への参加、学会誌等査読付き論文の投稿などを通じて、博士論文を構成する諸章の作成を進めていく必要がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業での研究報告(100%)

テキスト(Textbooks)

授業の中で適宜指示します。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG261／経営学特別研究11 (Advanced Topics in Business Administration 11)		
担当者名 (Instructor)	斎藤　明(SAITO AKIRA)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. 各自の研究テーマを絞り込み博士論文を完成させる。
2. 高度専門職業人として産業界等の現実課題に対して貢献する研究を行う。

授業の内容(Course Contents)

主な研究指導に関するテーマは、マーケティングおよび消費者行動に関する領域である。
研究テーマの産業界等への貢献度や仮説と検証方法について研究指導を行う。
そのために多くの先行研究を読み、その問題点を確認して、独自の課題を設定する。
学会報告や学会誌への投稿のため、参加者相互での議論を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 各自の研究テーマの確認と研究の進め方の共有(1)
2. 各自の研究テーマの確認と研究の進め方の共有(2)
3. 研究方法に関する指導(1)
4. 研究方法に関する指導(2)
5. 各自の学会報告と論文投稿雑誌の選定(1)
6. 各自の学会報告と論文投稿雑誌の選定(2)
7. 学会報告や論文投稿等の要旨検討(1)
8. 学会報告や論文投稿等の要旨検討(2)
9. 仮説検証等データ収集と分析手法の報告(1)
10. 仮説検証データ収集と分析手法の報告(2)
11. 学会報告や論文投稿等準備(1)
12. 学会報告や論文投稿等準備(2)
13. 学会報告や論文投稿等準備(3)
14. 学会報告や論文投稿等準備(4)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

参加者は、まず各自の修士論文の課題等を見直し、各自の研究活動(査読論文執筆、学会発表など)を、積極的に行うことを推奨します。
加えて、関連する領域や分野の古典や論文を数多く読むことを推奨します。そのことにより、学術論文の形式等を学習することができます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

研究報告(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

※原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。但し、状況により 1 回程度対面実施を検討する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG262／経営学特別研究12 (Advanced Topics in Business Administration 12)		
担当者名 (Instructor)	斎藤　明(SAITO AKIRA)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. 各自の研究テーマを絞り込み博士論文を完成させる。
2. 高度専門職業人として産業界等の現実課題に対して貢献する研究を行う。

授業の内容(Course Contents)

主な研究指導に関するテーマは、マーケティングおよび消費者行動に関する領域である。
研究テーマの産業界等への貢献度や仮説と検証方法について研究指導を行う。
そのために多くの先行研究を読み、その問題点を確認して、独自の課題を設定する。
学会報告や学会誌への投稿のため、参加者相互での議論を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 各自の研究テーマの確認と研究の進め方の共有(1)
2. 各自の研究テーマの確認と研究の進め方の共有(2)
3. 各自の学会報告と論文投稿雑誌の選定(1)
4. 各自の学会報告と論文投稿雑誌の選定(2)
5. 学会報告や論文投稿等の要旨検討(1)
6. 学会報告や論文投稿等の要旨検討(2)
7. 仮説検証等データ収集と分析手法の報告(1)
8. 仮説検証データ収集と分析手法の報告(2)
9. 学会報告や論文投稿等準備(1)
10. 学会報告や論文投稿等準備(2)
11. 学会報告や論文投稿等準備(3)
12. 学会報告や論文投稿等準備(4)
13. 各自の博士論文完成に向けた研究計画の共有(1)
14. 各自の博士論文完成に向けた研究計画の共有(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

参加者は、まず各自の修士論文の課題等を見直し、各自の研究活動(査読論文執筆、学会発表など)を、積極的に行うことを推奨します。
加えて、関連する領域や分野の古典や論文を数多く読むことを推奨します。そのことにより、学術論文の形式等を学習することができます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

研究報告(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

※原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。但し、状況により 1 回程度対面実施を検討する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG263／経営学特別研究13 (Advanced Topics in Business Administration 13)		
担当者名 (Instructor)	大山　利男(OYAMA TOSHIO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文の作成に向けた課題設定と研究計画の立案，調査研究のためのスキルの向上をめざす。

授業の内容(Course Contents)

履修者には，各自の問題意識にそった研究成果を随時報告してもらう。それぞれ問題意識や関心分野がちがっても，論文作成には幅広い知見とアイディアが必要であり，活発に議論を行うものとする。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究のすすめ方について
2. テーマの選定，仮説の設定について
3. 先行研究の収集・分析(1)
4. 先行研究の収集・分析(2)
5. 実証研究のすすめ方(1)
6. 実証研究のすすめ方(2)
7. 実証研究のすすめ方(3)
8. 論文作法について(1)
9. 論文作法について(2)
10. 論文作法について(3)
11. 調査研究報告(1)
12. 調査研究報告(2)
13. 調査研究報告(3)
14. 調査研究報告(4)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業時の発表(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

授業時に随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG264／経営学特別研究14 (Advanced Topics in Business Administration 14)		
担当者名 (Instructor)	大山　利男(OYAMA TOSHIO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文の作成に向けた課題設定と研究計画の立案，調査研究のためのスキルの向上をめざす。

授業の内容(Course Contents)

履修者には，各自の問題意識にそった研究成果を随時報告してもらう。それぞれ問題意識や関心分野がちがっても，論文作成には幅広い知見とアイディアが必要であり，活発に議論を行うものとする。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究のすすめ方について
2. テーマの選定，仮説の設定について
3. 先行研究の収集・分析(1)
4. 先行研究の収集・分析(2)
5. 実証研究のすすめ方(1)
6. 実証研究のすすめ方(2)
7. 実証研究のすすめ方(3)
8. 論文作法について(1)
9. 論文作法について(2)
10. 論文作法について(3)
11. 調査研究報告(1)
12. 調査研究報告(2)
13. 調査研究報告(3)
14. 調査研究報告(4)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業時の発表(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

授業時に随時紹介する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG267／経営学特別研究17 (Advanced Topics in Business Administration 17)		
担当者名 (Instructor)	下川　智広(SHIMOKAWA TOMOHIRO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

各自の研究テーマに従った論文を完成させ実務社会に貢献する論文の完成を目標とする。

授業の内容(Course Contents)

学会報告と学会誌への掲載を主要な指導内容とする。修士論文や学会誌などに掲載した論文を取りまとめて、予備論文を作成する。予備論文の審査に合格した者は、博士学位論文を完成させて審査に合格できるように準備する。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画に関する指導
2. 研究テーマと関連する研究領域の指導
3. 先行研究のレビュー(1)
4. 先行研究のレビュー(2)
5. 研究テーマの社会的意義とオリジナリティの確認(1)
6. 研究テーマの社会的意義とオリジナリティの確認(2)
7. 研究テーマの絞り込みに関する指導(1)　学会報告のテーマを決定する。
8. 研究テーマの絞り込みに関する指導(2)　学会報告のテーマを決定する。
9. 仮説と検証方法に関する指導(1)
10. 仮説と検証方法に関する指導(2)
11. 仮説と検証方法に関する指導(3)
12. 学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導(1)
13. 学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導(2)
14. 学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導(3)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

経済学、経営学、会計学、法学、統計学等の文献を読みこれを理解しておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

学会誌への投稿(40%)/学会での報告(30%)/クラスディスカッションへの貢献(30%)

テキスト(Textbooks)

テキストは特に指定しない。

参考文献(Readings)

参考文献は各自のテーマに合わせて適時指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG268／経営学特別研究１８ (Advanced Topics in Business Administration 18)		
担当者名 (Instructor)	下川　智広(SHIMOKAWA TOMOHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

各自の研究テーマに従った論文を完成させ実務社会に貢献する論文の完成を目標とする。

授業の内容(Course Contents)

学会報告と学会誌への掲載を主要な指導内容とする。修士論文や学会誌などに掲載した論文を取りまとめて、予備論文を作成する。予備論文の審査に合格した者は、博士学位論文を完成させて審査に合格できるように準備する。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画に関する指導
2. 研究テーマと関連する研究領域の指導
3. 先行研究のレビュー(1)
4. 先行研究のレビュー(2)
5. 研究テーマの社会的意義とオリジナリティの確認(1)
6. 研究テーマの社会的意義とオリジナリティの確認(2)
7. 研究テーマの絞り込みに関する指導(1)　学会報告のテーマを決定する。
8. 研究テーマの絞り込みに関する指導(2)　学会報告のテーマを決定する。
9. 仮説と検証方法に関する指導(1)
10. 仮説と検証方法に関する指導(2)
11. 仮説と検証方法に関する指導(3)
12. 学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導(1)
13. 学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導(2)
14. 学会報告に基づいた学会誌への投稿の指導(3)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

経済学、経営学、会計学、法学、統計学等の文献を読みこれを理解しておく。

成績評価方法・基準(Evaluation)

学会誌への投稿(40%)/学会での報告(30%)/クラスディスカッションへの貢献(30%)

テキスト(Textbooks)

テキストは特に指定しない。

参考文献(Readings)

参考文献は各自のテーマに合わせて適時指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG269／経営学特別研究19 (Advanced Topics in Business Administration 19)		
担当者名 (Instructor)	山崎　京子(YAMAZAKI KYOKO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士学位論文を完成させること。

授業の内容(Course Contents)

修士論文と博士論文の違いが何かを認識し、適切な問いと手法と論理一貫性のもとに、専門領域に学術的かつ実践的に貢献できる研究を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究計画の発表
2. 研究進捗報告と指導
3. 研究進捗報告と指導
4. 研究進捗報告と指導
5. 研究進捗報告と指導
6. 研究進捗報告と指導
7. 研究進捗報告と指導
8. 研究進捗報告と指導
9. 研究進捗報告と指導
10. 研究進捗報告と指導
11. 研究進捗報告と指導
12. 研究進捗報告と指導
13. 研究進捗報告と指導
14. 前半部分のまとめと夏期休暇期間の目標設定

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文を進捗させること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

博士論文の進捗(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

全授業回のうち、概ね半数程度対面実施予定

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG270／経営学特別研究20 (Advanced Topics in Business Administration 20)		
担当者名 (Instructor)	山崎　京子(YAMAZAKI KYOKO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士学位論文を完成させること。

授業の内容(Course Contents)

修士論文と博士論文の違いが何かを認識し、適切な問いと手法と論理一貫性のもとに、専門領域に学術的かつ実践的に貢献できる研究を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 夏期休業期間中の進捗確認
2. 研究進捗報告と指導
3. 研究進捗報告と指導
4. 研究進捗報告と指導
5. 研究進捗報告と指導
6. 研究進捗報告と指導
7. 研究進捗報告と指導
8. 研究進捗報告と指導
9. 研究進捗報告と指導
10. 研究進捗報告と指導
11. 研究進捗報告と指導
12. 研究進捗報告と指導
13. 研究進捗報告と指導
14. 研究成果のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

博士論文を進捗させること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

博士論文の進捗(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

全授業回のうち、概ね半数程度対面実施予定

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG271／経営学特別研究21 (Advanced Topics in Business Administration 21)		
担当者名 (Instructor)	庄司　貴行(SHOJI TAKAYUKI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文を完成するために必要な知識およびスキルを習得する。

授業の内容(Course Contents)

本科目では，以下の領域に関心のある学生を指導する。

1)ホスピタリティ・ビジネスにおける今日的課題に関する研究
2)ホスピタリティ・ビジネスの国際経営比較研究
3)ホスピタリティ・ビジネス分野におけるニュー・ビジネスに関する研究
4)観光研究の新領域としてのラグジュアリービジネスに関する研究
5)企業組織に関する研究
6)組織と社会との関係に関する研究
7)組織と個人との関係に関する研究

授業計画(Course Schedule)

1. 博士論文とは何か
2. 博士論文に求められる研究水準
3. アカデミズムとジャーナリズム
4. 相関関係と因果関係
5. 「科学的」とはなにか
6. 帰納法と演繹法
7. 1 次データと 2 次データ
8. データの価値とサンプリング
9. 統計ソフトの選択
10. 図書館とデータベース
11. 先行研究の調査と選別の基準
12. 仮説の設定 1
13. 仮説の設定 2
14. 仮説の設定 3

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

とくに必要としない。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への取組み(100%)

テキスト(Textbooks)

特に指定しない。

参考文献(Readings)

授業において指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG272／経営学特別研究22 (Advanced Topics in Business Administration 22)		
担当者名 (Instructor)	庄司　貴行(SHOJI TAKAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文を完成するために必要な知識およびスキルを習得する。

授業の内容(Course Contents)

本科目では，以下の領域に関心のある学生を指導する。
1)ホスピタリティ・ビジネスにおける今日的課題に関する研究
2)ホスピタリティ・ビジネスの国際経営比較研究
3)ホスピタリティ・ビジネス分野におけるニュー・ビジネスに関する研究
4)観光研究の新領域としてのラグジュアリービジネスに関する研究
5)企業組織に関する研究
6)組織と社会との関係に関する研究
7)組織と個人との関係に関する研究

授業計画(Course Schedule)

1. 研究対象の検討
2. 研究テーマ・仮説の検討
3. 研究意義の検討
4. 研究方法の検討
5. 仮説とその検定
6. 目次の作成
7. 先行研究の整理
8. 先行研究と注釈
9. 論文の体裁と表記
10. 論文作成の指導 1
11. 論文作成の指導 2
12. 論文作成の指導 3
13. プレゼンテーションの指導 1
14. プレゼンテーションの指導 2

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

同一担当者の経営学特別研究 21 を履修していること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への取組み(100%)

テキスト(Textbooks)

特に指定しない。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG273／経営学特別研究23 (Advanced Topics in Business Administration 23)		
担当者名 (Instructor)	高岡　美佳(TAKAOKA MIKA)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

社会科学の研究者として独り立ちする能力を身につけることを目的としています。

授業の内容(Course Contents)

担当教員は流通論やリテイルマーケティング，消費財メーカーのブランディングなどを専門としています。これらの知識と経験にもとづき，研究指導を行います。学位(博士)取得を目指す受講生に対して，研究上のアドバイスの他，学会報告や学術論文の執筆に関するアドバイス等を行います。

授業計画(Course Schedule)

1. スケジュールや内容については受講生と相談の上，決定します。
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

特になし。

成績評価方法・基準(Evaluation)

総合評価(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他，各自の研究テーマや進捗に応じて参考文献やデータを紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG274／経営学特別研究24 (Advanced Topics in Business Administration 24)		
担当者名 (Instructor)	高岡　美佳(TAKAOKA MIKA)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

社会科学の研究者として独り立ちする能力を身につけることを目的としています。

授業の内容(Course Contents)

担当教員は流通論やリテイルマーケティング，消費財メーカーのブランディングなどを専門としています。これらの知識と経験にもとづき，研究指導を行います。学位(博士)取得を目指す受講生に対して，研究上のアドバイスの他，学会報告や学術論文の執筆に関するアドバイス等を行います。

授業計画(Course Schedule)

1. スケジュールや内容については受講生と相談の上，決定します。
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 同上
14. 同上

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

特になし。

成績評価方法・基準(Evaluation)

総合評価(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他，各自の研究テーマや進捗に応じて参考文献やデータを紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG275／経営学特別研究25 (Advanced Topics in Business Administration 25)		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文研究指導

授業の内容(Course Contents)

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 問題意識と「問い」の検討
2. 問題意識と「問い」の検討
3. 問題意識と「問い」の検討
4. 先行研究の検討：理論的背景
5. 先行研究の検討：理論的背景
6. 先行研究の検討：理論的背景
7. 先行研究の検討：理論的背景
8. 先行研究の検討：実証研究の検討
9. 先行研究の検討：実証研究の検討
10. 先行研究の検討：実証研究の検討
11. 先行研究の検討：実証研究の検討
12. Research Question と分析方法の検討
13. Research Question と分析方法の検討
14. Research Question と分析方法の検討

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

和文、英文問わず学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業での研究報告(100%)

テキスト(Textbooks)

授業の中で適宜指示する。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG276／経営学特別研究26 (Advanced Topics in Business Administration 26)		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文研究指導

授業の内容(Course Contents)

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 仮説の構築
2. 仮説の構築
3. 仮説の構築
4. 仮説の構築
5. 実証分析の検討
6. 実証分析の検討
7. 実証分析の検討
8. 実証分析の検討
9. 実証分析の検討
10. 実証分析の検討
11. 分析結果の解釈と考察
12. 分析結果の解釈と考察
13. 分析結果の解釈と考察
14. 分析結果の解釈と考察

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

和文、英文問わず学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業での研究報告(100%)

テキスト(Textbooks)

授業の中で適宜指示します。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG277／経営学特別研究27 (Advanced Topics in Business Administration 27)		
担当者名 (Instructor)	青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士学位論文の作成に向けて必要となる知識や技法を修得する。

授業の内容(Course Contents)

はじめに，選択したテーマに関する先行研究や資料の収集方法等について指導と助言を行う。続いて先行研究のレビューについて報告を求め，先行研究の捉え方と課題について討議を行う。次に，論文仮説と検証の方向性について討論し，論文執筆に関する指導を行う。

以上の指導を繰り返し行ったのち，論文の構成を検討し，博士学位論文の完成へと導く。

授業計画(Course Schedule)

1. 文献や資料の収集と報告(1)
2. 先行研究のレビューに関する討議(1)
3. 仮説と検証の方向性の検討(1)
4. 論文の執筆指導(1)
5. 追加的な文献や資料の収集と報告(1)
6. 先行研究のレビューに関する討議(2)
7. 仮説と検証の方向性の検討(2)
8. 論文の執筆指導(2)
9. 追加的な文献や資料の収集と報告(2)
10. 先行研究のレビューに関する討議(3)
11. 仮説と検証の方向性の検討(3)
12. 論文の構成の検討
13. 論文の執筆指導(3)
14. 論文の執筆指導(4)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前準備の内容は，演習終了時もしくは電子メール等を用いて指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(35%)/演習への取り組み状況(35%)/学会報告や機関誌への投稿状況(30%)

テキスト(Textbooks)

テキストは指定しない。

参考文献(Readings)

必要に応じて，演習内で指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

自身の研究テーマおよびその周辺領域の学会に入会し，積極的に大会や部会に参加して，学外の研究者からも意見をもらうことを求める。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG278／経営学特別研究28 (Advanced Topics in Business Administration 28)		
担当者名 (Instructor)	青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士学位論文の作成に向けて必要となる知識や技法を修得する。

授業の内容(Course Contents)

経営学特別研究 27 に引き続き，博士学位論文の完成に向けた一連の指導を行う。

はじめに，選択したテーマに関する先行研究や資料の収集方法等について指導と助言を行う。続いて先行研究のレビューについて報告を求め，先行研究の捉え方と課題について討議を行う。次に，論文仮説と検証の方向性について討論し，論文執筆に関する指導を行う。

以上の指導を繰り返し行ったのち，論文の構成を検討し，博士学位論文の完成へと導く。

授業計画(Course Schedule)

1. 文献や資料の収集と報告(1)
2. 先行研究のレビューに関する討議(1)
3. 仮説と検証の方向性の検討(1)
4. 論文の執筆指導(1)
5. 追加的な文献や資料の収集と報告(1)
6. 先行研究のレビューに関する討議(2)
7. 仮説と検証の方向性の検討(2)
8. 論文の執筆指導(2)
9. 追加的な文献や資料の収集と報告(2)
10. 先行研究のレビューに関する討議(3)
11. 仮説と検証の方向性の検討(3)
12. 論文の構成の検討
13. 論文の執筆指導(3)
14. 論文の執筆指導(4)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前準備の内容は，演習終了時もしくは電子メール等を用いて指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(35%)/演習への取り組み状況(35%)/学会報告や機関誌への投稿状況(30%)

テキスト(Textbooks)

テキストは使用しない。

参考文献(Readings)

必要に応じて，演習内で指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

自身の研究テーマおよびその周辺領域の学会に入会し，積極的に大会や部会に参加して，学外の研究者からも意見をもらうことを求める。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG279／経営学研究法演習1 (Doctoral colloquium on Research Methods in Business Administration 1)		
担当者名 (Instructor)	庄司 貴行(SHOJI TAKAYUKI) 山中 伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

多様な研究領域に接し、自らの研究目的、研究対象、研究方法を異なる視点で評価する。また、在籍する博士課程後期課程の院生が相互に研究の進捗度を確認し、互いに切磋琢磨する環境をつくり、より完成度の高い博士論文を作成する。

授業の内容(Course Contents)

研究領域の異なる学生が、自らの研究内容を報告し、意見交換および学生同士によるアドバイスを行う。学会発表や査読論文を相互に発表し、問題点や改善点を提案する。

授業計画(Course Schedule)

1. 各自の研究テーマとこれまでの研究実績と実務経験について自己紹介し、2 回目以降の報告者を決定する。
2. 第1回研究報告 1 名ないし 2 名の報告(修士論文などの研究報告)
3. 第2回研究報告 1 名ないし 2 名の報告(修士論文などの研究報告)
4. 第3回研究報告 1 名ないし 2 名の報告(修士論文などの研究報告)
5. 第4回研究報告 博士学位申請論文のための研究計画の報告(予備論文の準備)
6. 第5回研究報告 博士学位申請論文のための研究計画の報告(予備論文の準備)
7. 第6回研究報告 博士学位申請論文のための研究計画の報告(予備論文の準備)
8. 第7回研究報告 学会報告のための準備報告
9. 第8回研究報告 学会報告のための準備報告
10. 第9回研究報告 学会報告のための準備報告
11. 第 10回研究報告 査読論文投稿のための報告
12. 第 11回研究報告 査読論文投稿のための報告
13. 第 12回研究報告 査読論文投稿のための報告
14. 第 13回研究報告 1 年間の研究成果の報告

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各指導教員の研究指導に従いながら、研究報告のための準備をする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

参加度(50%)/説得力ある意見(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG280／経営学研究法演習2 (Doctoral colloquium on Research Methods in Business Administration 2)		
担当者名 (Instructor)	庄司 貴行(SHOJI TAKAYUKI) 山中 伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

多様な研究領域に接し、自らの研究目的、研究対象、研究方法を異なる視点で評価する。また、在籍する博士課程後期課程の院生が相互に研究の進捗度を確認し、互いに切磋琢磨する環境をつくる。

授業の内容(Course Contents)

研究領域の異なる学生が、自らの研究内容を報告し、意見交換および学生同士によるアドバイスを行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 各自の研究テーマの進捗度を報告し、2 回目以降の報告者を決定する。
2. 第1回研究報告 1 名ないし 2 名の報告(論文・学会報告などの研究準備報告)
3. 第2回研究報告 1 名ないし 2 名の報告(論文・学会報告などの研究準備報告)
4. 第3回研究報告 1 名ないし 2 名の報告(論文・学会報告などの研究準備報告)
5. 第1回意見交換 研究テーマに関する院生間の相互評価(1)
6. 第2回意見交換 研究テーマに関する院生間の相互評価(2)
7. 第3回意見交換 研究テーマに関する院生間の相互評価(3)
8. 第1回研究方法に関する意見交換 仮説・検証方法に関する相互評価(1)
9. 第2回究方法に関する意見交換 仮説・検証方法に関する相互評価(1)
10. 第1回研究報告 博士学位申請論文のための研究報告(1)
11. 第2回研究報告 博士学位申請論文のための研究報告(2)
12. 第 1 回研究報告 学位論文(予備論文)の報告(1)
13. 第2回研究報告 学位論文(予備論文)の報告(2)
14. 1 年間の研究成果の報告と次年度の研究計画

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各指導教員の研究指導に従いながら、研究報告のための準備をする。

成績評価方法・基準(Evaluation)

参加度(50%)/発表内容(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG281／経営学特別研究31 (Advanced Topics in Business Administration 31)		
担当者名 (Instructor)	野田　健太郎(NODA KENTARO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

各自の研究テーマを絞り込み博士論文を完成させること

授業の内容(Course Contents)

研究テーマの社会貢献や独創性、仮説と検証方法について指導する。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究テーマと先行研究に関する指導(1)
2. 研究テーマと先行研究に関する指導(2)
3. 研究テーマと先行研究に関する指導(3)
4. 研究テーマと先行研究に関する指導(4)
5. 研究テーマと先行研究に関する指導(5)
6. 研究テーマの絞り込みに関する指導(1)
7. 研究テーマの絞り込みに関する指導(2)
8. 研究テーマの絞り込みに関する指導(3)
9. 研究テーマの絞り込みに関する指導(4)
10. 仮説と検証方法に関する指導(1)
11. 仮説と検証方法に関する指導(2)
12. 仮説と検証方法に関する指導(3)
13. 仮説と検証方法に関する指導(4)
14. 仮説と検証方法に関する指導(5)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

経済学、経営学、会計学、統計学の基礎的な文献を読むこと。各回の指摘事項を踏まえ、文献の確認等を十分に行ったうえで次回の授業に備えること。授業にあたってはレジュメ等を準備し学習効果が高まるようにつとめること

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容(50%)/議論への参加(50%)

テキスト(Textbooks)

1. 野田　健太郎、2013、『事業継続計画による企業分析』、中央経済社　(ISBN:ISBN978-4-502-08320-4)
2. 野田健太郎、2017、『リスクマネジメントで会社を強くする』、中央経済社　(ISBN:ISBN978-4-502-21761-6)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本科目は、簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%である。
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。
原則オンラインで実施するが、対面の回は立教時間等で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG282／経営学特別研究32 (Advanced Topics in Business Administration 32)		
担当者名 (Instructor)	野田　健太郎(NODA KENTARO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

各自の研究テーマを絞り込み博士論文を完成させること

授業の内容(Course Contents)

研究テーマの社会貢献や独創性、仮説と検証方法について指導する。

授業計画(Course Schedule)

1. 研究テーマと先行研究に関する指導(1)
2. 研究テーマと先行研究に関する指導(2)
3. 研究テーマと先行研究に関する指導(3)
4. 研究テーマの絞り込みに関する指導(1)
5. 研究テーマの絞り込みに関する指導(2)
6. 研究テーマの絞り込みに関する指導(3)
7. 仮説と検証方法に関する指導(1)
8. 仮説と検証方法に関する指導(2)
9. 仮説と検証方法に関する指導(3)
10. 学会報告と学会誌への投稿の指導(1)
11. 学会報告と学会誌への投稿の指導(2)
12. 学会報告と学会誌への投稿の指導(3)
13. 仮説検証の不足部分に関する指導(1)
14. 仮説検証の不足部分に関する指導(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

経済学、経営学、会計学、統計学の基礎的な文献を読むこと。各回の指摘事項を踏まえ、文献の確認等を十分に行ったうえで次回の授業に備えること。授業にあたってはレジュメ等を準備し学習効果が高まるようにつとめること

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容(50%)/議論への参加(50%)

テキスト(Textbooks)

1. 野田　健太郎、2013、『事業継続計画による企業分析』、中央経済社　(ISBN:ISBN978-4-502-08320-4)
2. 野田健太郎、2017、『リスクマネジメントで会社を強くする』、中央経済社　(ISBN:ISBN978-4-502-21761-6)

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本科目は、簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%である。
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。
原則オンラインで実施するが、対面の回は立教時間等で指示する。

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG285／経営学特別研究35 (Advanced Topics in Business Administration 35)		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	春学期他(Spring Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文研究指導

授業の内容(Course Contents)

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 問題意識と「問い」の検討
2. 問題意識と「問い」の検討
3. 問題意識と「問い」の検討
4. 先行研究の検討：理論的背景
5. 先行研究の検討：理論的背景
6. 先行研究の検討：理論的背景
7. 先行研究の検討：実証研究の検討
8. 先行研究の検討：実証研究の検討
9. 先行研究の検討：実証研究の検討
10. 先行研究の批判と Research Question の提起
11. 先行研究の批判と Research Question の提起
12. 先行研究の批判と Research Question の提起
13. 先行研究の批判と Research Question の提起
14. 先行研究の批判と Research Question の提起

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

経営学、経済学、社会学など社会科学の古典を読むようにしてください。また、和文、英文問わず学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むことで、学術論文の作法やスタイルを経験的に習得することができます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業での研究報告(100%)

テキスト(Textbooks)

授業の中で適宜指示します。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG286／経営学特別研究36 (Advanced Topics in Business Administration 36)		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期他(Fall Others)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7003	言語 (Language)	その他 (Others)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

博士論文研究指導

授業の内容(Course Contents)

本科目では、博士論文の作成に向けた研究指導を行う。

授業計画(Course Schedule)

1. 理論的枠組みと仮説の構築
2. 理論的枠組みと仮説の構築
3. 理論的枠組みと仮説の構築
4. 理論的枠組みと仮説の構築
5. 理論的枠組みと仮説の構築
6. 理論的枠組みと仮説の構築
7. 実証分析･調査の方法論的検討
8. 実証分析･調査の方法論的検討
9. 実証分析･調査の方法論的検討
10. 実証分析･調査の方法論的検討
11. 調査結果･分析結果の解釈と考察
12. 調査結果･分析結果の解釈と考察
13. 調査結果･分析結果の解釈と考察
14. 調査結果･分析結果の解釈と考察

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

経営学、経済学、社会学など社会科学の古典を読むようにしてください。また、和文、英文問わず学術雑誌に掲載されている論文を数多く読むことで、学術論文の作法やスタイルを経験的に習得することができます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業での研究報告(100%)

テキスト(Textbooks)

授業の中で適宜指示します。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG301／現代経済論1（D） (Contemporary Economics1(D))		
担当者名 (Instructor)	和田　芳明(WADA YOSHIAKI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

一線で活躍するビジネスパーソンに必要な経済理論とその応用に向けた知見を提供する。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

Focusing on the business person who is active at the forefront, this course aims to provide the essential knowledge on economics theory and study corresponding use cases.

授業の内容(Course Contents)

今日、世界で顕現化している様々な経済事象を的確に理解し、ビジネスでの意思決定に役立てることができるよう、基礎的な経済理論を概説する。これまで経済学を学んでこなかった学生を想定し、極力平易な解説を行う。限られた時間で実効性の高い講義を行うため、教室での積極的な意見交換と、課題に対する成果物の提出も求められる。

This course provides basic economic theories which is necessary to understand the major economic events currently occurring in the world.
Considering various background of students, who are not familiar with economics, basic and essential theory are covered in this course.
In order to achieve efficient session within the limited time frame, students are required of active participation to the discussion and papers on the topics indicated in class.

授業計画(Course Schedule)

1. マクロ経済学（1）経済学とは
2. マクロ経済学（2）国民所得の概念と SNA
3. マクロ経済学（3）国民所得モデル
4. マクロ経済学（4）国民所得モデル
5. マクロ経済学（5）総供給・総需要
6. マクロ経済学（6）総供給・総需要
7. マクロ経済学（7）労働と生産
8. マクロ経済学（8）投資理論
9. マクロ経済学（9）IS-LM モデル
10. マクロ経済学（10）IS-LM モデル
11. ミクロ経済学（1）消費と生産
12. ミクロ経済学（2）市場均衡
13. ミクロ経済学（3）不完全競争
14. ミクロ経済学（4）ゲーム理論

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

クラス参加と議論への貢献度(50%)/成果物の内容(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 中谷巌、2007、『入門マクロ経済学 第 5 版』、日本評論社 (ISBN:978-4-535-55513-6)
2. 奥野正寛、2008、『ミクロ経済学』、東京大学出版会 (ISBN:978-4-00-026655-0)
3. 中田真佐男、2019、『基礎から学ぶ 同額マクロ経済学に必要な数学』、日本評論社 (ISBN:978-4-535-55677-5)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG302／現代経済論2(D) (Contemporary Economics2(D))		
担当者名 (Instructor)	和田　芳明(WADA YOSHIAKI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

一線で活躍するビジネスパーソンに必要な経済理論とその応用に向けた知見を提供する。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

Focusing on the business person who is active at the forefront, this course aims to provide the essential knowledge on economics theory and study corresponding use cases.

授業の内容(Course Contents)

今日、世界で顕現化している様々な経済現象を例にとり、経済理論に即して分析し、評価するための機会を提供する。経済理論の応用という観点から、現象の分析と、ビジネスや社会への影響にフォーカスして講義を行う。限られた時間で実効性の高い講義を行い、学生の理解を深めるため、積極的な意見交換が期待されるほか、課題に対する成果物の提出も求められる。

Based on economic theory, this course provides the opportunity to analyze and evaluate the current economic events occurring in the world. From the view point of applied economic theory, this course is designed to analyze the background of events, and evaluate the effect of these event to the society.
In order to achieve efficient session within the limited time frame and deepen understanding, students are required of active participation to the discussion and papers on the topics indicated in class.

授業計画(Course Schedule)

1. 金融システムと中央銀行(1)
2. 金融システムと中央銀行(2)
3. 超低金利と金融政策(1)
4. 超低金利と金融政策(2)
5. 財政政策の今日的効果(1)
6. 財政政策の今日的効果(2)
7. 人口構造の変化と経済成長(1)
8. 人口構造の変化と経済成長(2)
9. 経済成長とグリーンエコノミー(1)
10. 経済成長とグリーンエコノミー(2)
11. 決済システム(1)
12. 決済システム(2)
13. 基軸通貨と国際間決済・国際取引(1)
14. 基軸通貨と国際間決済・国際取引(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

クラス参加と議論への貢献度(50%)、成果物の内容(50%)(100%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 中島真志、宿輪純一、2013、『決済システムのすべて』、東洋経済新報社 (ISBN:4492681337)
2. 白川方明、2918、『中央銀行』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-65485-9)
3. 野口悠紀雄、2015、『戦後経済史』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-37118-3)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG311／アグリフードシステム論1(D) (Agri-food System 1(D))		
担当者名 (Instructor)	大山　利男(OYAMA TOSHIO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

近年，農業は大きなビジネス機会と注目され，異業種から農業参入する事業者が増えている。生産品目(米，野菜，果樹，畜産物など)および地域ごとに技術的・経営的課題は多様であり、リスクと可能性が共存している。当科目では，多くの事例研究から，企業による農業参入の背景，戦略，その意義について考える。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

Agri-food business is attractive for companies? Many of companies which entered into agricultural sector have got successful? The objective of this course is to examine the case of such companies' management of farming, processing, marketing, and distribution operation.

授業の内容(Course Contents)

農業は，さまざまな関連産業と結びついて多くのビジネス機会を提供している。異業種からの農業参入は、そのことの裏返しでもある。この授業では，これらの事例について、農業および関連産業のフードシステムという視点で把握し，具体的な問題点や論点について考察する。

Agriculture offers many business opportunities to various related industries. In this course, we examine and discuss the farming and related businesses from food system approach.

授業計画(Course Schedule)

1. 農業生産の経営的特徴(1)
2. 農業生産の経営的特徴(2)
3. 企業の農業参入に関する政策、背景(1)
4. 企業の農業参入に関する政策、背景(2)
5. 農業参入の目的、期待(1)
6. 農業参入の目的、期待(2)
7. 食品製造業による農業参入の実態(1)
8. 食品製造業による農業参入の実態(2)
9. 酒造業者による農業参入の実態(1)
10. 酒造業者による農業参入の実態(2)
11. 食品小売業による農業参入の実態
12. 中食・外食産業による農業参入の実態
13. 建設業者による農業参入の実態
14. その他による農業参入の実態、まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は，履修登録後に Blackboard 上で行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業時の発表(30%)/議論への貢献(40%)/授業内レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 渋谷往男編著、2020、『なぜ企業は農業に参入するのか』、農林統計出版 (ISBN:978-4-89732-419-7)
授業時に指示する。

参考文献(Readings)

1. 高橋正郎・盛田清秀編、2013、『農業経営への異業種参入とその意義』、農林統計出版 (ISBN:978-4-541-03930-9)
2. 大仲克俊、2018、『一般企業の農業参入の展開過程と現段階』、農林統計出版 (ISBN:978-4-89732-377-0)
授業時に随時紹介する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

農林水産省『食料・農業・農村白書』
（https://www.maff.go.jp/j/wpaper/）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG312／アグリフードシステム論2(D) (Agri-food System 2(D))		
担当者名 (Instructor)	大山　利男(OYAMA TOSHIO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

農業の持続的発展のためには、最終消費者にいたるフードチェーン全体で価値(バリュー)を高められることが肝要である。川中・川下の食品産業・小売業による寡占化の進展はしばしば「市場支配力」の議論になりやすいが、本授業ではパートナーシップの関係性を目指すフードシステム、バリューチェーン構築の可能性、戦略，その意義等について考える。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

In order to make farm business sustainable, food chains from farm to table should be valuable and profitable. The objective of this course is to examine the case of such food chains and its performance, and to discuss the chain management and their effort.

授業の内容(Course Contents)

本授業では、フード・バリューチェーンを構成するさまざまなステークホルダーについて、そのパートナーシップの関係性や主導的役割を担う主体について議論する。畜産業におけるインテグレーターをはじめ、小売業者、加工業者(醸造業者)、産地の生産者組織等の事例分析を通じて理解を深める。

Food chains from farm to table are varied by product specialty, and consists of many stakeholders. In this course, we examine and discuss the case of such food chains and stakeholders including producer, food processor, winery and/or brewery, packer, food service, retailer and etc.

授業計画(Course Schedule)

1. 産業組織論からみたフードチェーン
2. 畜産業におけるインテグレーションと垂直的調整(1)
3. 畜産業におけるインテグレーションと垂直的調整(2)
4. 小売業の寡占化と青果物産業
5. 小売主導型流通システムとフードチェーン(1)
6. 小売主導型流通システムとフードチェーン(2)
7. 青果物のバリューチェーンと生産者・産地組織(1)
8. 青果物のバリューチェーンと生産者・産地組織(2)
9. 青果物のブランド戦略と知的財産管理
10. 畜産物のフードバリューチェーンと契約生産(1)
11. 畜産物のフードバリューチェーンと契約生産(2)
12. グローバル・フードバリューチェーンの展開(1)
13. グローバル・フードバリューチェーンの展開(2)
14. グローバル・フードバリューチェーンの展開(3)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

準備学習の指示は，履修登録後に Blackboard 上で行う。授業時にも指示するので、各自確認して予習すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業時の発表(30%)/議論への貢献(40%)/授業内レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 斎藤修編著、2020、『フードバリューチェーンの国際的展開』、農林統計出版 (ISBN:978-4-89732-423-4)
授業時に指示する。

参考文献(Readings)

授業時に随時紹介する。

その他（HP 等）（Others（e.g.HP））

農林水産省『食料・農業・農村白書』
（https://www.maff.go.jp/j/wpaper/）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG321／日本の企業経営(D) (Business and Management in Japan(D))		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本科目は実証的な調査に基づく研究や調査報告書の読解を通じて日本の企業経営の特徴やその実態について理解することを目的とする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The purpose of this course is to understand the characteristics and realities of Japanese corporate management through the reading of research papers and research reports based on empirical surveys.

授業の内容(Course Contents)

本科目は、日本企業の実態や企業経営の特徴について理解することを目的としている。加えて、実際に資料の収集、データベースの活用等を通じて大学院での学習の進め方を実践的に修得することを目指す。
実態を適切に認識するためには、自己の偏見や先入観に自覚的になること、常識や先行研究に対して批判的視点を持つこと、自由な視点で仮説を立てるとともに根拠となる事実に基づいて検証を行うことが必要である。この授業では日本の企業経営の特徴や実態を理解することを通じてこうした方法論についても学びたいと考えている。
具体的には、日本の企業経営の実態、雇用システムの特徴等に関する実証的な研究や調査報告書を取り上げ、その読解を通じて、日本企業とその経営の実態について理解し批判的に検討する。履修者は各自テキストとなる研究論文や専門書の一部あるいは全ての報告を担当し、各回の授業で各自が担当部分を報告、それに基づいて講義やディスカッションを行う。履修者には積極的な関与が要求される。

The purpose of this course is to understand the actual situation of Japanese companies and the characteristics of corporate management. In addition, the course aims to provide students with practical training on how to proceed with their studies in graduate school through the actual collection of materials and the use of databases.
In order to recognize the actual situation properly, it is necessary to be aware of one's own prejudices and preconceptions, to have a critical perspective on common sense and prior research, to formulate hypotheses from a free perspective, and to verify them based on facts. In this class, I would like to learn about these methodologies through understanding the characteristics and realities of corporate management in Japan.
Specifically, we will take up empirical studies and research reports on the actual state of corporate management and the characteristics of the employment system in Japan, and through reading them, we will understand and critically examine the actual state of Japanese companies and their management. Each student will be responsible for reporting on some or all of the research papers and technical books used as textbooks. Students are expected to be actively involved in the course.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス、テキストの紹介と選定
2. 報告、読解とディスカッション
3. 報告、読解とディスカッション
4. 報告、読解とディスカッション
5. 報告、読解とディスカッション
6. 報告、読解とディスカッション
7. 報告、読解とディスカッション
8. 報告、読解とディスカッション
9. 報告、読解とディスカッション
10. 報告、読解とディスカッション
11. 報告、読解とディスカッション
12. 報告、読解とディスカッション
13. 報告、読解とディスカッション
14. 報告、読解とディスカッション

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業の中で提示される日本企業をめぐる論点や疑問について、政府統計や入手可能な調査データを活用して各々調べ、ディス

カッションできるよう準備して授業に臨んでください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告(30%)/ディスカッションへの貢献度(20%)/授業内レポート(50%)

テキスト(Textbooks)

適宜授業の中で指示します。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

図書館のオンラインデータベースを活用できるようにしておくと良いでしょう。

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG331／クリティカル・シンキング(D) (Critical Thinking(D))		
担当者名 (Instructor)	田中　道昭(TANAKA MICHIAKI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7800	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ビジネスにおける問題解決能力を高めていくことのみならず、自らが意義の大きい問題設定や課題設定ができるようになることや、それらの問題解決の実行が実際にできるようになることを目的とする
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The purpose of this course is not only to improve problem solving skills regarding business, but also to enable you to set up and solve problems that are of great significance to yourself, and to actually be able to solve these problems.

授業の内容(Course Contents)

本講義においては、クリティカル・シンキングを、論理的に思考するためのツールや能力という狭義の捉え方はもとより、「分析力×洞察力×構想力」を高め、問題解決能力を高めていくツールや能力であると広義に捉えてクラスを実践的に進めていく。さらには、与えられた問題を解決していくだけではなく、自ら合理性の高い問題設定や課題設定を行い、それらの解決策を見出すことができるようになることを目指していく。 本講義においては、「定量分析×定性分析」や「戦略系フレームワーク×人系フレームワーク」を融合させ、企業の現場でいかに合理性の高い戦略を策定し、なおかつ、いかにそれを効果的に実行して成果を上げていくかという点にも注力していく。そのために最も重要なことは、クリティカル・シンキングで導き出した「正しいロジック」を相手に振りかざすのではなく、相手の立場や感情にも心を配り、相手の「共感」や周りとの「調和」を実現していくことである。現実のビジネスシーンにおいては、「正しいロジック」にいかに「共感」してもらえるかの方が重要である。したがって、講義では人系フレームワークも活用して、想定顧客との信頼関係構築のためのロープレ演習やチームワーク演習なども多用し、実践的にクラスを進めていく。本講義で学んでいく MECE や 3W1H 等の基礎的なツールは、ビジネススクールで学んでいく専門的なフレームワークに対して「OS」や「CPU」のように機能するものであるが、同時に企業の現場においては最も多用されるものでもある。各種科目の履修初期の段階はもとより、修了前の段階においてこそ立ち返るべき内容である。
したがって、本講義の後半においては、実際にクリティカル・シンキングのツールを使って、企業の現場における売上・利益・業績等を向上していく手法についても事例を用いて実践的に学んでいく。

In this lecture, in addition to the narrow view of tools and abilities to think logically about critical thinking, this class will interpret, in a broad sense, critical thinking as a tool and ability to enhance the problem solving ability through enhancing "analytical power × insight × imagination". Further, we will not only solve the problems that are given to us, but we will also setup problems that are highly rational and aim to be able to find solutions to those. In this lecture, we will discuss how to formulate a strategy that is highly rational at the scene of companies by fusing "quantitative analysis × qualitative analysis" and "strategy system framework × human system framework", and in addition, we will focus on how to effectively implement these measures and achieve results. For this purpose, the most important thing is not to show the other party the "correct logic" derived by critical thinking, but also to be mindful of the position and feelings of the other party and to realize "sympathy" of the other party and "harmony" with the surroundings. In real business, it is more important to get "sympathy" as a way for "correct logic". Therefore, in this lecture we will utilize human system frameworks as well as many other exercises such as role play seminars and team work seminars to build trust with our supposed customers. The basic tools learned in this lecture, such as MECE and 3W1H, are those that function much like an "OS" and "CPU" for the specialized framework learned in business school, but at the same time, it is one of the most frequently used in the field of business. Not only in just the early stages of taking a course in each discipline, it is the content that should be returned to before completion.
Therefore, in the second half of this lecture, students will learn how to improve the sales, profit, and performance of companies by using the actual tools of critical thinking.

授業計画(Course Schedule)

1. クリティカル・シンキングの前提知識(1)
2. クリティカル・シンキングの前提知識(2)
3. クリティカル・シンキングの基礎知識(1)
4. クリティカル・シンキングの基礎知識(2)
5. クリティカル・シンキングのフレームワーク(1)

6. クリティカル・シンキングのフレームワーク（2）
7. 問題解決の手法（1）
8. 問題解決の手法（2）
9. PDCA の理論と実際（1）
10. PDCA の理論と実際（2）
11. 売上・利益・業績向上のためのクリティカル・シンキング（1）
12. 売上・利益・業績向上のためのクリティカル・シンキング（2）
13. 「戦略系フレームワーク×人系フレームワーク」の融合ツールとしてのクリティカル・シンキング（1）
14. 「戦略系フレームワーク×人系フレームワーク」の融合ツールとしてのクリティカル・シンキング（2）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

問題解決、課題や仮説設定などに普段から高い問題意識をもっておくこと

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(20%)/期中レポート(20%)/クラス貢献(20%)/他の受講生への貢献(20%)/プレゼンテーション(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 高田貴久+岩澤智之、2014、『問題解決』、英治出版 (ISBN:ISBN978-4-86276-124-8)
2. 安宅和人、2010、『イシューからはじめよ』、英治出版 (ISBN:ISBN978-4-86276-085-2)
3. 田中道昭、2017、『アマゾンが描く 2022 年の世界』、PHP 研究所 (ISBN:ISBN978-4-569-83733-8)
4. 田中道昭、2019、『GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略』、日本経済新聞出版社 (ISBN:ISBN978-4532322656)

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

参考文献（Readings）

1. 竹内一正、2014、『イーロン・マスクの挑戦』、宝島社 (ISBN:ISBN978-4-8002-2848-2)
2. 泉田良輔、2014、『Google vs. トヨタ―自動運転車は始まりにすぎない』、角川 (ISBN:ISBN978-4-04-080023-3)
3. 日経デザイン、2014、『アップルのデザイン戦略』、日経 BP 社 (ISBN:ISBN978-4-8222-6488-8)
4. 板倉俊之、2010、『ことわざドリル―笑いこみあげる 92 題』、リトルモア (ISBN:ISBN978-4-89815-290-4)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【双方向による授業】
本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。
【実務家教員による授業】
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG341／リーディング産業論(D) (Industrial Development Theory(D))		
担当者名 (Instructor)	高柳　寛樹(TAKAYANAGI HIROKI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

「IT 前提経営®」の提唱者である担当者が、テクノロジーが支える社会における産業の在り方を実例とその後ろに控える事実と大量のエピソードを丁寧に分析しながら今の「リーディング産業」を定義し議論を行う。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The person in charge, as a proponent of "Tech Driven Management®", carefully analyzes the actual cases and facts behind them, and discusses the situation of industries in a society supported by technology, and defines and discusses the "leading industry".

授業の内容(Course Contents)

テクノロジー優位の経済社会の出現は今に始まったことではなく長い歴史がある。その歴史(マクロな観点)を踏まえた上で、それらのテクノロジーの「社会化(socialized)」の過程を史実の分析をもとに考える。その上で今私たちが直面しているテクノロジーを利用した経営について「IT 前提経営®」の 6 大要素をしっかりと理解した上で、経営者の「TECH リテラシー」欠如による産業の衰退の実例などをつぶさに分析しながら足元の「リーディング産業」の課題(ミクロ)について議論を進める。キーワードとしては「メディア社会とテクノロジー」「経営とテクノロジー」「ネットリテラシーとテックリテラシー」「マスマーケティングからデジタルマーケティングへの展開」「AI×IoT×ビックデータ」「センサー優位経済の理解」「自動運転社会の理解」「規制と規制緩和」「経営者のテクノロジー理解と実践」「エクイティファイナンスとリーディング産業」「民主主義のコストと経営」など多岐にわたる。大学院科目のため講義に座学ではなく議論をベースとした授業展開を行うゆえ、積極的な授業参加を求めたい。また強い向学心があれば予備知識は不要である。

The advent of a technology dominated economic society has a long history, this is not the beginning. Based on its history (from a macro perspective), we will consider the process of "socialization" of these technologies based on the analysis of historical facts. After that, after understanding the basics of "Tech Driven Management®" of management using the technology that we are now facing, we will continue to discuss the issues of the "leading industry" (micro), which is underdeveloped, by analyzing examples of industries in detail in which the managers have a lack of "tech literacy". There are a wide variety of keywords, such as "media society and technology", "management and technology", "net literacy and tech literacy", "development from mass marketing to digital marketing", "AI x IoT x big data", "understanding of the sensor-dominated economy", "understanding of the autonomous driving society", "regulation and deregulation", "understanding and practice of management technology", "equity finance and leading industries", "the cost of democracy and management", etc. Students who are unable to participate actively in the program are asked to not participate in the class because this graduate school discipline is based on discussions rather than lectures. Also, in order to prevent absence from classes due to location, the attendance of lectures by telecommuting is also widely accepted. Also, prior knowledge is unnecessary if there is a strong sense of direction.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロクションと履修者による自己紹介
2. 「IT 前提経営®」の理解のための文献輪読と議論(最低限のコンセンサスの構築)
3. 「メディアテクノロジー」にみる「リーディング産業」の歴史(旧マス 4 媒体を支えるテクノロジーとその「社会化(socialize)」の理解をベースに
4. 「リーディング産業」を巡る規制と規制緩和(ベンチャー企業が突破すべきものは何か)
5. 商品としてのテクノロジーとテクノロジーを用いた経営の違いについて
6. 「TECH リテラシー」と経営(実例分析)「IT 化(又は DX)」の本質を理解する
7. 「IT 前提経営®」文脈による「AI×IoT×ビックデータ」の理解
8. ビジネスの公共性について(ビックデータとプライバシーを考える)
9. エクイティファイナンスと「リーディング産業」
10. ゲストスピーカーA(リーディング産業経営者)の招聘と議論

11. マスマーケティングからデジタルマーケティングへの展開（ゲストスピーカーB の招聘と共に）
12. 民主主義のコストと経営について（中国などの事例を参考に理解する）
13. 履修者による発表と議論（1）
14. 履修者による発表と議論（2）と総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

課題やレポートの執筆、コメントカードの記入と提出がある。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(20%)/その他のレポート(20%)/議論への参加度(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 高柳寛樹、2022、『続・まったく新しい働き方の実践～なぜ働き方は自由にならないのか。DX（Digital Transformation）未完了社会の病理～』、ハーベスト社 （ISBN:978-4-86339-114-7）
2. 高柳寛樹、2020、『「IT 前提経営」が組織を変える～ デジタルネイティブと共に働く』、近代科学社 digital（ISBN:978-4-7649-6008-4）
3. 高柳寛樹、2017、『まったく新しい働き方の実践～「IT 前提経営」による「地方創生」～』、ハーベスト社 （ISBN:978-4-86339-086-7）

参考文献（Readings）

適宜講義内で指定する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

担当者プロフィール：
https://hiroki.st/

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG351／コーポレート・ストラテジー1（D） (Corporate Strategy 1(D))		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講は経営戦略の歴史的発展経緯を把握したうえで、今日的経営戦略の全体像について、現象およびその現象の背景にある理論の理解を深めることを目的としている。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The purpose of this course is to understand the historical development of strategy, and then to deepen the understanding of the phenomenon and the theory about the overall view of strategy.

授業の内容(Course Contents)

経営戦略の歴史的変遷を理解したうえで、経営戦略の全体構造を構成する各テーマについて議論する。具体的には、現象としての事業戦略、企業戦略、市場戦略、新規事業戦略について、理論的背景を含めて議論する。各テーマでは事例分析を活用して、クラス内でディスカッションを深めることによって、各テーマの特徴と課題点を整理する。なお、受講者数によって内容や運営方法を変更することがある。

After understanding the historical transition of business strategy, each theme that constitutes the overall structure of strategy will be discussed. Specifically, business strategy, corporate strategy, market strategy, and new business strategy will be discussed, including theoretical background. For each theme, we will use case study analysis and deepen discussions within the class to sort out the characteristics and issues of each theme. Note that the content and management methods may be changed depending on the number of students.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 経営戦略論の発展
3. 経営理念
4. 企業と外部環境
5. 業界環境と SCP ロジック
6. リソース・ベースト・ビューと活動システム図
7. コストリーダーシップと差別化
8. 競争戦略とレッドクイーン理論
9. 競争の型（戦略転換）
10. 企業戦略（垂直統合と取引コスト）
11. 製品と事業のライフサイクル
12. 新規事業戦略
13. プレゼンテーション
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席・授業コミットメント(30%)/プレゼンテーション(30%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

資料と講義ハンドアウトは随時配布する。

参考文献(Readings)

1. 三谷宏治、2013、『経営戦略全史』、ディスカバリー・トゥエンティワン
2. 入山章栄、2019、『世界標準の経営理論』、ダイヤモンド社

その他資料は随時配布する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本講とコーポレート・ストラテジー2 はセットになっているため、本講から受講することが望ましい。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG352／コーポレート・ストラテジー2（D） (Corporate Strategy 2(D))		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講は「コーポレート・ストラテジー1」を踏まえ、経営戦略に関する代表的な理論だけではなく、意思決定や戦略の実行にも焦点を当てながら、経営戦略についてより深く理解することを目的としている。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

Based on "Corporate Strategy 1", this course aims to provide a deeper understanding of strategy, focusing not only on the typical theories of strategy but also on decision-making and strategic implementation.

授業の内容(Course Contents)

経営戦略は、戦略策定だけではなくそれが円滑に実行されてはじめて価値を持つ。本講では意思決定や戦略の実行にも焦点を当てて、その理論的背景を含めて議論を行う。また、現象としてのイノベーションや国際戦略とその背景にある理論に関する議論を行うことで、より幅広い視点から経営戦略を捉える。各テーマでは事例分析を活用して、クラス内でディスカッションを深めることによって、各テーマの特徴と課題点を整理する。なお、受講者数によって内容や運営方法を変更することがある。

Strategies have value not only when they are formulated but also when they are smoothly implemented. In this lecture, we will focus on decision making and strategic implementation, including the theoretical background. In addition, we will discuss innovation and international strategy as phenomena and the theories behind them in order to understand strategy from a broader perspective. In each theme, the case analysis will be used to deepen discussions within the class to sort out the characteristics and issues of each theme. Note that the content and management methods may be changed depending on the number of students.

授業計画(Course Schedule)

1. 経営戦略の全体像
2. 戦略の浸透
3. 戦略と組織：戦略の実行①
4. 戦略と組織：戦略の実行②
5. 意思決定と企業行動の理論
6. 上層部理論
7. 社会関係資本と社会ネットワーク理論
8. 企業の知識とナレッジ・ベースト・ビュー
9. 知の探索、知の深耕（両利き）①
10. 知の探索、知の深耕（両利き）②
11. 非市場戦略と制度理論
12. 資源依存理論
13. 企業と経営者
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席・授業コミットメント(30%)/プレゼンテーション(30%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

資料と講義ハンドアウトは随時配布する。

参考文献(Readings)

1. 入山章栄、2019、『世界標準の経営理論』、ダイヤモンド社

その他資料は随時配布する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

コーポレート・ストラテジー1 を受講していることが望ましい。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG361／スタートアップ・ストラテジー1（D） (Strategy to Start Up 1(D))		
担当者名 (Instructor)	高柳　寛樹(TAKAYANAGI HIROKI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この約 25 年で 4 社のスタートアップに主体的に関わりその内 2 社はエクイティファイナンスによる資金調達を伴うベンチャー企業の経営を経験した担当者がこれまで経験してきた事実をつぶさに分析しスタートアップのビヘビアを細かく因数分解して学生と共有する講義である。(「スタートアップ実践基礎」を含む)
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

In the past 25 years, the faculty in charge has been actively involved in the start up of 4 companies, and among them, 2 companies are used in lectures in which the faculty in charge, who experienced the management of venture companies with equity financing, analyzes their factors of past experiences in fine detail, and we will share the details of start-up behavior by factorizing with students.

授業の内容(Course Contents)

一言でスタートアップと言ってもその「目的」によって形態はかなり異なる。しかし現在その目的別の形態があまり因数分解されていないため間違った因子の掛け合わせにより、それに関わる人たちを不幸にする結果も多くある。担当者はその経験からスタートアップのビヘビアを構築する因子を「正しく」かけ合わせれば、いわゆる「不確実性」を小さくできると主張している。出来る限り現実に即したエピソードを題材にスタートアップのビヘビアを支える因子一つ一つを「学際的」に確認、理解し、学生諸氏の修士論文に資する講義を構築する。キーワードは「起業」「起業戦略」「リーダーシップ」「アントレプレナーシップ」「ベンチャーファイナンス」「所有と執行」「属人性」「テクノロジーと事業」「IT 前提経営®」「マスマーケティングからデジタルマーケティングへの展開」「投資家心理の理解」「株式会社の理解」「上場企業」「未上場企業」「企業会計と税務会計」「中小企業」「家族経営」「職人マネジメント」「技術経営」「アントレプレナーと詐欺師の違い」など。スタートアップストラテジー（2）との関連における違いは（1）が因子の確認と理解に重きを置くのに比べ（2）ではゲストスピーカーを多用したエピソードと文脈を重視するところにある。なお本講義の履修において（2）の履修は必須ではないが併せて履修することが望ましい。大学院科目であるため講義・座学形式ではなくディスカション形式を柱に講義展開をしていきたい。高い向学心と好奇心があれば事前の予備知識は不要である。

In a nutshell, the formation of a start-up is quite different depending on its "goal". However, at present, there are many times in which the people involved in it are unhappy via the multiplication of wrong factors because the formation of the goal is not so much factored into the start-up. The faculty in charge of this experience claims that this so-called "uncertainty" can be reduced if the factors that form the start-up's behavior are multiplied "correctly". In this course, we will identify and understand the "interdisciplinary" aspects of each of the factors that support start-up behaviors in-line with real life instances, and construct lectures that contribute to the students' academic paper. Some keywords are "flotation", "flotation strategy", "leadership", "entrepreneurship", "venture finance", "ownership and execution", "personal qualities", "technology and business", "Tech Driven Management®", "development from mass marketing to digital marketing", "understanding of investors", "understanding of joint-stock companies", "listed enterprise", "unlisted enterprise", "enterprise and tax accounting", "minor enterprises", "family-owned", "artisan management", "technology management", "entrepreneur and scammer", etc. The difference in relation to Strategy to Start Up (2) is that (1) emphasizes the confirmation and understanding of the factors, and (2) emphasizes the context and anecdotes with many guest speakers. In addition, taking course (2) is not required for registration of this lecture. Since this is a graduate school discipline, students who are not able to participate actively in classes are not recommended to take this course since it is not a lecture or lecture format but a discussion format. Also, in order to avoid absences due to distance, students are allowed to attend classes via tele-participation.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクションと自己紹介（履修者同士の自己紹介）
2. テキスト輪読による最低限のコンセンサスの構築
3. 「スタートアップ」の再定義
4. equity finance と debt finance
5. 所有と執行
6. 時間と M&A
7. 「IT 前提経営®」のスタートアップ文脈における正しい理解

8. プレーヤーとしてのアントレプレナーとプレーヤーとしての投資家
9. 属人性（≒タレント）と株式会社
10. サービス企業とプロダクトセントリック企業
11. スタートアップの経営に求められるテック・リテラシーの正しい理解
12. 国によって異なるスタートアップの背景
13. マスマーケティング時代の終焉とデジタルマーケティングへの展開（消費社会論的視座を起点にして）
14. 議論と総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

任意のレポート執筆、場合によっては発表準備などを課す。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(20%)/その他のレポート(20%)/授業への参加度(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 高柳寛樹、2022、『続・まったく新しい働き方の実践～なぜ働き方は自由にならないのか。DX（Digital Transformation）未完了社会の病理～』、ハーベスト社 （ISBN:978-4-86339-114-7）
2. 高柳寛樹、2020、『「IT 前提経営」が組織を変える～ デジタルネイティブと共に働く』、近代科学社 digital（ISBN:978-4-7649-6008-4）
3. 高柳寛樹、2017、『まったく新しい働き方の実践～「IT 前提経営」による「地方創生」～』、ハーベスト社 （ISBN:978-4-86339-086-7）

参考文献（Readings）

講義内において適宜指示をする。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

担当者プロフィール：
https://hiroki.st/

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG362／スタートアップ・ストラテジー2（D） (Strategy to Start Up 2(D))		
担当者名 (Instructor)	高柳　寛樹(TAKAYANAGI HIROKI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この約 25 年で 4 社のスタートアップに主体的に関わりその内 2 社はエクイティファイナンスによる資金調達を伴うベンチャー企業の経営を経験した担当者が招聘したゲストスピーカーのスピーチと議論からのアプローチでスタートアップストラテジーを考える。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

In the past 25 years, the faculty in charge been actively involved in 4 start-ups, and the faculty in charge, who has experienced the management of venture companies with equity financing of 2 of those 4, invited a guest speaker in order to consider start-up strategies according to the speech and discussion.

授業の内容(Course Contents)

主要な要素はスタートアップストラテジー（1）を参照されたい。（1）との大きな違いは多数のスタートアップ経営者を招聘し、そのゲストスピーチによるアプローチから「スタートアップストラテジー」を理解することである。ゲストスピーカーは「debt finance 実践者」「equity finance 実践者」「未上場企業創業者」「上場企業創業者」「ベンチャー企業経営者」「倒産経験者」「家族経営実践者」「非営利団体経営者」「職人マネジメント実践者」「音楽家」「スポーツ選手」「新設学校法人経営者」「学校法人のターンアラウンド実践者」「M&A トランザクション実践者」「ベンチャーキャピタリスト」などの切り口で招聘する予定（このシラバス執筆時点では未定）。（2）の履修にあたり（1）の履修は必須ではないが、併せて履修することが望ましい。ゲストスピーチを聞いた後の「議論」が大切な要素を締めるため積極的に議論に参加して頂く。

For main elements we want to refer to Strategy to Start Up 1. The big difference in (1) is that we invite a large number of start-up managers and understand the "start-up strategy" according to the guest's speech. "Debt finance practitioners", "equity finance practitioners", "founders of unlisted companies", "founders of listed companies", "speakers with previous experience in bankruptcy", "family-owned business practitioners", "non-profit organization managers", "artisan management practitioners", "musicians", "sports players", "new educational corporation practitioners", etc., guest speakers are planned to be invited in the future (undecided at the time of this syllabus writing). Taking course (1) is not required for (2), and, in principle, (1) and (2) are considered separate. Since the "discussion" will be important elements after hearing the guest speeches, students who are not able to actively participate in discussions are not encouraged to participate (because they are not able to be evaluated).

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクションと自己紹介（履修者同士の自己紹介）
2. 輪読と発表による「スタートアップ」再定義と最低限のコンセンサスの構築
3. ゲストスピーカー（1）
4. ゲストスピーカー（2）
5. ゲストスピーカー（3）
6. ゲストスピーカー（4）
7. ゲストスピーカー（5）
8. ゲストスピーカー（6）
9. ゲストスピーカー（7）
10. ゲストスピーカー（1）から（7）で行われた議論の整理と理解
11. スタートアップストラテジーの文脈における「IT 前提経営®」の整理と理解
12. 学生発表（1）
13. 学生発表（2）
14. 総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

少なくとも毎回のゲストスピーチに対し、一定のルールを守ったレポートの提出を求める。加えて発表準備など時間を超えた作業になる。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(20%)/最終レポート(Final Report)(20%)/ゲストスピーチに対するレポート(40%)/授業への参加度(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 高柳寛樹、2022、『続・まったく新しい働き方の実践～なぜ働き方は自由にならないのか。DX(Digital Transformation)未完了社会の病理～』、ハーベスト社 (ISBN:978-4-86339-114-7)
2. 高柳寛樹、2020、『「IT 前提経営」が組織を変える～ デジタルネイティブと共に働く』、近代科学社 digital (ISBN:978-4-7649-6008-4)
3. 高柳寛樹、2017、『まったく新しい働き方の実践～「IT 前提経営」による「地方創生」～』、ハーベスト社 (ISBN:978-4-86339-086-7)

参考文献(Readings)

適宜講義の中で指示する。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

担当者プロフィール:
https://hiroki.st/

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG371／ビジネス・オーガニゼーション3(D) (Business Organization 3(D))		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

組織デザインの基本原理と諸問題について学ぶ。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

Study the basic principles and problems of organizational design.

授業の内容(Course Contents)

「ビジネス・オーガニゼーション」とは、ビジネスを行う組織、すなわち企業組織のことを指している。組織を定義することは実はそれほど簡単ではないが、有名なものとしては例えばバーナードが、「ふたり以上の人々の意識的に統括された活動や諸力の体系」として定義し、「相互に意思の疎通を図ることができ、達成すべき共通の目的を認識し、相互に努力・貢献しようとするとき組織は成立する」と述べている。しかしここではより一般的に、ビジネスという目的を実現するために人為的に形成された「分業と調整による協働の仕組み」として定義しておきたい。

今日のグローバル化の進展と技術革新、規制緩和といった動きを背景として、いかに効率的かつ競争力ある組織を創り上げるかは極めて重要な戦略的課題となっている。組織が人間の協働の仕組みであると考えれば、組織の競争力にとって組織を担う個々の人間の問題も当然等閑にすることはできない。

この講義では、組織について、その原理や原則に立ち戻って理論的に考察することを通じて今日の企業組織の現状を批判的に捉え、その問題を発見することにつながるような知識を学びたいと考えている。

"Business organization" refers to an organization that conducts business, that is, a corporate organization. Although it is not so easy to define an organization, Bernard, for example, famously said that it should be defined as "a system of consciously coordinated activities or forces of two or more persons" and that "an organization should be established when it is able to communicate with one another and when it recognizes a common goal to be achieved and strives for that and contributes to each other". However, we would like to define it more generally as "a mechanism of cooperation by division of labor and coordination" which is artificially formed in order to realize the goal of business.

Against the backdrop of the progress of today's globalization, technological innovation and deregulation, how to create an efficient and competitive organization has become a very important strategic issue. If the organization is considered to be a mechanism for human collaboration, the individual human issues cannot be ignored for the organization's competitiveness.

In this lecture, we would like to study knowledge that leads to the discovery of problems by taking a critical view of the present situation of corporate organizations through the theoretical consideration of the organization by going back to the principles and fundamental rules.

授業計画(Course Schedule)

1. 協働のシステムとしての組織
2. 組織の成立と存続の要件:組織の一般理論(1)
3. 組織の成立と存続の要件:組織の一般理論(2)
4. 公式組織と非公式組織:モチベーション問題の発見
5. 組織デザインのフレームワーク
6. 経営者の役割と組織のマネジメント
7. 組織のデザイン変数(1)
8. 組織のデザイン変数(2)
9. 組織のデザイン変数(3)
10. 環境適応と組織
11. 組織のコンティンジェンシー要因(1)
12. 組織のコンティンジェンシー要因(2)
13. コンフィギュレーションと組織デザイン(1)
14. コンフィギュレーションと組織デザイン(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

ご自身のお仕事や職場、会社組織を素材として、どのような問題に直面しているのか、その問題はどのような問題であるのか、

なぜそうした問題が生じているのか、考えてみてください。
　また、参考文献にある書籍を読んでおくとよいでしょう。

成績評価方法・基準（Evaluation）

ディスカッションへの参加(20%)/授業内課題(80%)

テキスト（Textbooks）

講義時に指示します。

参考文献（Readings）

1. ピコー、ディートル、フランク、2007、『新制度派経済学による組織入門』、白桃書房
2. 佐久間信夫編、2005、『新版現代経営学』、学文社
3. ヘンリー・ミンツバーグ、2007、『H・ミンツバーグ経営論』、ダイヤモンド社
4. ジョン・ロバーツ、2005、『現代企業の組織デザイン』、NTT 出版
5. 秋野・關・坂本・山中・井口・荒井、2018、『グローバル化とイノベーションの経営学』、税務経理協会

そのほか、講義において随時紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG372／ビジネス・オーガニゼーション4（D） (Business Organization 4(D))		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標（Course Objectives）

「ビジネス・オーガニゼーション 3」に続き、組織デザインの基本原理と諸問題について学ぶ。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

Following "Business Organization 3", we will study the basic principles and problems of organizational design.

授業の内容（Course Contents）

本科目では、「ビジネス・オーガニゼーション 3」に続き、組織について、その原理や原則に立ち戻って理論的に考察することを通じて今日の企業組織の現状を批判的に捉え、その問題を発見することにつながるような知識を学びたいと考えている。特に「4」では、今日の企業組織や様々な事業体の組織デザインを理解するための理論的知識を修得し、さらにそれを活用して日本企業の組織デザインの現状を批判的に考えてみたい。

In this discipline, following "Business Organization 3", we would like to study knowledge that leads to the discovery of problems by taking a critical view of the present situation of corporate organizations through the theoretical consideration of the organization by going back to the principles and fundamental rules. Particularly in "4", we want to acquire theoretical knowledge in order to understand the organizational design of today's corporate organizations, and think critically about the present state of organizational design of Japanese companies by utilizing those knowledge.

授業計画（Course Schedule）

1. 組織のコンフィギュレーション：基本類型の特徴と問題（1）
2. 組織のコンフィギュレーション：基本類型の特徴と問題（2）
3. 組織のコンフィギュレーション：基本類型の特徴と問題（3）
4. 組織のコンフィギュレーション：基本類型の特徴と問題（4）
5. 組織のコンフィギュレーション：基本類型の特徴と問題（5）
6. 組織のコンフィギュレーション：基本類型の特徴と問題（6）
7. 新たな組織デザイン（1）
8. 新たな組織デザイン（2）
9. 日本企業の組織デザインを考える（1）
10. 日本企業の組織デザインを考える（2）
11. 日本企業の組織デザインを考える（3）
12. 日本企業の組織デザインを考える（4）
13. 日本企業の組織デザインを考える（5）
14. 日本企業の組織デザインを考える（6）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

ご自身のお仕事や職場、会社組織を素材として、どのような問題に直面しているのか、その問題はどのような問題であるのか、なぜそうした問題が生じているのか、考えてみてください。
また、参考文献にある書籍を読んでおくとよいでしょう。

成績評価方法・基準（Evaluation）

ディスカッションへの参加(20%)/授業内課題(80%)

テキスト（Textbooks）

講義時に指示します。

参考文献（Readings）

1. ピコー、ディートル、フランク、2007、『新制度派経済学による組織入門』、白桃書房
2. 佐久間信夫編、2005、『新版現代経営学』、学文社

3. ヘンリー・ミンツバーグ、2007、『H・ミンツバーグ経営論』、ダイヤモンド社
4. ジョン・ロバーツ、2005、『現代企業の組織デザイン』、NTT 出版
5. 秋野・關・坂本・山中・井口・荒井、2018、『グローバル化とイノベーションの経営学』、税務経理協会
そのほか、講義において随時紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

「ビジネス･オーガニゼーション 3」を履修しておくことが望ましいと思いますが、「4」のみの履修も可能です。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG381／ヒューマン・リソース・マネジメント1D (Human Resource Management 1(D))		
担当者名 (Instructor)	山崎　京子(YAMAZAKI KYOKO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. ヒューマン・リソース・マネジメントで取り扱う主要テーマの概要と課題について理解できるようになること。
2. 身近で発生している事象について、理論的枠組みから理解し、自ら問いをたてることができるようになること。
3. 研究論文を読みこなし、実務へのインプリケーションを自ら考えることができるようになること。

※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The goals this course are to

1. Be able to understand the outline and issues of the main themes discussed with in human resource management.
2. Be able to understand the phenomenon around us from a theoretical framework and set research question by oneself.
3. Be able to read research papers and discover the implications for business.

授業の内容(Course Contents)

ビジネスを成り立たせる資源(リソース)には、ヒト、モノ、カネがあると言われるが、ヒトには認知、感情、意思があり、さらに成長発達することから、そのマネジメントは容易ではない。よって、ヒューマン・リソース・マネジメントの学習は広範囲、かつ深奥である。

この講義では、経営戦略の実現に向けてヒューマン・リソース・マネジメントの中核的機能である、格付け、賃金、評価、報酬、採用、配置、人材開発などについて実践と理論を融合させた学習を行う。

It is said that the resources that make up a business include people, material, and money. However, only humans have cognition, emotions, and will, furthermore, they grow and develop. This is why the management of people is not easy than the others. Therefore, the discussion of human resource management is extensive and profound.

This course introduces the core functions of human resource management, such as grading, wages, evaluation, compensation, recruitment, placement, and human resource development, in order to activate the business strategy by combining practice and theory.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション：人事の課題整理
2. ヒューマン・リソース・マネジメントの鳥観図と概論
3. 経営戦略とヒューマン・リソース・マネジメント (1)
4. 経営戦略とヒューマン・リソース・マネジメント (2)
5. 社員格付け制度と賃金 (1)
6. 社員格付け制度と賃金 (2)
7. 人事評価と報酬 (1)
8. 人事評価と報酬 (2)
9. 採用、配置、退出 (1)
10. 採用、配置、退出 (2)
11. 人材開発とキャリア開発 (1)
12. 人材開発とキャリア開発 (2)
13. 雇用形態の多様化 (1)
14. 雇用形態の多様化 (2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内で指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内レポート(60%)/授業姿勢(出席、発言、発表)(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 平野光俊・江夏幾多郎、2018、『人事管理　人と企業、ともに活きるために』、有斐閣 (ISBN:978-4641150478)

参考文献(Readings)

授業内で紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

全授業回のうち、概ね半数程度対面実施予定

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG382／ヒューマン・リソース・マネジメント2D (Human Resource Management 2(D))		
担当者名 (Instructor)	山崎　京子(YAMAZAKI KYOKO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. ヒューマン・リソース・マネジメントの隣接領域となる組織行動、労働政策、労働法等で取り扱う主要テーマの概要と課題について理解できるようになること。
2. 身近で発生している事象について、理論的枠組みから理解し、自ら問いをたてることができるようになること。
3. 研究論文を読みこなし、実務へのインプリケーションを自ら考えることができるようになること。

※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The goals this course are to
1. Be able to understand the outline and issues of the adjacent areas of human resource management such as organizational behavior, labor policy, labor law, etc.
2. Be able to understand the phenomenon around us from a theoretical framework and set research question by oneself.
3. Be able to read research papers and discover the implications for business.

授業の内容(Course Contents)

ビジネスを成り立たせる資源(リソース)には、ヒト、モノ、カネがあると言われるが、ヒトには認知、感情、意思があり、さらに成長発達することから、そのマネジメントは容易ではない。よって、ヒューマン・リソース・マネジメントの学習は広範囲、かつ深奥である。
この講義では、ヒューマン・リソース・マネジメントの隣接領域で議論される組織行動、労働政策、労働法等における主要テーマについて、実践と理論を融合させた学習を行う。

It is said that the resources that make up a business include people, material, and money. However, only humans have cognition, emotions, and will, furthermore, they grow and develop. This is why the management of people is not easy than the others. Therefore, the discussion of human resource management is extensive and profound.
This course introduces the adjacent areas of human resource management such as organizational behavior, labor policy, labor law, etc. by combining practice and theory to students taking this course.

授業計画(Course Schedule)

1. 組織行動論:モチベーション(1)
2. 組織行動論:モチベーション(2)
3. 組織行動論:個人と組織の関係性(1)
4. 組織行動論:個人と組織の関係性(2)
5. 組織行動論:リーダーシップ(1)
6. 組織行動論:リーダーシップ(2)
7. 組織行動論:コンフリクト(1)
8. 組織行動論:コンフリクト(2)
9. 組織行動論:組織文化(1)
10. 組織行動論:組織文化(2)
11. 労働政策:外部労働市場と内部労働市場(1)
12. 労働政策:外部労働市場と内部労働市場(2)
13. 労働法:労働法制と就業管理(1)
14. 労働法:労働法制と就業管理(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内で指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内レポート(60%)/授業姿勢(出席、発言、発表)(40%)

テキスト（Textbooks）

1. 鈴木竜太・服部泰宏、2019、『組織行動　組織の中の人間行動を探る』、有斐閣（ISBN:978-4641150669）

参考文献（Readings）

授業内で紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

全授業回のうち、概ね半数程度対面実施予定

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG401／キャリアデザイン1(D) (Career Design 1(D))		
担当者名 (Instructor)	山崎　京子(YAMAZAKI KYOKO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. キャリア・デザインにおける心理学的側面の主要理論を理解できるようになること。
2. 理論を用いた先行研究を調べ、研究の概要説明ができるようになること。
3. 理論を自分自身のキャリア形成に活かし、キャリア・コンサルティングに適用する方法を理解できるようになること。

※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The goals this course are to
1. Be able to understand the main theories of psychological aspects in career design.
2. Be able to investigate previous theoretical research and explain the outline of the research.
3. Be able to understand how to apply the theory to own career-development and how to apply it to career-consulting.

授業の内容(Course Contents)

キャリアに関する議論は、個人(心理学的な側面)、組織(人材開発的な側面)、そして社会(労働政策的な側面)といった、ミクロからマクロに至るまでの様々な切り口から検討をすることができる領域である。
この講義ではミクロに焦点を絞り、個人のキャリアの捉え方に関する理論を研究者ごとに学び、自分自身のキャリアの内省やキャリア・コンサルティングへの適用を検討する。
グループで先行研究を調べ、毎回講義内で発表を行う。

The discussions about career can be examined from various perspectives, from micro to macro, such as individuals (psychological aspects), organizations (human resources development aspects), and societies (labor policy aspects).
This course focuses on the micro, studying the individual's career theory by each academic researcher, and then reflecting into oneself and considering and considering the application to career-consulting.
Each group will investigate previous research and make a presentation in the lecture every time.

授業計画(Course Schedule)

1. キャリア心理学概論
2. スーパー 「ライフキャリア・レインボー」
3. ホランド 「VPI 職業興味検査」
4. シャイン 「キャリア・アンカー」
5. シュロスバーグ 「トランジション」
6. デシ＆ライアン 「自己決定理論」
7. バンデューラ 「自己効力感」
8. クランボルツ 「計画された偶発性」
9. ホール 「プロティアン・キャリア」
10. サビカス 「キャリア・アダプタビリティ」
11. ハンセン 「統合的キャリア発達」
12. リンダ・グラットン 「ライフ・シフト」
13. キャリア・コンサルティングの理論と実践(1)
14. キャリア・コンサルティングの理論と実践(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内で指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内レポート(60%)/授業姿勢(出席、発言、発表)(40%)

テキスト(Textbooks)

1. 渡辺三枝子、2018、『新版キャリアの心理学』、ナカニシヤ出版 (ISBN:978-4779512940)

参考文献(Readings)

授業内で紹介します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

全授業回のうち、概ね半数程度対面実施予定

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG402／キャリアデザイン2(D) (Career Design 2(D))		
担当者名 (Instructor)	山崎　京子(YAMAZAKI KYOKO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7500	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. キャリア研究の進め方を理解できるようになること。
2. 論文に示された研究成果を、自社や自分自身に適用するにはどうすべきかを検討できるようになること。

※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The goals this course are to
1. Be able to understand how to proceed with career research.
2. Be able to consider how to apply the research results shown on the paper to your company or yourself.

授業の内容(Course Contents)

キャリアに関する議論は、個人(心理学的な側面)、組織(人材開発的な側面)、そして社会(労働政策的な側面)といった、ミクロからマクロに至るまでの様々な切り口から検討をすることができる領域である。
さらに、学生やシニアといった発達段階や、非正規労働者や外国人労働者といった労働条件などの違いによって課題が異なることから、研究対象ごとの議論が行われる。
この講義では対象に焦点を絞り、どのような研究が実際に行われているのかを学び、キャリア研究の進め方と実務適用について検討する。
グループで先行研究を調べ、毎回講義内で発表を行う。

The discussions about career can be examined from various perspectives, from micro to macro, such as individuals (psychological aspects), organizations (human resources development aspects), and societies (labor policy aspects).
Furthermore, since the career issues differ depending on the developmental stage such as students or seniors, or the working conditions such as non-proper workers, foreign workers; the discussions will be held for each research target and subject.
This course focuses on the target and subject; understanding what kind of research is actually being conducted, and considering how to proceed with career research and practical application.

授業計画(Course Schedule)

1. キャリア研究概論
2. キャリア研究:大学生
3. キャリア研究:新入社員
4. キャリア研究:ミドル
5. キャリア研究:中間管理職
6. キャリア研究:経営者
7. キャリア研究:シニア
8. キャリア研究:女性
9. キャリア研究:非正規労働者
10. キャリア研究:外国人労働者
11. キャリア研究:技術職・専門職
12. キャリア研究:グローバル
13. キャリア研究:ワークライフ・バランス
14. キャリア研究:組織によるキャリア支援

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業内で指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内レポート(60%)/授業姿勢(出席、発言、発表)(40%)

テキスト(Textbooks)

必要に応じてレジュメを配布します。

参考文献（Readings）

授業内で紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

全授業回のうち、概ね半数程度対面実施予定

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG411／マーケティング・エッセンシャルズ１(D) (Marketing Essentials 1(D))		
担当者名 (Instructor)	斎藤　明(SAITO AKIRA)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. マーケティング・マネジメントにおける基本的概念やフレームワークの理解
2. 今後のマーケティング分野での発展科目の履修や自律的研究に向けた基盤の確立

※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

1. Understanding basic concepts and frameworks in marketing management
2. Acquiring basic knowledge and methods for conducting advanced research in the marketing field

授業の内容(Course Contents)

マーケティングは 20 世紀初めに市場創造の理念や方法として開発され、以来ビジネスにおいて重要な役割を果し続けています。今日、マーケティングは、ビジネス(製造業、流通業、サービス業等)だけでなく、行政機関や地域、非営利組織へと活用領域を広げています。
本講義は、マーケティングの基本的な考え方と活動を中心に学習し、今後のマーケティング分野での発展科目の履修や当該分野自律的学習に向けた基礎的準備講座とします。

Marketing was developed at the beginning of the 20th century as an idea and method of market creation and has played an important role in business since that time. Today, marketing is applied not just to business (manufacturing, distribution, service, etc.), but also to administrative organizations, regions, and nonprofit organizations.
This lecture will focus on the basic concepts and activities of marketing, and will be a basic preparatory class for advanced disciplines of marketing study.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション:マーケティングとは
2. 発展の歴史／マーケティング・マネジメントの基本的な考え方
3. マーケティング環境:各市場の特徴／:標的市場の設定
4. マーケティング・ミックスとは
5. 製品政策(1):製品概説(製品分類／製品ミックス概念)
6. 製品政策(2):プロダクトライフサイクルとマーケティングミックス
7. 価格政策(1):価格概説
8. 価格政策(2):上澄価格と浸透価格
9. 流通政策(1):流通チャネル概説
10. 流通政策(2):流通諸理論
11. マーケティング・コミュニケーション政策(1):マーケティング・コミュニケーション概説
12. マーケティング・コミュニケーション政策(2):広告・PR・SP・人的販売
13. 最終課題報告
14. 最終課題報告

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前学修(予習):前回までの復習を実施し、授業に参加する。
事後学修(復習):授業内で詳細された概念等に関して整理し、ノートを作成し、理解を促進する。
上記プロセスを繰り返し、授業内容の理解を獲得し、自律的学修を促進することを推奨しています。

成績評価方法・基準(Evaluation)

課題プレゼンテーション(60%)/授業内ディスカッションへの貢献度(40%)

テキスト(Textbooks)

講義資料は、ブラックボード等で、配布する。
テキストについては、講義時に紹介する。

参考文献（Readings）

1. 和田 充夫（編集），日本マーケティング協会（編集）、2005、『マーケティング用語辞典（日経文庫）』、日本経済新聞社（ISBN:4532110742）

2. 有馬 賢治（著），岡本 純（著），斎藤 明（著），長崎 秀俊 （著），宮下 雄治（著）、2016、『マーケティング・オン・ビジネス―基礎からわかるマーケティングと経営』、新世社（ISBN:4883842347）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

※原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。但し、状況により 1 回程度対面実施を検討する。

※適宜、関連する実務家ゲストスピーカーを招く予定です。

本講義は、マーケティングの基本的な考え方を中心に学習し、そうしたマーケティング分野での発展科目の履修や自律的学習に向けた基礎的内容となりますので、履修時に、注意してください。
本研究科では、マーケティング分野において、多くの発展科目・応用科目（B2B、サービス、ブランド、グローバル、ストラテジー等）が開講されています。

実務で関連した業務（営業系業務）経験や、学部レベルで基礎的専門用語や概念について学習した経験のある方は、本科目の履修を経ずに、多く開講されている発展科目・応用科目の積極的な履修を推奨します。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG413／マーケティング・エッセンシャルズ２(D) (Marketing Essentials 2(D))		
担当者名 (Instructor)	斎藤　明(SAITO AKIRA)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

1. マーケティング・マネジメントにおける基本的概念やフレームワークの理解
2. 今後のマーケティング分野での発展科目の履修や自律的研究に向けた基盤の確立

※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

1. Understanding basic concepts and frameworks in marketing management
2. Acquiring basic knowledge and methods for conducting advanced research in the marketing field

授業の内容(Course Contents)

マーケティングは 20 世紀初めに市場創造の理念や方法として開発され、以来ビジネスにおいて重要な役割を果し続けています。今日、マーケティングは、ビジネス(製造業、流通業、サービス業等)だけでなく、行政機関や地域、非営利組織へと活用領域を広げています。
本講義は、マーケティングの基本的な考え方と活動を中心に学習し、今後のマーケティング分野での発展科目の履修や当該分野自律的学習に向けた基礎的準備講座とします。

Marketing was developed at the beginning of the 20th century as an idea and method of market creation and has played an important role in business since that time. Today, marketing is applied not just to business (manufacturing, distribution, service, etc.), but also to administrative organizations, regions, and nonprofit organizations.
This lecture will focus on the basic concepts and activities of marketing, and will be a basic preparatory class for advanced disciplines of marketing study.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション／サービスマーケティング(1):サービス概説
2. サービスマーケティング(2):SD ロジック・価値共創
3. ブランド(1):諸概念
4. ブランド(2):ブランディング
5. 消費者行動(1):消費者行動概説(意思決定プロセス)(影響要因)
6. 消費者行動(2):消費者行動諸概念(態度・関与)
7. 消費者行動(3):消費者行動諸概念(流行、クチコミ他)
8. ソーシャルマーケティング／非営利組織のマーケティング
9. ゲスト・スピーカーによる実践報告(A)
10. ゲスト・スピーカーによる実践報告(A)
11. ゲスト・スピーカーによる実践報告(B)
12. ゲスト・スピーカーによる実践報告(B)
13. 最終課題報告
14. 最終課題報告

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

事前学修(予習):前回までの復習を実施し、授業に参加する。
事後学修(復習):授業内で詳細された概念等に関して整理し、ノートを作成し、理解を促進する。
上記プロセスを繰り返し、授業内容の理解を獲得し、自律的学修を促進することを推奨しています。

成績評価方法・基準(Evaluation)

課題プレゼンテーション(60%)/授業内ディスカッションへの貢献度(40%)

テキスト(Textbooks)

講義資料については、ブラックボード等で配布する。
テキストについては、授業内に紹介する。

参考文献（Readings）

1. 和田 充夫（編集），日本マーケティング協会（編集）、2005、『マーケティング用語辞典（日経文庫）』、日本経済新聞社（ISBN:4532110742）

2. 有馬 賢治（著），岡本 純（著），斎藤 明（著），長崎 秀俊 （著），宮下 雄治（著）、2016、『マーケティング・オン・ビジネス―基礎からわかるマーケティングと経営』、新世社（ISBN:4883842347）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

※原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。但し、状況により 1 回程度対面実施を検討する。

※適宜、実務家ゲストスピーカーを招く予定です。

本講義は、マーケティングの基本的な考え方を中心に学習し、そうしたマーケティング分野での発展科目の履修や自律的学習に向けた基礎的内容となりますので、履修時に、注意してください。
本研究科では、マーケティング分野において、多くの発展科目・応用科目（B2B,、サービス、ブランド、グローバル、ストラテジー等）が開講されています。

実務で関連した業務（営業系業務）経験や、学部レベルで基礎的専門用語や概念について学習した経験のある方は、本科目の履修を経ずに、多く開講されている発展科目・応用科目の積極的な履修を推奨します。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG421／サービス・マーケティング1（D） (Services Marketing 1(D))		
担当者名 (Instructor)	田中　道昭(TANAKA MICHIAKI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

サービス産業全般に対するサービス経営学の中核としてのサービス・マーケティング、サービス産業全般に対するマーケティングとしてのサービス・マーケティング（広義のサービスに関するマーケティング、政治マーケティング等も含む）を実践的に学ぶ。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

In this course, we will learn practically about service marketing as a core area of Service Business Management, and service marketing as a marketing strategy for the service industry in general (including service marketing and political marketing in a broad sense).

授業の内容(Course Contents)

この授業では、サービス・マーケティングをサービス産業全般に対するサービス経営学の中核領域と捉えてサービス・マーケティングを学んでいく。
サービス産業の特徴やその重要性をカバーした後で、サービス経営学全般を鳥瞰し、サービス・マーケティングの基礎知識をカバー、そしてその詳細について学んでいく。
カバーする業種には、医療・介護、ホテル・旅行、アミューズメント・エンターテイメント、飲食、IT、生命保険、銀行・証券、その他サービス業等を含むものとする。 選挙戦及び政権運営を対象とする政治マーケティングも対象とする。
このような位置付けと問題意識を踏まえて、マーケティング戦略である STP、マーケティング戦術である 7P とサービスミックス、企業のポジショニングそのものであるブランディングというマーケティングの要諦のなかでサービス・マーケティングを策定し、実際に実行していく手法を学んでいく。
特にサービス・マーケティングの中核となるブランディングに重点を置き、サービスブランディングのみならず、店舗ブランディング、そして経営者や開発者のセルフブランディング、コーポレートブランディングについてもカバーしていく。 またサービスにおける顧客心理と購買心理過程においては、実際に想定顧客とのロープレ演習等も行い、実践的にクラスを進めていく。

In this class, we will learn about service marketing, consider service marketing as a core area of Service Business Management Studies for the service industry as a whole.
After covering the characteristics of the service industry and its importance, we will cover all aspects of Service Business Management, covering basic knowledge of service marketing, and deepen our knowledge about it.
The business categories covered include medical and nursing care, hotel and travel, amusement and entertainment, food and beverage, IT, life insurance, banking and securities, and other services. It also covers political marketing for election campaigns and government operations.
Based on the position and awareness of the problem, we will learn how to develop and implement service marketing by developing marketing strategies such as STP, marketing tactics such as 7P and service mix, and branding, which is the positioning of a company.
In particular, we will focus on company branding, which is the core of service marketing, and will cover not only service branding, but also store branding, and self-branding and corporate branding for managers and developers. Also, in terms of customer psychology and purchasing psychology in service, we will also actually perform roleplay seminars with the supposed customer, and proceed with the class in a practical way.

授業計画(Course Schedule)

1. サービス産業の特徴とサービス経営学（1）
2. サービス産業の特徴とサービス経営学（2）
3. サービス・マーケティングの基礎知識（1）
4. サービス・マーケティングの基礎知識（2）
5. サービス・マーケティングにおける STP 戦略（1）
6. サービス・マーケティングにおける STP 戦略（2）
7. サービス・マーケティングにおける 7P 戦術とサービスミックス（1）
8. サービス・マーケティングにおける 7P 戦術とサービスミックス（2）
9. サービスブランディング（1）
10. サービスブランディング（2）

11. 選挙及び政権運営(統治)を対象とする政治マーケティング(1)
12. 選挙及び政権運営(統治)を対象とする政治マーケティング(2)
13. サービスにおける顧客心理と購買心理過程(1)
14. サービスにおける顧客心理と購買心理過程(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予め経営戦略、マーケティング戦略等の基礎的な科目を履修しておくことを推奨するが、これらの履修がなくても理解できるような授業運営を行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(20%)/期中レポート(20%)/クラス貢献(20%)/他の受講生への貢献(20%)/プレゼンテーション(20%)

テキスト(Textbooks)

1. 田中道昭、2012、『ミッションの経営学』、すばる舎リンケージ (ISBN:ISBN978-4-7991-0164-3)
2. 田中道昭、2013、『人と組織 リーダーシップの経営学』、すばる舎リンケージ (ISBN:ISBN978-4-7991-0236-7)
3. フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー、2008、『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント』、ピアソン・エデュケーション (ISBN:ISBN978-4-89471-657-5)
4. 田中道昭、2017、『アマゾンが描く 2022 年の世界』、PHP 研究所 (ISBN:ISBN978-4-569-83733-8)
5. 田中道昭、2019、『GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略』、日本経済新聞出版社 (ISBN:ISBN978-4532322656)

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

参考文献(Readings)

1. 竹内一正、2014、『イーロン・マスクの挑戦』、宝島社 (ISBN:ISBN978-4-8002-2848-2)
2. フィリップ・コトラー、2010、『コトラーのマーケティング 3.0』、朝日新聞出版 (ISBN:ISBN978-4023308398)
3. ロバート・スコーブル/シェル・イスラエル、2014、『コンテクストの時代』、日経 BP 社 (ISBN:ISBN978-4-8222-5047-8)
4. ケビン・レーン・ケラー、2010、『戦略的ブランド・マネジメント』、東急エージェンシー (ISBN:ISBN978-4-88497-112-0)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

【双方向による授業】
本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%(14 回中 14 回)である。
【実務家教員による授業】
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG422／サービス・マーケティング2(D) (Services Marketing 2(D))		
担当者名 (Instructor)	田中　道昭(TANAKA MICHIAKI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

すべての産業に対するホスピタリティーや顧客満足向上におけるマーケティング手法を最新のサービス工学等も交えて実践的に学んでいく。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

We will learn about hospitality and marketing methods for improving customer satisfaction in all industries, including the latest service engineering

授業の内容(Course Contents)

この授業では、サービス・マーケティングをサービス産業全般に対するサービス経営学の中核領域であると捉えることに加えて、すべての産業におけるホスピタリティーや顧客満足向上に対するマーケティング手法と捉えて、サービス・マーケティングを学んでいく。 具体的には、サービスの質と価値、ホスピタリティー、顧客価値、顧客満足、感動、CRM とサービス・マーケティング等のサービス・マーケティングの領域のみならず、サービス工学やサービスに関連する数理マーケティング等の先端分野も学んでいく。サービス・マーケティング 1 と同様に、特にサービス・マーケティングの中核となるブランディングに重点を置き、サービスブランディングのみならず、店舗ブランディング、そして経営者や開発者のセルフブランディング、コーポレートブランディングについてもカバーし、最終的にはコーポレートバリューとブランドバリュー向上のためのサービス・マーケティングを実践していく。 またホスピタリティー、顧客価値、顧客満足、感動においては、実際に想定顧客とのロープレ演習等も行い、実践的にクラスを進めていく。

In this class, in addition to thinking of service marketing as a core area of Service Business Management in the service industry in general, service marketing is studied as a marketing method for hospitality and customer satisfaction improvement in all industries. To be specific, we will learn not only the quality and value of services, hospitality, customer value, customer satisfaction, impression, CRM and service marketing, but also the cutting edge fields of service engineering and service related mathematical marketing. As with Service Marketing 1, in particular, we will focus on company branding, which is the core of service marketing, and will cover not only service branding, but also store branding, and self-branding and corporate branding for managers and developers and in the end, we will practice service marketing to improve the companies corporate value and brand value. Also, in terms of hospitality, customer value, customer satisfaction, and inspiration, we will also actually perform roleplay seminars with the supposed customer, and proceed with the class in a practical way.

授業計画(Course Schedule)

1. サービス工学とサービス・マーケティング(1)
2. サービス工学とサービス・マーケティング(2)
3. 数理マーケティングとサービス・マーケティング(1)
4. 数理マーケティングとサービス・マーケティング(2)
5. マネジメントシステムとサービス・マーケティング(1)
6. マネジメントシステムとサービス・マーケティング(2)
7. サービスの質と価値(1)
8. サービスの質と価値(2)
9. ホスピタリティー、顧客価値、顧客満足、感動(1)
10. ホスピタリティー、顧客価値、顧客満足、感動(2)
11. CRM とサービス・マーケティング(1)
12. CRM とサービス・マーケティング(2)
13. コーポレートバリューとブランドバリュー向上のためのサービス・マーケティング(1)
14. コーポレートバリューとブランドバリュー向上のためのサービス・マーケティング(2)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(20%)/期中レポート(20%)/クラス貢献(20%)/他の受講生への貢献(20%)/プレゼンテーション(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 田中道昭、2012、『ミッションの経営学』、すばる舎リンケージ （ISBN:ISBN978-4-7991-0164-3）
2. 田中道昭、2013、『人と組織 リーダーシップの経営学』、すばる舎リンケージ （ISBN:ISBN978-4-7991-0236-7）
3. 窪山哲雄、2014、『ホスピタリティ・マーケティングの教科書』、実業之日本社 （ISBN:ISBN978-4-408-59400-2）
4. 田中道昭、2017、『アマゾンが描く 2022 年の世界』、PHP 研究所 （ISBN:ISBN978-4-569-83733-8）

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

参考文献（Readings）

1. ティム・ブラウン、2014、『デザイン思考が世界を変える』、早川書房 （ISBN:ISBN978-4-15-050407-6）
2. ロバート・スコーブル/シェル・イスラエル、2014、『コンテクストの時代』、日経 BP 社 （ISBN:ISBN978-4-8222-5047-8）
3. 本村陽一、2012、『サービス工学の技術』、東京電機大学出版局 （ISBN:ISBN978-4-501-55100-1）
4. 泉田良輔、2014、『Google vs. トヨタ―自動運転車は始まりにすぎない』、角川 （ISBN:ISBN978-4-04-080023-3）
5. 田中道昭、2029、『GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略』、日本経済新聞出版社 （ISBN:ISBN978-4532322656）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

系統的履修

サービス・マーケティング1を履修しておくこと。

【双方向による授業】

本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。

【実務家教員による授業】

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG431／流通システム論1(D) (Sales and Distribution System 1(D))		
担当者名 (Instructor)	高岡　美佳(TAKAOKA MIKA)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

流通システムは，これまで数々のイノベーション(革新)を経て現在にいたっている。本授業では，事例の紹介などを交えながら，その革新の実態を考察するとともに新たな芽を探求する。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

Distribution systems have been, at present, through various innovations up until now. In this class, while cases are introduced, the actual conditions of innovations are examined, and new opportunities are searched for.

授業の内容(Course Contents)

今日，生産から消費にいたる流通プロセスは多様化している。そこに至るまでにどんな革新があったのか。その革新のキーとなった要素は何であったのか。そこに関わった企業家のモチベーションは何か。各国における流通イノベーションの歴史と進化の実態について，企業事例などを紹介しつつ，今後を探る。

Today, distribution processes, from production to consumption, are diversified. What kind of innovation was there before that? What was the key element of this innovation? What is the motivation of the entrepreneurs involved? With regards to the actual conditions of history and evolution of distribution innovations in each country, the future will be investigated, while business cases are introduced.

授業計画(Course Schedule)

1. 流通の社会的役割
2. 流通の機能
3. 流通革命の背景
4. メーカー主導の流通システム
5. 「流通革命」とチェーンストアの役割
6. フランチャイズシステム理論
7. プライベート・ブランド(PB)の実際
8. サプライチェーン・マネジメント(SCM)の発展 1
9. サプライチェーン・マネジメント(SCM)の発展 2
10. サプライチェーン・マネジメント(SCM)の発展 3
11. 「情報」と流通
12. 取引コストと企業の境界
13. ショッピングセンター時代の本質
14. 流通業と環境・CSR

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/授業での発言(60%)

テキスト(Textbooks)

講義ごとにレジュメ，資料を配布する。

参考文献(Readings)

1. 伊藤元重編、2005、『日本の産業システム6　新流通産業』、NTT 出版 (ISBN:4757121059)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG432／流通システム論2(D) (Sales and Distribution System 2(D))		
担当者名 (Instructor)	高岡　美佳(TAKAOKA MIKA)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

時代の変遷の中でイノベーター達は，様々な小売業態(ビジネスモデル)を生み出した。本授業では，これらイノベーションの実態と今後の新たな可能性について探求する。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

With the changing of the times, innovators have produced various retail business models. In this class, the actual condition of these innovations and new future possibilities are investigated.

授業の内容(Course Contents)

これまで先進諸国では，その時代に特徴的な小売業態が流通業をリードし，流通システムを変えてきた。どんな業態がいつ，なぜ登場したのか。誰が革新を担ったのか。そして，その革新性の本質は何であったのか。これらの点を，日本と諸外国の代表企業をケースに取り上げ，明らかにしていきたい。

Up until now, in advanced countries, the characteristic retail type has led the distribution industry, and distribution systems have changed. What kind of business conditions and when and why did they appear? Who took charge of the innovation? And, what was the essence of the innovation? We would like to take up and clarify these points in cases of representative corporations of Japan and overseas countries.

授業計画(Course Schedule)

1. 小売業種・業態の登場とその背景
2. 小売業態 1: 百貨店
3. 小売業態 2: スーパーマーケット(SM)
4. 小売業態 3: 総合スーパー(GMS)
5. 小売業態 4: コンビニエンスストア(CVS)
6. 小売業態 5: ショッピングセンター
7. 小売業態 6: 専門店
8. チェーン小売業の諸形態
9. 近年の小売ビジネスモデル
10. SPAとサプライチェーンマネジメント
11. インターネットの発達と e コマース
12. 小売業とカスタマイゼーション
13. 小売フォーマットの本質と新たな可能性
14. 小売業のグローバル化戦略

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時に指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/授業での発言(60%)

テキスト(Textbooks)

講義ごとにレジュメ，資料を配布します

参考文献(Readings)

1. 田村正紀、2008、『業態の盛衰　現代流通の激流』、千倉書房 (ISBN:4805109181)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG441／コーポレート・マーケティング(D) (Corporate Marketing(D))		
担当者名 (Instructor)	田中　道昭(TANAKA MICHIAKI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業全体を商品・サービス戦略などの主要なマーケティング戦略と高い融合性をもたせながら社内外にマーケティングしていく手法やミッションブランディングに代表される企業全体のブランディング手法を学んでいく。政治マーケティングにおけるブランディング等もカバーする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

We will learn how to market the whole company both internally and externally, and how to brand the whole company, such as mission branding, while having a high fusion with the main marketing strategy, such as product and service strategy, etc. We will also cover branding and other aspects of political marketing.

授業の内容(Course Contents)

コーポレート・マーケティングとは、企業などの組織全体を社内外にマーケティングしていく手法である。
その中核はミッションブランディングにある一方で、実際に顧客に提供する商品・サービスはもとより、店舗戦略や経営戦略等に至るまで、企業の戦略ピラミッドのすべての階層との整合性が不可欠な分野でもある。
商品・サービスの背景には、コーポレートブランドが存在し、商品・サービスブランドと一体化している。優れたブランド企業の商品・サービスは、単に商品・サービスだけが優れているのではなく、一流の品質を維持するための企業活動やその背景としてのブランドプロミスに支えられているのである。
本講義においては、このような問題意識を踏まえて、マーケティング戦略である STP、マーケティング戦術である 4P、企業のポジショニングそのものであるブランディングというマーケティングの要諦のなかでコーポレート・マーケティングを策定し、実際に実行していく手法を学んでいく。
企業におけるミッション・ビジョン・バリュー、そしてストラテジーを、実際の商品・サービスと連携して強化していく手法をカバーしていく。 特にコーポレート・マーケティングの中核となるブランディングに重点を置き、コーポレートブランディングのみならず、商品ブランディング、店舗ブランディング、そして経営者や開発者のセルフブランディングについてもカバーしていく。
そのなかでも、グランドデザインの構築というコーポレート・マーケティングの領域もカバーし、ブランド理念やブランドビジョンから始まって、ブランドストラテジー、さらには商品・サービスのみならず、実際のデザインに至るまで、全体像と構成要素を構築し、ブランドの理想像やミッションブランディングを提示していく手法を学んでいく。
さらには、コーポレート・マーケティングとしての企業 PR やコーポレートアイデンティティー、そして上場企業の IR(インベスターズリレーションズ)の実務もカバーし、最終的にはコーポレートバリューやブランドバリュー、株価などを高めていく手法についても学んでいく。
政治マーケティング(特に選挙マーケティング)におけるブランディングも対象とする。

Corporate Marketing is a method of marketing an entire organization, such as a company, internally and externally.
While the core of this is mission branding, consistency with all classes of the strategic pyramid of the business is indispensable, not only products and services that are actually provided to customers, but also store strategies, management strategies, etc.
In the background of products and services, there is a corporate brand, and it is integrated together with the brand of products and services. The products and services of businesses with excellent brands are not only superior products and services, but are supported by corporate activities to maintain first class quality and brand promise as their background.
In this lecture, based on the awareness of the problem, we will learn how to develop and implement Corporate Marketing by developing marketing strategies such as STP, marketing tactic 4P, and branding, which is the positioning of a company and the essence of marketing.
We will cover techniques to enhance the mission, vision, value, and strategy of a business in cooperation with actual products and services. In particular, we will focus on company branding, which is the core of Corporate Marketing, and will cover not only corporate branding, but also product branding, store branding, and self-branding for managers and developers.
Among them, we cover the area of Corporate Marketing, which is the construction of grand design, and create the entire picture and constitutes, starting from the brand philosophy and brand vision, not only from the brand strategy, but also from the products and services, to the actual design and we will learn how to present the ideal image of the brand and mission branding.
Further, we will cover the practice of corporate PR, corporate identity, and investor relations (IR) of listed companies as Corporate Marketing, and finally, we will also teach how to raise corporate value, brand value, and stock price.
We will also cover branding in political marketing (especially in electoral marketing).

授業計画（Course Schedule）

1. コーポレート・マーケティングの基礎知識と STP 戦略（1）
2. コーポレート・マーケティングの基礎知識と STP 戦略（2）
3. コーポレート・マーケティングと 4P 戦術（1）
4. コーポレート・マーケティングと 4P 戦術（2）
5. コーポレートブランディングと商品・サービスブランディング（1）
6. コーポレートブランディングと商品・サービスブランディング（2）
7. マーケティング 3.0 とミッションブランディング（1）
8. マーケティング 3.0 とミッションブランディング（2）
9. 企業 PR とコーポレートアイデンティティー（1）
10. 企業 PR とコーポレートアイデンティティー（2）
11. 政治マーケティングにおけるブランディング（1）
12. 政治マーケティングにおけるブランディング（2）
13. コーポレートバリューとブランドバリュー（1）
14. コーポレートバリューとブランドバリュー（2）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

予め経営戦略、マーケティング戦略等の基礎的な科目を履修しておくことを推奨する

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(20%)/期中レポート(20%)/クラス貢献(20%)/他の受講生への貢献(20%)/プレゼンテーション(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 田中道昭、2012、『ミッションの経営学』、すばる舎リンケージ （ISBN:ISBN978-4-7991-0164-3）
2. 田中道昭、2013、『人と組織 リーダーシップの経営学』、すばる舎リンケージ (ISBN:ISBN978-4-7991-0236-7)
3. ケビン・レーン・ケラー、2010、『戦略的ブランド・マネジメント』、東急エージェンシー （ISBN:ISBN978-4-88497-112-0）
4. 高橋恭介＋田中道昭、2017、『あしたの履歴書』、ダイヤモンド社 （ISBN:ISBN978-4-478-10393-7）
5. 田中道昭、2017、『アマゾンが描く 2022 年の世界』、PHP 研究所 （ISBN:ISBN978-4-569-83733-8）

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

参考文献（Readings）

1. フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー、2008、『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント』、ピアソン・エデュケーション （ISBN:ISBN978-4-89471-657-5）
2. 竹内一正、2014、『イーロン・マスクの挑戦』、宝島社 （ISBN:ISBN978-4-8002-2848-2）
3. ロバート・スコーブル/シェル・イスラエル、2014、『コンテクストの時代』、日経 BP 社 (ISBN:ISBN978-4-8222-5047-8)
4. ティム・ブラウン、2014、『デザイン思考が世界を変える』、早川書房 （ISBN:ISBN978-4-15-050407-6）
5. 田中道昭、2019、『GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略』、日本経済新聞出版社 (ISBN:ISBN978-4532322656)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【双方向による授業】

本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。

【実務家教員による授業】

本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG451／ラグジュアリーブランド・マネジメント1D (Luxury Brand Management 1(D))		
担当者名 (Instructor)	外村　彩(TONOMURA AYA)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本におけるラグジュアリーブランドビジネスの変遷、ビジネスモデル、戦略等を体系的に網羅することにより、ラグジュアリーブランドビジネスとは、またラグジュアリーとはどういう状態のことなのか、ということを考察し明らかにする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The course covers the historical transition, business models, strategies of luxury brand business in Japan market with the objective to clarify the positioning of luxury brand business and the meaning of "luxury."

授業の内容(Course Contents)

日本のラグジュアリーブランドビジネスで活躍されている実務家をゲストスピーカーとしてお招きし、多様な角度から業界の最新動向を知る。ゲストスピーカーはそれぞれ異なる分野の専門家で予定され、ラグジュアリーブランドビジネスへの体系的・網羅的な理解が深まる構成となっている。(マーケティング・デジタル・E コマース・セールス・ヴィジュアルマーチャンダイジング・デザイン・店舗展開・人事・ファイナンス・経営層等を予定)担当講師は全体のファシリテーターとして、最終的に当科目において明らかにする論題への解を学生自身が導き出せるよう、ゲストスピーカーと連携、各授業における議論の促進を図る。

The course will showcase multiple aspects of the latest industry situation, inviting several practitioners excelling in the business. Guest speakers will be composed of professionals in different fields (e.g. marketing / digital / e-commerce / sales / visual merchandising / design / outlet strategies / human resources / finance / management) to enable and deep-dive into the the systematic understanding of the luxury brand business. The lecturer will coordinate with the guest speakers to facilitate the class discussion and will lead the students to develop their own approaches to the thesis at the end of the course.

授業計画(Course Schedule)

1. ラグジュアリーブランド・マネジメント概論(本科目の目的と概要)
2. ゲストスピーカー講義1
3. ゲストスピーカー講義2
4. ゲストスピーカー講義3
5. ゲストスピーカー講義4
6. ゲストスピーカー講義5
7. ゲストスピーカー講義6
8. ゲストスピーカー講義7
9. ゲストスピーカー講義8
10. ゲストスピーカー講義9
11. ゲストスピーカー講義10
12. ゲストスピーカー講義11
13. ゲストスピーカー講義12
14. 総括講義

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

概論講義にて当科目を通じて明らかにしたい論題(＝各セメスター期末レポート)について授業外でも各自調べていただけると尚良い。また、各ゲストスピーカー講義における議論を深めるための準備により、実務とアカデミック双方からの思考を期待する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/ディスカッションへの貢献(60%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. JN カプフェレ＋V バスティアン、2017、『The Luxury Strategy/ラグジュアリー戦略』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-55682-5)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG452／ラグジュアリーブランド・マネジメント2D (Luxury Brand Management 2(D))		
担当者名 (Instructor)	外村　彩(TONOMURA AYA)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本におけるラグジュアリーブランドビジネスの変遷、ビジネスモデル、戦略等を体系的に網羅することにより、ラグジュアリーブランドビジネスとは、またラグジュアリーとはどういう状態のことなのか、ということを考察し明らかにする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The course covers the historical transition, business models, strategies of luxury brand business in Japan market with the objective to clarify the positioning of luxury brand business and the meaning of "luxury."

授業の内容(Course Contents)

日本のラグジュアリーブランドビジネスで活躍されている実務家をゲストスピーカーとしてお招きし、多様な角度から業界の最新動向を知る。ゲストスピーカーはそれぞれ異なる分野の専門家で予定され、ラグジュアリーブランドビジネスへの体系的・網羅的な理解が深まる構成となっている。(マーケティング・デジタル・E コマース・セールス・ヴィジュアルマーチャンダイジング・デザイン・店舗展開・人事・ファイナンス・経営層等を予定)担当講師は全体のファシリテーターとして、最終的に当科目において明らかにする論題への解を学生自身が導き出せるよう、ゲストスピーカーと連携、各授業における議論の促進を図る。

The course will showcase multiple aspects of the latest industry situation, inviting several practitioners excelling in the business. Guest speakers will be composed of professionals in different fields (e.g. marketing / digital / e-commerce / sales / visual merchandising / design / outlet strategies / human resources / finance / management) to enable and deep-dive into the the systematic understanding of the luxury brand business. The lecturer will coordinate with the guest speakers to facilitate the class discussion and will lead the students to develop their own approaches to the thesis at the end of the course.

授業計画(Course Schedule)

1. ラグジュアリーブランド・マネジメント概論(本科目の目的と概要)
2. ゲストスピーカー講義1
3. ゲストスピーカー講義2
4. ゲストスピーカー講義3
5. ゲストスピーカー講義4
6. ゲストスピーカー講義5
7. ゲストスピーカー講義6
8. ゲストスピーカー講義7
9. ゲストスピーカー講義8
10. ゲストスピーカー講義9
11. ゲストスピーカー講義10
12. ゲストスピーカー講義11
13. ゲストスピーカー講義12
14. 総括講義

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

概論講義にて当科目を通じて明らかにしたい論題(＝各セメスター期末レポート)について授業外でも各自調べていただけると尚良い。また、各ゲストスピーカー講義における議論を深めるための準備により、実務とアカデミック双方からの思考を期待する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/ディスカッションへの貢献(60%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. JN カプフェレ＋V バスティアン、2017、『The Luxury Strategy/ラグジュアリー戦略』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-55682-5)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG461／オペレーション・マネジメント1（D） (Operations Management 1(D))		
担当者名 (Instructor)	平井　直樹(HIRAI NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

オペレーションに関わる分野と、各企業が取り組んできた特徴や強みを理解するとともに、企業の活動を俯瞰できることを目的とする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The goal is to be able to understand areas involved in operations, the characteristics and strengths of each business, and to be able to see the activities of the business in a comprehensive manner

授業の内容(Course Contents)

オペレーションをマネジメントするということは、単にサプライチェーンなどの業務のやり方を管理、改善することだけではありません。
オペレーションは、企業戦略の実行に関わるものであり、生産・販売活動、組織構造、意思決定、マーケティング、情報技術など様々な企業活動が結びついています。
本講義では、ビジネススクールの基礎から応用的なエッセンスとして、オペレーションに関わる具体的な企業事例（ケース）を挙げながら、ディスカッションを通じて理解を深めていきます。

Managing operations is not just about managing and improving the way you do business in the supply chain, etc.
Managing operations are involved in the execution of corporate strategies, and are linked to a variety of corporate activities, including production and sales activities, organizational structures, decision making, marketing, and information technology.
In this lecture, we will deepen our understanding of the elements involved in Business school through discussions, while giving concrete examples (cases).

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. オペレーションのデジタル化（DX）
3. バリューチェーン・サプライチェーン（1）
4. バリューチェーン・サプライチェーン（2）
5. 情報技術によるオペレーションの変化（IT、AI）（1）
6. 情報技術によるオペレーションの変化（IT、AI）（2）
7. 労働者管理・生産管理（1）
8. 労働者管理・生産管理（2）
9. ゲストスピーカー予定
10. ディスカッション
11. ゲストスピーカー予定
12. ディスカッション
13. リーダーシップとトップマネジメント（1）
14. リーダーシップとトップマネジメント（2）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

適宜、講義内で指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席および授業への貢献（ディスカッション）(50%)/レポート(50%)

テキスト(Textbooks)

授業にて随時紹介します。

参考文献(Readings)

授業にて随時紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

「オペレーション・マネジメント1」「オペレーション・マネジメント2」を併せて履修することが望ましい。
「オペレーション・マネジメント1」だけの履修も可。
ゲストスピーカーの日程は暫定となります。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG462／オペレーション・マネジメント2（D） (Operations Management 2(D))		
担当者名 (Instructor)	平井　直樹(HIRAI NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

オペレーションに関わる分野と、各企業が取り組んできた特徴や強みを理解するとともに、企業の活動を俯瞰できることを目的とする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The goal is to be able to understand areas involved in operations, the characteristics and strengths of each business, and to be able to see the activities of the business in a comprehensive manner

授業の内容(Course Contents)

オペレーションをマネジメントするということは、単にサプライチェーンなどの業務のやり方を管理、改善することだけではありません。
オペレーションは、企業戦略の実行に関わるものであり、生産・販売活動、組織構造、意思決定、マーケティング、情報技術など様々な企業活動が結びついています。
本講義では、ビジネススクールの基礎から応用的なエッセンスとして、オペレーションに関わる具体的な企業事例（ケース）を挙げながら、ディスカッションを通じて理解を深めていきます。

Managing operations is not just about managing and improving the way you do business in the supply chain, etc.
Managing operations are involved in the execution of corporate strategies, and are linked to a variety of corporate activities, including production and sales activities, organizational structures, decision making, marketing, and information technology.
In this lecture, we will deepen our understanding of the elements involved in Business School through discussions, while giving concrete examples (cases).

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 働き方の変化・テレワーク・ワーケーション
3. マネージャーと心理的安全性・ティール（1）
4. マネージャーと心理的安全性・ティール（2）
5. ゲストスピーカーを予定（経営理念・クレド等を予定）
6. ディスカッション
7. 企業の知識創造・イノベーション活動（1）
8. 企業の知識創造・イノベーション活動（2）
9. リーンスタートアップ・アジャイル・デザイン思考（1）
10. リーンスタートアップ・アジャイル・デザイン思考（2）
11. ゲストスピーカーを予定（ホテル業界の方を予定）
12. ディスカッション
13. プレゼンテーションとまとめ（1）
14. プレゼンテーションとまとめ（2）

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

適宜、講義内で指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席および授業への貢献（ディスカッション）(50%)/プレゼンテーション(50%)

テキスト(Textbooks)

授業にて随時紹介します。

参考文献(Readings)

授業にて随時紹介します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

「オペレーション・マネジメント1」「オペレーション・マネジメント2」を併せて履修することが望ましい。
「オペレーション・マネジメント2」だけの履修も可。
ゲストスピーカーの日程は暫定となります。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG481／インダストリアルマネジメント1（D） (Industrial Management 1(D))		
担当者名 (Instructor)	秋野　晶二(AKINO SHOJI)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

イノベーションに関連する基本文献を読み、イノベーション論の基本的な内容を学ぶとともに、学術研究の読解能力を養うことを目標とする。今年度は、今日のイノベーションを理解するうえでも示唆に富むクレイトン・クリステンセンの『イノベーションのジレンマ』を読解する。

※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The aim is to read basic literature related to innovation, to learn the basic contents of innovation theory, and to develop the ability to read academic research. This year, we will read Clayton Christensen's Innovation Dilemma, which is inspiring to understand today's innovation.

授業の内容(Course Contents)

講義にあたっては、テキストの各章を受講者相互の議論を通じて読解していく。

受講者は、毎回の講義に先だって、テキストの各章を詳細に熟読し、読解して、論点や質問を整理したうえで参加しなければならない。その上で参加者全員が各文章、段落ごとの内容を説明、発表、報告しあい、また適宜討論をしながらまとめていく。また必要に応じて、各章のレジュメやノート、課題の提出、関連する他の文献のレジュメ提出などしながら、適宜、講義の内容を深め、整理することで、テキストを深く読解していく。

本講義では、単に内容を理解するというだけではなく、テキストの背景にある理論や様々な議論・論争、さらに筆者の考え方などにも言及しながら、受講者の理解が深まるまで、時間をかけて議論・読解を行うため予定通り進行するとは限らない。こうすることで、参加者各自が論文執筆にあたっての方法をも合わせて学ぶ。

なお講義の進め方は最初の講義（オンラインで実施予定）で説明する。受講者数に応じて進め方や内容を変更する場合があるので、最初の講義に参加をすること。（講義情報は Blackboard にて公開する。）

In the lecture, each chapter of the text will be read through discussions among the students.
Before each lecture, students should carefully read and understand each chapter of the text, read and comprehend issues and questions, and participate. After that, all the participants explain, present, and report the contents of each sentence and paragraph, and summarize them while discussing as appropriate. In addition, as necessary, the text of the lecture will be deeply understood by deepening and organizing the contents of the lecture, as appropriate, while submitting resumes, notes and assignments for each chapter, and submitting resumes for other related documents.
In this lecture, we will take time not only to understand the content but also to deepen the students' understanding while referring to the theory behind the text, various debates and controversies, and the author's way of thinking. It does not always go as planned for discussion and reading. In this way, each participant learns how to write a dissertation.
How to proceed with the lecture will be explained in the first lecture, but attendance to the first lecture （Online lecture） is mandatory because the procedure and content may change depending on the number of students. （The lecture information is released in 'Blackboard'.）

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 序章の輪読（1）
3. 序章の輪読（2）
4. 序章の輪読（3）
5. なぜ優良企業が失敗する理由（1）
6. なぜ優良企業が失敗する理由（2）
7. なぜ優良企業が失敗する理由（3）
8. バリュー・ネットワークとイノベーション（1）
9. バリュー・ネットワークとイノベーション（2）
10. バリュー・ネットワークとイノベーション（3）
11. 掘削機業界における破壊的イノベーション（1）
12. 掘削機業界における破壊的イノベーション（2）
13. 掘削機業界における破壊的イノベーション（3）

14. まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

本講義受講にあたっては、テキストを入手し、毎回の講義に先だって、テキストの各章を読解し、論点の整理や疑問点の確認、課題を済ませたうえで参加しなければならない。

成績評価方法・基準（Evaluation）

小レポート(40%)/毎回の提出物(35%)/出席・発言等(25%)

テキスト（Textbooks）

1. クレイトン・クリステンセン、『イノベーションのジレンマ』、翔泳社 (ISBN:4798100234)

参考文献（Readings）

必要に応じて適宜、講義において指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG482／インダストリアルマネジメント2(D) (Industrial Management 2(D))		
担当者名 (Instructor)	秋野　晶二(AKINO SHOJI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

プラットフォームビジネスに関連する基本文献を読み、プラットフォームビジネス論の基本的な内容を学ぶとともに、学術研究の読解能力を養うことを目標とする。プラットフォームビジネスを理解するうえで基本となるマイケル・クスマノらの『プラットフォームビジネス』を読解する。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The aim is to read basic literature related to platform business, to learn the basic contents of platform business theory, and to develop the ability to read academic research. We read Michael A. Cusumano et al.'s "The Business of Platforms", which is basic in understanding platform business.

授業の内容(Course Contents)

講義にあたっては、テキストの各章を輪読と報告、および受講者相互の議論を通じて読解していく。受講者は、毎回の講義に先だって、テキストの各章を詳細に熟読し、読解して、論点や質問を整理したうえで参加しなければならない。その上で報告者が各文章、段落ごとの内容を説明、発表、報告しあい、そして参加者全員が適宜討論をしながらまとめていく。また必要に応じて、各章のレジュメやノート、課題の提出、関連する他の文献のレジュメ提出などしながら、適宜、講義の内容を深め、整理することで、テキストを深く読解していく。
本講義では、単に内容を理解するというだけではなく、テキストの背景にある理論や様々な議論・論争、さらに筆者の考え方などにも言及しながら、受講者の理解が深まるまで、時間をかけて議論・読解を行うため予定通り進行するとは限らない。こうすることで、参加者各自が論文執筆にあたっての方法をも合わせて学ぶ。
なお本講義の進め方は最初の講義(オンラインで実施予定)で説明する。受講者数に応じて進め方や内容を変更する場合があるので、最初の講義に参加をすること。(講義情報は Blackboard にて公開する。)

In the lecture, each chapter of the text will be read and reported in turns, and lerned through discussions among the students. Before each lecture, students should carefully read and understand each chapter of the text, read and comprehend issus and questions, and participate. After that, a reporter explain, present, and report the contents of each sentence and paragraph, and all the participants summarize them while discussing as appropriate. In addition, as necessary, the text of the lecture will be deeply understood by deepening and organizing the contents of the lecture, as appropriate, while submitting resumes, notes and assignments for each chapter, and submitting resumes for other related documents.
In this lecture, we will take time not only to understand the content but also to deepen the students' understanding while referring to the theory behind the text, various debates and controversies, and the author's way of thinking. It does not always go as planned for discussion and reading. In this way, each participant learns how to write a dissertation.
How to proceed with the lecture will be explained in the first lecture (Online lecture), but attendance to the first lecture is mandatory because the procedure and content may change depending on the number of students. (The lecture information is released in 'Blackboard'.)

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス:本講義の目的・方法などについて
2. プラットフォーム思考
3. 覇者が全てもしくは大半を獲得する(1)
4. 覇者が全てもしくは大半を獲得する(2)
5. 戦略とビジネスモデル(1)
6. 戦略とビジネスモデル(2)
7. 共通する失敗(1)
8. 共通する失敗(2)
9. 既存企業は新たな世界に適応できるか(1)
10. 既存企業は新たな世界に適応できるか(2)
11. 諸刃の剣(1)
12. 諸刃の剣(2)
13. プラットフォームとその将来

14. まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

本講義受講にあたっては、テキストを入手し、毎回の講義に先だって、テキストの各章を読解し、論点の整理や疑問点の確認、課題を済ませたうえで参加しなければならない。なお報告担当者は輪読のためのレジュメを作成し、質問等に回答できるよう準備すること。

成績評価方法・基準（Evaluation）

報告・発言・出席等(40%)/提出物(30%)/小レポート(30%)

テキスト（Textbooks）

1. マイケル・クスマノ、アナベル・ガワー、デヴィッド・ヨッフィー、2020 年、『プラットフォームビジネス』、有斐閣 (ISBN:4641165688)

参考文献（Readings）

必要に応じて適宜、講義において指示する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG491／ベンチャー企業論(D) (Entrepreneurship(D))		
担当者名 (Instructor)	下川　智広(SHIMOKAWA TOMOHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この講義では、スタートアップ企業特有のマネジメント理論について学習する。優れた起業家たちの行動要素を用いて、アントレプレナーがスタートアップの成功確率を高める可能性がある論理を特定していく。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The course studies the creation and management of start-up businesses. Uses elements of entrepreneurial expertise to analyze the success of start-up businesses, identifying general logic that might increase the probability that an entrepreneurial venture will succeed.

授業の内容(Course Contents)

この講義は、不確実で複雑なビジネス環境において、合理的な経営判断に効果的な対処法や、ダイナミックで複雑な行動領域における革新的なツールを探求していく。優れた起業家たちの科学的・実践的に証明された最新の知識を習得し、不確実性下での適切な意思決定と、主体的な行動力が発揮できるようになります。

The course will effectively address the need to exercise rational managerial judgment in an uncertain and complex business landscape, and explore innovative tools in dynamic and complex fields of action.
You will acquire up-to-date scientifically and practically proven knowledge on entrepreneurial expertise, gain sovereignty in decision-making and acting under uncertainty.

授業計画(Course Schedule)

1. 1. イントロダクション
2. 1-1. 事業機会の認識と不確実性
3. 2. マーケティング
4. 2-1. ベンチャー企業におけるマーケティング①　エフェクチュエーション
5. 2-1. ベンチャー企業におけるマーケティング②　優れた起業家に共通する 5 つの原則
6. 3. ストラテジー
7. 3-1. ベンチャー企業における経営戦略①　不確実性下での戦略思考
8. 3-2. ベンチャー企業における経営戦略②　多様な戦略アプローチの適用
9. 3-3. ベンチャー企業における経営戦略③　理論と実務の統合
10. 4. 競争優位性
11. 4-1. 伝統的な競争優位の源泉
12. 4-2. 新たな競争優位の源泉(変化対応・再構築・エコシステム)とビジネスモデル
13. 5. リーガル
14. 6. ベンチャー企業論のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の予習範囲や課題は、講義内で説明する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席したうえで積極的な討論への参加(40%)/最終レポート(Final Report)(40%)/中間レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

テキストは教育支援システム Blackboard または立教時間を通じて配布します。

参考文献(Readings)

参考文献は適時指示します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

経営学基礎、ストラテジーやマーケティング関連科目を受講していることが望ましい。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG501／ベンチャー金融論(D) (Venture Financing(D))		
担当者名 (Instructor)	下川　智広(SHIMOKAWA TOMOHIRO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ベンチャー金融論では、ベンチャー企業や新規事業などのスタートアップに特徴的な資金調達ニーズに焦点を当て、起業家や財務マネージャーに必要となる基本的なベンチャーファイナンスのスキルを習得することを目的とする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

This course prepares students to be competent in the skills of entrepreneurs and corporate financial managers. The course focuses on the specific needs of entrepreneurial ventures, including start-up and development-phase financial and management problems.

授業の内容(Course Contents)

資金調達で成熟企業と異なる特性を有するベンチャー企業の資金調達戦略(スタートアップに関連する問題の範囲および複雑さをカバーしています)を取り上げ実務的に講義する。

This course aims to cover the finance of technological innovation, with a focus on valuation tools useful in the venture capital industry. These tools include the "venture capital method," discounted cash flow analysis, and contingent-claims. Covers the range, scope, and complexity of issues involved in entrepreneurial startups.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 1. ベンチャー企業のリスク:不確実性と情報の非対称性
3. 2. ベンチャー企業の資金調達戦略
4. 2-1. 段階的投資
5. 2-2. ベンチャーキャピタルメソッド(VC 法)
6. 2-3. プレマネー・バリュエーション
7. 2-4. ベンチャー企業の資本政策(資本政策表:キャップテーブル)
8. 2-5. ベンチャー企業の資金調達で利用される種類株式
9. 2-6. 投資契約と株主間契約
10. 2-7. 新株予約権付社債
11. 2-8. ストック・オプション
12. 3. エグジット
13. 3-1. IPO と Buyout(M&A)
14. 4. ベンチャー金融論の総まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の予習範囲や課題は、講義内で説明する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席したうえで積極的な討論への参加(40%)/最終レポート(Final Report)(40%)/中間レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

テキストは教育支援システム Blackboard または立教時間を通じて配布します。

参考文献(Readings)

参考文献は適時指示します。

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

ベンチャー企業論のほか、企業財務基礎などのファイナンス系科目を受講していることが望ましい。

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG541／Business Case Studies 1(D)		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7001	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ケース分析によって、企業行動や戦略およびそれに関連する理論の理解を深めることを目的とする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The purpose of this course is to deepen the understanding of organizational behavior and related theories through case analysis.

授業の内容(Course Contents)

本科目は、ケースと呼ばれる企業などの戦略、組織等に関わる様々な問題が描かれている教材を用いて行われる。ケースには企業行動や戦略に関する多くの情報が書かれており、それらを分析することで経営分析に関する経営理論を学ぶとともに、企業に対する理解を深めることを狙いとしている。戦略や意思決定に「唯一の正解」は存在しないが、様々なケースの企業行動や戦略を分析することで、ケース特有の事象から示唆を得られるだけではなく、経営や意思決定に関する原理原則の理解につながる。
本科目の運営はグループ討議およびケース討議によって構成される。
ケースはすべて英語のものを使用し、授業も基本的には英語で行うことを想定している。なお、教材を含めた運営方法は、学生数に応じて変更することもある。

This course uses case studies, which depict various issues related to corporate and other strategies and organizations. The cases contain a lot of information about corporate behavior and strategy, and by analyzing them, students learn management theory of business analysis and deepen their understanding of companies. There is no ″one right answer″ to strategy and decision-making, but by analyzing organizational behavior and strategy in various cases, we can get suggestions from case-specific phenomena and understand the principles of management and decision-making.
This course consists of group and case discussions.
All the cases are in English, and the class is expected to be conducted in English. The management method, including teaching materials, may be changed depending on the number of students.

授業計画(Course Schedule)

1. Introduction
2. Marketing : Kataoka & Co. Ltd.
3. Management: HONDA(A), HONDA(B)
4. Management: HONDA(A), HONDA(B)
5. Growth strategy: Starbucks: A Story of Growth
6. Growth strategy: Starbucks: A Story of Growth
7. Corporate strategy: Fujifilm: A Second Foundation
8. Corporate strategy: Fujifilm: A Second Foundation
9. Market penetration: Kikkoman Corp.: Consumer Focused Innovation
10. Market penetration: Kikkoman Corp.: Consumer Focused Innovation
11. Innovation: Innovation & Renovation: The Nespresso Story
12. Innovation: Innovation & Renovation: The Nespresso Story
13. General strategy: Tesla, Inc.
14. General strategy: Tesla, Inc.

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発言などのクラスへの貢献(30%)/ケース課題(30%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト（Textbooks）

ケースの購入方法は別途授業内で指示する。

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG542／Business Case Studies 2(D)		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7001	言語 (Language)	英語 (English)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ケース分析によって、戦略や意思決定およびそれに関連する理論の理解を深めることを目的とする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The purpose of this course is to deepen the understanding of organizational behavior and related theories through case analysis.

授業の内容(Course Contents)

本科目は、ケースと呼ばれる企業などの戦略、組織等に関わる様々な問題が描かれている教材を用いて行われる。ケースには企業行動や戦略に関する多くの情報が書かれており、それらを分析することで経営分析に関する経営理論を学ぶとともに、企業に対する理解を深めることを狙いとしている。戦略や意思決定に「唯一の正解」は存在しないが、様々なケースの企業行動や戦略を分析することで、ケース特有の事象から示唆を得られるだけではなく、経営や意思決定に関する原理原則の理解につながる。
本科目の運営はグループ討議およびケース討議によって構成される。
ケースはすべて英語のものを使用し、授業も基本的には英語で行うことを想定している。なお、教材を含めた運営方法は、学生数に応じて変更することもある。
Business Case Studies2 では、Business Case Studies1 とは異なりビジネスではないケースも扱う。

This course uses case studies, which depict various issues related to corporate and other strategies and organizations. The cases contain a lot of information about corporate behavior and strategy, and by analyzing them, students learn management theory of business analysis and deepen their understanding of companies. There is no "one right answer" to strategy and decision-making, but by analyzing corporate behavior and strategy in various cases, we can get suggestions from case-specific phenomena and understand the principles of management and decision-making.
This course consists of group and case discussions.
All the cases are in English, and the class is expected to be conducted in English. The management method, including teaching materials, may be changed depending on the number of students.
In Business Case Studies 2, unlike Business Case Studies 1, non-business cases are dealt with.

授業計画(Course Schedule)

1. Introduction
2. Short cases
3. General management: LEGO
4. General management: LEGO
5. Location choice: Intel: Strategic Decisions in Locating a New Assembly and Test Plant
6. Location choice: Intel: Strategic Decisions in Locating a New Assembly and Test Plant
7. Global strategy: P&G Japan: The SK-II Globalization Project
8. Global strategy: P&G Japan: The SK-II Globalization Project
9. Local adaptation: TOTO: The Bottom Line
10. Local adaptation: TOTO: The Bottom Line
11. Innovation: IDEO
12. Innovation: IDEO
13. Leadership in crisis: Mount Everest-1996
14. Leadership in crisis: Mount Everest-1996

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発言などのクラスへの貢献(30%)/ケース課題(30%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

ケースの購入方法は別途授業内で指示する。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG561／経営財務1(D) (Financial Management 1(D))		
担当者名 (Instructor)	野田　健太郎(NODA KENTARO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義は、経営財務に関する幅広い知識の修得を目指す。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The goal of this lecture is to acquire a broad knowledge of management finance.

授業の内容(Course Contents)

財務諸表の見方、事業収支の計算、経営財務に関する理論などについて解説する。実際の企業の動きを見ながら、ディスカッションをベースに授業を進める。

We will explain how to view financial statements, calculate business income and expenses, and explore theories related to management finance, etc. This class is based on discussions while watching actual movements taken by companies.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. 財務諸表と財務データの活用を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
3. 収益分析を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
4. 安全性分析を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
5. キャッシュフロー分析を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
6. マクロ環境分析・セグメント分析を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
7. 企業価値関連情報を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
8. 将来予想分析を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
9. 企業行動分析を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
10. 企業価値評価を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
11. 産業分析でディスカッションを行う(1)。
12. 産業分析でディスカッションを行う(2)。
13. 産業分析でディスカッションを行う(3)。
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の講義範囲を復習すること

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容などによって総合的に評価する(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 野田健太郎、2017、『戦略的リスクマネジメントで会社を強くする』、中央経済社 (ISBN978-4-502-21761-6 C3034)

参考文献(Readings)

1. 野田健太郎、2013、『事業継続計画による企業分析』、中央経済社 (ISBN:978-4-502-08320-4)
2. 野田健太郎、2004、『ベンチャー育成論入門―起業家マインドの醸成に向けて』、大学教育出版
3. 伊藤邦雄、2014、『新・企業価値入門』、日本経済新聞出版社

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本科目は、簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でディスカッション、プレゼン形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%である。
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。
原則オンラインで実施するが、対面の回は立教時間等で指示する。

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG562／経営財務2(D) (Financial Management 2(D))		
担当者名 (Instructor)	野田　健太郎(NODA KENTARO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本講義は、経営財務に関する幅広い知識の修得を目指す。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The goal of this lecture is to acquire a broad knowledge of management finance.

授業の内容(Course Contents)

財務諸表の見方、企業審査について解説する。後半では無形資産、CSR、リスクマネジメント、コーポレートガバナンスなどのトピックについても触れる。実際の企業の動きを見ながら、プレゼン・ディスカッションをベースに授業を進める。

We will explain how to view financial statements and perform corporate audits. In the second half, we will talk about intangible assets, CSR, Risk Management, Corporate Governance topics. This class is based on presentations and discussions while watching actual movements taken by companies.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス
2. CSR の概念整理を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
3. 金融と CSR を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
4. 非財務情報開示を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
5. サステナビリティを取り上げ解説及びディスカッションを行う。
6. 企業審査を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
7. 財務分析の知識確認
8. サステナビリティ2を取り上げ解説及びディスカッションを行う。
9. ガバナンスを巡る最近の動きを取り上げ解説及びディスカッションを行う。
10. リスクマネジメントを取り上げ解説及びディスカッションを行う。
11. 非財務情報の事例についてプレゼン・ディスカッションを行う(1)。
12. 非財務情報の事例についてプレゼン・ディスカッションを行う(2)。
13. 非財務情報の事例についてプレゼン・ディスカッションを行う(3)。
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

担当の回についてはレジメを準備すること

成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容などによって総合的に評価する(100%)

テキスト(Textbooks)

1. 野田健太郎、2013、『事業継続計画による企業分析』、中央経済社 (ISBN:ISBN978-4-502-08320-4)

参考文献(Readings)

1. 野田健太郎、2017 年、『戦略的リスクマネジメントで企業を強くする』、中央経済社 (978-4-502-21761-6 C3034)
2. 野田健太郎、2004 年、『ベンチャー育成論入門』、大学教育出版

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本科目は、簡単な講義に続いてクラスあるいはチーム単位でプレゼン、ディスカッション形式で授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%である。
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。
原則オンラインで実施するが、対面の回は立教時間等で指示する。

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG591／キャッシュフロー・マネジメント1（D） (Cash Flow Management 1(D))		
担当者名 (Instructor)	下川　智広(SHIMOKAWA TOMOHIRO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

この講義では、損益計算書・貸借対照表とキャッシュフロー計算書の有機的関係を理解し、会計（アカウンティング）における利益の計算だけでなく、財務(ファイナンス)におけるキャッシュのマネジメント方法を理解する。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

This course provides financial terminology and general financial principles, interpret financial statements, make the distinction between net income and cash flow.
In this course, you will gain exposure to diverse financial approaches, including methods of valuation.

授業の内容(Course Contents)

この講義では、会計(アカウンティング)と財務(ファイナンス)の違いを理解するとともに、戦略的視点から経営幹部がどのように利益をマネジメントするのか、どうすればキャッシュをマネジメントできるのかについての基本を講義する。

Finance and Accounting for the Non-Financial Manager allows non-financial business executives to become better users of financial information so they can be more strategic contributors to their organization.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. 会計（アカウンティング）と財務（ファイナンス）の違い
3. 1. 利益マネジメント
4. 1-1. 利益とキャッシュは何が違うのか
5. 1-2. 利益調整とキャッシュフロー
6. 1-3. 損益計算書と貸借対照表の構造と分析
7. 1-4. キャッシュフロー計算書の構造
8. 1-5. キャッシュフロー分析
9. 2. キャッシュマネジメント
10. 2-1. キャッシュをどのようにコントロールするのか
11. 2-2. 運転資本のコントロール
12. 2-3. キャッシュ・コンバージョン・サイクル
13. 3. 会計(アカウンティング)と財務(ファイナンス)の有機的関係
14. キャッシュフローマネジメント1の総まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

各回の予習範囲や課題は講義内で説明します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席したうえで積極的な討論への参加(40%)／最終レポート(Final Report)(40%)／中間レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

テキストは教育支援システム Blackboard または立教時間を通じて配布します。

参考文献(Readings)

参考文献は適時指示します。

その他（HP 等）(Others(e.g.HP))

会計学基礎や企業財務基礎などのアカウンティング・ファイナンスの関連科目を受講していることが望ましい。
講義では表計算ソフト（Excel 等）を用いることがあります。

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG592／キャッシュフロー・マネジメント2(D) (Cash Flow Management 2(D))		
担当者名 (Instructor)	下川　智広(SHIMOKAWA TOMOHIRO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業価値というテーマは、経営や財務部門に携わる方でなくても、社会人の基礎知識として学ぶ必要性を感じている方は多いのではないでしょうか。本講義は企業価値評価(バリュエーション)の基礎を理解し、企業価値向上のための経営意思決定ができるようになることを目標とする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

In this course, you will learn how to analyze and evaluate the financial implications of strategic and operating decisions. You will learn the correct way to do financial modeling and how to identify and avoid potential pitfalls and common mistakes.

授業の内容(Course Contents)

企業価値評価において、マネジメントは様々な情報を詳細に分析し、将来の業績動向について予測をしなければならない。これまで企業価値を算定しようとする様々な評価方法や企業価値評価モデルが考案されてきた。本講義では、ディスカウント・キャッシュフロー(DCF)法を中心に、キャッシュフローを用いて企業価値評価がどのように行われ、マネジメントとして企業価値向上のために何を行っていけばよいのかについて、アカウンティングとファイナンスの観点から講義する。

The focus of this course is on the valuation of companies. The course covers current conceptual and theoretical valuation frameworks and translates those frameworks into practical approaches for valuing companies. The relevant accounting topics and the appropriate finance theory are integrated to show how to implement the valuation frameworks discussed on a step-by-step basis. The course teaches how to develop the required information for valuing companies from financial statements and other information sources in a real-world setting.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション:アカウンティングからファイナンスへの橋渡し
2. 1. マネジメント視点から見たキャッシュフローと投資意思決定
3. 1-1. 投資意思決定の判断基準① 時間価値と割引計算
4. 2. 企業価値評価論
5. 2-1.ディスカウント・キャッシュ・フロー(DCF)法総論
6. 2-2. フリーキャッシュフロー(FCF) の算定①
7. 2-3. フリーキャッシュフロー(FCF)の算定 ②
8. 2-4. 加重平均資本コスト(WACC) の算定①
9. 2-5. 加重平均資本コスト(WACC)の算定 ②
10. 2-6. ディスカウント・キャッシュ・フロー(DCF)法による企業価値評価演習
11. 3. 企業価値評価とマネジメント
12. 3-1. 企業価値評価が必要となる理由
13. 3-2. 企業価値向上のためのマネジメント
14. キャッシュフローマネジメント2のまとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の予習範囲や課題は、講義内で説明する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席したうえで積極的な討論への参加(40%)/最終レポート(Final Report)(40%)/中間レポート(20%)

テキスト(Textbooks)

テキストは教育支援システム Blackboard または立教時間を通じて配布します。

参考文献(Readings)

参考文献は適時指示します。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

キャッシュフロー・マネジメント 1、会計学基礎や企業財務基礎などのアカウンティング・ファイナンスの関連科目を受講していることが望ましい。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG601／企業分析1(D) (Business Analysis 1(D))		
担当者名 (Instructor)	青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

財務諸表の構造を理解し、経営分析の基礎を修得する。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

Understand the structure of financial statements and master the basics of management analysis.

授業の内容(Course Contents)

企業がビジネスを展開するには，自社や同業他社の環境を正確に把握することが大切であり，企業分析が必要になる。
本講義の目標は，財務諸表数値を用いて企業の安定性や収益性の基礎を理解することにある。それを踏まえ，企業分析レポートの作成を最終目標とする。

In order to develop the business of the corporation, it is important to accurately understand the environment of the company, and other companies in the same field, and analysis of the corporation is required.
The goal of this lecture is to understand the liquidity and profitability of corporations using financial statement figures. The ultimate goal is to create a corporate analysis report for a corporation.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 経営分析とは何か
3. 経営分析の予備知識
4. 定性要因の分析
5. 財務諸表の種類(1)
6. 財務諸表の種類(2)
7. 貸借対照表項目の検討
8. 損益計算書項目の検討
9. 流動性比率による分析(1)
10. 流動性比率による分析(2)
11. 利益率の分析(1)
12. 利益率の分析(2)
13. 利益率の分析(3)
14. 授業内試験

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

本講義は，会計学の基本的な知識を有している院生を対象とする。そのため，講義内では会計学の基本的な事項の説明は行わない。財務諸表に用いられる基本的な用語を自習することが不可欠である。
各回の講義に臨むための準備の内容については，講義内で説明する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(35%)/最終テスト(Final Test)(35%)/講義への参加状況(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 青木茂男編著、2022、『要説経営分析　六訂版』、森山書店
テキスト必携。テキストを履修者で輪読し，ディスカッションを展開する予定である。
テキストは 2022 年 9 月に発行予定の改訂版(六訂版)を用いるが，出版が遅延する場合は適宜指示する。

参考文献(Readings)

1. 内藤文雄著、2022、『会計学エッセンス第 5 版』、中央経済社
その他，必要に応じて講義内で紹介する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【双方向による授業】
本科目は，テキストの内容を講読（または輪読）したあと、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。
双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG602／企業分析2(D) (Business Analysis 2(D))		
担当者名 (Instructor)	青淵　正幸(AOBUCHI MASAYUKI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7200	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業を取り巻く諸情報を理解し、企業を分析するスキルを身につける。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

Acquire the skills for understanding the various information surrounding the corporation and for analyzing the corporation.

授業の内容(Course Contents)

企業分析は財務諸表を中心とした定量情報と、非財務情報である定性情報の双方を用いて行われる。本講義の目標は，企業を取り巻く諸情報を用いながら、企業を多角的に分析する手法を身につけることにある。
また、本講義で取り上げた分析内容を「企業分析1」で作成した企業分析レポートに加え、企業分析レポートの完成を目指す。

Corporate analysis is conducted using both quantitative information, mainly on financial statements, and qualitative information, which is non-financial information. The goal of this lecture is to acquire methods for analyzing corporations from various perspectives through using the various information that surrounds them.
Also, we will add the contents of the analysis taken up in this lecture to the corporate analysis report prepared in "Business Analysis 1", and we will aim for the completion of the corporate analysis report through the team work.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. 損益分岐点の分析
3. 四半期財務諸表による分析(1)
4. 四半期財務諸表による分析(2)
5. セグメント情報を用いた分析(1)
6. セグメント情報を用いた分析(2)
7. 利益の質(1)
8. 利益の質(2)
9. 企業の総合評価(1)
10. 企業の総合評価(2)
11. 企業価値評価(1)
12. 企業価値評価(2)
13. 企業価値評価(3)
14. 授業内試験

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

本講義は，会計学の基本的な知識を有している院生を対象とする。そのため，講義内では会計学の基本的な事項の説明は行わない。財務諸表に用いられる基本的な用語を自習することが不可欠である。
各回の講義に臨むための準備の内容については，講義内で説明する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(35%)/最終レポート(Final Report)(35%)/講義内への参加度合(30%)

テキスト(Textbooks)

1. 青木茂男編著、2022、『要説経営分析　六訂版』、森山書店
テキスト必携。テキストを履修者で輪読し，ディスカッションを展開する予定である。
テキストは 2022 年 9 月に発行予定の改訂版(六訂版)を用いるが，出版が遅延する場合は適宜指示する。

参考文献(Readings)

1. 内藤文雄著、2022、『会計学エッセンス第 5 版』、中央経済社

その他，必要に応じて講義内で紹介する。

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

本講義の内容は，「企業分析1」から連続している。そのため，「企業分析1」を履修していることが望ましい。「企業分析1」を履修せず，当科目のみを履修する場合は，財務諸表の構造について基礎的な知識を有していることが必須となる。

【双方向による授業】
本科目は，テキストの内容を講読（または輪読）したあと、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式で授業を展開する。
双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG611／テクノロジーマネジメント1（D） (Technology Management 1(D))		
担当者名 (Instructor)	和田　芳明(WADA YOSHIAKI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代の様々なビジネスシーンで直面する課題を、主として IT の側面から考察し、ビジネスパーソンとして必要なテクノロジーに関する知識、理解を涵養し、ビジネス／社会環境の変化に適応できる知見を身につける。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

In order to understand the background of technology related issues and topics arising in the current business society, this course aims to provide the necessary IT knowledge and offer the opportunity to learn the methodology to deal with the changes in the business environment.

授業の内容(Course Contents)

主に経済誌や報道を賑わす今日的な IT 関連のトピックスを取り上げ、その背景にある社会情勢、IT 関連の論点を分析し、履修者の理解を深めると同時に、各履修者の直面するビジネスシーンとの関連で、どのような影響があるのか、どのような将来展望が想定されるのかを考察し、発表し、議論する。

This course focuses on the IT related current topics circulated in media, investigate the social trend and IT factors in the background, and then enhances the understanding of students.
Participants are expected to actively discuss and share the opinion with other students, and deepen the individual insight into the effect on their business activities in the future.

授業計画(Course Schedule)

1. 情報のデジタル化とデータサプライチェーン（1）
2. 情報のデジタル化とデータサプライチェーン（2）
3. 財務情報と非財務情報の位置づけと活用（1）---データの特性と活用方法
4. 財務情報と非財務情報の位置づけと活用（2）---データの特性と活用方法
5. 持続的社会を巡る課題（1）---ESG と SDGs
6. 持続的社会を巡る課題（2）---ESG と SDGs
7. 社会、ビジネスにおけるリスクとそのマネジメント（1）---なぜ不祥事は起こるのか
8. 社会、ビジネスにおけるリスクとそのマネジメント（2）---避けられるリスク、軽減できるリスク、避けられないリスク
9. Regtech、Suptech を巡る議論（1）---規制と社会的コスト
10. Regtech、Suptech を巡る議論（2）---経営責任と監督責任
11. 規制と社会---インターネットと規制（1）
12. 規制と社会---インターネットと規制（2）
13. EC ビジネスと決済（1）---E コマースの世界
14. EC ビジネスと決済（2）---電子マネーとブロックチェーン

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

クラス参加と議論への貢献度(50%)/成果物の内容(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 野口悠紀雄、2019、『データ資本主義』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-35831-0)
2. 赤羽喜治・愛敬真生、2019、『ブロックチェーン　仕組みと理論』、リックテレコム (ISBN:978-4-86594-163-0)
3. 野口悠紀雄、2021、『データエコノミー入門』、PHP 研究所 (ISBN:978-4-569-85052-8)

4. 野口悠紀雄、2021、『CBDC 中央銀行デジタル通貨の衝撃』、新潮社 (ISBN:978-4-10-432907-6)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG612／テクノロジーマネジメント2（D） (Technology Management 2(D))		
担当者名 (Instructor)	和田　芳明(WADA YOSHIAKI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

現代の様々なビジネスシーンで直面する課題を、主として IT の側面から考察し、ビジネスパーソンとして必要なテクノロジーに関する知識、理解を涵養し、ビジネス／社会環境の変化に適応できる知見を身につける。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

In order to understand the background of technology related issues and topics arising in the current business society, this course aims to provide the necessary IT knowledge and offer the opportunity to learn the methodology to deal with the changes in the business environment.

授業の内容(Course Contents)

今後、利用が本格化する最先端の IT 関連トピックスを取り上げ、その概要と背景にある社会情勢を分析し、履修者の理解を深めると同時に、各履修者が今後直面するビジネスシーンとの関連で、どのような影響があるのか、どのような将来展望が想定されるのかを考察し、発表し、議論する。

Focuses on the emerging IT related topics which will come to the society in the near future, the course investigates the outline of underling technologies, social trend, and then enhances the students' understanding.
Participants are expected to actively discuss and share the opinion with other students, and deepen the individual insight into the effect on their business activities in the future.

授業計画(Course Schedule)

1. AI・ロボティックス（1）
2. AI・ロボティックス（2）
3. 自然言語解析と画像解析（1）
4. 自然言語解析と画像解析（2）
5. クラウドとコンピュータ基盤（1）
6. クラウドとコンピュータ基盤（2）
7. 仮想現実と拡張世界（1）
8. 仮想現実と拡張世界（2）
9. ビッグデータ技術の世界（1）
10. ビッグデータ技術の世界（2）
11. ブロックチェーンとビットコイン（1）
12. ブロックチェーンとビットコイン（2）
13. インターネットとサイバーセキュリティ（1）
14. インターネットとサイバーセキュリティ（2）

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の講義内容を復習し、疑問点があれば解明し、着実に消化すること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

クラスへの参加と議論への貢献度(50%)/成果物の内容(50%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 澤田純、2019、『IOWN 構想 ―インターネットの先へ』、NTT 出版 (ISBN:4757103913)
2. 赤羽喜治・愛敬真生、2019、『ブロックチェーン 仕組みと理論』、リックテレコム (ISBN:978-4-86594-163-0)
3. 畑村洋太郎、2020、『3現で学んだ危険学』、畑村創造工学研究所

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG621／テクノトレンド1（D） (Trend of Technology 1(D))		
担当者名 (Instructor)	平井　直樹(HIRAI NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ビジネスや生活において、広く使われているテクノロジーやそれに関わる企業動向について理解することを目的とする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The goal is to understand widely used technologies and corporate trends in business and life.

授業の内容(Course Contents)

今日、日常生活やビジネスの世界に限らず、多くのテクノロジーを使いこなすことが求められています。
ビジネスの改善や新たなビジネスの創出するうえでも、こういったテクノロジーの動向を掴んでおくことが重要となります。
本講義では、単に最新のテクノロジーやトレンドを追うのではなく、どのようにビジネスに利用されてきたのか、または利用されようとしているのか、さらに自社のビジネスに活用するにはどうすればよいか、事例（ケース）やディスカッションを通じて、理解を深めていきます。

Today, not just in the world of daily life and business, many technologies need to be used. Whether it is for improving your own business or creating new businesses, it is important to keep track of these technologies.
In this lecture, rather than simply looking at the latest technologies and trends, we will deepen our understanding through case studies and discussions about how we utilize them in business, or how they will be utilize in business, and how we can utilize them in our own businesses.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. デジタルトランスフォーメーション
3. IoT・ビッグデータ（1）
4. IoT・ビッグデータ（2）
5. ゲストスピーカー予定
6. ディスカッション
7. Fintech、キャッシュレス（Pay サービス）（1）
8. Fintech、キャッシュレス（Pay サービス）（2）
9. ゲストスピーカー予定
10. ディスカッション
11. GAFA（Apple の歴史、トレンド、社会的課題）
12. GAFA（Facebook の歴史、トレンド、社会的課題）
13. GAFA（Google の歴史、トレンド、社会的課題）
14. GAFA（Amazon の歴史、トレンド、社会的課題）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

日々の新聞やニュースに目を通しておいてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席および授業への貢献（ディスカッション等）(50%)/レポート(50%)

テキスト(Textbooks)

授業にて随時紹介します。

参考文献(Readings)

授業にて随時紹介します。

その他（HP 等）(Others(e.g.HP))

「テクノトレンド1」「テクノトレンド2」を併せて履修することが望ましい。
「テクノトレンド1」だけの履修も可。
テクノロジーに関する初心者にも配慮して授業を進めていきます。
ゲストスピーカーの日程は暫定となります。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG623／テクノトレンド2（D） (Trend of Technology 2(D))		
担当者名 (Instructor)	平井　直樹(HIRAI NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7600	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ビジネスや生活において、広く使われているテクノロジーやそれに関わる企業動向について理解することを目的とする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The goal is to understand widely used technologies and corporate trends in business and life.

授業の内容(Course Contents)

今日、日常生活やビジネスの世界に限らず、多くのテクノロジーを使いこなすことが求められています。
ビジネスの改善や新たなビジネスの創出するうえでも、こういったテクノロジーの動向を掴んでおくことが重要となります。
本講義では、単に最新のテクノロジーやトレンドを追うのではなく、どのようにビジネスに利用されてきたのか、または利用されようとしているのか、さらに自社のビジネスに活用するにはどうすればよいか、事例（ケース）やディスカッションを通じて、理解を深めていきます。

Today, not just in the world of daily life and business, many technologies need to be used. Whether it is for improving your own business or creating new businesses, it is important to keep track of these technologies.
In this lecture, rather than simply looking at the latest technologies and trends, we will deepen our understanding through case studies and discussions about how we utilize them in business, or how they will be utilize in business, and how we can utilize them in our own businesses.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. AR、VR（メタバース）
3. ゲストスピーカーを予定
4. ディスカッション
5. 人工知能（AI）（1）
6. 人工知能（AI）（2）
7. サブスクリプション、シェアリングサービス（1）
8. サブスクリプション、シェアリングサービス（2）
9. ゲストスピーカーを予定
10. ディスカッション
11. MaaS・ブロックチェーン・ヒューマンオーグメンテーション（1）
12. MaaS・ブロックチェーン・ヒューマンオーグメンテーション（2）
13. プレゼンテーション・まとめ（1）
14. プレゼンテーション・まとめ（2）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

日々の新聞やニュースに目を通しておいてください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

出席および授業への貢献（ディスカッション等）(50%)/プレゼンテーション(50%)

テキスト(Textbooks)

授業にて随時紹介します。

参考文献(Readings)

授業にて随時紹介します。

その他（HP 等）(Others(e.g.HP))

「テクノトレンド1」「テクノトレンド2」を併せて履修することが望ましい。
「テクノトレンド2」だけの履修も可。
テクノロジーに関する初心者にも配慮して授業を進めていきます。
ゲストスピーカーの日程は暫定となります。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG631／メディカル・ビジネス論(D) (Medical Business(D))		
担当者名 (Instructor)	田中　道昭(TANAKA MICHIAKI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

医療・メディカル産業における「戦略×リーダーシップ×マネジメント」の策定・実行、同産業や同事業のグランドデザイン構築、成長戦略などについて学ぶ。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

Study about the development and implementation of "strategy x leadership x management" in medical and medical industries, the grand design construction of the industry and the business, growth strategies, etc.

授業の内容(Course Contents)

＊MBA×医療・介護ビジネス
MBA の応用科目として MBA で学ぶ経営学を医療・介護ビジネスに応用
＊ミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント
MBA の応用科目としてミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント等
を医療・介護ビジネスに応用
＊戦略フレームワークでの分析・評価と戦略作成
PEST 分析、5F 分析、SWOT 分析、3C 分析、STP 分析等のフレームワークを医療・介護ビジネスに活用していくことでフレームワークを使いこなせるようになることも企図
＊医療介護従事者とそれ以外の受講生双方に対応
徐々に医療介護の専門知識を加えていくことでそれ以外の受講生も途中から専門性の高いディスカッションが可能になるようにするのとともに、医療介護従事者のニーズにも対応するように専門性の高い事前学習課題等も提供
＊実際の医療機関のケーススタディーを通じて医療機関への分析・評価及び戦略策定までをもカバー
シンプルなケースからスタートして最後には実際の医療機関のケースも解けるように医療介護の専門知識などを段階的に挿入していくことでクラス運営を実行
医療・介護事業従事者のみならず、広く MBA でのスキルセットの活用方法を実践的に学びたい受講生も歓迎する。介護ビジネス論と併せての受講を推奨。

* MBA x medical and nursing care business
Study MBA Business Management application in medical and nursing care businesses as an application discipline of MBA.
* Mission, vision, value x strategy x leadership x management
MBA application disciplines are mission, vision, value x strategy x leadership x management, etc.
and apply them to medical and nursing care businesses.
* Strategic framework analysis, evaluation, and strategy creation
We are also planning to be able to use the framework by utilizing frameworks such as PEST analysis, 5F analysis, SWOT analysis, 3C analysis, STP analysis for medical and nursing care businesses.
* Support both for medical and nursing care workers and other students attending the lecture
By gradually adding medical and nursing expertise to the program, other students will be able to participate in highly specialized discussions along the way, and we will also provide highly specialized and advance learning tasks to meet the needs of medical and nursing care workers.
* Through case studies of actual medical institutions, we will cover analysis, evaluation, and strategy development for medical institutions.
We will manage class by starting from simple cases, and at the end, it will be implemented by inserting expertise of the medical care in stages so that cases of the actual medical institution can be solved as well.

We welcome not only medical and nursing care workers, but also students who want to learn how to use the skill set of MBA in a wide range of practical ways.

授業計画(Course Schedule)

1. 医療・メディカル産業全般(1)

2. 医療・メディカル産業全般（2）
3. 医療・メディカルビジネスにおけるミッション経営（1）
4. 医療・メディカルビジネスにおけるミッション経営（2）
5. 医療・メディカルビジネスにおけるリーダーシップ×マネジメント（1）
6. 医療・メディカルビジネスにおけるリーダーシップ×マネジメント（2）
7. 医療・メディカルビジネスにおけるマーケティングとブランディング（1）
8. 医療・メディカルビジネスにおけるマーケティングとブランディング（2）
9. 医療・メディカルビジネスにおけるサービス・マーケティング（1）
10. 医療・メディカルビジネスにおけるサービス・マーケティング（2）
11. 国内外における医療・メディカルビジネスの最先端事例（1）
12. 国内外における医療・メディカルビジネスの最先端事例（2）
13. 医療・メディカルビジネスにおける成長戦略（1）
14. 医療・メディカルビジネスにおける成長戦略（2）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

医療・メディカル産業全般に対して、多くの異業種の知見から学び、世界観や歴史観から常に新たな視点で成長戦略を描くことを普段から意識しておくこと

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(20%)/期中レポート(20%)/クラス貢献(20%)/他の受講生への貢献(20%)/プレゼンテーション(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 田中道昭、2012、『ミッションの経営学』、すばる舎リンケージ （ISBN:ISBN978-4-7991-0164-3）
2. 田中道昭、2013、『人と組織 リーダーシップの経営学』、すばる舎リンケージ （ISBN:ISBN978-4-7991-0236-7）
3. 田中道昭、2014、『歯科医院経営改善プログラム』、クインテッセンス出版 （ISBN:ISBN978-4-7812-0403-1）
4. フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー、2008、『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント』、ピアソン・エデュケーション （ISBN:ISBN978-4-89471-657-5）
5. 田中道昭、2017、『アマゾンが描く 2022 年の世界』、PHP 研究所 （ISBN:ISBN978-4-569-83733-8）

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

参考文献（Readings）

1. フィリップ・コトラー、2010、『コトラーのマーケティング 3.0』、朝日新聞出版 （ISBN:ISBN978-4023308398）
2. ロバート・スコーブル/シェル・イスラエル、2014、『コンテクストの時代』、日経 BP 社 （ISBN:ISBN978-4-8222-5047-8）
3. 真野俊樹、2012、『医療が日本の主力商品となる』、ディスカヴァー21 （ISBN:ISBN978-4-7993-1223-0）
4. 齋藤勝裕、2014、『ニュースがよくわかる生命科学超入門』、ディスカヴァー21 （ISBN:ISBN978-4-7993-1490-6）
5. 田中道昭、2019、『GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略』、日本経済新聞出版社 （ISBN:ISBN978-4532322656）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【双方向による授業】
本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。
【実務家教員による授業】
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG641／介護ビジネス論(D) (Nursing Care Business(D))		
担当者名 (Instructor)	田中　道昭(TANAKA MICHIAKI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

介護産業における「戦略×リーダーシップ×マネジメント」の策定・実行、同産業や同事業のグランドデザイン構築、成長戦略などについて学ぶ。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

Study about the development and implementation of "strategy x leadership x management" in nursing care industries, the grand design construction of the industry and the business, growth strategies, etc.

授業の内容(Course Contents)

＊MBA×医療・介護ビジネス
MBA の応用科目として MBA で学ぶ経営学を医療・介護ビジネスに応用
＊ミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント
MBA の応用科目としてミッション・ビジョン・バリュー×戦略×リーダーシップ×マネジメント等
を医療・介護ビジネスに応用
＊戦略フレームワークでの分析・評価と戦略作成
PEST 分析、5F 分析、SWOT 分析、3C 分析、STP 分析等のフレームワークを医療・介護ビジネスに活用していくことでフレームワークを使いこなせるようになることも企図
＊医療介護従事者とそれ以外の受講生双方に対応
徐々に医療介護の専門知識を加えていくことでそれ以外の受講生も途中から専門性の高いディスカッションが可能になるようにするのとともに、医療介護従事者のニーズにも対応するように専門性の高い事前学習課題等も提供
実際の医療機関のケーススタディーを通じて医療機関への分析・評価及び戦略策定までをもカバー
シンプルなケースからスタートして最後には実際の医療機関のケースも解けるように医療介護の専門知識などを段階的に挿入していくことでクラス運営を実行
この授業では、介護ビジネス論を広くシニア向けマーケティングや高齢者向けマーケティングとも捉え、このような視点からも授業展開していく。したがって、医療・介護従事者のみならず、広くこれらのマーケティングに興味をもつ学生の受講も推奨する。メディカルビジネス論と連携してのクラス展開が行われるため、同講座からの履修を強く推奨。

＊ MBA x medical and nursing care business
Study MBA Business Management application in medical and nursing care businesses as an application discipline of MBA.
＊ Mission, vision, value x strategy x leadership x management
MBA application disciplines are mission, vision, value x strategy x leadership x management, etc.
and apply them to medical and nursing care businesses.
＊ Strategic framework analysis, evaluation, and strategy creation
We are also planning to be able to use the framework by utilizing frameworks such as PEST analysis, 5F analysis, SWOT analysis, 3C analysis, STP analysis for medical and nursing care businesses.
＊ Support both for medical and nursing care workers and other students attending the lecture
By gradually adding medical and nursing expertise to the program, other students will be able to participate in highly specialized discussions along the way, and we will also provide highly specialized and advance learning tasks to meet the needs of medical and nursing care workers.
Through case studies of actual medical institutions, we will cover analysis, evaluation, and strategy development for medical institutions.
We will manage class by starting from simple cases, and at the end, it will be implemented by inserting expertise of the medical care in stages so that cases of the actual medical institution can be solved as well.

In this class, we will consider nursing care business theory as marketing for seniors and marketing for the elderly, and develop lessons from this perspective as well. Therefore, we encourage not only medical and nursing care workers, but also students who are interested in these marketing activities to participate.

授業計画（Course Schedule）

1. 介護ビジネス産業全般（1）
2. 介護ビジネス産業全般（2）
3. 介護ビジネスにおけるミッション経営（1）
4. 介護ビジネスにおけるミッション経営（2）
5. 介護ビジネスにおけるリーダーシップ×マネジメント（1）
6. 介護ビジネスにおけるリーダーシップ×マネジメント（2）
7. 介護ビジネスにおけるマーケティングとブランディング（1）
8. 介護ビジネスにおけるマーケティングとブランディング（2）
9. 介護ビジネスにおけるサービス・マーケティング（1）
10. 介護ビジネスにおけるサービス・マーケティング（2）
11. 国内外における介護ビジネスの最先端事例（1）
12. 国内外における介護ビジネスの最先端事例（2）
13. 介護ビジネスにおける成長戦略（1）
14. 介護ビジネスにおける成長戦略（2）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

介護産業全般に対して、多くの異業種の知見から学び、世界観や歴史観から常に新たな視点で成長戦略を描くことを普段から意識しておくこと

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終レポート(Final Report)(20%)/期中レポート(20%)/クラス貢献(20%)/他の受講生への貢献(20%)/プレゼンテーション(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 田中道昭、2012、『ミッションの経営学』、すばる舎リンケージ （ISBN:ISBN978-4-7991-0164-3）
2. 田中道昭、2013、『人と組織 リーダーシップの経営学』、すばる舎リンケージ （ISBN:ISBN978-4-7991-0236-7）
3. フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー、2008、『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント』、ピアソン・エデュケーション （ISBN:ISBN978-4-89471-657-5）
4. ミルトン・メイヤロフ、1987、『ケアの本質―生きることの意味』、ゆみる出版 （ISBN:ISBN978-4946509117）
5. 田中道昭、2017、『アマゾンが描く 2022 年の世界』、PHP 研究所 （ISBN:ISBN978-4-569-83733-8）

テキスト用レジュメ資料は授業内で別途配布する。教科書の購入については初回授業で指示する。

参考文献（Readings）

1. フィリップ・コトラー、2010、『コトラーのマーケティング 3.0』、朝日新聞出版 （ISBN:ISBN978-4023308398）
2. ロバート・スコーブル/シェル・イスラエル、2014、『コンテクストの時代』、日経 BP 社 （ISBN:ISBN978-4-8222-5047-8）
3. A.H.マズロー、1987、『人間性の心理学』、産業能率大学出版部 （ISBN:ISBN978-4-382-04924-6）
4. ティム・ブラウン、2014、『デザイン思考が世界を変える』、早川書房 （ISBN:ISBN978-4-15-050407-6）
5. 田中道昭、2019、『GAFA×BATH 米中メガテックの競争戦略』、日本経済新聞出版社 （ISBN:ISBN978-4532322656）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

【双方向による授業】
本科目は、講義に併用して、クラスあるいはチーム単位でのディスカッション形式での双方向授業を展開する。双方向による授業の割合は 100%（14 回中 14 回）である。
【実務家教員による授業】
本科目は、5 年以上の実務経験を有する実務家教員による授業である。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG651／ホテルマネジメント1（D） (Hotel Management 1(D))		
担当者名 (Instructor)	阿部　博秀(ABE HIROHIDE)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

＊ホテル運営、経営について学びながら、広くホスピタリティー・サービスビジネスに応用できる経営アプローチについて身につける。
＊グローバルホテルカンパニーの経営を学ぶことにより、国際ビジネス、企業経営についての理解を深める。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

＊Study hotel operations and management, which also help to understand the management of hospitality and service related businesses.

授業の内容(Course Contents)

＊人材マネジメント、マーケティング、プロフィットエンジニアリングなどテーマ別に講義をする。
＊各分野のエキスパートであるゲストスピーカーを招くことによりビジネスの実例を紹介する。
＊授業では双方向での議論をおこなう。

＊Explain about the hotel business subjects such as human resources management, marketing, and profit engineering.
＊Invite business professionals as guest lecturers in order to share their real business cases.
＊Promote discussions in the classes.

授業計画(Course Schedule)

1. ホテルビジネスとは
2. パーパス経営とブランディング
3. セールス＆マーケティング
4. セールス＆マーケティング
5. レベニューマネジメント
6. レベニューマネジメント
7. 人材マネジメント・リーダーシップ
8. 人材マネジメント・リーダーシップ
9. 客室マネジメント
10. 客室マネジメント
11. ケーススタディー・ゲストレクチャー
12. ケーススタディー・ゲストレクチャー
13. ケーススタディー・ゲストレクチャー
14. ケーススタディー・ゲストレクチャー

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- 実査やインターネット検索による予習を必要に応じて別途指示する。
- 東京都内のホテル施設にて学外授業を行なう可能性がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/質問・発言など講義への貢献度(50%)/予習・復習状況(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 田尾桂子、2016、『グローバルオペレーターが変えるホテル経営: マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか』、白桃書房 (ISBN:978-4561266860)

2. 沢柳知彦、2021、『もてなしだけではもう食えない ーホテル経営学の本質と実践』、オータパブリケイションズ (ISBN:978-4903721910)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

VL721 ホテルマネジメント2の履修を推奨
https://www.amworks.jp/glossary.html

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG652／ホテルマネジメント2（D） (Hotel Management 2(D))		
担当者名 (Instructor)	阿部　博秀(ABE HIROHIDE)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

＊ホテル運営、経営について学びながら、広くホスピタリティー・サービスビジネスに応用できる経営アプローチについて身につける。
＊グローバルホテルカンパニーの経営を学ぶことにより、国際ビジネス、企業経営についての理解を深める。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

＊Study hotel operations and management, which also help to understand the management of hospitality and service related businesses.

授業の内容(Course Contents)

＊人材マネジメント、マーケティング、プロフィットエンジニアリングなどテーマ別に講義をする。
＊各分野のエキスパートであるゲストスピーカーを招くことによりビジネスの実例を紹介する。
＊授業では双方向での議論をおこなう。

＊Explain about the hotel business subjects such as human resources management, marketing, and profit engineering.
＊Invite business professionals as guest lecturers in order to share their real business cases.
＊Promote discussions in the classes.

授業計画(Course Schedule)

1. レストランマネジメント
2. レストランマネジメント
3. ウェディング・イベントマネジメント
4. ウェディング・イベントマネジメント
5. ホテル会計・ファイナンス・リスクマネジメント
6. ホテル会計・ファイナンス・リスクマネジメント
7. 施設管理・リノベーション
8. ホテルビジネスプラン
9. プロフィットエンジニアリング
10. グローバルホテルカンパニーの経営
11. ケーススタディー・ゲストレクチャー
12. ケーススタディー・ゲストレクチャー
13. ケーススタディー・ゲストレクチャー
14. ケーススタディー・ゲストレクチャー

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- 実査やインターネット検索による予習を必要に応じて別途指示する。
- 東京都内のホテル施設にて学外授業を行なう可能性がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/質問・発言など講義への貢献度(50%)/予習・復習状況(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 田尾桂子、2016、『グローバルオペレーターが変えるホテル経営: マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか』、白桃書房 (ISBN:978-4561266860)

2. 沢柳知彦、2021、『もてなしだけではもう食えない ーホテル経営学の本質と実践』、オータパブリケイションズ (ISBN:978-4903721910)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

VL719ホテルマネジメント1の履修を推奨
https://www.amworks.jp/glossary.html

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG661／ホテルアセットマネジメント1(D) (Hotel Asset Management 1(D))		
担当者名 (Instructor)	福井　康子(FUKUI YASUKO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ホテル産業を学ぶに際し、ホテルアセットマネジメントについての知識は必須である。
本授業では、日本ではまだ一般には概念や実態が知られているとはいいがたいホテルアセットマネジメントについて、網羅性と専門性を備えたテキストを輪読し、アセットマネジメントの役割や意義について議論しながら学ぶ。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

When learning about the hotel industry, knowledge of hotel asset management is essential.
The aim of this course is to understand the role and significance of asset management through reading a comprehensive and professional textbook on hotel asset management.

授業の内容(Course Contents)

世界のホテル産業はグローバリゼーションの潮流の中にある。グローバルなホテルマーケットの実態を知るには、ホテルアセットマネジメントという契約について知ることが重要であり、これを理解することはまた世界のホテル業界の目まぐるしく変化してきた歴史をたどることでもある。
ホテル業に興味をもつ学生だけでなく、不動産業、サービス業などに関心ある学生にも役立つ内容である。

The global hotel industry is in the midst of a tidal wave of globalization. In order to understand the actual situation of global hotel operators, it is important to know about the hotel asset management contract, and understanding this contract also means tracing the history of the fast-changing global hotel industry. This course is useful not only for students who are interested in the hotel industry, but also for students who are interested in the real estate and service industries.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション:授業の進め方、使用テキストについて、発表、レポート、評価の方法など
2. 1章世界のホテル産業
   1チェーン展開とホテルオペレーター
3. 1章
   2ホテルの運営携帯とマネジメント契約
4. 1章3ホテル不動産所有の変容
   その1～2ホテル不動産所有の特徴、オーナーの種類
5. 1章3ホテル不動産所有の変容
   その3新しいホテルオーナー:ホテル REIT とプライベート・エクイティ
6. 2章ホテルマネジメント契約の史的展開
   1マネジメント契約の不完備性
7. 2章1ホテルマネジメント契約の史的展開
   2マネジメント契約の歴史
8. 2章1ホテルマネジメント契約の史的展開
   3契約の改定とホテルアセットマネージャーの導入
9. 3章ホテルアセットマネジメントとガバナンス問題
   1権限の移行:オーナーの解約権と契約の短期化
10. 3章
    2ホテルアセットマネジメントの課題と現状理解
11. 4章ホテルマネジメント契約の特異性
    1運営の全面委託と二重の管理制度
12. 4章
    2内部請負制度とホテルマネジメント契約1－2
13. 4章
    2内部請負制度とホテルマネジメント契約3新しい請負制度として HAM 契約
14. 5章マネジメント契約がもたらした成果の検討

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

毎週 2 時間程度のテキストの予習が必要です。輪読担当の場合はそれをプレゼンテーションする準備時間も必要です。

成績評価方法・基準（Evaluation）

課題、発表(40%)/授業への貢献度(30%)/中間レポート(30%)

テキスト（Textbooks）

1. 田尾桂子、2016、『グローバルオペレーターが変えるホテル経営』、白桃書房

参考文献（Readings）

授業中に適宜提示する

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG662／ホテルアセットマネジメント2(D) (Hotel Asset Management 2(D))		
担当者名 (Instructor)	福井　康子(FUKUI YASUKO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ホテルアセットマネジメントの主要な技術の一つであるアセット価値評価を行うための、投資、運営、売却などのフェーズごとに必要な知識について、授業を通して獲得できるようにする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

Through the class, students will be able to acquire the knowledge necessary for each phase, such as investment, operation, and sale, in order to evaluate asset value, which is one of the main techniques of hotel asset management.

授業の内容(Course Contents)

このクラスは、ホテルアセットマネジメント1の受講を修了した学生にとってはその上級編として位置づけられる内容である。両方の受講を推奨するが、一方だけの受講も可能である。
ホテルアセットマネジメントの2つの領域のうちのひとつ、アセットの価値の把握から始め、その方法論を学ぶとともに、市場の現状から予測、アセットの価値向上のための方法、投資判断など、多くの異なる視野からの分析力を身につける。なお、受講生の興味関心領域によっては、テキストの変更も考慮に入れる。

The first step in understanding hotel asset management is to understand the value of the assets and then learn the methodology. At the same time, students acquire analytical skills from many different perspectives, such as forecasting based on the current situation of the market where assets are placed, methods for increasing asset value, investment decisions, etc. The textbook may be changed depending on the interests of the students.

授業計画(Course Schedule)

1. 授業のすすめかた、資料配布の説明、輪読の順番決め。アセットの理解。
2. テキスト3章　アセットマネジメントサイクルとマネジメントプラン
3. テキスト3章 アセットマネジメントサイクルとマネジメントプラン
4. テキスト4章　ホテル投資プログラムの確立
5. テキスト4章 ホテル投資プログラムの確立
6. テキスト5章 ホテル投資判断
7. テキスト5章 ホテル投資判断
8. テキスト5章 ホテル投資判断
9. テキスト12章 資本的支出決定のためのガイドライン
10. テキスト12章 資本的支出決定のためのガイドライン
11. DCF の理解
12. 割引率、還元利回り率、NOI の理解
13. レポート発表会
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習が必要です。テキストを熟読し、理解に努め、授業に出て下さい。質問は授業中にし、理解を完全にすること。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発表、課題(40%)/中間レポート(30%)/授業への参加、貢献度(30%)

テキスト(Textbooks)

1. グレッグ・デントンほか、2014、『ホテルアセットマネジメント』、立教大学出版会 (ISBN:ISBN-978-4-901988-26-1)

参考文献(Readings)

1. 田尾桂子、2016、『グローバルオペレーターが変えるホテル経営』、白桃書房
授業時に適宜提示する

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG681／都市マネジメント1（D） (Urban Management design 1(D))		
担当者名 (Instructor)	福井　康子(FUKUI YASUKO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

都市の成長メカニズムと衰退の原因を経済的・社会的に把握する。
都市マネジメント1では、サステナブルシティ・コンパクトシティやクリエイティブシティなど現代的な都市のあり方の議論をもとに、都市の発展の本質にアプローチする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

In Urban Management 1, we will approach the essence of urban development based on discussions of contemporary urbanism such as sustainable cities, compact cities and creative cities.

授業の内容(Course Contents)

都市マネジメント1と2は独立しているので、一方のみを履修することも可能である。
1 の前半では、サステナブルシティ・コンパクトシティの成功都市として世界的に著名なポートランドを取り上げ、多面的に分析し、その発展の本質をさぐる。後半は、「クリエイティブ・クラス論」で名高いリチャードフロリダを取り上げ、キーワードを中心に、その思想の根幹に迫る。

Since Urban Management 1 and 2 are independent, it is possible to take only one of them.
In the first half of the first course, we will take up Portland, a world-famous successful sustainable city and compact city, and analyze it from many aspects to find out the essence of its development. In the second half of the course, we will focus on Richard Florida, who is famous for his "creative class theory," and we will get to the root of his ideas, focusing on key words.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション: 自己紹介、授業の進め方、輪読割当、興味の視点の確認など
2. なぜポートランドが注目されるのか
   徒歩 20 分圏内のコミュニティをデザインする
3. 40 年かけてつくられたコンパクトシティ
   草の根の参加を支えるネイバーフッド
4. ポートランド市開発局による再生
   クリエイティブビジネスの生態系
5. 都市のサステナビリティと公共交通の関係
   サステナビリティ評価指標についえ
6. リチャード・フロリダのクリエイティブ都市論について（イントロ）
   リチャード・フロリダとジェイン・ジェイコブス
7. 1章 住む場所の選択
   2章 スパイキーな世界　才能の集まる地域
8. メガ地域の台頭　新しい経済単位
   集積の力
9. 移動組と定着組
   才能の集まる場所
10. ジョブシフト
    スーパースター都市
11. 人々の欲求を満たす場所
    都市の性格心理学
12. 都市とクリエイティブ・クラス
13. 才能の時代の競争
    ボヘミアンの経済地理学
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業の予習は必須でありその準備が必要である。また、輪読担当者は発表準備も必要となる。

成績評価方法・基準（Evaluation）

クラス内の発表内容(40%)/授業への貢献度(30%)/中間レポート(30%)

テキスト（Textbooks）

1. 山崎満広、2016、『ポートランド』、学芸出版社
2. リチャード・フロリダ、2009、『クリエイティブ都市論』、ダイヤモンド社
3. リチャード・フロリダ、2010、『クリエイティブ都市経済論』、日本評論社

参考文献（Readings）

1. BRIDGE LAB、2014、『True Portland 創造都市ポートランドガイド』、BRIDGE LAB
2. ジェイン・ジェイコブス、2012、『発展する地域・衰退する地域』、ちくま学芸文庫

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG682／都市マネジメント2（D） (Urban Management design 2(D))		
担当者名 (Instructor)	福井　康子(FUKUI YASUKO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標（Course Objectives）

世界で成功している都市づくりの例としてドバイとシンガポールを取り上げ、成長プロセスや成功要因やを分析する。両者の違いや共通点に迫る。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

We will take up Dubai and Singapore as examples of successful urban development in the world, and analyze their growth processes and success factors. We also look at the differences and similarities between the two.

授業の内容（Course Contents）

都市マネジメントの1と2は独立しているので、一方のみの履修も可能である。都市成長の成功例として名高い中東のドバイと東南アジアのシンガポールを取り上げ、それぞれの成長のプロセスや背景、政策関与、成功の要因を分析する。また、共通の特徴を、相違点と共通点にフォーカスして議論する。
また、受講者の興味関心のテーマによってはその題材への移行もありうる。例えば、日本の都市政策や、観光、地方創生、シェアリングなどが候補として考えられよう。

Since Urban Management 1 and 2 are independent, it is possible to take only one of them.
Taking up Dubai in the Middle East and Singapore in Southeast Asia, both renowned examples of successful urban growth, we will analyze their respective growth processes, backgrounds, policy involvement, and success factors. Common features will also be discussed, focusing on the differences and similarities. There may also be a shift to that subject matter depending on the topic of interest to the students.For example, Japan's urban policies, tourism, regional development, and sharing could be considered as candidates for the topics.

授業計画（Course Schedule）

1. イントロ：自己紹介、各々の興味対象・範囲の確定・輪読担当者など
2. UAE を知る
3. ドバイの成り立ち
   ドバイをリードしてきた賢人リーダーたち
4. 国づくりは産業インフラから
   世界の企業をよびこむフリーゾーン（特区）
5. 人をエキサイトする仕掛け
   高度情報化都市ドバイ
6. ドバイを支える人材/　異文化共生圏ドバイ
   ドバイモデルとは
7. シンガポールの成功とは
8. シンガポール成長を歴史からみる
   リー・クァンユーとシンガポール成長
9. シンガポールの成長戦略
10. マリーナ・ベイサンズ地区開発
11. ドバイとシンガポールの共通の特徴
12. 日本の都市政策の経緯と背景、都市課題
13. 日本の都市成長の成功例、現代的トピックスの理解
14. まとめ

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

テキストの輪読、プレゼンなどを毎回課す予定であるため、週に 2 時間前後の予習時間が必要と考える。

成績評価方法・基準（Evaluation）

授業への参加・貢献(40%)/中間発表(30%)/最終プレゼン(30%)

テキスト（Textbooks）

1. 斎藤憲二、2010、『株式会社ドバイ』、柏艪舎
2. 佐野陽子、2009、『ドバイのまちづくり』、慶應義塾大学出版会
3. 峯山政宏、2014、『なぜ？シンガポールは成功し続けることができるのか』、彩図社

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG691／観光地域経済論1(D) (Regional Economics for Tourism 1(D))		
担当者名 (Instructor)	高柳　寛樹(TAKAYANAGI HIROKI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

国内及び海外における観光地がどのように「IT 前提経営®」を実践して顧客を呼び込み、顧客満足と地域全体の収益拡大を図っているかを「働き方」や「余暇」の分析なども行いながらこれからの観光地域産業がどのように変革すべきかを個別具体的に明らかにしていく。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

We will clarify specifically how tourist spots in Japan and overseas practice "Tech Driven Management ®" to attract customers and how to expand customer satisfaction and profit in the region, by analyzing "work style", etc.

授業の内容(Course Contents)

「IT 前提経営®」の提唱者である情報社会学者(多拠点生活実践者)の担当者自からが地方地域のリゾート産業における IT 実践による顧客獲得の実態とその格差に隠れる事実の分析を行いながら、成熟したリゾート経営に必要な次の変革について学生諸氏と共に議論を重ねる講義である。キーワードとして「リゾートインフラ整備(ハードとソフト)」「既存リソースの活用」「IT 前提経営®の実践による顧客獲得と顧客満足」「マスマーケティングからデジタルマーケティングへの展開」「高度なモビリティの実践」「富裕層の行動原理」「働き方と余暇認識」「人材不足と RPA」「AI×IoT×ビックデータ」「intangible assets の活用」「遊休資産の活用」「スポーツ・学校と観光地域産業」などがあげられる。大学院講義のため講義形式よりはディスカッションを基本としたい。高い向学心をお持ちであれば予備知識は不要である。

This is a lecture in which the info-sociologist person in charge, who is an advocate of "Tech Driven Management ®", discusses with students the next change necessary for mature resort management, while analyzing the situation of customer acquisition through IT practice in the resort industry in the local area and the facts that are hidden in the gaps. Some keywords are "resort infrastructure development (hard and soft", "existing resources", "customer acquisition and customer satisfaction by the practice of Tech Driven Management ®", "from mass marketing to digital marketing", "advanced mobility practices", "the principle of the wealthy", "working style and leisure awareness", "talent shortage and RPA", "AI x IoT x big data", etc. For graduate school lectures, students who do not have an active sense of participation should avoid taking the course because it is based on a discussion basis rather than the traditional lecture format. If you have a high sense of direction, no prior knowledge is required. Attending lectures via telelecture is encouraged for those who have to be absent from class due to distance.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクションと自己紹介(履修者の問題意識の共有とお互いの紹介)
2. 教科書輪読などによる最低限のコンセンサス作り
3. 「働き方」と「余暇」または「消費」と「余暇」の国際的な考え方の違いについての議論(「顧客は誰なのか」を明確にするために)
4. 海外事例分析(1)(2)
5. 国内事例分析(1)(2)
6. 「IT 前提経営®」の基礎と「観光地域経済」への展開について
7. 観光地域経済への実践的「IT 前提経営®」の導入について
8. 「TECH リテラシー」の有無とリゾート経営の成否について(「リゾート TECH」の可能性に挑む)
9. ゲストスピーカーA(未定)の招聘による講義内講演と議論
10. マスマーケティングからデジタルマーケティングへの展開(ゲストスピーカーB と共に)
11. 「IT 前提経営®」時代に「観光地域経済」は成り立ち得るのか
12. 実践的「観光地域経済論」の議論(1)
13. 実践的「観光地域経済論」の議論(2)
14. 実践的「観光地域経済論」の議論(3)と総括

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

当然ながら日々の議論による鍛錬を要し、レポート執筆や発表準備などがあることを想定頂きたい。

成績評価方法・基準（Evaluation）

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(20%)/その他のレポート(20%)/議論参加度(20%)

テキスト（Textbooks）

1. 高柳寛樹、2022、『続・まったく新しい働き方の実践～なぜ働き方は自由にならないのか。DX（Digital Transformation）未完了社会の病理～』、ハーベスト社 （ISBN:978-4-86339-114-7）
2. 高柳寛樹、2020、『「IT 前提経営」が組織を変える～ デジタルネイティブと共に働く』、近代科学社 digital（ISBN:978-4-7649-6008-4）
3. 高柳寛樹、2017、『まったく新しい働き方の実践～「IT 前提経営」による「地方創生」～』、ハーベスト社 （ISBN:978-4-86339-086-7）

参考文献（Readings）

1. ジョン・アーリ、2015、『モビリティーズ―移動の社会学』、作品社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

担当者のオフィシャルページ及びプロフィール
https://hiroki.st/

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG701／M&A 1(D) (Mergers & Acquisitions 1(D))		
担当者名 (Instructor)	古川 英一(FURUKAWA EIICHI)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本の企業経営においても、本格的な M&A 戦略が必要不可欠な時代となってきた。本講座では、M&A の戦略目標を達成するためにプラニングから始まり、バリュエーション、ストラクチャー、デューディリジェンスからクロージング、PMI までの M&A 知識やスキルを体系的に理解し、企業戦略において M&A の実践に役立つ学習を提供することを目的とする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

A full-scale M & A strategy has become an essential component of management in every Japanese corporation. The purpose of this course is to provide students with a systematic understanding of M & A, impart the skills (including planning, valuation, structure, due diligence, closing, and PMI) needed to achieve the strategic goals of M & A, and help students learn to practice M & A as a part of corporate strategy.

授業の内容(Course Contents)

本講座では、M&A を企業戦略と位置付け、買い手側と売り手側双方の見地で、実際の M&A プロセスを通じて、M&A 戦略の有効性、戦略立案、意思決定メカニズム、企業価値評価、M&A における会計・税務・法務、企業財務等の実務知識を深める。実際のケースに従って、リアリティのある M&A の実務を習得し、また、実際に企業価値評価等の演習を行うことによって、理論が実践にいかに活用されるかを学習してもらう。

The course positions M & A as a corporate strategy and aims to deepen students' practical knowledge of M & A strategies, strategy planning, decision-making mechanisms, corporate valuation, accounting, taxation, legal affairs, corporate finance, and so on, and it achieves this by taking students through actual M & A processes from the perspectives of both the buyer and the seller. By looking at actual cases students will learn realistic M & A practices, and by conducting exercises in such areas as corporate valuation they'll see how the theory can be put into practice.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション、M&A の役割:歴史的な変遷
2. 経営戦略における M&A:企業経営と M&A
3. M&A のプロセス①:M&A戦略立案から決定まで
4. M&A のプロセス②:基本合意からクロージングまで
5. M&A のプロセス③:企業価値と企業評価のフレームワーク
6. 企業評価の基礎演習
7. M&A のプロセス④:PMI(Post Merger Integration)
8. LBO と MBO:最近の動向と留意点
9. 企業評価の応用演習
10. 応用演習解説
11. グループディスカッション
12. レポート発表
13. 最終テスト
14. 予備日

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・.M&A に関する一般的知識
・ファイナンスの基礎(特にバリュエーションに関する分野)
・M&A に関する会計・税務・会社法・金証法等の基礎
・エクセルのスプレットシートの基本操作スキル

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(30%)/小テスト(30%)

テキスト（Textbooks）

スライド資料（配布）

参考文献（Readings）

1. ブリーリー、マイヤーズ、2014、『コーポレートファイナンス 第 10 版 上・下』、日経BP社
2. マッキンゼー・アンド・カンパニー、2016、『企業価値評価 第 6 版 上下』、ダイヤモンド社
3. デロイト トーマツ フィナンシャルアドバイザリー、2021、『ザ・M&A ディール 企業買収・売却プロセス実践対策集』、中央経済社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

当授業に続き、M&A2 を履修することが望ましい

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG702／M&A 2(D) (Mergers & Acquisitions 2(D))		
担当者名 (Instructor)	古川 英一(FURUKAWA EIICHI)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

日本の企業経営においても、本格的な M&A 戦略が必要不可欠な時代となってきた。本講座では、M&A の戦略目標を達成するためにプラニングから始まり、バリュエーション、ストラクチャー、デューディリジェンスからクロージング、PMI までの M&A 知識やスキルを体系的に理解し、企業戦略において M&A の実践に役立つ学習を提供することを目的とする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

A full-scale M & A strategy has become an essential component of management in every Japanese corporation. The purpose of this course is to provide students with a systematic understanding of M & A, impart the skills (including planning, valuation, structure, due diligence, closing, and PMI) needed to achieve the strategic goals of M & A, and help students learn to practice M & A as a part of corporate strategy.

授業の内容(Course Contents)

本講座では、M&A を企業戦略と位置付け、買い手側と売り手側双方の見地で、実際の M&A プロセスを通じて、M&A 戦略の有効性、戦略立案、意思決定メカニズム、企業価値評価、M&A における会計・税務・法務、企業財務等の実務知識を深める。実際のケースに従って、リアリティのある M&A の実務を習得し、また、実際に企業価値評価等の演習を行うことによって、理論が実践にいかに活用されるかを学習してもらう。

The course positions M & A as a corporate strategy and aims to deepen students' practical knowledge of M & A strategies, strategy planning, decision-making mechanisms, corporate valuation, accounting, taxation, legal affairs, corporate finance, and so on, and it achieves this by taking students through actual M & A processes from the perspectives of both the buyer and the seller. By looking at actual cases students will learn realistic M & A practices, and by conducting exercises in such areas as corporate valuation they'll see how the theory can be put into practice.

授業計画(Course Schedule)

1. オリエンテーション
2. ケーススタディⅠ 成長戦略における M&A(競争戦略と M&A 戦略)
3. 企業評価の応用演習
4. ケーススタディⅡ:企業評価の応用演習の解説
5. クロスボーダーM&A の概要
6. ケーススタディⅢ:クロスボーダーM&A の事例
7. ケーススタディⅣ:企業価値経営_企業価値経営と企業評価
8. レポート発表
9. 企業再生における M&A:破綻企業の M&A のポイント
10. ケーススタディⅤ:破綻企業の M&A の事例
11. 敵対的企業買収と企業防衛:企業防衛をめぐる諸問題
12. ケーススタディⅥ:敵対的企業買収の事例
13. 最終テスト
14. 予備日

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

・M&A に関する一般的知識
・ファイナンスの基礎(特にバリュエーションに関する分野)
・M&A に関する会計・税務・会社法・金証法等の基礎
・エクセルのスプレットシートの基本操作スキル

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/最終レポート(Final Report)(30%)/小テスト(30%)

テキスト（Textbooks）

スライド資料（配布）

参考文献（Readings）

1. ブリーリー、マイヤーズ、2014、『コーポレートファイナンス 第 10 版 上・下』、日経BP社
2. マッキンゼー・アンド・カンパニー、2016、『企業価値評価 第 6 版 上下』、ダイヤモンド社
3. デロイト トーマツ フィナンシャルアドバイザリー、2021、『ザ・M&A ディール 企業買収・売却プロセス実践対策集』、中央経済社

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

当授業の前に、M&A1 を履修することが望ましい

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG711／都市経済学1(D) (Urban Economics 1(D))		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	春学期(Spring Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

比較的な観点からみた日本における災害に強いスマートシティについて学習する。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

Learn about smart communities and smart cities in Japan from a comparative perspective.

授業の内容(Course Contents)

コース運営については参加者と話し合いの上、決定する。1 冊にまとまった教科書はないため、スマートコミュニティやスマートシティなどのテーマに応じて、関連する論文等を読んでいく。

How the course will be conducted will be decided after discussion with the participants. Since there is no textbook that covers everything, we will read related academic papers based on the theme of smart communities and smart cites.

授業計画(Course Schedule)

1. 環境・エネルギー政策とその連携
2. 機会としての環境・エネルギー危機と中央・地方財政
3. 機会としてのエネルギー危機と中央・地方財政:「防災環境都市・仙台」
4. 「レジリエンス」と中央・地方財政
5. 日本における災害に強いスマートシティ
6. 実例:スマートシティ東京都
7. 実例:コンパクトシティ富山市
8. 実例:浜松市スマートシティ
9. 実例:国土強靱化と飯田市
10. 実例:東松島市スマート防災エコタウン
11. 実例:福島新エネ社会構想
12. 実例:静岡県富士市
13. 実例:災害に強い道の駅とマイクログリッド
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習については、別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/プレゼンテーション(30%)/ディスカッション(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

スマートシティ官民連携プラットフォーム
https://www.mlit.go.jp/scpf/
2030アジェンダ
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG712／都市経済学2(D) (Urban Economics 2(D))		
担当者名 (Instructor)	デウィット, A. (DEWIT,ANDREW)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

比較的な観点からみた日本における災害に強いスマートシティについて学習する。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

Learn about smart communities and smart cities in Japan from a comparative perspective.

授業の内容(Course Contents)

コース運営については参加者と話し合いの上、決定する。1 冊にまとまった教科書はないため、スマートコミュニティやスマートシティなどのテーマに応じて、関連する論文等を読んでいく。

How the course will be conducted will be decided after discussion with the participants. Since there is no textbook that covers everything, we will read related academic papers based on the theme of smart communities and smart cites.

授業計画(Course Schedule)

1. 世界における都市化と SDGs
2. スマートシティと「レジリエンス」
3. 実例:日米スマートシティ協力1
4. 実例:日米スマートシティ協力2
5. 実例:日欧スマートシティ協力1
6. 実例:日欧スマートシティ協力2
7. 実例:日印スマートシティ協力1
8. 実例:日印スマートシティ協力2
9. 実例:積水とスマートシティ
10. 実例:日本アジアグループとスマートシティ
11. 実例:日立とスマートシティ
12. 実例:日建設計とスマートシティ
13. 実例:トヨタとスマートシティ
14. まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習については、別途指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/プレゼンテーション(30%)/ディスカッション(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

スマートシティ官民連携プラットフォーム
https://www.mlit.go.jp/scpf/
2030アジェンダ
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG721／観光経営研究1(D) (Tourism Industry Management 1(D))		
担当者名 (Instructor)	西村　剛(NISHIMURA GO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本科目は観光経営研究2との連係科目である。まず本科目では観光経営の分析に必要な観光経済学の基礎理論修得や関連する世界市場のマクロ分析を通じて観光経営研究の基礎作りを行う。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The subject of this discipline is related to Tourism Industry Management　2. First, in this discipline, we will learn the basic theory of Economics of Tourism necessary for　analysis of Tourism Management and create a basis of Tourism Management research through macro analysis of related world markets.

授業の内容(Course Contents)

本科目では、わが国観光産業に最も重要な交通モードである国際航空と現代クルーズを念頭に、交通経済学の視点からの関連基礎理論と世界情勢の現状と課題について解説する。

In this discipline, the related basic theory from the traffic of Economics viewpoint and the present state and problems of the world are explained, keeping in mind international flights and the modern cruises, which are the most important traffic modes for the Japan tourism industry.

授業計画(Course Schedule)

1. 観光経済学(1)観光商品
2. 観光経済学(2)観光客
3. 観光経済学(3)供給者
4. 観光経済学(4)観光受入社会
5. 国際観光統計(1)①WTTC2021
6. 国際観光統計(1)②UNWTO2021
7. 国際観光統計(2)①US2021
8. 国際観光統計(2)②JNTO2021
9. 観光交通ビジネス(1)観光交通の特徴①
10. 観光交通ビジネス(1)観光交通の特徴②
11. 観光交通ビジネス(2)観光政策と観光交通①
12. 観光交通ビジネス(2)観光政策と観光交通②
13. Responsible Tourism
14. SDGs と観光

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義資料は参考文献等から抜粋した資料で、専門用語を多用しているため、必ず講義前に熟読し専門用語の調査研究も事前に済ませておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/出席・授業への貢献(30%)/小レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

WTTC(世界観光旅行協議会)、UNWTO(世界観光機構)の2020年実績レポートを各自ホームページからダウンロードし目を通しておくこと

参考文献(Readings)

1. ジェームズ・マック、2005、『観光経済学入門』、日本評論社 (ISBN:978-4-535-55432-0)
2. 塩見英治ほか、2017、『観光交通ビジネス』、成山堂書店 (ISBN:978-4-425-92881-1)

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

関連業界の受講生の業界報告などアクティブラーニングを心がけますので積極的に講義に参加してください。 講義では過年度の新型コロナ発生の2020年度が対象ですが随時2021年度の直近の状況も講義でフォローしていきます。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG722／観光経営研究2(D) (Tourism Industry Management 2(D))		
担当者名 (Instructor)	西村　剛(NISHIMURA GO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

連係科目である観光経営研究1で修得した観光経済学と交通経済学の知見を活用して、我が国、国際観光の主要交通モードである国際航空と現代クルーズを対象に 2020 年 4000 万人招致へむけた課題について研究する。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

By utilizing the knowledge of economics of tourism and transportation economics obtained through Tourism Industry Management 1, which is a related discipline, we will study about the challenge to overcome 40 million people intended for international flights and modern cruises in 2020, which are the main modes of transportation for international tourism in Japan.

授業の内容(Course Contents)

我が国国際観光の主要交通モードである国際交通の規制緩和の変遷や LCC、現代クルーズの新たな交通ビジネスモデルの分析を通じて国際航空と現代クルーズの最先端の動きまで広範囲に学ぶ。

Through the analysis of the transition of deregulation of international traffic, which is the main mode of transportation for international tourism in Japan, and the new transportation business model of LCC and modern cruises, we will learn a wide range of cutting edge movements of international flights and modern cruises.

授業計画(Course Schedule)

1. 米国航空の歴史と発展
2. 米国の航空規制緩和とオープンスカイ
3. 欧州の段階的航空自由化
4. 欧州の多国間オープンスカイ
5. エアラインビジネスの基本フレーム
6. エアラインビジネスモデル
7. 三大グローバルアライアンス①
8. 三大グローバルアライアンス②
9. 空港経営①空港経営の商業化
10. 空港経営②わが国空港の民営化
11. 現代クルーズ①現代クルーズの誕生と発展
12. 現代クルーズ②我が国クルーズ事業の現状と課題
13. 新型コロナ時代の観光経営①空港・航空
14. 新型コロナ時代の観光経営②観光・ホテル・クルーズ他

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

講義資料は参考文献等から抜粋した資料で、専門用語を多用しているため、必ず講義前に熟読し専門用語の調査研究も事前に済ませておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/出席・授業への貢献(30%)/小レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

国土交通省「我が国クルーズ事業の現状と課題」をダウンロードし当該講義前に目を通しておくこと。

参考文献(Readings)

1. 高橋望・横見宗樹、2016、『エアライン／エアポート・ビジネス入門』、法律文化社 (ISBN:978-4-589-03754-1)
2. 村上英樹ほか、2006、『航空の経済学』、ミネルヴァ書房 (ISBN:978-4-623-04558-7)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

折からのインバウンド需要の高まりを受けて政府目標の 2020 年 4000 万人招致が射程に入ってきました。関連業界の受講生の業界報告などアクティブラーニングを心がけますので積極的に講義に参加してください。

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG731／マーケティング・リサーチ1（D） (Marketing Research 1(D))		
担当者名 (Instructor)	斎藤　明(SAITO AKIRA)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

マーケティング・リサーチの基本概念と枠組みを理解する。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The goal of this course is to provide an understanding of the basic concepts of marketing research.

授業の内容(Course Contents)

マーケティング・リサーチとは，マーケティング活動に必要な意思決定上のリスクの軽減を目的とし，マーケティング意思決定に必要な諸情報を収集・分析する機能を有しています。
本講義では，マーケティング・リサーチに関する基本概念、特に定性調査の理解を目的とし，マーケティング･リサーチの基本的な考え方について学習します。

Marketing research has the function of collecting and analyzing various types of information necessary for marketing decision-making, with the aim of reducing decision-making risks in marketing activities.
In this course, we aim to understand the basic concepts of marketing research, especially qualitative research, and learn about the basic ideas of marketing research.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：消費者理解とマーケティングリサーチ
2. マーケティング課題とリサーチ
3. 定性調査と定量調査
4. 学術調査と実務的調査
5. 定性調査（1）：インタビュー調査
6. 定性調査（2）：インタビュー調査
7. 定性調査（3）：観察法調査
8. 定性調査（4）観察法調査
9. 実務家による実践報告（A）
10. 実務家による実践報告（A）
11. 実務家による実践報告（B）
12. 実務家による実践報告（B）
13. 期末課題報告（A）
14. 期末課題報告（B）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

適宜講義内にて，指示します。

成績評価方法・基準(Evaluation)

課題プレゼンテーション(60%)/授業内ディスカッションへの貢献度(40%)

テキスト(Textbooks)

適宜講義内にて，紹介する

参考文献(Readings)

関連テーマに応じて適宜講義内にて，参考文献等を紹介します。

その他（HP 等）(Others(e.g.HP))

（1）原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。尚、状況により、1 回程度対面も検討する場合がある。
（2）大学院における専門科目として、相応の事前学習（事前課題学習等）が必須となるため、履修を希望するものは、その点につ

いて留意すること。
（3）実務家ゲストスピカ―の招聘を予定する。
（4）各回の講義内容は前後する場合がある。

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG732／マーケティング・リサーチ2（D） (Marketing Research 2(D))		
担当者名 (Instructor)	斎藤　明(SAITO AKIRA)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7400	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

マーケティング・リサーチの基本概念と枠組みを理解する。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The goal of this course is to provide an understanding of the basic concepts of marketing research.

授業の内容(Course Contents)

マーケティング・リサーチとは，マーケティング活動に必要な意思決定上のリスクの軽減を目的とし，マーケティング意思決定に必要な諸情報を収集・分析する機能を有しています。
本講義では，マーケティング・リサーチに関する基本概念、特に定量調査の理解を目的とし，マーケティング・リサーチの基本的な考え方について学習します。

Marketing research has the function of collecting and analyzing various types of information necessary for marketing decision-making, with the aim of reducing decision-making risks in marketing activities.
In this course, we aim to understand the basic concepts of marketing research, especially quantitative research, and learn about the basic ideas of marketing research.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション：定量調査
2. マーケティング課題とリサーチ課題
3. リサーチプロセス
4. 母集団とサンプリング
5. マーケティング分析（1）：回帰分析
6. マーケティング分析（2）：回帰分析
7. マーケティング分析（3）：χ 2 乗検定
8. マーケティング分析（4）：χ 2 乗検定
9. 実務家による実践報告（A）
10. 実務家による実践報告（A）
11. 実務家による実践報告（B）
12. 実務家による実践報告（B）
13. 期末課題報告（1）
14. 期末課題報告（2）

授業時間外（予習・復習等）の学習（Study Required Outside of Class）

適宜講義内にて，適宜指示する。

成績評価方法・基準(Evaluation)

課題プレゼンテーション(60%)/授業内ディスカッションへの貢献度(40%)

テキスト(Textbooks)

適宜講義内にて，適宜紹介する。

参考文献(Readings)

関連テーマに応じて適宜講義内にて，参考文献等を紹介する。

その他（HP 等）(Others(e.g.HP))

（1）原則として、全授業回をオンラインでの実施予定。尚、状況により、1 回程度対面も検討する場合がある。
（2）大学院における専門科目として、相応の事前学習（事前課題学習等）が必須となるため、履修を希望するものは、その点につ

いて留意すること。
(3)実務家ゲストスピカ―の招聘を予定する。
(4)各回の講義内容は前後する場合がある。

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG741／ビジネスケースメソッド1（D） (Business Case Method 1(D))		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ケース分析によって、企業行動や戦略およびそれに関連する理論の理解を深めることを目的とする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The purpose of this course is to deepen the understanding of organizational behavior and related theories through case analysis.

授業の内容(Course Contents)

本科目は、ケースと呼ばれる企業などの戦略、組織等に関わる様々な問題が描かれている教材を用いて行われる。ケースには企業行動や戦略に関する多くの情報が書かれており、その中から重要な情報を抽出して戦略や意思決定に対する分析を行う。戦略や意思決定に「唯一の正解」は存在しないが、意思決定の質を高めるには多面的かつロジカルな分析が不可欠である。そのため、様々なケースを用いて戦略や意思決定を分析して企業行動や戦略の理解を深めることは、経営にとって重要な能力の醸成につながる。
本科目の運営はグループ討議とケース討議によって構成される。ケース内容等の運営方法は、学生数に応じて変更することもある。

This course is taught using cases, which are teaching materials that depict various issues related to strategy and organization of companies. The cases contain a lot of information about corporate behavior and strategy, and students extract important information from the cases to analyze strategy and decision making. There is no "one right answer" to strategy and decision making, but the multifaceted and logical analysis is essential to improve the quality of decision making. Therefore, using various cases to analyze strategy and decision making to deepen understanding of corporate behavior and strategy will help develop important skills for management.
The management of this course will consist of group discussions and case discussions. The content of the cases and other management methods may be changed depending on the number of students.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. ショートケース
3. マーケティング： ダイソン株式会社：日本市場への参入
4. マーケティング： ダイソン株式会社：日本市場への参入
5. 企業戦略： ワタベウェディング
6. 企業戦略： ワタベウェディング
7. 競争戦略： トリンプインターナショナル／ワコール
8. 競争戦略： トリンプインターナショナル／ワコール
9. イノベーション： ウーバー： 世界の移動手段を変革する
10. イノベーション： ウーバー： 世界の移動手段を変革する
11. 成長戦略： 株式会社バルスの成長戦略
12. 成長戦略： 株式会社バルスの成長戦略
13. 戦略と実行： アイリスオーヤマ株式会社
14. 戦略と実行： アイリスオーヤマ株式会社

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発言などのクラスへの貢献(30%)/ケース課題(30%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト(Textbooks)

ケースの購入方法は別途授業内で指示する。

参考文献(Readings)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG742／ビジネスケースメソッド2(D) (Business Case Method 2(D))		
担当者名 (Instructor)	安田　直樹(YASUDA NAOKI)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

ケース分析によって、戦略や意思決定およびそれに関連する理論の理解を深めることを目的とする。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The purpose of this course is to deepen the understanding of strategy, decision making and related theories through case analysis.

授業の内容(Course Contents)

本科目は、ケースと呼ばれる企業などの戦略、組織等に関わる様々な問題が描かれている教材を用いて行われる。ケースには企業行動や戦略に関する多くの情報が書かれており、その中から重要な情報を抽出して戦略や意思決定に対する分析を行う。戦略や意思決定に「唯一の正解」は存在しないが、意思決定の質を高めるには多面的かつロジカルな分析が不可欠である。そのため、様々なケースを用いて戦略や意思決定を分析して企業行動や戦略の理解を深めることは、経営にとって重要な能力の醸成につながる。
本科目の運営はグループ討議とケース討議によって構成される。ケース内容等の運営方法は、学生数に応じて変更することもある。
ビジネスケースメソッド 2 では、ビジネスケースメソッド 1 とは異なり個人に焦点を当てたケースも扱う。

This course is taught using cases, which are teaching materials that depict various issues related to strategy and organizati on of companies. The cases contain a lot of information about corporate behavior and strategy, and students extract important information from the cases to analyze strategy and decision making. There is no ″one right answer″ to strategy and decision making, but the multifaceted and logical analysis is essential to improve the quality of decision making. Therefore, using various cases to analyze strategy and decision making to deepen understanding of corporate behavior and strategy will help develop important skills for management.
The management of this course will consist of group discussions and case discussions. The content of the cases and other management methods may be changed depending on the number of students.
Unlike Business Case Method 1, Business Case Method 2 will include cases that focus on the individual.

授業計画(Course Schedule)

1. イントロダクション
2. ネットフリックス
3. ビジネスモデル： 再春館製薬所
4. ビジネスモデル： 再春館製薬所
5. マネジメント： GE の過去 20 年の体質転換：ジャック・ウェルチのリーダーシップ
6. マネジメント： GE の過去 20 年の体質転換：ジャック・ウェルチのリーダーシップ
7. イノベーション： 破壊的イノベーションの台頭と既存企業の対応
8. イノベーション： 破壊的イノベーションの台頭と既存企業の対応
9. 組織マネジメント： 営業マン秋山清治の迷い
10. 組織マネジメント： 昭和生命保険と平成生命保険の企業合併
11. リーダーシップ： 日産自動車 2002 年
12. リーダーシップ： 日産自動車 2002 年
13. 組織文化： グーグルを「グーグルらしく」保つ
14. 組織改革： 組織改革の危険性と落とし穴：若きマネージャーの経営再建の旅

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準(Evaluation)

発言などのクラスへの貢献(30%)/ケース課題(30%)/最終レポート(Final Report)(40%)

テキスト（Textbooks）

ケースの購入方法は別途授業内で指示する。

参考文献（Readings）

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG751／ホテルディベロップメント1（D） (Hotel development 1(D))		
担当者名 (Instructor)	阿部　博秀(ABE HIROHIDE)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

＊ホテル開発におけるデベロッパー、オペレーター、デザイナーなどの役割、契約形態について学ぶ。
＊ホテルコンセプト開発から開業、アセットマネジメントまでの各プロセスについて学ぶ。
＊ホテル開発を学びながら、広く商業店舗開発に応用できるアプローチを身につける。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

＊Understand the roles of hotel developers, owners, designers, and other players, and the partnership contracts.
＊Study the hotel development process from the initial concept development to pre-opening and asset management.
＊Through studying hotel developments, understand other commercial real estate developments.

授業の内容(Course Contents)

＊不動産投資、契約関連、デザイン、リノベーションなどついてテーマ別に講義をする。
＊各分野のエキスパートであるゲストスピーカーを招くことによりビジネスの実例を紹介する。
＊授業では双方向での議論をおこなう。

＊Explain about those subjects such as real estate investment, hotel management contracts, hotel design, and renovations.
＊Invite business professionals as guest lecturers in order to share their real business cases.
＊Promote discussions in the classes.

授業計画(Course Schedule)

1. ホテル開発とは
2. ホテル投資・不動産開発
3. ホテル契約形態（マネジメント契約など）
4. ホテル契約形態（マネジメント契約など）
5. ホテル不動産開発・コンセプトデベロップメント
6. ホテル不動産開発・コンセプトデベロップメント
7. ホテルマーケットリサーチ・フィージビリティースタディー
8. ホテルマーケットリサーチ・フィージビリティースタディー
9. ホテル設計、デザイン、コンストラクション
10. ホテル設計、デザイン、コンストラクション
11. ケーススタディー・ゲストレクチャー
12. ケーススタディー・ゲストレクチャー
13. ケーススタディー・ゲストレクチャー
14. ケーススタディー・ゲストレクチャー

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- 実査やインターネット検索による予習を必要に応じて別途指示する。
- 東京都内のホテル施設にて学外授業を行なう可能性がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/質問・発言など講義への貢献度(50%)/予習・復習状況(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 田尾桂子、2016、『グローバルオペレーターが変えるホテル経営: マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか』、白桃書

房 (ISBN:978-4561266860)
2. 沢柳知彦、2021、『もてなしだけではもう食えない ーホテル経営学の本質と実践』、オータパブリケイションズ (ISBN:978-4903721910)
3. 村上実、池村友浩、2019、『ホテルの創り方～ホテル開発の成否は「相談力」で決まる』、クロスメディア・パブリッシング (ISBN:978-4295403852)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

WG752 ホテルディベロップメント2の履修を推奨
https://www.amworks.jp/glossary.html

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG752／ホテルディベロップメント2（D） (Hotel development 2(D))		
担当者名 (Instructor)	阿部　博秀(ABE HIROHIDE)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

＊ホテル開発におけるデベロッパー、オペレーター、デザイナーなどの役割、契約形態について学ぶ。
＊ホテルコンセプト開発から開業、アセットマネジメントまでの各プロセスについて学ぶ。
＊ホテル開発を学びながら、広く商業店舗開発に応用できるアプローチを身につける。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

＊Understand the roles of hotel developers, owners, designers, and other players, and the partnership contracts.
＊Study the hotel development process from the initial concept development to pre-opening and asset management.
＊Through studying hotel developments, understand other commercial real estate developments.

授業の内容(Course Contents)

＊不動産投資、契約関連、デザイン、リノベーションなどついてテーマ別に講義をする。
＊各分野のエキスパートであるゲストスピーカーを招くことによりビジネスの実例を紹介する。
＊授業では双方向での議論をおこなう。

＊Explain about those subjects such as real estate investment, hotel management contracts, hotel design, and renovations.
＊Invite business professionals as guest lecturers in order to share their real business cases.
＊Promote discussions in the classes.

授業計画(Course Schedule)

1. ホテル開発とは
2. グローバルオペレーターの開発・デザインサービス
3. グローバルオペレーターの開発・デザインサービス
4. オペレーションプラン・開業準備
5. オペレーションプラン・開業準備
6. アセットマネジメント
7. 施設タイプ別開発
8. 施設タイプ別開発
9. ホテルコンバージョン・リノベーション
10. ホテルコンバージョン・リノベーション
11. ケーススタディー・ゲストレクチャー
12. ケーススタディー・ゲストレクチャー
13. ケーススタディー・ゲストレクチャー
14. ケーススタディー・ゲストレクチャー

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

- 実査やインターネット検索による予習を必要に応じて別途指示する。
- 東京都内のホテル施設にて学外授業を行なう可能性がある。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(30%)/質問・発言など講義への貢献度(50%)/予習・復習状況(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 田尾桂子、2016、『グローバルオペレーターが変えるホテル経営: マネジメント契約はホテル産業に何をもたらしたか』、白桃書

房 (ISBN:978-4561266860)
2. 沢柳知彦、2021、『もてなしだけではもう食えない ーホテル経営学の本質と実践』、オータパブリケイションズ (ISBN:978-4903721910)
3. 村上実、池村友浩、2019、『ホテルの創り方～ホテル開発の成否は「相談力」で決まる』、クロスメディア・パブリッシング (ISBN:978-4295403852)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

WG751 ホテルデベロップメント1の履修を推奨
https://www.amworks.jp/glossary.html

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG957／ビジネスデザイン特講4A(D) (Special Seminar on Business Design 4A(D))		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期1(Fall Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業組織についての研究論文や専門書の読解を通じて、組織理論や組織研究の方法論、企業組織の現代的課題について学ぶ。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

To learn organization theory and methodology for organization research, and problems in modern organizations through reading research papers and literature in organization studies.

授業の内容(Course Contents)

本授業は、企業組織についての研究論文や専門書をテキストとして取り上げ、履修者によるそれらの読解を通じて、組織研究における古典的理論や現代的理論、組織研究の方法論を学び、さらに現代の企業組織が直面している問題とはどのような問題であるのかについて理解を深めることを目的とする。
本授業においては履修者は各自テキストとなる研究論文や専門書の一部あるいは全ての報告を担当し、各階の授業で各自が担当部分を報告、それに基づいて講義やディスカッションを行う。履修者には積極的な関与が要求される。

In this course, students are expected to learn organization theory and methodology for organization research, and problems in modern organizations through reading research papers and literature in organization studies.
Students are required to report the content of the paper or the book for the course.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス、テキストの紹介と選定
2. 報告、読解とディスカッション
3. 報告、読解とディスカッション
4. 報告、読解とディスカッション
5. 報告、読解とディスカッション
6. 報告、読解とディスカッション
7. 報告、読解とディスカッション
8. 報告、読解とディスカッション
9. 報告、読解とディスカッション
10. 報告、読解とディスカッション
11. 報告、読解とディスカッション
12. 報告、読解とディスカッション
13. 報告、読解とディスカッション
14. 報告、読解とディスカッション、まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

履修者各自は選定されたテキストの担当部分を報告に向けて準備すること。
また選定されたテキストに関連する理論についても学習することが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内発表(50%)/授業内レポート(50%)

テキスト(Textbooks)

授業内で相談の上決定する

参考文献(Readings)

随時指示する

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG958／ビジネスデザイン特講4B(D) (Special Seminar on Business Design 4B(D))		
担当者名 (Instructor)	山中　伸彦(YAMANAKA NOBUHIKO)		
学期 (Semester)	秋学期2(Fall Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7000	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

企業組織についての研究論文や専門書の読解を通じて、組織理論や組織研究の方法論、企業組織の現代的課題について学ぶ。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

The aim of this course is to learn organization theory and methodology for organization research, and problems in modern organizations through reading research papers and literature in organization studies.

授業の内容(Course Contents)

本授業は、ビジネスデザイン特講 4A に続いて、企業組織についての研究論文や専門書をテキストとして取り上げ、履修者によるそれらの読解を通じて、組織研究における古典的理論や現代的理論、組織研究の方法論を学び、さらに現代の企業組織が直面している問題とはどのような問題であるのかについて理解を深めることを目的とする。
本授業においては履修者は各自テキストとなる研究論文や専門書の一部あるいは全ての報告を担当し、各階の授業で各自が担当部分を報告、それに基づいて講義やディスカッションを行う。履修者には積極的な関与が要求される。

In this course, following Special Seminar on Business Design 4A, students are expected to learn organization theory and methodology for organization research, and problems in modern organizations through reading research papers and literature in organization studies.
Students are required to report the content of the paper or the book for the course.

授業計画(Course Schedule)

1. ガイダンス、テキストの紹介と選定
2. 報告、読解とディスカッション
3. 報告、読解とディスカッション
4. 報告、読解とディスカッション
5. 報告、読解とディスカッション
6. 報告、読解とディスカッション
7. 報告、読解とディスカッション
8. 報告、読解とディスカッション
9. 報告、読解とディスカッション
10. 報告、読解とディスカッション
11. 報告、読解とディスカッション
12. 報告、読解とディスカッション
13. 報告、読解とディスカッション
14. 報告、読解とディスカッション、まとめ

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

履修者各自は選定されたテキストの担当部分を報告に向けて準備すること。
また選定されたテキストに関連する理論についても学習することが望ましい。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業内発表(50%)/授業内レポート(50%)

テキスト(Textbooks)

授業内で相談の上決定する

参考文献(Readings)

随時指示する

その他（HP 等）（Others(e.g.HP)）

注意事項（Notice）

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG965／ホスピタリティデザイン特講3A(D) (Special Seminar on Hospitality Design 3A(D))		
担当者名 (Instructor)	西村　剛(NISHIMURA GO)		
学期 (Semester)	春学期1(Spring Semester 1)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

本科目はホスピタリティデザイン特講3B(D)との連携科目である。両科目を通じて我が国ホスピタリティ産業が抱える国際生産性が低調である原因の解明と対策について、最新の経営学、経済学の知見を活用して研究する。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

This discipline is a discipline of cooperation with Special Seminar on Hospitality Design 3B. Through these disciplines, we will study the causes of low international productivity of the hospitality industry in Japan and the measures taken there through using the latest knowledge of Business Management and Economics.

[Description before the change]
The productivity of Japan's hospitality industry is stagnant compared to that of the United States and other advanced countries. Although the government has also marked a productivity revolution in the service industry in recent years, this lecture is also based on the same awareness of the problem, and the latest knowledge of Business Management and Economics is utilized to study the issue.

授業の内容(Course Contents)

本科目では、ホスピタリティデザインに必須なビジネス・エコノミクス(経営の経済学)、経営戦略論、マーケティング・マネジメント論といったベーシックな分析ツールを習得する。

In this discipline, we will learn basic analysis tools such as business economics (management economics), Management Strategy theory, and Marketing Management theory, which are essential for hospitality design.

授業計画(Course Schedule)

1. ホスピタリティ産業のためのビジネス・エコノミクス(1)サービス学入門
2. ホスピタリティ産業のためのビジネス・エコノミクス(1)サービス・マネジメント論
3. ホスピタリティ産業のためのビジネス・エコノミクス(2)経営理論と経営戦略①
4. ホスピタリティ産業のためのビジネス・エコノミクス(2)経営理論と経営戦略②
5. ホスピタリティ産業のための経営戦略(1)競争戦略①
6. ホスピタリティ産業のための経営戦略(1)競争戦略②「ダイナミック・ケイパビリティ」
7. ホスピタリティ産業のための経営戦略(2)HRM①
8. ホスピタリティ産業のための経営戦略(2)HRM②「ティール組織」
9. ホスピタリティ産業のためのマーケティング・マネジメント(1)定義(2)製品・サービス
10. ホスピタリティ産業のためのマーケティング・マネジメント(3)CRM(4)ブランド
11. マーケティング 4.0 の時代
12. デジタルマーケティング、D2C
13. パーパス・マネジメント
14. ステークホルダー資本主義

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

参考文献から抜粋した教材(パワポ)に必ず事前に目を通し、専門用語の理解を万全にすること。実務に役立つ項目が満載されているので、時間をつくって参考文献もよく目を通しておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/出席・授業への貢献(30%)/小レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. 丸山雅祥、2011、『経営の経済学』、有斐閣 (ISBN:978-4-641-16376-8)
2. スティグリッツ、2012、『入門経済学』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-31419-7)
3. 石井淳蔵ほか、2013、『ゼミナールマーケティング入門』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-13439-6)
4. フィリップ・コトラーほか、2014、『コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント』、丸善出版 (ISBN:978-4-621-06616-4)

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本講義では極力アクティブラーニングに心がけるため、質問等に積極的に応えていただきたい。研究テーマが我が国ホスピタリティ産業で最もホットな喫緊の課題であるだけに講義を進めるにあたって受講者の実務上の知見も反映したい。

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	WG966／ホスピタリティデザイン特講3B(D) (Special Seminar on Hospitality Design 3B(D))		
担当者名 (Instructor)	西村　剛(NISHIMURA GO)		
学期 (Semester)	春学期2(Spring Semester 2)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	BDS7700	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

連携科目であるホスピタリティデザイン特講3A(D)で修得した知見と本科目の前段で新たに習得するサービスドミナントロジック、サブスクリプション、生産性の知識習得を活用して我が国サービス産業の生産性革命をいかに図るかの主題の討究を行う。
※本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目であり、当該研究領域の専門的・理論的知識を修得することを目的としています。

We will discuss the subjects of how to achieve the productivity revolution of the service industry in Japan by using the knowledge acquired in the cooperation discipline, Special Seminar on Hospitality Design 3A, and the knowledge acquired in the previous section on service dominance logic, subscription, and productivity.

授業の内容(Course Contents)

本科目では我が国にとって喫緊の課題である「サービス産業の生産性革命」を図るうえで必須な最新のホスピタリティマネジメントや国際生産性の知見を手掛かりに、サービス産業の生産性向上の提言等を具体的に分析する。

The purpose of this discipline is to analyze concrete proposals for improving productivity in the service industry based on the latest knowledge of hospitality management and international productivity, which are essential for achieving the ″productivity revolution of the service industry″, which is an urgent issue for Japan.

授業計画(Course Schedule)

1. サービス・デザイン(1)デザイン思考と経営
2. サービス・デザイン(1)サービス・ドミナント・ロジック
3. サービス・デザイン(2)価値共創①
4. サービス・デザイン(2)価値共創②
5. 労働生産性の国際比較(1)生産性とは何か
6. 労働生産性の国際比較(1)成長会計
7. サブスクリプション(1)理論
8. サブスクリプション(2)事例
9. 日本の労働生産性の動向2020
10. 生産性と長期停滞論
11. 大企業の創造的イノベーションはいかにして可能か
12. 日本企業のイノベーション戦略
13. 日本生産性本部イノベーション会議
14. 「人口減少の日本には所得倍増計画が必要だ」(デービッド・アトキンソン)

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

参考文献から抜粋した教材(パワポ)に必ず事前に目を通し、専門用語の理解を万全にすること。実務に役立つ項目が満載されているので、時間をつくって参考文献もよく目を通しておくこと。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終テスト(Final Test)(40%)/出席・授業への貢献(30%)/小レポート(30%)

テキスト(Textbooks)

日本生産性本部提言「労働力喪失時代における持続可能な社会経済システム『スマートエコノミー』の実現をめざして」(2018 年 11 月 30 日)を各自ダウンロードしておくこと。

参考文献(Readings)

1. 武山政直、2017、『サービスデザインの教科書』、NTT 出版 (ISBN:978-4-7571-2365-6)
2. テイエン・ツオ、2018、『サブスクリプション』、ダイヤモンド社 (ISBN:978-4-478-10552-8)
3. 森川正之、2018、『生産性　誤解と真実』、日本経済新聞出版社 (ISBN:978-4-532-35803-7)

4. 宮川努、2018、『生産性とは何か一日本経済の活力を問い直す』、ちくま新書 (ISBN:978-4-480-07189-7)
5. デイビッド・アトキンソン、2019、『国運の分岐点』、講談社 (ISBN:978-4-06-517560-6)
6. デービッド・アトキンソン、2020、『日本企業の勝算』、東洋経済新報社 (ISBN:978-4-492-39652-0)
2019 年 12 月 9 日「日本生産性本部：第4回生産性シンポジウム」の資料を各自ダウンロードして目を通しておいてください

その他(HP 等)(Others(e.g.HP))

本講義では極力アクティブラーニングに心がけるため、質問等に積極的に応えていただきたい。研究テーマが我が国ホスピタリティ産業で最もホットな喫緊の課題であるだけに講義を進めるにあたって受講者の実務上の知見も反映したい。

注意事項(Notice)

本科目は博士課程前期課程と博士課程後期課程の合同授業となるが，後期課程の受講者においては，全ての評価方法で前期課程より高度な達成水準を要求する。

RIKKYO UNIVERSITY
MDCCCLXXIV
PRO DEO
E T
PAT RIA